

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第175集 第3分冊

まちづくり交付金事業 都市計画道路3.3.3号 原東1号線
埋蔵文化財発掘調査報告書

—長野県佐久市岩村田 古墳・奈良・平安の集落調査—

第3分冊

岩村田遺跡群 ひがし だいもん さき 東大門先遺跡Ⅱ
にしょう かまち 西八日町遺跡Ⅲ

まちづくり交付金事業 都市計画道路3.5.16号 千歳線
埋蔵文化財発掘調査報告書

岩村田遺跡群 にしょう かまち 西八日町遺跡Ⅶ

2010. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第175集 第3分冊

まちづくり交付金事業 都市計画道路3.3.3号 原東1号線
埋蔵文化財発掘調査報告書

—長野県佐久市岩村田 古墳・奈良・平安の集落調査—

第3分冊

岩村田遺跡群 ひがし だいもん さき 東大門先遺跡Ⅱ
にし よう か まち 西八日町遺跡Ⅲ

まちづくり交付金事業 都市計画道路3.5.16号 千歳線
埋蔵文化財発掘調査報告書

岩村田遺跡群 にし よう か まち 西八日町遺跡Ⅶ

2010. 3

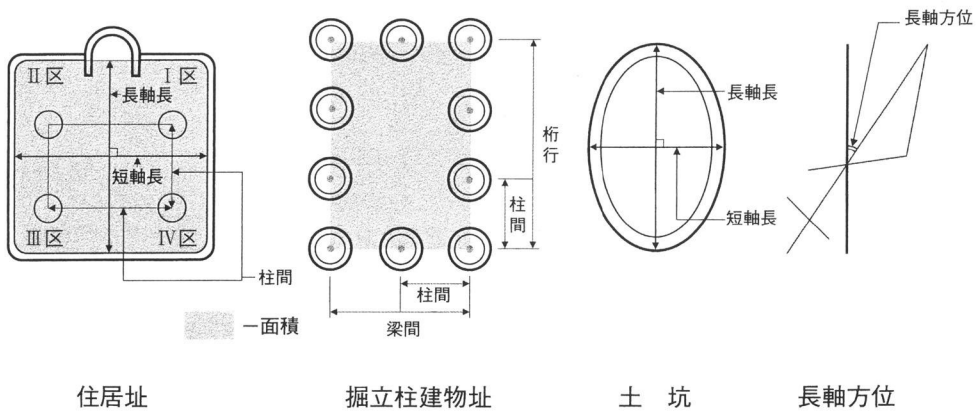
佐 久 市
佐久市教育委員会

例 言

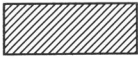

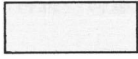


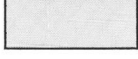
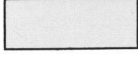
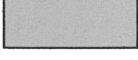

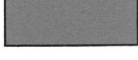

1. 本書は佐久市建設部都市計画課による、まちづくり交付金事業 都市計画道路3.3.3号 原東1号線造成工事に伴う発掘調査報告書の第3分冊である。
第3分冊は東大門先遺跡Ⅱ、西八日町遺跡Ⅲの報告をしている。
2. 調査原因者 佐久市建設部都市計画課
3. 調査主体者 佐久市教育委員会文化財課
4. 遺跡名および所在地
東大門先遺跡Ⅱ (I I H II) 佐久市岩村田字東大門先・西大門先
西八日町遺跡Ⅲ (I N C III) 佐久市岩村田字西八日町
5. 調査面積
調査面積 開発面積 (延長1.026m幅員22m) 22.572㎡
東大門先遺跡Ⅱ 2.730㎡
西八日町遺跡Ⅲ 2.650㎡
調査面積 計 5.380㎡
6. 現場の発掘調査の担当は以下の通りである。
東大門先遺跡Ⅱ 森泉かよ子 (H18・19)、林幸彦・佐々木宗昭 (H21)
西八日町遺跡Ⅲ 森泉かよ子 (H19)・上原学 (H19・H20)
7. 本遺跡の整理作業は、森泉が行い、石器については須藤が担当した。編集・執筆は森泉が行った。なお、弥生前期の土器・炭化種子については中沢道彦氏に記述をお願いした。また、陶磁器類は(財)長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご教示いただいた。ここに記して御礼申し上げます。
8. 本遺跡の出土遺物の保存処理・鑑定の委託は以下の通りである。
金属製品・漆製品保存処理 株式会社 東都文化財研究所
樹種・種実鑑定・骨鑑定 パリノ・サーヴェイ株式会社
9. 本書及び本遺跡の出土遺物の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は以下の通りである。
 竪穴住居址・竪穴状遺構 (Ta) —H 掘立柱建物跡—F 土坑—D ピット—P
 溝址—M
2. 挿図の縮尺は原則として以下の通りである。
 遺構—1/80 遺物—1/4 但し、石器は玉類・石鏃—原寸 打製石斧—1/3、
 敲打・磨石—1/4、大型品—1/6・1/8、鉄製品—1/2
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は1988年版『新版 標準土色調』に基づいて示した。
5. 写真図版中の遺物番号と挿図の遺物番号は同一である。図版中の縮尺はほぼ挿図と同じであるが、異なるものもある。
6. 遺構の計測は下図に示した測定値である。
 竪穴住居の面積は床面積で、長軸長×短軸長である。
 壁残高は最大長である。
 長軸長と短軸長の差が1割を越えたものを長方形とした。



7. 遺物一覧表の () は推定値、〈 〉 残存値、—は測定不可能であることを示す。
8. 本報告書挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺 構		地山断面		焼 土		粘 土
		柱 痕		堀 方		炭化物
遺 物		赤色塗彩		釉		須恵器断面
		黒色処理				礫

目 次

例 言
凡 例
目 次

第 I 章 東大門先遺跡Ⅱ (I IHⅡ)

第 1 節 竪穴住居址 (H)	3
H 1 号住居址	3
H 2 号住居址	24
H 3 号住居址	3
H 4 号住居址	7
H 5 号住居址	8
H 6 号住居址	11
H 7 号住居址	12
H 8 号住居址	13
H 9 号住居址	14
H10号住居址	11
H11号住居址	17
H12号住居址	26
H13号住居址	18
H14号住居址	19
H15号住居址	20
H16号住居址	22
H17号住居址	22
H18号住居址	26
第 2 節 掘立柱建物址 (F)	27
F 1 号掘立柱建物址	27
F 2 号掘立柱建物址	27
F 3 号掘立柱建物址	27
F 4 号掘立柱建物址	27
F 5 号掘立柱建物址	27
F 6 号掘立柱建物址	29
F 7 号掘立柱建物址	29
F 8 号掘立柱建物址	29
F 9 号掘立柱建物址	29
F10号掘立柱建物址	29
F11号掘立柱建物址	29
F12号掘立柱建物址	30
F13号掘立柱建物址	30
F14号掘立柱建物址	30
F15号掘立柱建物址	30
F16号掘立柱建物址	30
F17号掘立柱建物址	30
F18号掘立柱建物址	37
F19号掘立柱建物址	37
F20号掘立柱建物址	37
F21号掘立柱建物址	37
第 3 節 単独ピット (P)	37
第 4 節 土坑 (D)	39
D 2 号土坑	39
D 3 号土坑	39
D 6 号土坑	39
D 7 号土坑	39
第 5 節 溝址 (M)	42
M 1 号溝址	42
M 2 号溝址	42
M 3 号溝址	42
M 4 号溝址	42
M 6 号溝址	42
第 6 節 グリット (G)	46
遺構一覧表	47
遺物一覧表	51
写真図版	57

第 II 章 西八日町遺跡Ⅲ (I NCⅢ)

第 1 節 竪穴住居址 (H)	69
H 1 号住居址	132
H 2 号住居址	106
H 2 号住居址床下住居	110
H 3 号住居址	132
H 4 号住居址	69
H 5 号住居址	110
H 6 号住居址	112
H 7 号住居址	71
H 8 号住居址	114
H 9 号住居址	71
H10号住居址	115
H10号住居址床下住居	115
H11号住居址	115
H12号住居址	136
H13号住居址	115
H14号住居址	74
H15号住居址	76
H16号住居址	76
H17号住居址	78
H18号住居址	137
H19号住居址	139
H20号住居址	139
H21号住居址	78
H23号住居址	141
H24号住居址	141
H25号住居址	79
H26号住居址	87
H27号住居址	141
H28号住居址	87
H29号住居址	120
H30号住居址	89
H31号住居址	144
H33号住居址	144
H34号住居址	145
H35号住居址	145
H36号住居址	120
H37号住居址	149
H38号住居址	149
H39号住居址	122
H40号住居址	123
H41号住居址	90
H42号住居址	93
H43号住居址	93
H44号住居址	124
H45号住居址	97
H46号住居址	97
H47号住居址	124
H48号住居址	101
H49号住居址	149
H50号住居址	124
H51号住居址	102
H52号住居址	124
H53号住居址	125
H54号住居址	102
H55号住居址	125
H56号住居址	102
H57号住居址	128
H58号住居址	104
H59号住居址	104

第2節 掘立柱建物址 (F)	153				
F 1号掘立柱建物址	153	F 2号掘立柱建物址	153	F 3号掘立柱建物址	153
F 6号掘立柱建物址	153	F 7号掘立柱建物址	153	F 8号掘立柱建物址	153
F 9号掘立柱建物址	154	F 10号掘立柱建物址	154	F 11号掘立柱建物址	154
F 12号掘立柱建物址	154	F 13号掘立柱建物址	154	F 14号掘立柱建物址	155
F 15号掘立柱建物址	155	F 16号掘立柱建物址	155	F 17号掘立柱建物址	155
F 18号掘立柱建物址	155	F 19号掘立柱建物址	155	F 20号掘立柱建物址	155
F 21号掘立柱建物址	159				
第3節 土坑 (D)	164				
D 1号土坑	164	D 2号土坑	164	D 3号土坑	164
D 4号土坑	164	D 5号土坑	164	D 6号土坑	164
D 7号土坑	164	D 8号土坑	164	D 9号土坑	164
第4節 溝址 (M)	166				
M 1号溝址	166	M 2号溝址	166	M 3号溝址	168
M 4号溝址	168	M 5号溝址	168		
第5節 グリット (G)	168				
第6節 まとめ	169				
古墳時代後期	169				
奈良・平安	170				
遺構一覧表	174				
遺物一覧表	178				
写真図版	195				
第Ⅲ章 西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦ)					
例言					
凡例					
検出遺構と遺物の概要	227				
第1節 竪穴住居址 (H)	228				
H 81号住居址	228	H 83号住居址	229	H 89号住居址	229
H 90号住居址	232	H 91号住居址	234	H 92号住居址	234
第2節 掘立柱建物址 (F)	234				
F 24号掘立柱建物址	234				
第3節 土坑 (D)	235				
D 34号土坑	235				
写真図版	236				

東大門先遺跡Ⅱ
挿図目次

第1図	東大門先遺跡Ⅱ全体図	1
第2図	東大門先遺跡Ⅱ・西八日町遺跡Ⅲ～Ⅶ遺構分布図	2
第3図	H1号住居址(1)	4
第4図	H1号住居址(2)	5
第5図	H3号住居址(1)	6
第6図	H3号住居址(2)	7
第7図	H4号住居址	8
第8図	H5号住居址	9
第9図	H6・10号住居址(1)	10
第10図	H6・10号住居址(2)	11
第11図	H7号住居址	12
第12図	H8号住居址	13
第13図	H9号住居址(1)	15
第14図	H9号住居址(2)	16
第15図	H11号住居址	17
第16図	H13号住居址	18
第17図	H14号住居址	19
第18図	H15号住居址	20
第19図	H16号住居址(1)	21
第20図	H16号住居址(2)	22
第21図	H17号住居址	23
第22図	H2号住居址	24
第23図	H18号住居址	25
第24図	H12号住居址	26
第25図	F1・2・3・6号掘立柱建物址	28
第26図	F4・5・7号掘立柱建物址	31
第27図	F8・9号掘立柱建物址	32
第28図	F10・11号掘立柱建物址	33
第29図	F12・13・14号掘立柱建物址	34
第30図	F15・16・17・18号掘立柱建物址	35
第31図	F19・20・21号掘立柱建物址	36
第32図	単独ピット	38
第33図	D1～5号土坑	40
第34図	D6～9号土坑	41
第35図	M1・6号溝址	43
第36図	M3・4号溝址	44
第37図	M5・7・8・9・10号溝址	45
第38図	M2号溝址	46
第39図	グリット出土遺物	46

東大門先遺跡Ⅱ
付表目次

第1表	竪穴住居址一覧表	47
第2表	掘立柱建物址一覧表	47
第3表	土坑一覧表	48
第4表	溝址一覧表	48
第5表	単独ピット一覧表(1)	48
第6表	単独ピット一覧表(2)	49
第7表	単独ピット一覧表(3)	50
第8表	H1～H5(1)遺物一覧表	51
第9表	H5(2)～H9(1)遺物一覧表	52
第10表	H9(2)～H15遺物一覧表	53
第11表	H15～H18遺物一覧表	54
第12表	F5・F7・F10・F11・F13～15・F18・F21、単独ピット D2・D6・D7、M1～M3・M6(1)遺物一覧表	55
第13表	M6(2)・M7・M9、グリット遺物一覧表	56

東大門先遺跡Ⅱ
図版目次

図版一	H1・H3～H5号住居址	57
図版二	H5・H7・H9・H11号住居址	58
図版三	H13・H16～H18号住居址	59
図版四	F1～F7・F10～F13・F15・F16・ F21掘立柱建物址	60
図版五	H1～H3(1)出土遺物	61
図版六	H3(2)～H6(1)出土遺物	62
図版七	H6(2)～H10出土遺物	63
図版八	H11～H16出土遺物	64
図版九	H17・H18、F5・F10・F14・F15・F18・F21出土遺物	65
図版十	F11・F13・F14、単独ピット、D6・D7、 M1～M3・M6・M7・M9、グリット出土遺物	66

西八日町遺跡Ⅲ
挿図目次

第1図	西八日町遺跡Ⅲ全体図	67
第2図	東大門先遺跡Ⅱ・西八日町遺跡Ⅲ・Ⅶ変遷図	68
第3図	H4号住居址(1)	70
第4図	H4号住居址(2)	71
第5図	H7号住居址	72
第6図	H9号住居址(1)	73
第7図	H9号住居址(2)	74
第8図	H14号住居址	75
第9図	H15号住居址	76
第10図	H16号住居址(1)	77
第11図	H16号住居址(2)	78
第12図	H17号住居址	79
第13図	H21号住居址(1)	80
第14図	H21号住居址(2)	81
第15図	H21号住居址(3)	82
第16図	H25号住居址(1)	83
第17図	H25号住居址(2)	84
第18図	H26号住居址(1)	85
第19図	H26号住居址(2)	86
第20図	H26号住居址(3)	87
第21図	H28号住居址(1)	88
第22図	H28号住居址(2)	89
第23図	H30号住居址	90
第24図	H41号住居址(1)	91
第25図	H41号住居址(2)	92
第26図	H42号住居址	93
第27図	H43号住居址(1)	94
第28図	H43号住居址(2)	95
第29図	H45号住居址(1)	96
第30図	H45号住居址(2)	97
第31図	H46号住居址(1)	98
第32図	H46号住居址(2)	99
第33図	H48号住居址(1)	100
第34図	H48号住居址(2)	101
第35図	H51号住居址	102
第36図	H54号住居址	103
第37図	H56号住居址	104
第38図	H58号住居址	105
第39図	H59号住居址	106
第40図	H2号住居址(1)	107
第41図	H2号住居址(2)	108
第42図	H5号住居址(1)	109
第43図	H5号住居址(2)	110
第44図	H6号住居址(1)	111
第45図	H6号住居址(2)	112
第46図	H8号住居址(1)	113
第47図	H8号住居址(2)	114
第48図	H10号住居址	116
第49図	H11号住居址	117
第50図	H13号住居址	118
第51図	H29号住居址(1)	119
第52図	H29号住居址(2)	120
第53図	H36号住居址	121
第54図	H44号住居址	121
第55図	H39号住居址	122
第56図	H40号住居址	123
第57図	H47号住居址	124
第58図	H50号住居址	125
第59図	H52号住居址	126
第60図	H53号住居址	127
第61図	H55号住居址	128
第62図	H57号住居址	129
第63図	H1号住居址(1)	130
第64図	H1号住居址(2)	131
第65図	H1号住居址(3)	132
第66図	H3号住居址(1)	133
第67図	H3号住居址(2)	134
第68図	H19号住居址	135
第69図	H12号住居址	136
第70図	H18号住居址	137
第71図	H20号住居址(1)	138
第72図	H20号住居址(2)	139
第73図	H23号住居址	140
第74図	H24号住居址	142
第75図	H27・H38号住居址(1)	143
第76図	H27・H38号住居址(2)	144
第77図	H31号住居址	145
第78図	H33・H37号住居址	146
第79図	H34号住居址	147

第80図	H35号住居址	148
第81図	H49号住居址(1)	150
第82図	H49号住居址(2)	151
第83図	H49号住居址(3)	152
第84図	F1・F6号掘立柱建物址	156
第85図	F2・F3号掘立柱建物址	157
第86図	F7・F8号掘立柱建物址	158
第87図	F9・F10号掘立柱建物址	159
第88図	F11・F13・F14号掘立柱建物址	160
第89図	F15～F17・F21号掘立柱建物址	161
第90図	F18～F20号掘立柱建物址	162
第91図	F12号掘立柱建物址、単独ピット	163
第92図	D1～D9号土坑	165
第93図	M1号溝址	166
第94図	M2号溝址	167
第95図	M3・M5号溝址	167
第96図	グリット出土遺物	168

西八日町遺跡Ⅲ 付表目次

第1表	竪穴住居址一覧表	174
第2表	掘立柱建物址一覧表	175
第3表	土坑一覧表	176
第4表	溝址一覧表	176
第5表	単独ピット一覧表(1)	176
第6表	単独ピット一覧表(2)	177
第7表	H1(1)遺物一覧表	178
第8表	H1(2)・H2・H3(1)遺物一覧表	179
第9表	H3(2)・H4・H5(1)遺物一覧表	180
第10表	H5(2)・H6(1)遺物一覧表	181
第11表	H6(2)・H7・H8・H9(1)遺物一覧表	182
第12表	H9(2)・H10～H13・H14(1)遺物一覧表	183
第13表	H14(2)～H20(1)遺物一覧表	184
第14表	H20(2)・H21(1)遺物一覧表	185
第15表	H21(2)・H23・H24・H25(1)遺物一覧表	186
第16表	H25(2)・H26・H27・H28(1)遺物一覧表	187
第17表	H28(2)・H29～H31・H33・H34(1)遺物一覧表	188
第18表	H34(2)・H35～H40、H41(1)遺物一覧表	189
第19表	H41(2)・H42～45、H46(1)遺物一覧表	190
第20表	H46(2)・H47・H48・H49(1)遺物一覧表	191
第21表	H49(2)遺物一覧表	192
第22表	H49(3)・H52～H56・H57(1)遺物一覧表	193
第23表	H57(2)・H58、F2・F3・F6～F9・F13、D9、M1～M3、単独ピット、グリット遺物一覧表	194

西八日町遺跡Ⅲ 図版目次

図版一	H1～H3号住居址	195
図版二	H3～H6号住居址	196
図版三	H6～H10号住居址	197
図版四	H10・H13・H14・H16・H18号住居址	198
図版五	H20・H21・H24号住居址	199
図版六	H24・H26・H27・H29号住居址	200
図版七	H29・H33・H36・H38・H40・H41号住居址	201
図版八	H41・H43・H46号住居址	202
図版九	H49・H50・H52・H54号住居址、F7、D1～D3号土坑	203
図版十	D3・D5・D7・D9号土坑、M1・M4号溝址、全景	204
図版十一	H1(1)出土遺物	205
図版十二	H1(2)・H2(1)出土遺物	206
図版十三	H2(2)・H3(1)出土遺物	207
図版十四	H3(2)・H4(1)出土遺物	208
図版十五	H4(2)～H6(1)出土遺物	209
図版十六	H6(2)～H8(1)出土遺物	210
図版十七	H8(2)・H9出土遺物	211
図版十八	H10～H13出土遺物	212
図版十九	H14～H19(1)出土遺物	213
図版二十	H19(2)～H21(1)出土遺物	214
図版二十一	H21(2)出土遺物	215
図版二十二	H23～H25(1)出土遺物	216
図版二十三	H25(2)～H27(1)出土遺物	217
図版二十四	H27(2)・H28～H30・H38出土遺物	218
図版二十五	H31・H33～H35・H37出土遺物	219
図版二十六	H36・H37・H39～H41(1)出土遺物	220
図版二十七	H41(2)～H45・H46(1)出土遺物	221
図版二十八	H46(2)～H49(1)出土遺物	222
図版二十九	H49(2)出土遺物	223
図版三十	H52～H57(1)出土遺物	224

図版三十一	H57(2)・H58、F、単独ピット、土坑、溝址、グリット出土遺物	225
図版三十二	H46(3)・H55(2)、溝址、グリット出土遺物	226

西八日町遺跡Ⅶ 挿図目次

第1図	西八日町遺跡Ⅶ遺構配置図	227
第2図	H81号住居址遺構・遺物実測図	228
第3図	H83号住居址実測図	229
第4図	H89号住居址(1)遺構・遺物実測図	230
第5図	H89号住居址(2)遺物実測図	231
第6図	H89号住居址(3)遺物実測図	232
第7図	H90号住居址遺構・遺物実測図	233
第8図	H91号住居址実測図	234
第9図	H92号住居址実測図	234
第10図	F24号掘立柱建物址実測図	235
第11図	D34号土坑実測図	235
第12図	遺構外出土遺物	235

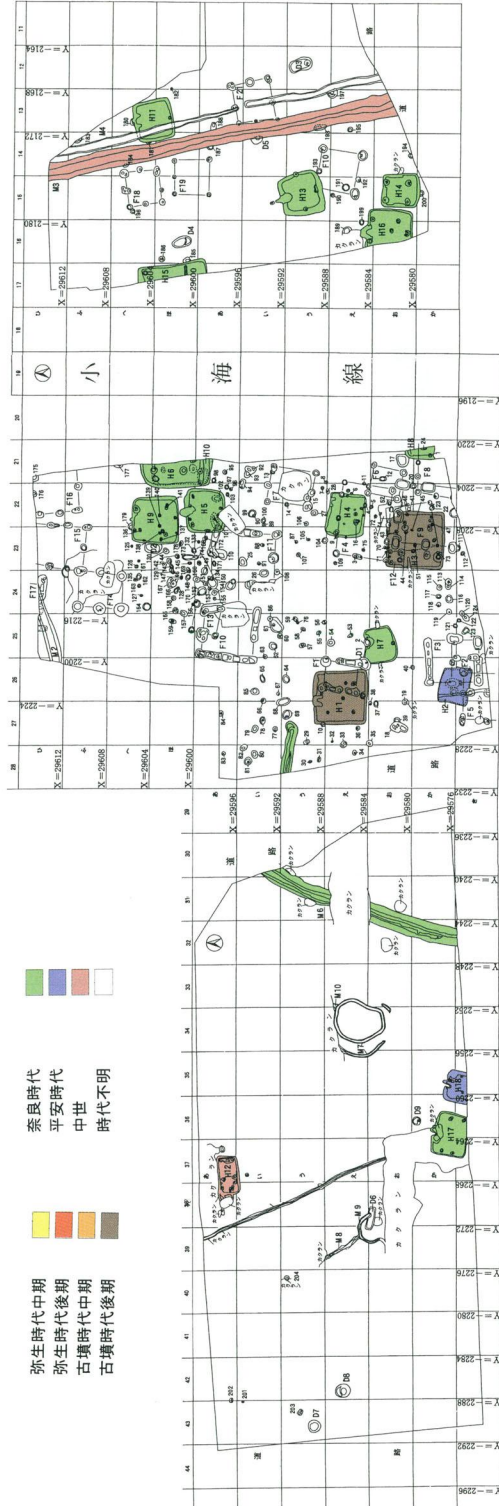
西八日町遺跡Ⅶ 付表目次

第1表	H81号住居址遺物観察表	229
第2表	H89号住居址遺物観察表	232
第3表	H90号住居址遺物観察表	233
第4表	遺構外遺物観察表	235

西八日町遺跡Ⅶ 図版目次

図版一	全景、H81号住居址	236
図版二	H81・H83・H89号住居址	237
図版三	H89～H92号住居址	238
図版四	F24号掘立柱建物址	239
図版五	H81・H89号住居址出土遺物	240
図版六	H89・H90号住居址、遺構外出土遺物	241

岩村田遺跡群 ひがし だいもん さき 東大門先遺跡Ⅱ



第1図 東大門先遺跡Ⅱ (I-IHII) 全体図 (1 : 600)



第 2 図 東大門先遺跡Ⅱ・西八日町遺跡Ⅲ～Ⅶ 遺構分布図 (1 : 1,250)

第I章 東大門先遺跡II

第1節 竪穴住居址 (H)

(1) H1号住居址

本住居址はう26グリットにあり、F1号掘立と、P10に切られる。方形を呈し、南北長462cm、東西長453cmを測る。壁は深い所で36cmを測る。カマドは北壁にあり、主軸方向はほぼ北を指す。

カマドの火床は床面とほぼ同レベルで、焼土・支脚石が残っていた。袖は地山を残し、袖先に河床礫を立て、地山のロームで構築している。カマド内には、12の土師器甕、7の鉢、カマド西側に2・5・8の椀ないし鉢、大型品の11の甑がある。東には6・4の鉢と9の中型の甕が使用状態で残っている。5の鉢だけが南西にある。

床面はそれほど締まっではないが、粘性のあるロームブロックを入れ貼っている。支柱穴は明瞭ではなく、浅いものである。南壁下中央に径64cm、深さ50cmの貯蔵穴がある。床面中央にあるP8は方形で一辺28cm、深さ33cmを測る。壁下に周溝を廻している。

1の土師器杯は厚手で、内面に雑なミガキ後、3～4本を単位に、放射状に暗文を施す。黒色処理も中途である。外面は底部へラ削り、口縁横ナデ後わずかにミガキ調整される。2は杯蓋模倣の杯で口縁にわずかな外稜があり、ミガキ調整が雑ではあるが全面に施されている。3は丸底に外稜を持って口縁がたちあがり、端正なつくりである。4の杯は口縁内稜を持って外反するもので、内面に雑な放射状暗文を施す。5・6の杯は大小のセットで底部から口縁全体が内湾し、ミガキが丁寧で、色調が赤褐色で整っている。7・8は鉢で、ミガキ調整される。9・10の甕外面胴部はナデ調整される。口縁は「く」形を呈し中・小の甕である。12の甕外面はハケ目が残るナデ調整され、ゆがみが著しいため、実測図断面は外反器形であるが9・10の「く」字形に近いものである。甑は大型で、薄手、口縁端部が矩形を呈し、ミガキ調整される。一住居内の良好な土器セット資料である。

これらより該期は5C末～6C初頭に位置付けたい。

(2) H3号住居址

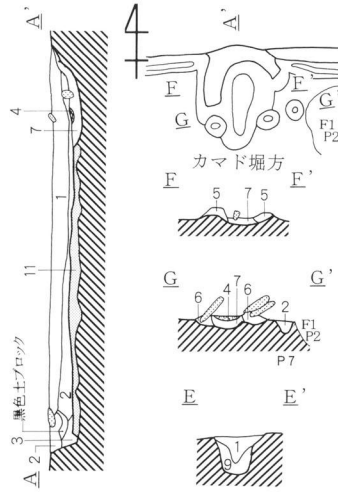
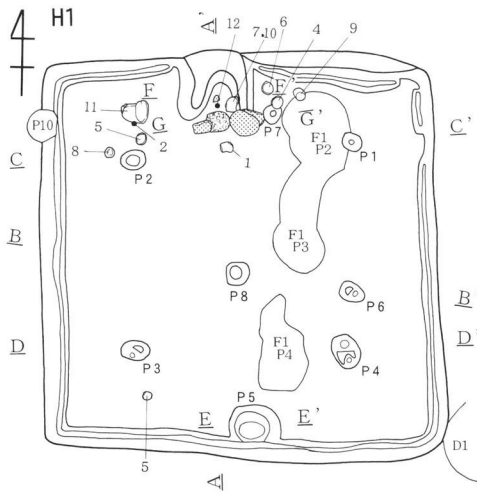
お22グリットにあり、F4・F9・F12、単独ピットに切られる。南北長500cm、東西長492cmの方形を呈し、壁高は最大で32cmを測る。カマドを北壁中央に持ち、主軸はほぼ北を指す。

焼失家屋で、炭化材が残り、カマドの周囲に土器が出ている。炭化材は分析によればコナラ節3点とブナ属の1点が確認された。炭1～炭3がコナラ属、カマド前の炭4がブナ属である。構築材として、コナラ属が使用されたことが確認された。

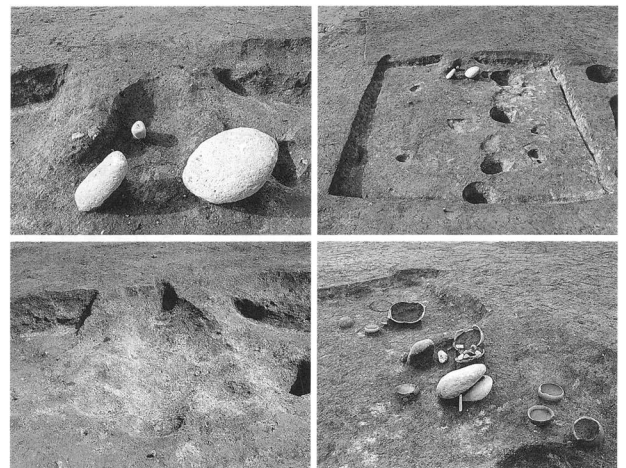
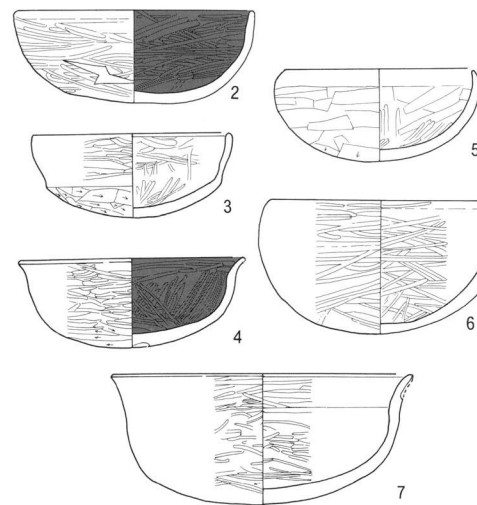
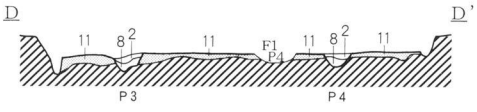
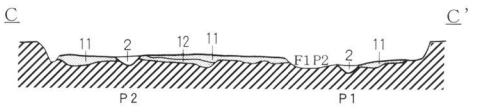
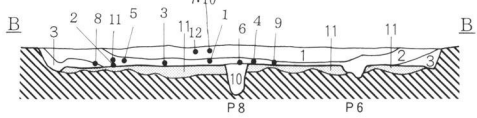
カマドはF4・F9のピットに壊され、一部が残っていた。床面と火床は同じ高さで、袖の先端に河原石を立て、粘土で構築している。

支柱穴は4本で柱痕はおおよそ径16cmの円形である。柱穴の堀方は上端で径40～90cm以上、深さ90cmを測る。南西壁下に88cm、深さ60cmの貯蔵穴がある。P8は長径48cm、深さ12cmの楕円形の穴に、8の土師器鉢の口縁の高さが床面と同じ高さになるように入っていた。穴に埋設した鉢である。壁下には周溝が廻っている。床面は一部にカマドと同じ粘土を、全般には地山に近い土を貼っている。床面中央には床下ピットがある。

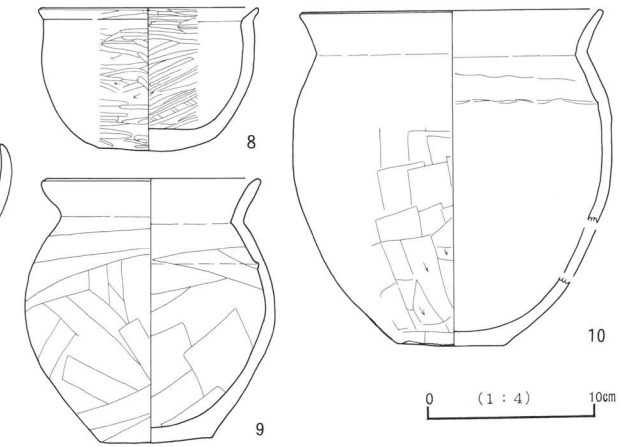
須恵器壺は検出面からの出土で、伴うものかはわからない。本址からは土師器、敲石と台石が出土する。4の土師器杯は全体に内湾するもので、ミガキ調整される。5は明瞭ではない外稜から口縁が直立し、ミガキ調整される。6の杯は口縁が内稜を持って外反し、器高の深いものである。7は横ナデされた口縁が外反気味に仕上げられる。口径に対し器高が深い。8は鉢で口縁が外反し内面に放射



- H1 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を少し含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂主体に黒色土を含む。
 4. 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土
 5. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム主体。(袖)
 6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 地山砂主体。
 7. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) (カマド掘方)
 8. 褐色土層 (10YR4/6) 地山砂主体。
 9. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を多く含む。
 10. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子を含む。
 11. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂のやや粘性のあるロームブロックを含む。(貼床)
 12. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。

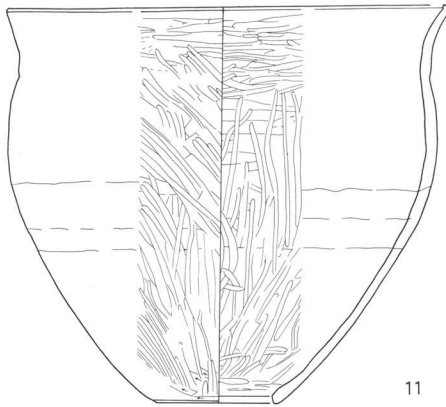


上からH1 カマド カマド掘方 (南より) 上からH1 完掘 遺物出土状況 (南より 南東より)

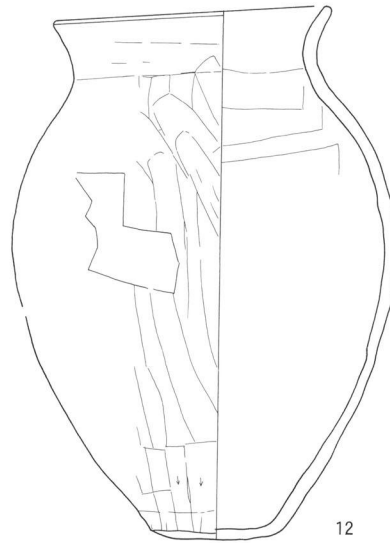


第3図 H1号住居址 (1)

H1



11



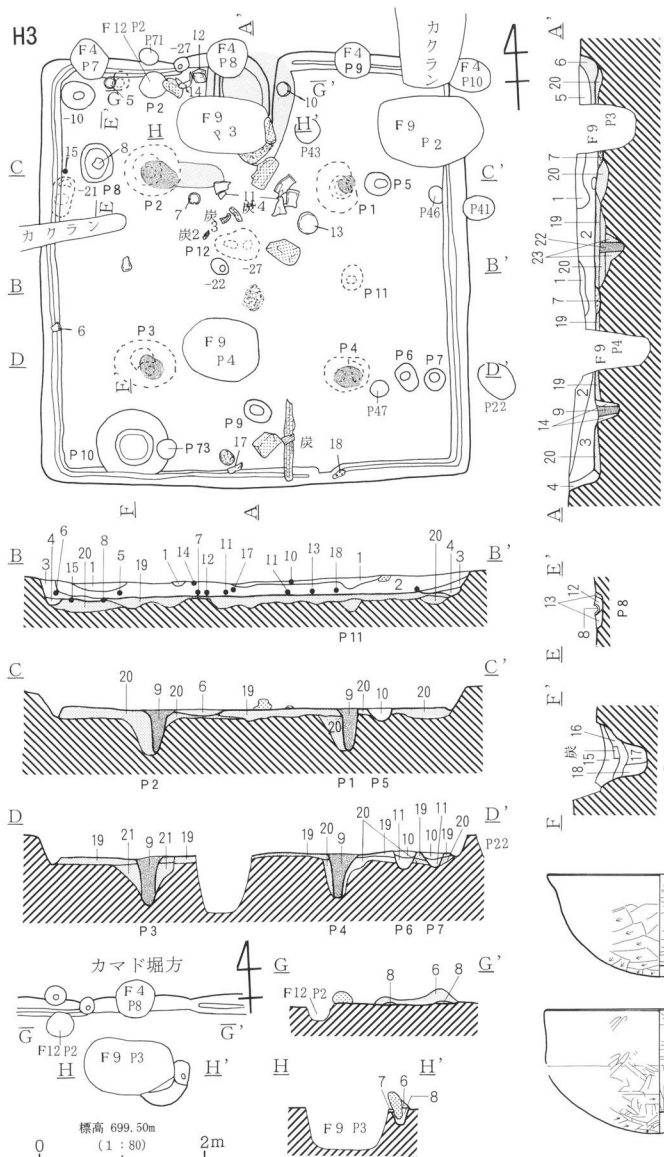
12

0 (1:4) 10cm

第4図 H1号住居址(2)

状の暗文が施される。9は短く口縁が外に折られる小甕である。ミガキ調整されるが内面は雑で、外面はヘラ削りが残っている。10は甕で、焼成前穿孔ではあるが端部をほとんど整えていない。器面はナデ調整のみである。11の甕は口縁が外反し、外面体部はヘラ削り、内面は雑にミガキが施される。12は口縁端部が内湾する壺。13・14は壺としたが胴部にミガキ調整を施す丸胴甕である。口縁は「く」字形を呈すが外反傾向がみられる。15は小形の甕で、体部はナデ調整である。16のミガキ・赤色塗彩されたものは器台か高杯か蓋が考えられるが、土師器であるか判然としない。

これらより、本址もH1号住居址と同じ5C末～6C初頭であろう。

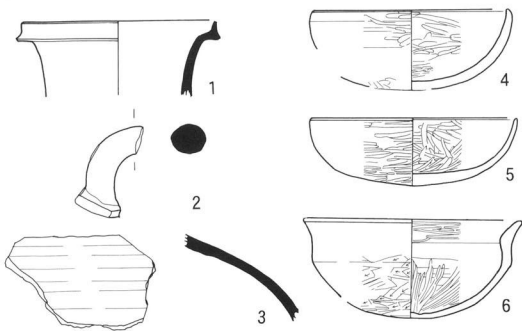
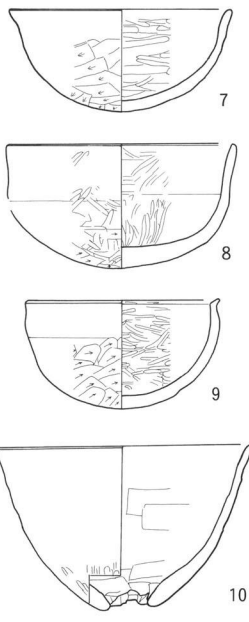


上からH3 完掘 遺物出土状況 (西より)

H3 カマド遺物 (南より) H3 カマド堀方 (南より)

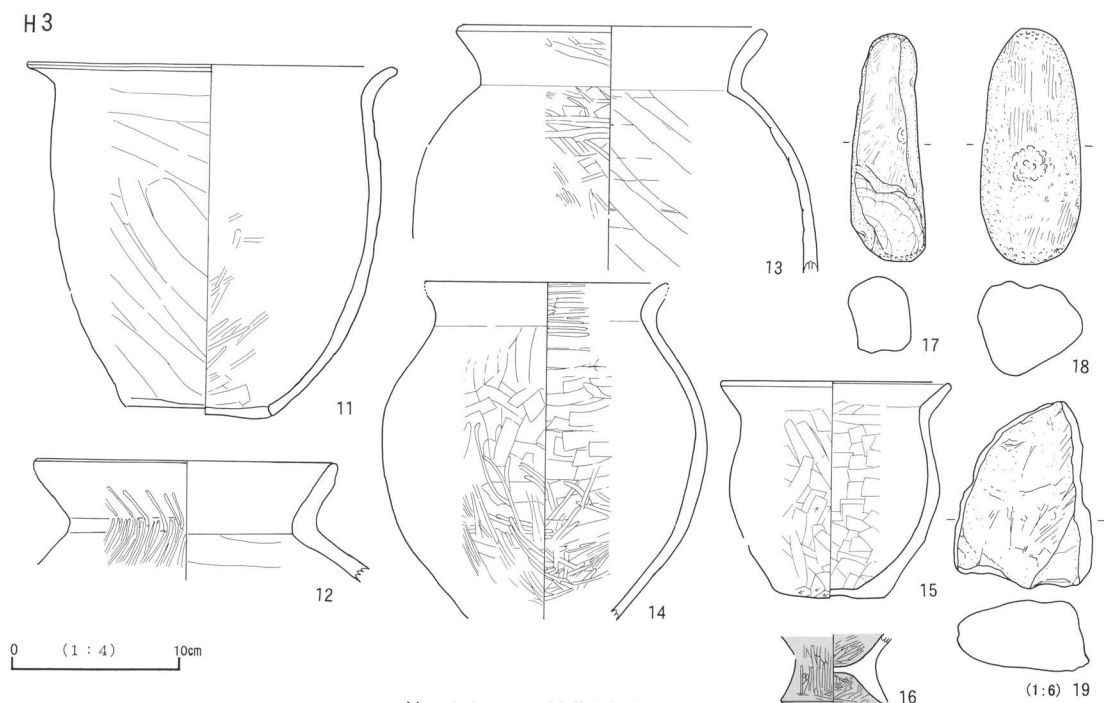
H3 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を含む。(周溝)
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土質。7.5YR4/3 土を多量に含む。
6. 褐色土 (7.5YR4/3) 粘土
7. 焼土
8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。
9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
10. 黒褐色土層 (10YR2/3)
11. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
12. 褐色土 (7.5YR4/4)
13. 暗褐色土層 (10YR3/3)
14. 黒褐色土層 (10YR3/2)
15. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土・炭化物粒子を多く含む。
16. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
17. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 細かい砂。
18. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質。
19. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂を含む。(貼床)
20. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂主体。
21. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂主体。(堀方ビット)
22. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕 (堀方ビット)
23. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。(堀方ビット)



第5図 H3号住居址 (1)

0 (1:4) 10cm



第6図 H3号住居址(2)

(3) H4号住居址

え22グリットにあり、東西に長い長方形を呈し、南北長315cm、東西長372cmを測る。壁高は2cm～15cmと浅く攪乱が床面に及ぶ地点がある。

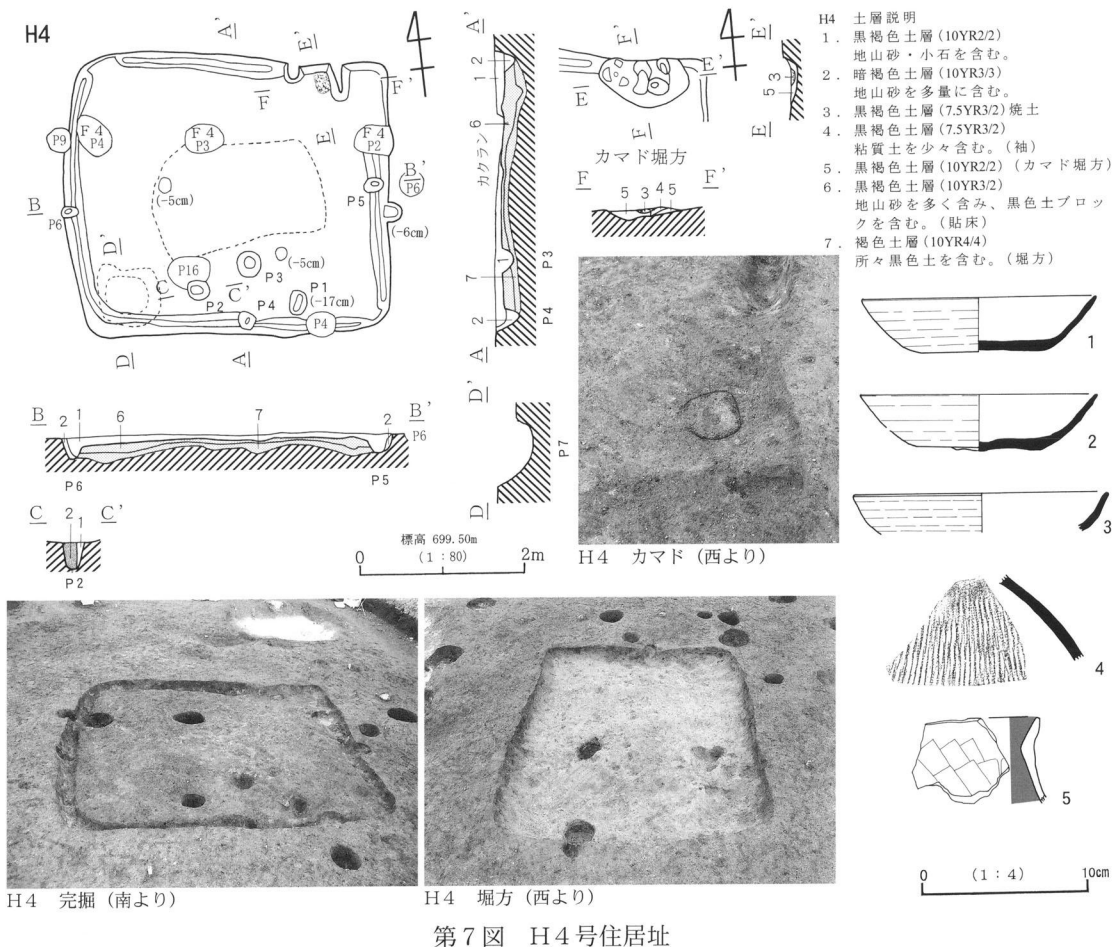
カマドは北壁の東に寄り、袖の粘土の痕跡がわずかに見られた。主軸方位はやや東に振れるが北を指す。F4・単Pに切られる。

主柱穴は明確ではなく、P2は柱痕を持つ小ピットであるが、重複するピットであるかもしれない。壁下には周溝が廻り、壁中ほどに小ピットがみられる。

床面は砂質土に黒色土ブロックを含む土が貼り床され、堀方は中央が高く周辺部をやや深く掘り込んでいる。南西には長径40cmの隅丸長方形の床下土坑がある。

出土遺物には須恵器と土師器があり、須恵器は底部回転糸切りされた杯で、底径が広く口縁径の半分の数値を持つ。口縁の立ち上がりは直線に近い形態である。

これらより、8世紀後半の土器であり、奈良時代の住居址であろう。

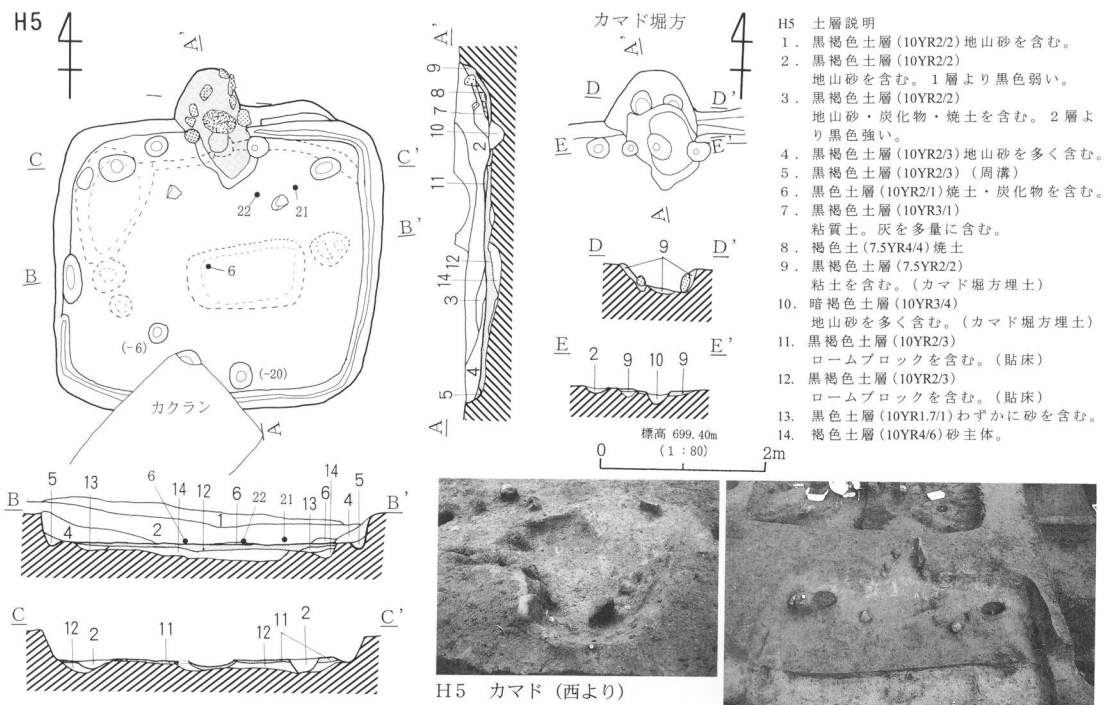


(4) H5号住居址

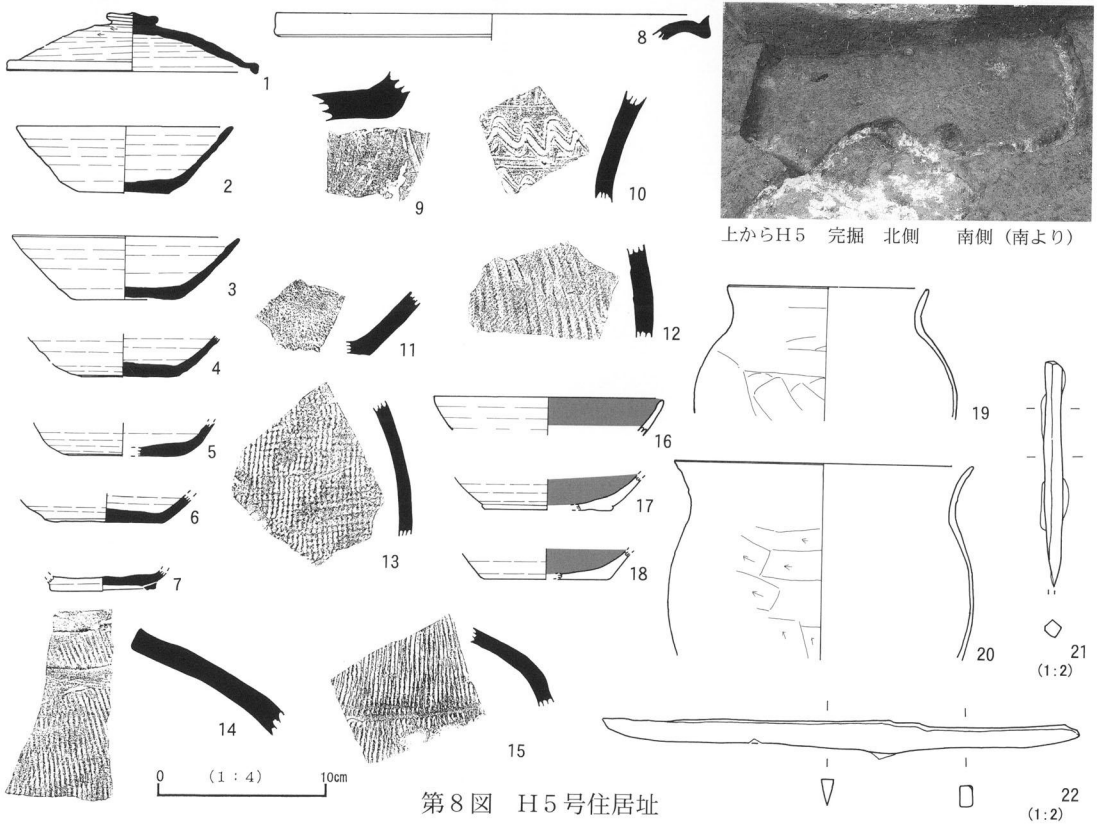
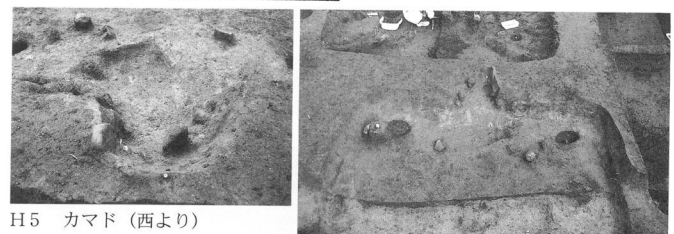
ほ22グリットにあり、南北326cm、東西378cmを測り、長方形を呈する。壁高は13~35cm、カマドは北壁中央にあり、主軸方位はほぼ北を指す。南壁を攪乱に一部壊され、F11・単独ピットを切る。調査は南北の2段階でなされ、別々に調査した。カマドは壁の外に突出し、壁のラインにカマド袖口の芯材の河床礫跡があり、小礫をおいて粘土を貼り構築している。支柱穴は四隅近くに設けられ、柱間は東西240cm南北200cmである。床面はロームブロックを含む土で貼床され、締まっていた。床下中央には長径140cmの長方形の落ち込みがある。内周するプランの掘り込みがあり、規模の拡張がなされている。南東隅も低くなっていた。

出土遺物には須恵器・土師器・鉄器がある。須恵器は杯蓋・杯・壺・甕類の破片がある。須恵器の蓋はつまみの貼付されるもので、杯は直線的に口縁が外傾し、底部径の比が5割を切るか近いものである。土師器は杯と甕があり、杯は内面黒色処理ミガキ調整、底部ヘラ削りされる。甕は器肉の薄い武蔵甕で、口縁形態は「く」字形である。鉄器は刀子と断面形四角の軸がある。

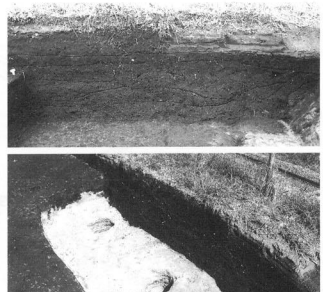
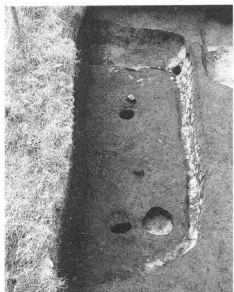
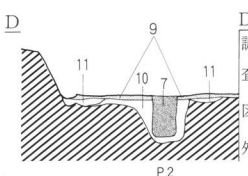
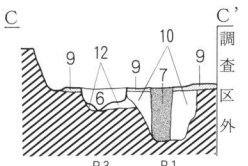
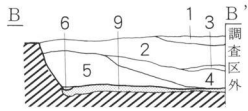
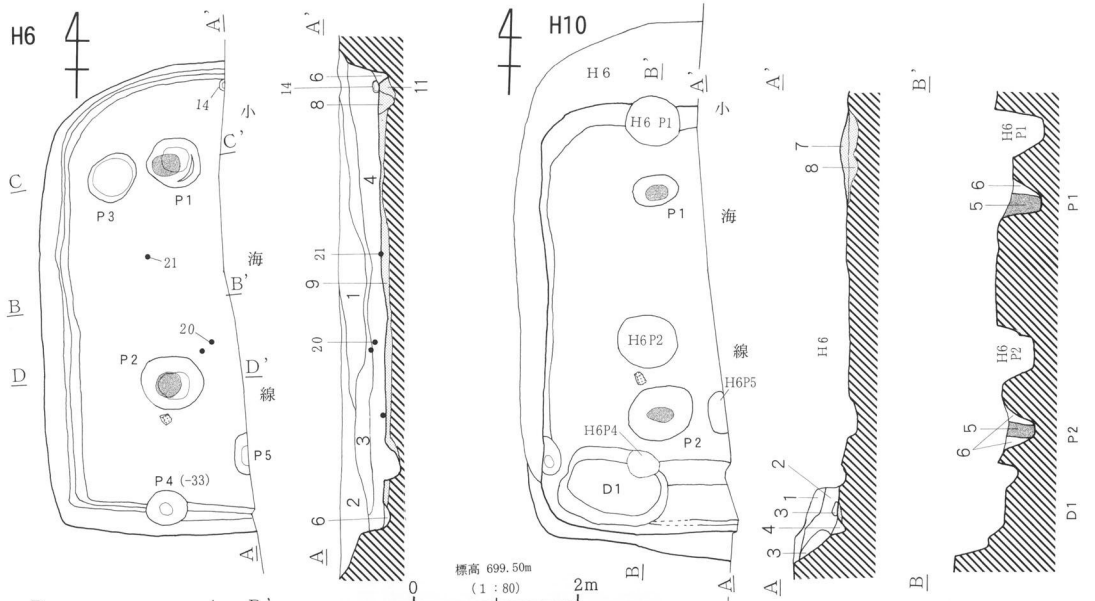
これらより、本址は8C後半の住居であろう。



- H5 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。1層より黒色弱い。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・炭化物・焼土を含む。2層より黒色強い。
 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
 5. 黒褐色土層 (10YR2/3) (周溝)
 6. 黒色土層 (10YR2/1) 焼土・炭化物を含む。
 7. 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘質土。灰を多量に含む。
 8. 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土
 9. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 粘土を含む。(カマド堀方埋土)
 10. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂を多く含む。(カマド堀方埋土)
 11. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを含む。(貼床)
 12. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを含む。(貼床)
 13. 黒色土層 (10YR1.7/1) わずかに砂を含む。
 14. 褐色土層 (10YR4/6) 砂主体。



第8図 H5号住居址



H6 完掘 (北より)

H6・10 堀方 (北より)

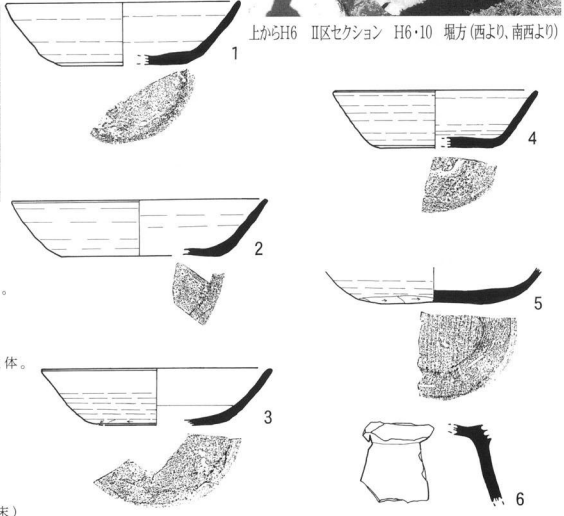
上からH6 II区セクション H6・10 堀方 (西より, 南西より)

- H6 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より小石を多く含む。
 3. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂・小石を含む。
 4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
 5. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂・小石を含む。
 6. 黒褐色土層 (10YR2/2) (周溝)
 7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土を含む。(カマド堀方か)
 9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・粘土含む。非常に締まる。(貼床)
 10. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体に黒色土ブロックを含む。
 11. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂を含む。
 12. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。

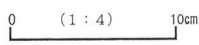


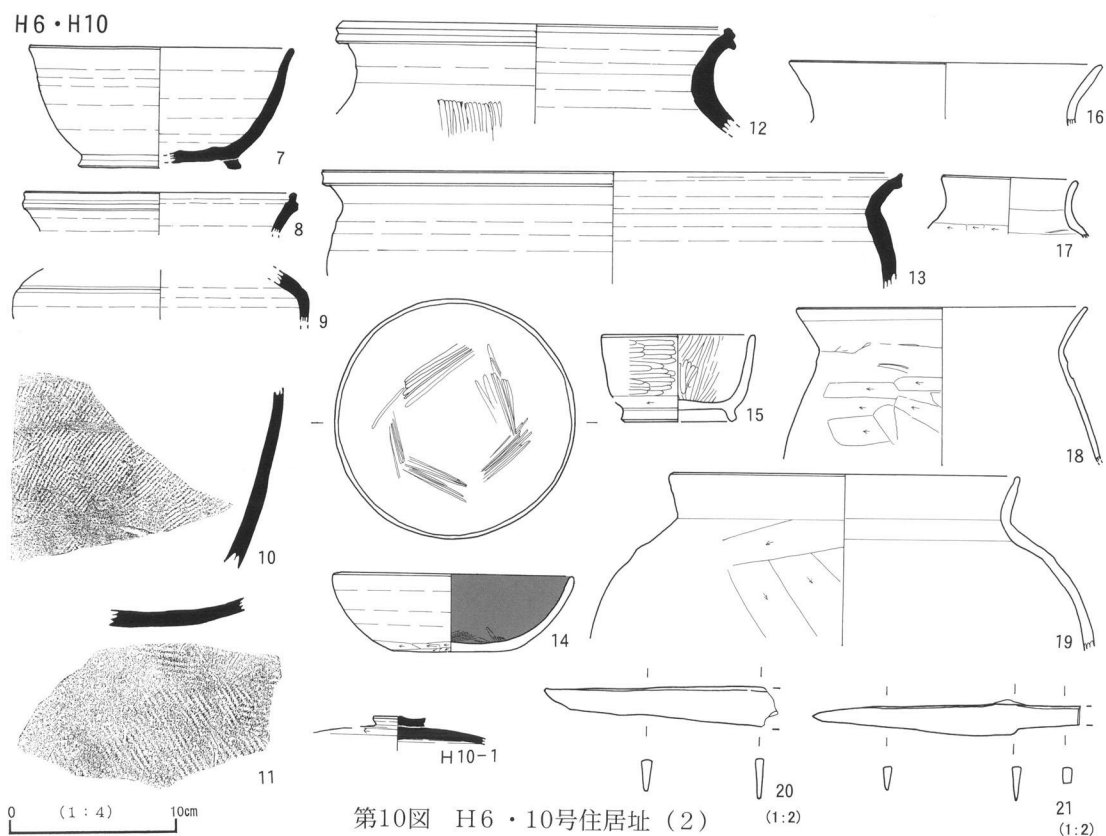
H6 刀子 (東より)

- H10 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。縮まりあり。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より黒色強。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂主体。
 4. 黒色土層 (10YR2/1) (周溝)
 5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
 7. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・粘土を含む。(貼床)
 8. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂を含む。



第9図 H6・10号住居址 (1)



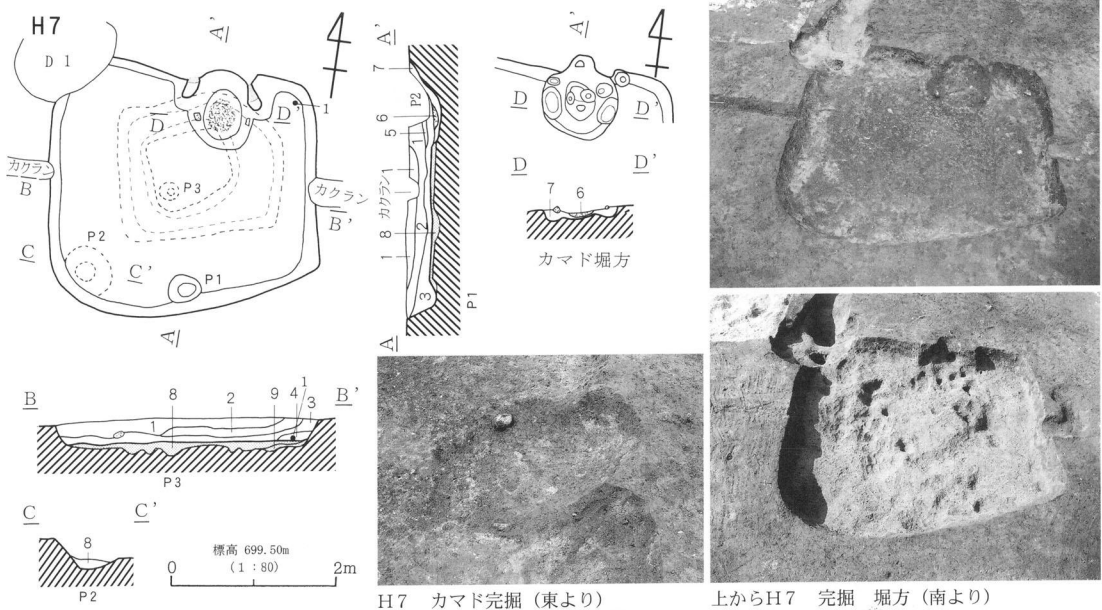


(5) H6・10号住居址

へ21グリットにあり、H6号住居がH10号住居と重なり、大半を壊しているため、明確な時期が判明しないので、併せて報告する。H6号住居は小海線に東半分を壊されている。南北長は536cmを測り、壁高は47～59cmを測る。カマドは残存域からは検出されていないが、南北セクションの北側掘方に粘質土があることから北壁にあると推定される。床面は粘質土を含み非常に締まっていた。支柱穴の柱痕が残り、P1は隅丸・P2は円形を呈し長径30cmを測る。ピット掘方は長径70cm前後、深さは60～70cmを測る。北西に径70cm、深さ20cmの円形の落ち込み、南壁に径50cm、深さ33cmのピットがある。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。須恵器は杯・高杯・壺・甕の破片がある。須恵器杯は破片で全形は不明であるが、底部回転ヘラ切りされた1・3・4の杯と5の底部周辺を手持ちヘラ削りするものがある。14の土師器杯は、内面ミガキ、五角に暗文を施し、底部手持ちヘラ削りの杯が床面から出土する。15の土師器碗は口径9.4cmの小形品であるが、器面の内外全面がミガキ調整されるもので、甲斐型土器である。8C後半にみられものである。(1992、山梨県考古学協会『甲斐型土器—その編年と年代』) 18の土師器甕は器肉の薄い武蔵甕であり、口縁部形態は「く」字形を呈す。19の土師器丸胴甕片もある。覆土3層中の炭化物はオニグルミと分析されている。これらより、本址は8世紀後半に該期が求められる。

H10号住居址はへ21グリットにあり、H6号住居址に切られ、南壁側60cmとH6号住居址の掘方で検出された。平成18と19年度の調査境がH6とH10の南壁辺であったため、新旧を分けた調査をしていない。南北521cmを測り、東側は小海線に壊されている。柱痕を持つ2柱穴があり、南東の浅

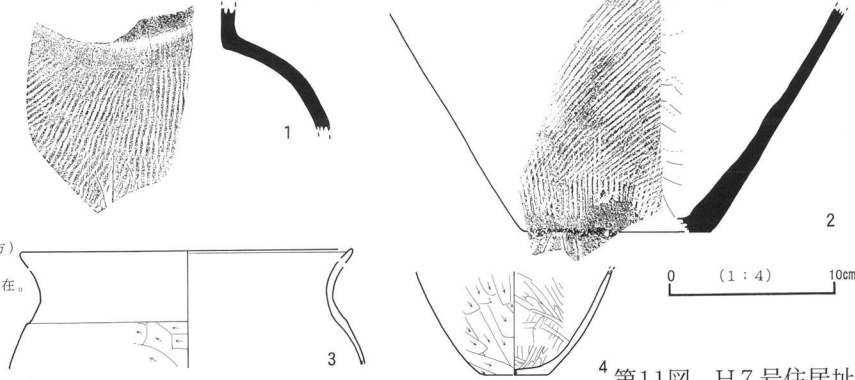


H7 カマド完掘 (東より)

上からH7 完掘 堀方 (南より)

H7 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
1層より地山砂が少ない。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を多く含む。
6. 赤褐色土層 (5YR4/6)焼土
7. 暗褐色土層 (10YR3/4)
地山砂を含む。(カマド堀方)
8. 暗褐色土層 (10YR3/3)
黒色土ブロックと地山砂混在。
よく締まる。(貼床)
9. 褐色土層 (10YR4/4)
地山砂主体。



4 第11図 H7号住居址

い土坑は貼床されていた。

出土遺物は須恵器杯蓋の1がある。つまみが貼付されている。つまみは扁平で、中央がわずかに尖っている。

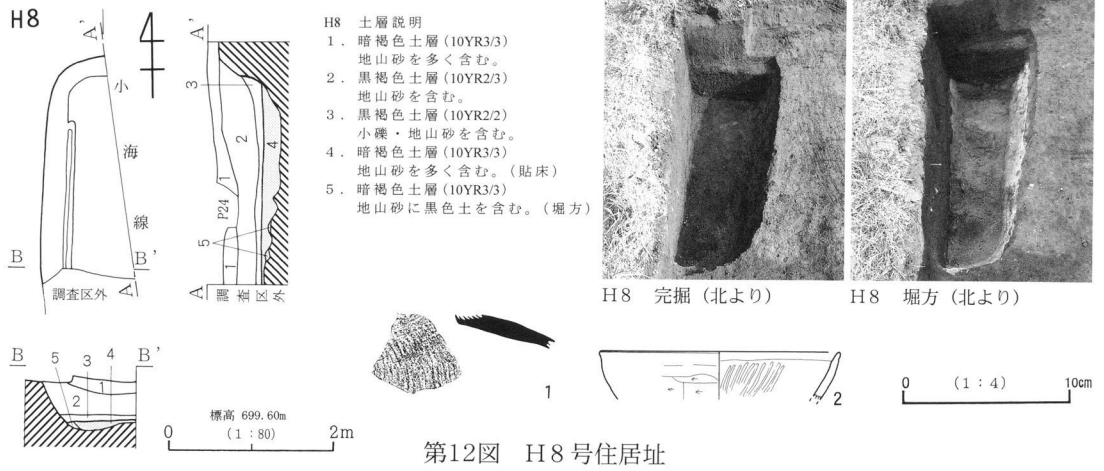
これらより、H10号住居はH6号住居址より古い、時期差のない住居であろう。

(6) H7号住居址

え25グリットにあり、南北長268cm、東西302cmを測り、南東隅は丸みを持ち、方形の崩れた形態である。カマドは北壁の東に寄っており、主軸は10°北より西に振れている。D1に北東隅、単独ピットP2にカマドを切られ、東西壁は攪乱小溝に切られる。壁高は12~30cm、床面は黒色土ブロックが混在し、締まった床である。主柱穴は検出されず、南壁中央に長径40cm、深さ8cmの円形ピットがある。

カマドの火床面は残り、袖の粘質土がわずかにあった。南西の床下には円形の落ち込みが見られた。出土遺物には須恵器・土師器があり、須恵器は甕か壺の平行敲き目の平底である。土師器甕は器肉の薄武蔵甕で、口縁部形態は「く」字形を呈す。

これらより、本住居は8世紀後半に該期が求められる。



(7) H8号住居址

お21グリットにあり、住居の北東隅をわずかに調査した。現道と小海線により、詳細は分からない。壁高は47～53cmを測り、床面は厚く貼床される。

出土遺物には須恵器甕、土師器杯片がある。土師器杯は、内面に暗文を持ち、外面底部がへら削りされる。

これらより、奈良時代の住居址である。

(8) H9号住居址

へ22グリットにあり、単独ピットP136～141に切られ、D2・単独ピットP179を切る。南北長398cm、東西長388cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁にあり、主軸方位はほぼ北を指す。焼失家屋である本住居からは、多量の炭化材と土器、鉄製品のセットが残されている。

カマドはわずかに焼土範囲と袖と煙道の痕跡があるのみである。

主柱穴は4個検出され、北柱穴は北壁の下に寄り、柱穴の深さは26～32cmを測る。南壁下に2個の小ピットがある。カマドの西には、貼り床の下に長径48cmの楕円形で、深さ28cmのピットがある。

炭化材の出土状況は中央は東西方向、各隅からは45°方向にあり、南北棟の寄棟が想定され、カヤ状炭化物が、中央付近では炭化に焼土が乗った状況である。

炭化材の分析によれば、針葉樹のヒノキ科を主体とし、広葉樹のクリやエノキ属が混じる樹種であるとしている。炭1・炭2は分割材を呈する状況が観察され、炭1は角材状を呈していた可能性を推定している。ヒノキ科の木材は割裂性が高い木材であり、分割材の存在から板状の部材の利用が考えられる。P1のヒノキ科炭化材の放射性炭素年代の測定結果は1,280年±20で、暦年較正年代はAD718～773年である。

出土遺物には須恵器・土師器・鉄製品がある。須恵器は蓋・杯・高台付杯・壺がある。須恵器杯は底部回転糸切りされ、周辺部手持ちへら削りされる7と回転糸切りのままの4・5・6とがある。3は杯下部にへら削り状の帯があるがナデられ、へら削りか明瞭でない。須恵器杯の口径に対する底径比は0.51～0.6あり、H4の須恵器杯より大きいものもあるが似た数値である。いずれも杯の見込み部は使用による摩耗が見られる。3の杯外面には「百」であろうか墨書がある。高台付杯は器高が深く、高台の形は下端が外方にわずかにみ出している。2の杯は黒色粒子を含み、陶邑産の搬入品とみられH5号からも破片出土している。

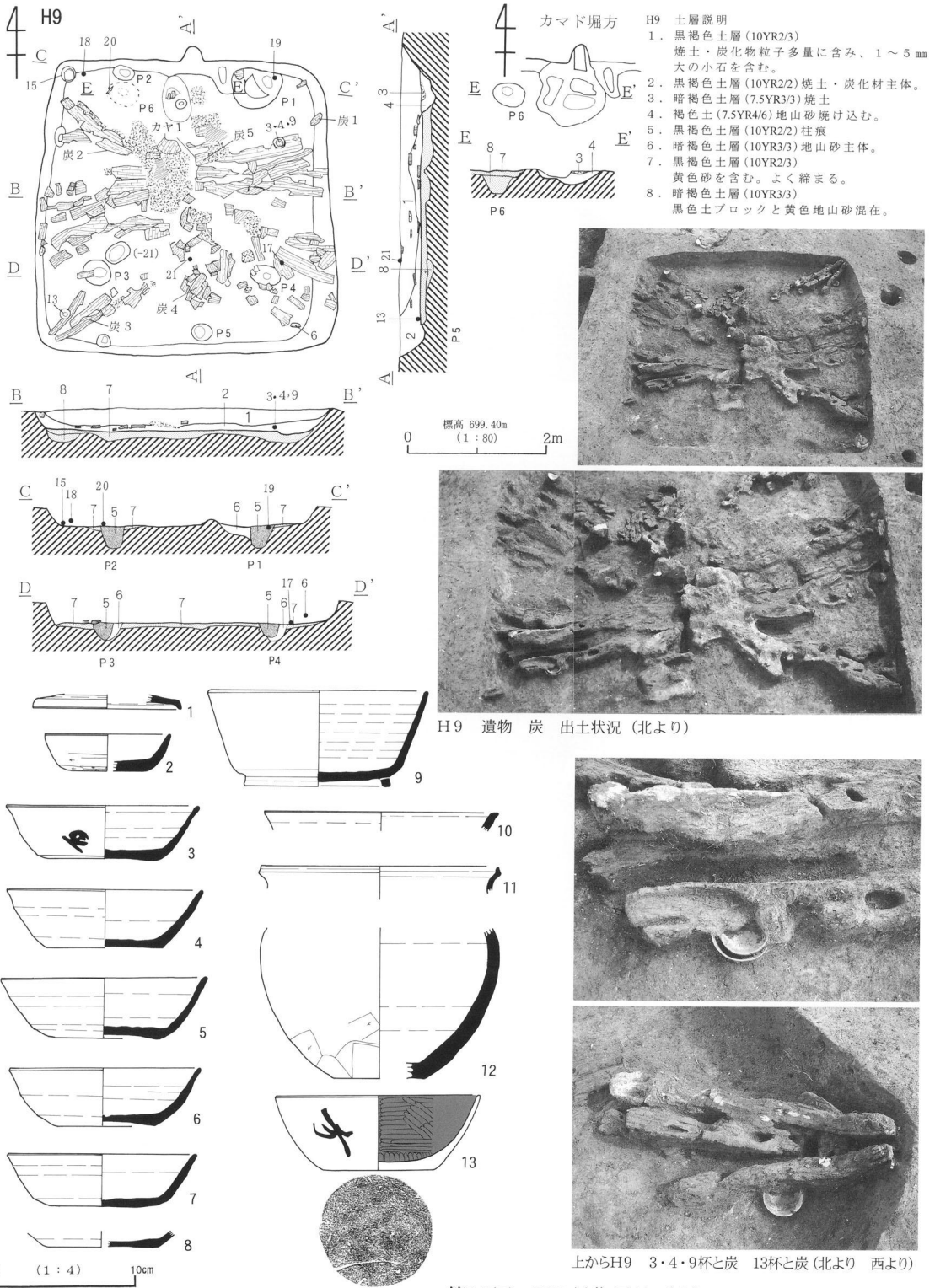
土師器杯は内面ミガキ黒色処理、底部手持ちへら削りされ、杯部外面に「千」と「万」の合体した横向きの墨書がなされる。土師器甕は北東隅に伏せた状態で、置かれていた。口縁部形態「く」字形の武蔵甕である。

鉄製品は斧1点、紡錘車2点、刀子2点が完存に近い形で出土した。鉄斧は南東ピット付近、紡錘車は北壁の左右端から、20の刀子は北西の床面近くで、青銅製の柄金具がついた状態で柄の木質とみられる炭化物も側に見られた。この木質の分析の結果はヒノキ科である。21の刀子は柄が曲がったまま出土し、住居の検出面からである。

H9号住居は一住居址内で使用している食器が、須恵器杯が5点、須恵器碗（高台付杯）が1点、壺1点、土師器杯が1点、土師器甕1～2点、鉄斧1点、紡錘車2点、刀子2点という数量を見ることができた。但し、カマドには間違いはないが、カマドの崩壊とみられる、石や粘土が見当たらず、煮炊きをカマドで行った痕跡はわずかな焼土とカマドの掘り込みが確認できたのみである。

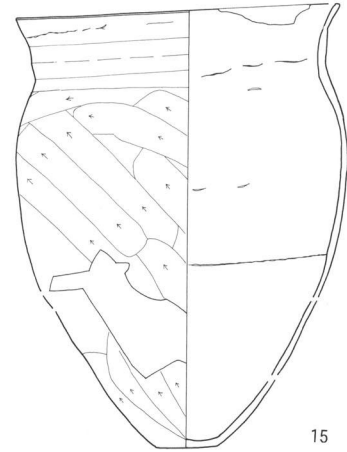
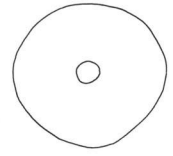
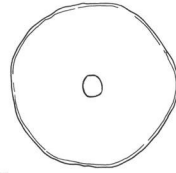
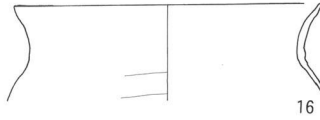
常住的な住居であるかという点、カマドの存在が希薄な住居である。

いずれ本住居は、奈良時代8C後半～9C初頭に時期が相当する。



第13図 H9号住居址(1)

H9



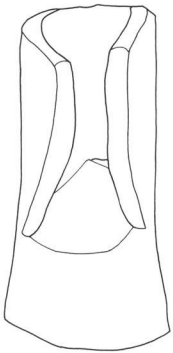
H9 15甕と刀子 (東より)

0 (1:4) 10cm

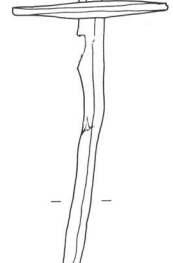
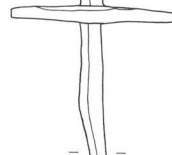
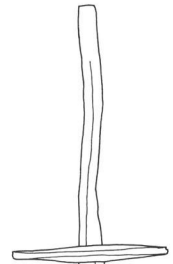
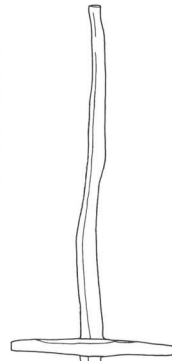
15



H9 17鉄斧 (西より)



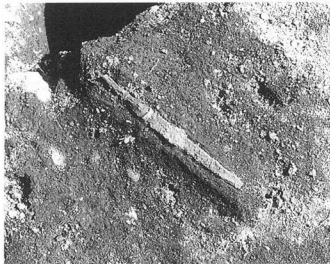
(1:2) 17



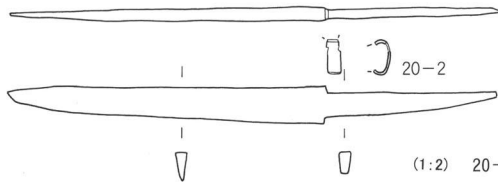
○ (1:2)

18

○ (1:2) 19

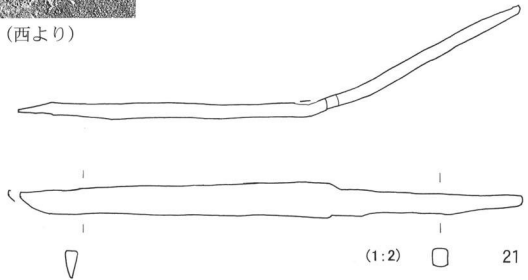


H9 20刀子・口金物 (西より)



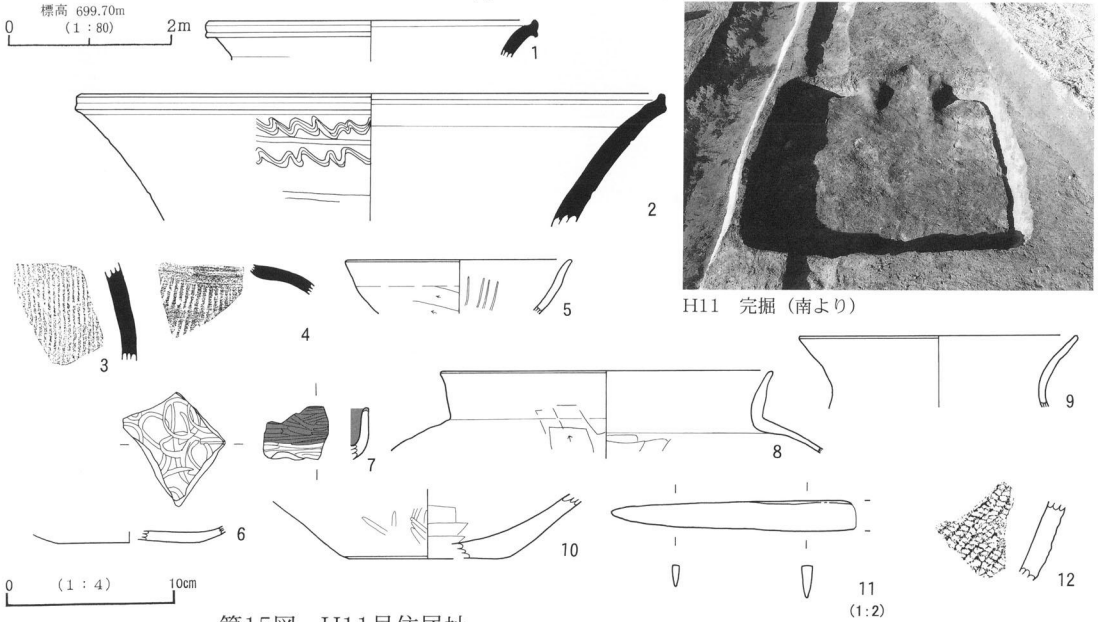
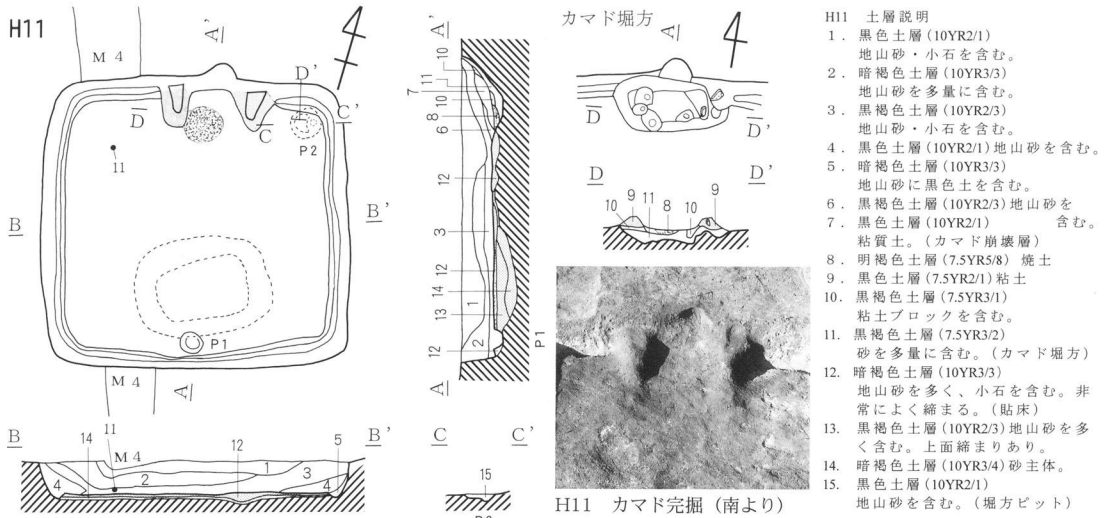
(1:2) 20-1

20-2



(1:2) 21

第14図 H9号住居址 (2)



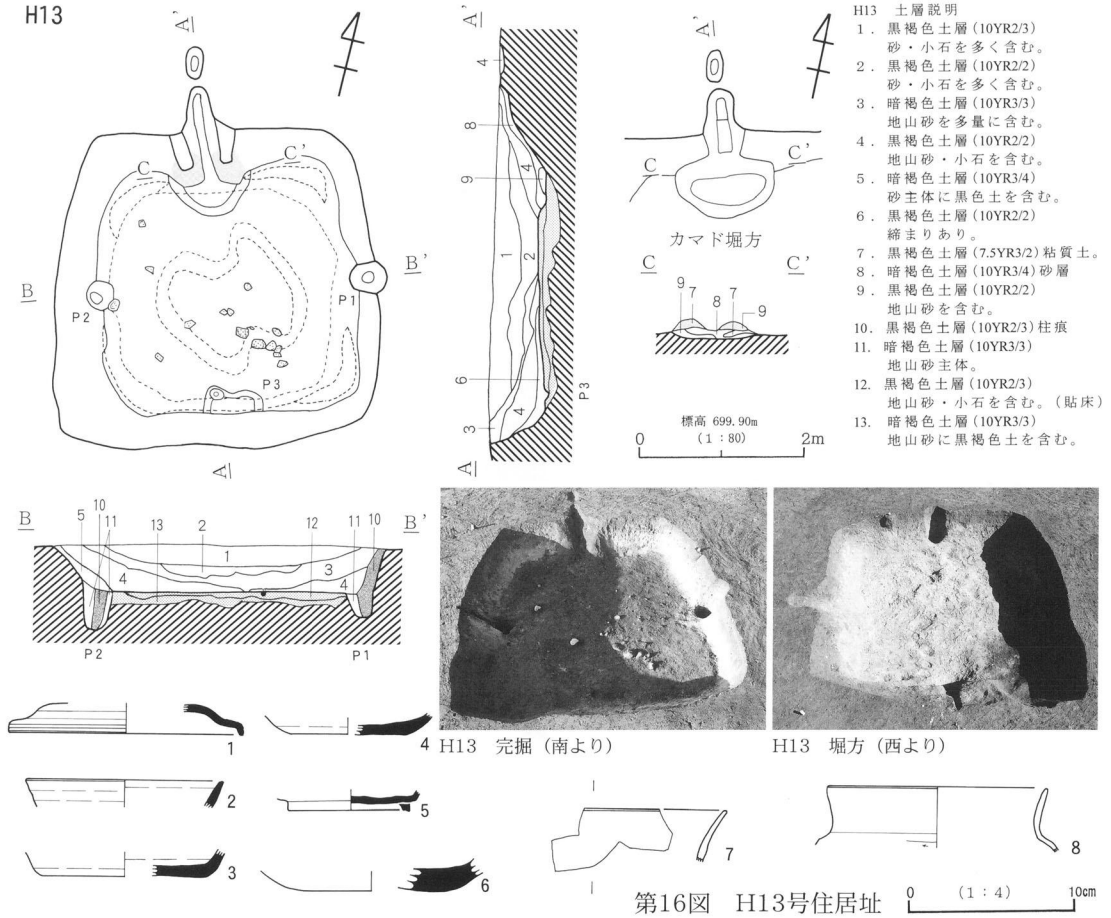
第15図 H11号住居址

(9) H11号住居址

へ13グリットにあり、南北長330cm、東西長341cm、壁高28~42cmを測る。カマドを北壁に持ち、主軸方位は11°西に振れる。M4に切れ、単独ピットを切る。カマドは間口144cmと広く奥壁は住居址のラインである。

床面は地山砂を多く含む土を貼り、非常によく締まる。主柱穴は検出されず、南壁中央下に径28cm、深さ24cmの円形ピットがある。床下からは北東隅に径32cmの円形の浅い落ち込み、南床下からは長径164cm、短径120cmの隅丸長方形の落ち込みがある。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。須恵器は口縁帯のある短径壺、口縁外面は平行敲き目を残し、横ナデしている。甕は口縁外面に、ヘラ描き波状文を施している。土師器杯は小片で混入品の可能性もあるが丸底気味の器形で、底部ヘラ削り、内面に暗文が施される。土師器甕は武蔵甕で



口縁部形「く」字形を呈し、長い口縁である。土師器8の壺は器肉の薄いもので、胴部ヘラ削りをしている。鉄製品は刀子で、柄部分は欠損している。

これらより本址は、8世紀前半であろう。

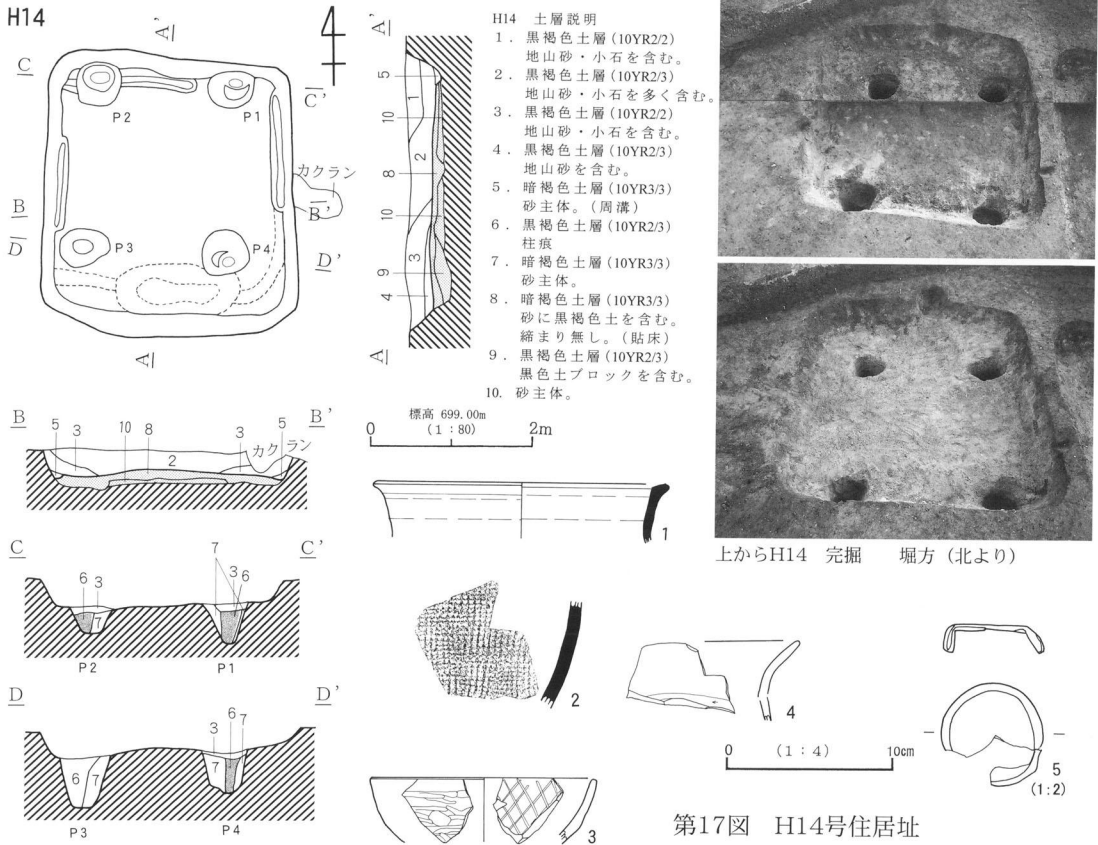
(10) H13号住居址

い15グリットにあり、南北長296cm、東西長322cm、壁高47~61cmを測る。カマドを北壁に持ち、主軸は12°西に振れる。F20号掘立柱建物址を切る。

壁が傾斜して立ちあがる住居址で、堀方まで挿鉢形になっている。カマドは袖にわずかな粘質土が残るが、火床の焼土は明確ではなかった。煙道は突出している。床面は軟弱で小礫が散乱する。主柱穴は東西の壁中央に2個あり、径12・16cmの柱痕が見られた。ピット堀方は径32・46cm、深さ52・30cmを測る。

出土遺物には須恵器・土師器がある。5の須恵器高台付杯が土製円板である他は小片である。須恵器杯底部はヘラ削り調整される。土師器甕片の口縁部形態は「く」字形態である。

これらより本址は、8世紀代の住居であろう。



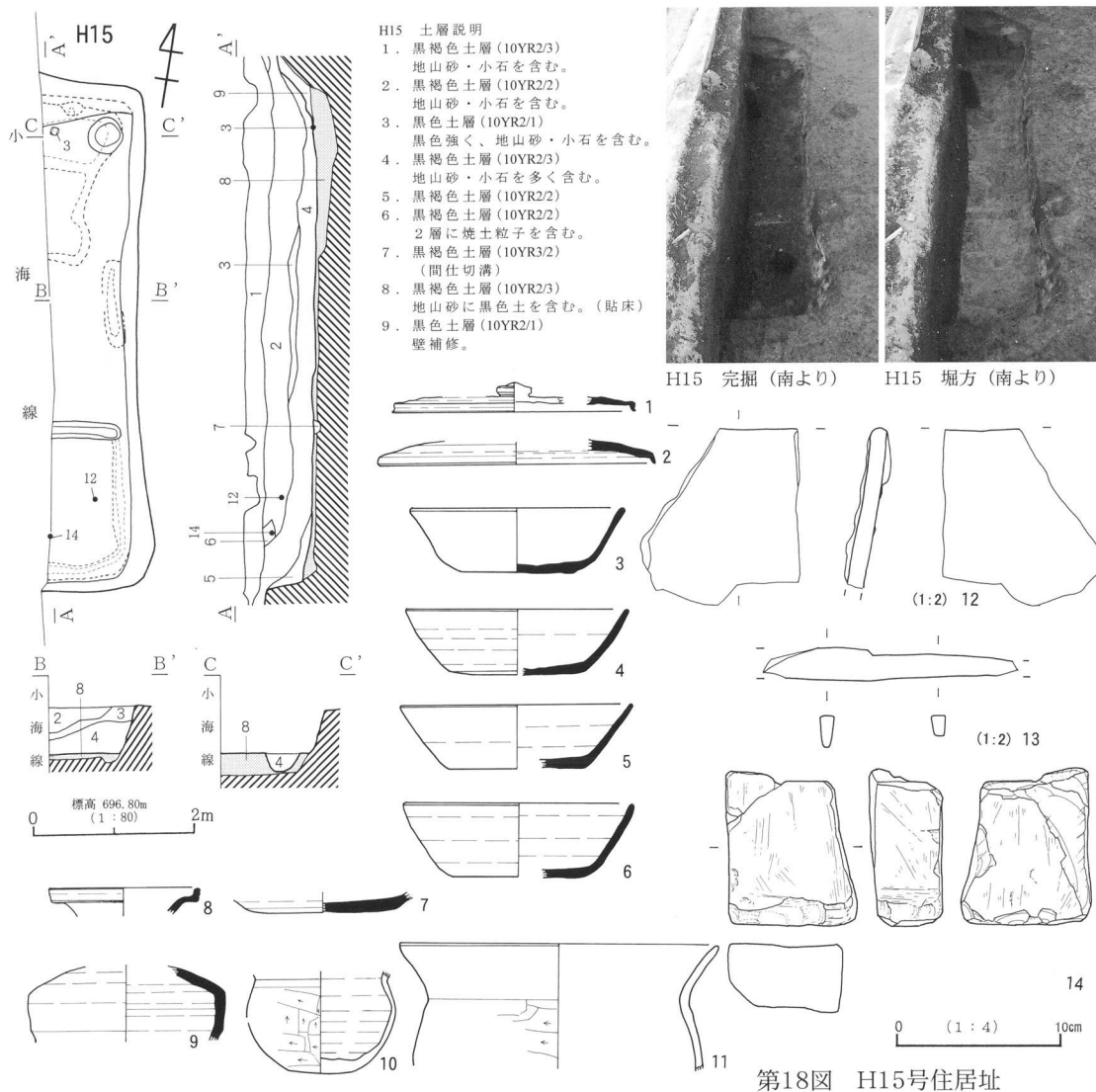
(11) H14号住居址

お14グリットにあり、南北長288cm、東西長268cmの方形を呈し、壁高は17~42cmを測る。南北軸はほぼ北を指す。カマドはない。床面は締まりがまるでなく、支柱穴4個、北は北壁に接し、南は南壁から60cm北にある。ピットは径54~60cmのほぼ円形を呈し、深さ32~60cmを測り、柱痕がある。周溝は連続せず、途切れている。

南の床下には長軸158cm、短軸60cm、深さ20cmの掘り込みがある。堀方では南壁から20cm内側に内周するプランがあり、拡張したようである。ピットは内周プランに接した位置にある。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。いずれも小片であるが、土師器杯の内面には暗文、外面はミガキ、土師器甕の口縁部形態は「く」字形を呈す。

これらより、本遺構は8世紀前半とみられるが決定的な要素はない。カマドがないことから炊飯はしない建物であり、注目される。

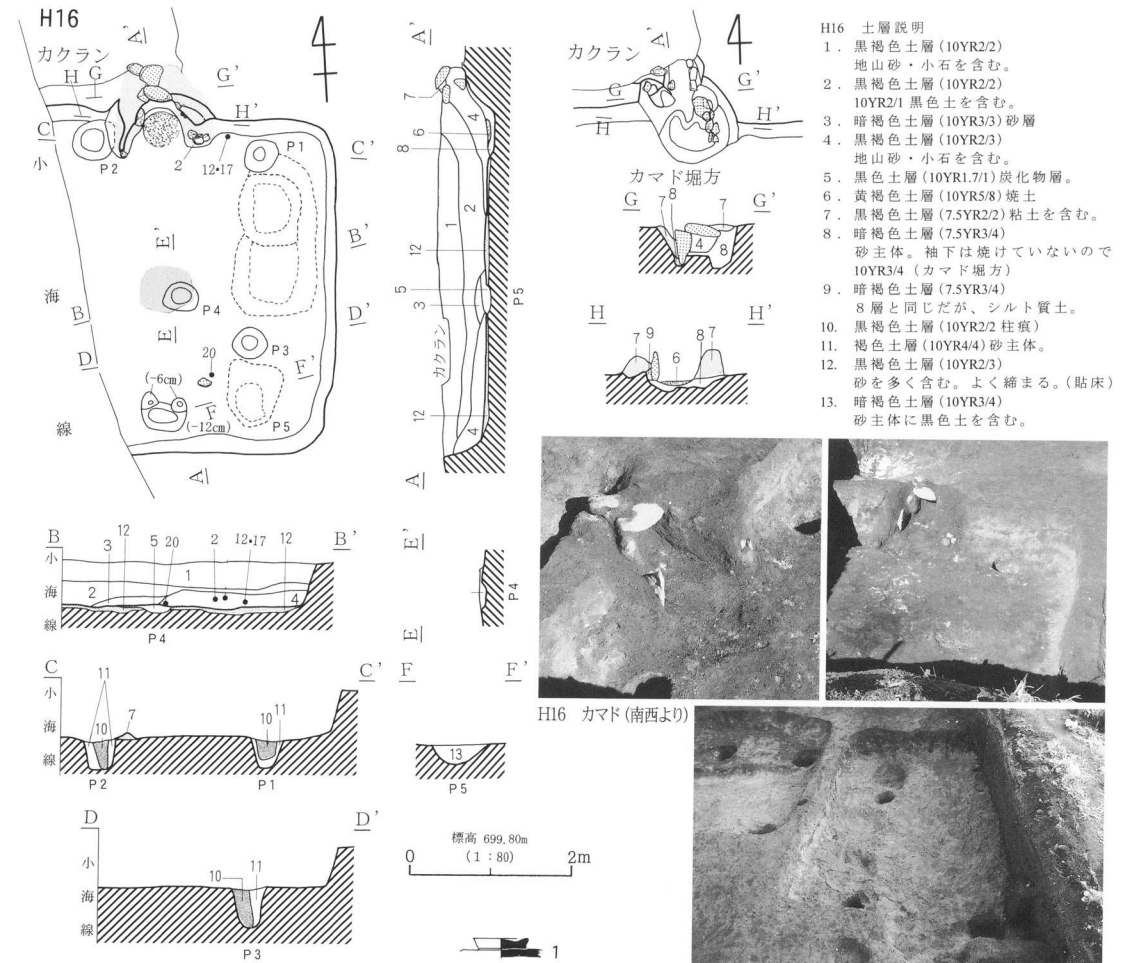


(12) H15号住居址

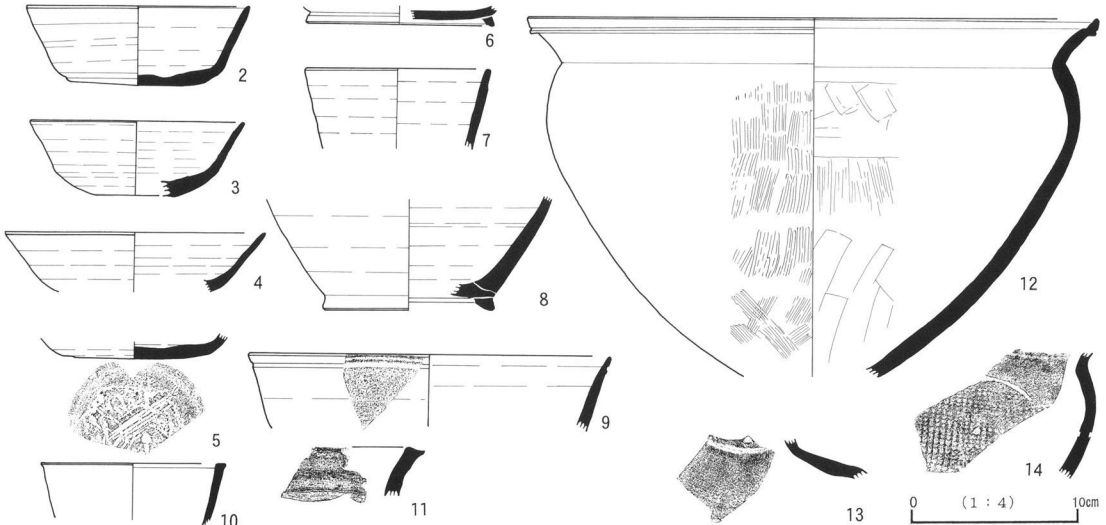
へ17グリットにあり、東側120cmを調査した。南北長は574cmを測り、東西長は西側の小海線により、壊され不明である。壁高は48~58cmを測る。本調査区では最大規模の竪穴住居址である。カマドは調査地点では検出されていない。南北軸は8°西に振れる。床面は端であるためか締まっていなかった。北東隅に径44cm、深さ26cmの円形ピットがある。南側床には、東西方向の間仕切溝がある。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、砥石がある。須恵器は蓋、杯、壺があり、蓋はつまみ貼付の口縁が折れる扁平なものである。須恵器杯は底部糸切り痕を残し、ヘラ削りされている。底径の口径に対する比は0.53~0.61と大きく、H9号住居址の須恵器と同じ値である。土師器甕は武蔵甕で口縁部形態「く」字形を呈す。10の小形甕は内面口クロ調整、外面ヘラ削りである。12の丸みのある端部をもつ鉄製品は不明である。鉄延であろうか。

これらより本遺構は8世紀後半であろう。

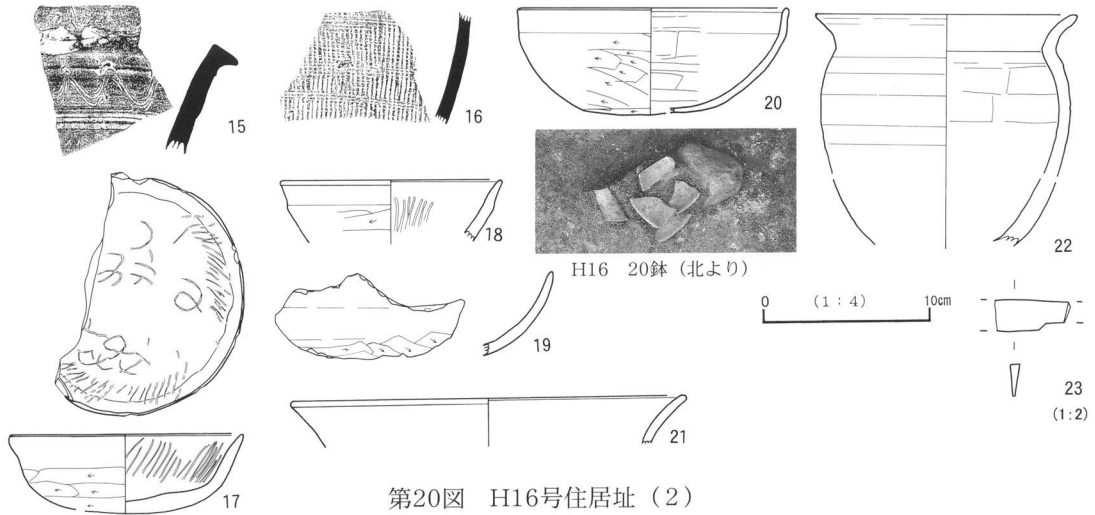


右上からH16 完掘 堀方 (南より 北より)



第19図 H16号住居址 (1)

H16



第20図 H16号住居址（2）

(13) H16号住居址

え15グリットにあり、西側は小海線に切られる。南北長380cmを測る。壁高は41～57cmである。カマドを北壁に持ち、主軸はほぼ北を指す。

カマドは北壁のラインに火床部があり、煙道の使用状態が見られ、煙道・カマド袖は河床礫を組み、外側に粘土を貼っている。床面は良く締まり、堀方は浅い。主柱穴は3個検出され、北壁下にあり、東西柱間200cm、南北232cmを測る。柱穴は径42～52cm、深さ36～50cmを測り、柱痕は20～26cmを測る。床面中央には炭化物層があり、炭化物層の下に浅いピットがある。この炭化物層の分析ではイネの胚乳を主体として、クリ果実・ブナ科果実・アワ近似種・ヒエ近似種・キビ近似種・カヤツリクサなどが確認された。生（米）や穎果（稲粃）の状態では火を受けたと推定されるとしている。

南壁下には小ピット、南東の床下には掘り込みがある。

出土遺物は須恵器・土師器がある。2の須恵器杯は回転ヘラ切りである。12の須恵器甕はカマドの構築材として再利用され、焼け込んでいる。口縁が短く外傾外反し、形の張る広口の甕である。20の土師器鉢は内面ミガキ、外面口縁横ナデ、底部ヘラ削りの大振りのものである。17土師器杯は内面に暗文、外面丸底気味でヘラ削りされる。22の土師器小形甕は内面ロクロナデ後ヘラナデ、外面もロクロナデ後、雑にヘラナデをしてロクロ痕を消している。

これらより、本住居址は奈良時代8世紀前半に該期が求められよう。柱穴の配置の仕方はH14号住居址と似ている。

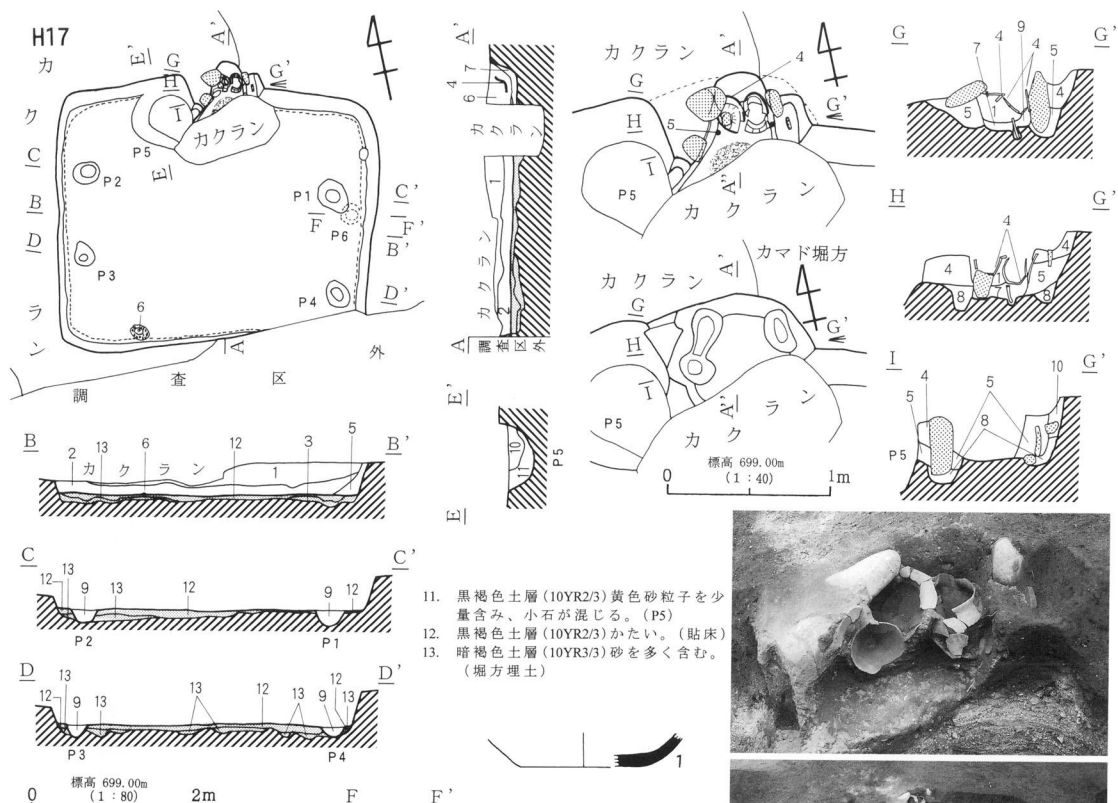
(14) H17号住居址

か36グリットにあり、南東隅は調査区域外である。カマドの焚口は攪乱により壊されている。また住居の西上面は攪乱により、削平される。壁高は10～45cmを測る。南北長288cm、東西369cmの長方形を呈し、北壁中央にカマドを持つ。主軸方位は11°東に振れている。

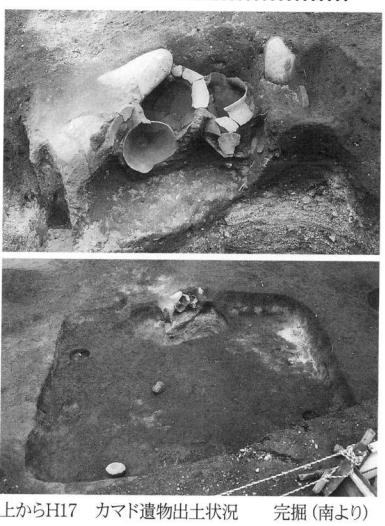
カマドは2個の甕が支脚石の上に乗った状態で出土している。カマドは河原石を袖石の芯材としてカマドの内壁とし、外に粘土を貼っている。カマドの西には径40cm、深さ32cmの円形の掘り込みがある。

床面は締まっており、柱穴は東西壁によっている。柱穴は円形で径24～32cm深さ12～20cmと浅いものである。

出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。須恵器杯は破片で底部は手持ちヘラ削りされる。

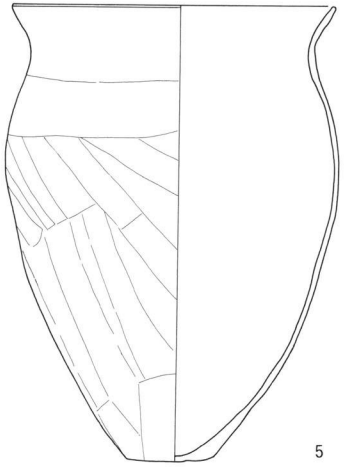
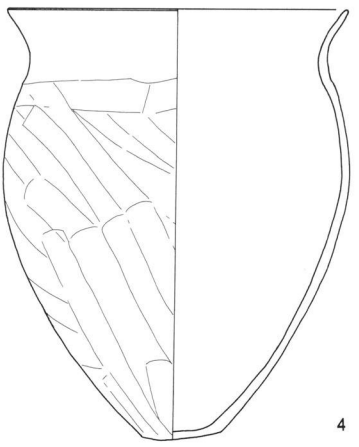
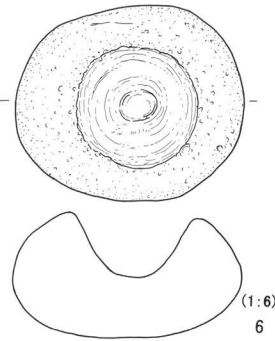
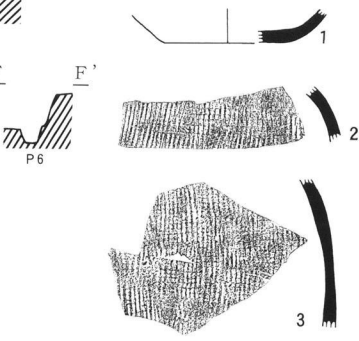


- 11. 黒褐色土層(10YR2/3)黄色砂粒子を少量含み、小石が混じる。(P5)
- 12. 黒褐色土層(10YR2/3)かたい。(貼床)
- 13. 暗褐色土層(10YR3/3)砂を多く含む。(堀方埋土)



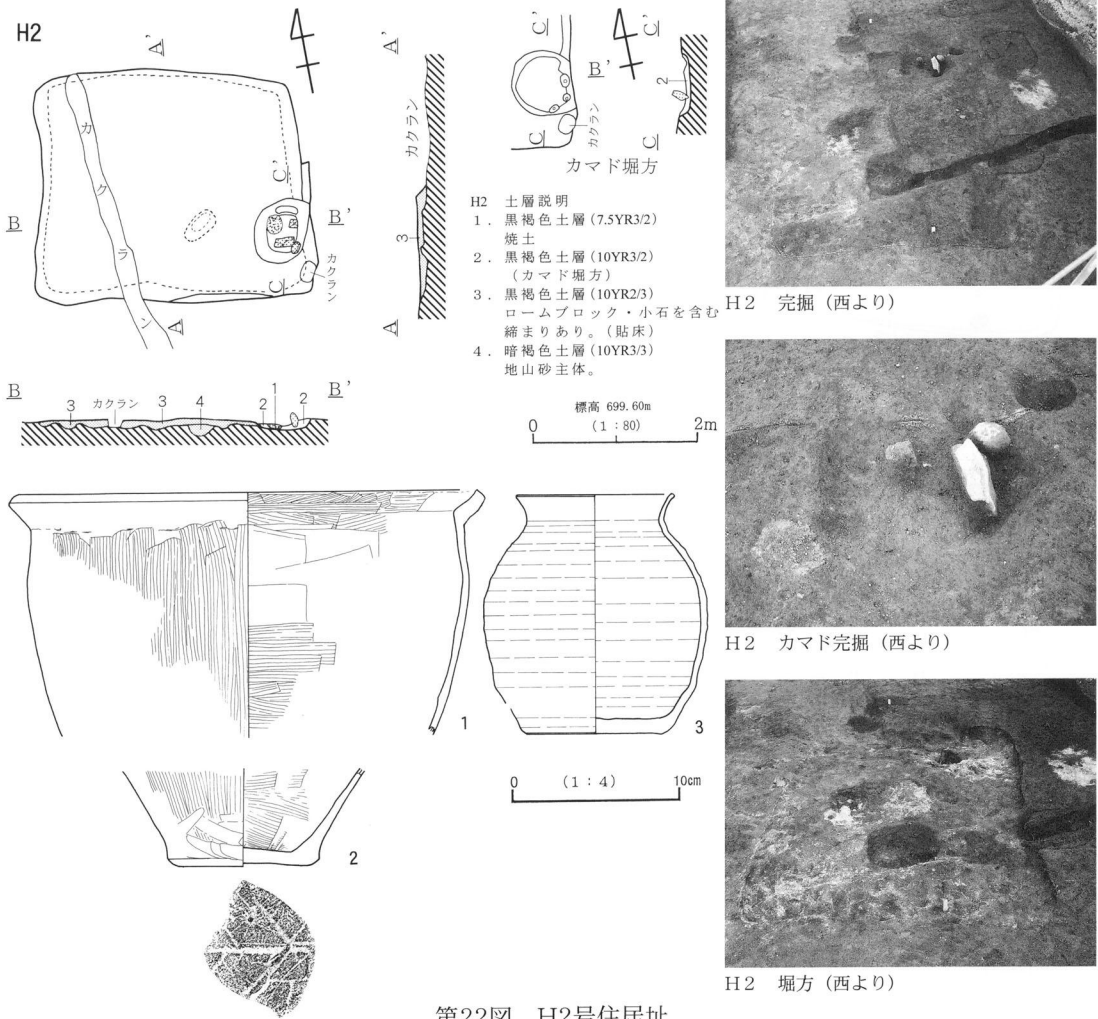
上からH17 カマド遺物出土状況 完掘(南より)

- H17 土層説明
- 1. 黒褐色土層(10YR3/1)小石を少量含む。
 - 2. 黒褐色土層(10YR2/3)砂粒子・小石を含む
 - 3. 暗褐色土層(10YR3/4)黄色ローム粒子を多量に含む。
 - 4. 黒褐色土層(10YR3/2)小石・焼土粒子を少量含み、褐色(10YR4/4)粘土ブロック混入。(カマド)
 - 5. 黒褐色土層(5YR2/2)焼土ブロックを微量に、小石を含む。(カマド)
 - 6. 焼土
 - 7. 暗褐色土層(10YR3/3)
 - 8. (カマド堀方)
 - 9. 黒褐色土層(10YR2/3)黄褐色砂粒子を少量、小石を含む。
 - 10. 黒褐色土層(10YR2/2)砂粒子・小石を含む。(P5)



第21図 H17号住居址

0 (1:4) 10cm



第22図 H2号住居址

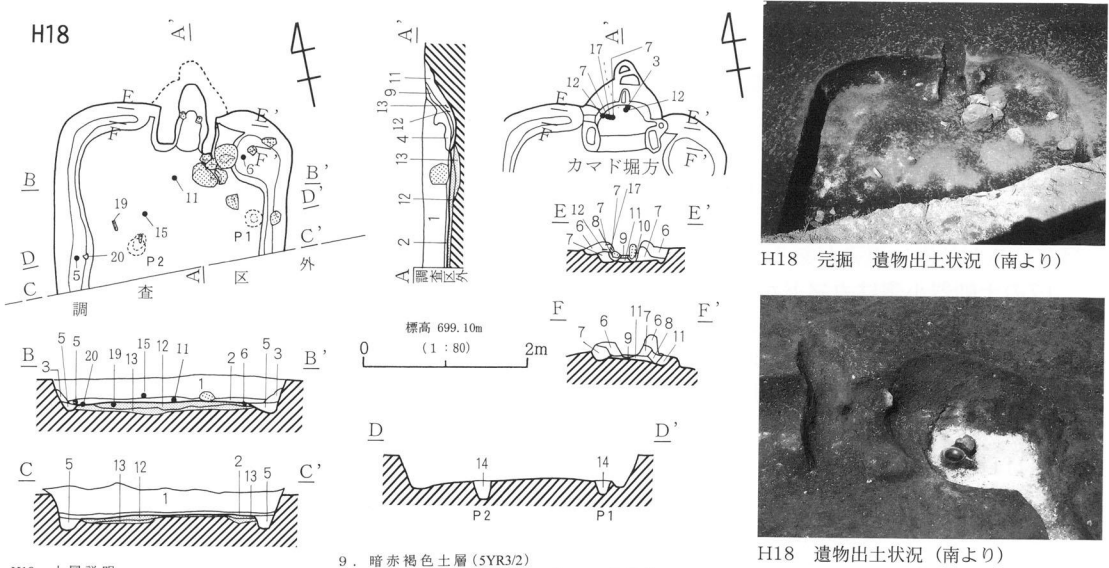
カマドに残っていた土師器甕は口縁部形「く」字形を呈し、器肉の薄い武蔵甕である。石製品は石搗鉢である。これらより、本住居址は8C後半を該期とできよう。

(15) H2号住居址

か26グリットにあり、南北長260cm、東西長310cmの長方形を呈す。カマドを西壁の南寄りにもつ。主軸方位はN-79° -Wである。壁高は0~6cmでほとんどない。攪乱の小溝が南北にある。カマドは南側の袖石が残り、火床には焼土が見られた。床面はロームブロックを混在した土を貼り、締まっていた。支柱穴などのピットはないが、床下に長径40cmの楕円形で深さ12cmのピットがある。

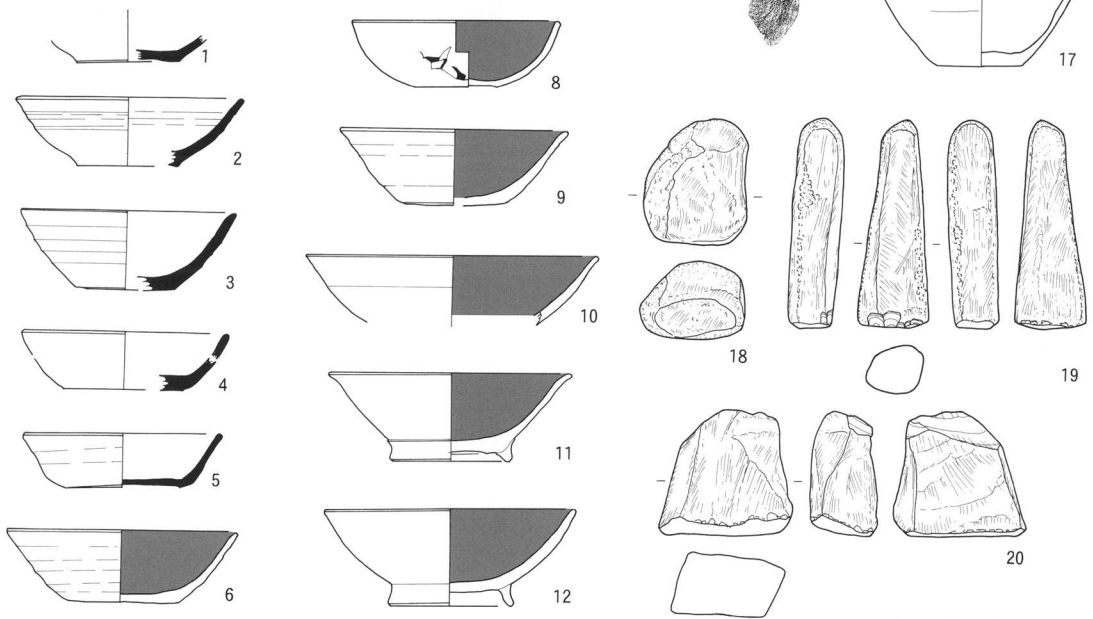
出土遺物には土師器甕がある。1・2は同一個体であり、外面胴部にハケ目を残し、広口で、口縁部が短く肥厚して内湾外傾している。これは甲斐型土器である。(2008. 『反田遺跡』平野修氏のご教示による。) 3の小形甕は底部に回転糸切り後ナデ、内面は回転ヘラナデ、外面はロクロ調整のままである。

本住居の時期は、搬入品の甲斐型甕から10C前半とされよう。



H18 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 小石を少量含む。
2. 黒色土層 (10YR2/1)
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂粒子を微量に含む。
4. にぶい赤褐色土層 (5YR4/3) 焼土粒子・焼土ブロックを含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色砂粒子を含む。(周溝)
6. 黒褐色土層 (5YR3/1) 焼土粒子を微量に含む。
7. 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 焼土ブロック・焼土粒子・粘度ブロックを少量含む。
8. 黒褐色土層 (5YR3/1) 黄色砂粒子・焼土ブロックを微量に含む。
9. 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 粘質土・焼土(焼け込み) この上面が使用面。
10. 黒褐色土層 (5YR2/2) やわらかい。
11. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土・焼土小ブロックを少量含む。
12. 黒褐色土層 (10YR2/3) 床かたい。(貼床)
13. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多く含む。(床下埋土)
14. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄色砂粒子・小石を含む。やわらかい。



第23図 H18号住居址

(16) H18号住居址

か35グリットにあり、南は調査区域外である。東西長250cm、壁高は25~35cmを測る。カマドを北壁中央に持ち、袖の基部と支脚石が残っていた。主軸方位はN-11°-Wである。

床面は縮まっており、床下からピットが2個検出されている。

出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。須恵器杯は2タイプあり、2・3は底径の口径比が5割を切り、4・5の須恵器杯は底部回転糸切りのままであるが、底径が0.57を測り、8世紀代の杯と同じ器形であるが小振りなものである。6の土師器杯は内面黒色処、底部回転糸切りされる。8は欠けているが外面に墨書がある。11・12は高台の付く土師器椀で、11は低く、12は足長の高台が付く。17の土師器小甕はカマドから出土し、内面ナデ、外面胴部ヘラ削りされる。武蔵甕ほど器肉は薄くないが、外面のヘラ削りは武蔵甕風であるがやや厚い。

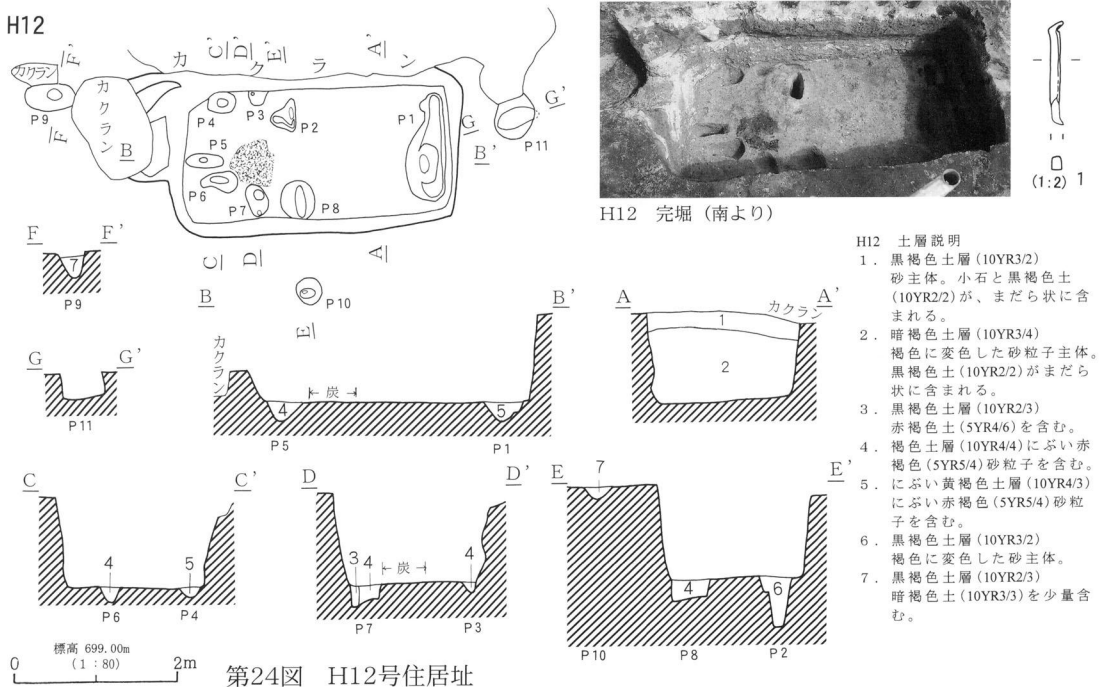
石製品は磨石と砥石である。砥石は砂岩製で形態が異なる2点である。

これらより、本住居は9C前半の住居であろう。

(17) H12号住居址 (T a)

あ37グリットにあり、南北長160cm、東西長328cmの長方形を呈し、壁高89~113cmを測る。壁は垂直に立ちあがる。西壁に出入り口のテラスがある。床面より36cmほど高く、検出面より72cm低いものである。規模は南北132cm、東西は44cmを測る。堀方はなく掘り込み面を床としている。西側中央に炭化物範囲が床面に残り、火処と思われる。柱穴は壁に沿って見られ、深いP2は60cm、浅いP3は12cmである。

出土遺物には鉄製の釘がある。



第2節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

う25グリットにあり、H1・D1を切る。溝持ちの掘立で、桁行の片方が溝持ちである。ピットの堀方が大きく、P1は最大径100cm、深さ40cmの堀方を持つ。最も深いP3は78cmの掘り込みがある。柱痕径は16～24cmを測る。側柱の2間×1間(320×272cm)、柱間は桁行き160cm、梁間272cmを測る。長軸方位N-8°-Eを指す。

出土遺物は重複する古墳時代の土器片もあるが、P2からは武蔵甕片、F3からは須恵器甕の口縁が出土する。これらは奈良時代の土器片である。

(2) F2号掘立柱建物址

か25グリットにあり、H2に切られF3を切る。南は調査区域外であるため梁行きは確実ではない。隅丸方形の堀方に柱痕が検出され、側柱の2間×1間(320×312cm)、柱間は桁行き160cm、梁行き312cmを測る。柱痕径は12～18cmである。長軸方位N-1°-Wを指す。

出土遺物はP1から壺の肩部、P4から「く」字形を呈するであろう武蔵甕片、底部が丸みを持つ須恵器杯片、外面ナデ調整の壺片がある。

平安時代の竪穴住居址のH2号住居に切られているので、それより古く奈良時代以降の掘立址である。

(3) F3号掘立柱建物址

か25グリットにあり、H2・F2に切られる。梁間に溝持ちピットをほり、隅丸長方形の堀方である。東西の端柱穴は深く、P5は100cm掘り込まれ柱痕径は20cm、P1・P8は92cm掘り込まれ柱痕径20cmである。東西柱間のピットは浅いものとなっている。総柱で2間×2間(464×360cm)、柱間は桁行き232cm、梁行き180cmを測る。長軸方位N-1°-Wを指す。

出土遺物はP4から底部ヘラナデ、内面使用による摩耗のある須恵器壺、古墳時代の土師器小型甕がある。

H2号住居址が平安時代の竪穴住居で切られている。それより古く、またF2よりも古い。須恵器の壺は奈良時代とみられる。これらより、奈良時代に該期がもとめられる。

(4) F4号掘立柱建物址

え21グリットにあり、H3・H4・P3を切り、攪乱に切られる。側柱の4間×2間(654×464cm)、柱間は桁行き164cm、梁行き232cm測る。柱穴は円形基調でP5・P11が最大で、径60・64cm、深さ76・64cmを測る。四隅の柱穴は深い。柱痕径は12～24cmである。長軸方位N-83°-Wを指す。

出土遺物はP3・P5より、口縁の短く折れる須恵器蓋と小壺肩部、P4より、武蔵甕胴部片、P9からは平行タタキ目の須恵器甕片、P12からは底部丸味を持つ須恵器杯片がある。これらは奈良・平安時代の土器である。

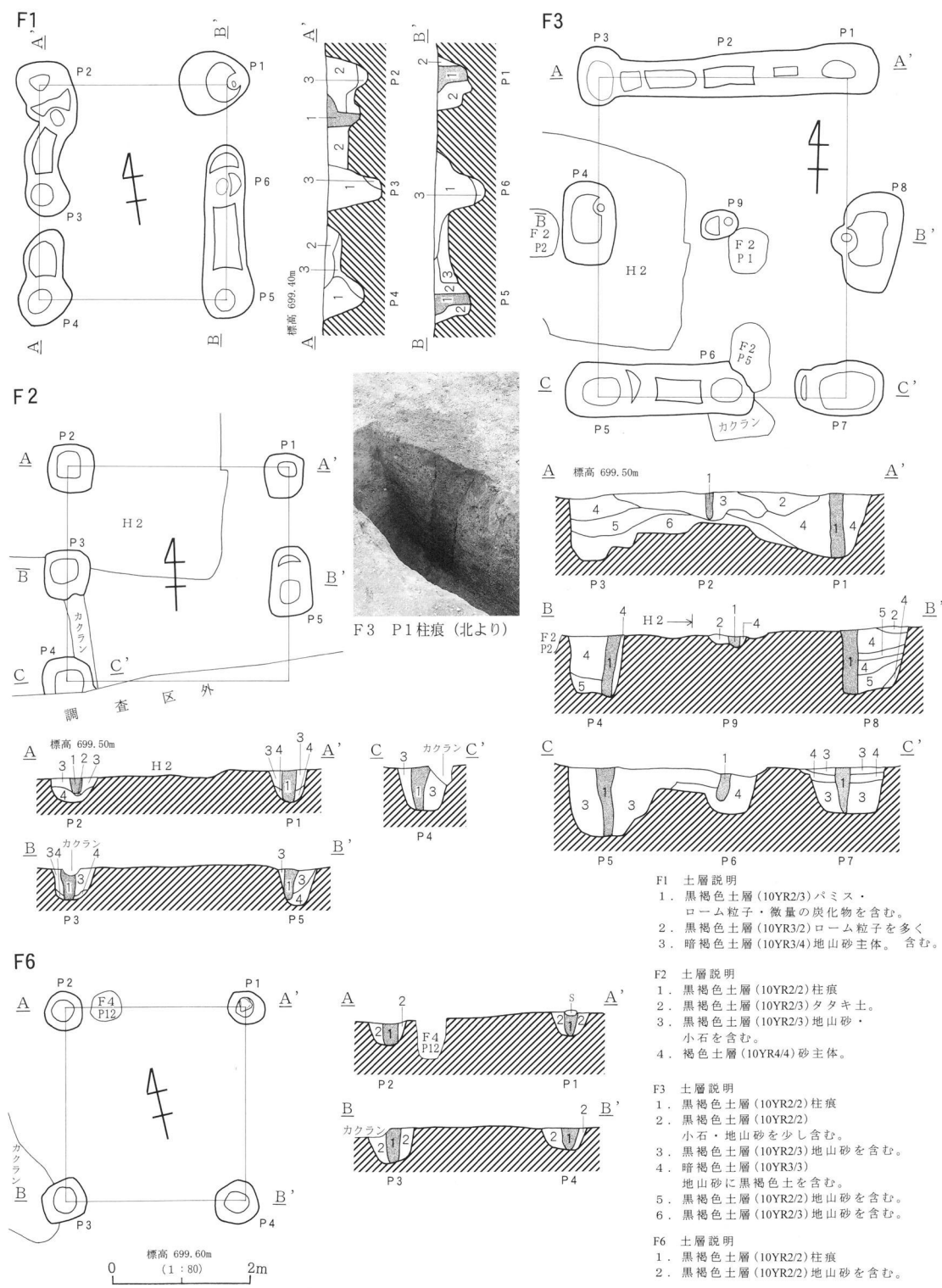
奈良時代後半の住居址H4を切っている所以より新しい掘立址である。

(5) F5号掘立柱建物址

き26グリットにあり、南側調査区域外で、規模は分からない。H2・攪乱に切られる。側柱の2間×〈1〉間(420×〈220〉cm)、柱間は東西が180・240cm、南北が220cmを測る。どちらが長軸かはわからないが、南北を桁行きとすると、方位N-1°-Eを指す。

出土遺物にはP1の堀方底部付近より、青銅製の口金物出土した。内幅は狭い数値が幅4.4cm、背の厚さが0.9cm、広い数値は幅4.9cm、背の厚さ1.2cmとなっており、刀心の幅厚さは狭い数値のもの

第 I 章 東大門先遺跡Ⅱ



第25図 F1・2・3・6号掘立柱建物址

であろう。内側の背から刃部への線は直線的でふくらみがない。古墳時代から奈良時代にかけて、用いられた直刀の中に蕨手刀がある。把手部分が刃の基部からぐっと細くなって、柄頭がくると蕨が巻くように丸形になっていることから「蕨手刀」とよばれる。茎がそのまま把になる共金造り、刀身部分は平造りで身幅が3.5cmと長さのわりに広いものである。(2006 砥部民夫『図解「武器」の日本史』) 関東・東北などに多く出土している。

他に土器片等はない。

(6) F 6号掘立柱建物址

お21グリットにあり、側柱の1間×1間(280×260cm)、南北にいくらか長い。長軸方位N-12°-Eを指す。最大のピットは南西のP3で、一辺62cmの隅丸方形で、深さ52cmを測る。攪乱に切られる。

出土遺物はP1からは厚手の土師器壺片とP2から厚手の土師器甕の口縁部片がある。土器は古墳・奈良時代の範疇のものである。

(7) F 7号掘立柱建物址

い21グリットにあり、中央を攪乱に、単独ピットP13・P15に切られる。中央が攪乱され明らかではないが、側柱の1間×2間(392×328cm)、柱間は桁行き392cm、梁行き144・184cmを測る。単独ピットP14が梁行きの中間にある。梁間柱間181cmとなる。長軸方位N-8°-Eを指す。

出土遺物にはP1・P4からは土師器杯の内面黒色処理、底部ヘラ削りによる平底のものである。土師器甕は武蔵甕片がある。図に示した須恵器甕は広口の口縁が短く外反し、胴部平行タタキ目である。

これらより、奈良時代以降の掘立址である。

(8) F 8号掘立柱建物址

か21グリットにあり、H8と東で重複し、南と東側が調査区域外である。側柱で、〈2〉間×〈2〉間(320×304cm)、柱間は桁行き160cm、梁行き152cm、長軸方位N-2°-Eを指す。

出土遺物はない。

(9) F 9号掘立柱建物址

お21グリットにあり、H3、単独ピットP111を切る。P2上面は攪乱に壊され、南東のピットは調査区域外で未調査である。側柱の2間×2間(560×520cm)、東西方向に長軸を持つ。柱間は桁行き280cm、梁間260cmを測る。長軸方位N-86°-Wを指す。柱穴は隅丸柱方形で、P1は長軸136cm、短軸92cm、深さ56cmを測る。最も深いP5は84cmである。

出土遺物にはP1から須恵器杯の底部回転ヘラ削りと底部手持ちヘラ削り片がある。P3からは土師器にミガキ調整のされる甕片、P4からは須恵器壺片がある。

P1の須恵器杯は奈良時代としているものである。

(10) F 10号掘立柱建物址

あ24グリットにあり、攪乱に切られ、東側の2穴を壊され、P9はF13のP4と同一にあたり、重複する。調査が同時にできなかったことから新旧は不明である。側柱3間×2間(480×388cm)、柱間は桁行き190cm、梁間194cmを測る。長軸方位N-4°-Eを指す。

出土遺物はP6から武蔵甕片、須恵器壺片がある。これらは奈良・平安の土器片である。

(11) F 11号掘立柱建物址

あ23グリットにあり、H5にP1が切られ、単独ピットP134・150・151・153にP3が切られ、

第I章 東大門先遺跡II

P5・P6・P10が攪乱に切られる。側柱の3間×2間(552×464cm)、柱間は桁行き184cm、梁間232cmを測る。長軸方位N-4°-Eを指す。

北東の柱穴が溝持ちである。

出土遺物はP4から須恵器壺、底部回転糸切りの杯、P8からは武蔵甕片がある。

(12) F12号掘立柱建物址

お22グリットにあり、攪乱に北東のピットが壊され、H3を切る。側柱の2間×1間(440×400cm)、柱間は桁行き220cm、梁行き400cmを測る。長軸方位N-8°-Wを指す。梁間は中間にピットがあるとおもわれるが重複が激しく確定できなかった。掘立内の単独ピットの中に該当するものがあるであろう。(付図3 全体図・単独ピット図参照)

出土遺物はない。

(13) F13号掘立柱建物址

あ24グリットにあり、F9と重複する。単独ピットP156に切られる。側柱で1間×1間(280×224cm)を測る。長軸方位N-80°-Wを指す。

出土遺物はP2の柱痕から完形に近い須恵器蓋が出土している。F14のP3の柱痕からも同様にほぼ完形に近い須恵器蓋が出土している。須恵器蓋は扁平で口縁が外反して短く折れ、宝珠形のつまみが付く。これは奈良時代の須恵器蓋である。

(14) F14号掘立柱建物址

ふ23グリットにあり、攪乱に切られる。側柱の2間×1間(400×320cm)、柱間は桁行き200cm、梁行き320cmを測る。P4は最大で柱穴は円形を呈し、径は146cm、深さ72cm柱痕径は22cmを測る。P3・P6の柱痕径は30cmである。上屋が丈夫な建物であることが想定される。長軸方位N-3°-Eを指す。

出土遺物はP3の柱痕内からほぼ完形に近い須恵器蓋が出土している。柱穴を抜いたあとに埋め込まれたと思われる。

(15) F15号掘立柱建物址

ひ22グリットにあり、攪乱に切れ、南西のピットはない。北側は調査区域外であるため、掘立の全容は不明である。側柱の〈2〉間×2間(〈320〉×400cm)、柱間は桁行き160cm、梁間200cmを測る。長軸方位N-6°-Eを指す。

出土遺物はP5から武蔵甕片が出土している。

(16) F16号掘立柱建物址

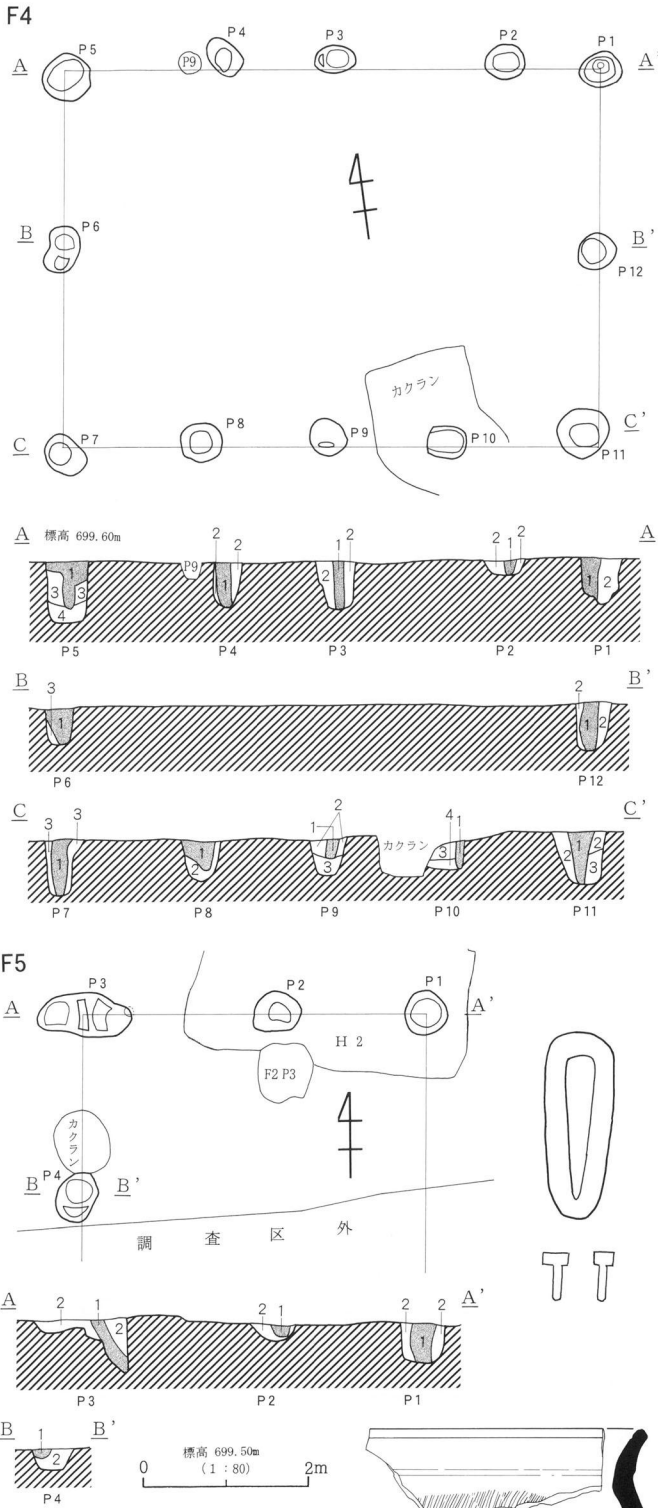
ひ22グリットにあり、東側は小海線に切れ、北側は調査区域外である。側柱の〈2〉間×〈1〉間(〈360〉×200cm)、柱間は桁行き180cm、梁間200cmを測る。P3は長径100cmの楕円形のピットに、径24cmの円形柱痕がある。長軸方位N-6°-Eを指す。

出土遺物はP1から武蔵甕の胴部片が出土している。

(17) F17号掘立柱建物址

ひ24グリットにあり、南の柱列の半域を調査したのみで、大半は北側の調査区域外にある。M2に切られる。東西列3間(-×456cm)、柱間は152cmを測る。東西柱列の方位はN-83°-Wを指す。南東のピットは溝持ちである。柱痕が顕著で、径24cmの円形で、深さは96cmを測る。

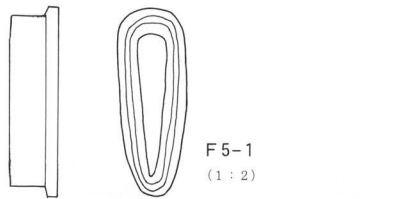
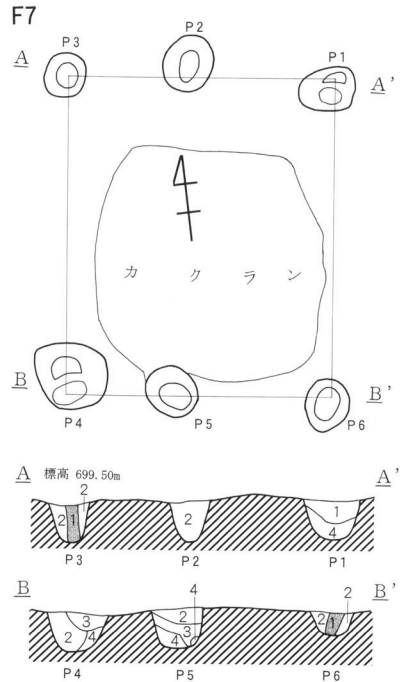
出土遺物は須恵器杯片と土師器武蔵甕片がある。



- F4 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂をわずかに含む。柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を多く含む。
 3. におい黄褐色土層 (10YR4/3) 地山砂主体。ところどころに黒褐色土ブロックを含む。
 4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂をわずかに含む。

- F5 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂を含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を多く含む。

- F7 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。
 3. 黒色土層 (10YR1.7/1) 地山砂を少々含む。
 4. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂主体。



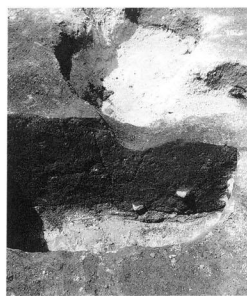
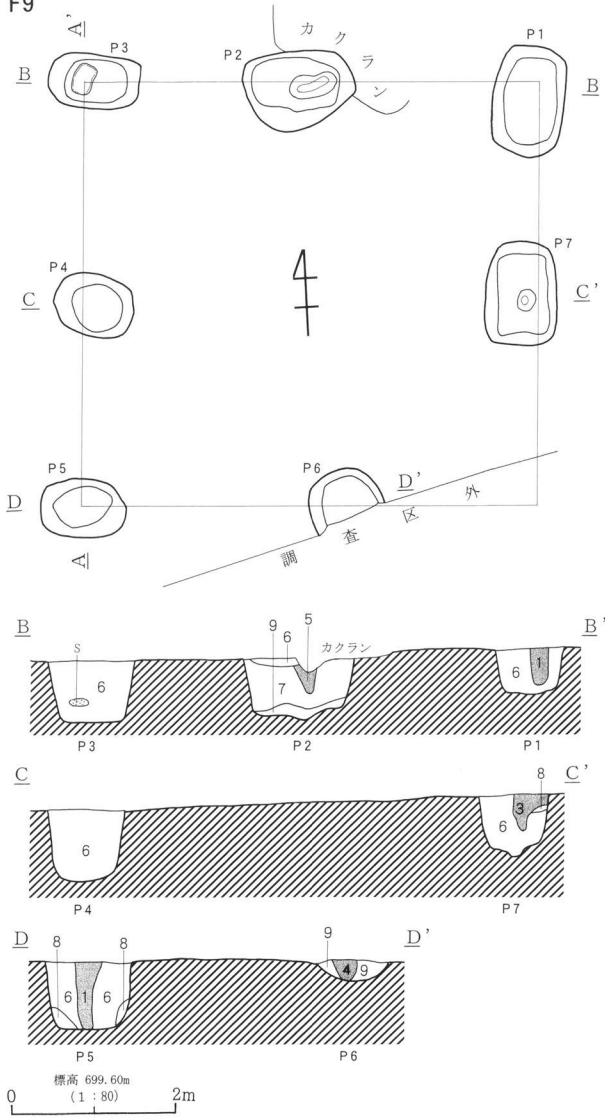
F5 P1の青銅 金物 (西より)



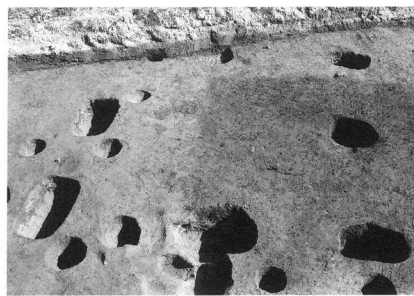
第26図 F4・5・7号掘立柱建物址

(1:4) F7-1

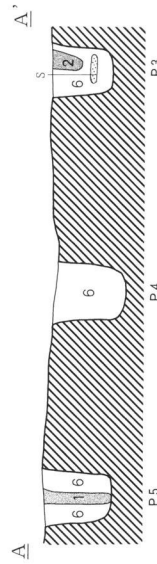
F9



F9 P2セクション(南より)



F9 完掘(北より)



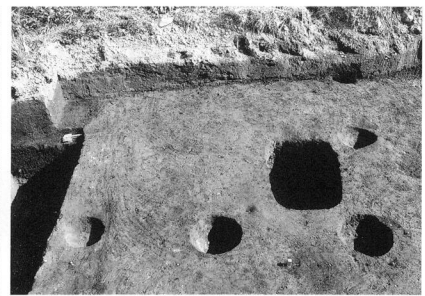
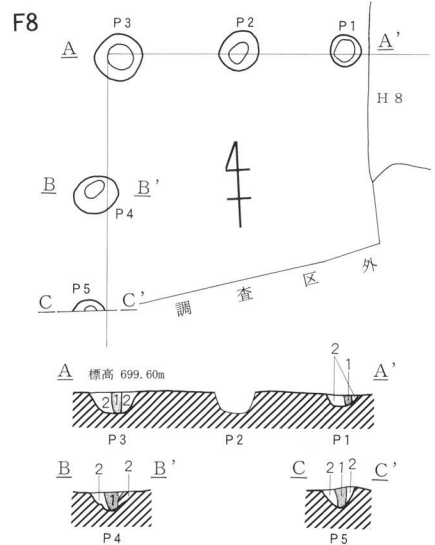
F8 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)柱痕
2. 暗褐色土層(10YR3/5)地山砂を多く含む。

F9 土層説明

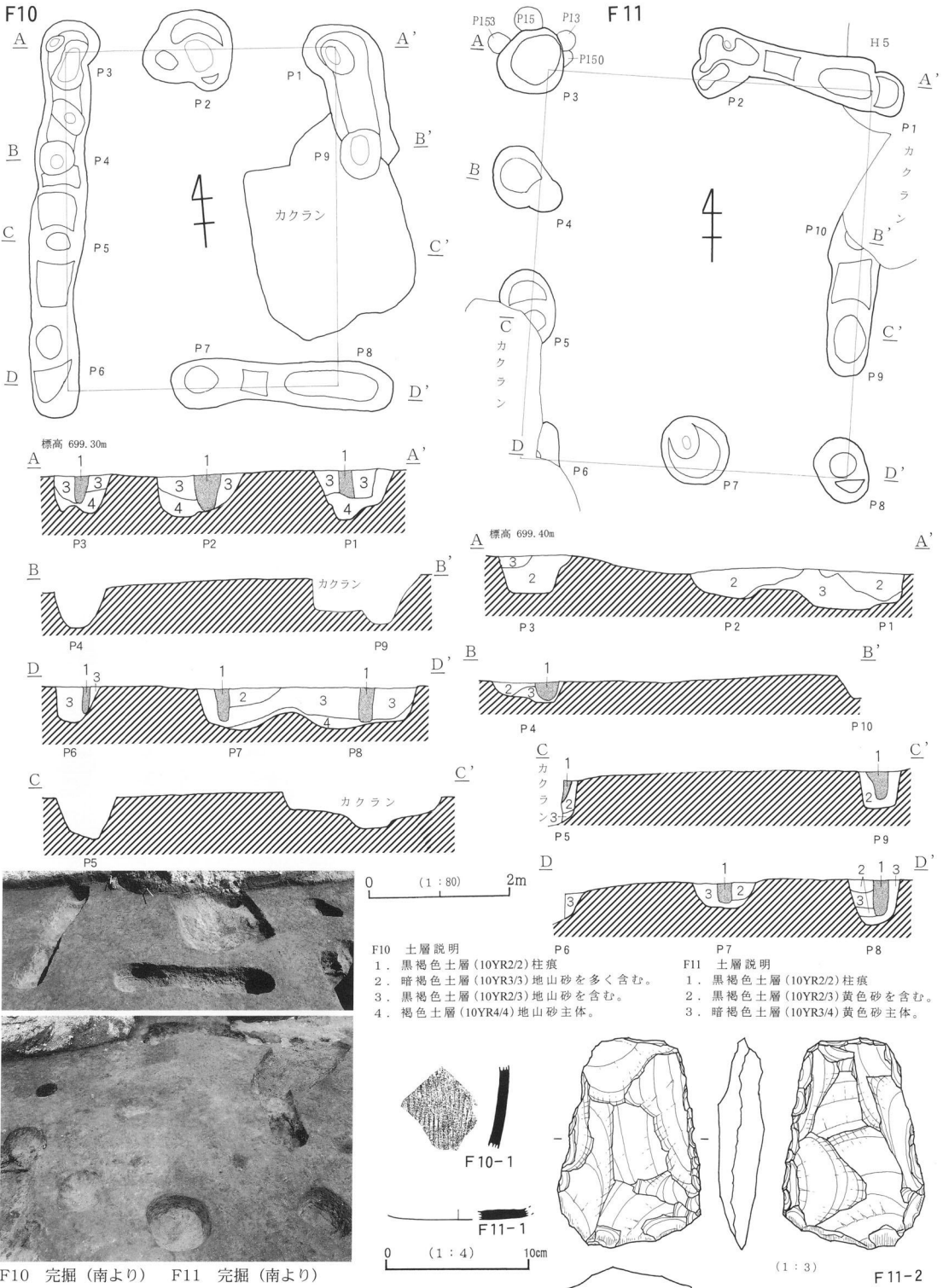
1. 黒褐色土層(10YR2/2)柱痕
2. 黒褐色土層(10YR2/2)柱痕 焼土粒子を含む。
3. 暗褐色土層(10YR3/3)柱痕
4. 黒褐色土層(10YR3/2)柱痕
5. 黒褐色土層(7.5YR3/2)柱痕 焼土粒子を多く含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/2)地山砂を含む。
7. 黒色土層(10YR2/1)地山砂・小石を含む。
8. 褐色土層(10YR4/6)地山砂主体。
9. 暗褐色土層(10YR3/3)地山砂を多く含む。

F8



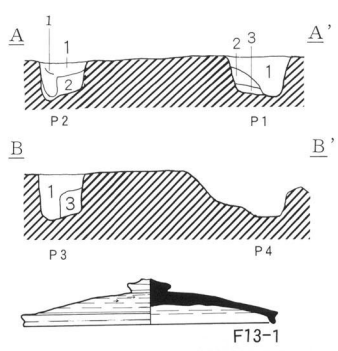
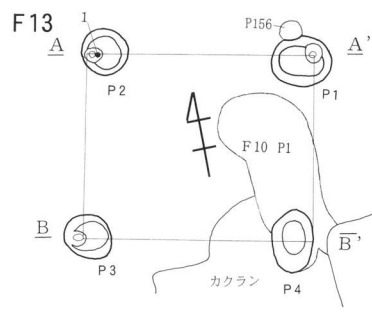
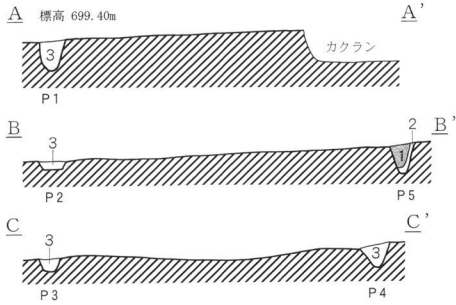
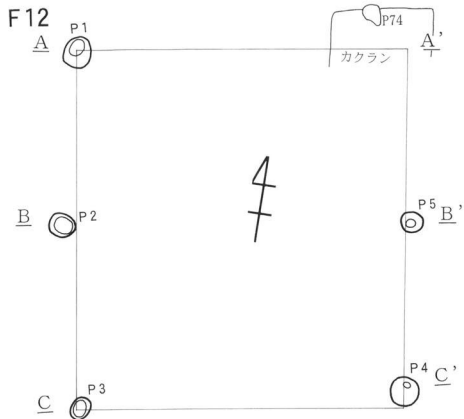
F8 完掘(北より)

第27図 F8・9号掘立柱建物址



F10 完掘 (南より) F11 完掘 (南より)

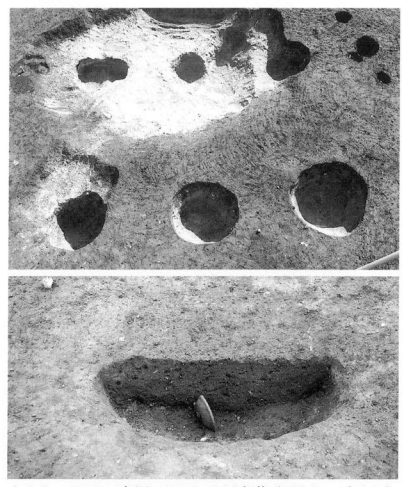
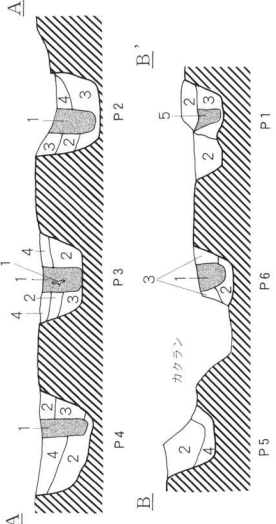
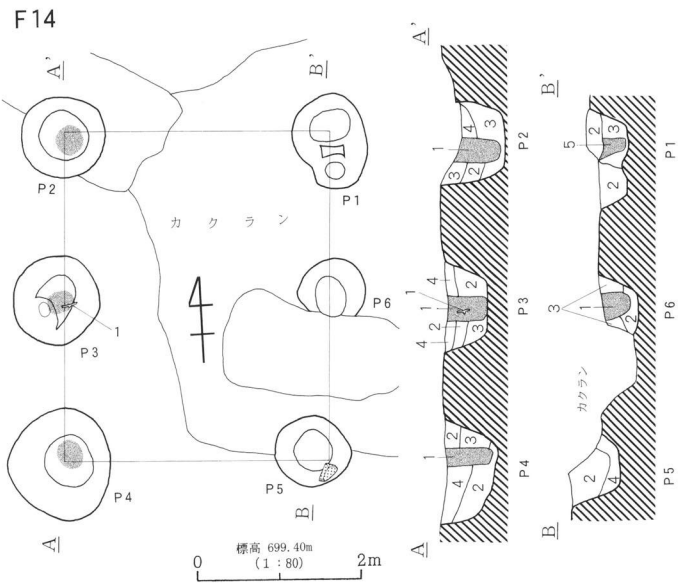
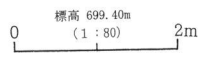
第28図 F10・11号掘立柱建物址



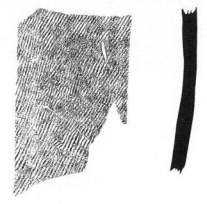
- F12 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕
 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂主体。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)

- F13 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を多量に含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) きめの細かい土。

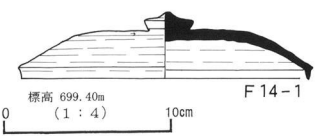
- F14 土層説明
1. 黒色土層 (10YR2/1) 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂混在。締めあり。
 3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 地山砂主体。
 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く混在。
 5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 柱痕



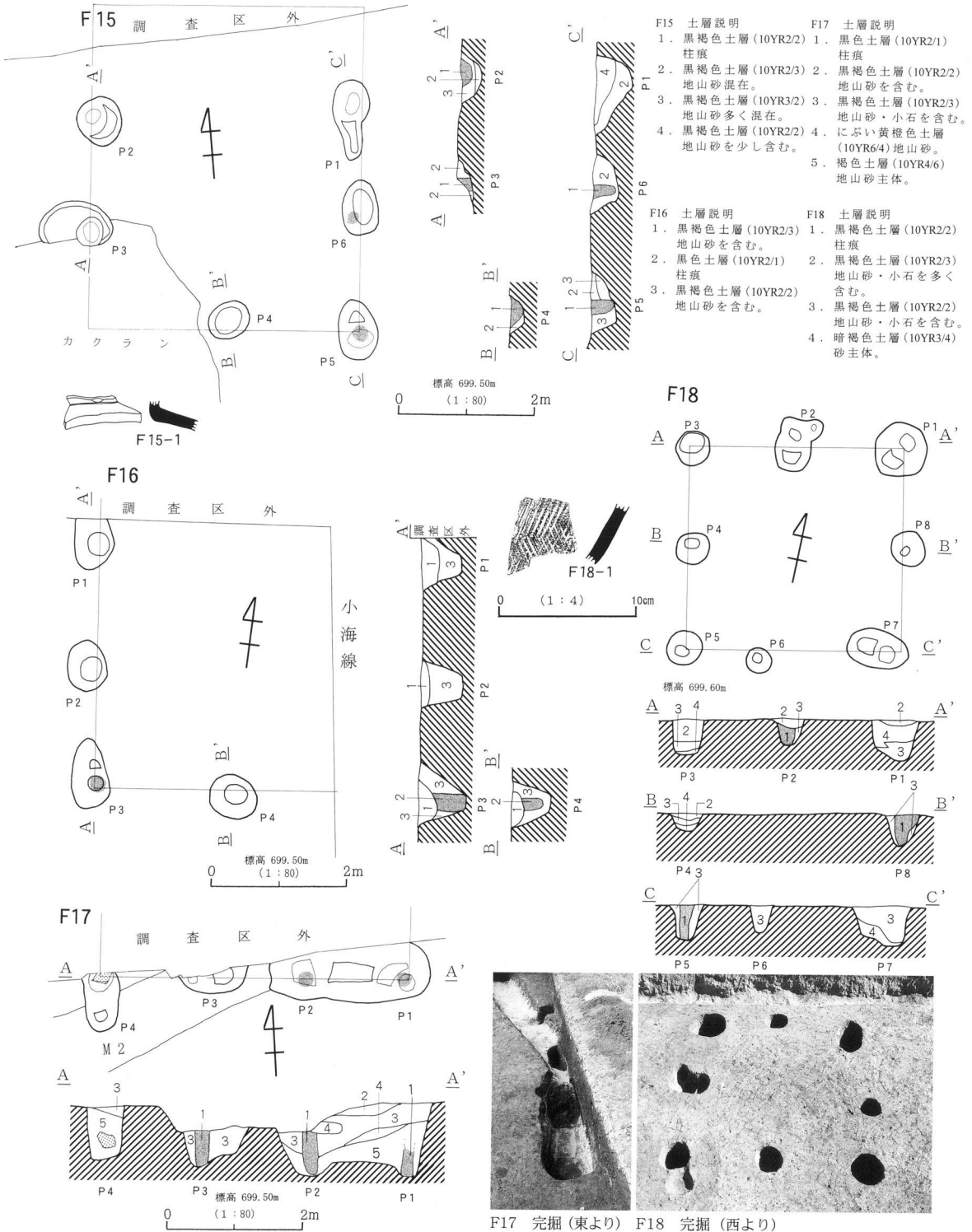
上から F14 完堀 F14-1須恵蓋 (西より 東より)



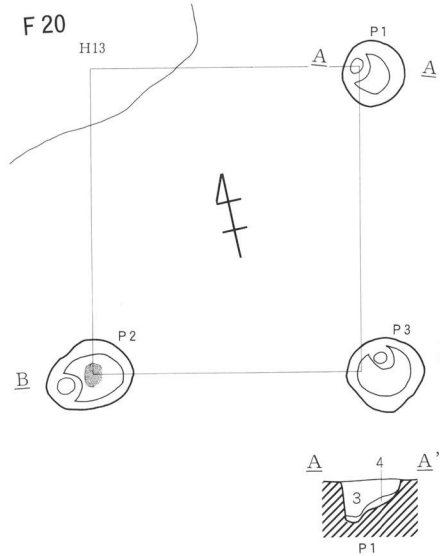
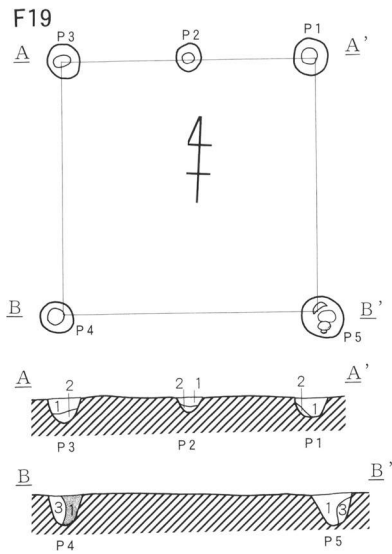
(1:8) F14-3



第29図 F12・13・14号掘立柱建物址



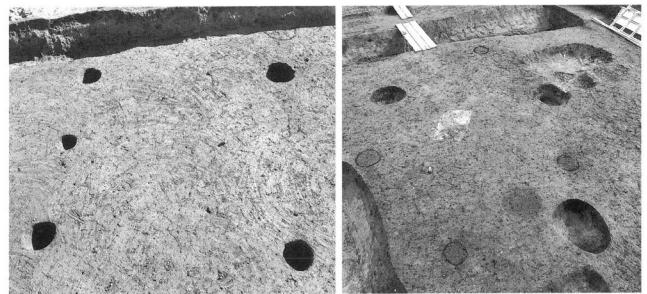
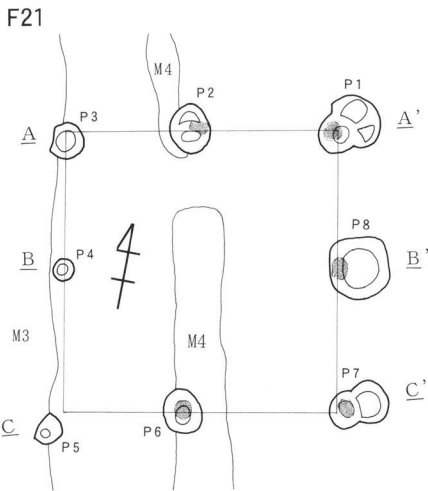
第30図 F15・16・17・18号掘立柱建物址



- F19 土層説明
1. 黒色土層 (10YR2/1) 柱痕
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。

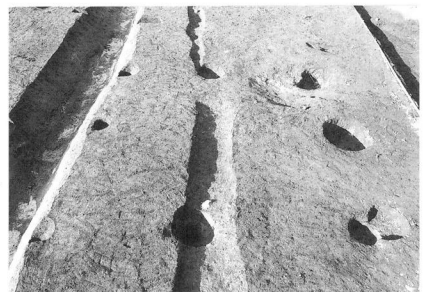
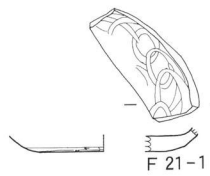
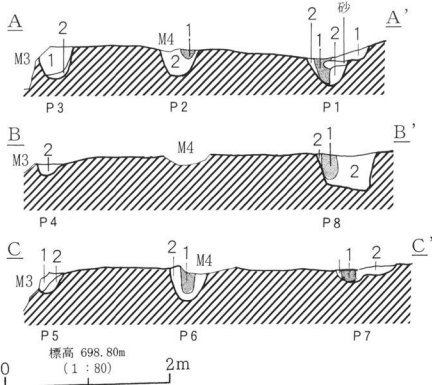
- F20 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を多く含む。
 3. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂・小石を含む。
 4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。

- F21 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。1層よりくすむ。



F19 完掘 (西より)

F20 完掘 (西より)



F21 完掘 (南より)

第31図 F19・20・21号掘立柱建物址

(18) F18号掘立柱建物址

へ14グリットにあり、P196と重複する。側柱の2間×2間(320×304cm)、柱間は桁行き160cm、梁間152cmを測る。四隅のピットが大きく深い。長軸方位N-80°-Eを指す。

出土遺物はやや厚手の外面ミガキ調整の甕片がある。内面はナデ調整。古墳時代のものである。P3からは馬の歯が出土する。

(19) F19号掘立柱建物址

ほ14グリットにあり、側柱で1間×2間(312×312cm)、柱間は310cm、156cmを測る。長軸の方位N-1°-Eを指す。

出土遺物はP5より須恵器杯の口縁部片がある。

(20) F20号掘立柱建物址

う14グリットにあり、H13に北西ピットを切られる。側柱で1間×1間(376×328cm)を測る。長軸方位N-11°-Eを指す。

(21) F21号掘立柱建物址

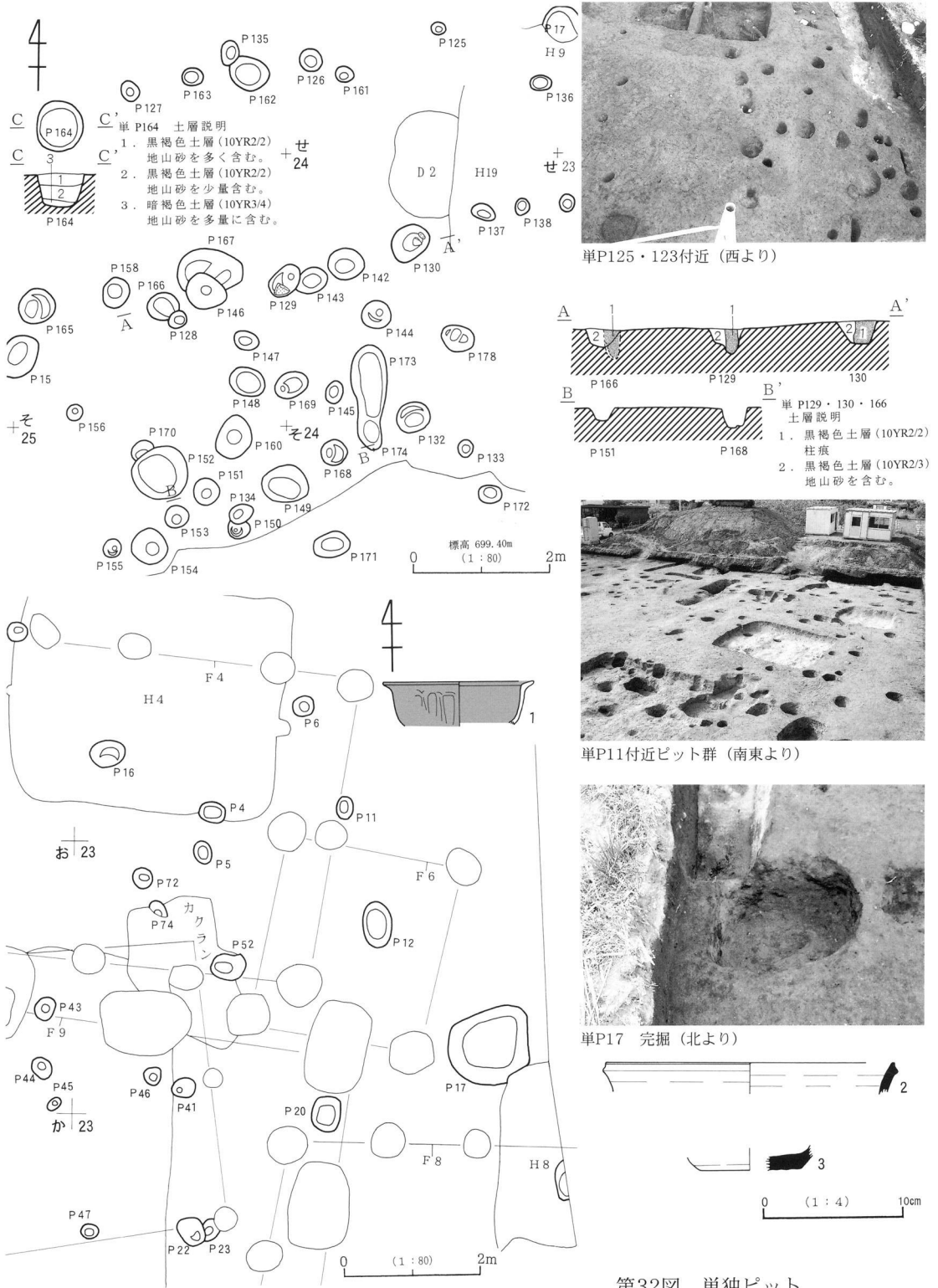
あ12グリットにあり、M3・M4に切られる。側柱で2間×2間(344×336cm)、柱間は桁行き170cm、梁行き168cmを測る。長軸方位N-9°-Wを指す。

出土遺物はP1より底部へラ削り、内面ミガキの土師器杯、P8より弥生赤色塗彩の壺、土師のやや厚い甕片が出土している。

第3節 単独ピット (P)

掘立柱建物址に組めないものの柱穴の密集地点が2か所ある。へ～ほ22～24地点と、う～か22・23地点である。後者のP11からは青磁皿が出土しており、これらの円形小ピットは中世のピットであろう。

H1付近のピットは木の根の跡であろうか柱痕はない。



第4節 土坑 (D)

(1) D2号土坑

へ23グリットにあり、H9に切られる。隅丸長方形を呈し、長さ154×幅〈91〉×深さ13cmを測る。床面近くからは動物の大腿骨が出土している。骨は馬と分析され、馬の左上腕骨、左橈骨・尺骨・中手骨/中足骨?などが確認された。年齢は1.5歳以上で、後肢や頭蓋がないことから遺体の一部が埋葬された可能性があるとしている。土器片は古墳時代の外面にミガキ調整のある土師器甕5片がある。

一片だけロクロ調整須恵器杯片があるが、H9からの混入が考えられる。

(2) D3号土坑

う12グリットにあり、長軸212cm 短軸127cm深さ57cmを測る。土坑からは頭を北に、足を屈葬した人骨が見つまっている。脳頭蓋、下顎骨、歯牙、左右大腿骨などが確認された。壮年(20~39歳程度)で男性の可能性が高いとしている。

(3) D6号土坑

お38グリットにあり、M9攪乱に切られる。東西方向に長軸を持ち、N-77°-Wを測る。長軸長206cm、短軸長66cm、深さ37cmの隅丸長方形を呈す。底面は締まった土坑で南東隅に土師器杯6・7と鉢4があり、離れて5の小形甕が出土している。いずれも上面にあり、供献されたようである。6の土師器杯は欠損のため判読不明であるが外面に墨書があり、ナデ調整の残る雑なミガキ後内面にハート形の暗文が施される。底部は手持ちヘラ削りされ、底径6.2cm、口径12.5cm、器高4.0cm全体に小振りである。7の杯も同器形で内面のミガキが十字になされ、底部は回転糸切りのままである。4の鉢または短頸壺は内面ロクロ痕を残し、口縁部は丁寧にミガキ調整され、全体に黒色処理される。外面はロクロナデ後、口縁は横ナデ、胴部の底部付近はヘラ削りされる。底部は回転糸切りが残っている。5の小形甕は中央にあるが1層下面にあり、南東から動いたものであろう。内面ナデ、外面は胴部回転ヘラナデ後下部をヘラ削り、底部回転糸切りである。

形態や土器の供献などから土壌墓であろう。土器は10C前半に位置づけられる。

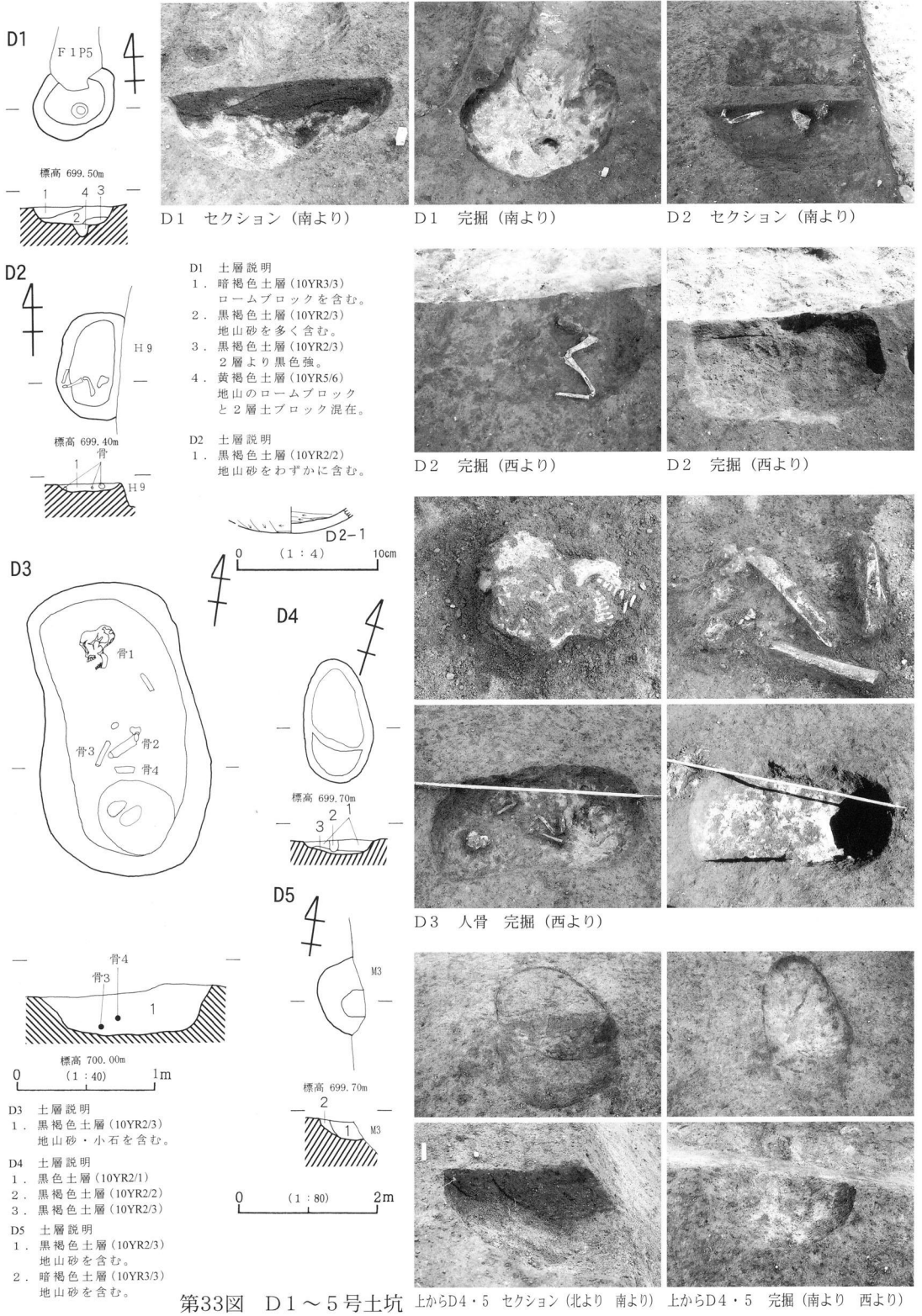
(4) D7号土坑

う43グリットにあり、径114cm、深さ67cmの円形を呈す。土坑底面に豆の炭化物と甕の破片が出土した。

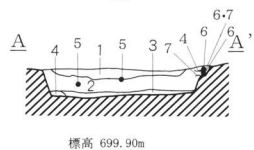
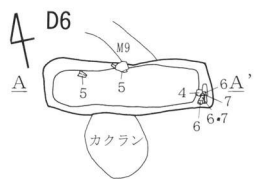
【土器】

土坑D7では土坑底部近くから第34図D7-1が出土した。1は復元口径18cm、残存器高18cm。粗製甕である。口縁部は無文、2単位の山形突起をもつ。ミガキに近いナデ調整がなされる。頸部が括れ、胴下部は細密条痕が施される。条痕は下から上に斜方向の後、頸部付近で左から右に横方向に施される。条痕原体は木口によるものか判断できない。氷I式で特徴的な口外帯が退化し、山形突起になる。口縁端直下の装飾もない。弥生時代前期氷II式土器である。(中沢道彦)

第I章 東大門先遺跡II

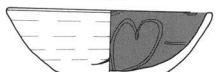
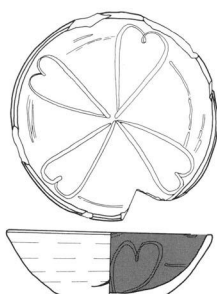
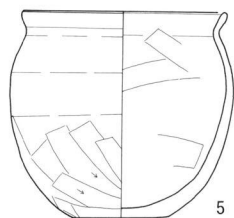
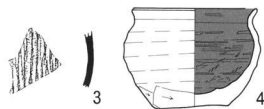
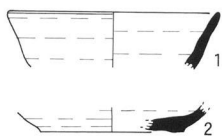


第33図 D1～5号土坑

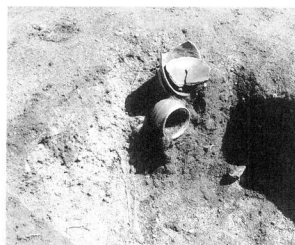


D6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂ブロックを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) かたく締まる。
4. 褐色土層 (10YR4/4) 砂質土。

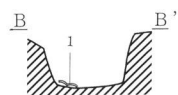
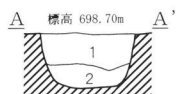
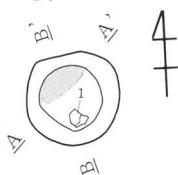


D6 完掘 (北より)



D6 遺物出土状況 (西より)

D7

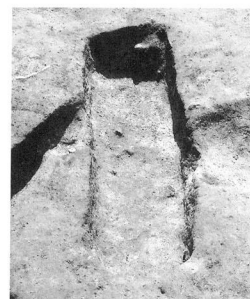


D7-1

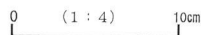


D7 土層説明

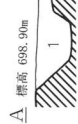
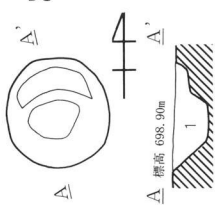
1. 暗褐色土 (10YR3/3)・褐色土 (10YR4/4)・砂を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 褐色 (10YR4/4) 砂ブロックを含む。



D7 完掘 (北より)

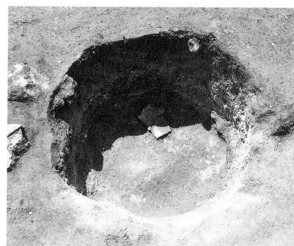


D8



D8 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色 (10YR3/4) 土ブロックを多く含む。

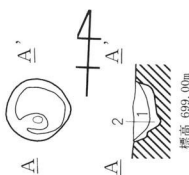


D8 完掘 (北より)



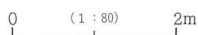
D8 遺物出土状況 (北より)

D9



D9 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) 小石を少量含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂・ローム粒子を少量含む。



D9 完掘 (北より)



D9 完掘 (南より)

第34図 D6～9号土坑

第5節 溝址 (M)

(1) M1・M6号溝址

う27から西に行き、い30グリットで、南におれて、か32グリットへ続いている。23mほどを調査し、幅は北東の始まりで79cm、南の端184cmになる。検出面からの深さは42～55cmを測る。

出土遺物は須恵器がある。M6の1志野丸皿(17C)は混入品である他、は土師器が見られない。

M1-2の杯は底部回転糸切りのままである。4の須恵器壺は比較的薄手で、口縁が大きく外反する、口縁は敲き目を残し横ナデ、肩部も敲き目を櫛歯の横線がひかれている。

これらより、8世紀後半の溝であろう。

(2) M2号溝址

ひ24グリットにあり、F17を切っている。北と西は調査区域外で、6mほど調査している。溝の幅は91～116cm、深さ33～42cmを測る。

出土遺物は須恵器蓋・甕、土師器武蔵甕がある。1の須恵器蓋は口縁の折れる肩が丸味を持っている。これらは奈良時代の土器片である。

(3) M3号溝址

ひ14グリット～お12グリットまで32mを調査している。この溝は南の西八日町IVに230m続いている。356mに渡って直線ではほぼ南北に構築されている。検出面の標高は地形に沿っているのか東がたかく西が低い。溝幅は130～216cmを測り、南にかけて広くなる。断面形は台形を呈する。

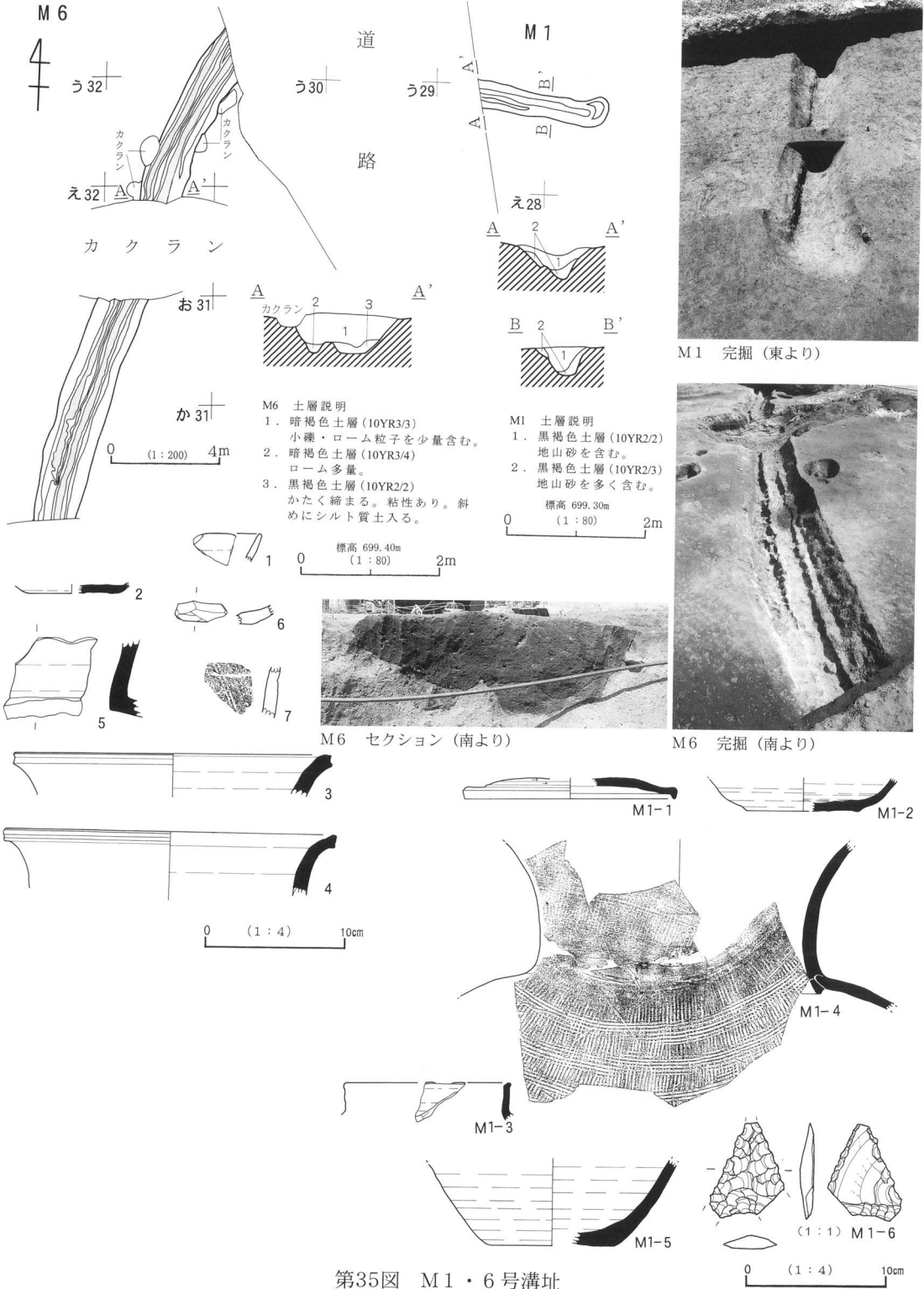
出土遺物はかわらけ、内耳、須恵質播鉢、鉄製品、混入した須恵器・土師器がある。かわらけは在地の15・16C、播鉢は珠洲産で14C後半、内耳は在地で16Cである。また、鉄製品は火打金、刀子、角釘、断面方形の軸があり、10は途中で捩じりが加えられている。

これらより、本溝は15・16Cの溝址であろう。

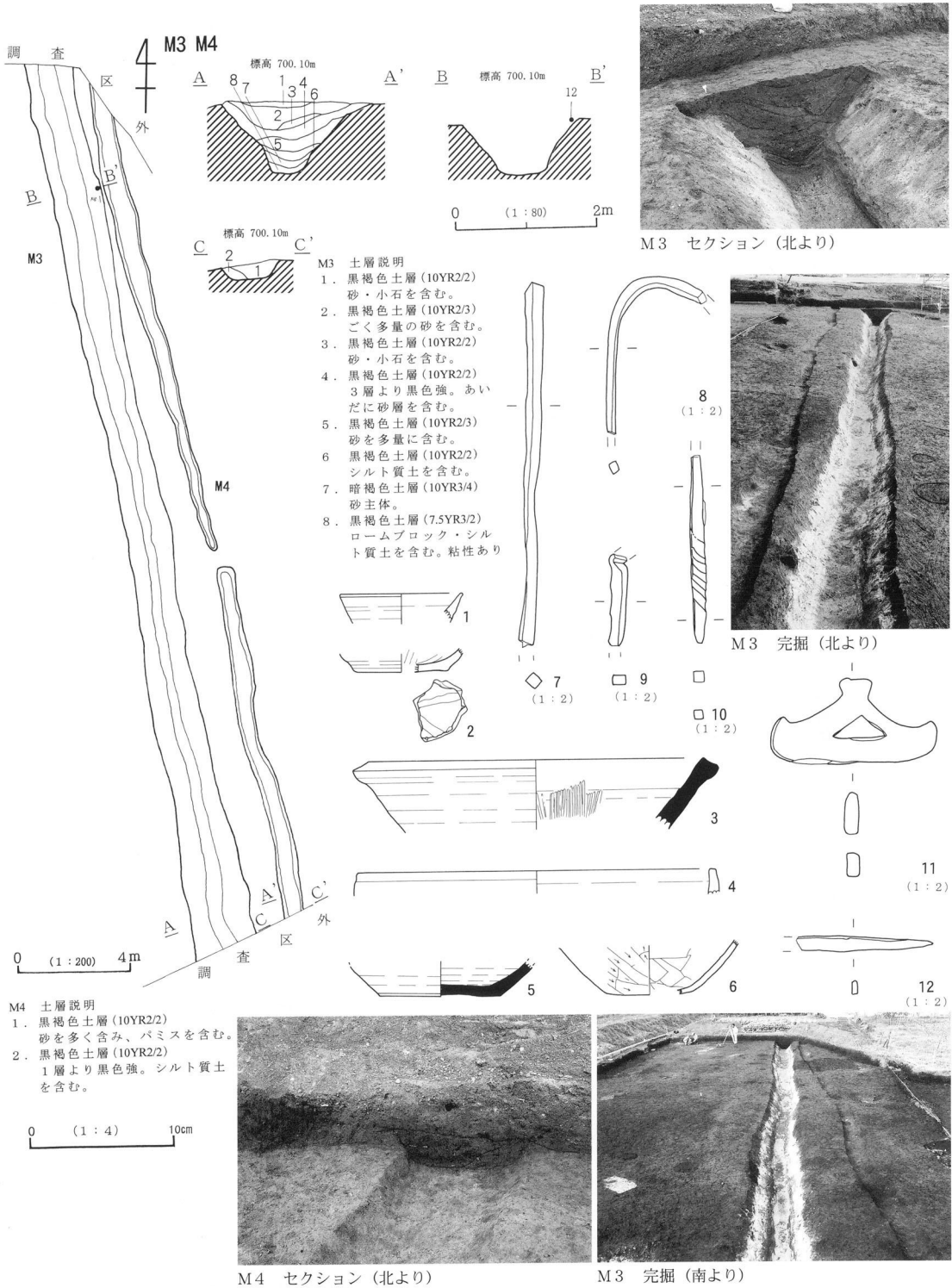
(4) M4号溝址

ひ14グリット～お12グリットまで29mを調査している。溝はM3とほぼ平行しており、幅24～85cm、深さ3～20cmと細く浅いものである。覆土は砂質やシルト質であることから排水の溝であると思われる。これも南の西八日町遺跡IVに続いている。

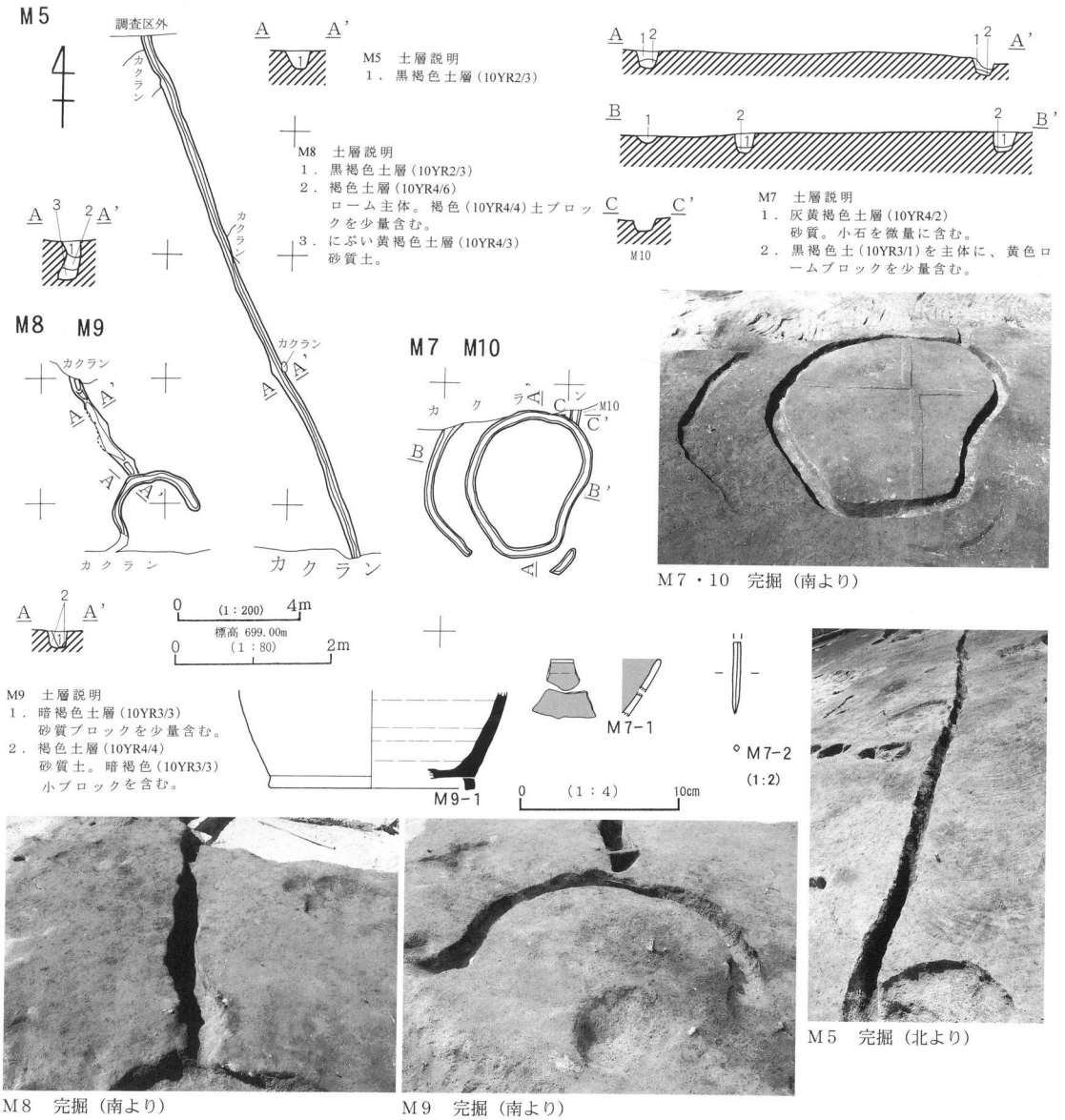
出土遺物は須恵器・土師器の摩耗した破片がある。土師器杯は内面黒色処理、底部ヘラ削り後ミガキのもの土師器甕は武蔵甕片などである。



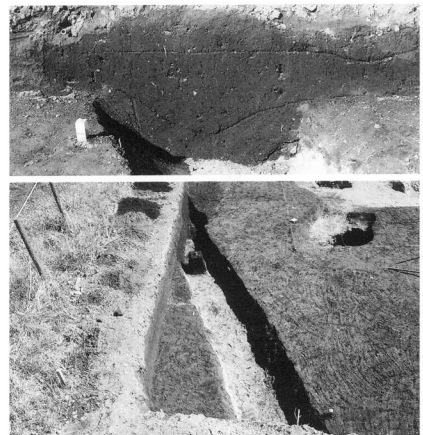
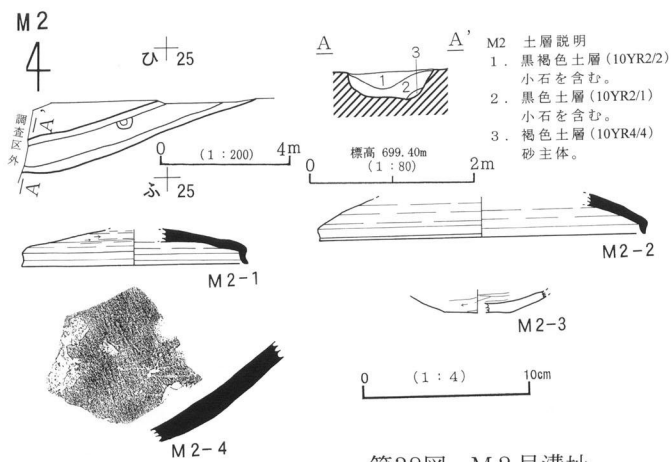
第35図 M1・6号溝址



第36図 M3・4号溝址



第37図 M5・7・8・9・10号溝址

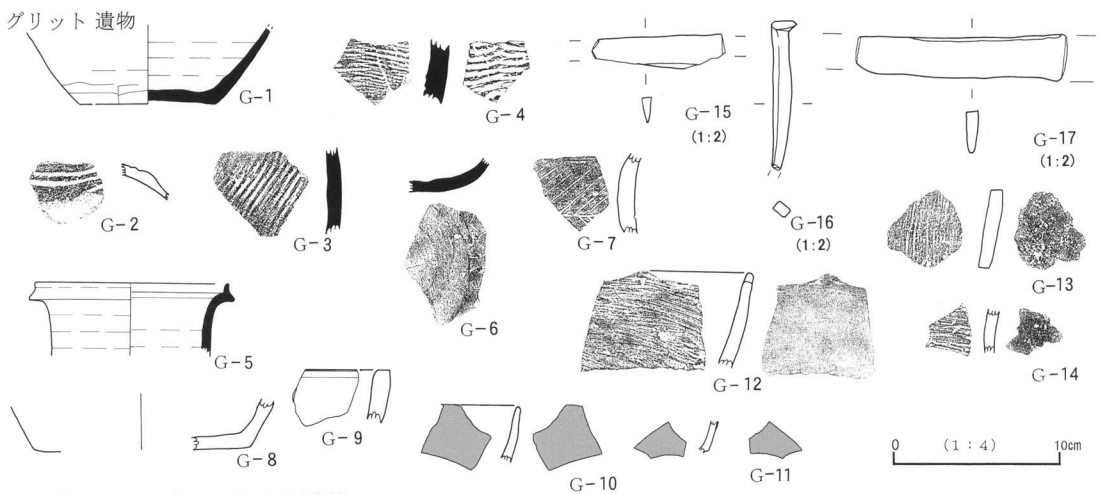


上からM2 セクション 完掘 (東より 西より)

第6節 グリット (G)

1の須恵器杯はH5地点である。底部手持ちへら削りされる。

8・9・11の内耳・天目茶碗はグリットあ・う35地点の出土であり、近くの中世の竪穴との関連があろう。12~14の弥生前期の甕は30グリットから西の地点の検出時に出土している。D7の土坑との関連があろう。



第1表 東大門先遺跡Ⅱ 竪穴住居址一覽表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (cm・㎡)		主軸方位	カマド跡	柱穴		備考	
				南北長	東西長			壁高	面積		柱3
H1	う26	古墳	方形	462	453	16~36	20.93	N-2°-W	北	主柱4 他3 出入り口1	F1・P10に切られる。
H2	か26	平安	長方形	260	310	0~6	8.06	N-79°-W	東	床下1	F2・3・5を切る
H3	お22	古墳	方形	500	494	20~32	24.7	N-2°-E	北	主柱4 他9 床下4	F4・9・12, P41・43~47・51・71・73, カクランに切られる。
H4	え22	奈良	長方形	315	372	2~15	11.71	N-7°-E	北	側柱3 他6 床下1	F4, P4・9・16に切られる。
H5	ほ22	奈良	長方形	326	378	13~35	12.32	N-4°-E	北	主柱4 他3 床下5	カクランに切られ, F11, P101・102を切る。
H6	へ21	奈良	-	538	(216)	47~59	-	N-4°-W	-	主柱2	東側小海線 H10を切る。
H7	え25	奈良	長方形	268	302	12~30	8.09	N-10°-W	北	他1 床下2	D1, P2, カクランに切られる。
H8	お21	奈良	-	(246)	(86)	47~53	-	N-1°-E	-	-	南側調査区外・東側小海線 P1・24に切られ, P17を切る。
H9	へ22	奈良	方形	398	388	23~33	15.44	N-2°-E	北	主柱4 他3 床下1	P136~141に切られ, D2, P179を切る。
H10	ほ21	奈良	-	(521)	(226)	36~49	-	N-2°-W	-	主柱2 他1 土坑1	東側小海線 H6に切られる。
H11	へ13	奈良	方形	330	341	28~42	11.25	N-11°-W	北	他1 床下1	M4に切られ, P180・181を切る。
H12	あ37	中世	長方形	160	328	89~113	-	N-5°-W	-	他11	カクランに切られる。出入口部あり。
H13	い15	奈良	方形	296	322	47~61	9.53	N-12°-W	北	主柱2 他1	F20を切る。
H14	お14	奈良	方形	288	268	17~42	7.71	N-1°-W	-	主柱4	カクランに切られ, P200を切る。
H15	へ17	奈良	-	574	(106)	48~58	-	N-8°-W	-	他1	西側小海線 P185を切る。
H16	え15	奈良	-	380	(292)	41~57	-	N-3°-E	北	主柱3 他4 床下2	西側小海線 カクランに切られる。
H17	か36	奈良	長方形	288	369	10~45	-	N-11°-E	北	主柱4 他1 床下1	南側調査区外 カクランに切られる。
H18	か35	平安	-	(187)	250	25~35	-	N-11°-E	北	床下2	南側調査区外

(残)

(推定)

第2表 東大門先遺跡Ⅱ 掘立柱建物址一覽表

遺構名	検出位置	様式	桁行×梁間 (間)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模		備考
							短径 (cm)	深さ (cm)	
F1	う25	側柱	2×1	1.60	2.72	N-8°-E	60~92	51~74	H1, D1を切る。
F2	か25	側柱	1×(2)	1.60	3.12	N-1°-W	56~72	38~63	南側調査区外 H2に切られ, F3を切る。
F3	か25	総柱	2×2	2.32	1.8	N-1°-W	40~100	22~105	H2, F2に切られる。
F4	え21	側柱	4×2	1.64	2.32	N-83°-W	34~62	19~73	H3・4, P3を切り, カクランに切られる。
F5	き26	側柱	2×(1)	1.8・2.4	2.2	N-1°-E	47~55	24~67	南側調査区外 H2, カクランに切られる。
F6	お21	側柱	1×1	2.8	2.6	N-12°-E	48~60	32~50	カクランに切られる。
F7	い21	側柱	1×2	3.92	1.44・1.84	N-8°-E	52~83	30~56	カクランに切られ, P13・15を切る。
F8	か21	側柱	(2)×(2)	1.6	1.52	N-2°-E	38~57	14~28	南側調査区外
F9	お21	側柱	2×2	5.6×5.2	2.6	N-86°-W	68~93	25~92	南側調査区外 H3, P111を切る。
F10	あ24	側柱	3×2	4.80×3.88	1.94	N-4°-E	72~102	53~70	カクランに切られる。F10P9とF13P4が同位置で重複。
F11	あ23	側柱	3×2	5.52×4.64	2.32	N-4°-E	61~96	34~66	H5, P134・150・151・153, カクランに切られる。
F12	お22	側柱	2×1	4.4×4	2.2	N-8°-W	26~36	14~38	カクランに切られ, H3を切る。
F13	あ24	側柱	1×1	2.8×2.24	2.24	N-80°-W	49~61	37~58	P156, カクランに切られる。F13P4とF10P9が同位置で重複。
F14	ふ23	側柱	2×1	4×3.2	3.2	N-3°-E	83~126	51~81	カクランに切られる。
F15	ひ22	側柱	(2)×2	(3.2)×4	2.0	N-6°-E	54~69	21~55	北側調査区外 カクランに切られる。
F16	ひ22	側柱	(2)×(1)	(3.6)×(2)	1.8	N-6°-W	56~62	57~76	北側調査区外・東側小海線
F17	ひ24	-	-×3	-×4.56	1.52	N-83°-W	53~89	82~113	北側調査区外 M2に切られる。
F18	へ14	側柱	2×2	3.2×3.04	1.6	N-80°-E	36~67	27~60	P196と重複。
F19	ほ14	側柱	1×2	3.12×3.12	3.1	N-1°-W	33~50	18~38	
F20	う14	側柱	1×1	3.76×3.28	3.76	N-11°-E	77~92	48~52	H13に切られる。
F21	あ12	側柱	2×2	3.44×3.36	1.7	N-9°-W	26~72	18~48	M3・4に切られる。

(残)

(推定)

第 3 表 東大門先遺跡 II 土坑一覧表 (残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備 考
D 1	え26	-	134	100	46	N- 56° -E	F 1 に切られる。
D 2	へ23	楕円形	154	〈91〉	13	N- 6° -E	H 9 に切られる。
D 3	う12	楕円形	212	127	57	N- 16° -W	
D 4	ほ16	楕円形	182	100	21	N- 18° -W	
D 5	い14	-	106	〈68〉	35	N- 13° -W	M 3 に切られる。
D 6	お38	長方形	206	66	37	N- 77° -W	M 9、カクランに切られる。
D 7	う43	円形	114	112	67	N- 7° -W	
D 8	え42	円形	136	124	44	N- 10° -W	
D 9	か36	円形	78	77	35	N-0°	

第 4 表 東大門先遺跡 II 溝址一覧表 (残) (推定)

遺構名	検出位置	全長(m)	幅(cm)	深さ(cm)	備 考
M 1	う27~う28	〈4.73〉	79~98	42~49	西側道路
M 2	ひ24~ひ26	〈6.0〉	91~116	33~42	北側・西側調査区外 F17を切る。
M 3	ひ14~ひ12	〈32.0〉	130~216	60~106	北側・南側調査区外 F21、D5、P184・187・188・198を切る。
M 4	ひ14~お12	〈29.02〉	24~85	3~20	北側・南側調査区外 H11、F21、P197を切る。
M 5	あ39~お37	〈18.24〉	26~38	18~34	北側調査区外 カクランに切られる。
M 6	い30~き32	〈18.16〉	128~184	43~55	南側調査区外 東側道路 カクランに切られる。
M 7	え33~お35	内周 南北 4.76 東西 3.84 外周 4.72	22~33	2~29	カクランに切れ、M10を切る。
M 8	う39~え39	〈3.76〉	19~43	9~55	M9、カクランに切られる。
M 9	え38~お39	〈4.56〉	20~36	12~33	カクランに切れ、D6、M8を切る。
M10	え33	〈0.44〉	27~29	17	M7、カクランに切られる。

第 5 表 東大門先遺跡 II 単独ピット一覧表 (1) (残) (推定)

遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備 考	遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備 考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P 1	か21	31	27	30	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H8を切る。	P 18	お27	156	99	51	不整形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3) 3.褐色土層(10YR4/4)	P39を切る。
P 2	え25	70	66	27	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P 19	お26	53	45	20	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	カクランに切られる。
P 3	え23	(50)	47	30	-	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	F4に切られる。	P 20	か22	52	46	22	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 4	え22	37	28	15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H4を切る。	P 21	欠						
P 5	お22	35	25	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P 22	か22	49	36	32	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P23を切る。
P 6	え22	31	31	20	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P 23	か22	(34)	30	35	-	暗褐色土層(10YR3/3)	F12、P22に切られる。
P 7	う22	29	26	7	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P 24	か21	56	(14)	30	-	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	東側小海線 H18を切る。
P 8	う21	35	27	8	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P 25	い23	78	71	15	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)	
P 9	え23	30	29	20	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	H4を切る。	P 26	い24	81	69	20	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)	
P 10	う27	39	(35)	27	-	黒褐色土層(10YR3/2)	H1を切る。	P 27	う22	63	53	30	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 11	え22	30	28	33	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	青磁	P 28	え22	49	33	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 12	お21	65	42	24	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P 29	う27	56	42	21	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)	打斧
P 13	い21	43	(29)	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F7に切られる。	P 30	う28	28	22	13	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P 14	う22	33	33	11	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P 31	う28	46	27	25	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P 15	う22	(73)	60	50	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	F7に切られる。	P 32	え27	20	16	10	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P 16	え22	52	41	49	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H4を切る。	P 33	え27	60	52	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 17	お21	118	110	81	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR2/3) 3.黒褐色土層(10YR2/2) 4.褐色土層(10YR4/4)	H8に切られる。	P 34	え28	43	30	20	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	

第6表 東大門先遺跡Ⅱ 単独ピット一覧表(2)

(残) (推定)

遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P35	え27	60	54	32	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)		P87	う23	29	25	32	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P36	え27	34	34	12	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P88	い23	36	30	25	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P37	お27	60	45	29	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P89	い22	35	32	30	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P38	お27	32	29	17	円形	褐色土層(10YR4/4)		P90	い22	28	25	4	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	P99を切る。
P39	お27	57	(50)	50	—	黒褐色土層(10YR2/3)	P18に切られる。	P91	い23	28	24	10	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P40	お26	36	31	15	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P92	い21	101	64	42	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P93を切る。
P41	お22	37	29	39	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	H3を切る。	P93	い21	(57)	54	25	—	黒褐色土層(10YR2/3)	P92に切られる。
P42	欠							P94	い21	88	50	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P43	お23	31	30	18	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P95	あ21	42	36	19	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P44	お23	34	28	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P96	あ22	33	28	19	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P45	お23	20	16	11	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P97	あ22	40	39	17	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P46	お22	24	24	39	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P98	あ21	45	36	18	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P47	か22	36	21	7	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P99	い22	72	57	15	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P90に切られる。
P48	欠							P100	い22	48	40	24	楕円形	褐色土層(10YR4/4)	
P49	欠							P101	あ22	146	68	15	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	H5、F11に切られる。
P50	欠							P102	あ22	80	56	14	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	H5に切られる。
P51	か23	36	21	14	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P103	あ22	34	30	12	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P52	お22	51	(36)	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。	P104	う23	52	45	15	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P53	え25	53	30	17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P105	う23	31	22	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P54	え25	64	64	27	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P106	う22	38	37	26	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P55	う25	45	36	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P107	う23	35	35	27	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P56	う25	40	35	14	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P108	い23	50	48	29	円形	褐色土層(10YR4/4)	
P57	う25	57	43	31	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P109	え23	27	26	24	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P58	う25	43	30	10	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P110	あ23	(100)	95	37	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	F11に切られる。
P59	う25	50	40	39	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P76を切る。	P111	き23	51	(40)	17	—	暗褐色土層(10YR3/3)	F9に切られる。
P60	い25	44	40	21	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P112	き23	38	32	18	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P61	い25	(133)	108	33	—	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	P86に切られる。	P113	か24	55	53	39	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P114を切る。
P62	い25	72	72	19	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P114	か24	52	(46)	24	—	暗褐色土層(10YR3/3)	P113に切られる。
P63	い25	45	35	18	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P115	か24	50	50	25	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P64	う26	76	68	20	楕円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P116	か24	70	61	20	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P65	い26	79	39	12	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P117	か24	47	40	21	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P66	い26	46	40	39	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P118	か24	44	39	25	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P67	い26	28	23	14	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P119	か24	47	44	25	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P68	い26	127	63	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P120	き24	48	43	41	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P124を切る。
P69	う27	87	72	21	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)		P121	か25	42	37	13	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P70	お23	26	20	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P122	き25	38	28	18	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P71	お23	23	20	18	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P123	き25	73	50	16	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P72	お22	29	26	23	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P124	き25	(68)	50	42	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P120に切られる。
P73	か23	28	26	35	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3を切る。	P125	へ23	22	20	23	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P74	お22	(22)	22	31	—	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。	P126	へ23	36	36	29	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P75	え23	29	25	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P127	へ24	33	26	19	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P76	う25	22	(18)	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P59に切られる。	P128	ほ24	29	25	46	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	P166を切る。
P77	い27	44	41	15	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P129	ほ23	54	38	40	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	P143を切る。
P78	い27	67	50	57	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.暗褐色土層(10YR3/4)		P130	ほ23	62	47	34	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P79	い27	67	50	16	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P131	欠						
P80	い28	67	59	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P132	ほ23	48	46	39	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P81	い28	70	64	24	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P133	あ23	26	25	26	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P82	い28	77	51	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P134	あ24	37	27	49	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F11、P150を切る。
P83	あ28	32	29	14	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P135	へ24	40	29	15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	P162を切る。
P84	あ27	49	(29)	32	—	黒褐色土層(10YR2/3)	北側調査区外	P136	へ23	32	21	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。
P85	い26	69	61	15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P137	ほ23	38	23	27	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。
P86	い25	45	40	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P61を切る。								

第 7 表 東大門先遺跡 II 単独ピット一覧表 (3)

(残) (推定)

遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P138	ほ23	26	22	32	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。	P170	あ24	37	(31)	24	-	黒褐色土層(10YR2/2)	P152に切られる。
P139	ほ22	28	23	27	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。	P171	あ23	51	36	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。
P140	ほ22	25	24	29	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。	P172	あ23	34	27	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。
P141	ほ22	27	26	34	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H9を切る。	P173	ほ23	(110)	53	29	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P174と重複。
P142	ほ23	51	44	26	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	H9を切る。	P174	あ23	(43)	35	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P173と重複
P143	ほ23	(37)	34	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P129に切られる。	P175	ひ21	(56)	(50)	18	-	黒褐色土層(10YR2/2)	北側調査区外・東側小海線
P144	ほ23	42	38	27	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/2)		P176	ひ22	58	(36)	25	-	黒褐色土層(10YR2/3)	北側調査区外
P145	ほ23	28	25	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P177	へ21	80	(23)	51	-	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	東側小海線
P146	ほ24	62	52	33	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	P167を切る。	P178	ほ23	52	42	-	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P147	ほ24	36	28	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P179	へ22	60	(50)	29	-	黒褐色土層(10YR2/2)	H9に切られる。
P148	ほ24	54	43	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P180	へ13	60	(32)	21	-	黒色土層(10YR2/1)	H11に切られる。
P149	あ23	70	58	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P181	へ14	39	(15)	12	-	黒褐色土層(10YR2/2)	H11に切られる。
P150	あ24	34	(24)	25	-	黒褐色土層(10YR2/2)	P134に切られ、F11を切る。	P182	ほ12	26	22	15	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P151	あ24	39	38	20	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F11を切る。	P183	ふ14	76	(29)	20	-	黒褐色土層(10YR2/2)	東側調査区外
P152	あ24	81	76	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P170を切る。	P184	へ14	60	(30)	26	-	黒褐色土層(10YR2/2)	M3に切られる。
P153	あ24	34	34	21	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F11を切る。	P185	ほ16	64	(56)	49	-	黒褐色土層(10YR2/2)	H15に切られる。
P154	あ24	54	52	18	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P186	ほ16	55	53	46	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P155	あ24	25	25	24	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P187	あ14	59	(44)	16	-	黒褐色土層(10YR2/2)	M3に切られる。
P156	ほ24	22	22	17	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F13を切る。	P188	あ13	(77)	47	36	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	M3に切られる。
P157	ほ24	66	54	29	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P189	え16	70	(56)	25	-	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。
P158	ほ24	43	39	10	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P190	え15	38	37	25	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P159	ほ25	64	40	26	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P191	え15	69	66	18	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P160	あ24	63	51	15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P192	え15	50	44	26	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P161	へ23	29	23	25	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P193	う14	48	47	18	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P162	へ24	59	50	31	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	P135に切られる。	P194	お14	47	(37)	14	-	黒褐色土層(10YR2/2)	
P163	へ24	33	28	17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P195	え13	52	45	25	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P164	へ24	76	66	50	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR2/2) 3.暗褐色土層(10YR3/3)		P196	へ15	47	46	10	円形	-	F18と重複。
P165	ほ24	51	50	31	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P197	え13	(98)	95	54	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	M4に切られる。
P166	ほ24	47	39	21	-	黒褐色土層(10YR2/2)	P128に切られる。	P198	う13	(115)	(48)	54	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	M3に切られる。
P167	ほ24	97	(68)	39	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P146に切られる。	P199	え15	51	44	13	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P168	あ23	38	37	31	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P200	か15	(54)	54	34	-	黒褐色土層(10YR2/3)	H14に切られる。
P169	ほ23	51	39	36	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P201	い43	24	19	18	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
								P202	あ42	44	30	25	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
								P203	う43	59	47	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
								P204	う40	46	46	26	-	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	法		量 (cm)	(g)	調整面	文外	様面	備考	出土位置	
				口径(長)	底径(幅)								
H1	1	土師器	杯	12.9	-	4.7	-	口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理?	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	II区	No.6	
	2	土師器	杯	14.5	-	5.7	-	口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.11		
	3	土師器	杯	12.1	-	5.1	-	口縁ミガキ→見込部暗文	口縁ミガキ→底部ヘラケズリ	完全実測	No.10		
	4	土師器	杯	13.9	-	5.5	-	ミガキ→暗文→黒色処理?	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.2		
	5	土師器	杯	11.7	-	5.6	-	ヘラナデ→口縁横ナデ→暗文	口縁横ナデ→ヘラケズリ	完全実測	No.8		
	6	土師器	鉢	13.5	-	8.3	-	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.3		
	7	土師器	鉢	18.5	-	8.1	-	ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	I区	II区 カマド No.4	
	8	土師器	鉢	13.7	-	8.7	-	ミガキ	口縁横ナデ→ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.9		
	9	土師器	小甕	13.1	-	16.2	-	口縁横ナデ→ナデ	口縁横ナデ→ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.1		
	10	土師器	甕	(18.3)	6.3	(20.3)	-	口縁横ナデ 胴部ナデ	口縁横ナデ→胴部・底部ヘラケズリ	回転実測	II区 カマド 検出	No.4	
	11	土師器	甕	27.1	7.3	24.5	-	口縁横ナデ・胴部ナデ→ミガキ	口縁横ナデ・胴部ヘラナデ→ミガキ	完全実測	No.1・7・11 検出		
	12	土師器	甕	(14.2)	8.0	(32.9)	-	口縁横ナデ→ナデ	口縁横ナデ→胴部・底部ヘラケズリ	完全実測	No.4・5 II区 検出		
	H2	1	土師器	甕	29.2	-	(14.8)	-	口縁ハケ目 胴部ヘラナデ→ナデ	口縁横ナデ→ハケ目	回転実測	2と同一個体か	カマド
		2	土師器	甕	-	(8.0)	(6.0)	-	ハケ目 ヘラナデ	口縁横ナデ→ハケ目	回転実測	1と同一個体か	カマド
	H3	3	土師器	甕	9.5	8.3	14.5	-	口縁横ナデ→ナデ	口縁横ナデ→底部糸切り	回転実測		カマド
		1	須恵器	甕	(11.8)	-	(4.8)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→自然釉	回転実測		検出
H4	2	須恵器	把手	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→自然釉	破片実測		検出	
	3	須恵器	蓋か甕	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→自然釉	破片実測		検出	
	4	土師器	杯	12.5	-	5.0	-	ミガキ 黒色処理か?	ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	III区 IV区		
	5	土師器	杯	12.8	-	4.2	-	ミガキ	ミガキ	完全実測	No.5		
	6	土師器	杯	13.5	-	6.1	-	口縁ミガキ・暗文	ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	III区 No.12		
	7	土師器	碗	13.7	-	6.3	-	ヘラナデ→ミガキ	口縁横ナデ	完全実測	I区 No.8		
	8	土師器	鉢	14.2	-	7.6	-	口縁横ナデ→ミガキ→見込部放射状暗文	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.6		
	9	土師器	杯	12.0	-	6.6	-	ミガキ	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	I区		
	10	土師器	甕	15.8	3.2	10.0	-	口縁横ナデ→体部ヘラナデ	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	No.2		
	11	土師器	甕	22.8	8.9	21.4	-	口縁横ナデ・胴部ヘラナデ	口縁横ナデ 体部ヘラナデ→ミガキ? 剥離	完全実測	No.9・10		
	12	土師器	壺	18.1	-	(7.5)	-	口縁横ナデ・胴部ヘラナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラナデ→ミガキ	完全実測	No.3		
	13	土師器	壺	19.0	-	(15.0)	-	胴部ヘラナデ→口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラナデ→ミガキ	完全実測	No.11		
	14	土師器	壺	(15.0)	-	(20.6)	-	胴部ヘラナデ→胴下部複雑なミガキ 口縁横ナデ	胴部ヘラナデ→胴下部ミガキ 口縁横ナデ	回転実測	No.4 検出		
	15	土師器	甕	14.3	6.9	13.2	-	ヘラナデ→口縁横ナデ	胴部ヘラナデ→胴下部・底部ヘラケズリ→口縁横ナデ	回転実測	I区・II区床 No.7		
	16	土師器	高杯	-	6.6	-	-	ミガキ→赤色塗彩	ヘラナデ→赤色塗彩	完全実測	IV区		
	17	石器	礫石	14.0	4.7	4.7	408.95	-	-	砂岩 高脚破打痕	完全実測	No.13	
18	石器	礫石	14.5	6.5	6.2	752.07	-	-	安山岩 表面凹状破打痕	完全実測	No.14		
19	石器	礫石	17.4	13.0	6.5	1076.36	-	-	安山岩 底面表裏、剝離あり、欠損	完全実測	I区		
H4	1	須恵器	杯	14.4	7.2	3.2	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り 周辺部ナデ	完全実測	I区		
	2	須恵器	杯	(14.6)	7.6	3.5	-	口縁横ナデ 見込部磨耗	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	I区		
	3	須恵器	杯	(15.6)	-	(2.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	検出 カマド I区		
	4	須恵器	甕	-	-	-	-	ナデ	平行タタキ目	回転実測	検出		
	5	土師器	鉢	-	-	-	-	ナデ→黒色処理	口縁横ナデ→ヘラナデ	拓本	検出		
H5	1	須恵器	蓋	(15.5)	-	(3.8)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→天井部ヘラケズリ	完全実測	II区東 東堀方		
	2	須恵器	杯	13.1	5.5	4.0	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り つまみ貼付	完全実測	II区西		
	3	須恵器	杯	13.8	6.5	3.7	-	口縁横ナデ 磨耗	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	II区		
	4	須恵器	杯	(11.7)	5.5	(2.6)	-	口縁横ナデ 磨耗	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	東		
	5	須恵器	杯	-	(3.4)	(2.2)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	西		
	6	須恵器	高台杯	-	7.0	(1.8)	-	口縁横ナデ 磨耗	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.1		
	7	須恵器	高台杯	-	6.5	(0.9)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り 後高台貼付 高台磨耗	完全実測	西		
	8	須恵器	蓋か壺	(26.8)	-	(1.4)	-	横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	西		
H5	9	須恵器	甕	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	回転実測	東		
	10	須恵器	甕	-	-	-	-	横ナデ	ハハラ捕波状文	拓本	東		
	11	須恵器	蓋か壺	-	-	-	-	ナデ	ハハラ捕波状文	拓本	I区		

第8表 H1~H5 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	種類	器種	法		量 (cm)	(g)	調内	整面	文外	縁面	備考	出土位置	
					口径(長)	底径(幅)									
H5	12	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	アテ具痕	整面	タタキ目	拓本	II区	カマド	
	13	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ	格子・タタキ目	拓本	II区	カマド	
	14	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ	平行タタキ目	拓本	II区	カマド	
	15	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ	平行タタキ目	拓本	II区	カマド	
	16	土師器	杯	杯	14.0	-	(2.2)	-	ミガキ→黒色処理	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	東	II区	カマド
	17	土師器	杯	杯	-	(7.6)	(1.9)	-	ミガキ→黒色処理	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	I区	II区	
	18	土師器	杯	杯	-	(9.6)	(1.8)	-	ミガキ→黒色処理	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	II区	
	19	土師器	武蔵甕	武蔵甕	(12.2)	-	(8.9)	-	ナデ 口縁横ナデ	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	II区	
	20	土師器	武蔵甕	武蔵甕	(18.4)	-	(11.9)	-	ナデ 口縁横ナデ	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	II区	
	21	鉄器	角釘	角釘	(6.9)	0.6	0.5	6.0	-	-	-	回転実測	No.3	II区カマド	
	22	鉄器	刀子	刀子	14.6	1.2	0.4	12.0	-	-	-	回転実測	No.2	II区	
	H6	1	須恵器	杯	杯	(14.2)	(7.6)	(3.3)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	III区
		2	須恵器	杯	杯	(15.6)	(9.4)	(3.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	検出
		3	須恵器	杯	杯	(14.0)	(6.4)	(3.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
		4	須恵器	杯	杯	(12.6)	(7.8)	(3.5)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	III区
		5	須恵器	杯	杯	-	(6.5)	(2.2)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
		6	須恵器	高杯	高杯	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	検出	III区
		7	須恵器	高台付杯	高台付杯	(16.2)	(9.6)	7.4	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
		8	須恵器	壺	壺	(16.6)	-	(2.5)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
		9	須恵器	壺	壺	-	-	(3.1)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
		10	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区
11		須恵器	甕	甕	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
12		須恵器	甕	甕	(23.6)	-	(5.8)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
13		須恵器	甕	甕	(35.6)	-	(6.8)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
14		土師器	杯	杯	14.5	7.4	4.7	-	ミガキ→暗文→黒色処理	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.4	III区	
15		土師器	杯	杯	(9.4)	(6.4)	5.3	-	ミガキ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	III区	III区	
16		土師器	甕	甕	(19.2)	-	(3.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
17		土師器	小型甕	小型甕	8.2	-	(3.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
18		土師器	甕	甕	(17.8)	-	(9.2)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
19		土師器	甕	甕	(21.2)	-	(10.5)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
20		鉄器	刀子	刀子	(7.1)	1.2	0.3	7.0	-	-	-	回転実測	No.2	III区	
21	鉄器	刀子	刀子	(8.3)	1.0	0.3	6.0	-	-	-	回転実測	No.3	III区		
H7	1	須恵器	壺	壺	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	No.1	カマド	
	2	須恵器	壺	壺	-	(11.6)	(13.7)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	カマド	
	3	土師器	甕	甕	20.4	-	(7.1)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	カマド	
	4	土師器	甕	甕	-	(4.1)	(6.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	カマド	単P2	
H8	1	須恵器	甕	甕	-	-	-	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
	2	土師器	杯	杯	(16.2)	-	(2.9)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
H9	1	須恵器	蓋	蓋	(10.8)	-	(1.1)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
	2	須恵器	杯	杯	(9.0)	(7.2)	2.7	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
	3	須恵器	杯	杯	14.0	8.0	3.9	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
	4	須恵器	杯	杯	14.0	7.8	4.2	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.5 下	内外面火だすきあり	
	5	須恵器	杯	杯	14.8	8.5	4.3	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.5 上	内外面火だすきあり	
	6	須恵器	杯	杯	13.7	7.0	4.2	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.8	内外面火だすきあり	
	7	須恵器	杯	杯	(13.7)	(6.0)	3.8	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	検出	
	8	須恵器	杯	杯	-	(7.4)	(1.2)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	I区	I区	
	9	須恵器	高台付杯	高台付杯	15.8	11.0	6.9	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.6	III区	
	10	須恵器	壺	壺	(17.0)	-	(1.4)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	III区	
	11	須恵器	壺	壺	(27.4)	-	(1.9)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	I区	I区	
	12	須恵器	壺	壺	-	(6.5)	(10.9)	-	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II-III区	グリット#24 検出	

第9表 H5 (2) ~H9 (1) 遺物一覧表

遺構	番号	種類	器種	法		量		調整	文	様	備	考	出土位置	
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	(g)							
H9	13	土師器	杯	14.7	8.2	5.4		ミガキ→黒色処理	横ナデ→底部手持ヘラケズリ	墨書あり	完全実測		No.7	
	14	土師器	杯	-	(10.6)	(1.1)		ミガキ	底部ヘラケズリ→ミガキ		回転実測		Ⅲ区	
	15	土師器	甕	19.6	3.8	26.7		口縁横ナデ→胴部ヘラナデ→ナデ	胴部ヘラケズリ→口縁横ナデ→底部ヘラケズリ		完全実測		No.4	
	16	土師器	甕	(19.0)	-	(5.8)		口縁横ナデ→底部ヘラナデ→ナデ	胴部ヘラケズリ→口縁横ナデ		回転実測		Ⅳ区	
	17	鉄器	斧	10.5	5.0	3.3	270.0						No.10	
	18	鉄器	紡錘車	(23.7)	5.6	0.7	54.0						No.2	
	19	鉄器	紡錘車	(21.0)	4.8	0.8	47.0						No.1	
	20-1	鉄器	刀子	15.0	1.1	0.4	13.0							No.9
	20-2	青銅	口金物	1.1	0.4	0.1	0.3							No.9
	21	鉄器	刀子	15.5	1.1	0.6	17.0							No.3
	H10	1	須恵器	蓋	-	-	(1.6)		転用によるミガキ	天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付		完全実測	転用か? つまみ底32	
		2	須恵器	壺	(20.0)	-	(2.2)		横ナデ	タタキ目 横ナデ		回転実測		Ⅳ区
		3	須恵器	壺か甕	-	-	(8.1)		横ナデ	横ナデ後衝波状文・ヘラ描横線		回転実測		Ⅳ区
		4	須恵器	甕	-	-	-		ナデ→黒色	タタキ目		拓本		Ⅳ区
		5	土師器	杯	(13.8)	-	(3.8)		横ナデ→放射状暗文	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区
		6	土師器	杯	-	(8.8)	(0.7)		縄内系暗文	口縁下部・底部手持ヘラケズリ		回転実測		Ⅳ区
		7	土師器	杯	-	-	-		ミガキ→黒色処理	ミガキ→口縁黒色処理		破片実測		Ⅳ区
8		土師器	壺	(20.4)	-	(3.6)		口縁横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		Ⅲ区	
9		土師器	甕	(17.2)	-	(5.3)		横ナデ	横ナデ		回転実測		カマド	
10		土師器	甕	-	(9.0)	(3.5)		ヘラナデ	ミガキ→底部ヘラケズリ		回転実測		Ⅱ区	
11		鉄器	刀子	(7.5)	1.0	0.3	6.0						No.1	
H12	12	縄文	深鉢	-	-	-		ナデ	縄文沈線		拓本		Ⅲ区	
	1	須恵器	角釘	(3.1)	0.3	0.4	1.0						P.10	
H13	1	須恵器	蓋	(14.4)	-	(1.8)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅳ区	
	2	須恵器	杯	(12.1)	-	(1.7)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅰ区	
	3	須恵器	杯	-	(10.0)	(1.5)		口縁横ナデ	口縁下部ヘラケズリ→底部回転ヘラケズリ		回転実測		Ⅲ区	
	4	須恵器	杯	-	(7.0)	(1.1)		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部手持ヘラケズリ		回転実測		Ⅱ区	
	5	須恵器	高台付杯	-	7.5	(1.2)		ナデ	底部回転添切り後高台貼付		完全実測	土製円板に転用	検出	
	6	須恵器	甕	-	(10.0)	(1.2)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅳ区	
	7	土師器	甕	-	-	-		横ナデ	横ナデ		破片実測		Ⅰ・Ⅱ区	
	8	土師器	甕	(13.6)	-	(3.7)		横ナデ	横ナデ 胴部ヘラケズリ		回転実測		Ⅲ区	
	1	須恵器	壺	(18.2)	-	(4.5)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅲ区	
	3	土師器	杯	(11.4)	-	(4.5)		ナデ	タタキ目		拓本		Ⅰ区	
H14	4	土師器	甕	-	-	-		横ナデ	口縁横ナデ→底部ミガキ		回転実測		Ⅱ区	
	5	鉄器	飾金具	3.2	3.2	0.8	4.0		横ナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測		Ⅰ区	
	1	須恵器	蓋	(15.0)	-	(1.8)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅳ区	
	2	須恵器	蓋	(17.3)	-	(1.4)		横ナデ	横ナデ→天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付		回転実測		Ⅱ区	
	3	須恵器	杯	13.3	7.1	4.0		横ナデ	横ナデ 自然軸付着		回転実測		Ⅱ区	
	4	須恵器	杯	(13.8)	(8.5)	(4.1)		横ナデ	横ナデ→底部手持ヘラケズリ		完全実測		No.1	
	5	須恵器	杯	(14.4)	(18.4)	(3.9)		横ナデ	横ナデ→底部手持ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区	
	6	須恵器	杯	14.3	(8.3)	(4.6)		横ナデ	横ナデ→杯下部・底部手持ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区	
	7	須恵器	杯	-	(9.1)	(0.8)		横ナデ	横ナデ→底部手持ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区	
	8	須恵器	壺	(9.4)	-	(1.8)		横ナデ	横ナデ		回転実測		検出	
H15	9	須恵器	小壺	-	-	(3.1)		横ナデ	横ナデ		回転実測		Ⅰ区	
	10	土師器	小壺	-	4.0	(6.3)		横ナデ	横ナデ→体・底部ヘラケズリ		回転実測		Ⅱ区	
	11	土師器	甕	(19.7)	-	(7.6)		横ナデ	横ナデ→胴部ヘラケズリ		完全実測		Ⅱ区	
	12	鉄器	銅?	(5.5)	(4.9)	0.5	61.0		口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		Ⅱ区	
	13	鉄器	刀子	(8.0)	1.0	0.4	8.0						No.2	
													Ⅰ区床	
														Ⅰ区

第10表 H9 (2) ~ H15遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器類	器種	法		重量 (g)	調整面	文様	備考	出土位置
					口径(長)	底径(幅)					
H15 H16	14	石器	砥石	蓋	9.7	8.2	4.2	481.42			
	1	須恵器	杯	蓋	—	—	(1.2)		つまみ貼付	流紋岩	No.3
	2	須恵器	杯	杯	13.5	8.4	4.9		ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	完全実測 つまみ径3.3	IV区
	3	須恵器	杯	杯	(13.0)	(4.8)	4.6		ロクロナデ→底部ヘラナデ	完全実測	No.2
	4	須恵器	杯	杯	(15.9)	—	(3.6)		ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区2層 検出 カマド
	5	須恵器	杯	杯	—	7.0	(1.5)		ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→ハケ目	完全実測 拓本	I区 IV区
	6	須恵器	高台付杯	高台付杯	—	(11.4)	(1.2)		高台貼付	回転実測	検出
	7	須恵器	壺	壺	(11.2)	—	(4.9)		ロクロナデ	回転実測	I区
	8	須恵器	鉢	鉢	—	10.2	(6.9)		ロクロナデ→高台貼付 自然釉付着	回転実測	I区
	9	須恵器	鉢	鉢	(22.0)	—	(4.6)		ロクロナデ→ヘラ描き横線	回転実測	IV区
	10	須恵器	?	?	(11.4)	—	(4.0)		横ナデ	回転実測	IV区
	11	須恵器	甕か壺	甕か壺	—	—	—		ロクロナデ	拓本	Ⅱ区
	12	須恵器	甕	甕	(35.0)	—	(21.9)		ハケ目→口縁横ナデ	回転実測	カマド 検出 No.4 M3
	13	須恵器	壺	壺	—	—	—		ロクロナデ	拓本	I区
	14	須恵器	甕	甕	—	—	—		タタキ目→横ナデ	拓本	IV区 検出
	15	須恵器	甕	甕	—	—	—		横ナデ	拓本	検出
	16	須恵器	甕	甕	—	—	—		アテ具痕	拓本	IV区
	17	土師器	杯	杯	14.2	—	4.8		口縁横ナデ→底部ヘラケズリ 磨耗	完全実測	カマド No.4
	18	土師器	杯	杯	(13.4)	—	(3.8)		横ナデ→暗文	回転実測	I区
	19	土師器	鉢	鉢	—	—	—		ミガキ→黒色処理	破片実測	Ⅱ区4層 Ⅲ区1層
	20	土師器	鉢	鉢	16.4	—	6.5		口縁横ナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	IV区 No.1
	21	土師器	甕	甕	(24.0)	—	(2.9)		横ナデ	回転実測	検出
22	土師器	甕	甕	16.0	—	(14.3)		ロクロナデ→ヘラナデ	回転実測	カマド カマド脇方 検出	
23	鉄器	刀子	刀子	(2.4)	1.0	0.3	2.0				検出
H17	1	須恵器	杯	杯	—	(7.2)	(1.8)		ロクロナデ 磨耗	回転実測	Ⅱ区
	2	須恵器	壺か甕	壺か甕	—	—	—		タタキ目	拓本	カマド Ⅱ区
	3	須恵器	壺か甕	壺か甕	—	—	—		タタキ目	拓本	I・Ⅱ区
	4	土師器	甕	甕	20.8	4.9	26.3		口縁横ナデ→胴・底部ヘラケズリ	完全実測	カマド No.1 No.2
	5	土師器	甕	甕	19.8	5.4	28.0		口縁横ナデ→胴・底部ヘラケズリ	完全実測	床 カマド No.3
	6	石器	槌	槌	18.2	21.2	11.5	6190.0			安山岩 No.5
H18	1	須恵器	杯	杯	—	(6.4)	(1.3)		ロクロナデ→底部回転系切り	回転実測	IV区
	2	須恵器	杯	杯	(14.0)	(6.3)	4.2		ロクロナデ	回転実測	カマド
	3	須恵器	杯	杯	(13.4)	(6.2)	4.9		ロクロナデ 見込磨耗	回転実測	No.12
	4	須恵器	杯	杯	(12.8)	(7.3)	(3.5)		ロクロナデ→底部回転系切り 赤色顔料付着	回転実測	カマド
	5	須恵器	杯	杯	12.2	7.1	3.4		ロクロナデ→底部回転系切り	完全実測	No.4
	6	土師器	杯	杯	14.4	7.2	4.5		ロクロナデ→底部回転系切り	完全実測	No.6 IV区
	7	土師器	杯	杯	(13.4)	(6.0)	3.8		ロクロナデ 杯部手持ヘラケズリ 底部回転系切り	回転実測	No.8 No.10
	8	土師器	杯	杯	(13.0)	5.0	(4.1)		ロクロナデ→底部回転系切り 墨書	回転実測	床 堀方
	9	土師器	杯	杯	(14.0)	(6.4)	4.7		ロクロナデ→底部回転系切り	回転実測	カマド Ⅱ区
	10	土師器	杯	杯	(18.0)	—	(4.2)		ロクロナデ	回転実測	カマド
	11	土師器	碗	碗	15.0	7.6	5.5		ロクロナデ→底部回転系切り→高台貼付	完全実測	カマド No.1 IV区
	12	土師器	碗	碗	15.4	(7.7)	6.0		ロクロナデ→底部回転系切り→高台貼付	完全実測	No.11 No.7 カマド
	13	土師器	杯	杯	—	5.8	(2.1)		ロクロナデ→底部回転系切り	回転実測	カマド
	14	土師器	碗	碗	—	—	(1.5)		ロクロナデ→底部回転系切り→高台貼付	完全実測	カマド
	15	土師器	皿	皿	(14.0)	—	(1.9)		ロクロナデ→底部回転系切り→高台貼付	回転実測	No.2
	16	土師器	小甕	小甕	(6.0)	—	(2.2)		横ナデ	回転実測	カマド
	17	土師器	小甕	小甕	11.6	5.2	10.8		ロクロナデ→口縁横ナデ	完全実測	No.9 カマド Ⅱ区
	18	石器	磨石	磨石	7.7	6.3	4.7	273.78			I区
19	石器	砥石	砥石	12.8	4.4	2.9	216.54			No.3	
20	石器	砥石	砥石	7.7	8.2	3.8	302.97			No.5	

第11表 H15~H18遺物一覧表

遺構番号	種類	器種	法量 (cm)		調整面	文様	備考	出土位置
			口径(底)	底径(幅)				
F5	1	青銅	5.8	2.2	1.6	34.0		
F7	1	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ→胴部タタキ目	破片実測 F5P1
F10	1	須恵器	—	—	—	—	平行タタキ目	F7P5
F11	1	須恵器	—	(8.0)	(0.8)	—	底部回転ヘラケズリ	F10P2
F13	2	石器	11.5	7.8	2.5	212.12		F11P12
F14	1	須恵器	15.4	—	2.8	—	口縁横ナデ→天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付	F11
F14	2	須恵器	17.6	—	4.0	—	口縁横ナデ→天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付	F13P2
F14	3	須恵器	(12.3)	—	(2.7)	—	口縁横ナデ→底部分ヘラケズリ	F14P3
F15	1	須恵器	—	—	—	—	アテ具痕→ナデ	F14P2
F15	2	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ→胴部ナデ	F14P1
F18	1	須恵器	—	—	—	—	自然釉付着	F15P1
F21	1	土師器	—	(9.9)	(1.0)	—	平行タタキ目	F18P1
P	1	磁器	(11.0)	—	(3.2)	—	底部手持ヘラケズリ	F21P8
	2	須恵器	(21.0)	—	(2.3)	—	蓮弁文 施釉	P11
	3	須恵器	—	(7.2)	(1.7)	—	口縁横ナデ	P17
D2	1	土師器	—	—	(1.9)	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	P17
D6	1	須恵器	(13.1)	—	(3.5)	—	ヘラケズリ	
	2	須恵器	—	(8.6)	(1.6)	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
	3	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
	4	土師器	7.5	4.5	6.1	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
	5	土師器	12.5	6.1	12.6	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	No.1
	6	土師器	12.5	6.2	4.0	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	No.6・7
	7	土師器	12.6	5.5	4.0	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	No.2・3・5
D7	1	弥生	(18.0)	—	(17.5)	—	口縁横ナデ	No.3・4
M1	1	須恵器	(15.6)	—	(1.5)	—	口縁横ナデ→胴部細密条痕文	No.1
	2	須恵器	—	(8.2)	(2.5)	—	口縁横ナデ→天井部回転ヘラケズリ	
	3	須恵器	(12.1)	—	(2.8)	—	口縁横ナデ	
	4	須恵器	—	—	(12.0)	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
	5	須恵器	—	(9.0)	(6.4)	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
	6	石器	1.8	1.3	0.3	0.49	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	
M2	1	須恵器	(14.0)	—	(2.2)	—	口縁横ナデ→天井部回転ヘラケズリ	黒曜石 先端・右側欠損
	2	須恵器	(20.2)	—	(2.5)	—	口縁横ナデ	回転実測
	3	土師器	—	(4.0)	(1.3)	—	ヘラケズリ	回転実測
	4	須恵器	—	—	—	—	ナデ 自然釉付着	回転実測
M3	1	土師質	(8.9)	—	(2.1)	—	口縁横ナデ	拓本
	2	土師質	—	(6.8)	(1.7)	—	暗文	回転実測 あ・い13
	3	須恵器	(26.1)	—	(5.0)	—	口縁横ナデ→櫛目	回転実測 N
	4	土師質	(25.7)	—	(1.8)	—	口縁横ナデ	回転実測 う・え13
	5	須恵器	—	(8.6)	(2.5)	—	口縁横ナデ	回転実測 う・え13
	6	土師器	—	(6.2)	(3.7)	—	口縁横ナデ→底部分回転ヘラケズリ	回転実測 N
	7	鉄器	(13.0)	0.7	0.5	14.0	ヘラケズリ	回転実測 N
	8	鉄器	5.5	0.4	0.4	6.0		
	9	鉄器	(3.1)	0.5	0.4	2.0		
	10	鉄器	(6.6)	0.5	0.5	5.0		
	11	鉄器	6.0	3.0	0.5	18.0		
	12	鉄器	(4.8)	0.5	0.2	3.0		
M6	1	陶器	—	—	—	—		う・え13
	2	須恵器	—	(7.0)	(5.5)	—	口縁横ナデ 施釉	No.1
	3	須恵器	(22.9)	—	(3.1)	—	口縁横ナデ 底部回転ヘラケズリ	う31
	4	須恵器	(23.9)	—	(4.1)	—	口縁横ナデ	い31
							口縁横ナデ	お32

第12表 F5・F7・F10・F11・F13~15・F18・F21、P、D2・D6・D7、M1~3・M6 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法	量	(cm)	器高(厚)	(g)	調	内	整	面	文	外	様	面	備	考	出土位置	
M6	5	須恵器	壺	-	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	破片実測	お32	お32		
	6	土師器	杯	-	-	-	-	-	-	黒色処理	黒色処理	黒色処理	黒色処理	ハラケズリ	ハラケズリ	破片実測	破片実測	か32	か32		
	7	縄文	甕	-	-	-	-	-	-	磨耗	磨耗	磨耗	磨耗	ハケ目	ハケ目	拓本	拓本	う31	う31		
	M7	1	陶器	角釘	(2.3)	-	-	-	-	-	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	破片実測	破片実測	皿区	皿区	
		2	鉄器	角釘	(2.3)	0.2	0.2	0.5	0.5	0.5	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	回転実測	あ22	あ22	
	M9	1	須恵器	壺	-	(13.1)	(6.3)	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	回転実測	え25	え25	え25
		2	不明	杯	-	(8.4)	(4.7)	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	タタキ目	タタキ目	拓本	拓本	お36	お36	お36
3		須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	アテ具痕	アテ具痕	アテ具痕	アテ具痕	タタキ	タタキ	拓本	拓本	表探	表探	表探	
4		須恵器	壺	-	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	回転実測	表探	表探	表探	
5		須恵器	壺	(11.8)	-	(4.4)	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	拓本	拓本	検出	検出	検出	
6		須恵器	杯	-	-	-	-	-	-	剥離	剥離	剥離	剥離	ハラケズリ	ハラケズリ	拓本	拓本	検出	検出	検出	
7		弥生	壺	-	(13.4)	(2.9)	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	回転実測	う35	う35	う35	
8		土師質	内耳	-	-	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ミガキ	ミガキ	破片実測	破片実測	う35	う35	う35	
9		土師質	内耳	-	-	-	-	-	-	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	横ナデ	横ナデ	破片実測	破片実測	お36	お36	お36	
10		陶器	杯	-	-	-	-	-	-	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	破片実測	破片実測	お35	お35	お35	
11		陶器	杯	-	-	-	-	-	-	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	鉄軸	破片実測	破片実測	お35	お35	お35	
12		弥生	甕	-	-	-	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	拓本	拓本	検出	検出	検出	
13		弥生	甕	-	-	-	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	拓本	拓本	検出	検出	検出	
14		弥生	甕	-	-	-	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	拓本	拓本	検出	検出	検出	
15		鉄器	刀子	-	(4.1)	0.8	0.3	4.0	4.0	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	細密条痕	細密条痕	あ12	あ12	あ12	
16		鉄器	角釘	-	(4.4)	0.6	0.4	3.0	3.0	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	細密条痕	細密条痕	え24	え24	え24	
17		鉄器	刀子	-	(6.5)	1.3	0.4	17.0	17.0	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	細密条痕	細密条痕	え37	え37	え37	

第13表 M6 (2)・M7・M9、グリット遺物一



H1 遺物出土状況 (南より)



H1 カマドの遺物 (南より)



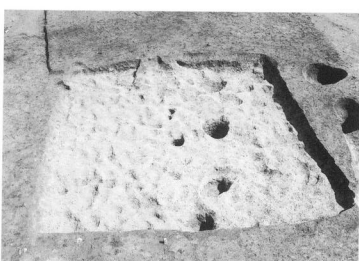
H1 遺物 (北より)



H1 カマド (東より)



H1 カマド堀方 (西より)



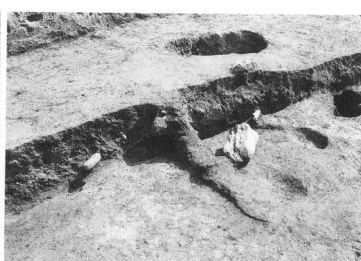
H1 堀方 (南より)



H3 遺物 (北より)



H3 炭 (南より)



H3 炭 (北より)



H3 堀方 (西より)



H4 カマド (南より)



H4 カマド堀方 (南より)



H5 北側セクション (東より)



H5 南側完掘 (西より)

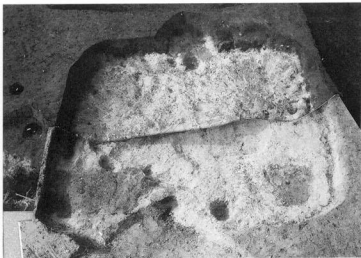


H5 カマド (西より)

図版二
H5・H7・H9・H11号住居址



H5 カマド堀方 (西より)



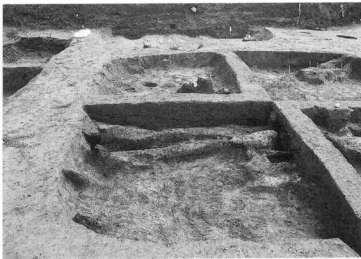
H5 堀方 (南より)



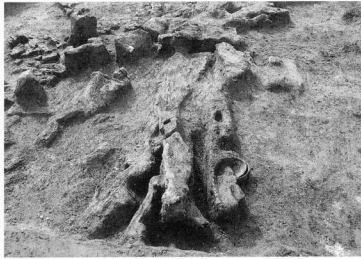
H7 カマド (南より)



H7 カマド堀方 (南より)



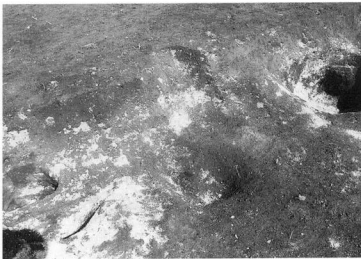
H9 I区 (北より)



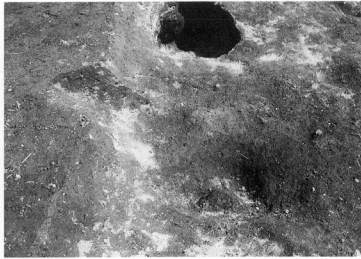
H9 遺物と炭 (東より)



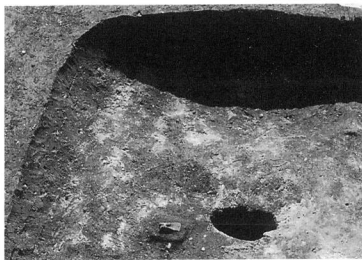
H9 完掘 (北より)



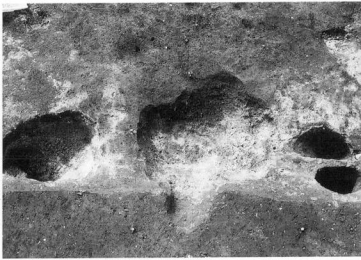
H9 カマド (南より)



H9 カマド (西より)



H9 鉄斧 (北より)



H9 カマド堀方 (北より)



H9 堀方 (北より)



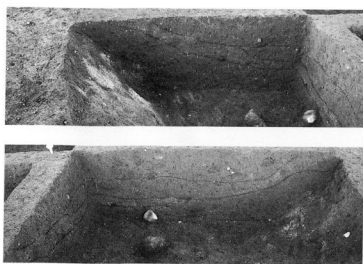
H11 カマド (東より)



H11 カマド堀方 (東より)



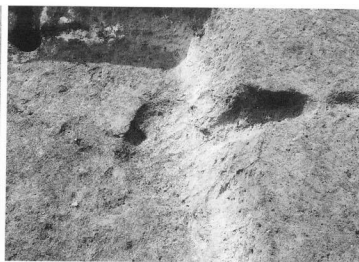
H11 堀方 (南東より)



上からH13 Ⅲ区セクション(南より 西より)



H13 カマド堀方(南より)



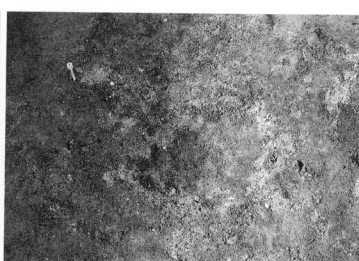
H13 カマド堀方(東より)



H16 カマド(南より)



H16 床炭化物(東より)



H16 炭化物範囲 完掘(東より)



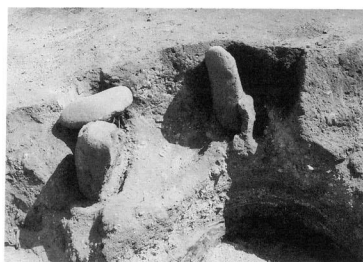
H16 完掘(北より)



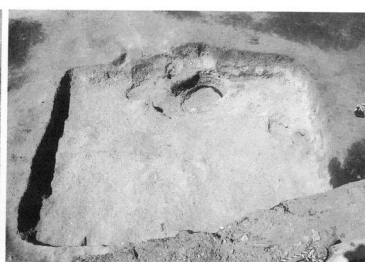
H17 カマド遺物出土状況(南より)



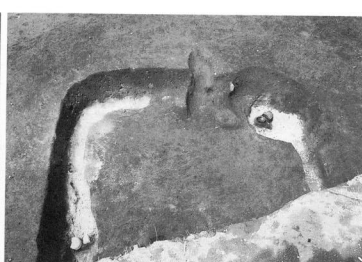
H17 遺物出土状況(搦臼)(北より)



H17 カマド堀方(南より)



H17 堀方(南より)



H18 完掘(南より)



H18 遺物出土状況(南より)

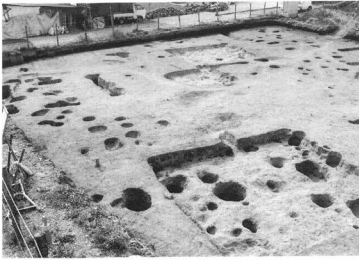


H18 カマド堀方(南より)



H18 堀方(南より)

図版四
F1
F7
F10
F13
F15
F16
F21
掘立柱建物址



掘立柱建物址群 (南東より)



F1 完掘 (南より)



F2 完掘 (北より)



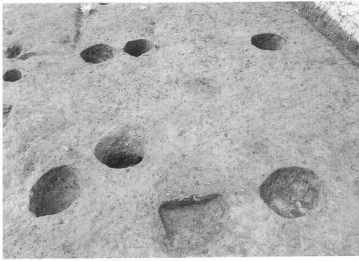
F3 完掘 (東より)



F4 完掘 (南より)



F5 完掘 (北より)



F6 完掘 (南より)



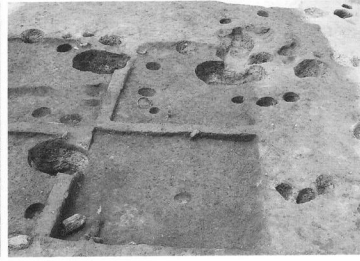
F7 完掘 (西より)



F10 完掘 (北より)



F11 完掘 (南より)



F12 完掘 (南より)



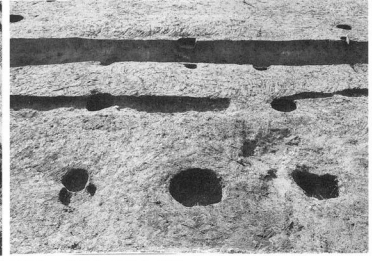
F13 完掘 (東より)



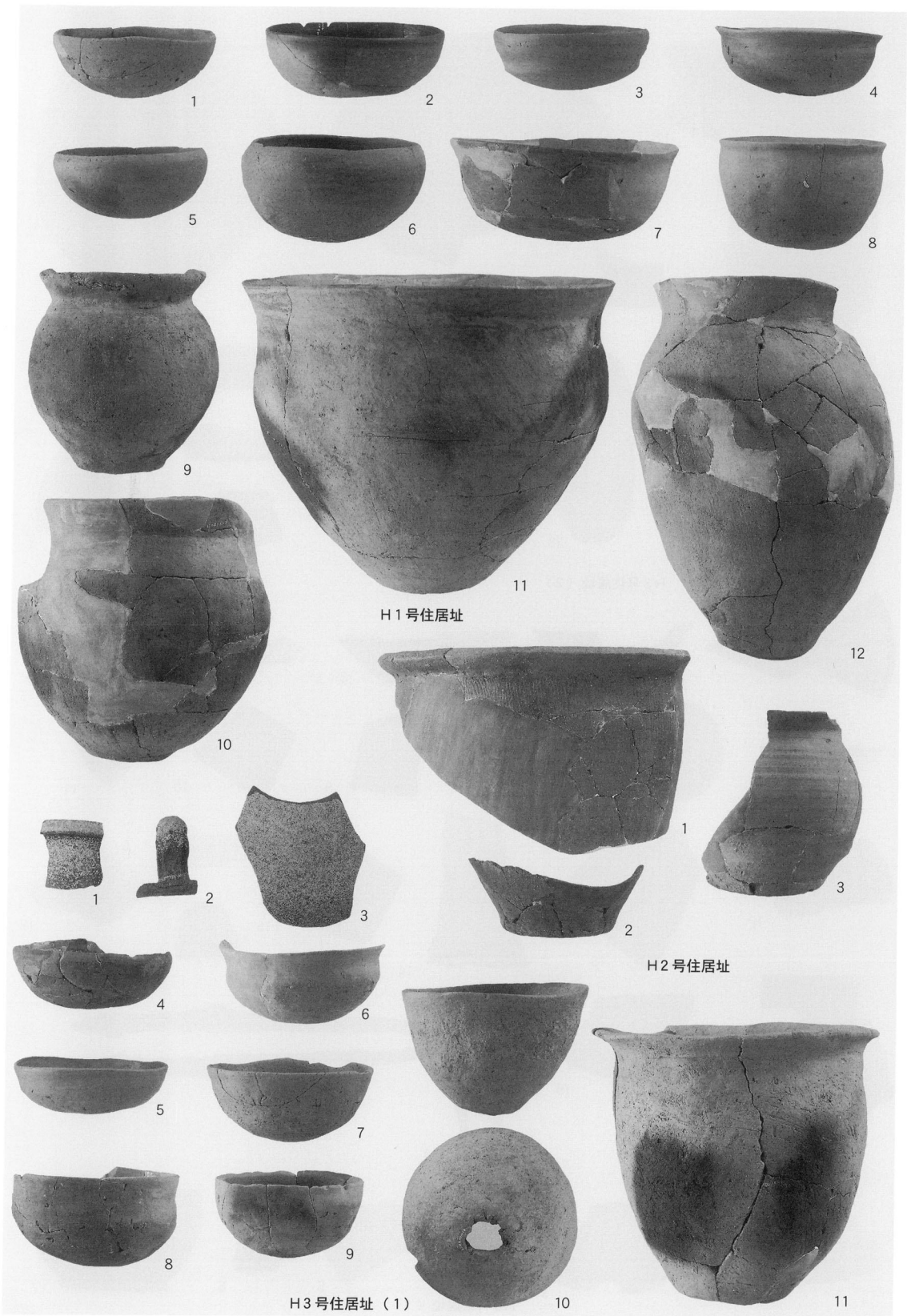
F15 完掘 (東より)

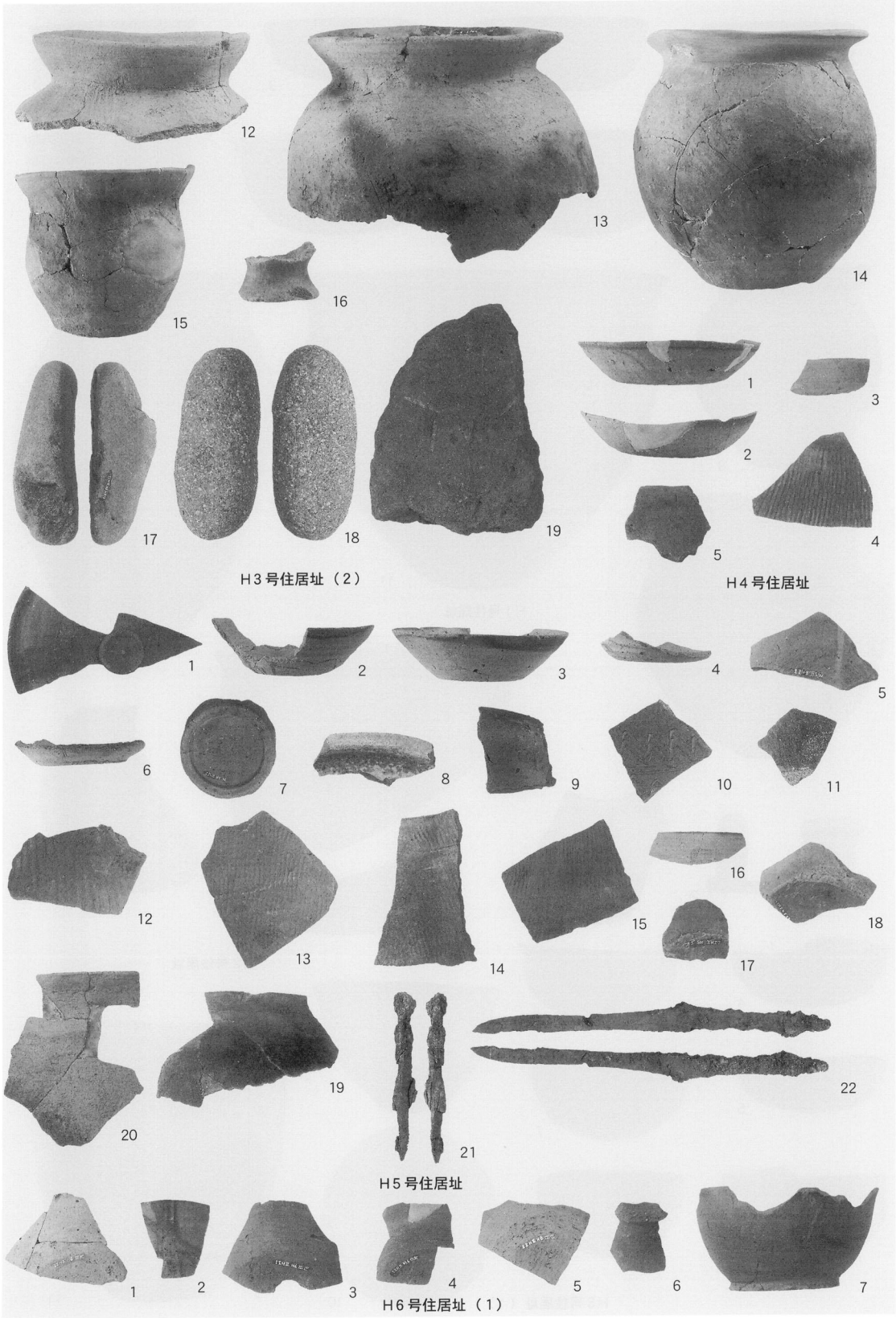


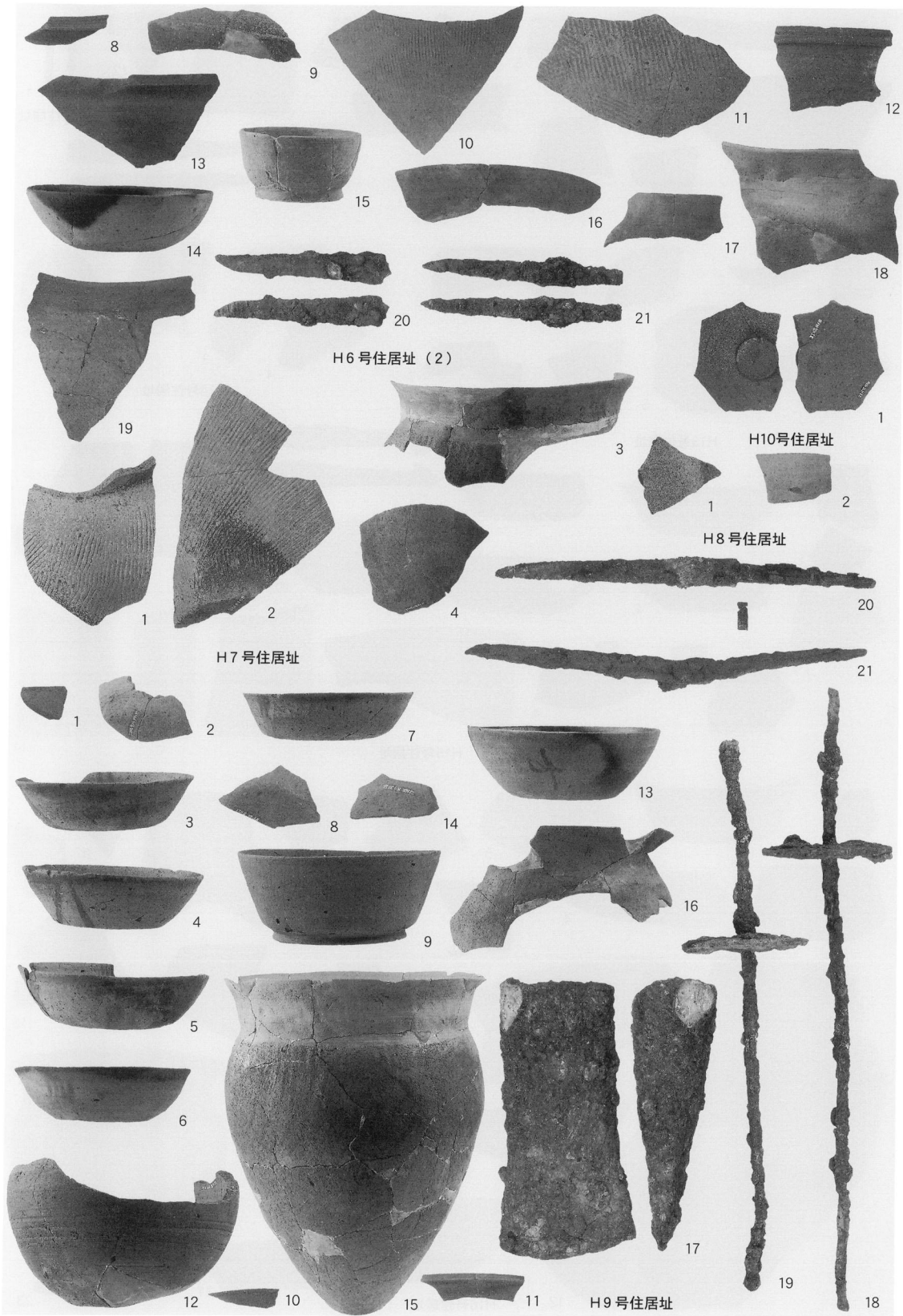
F16 完掘 (南より)

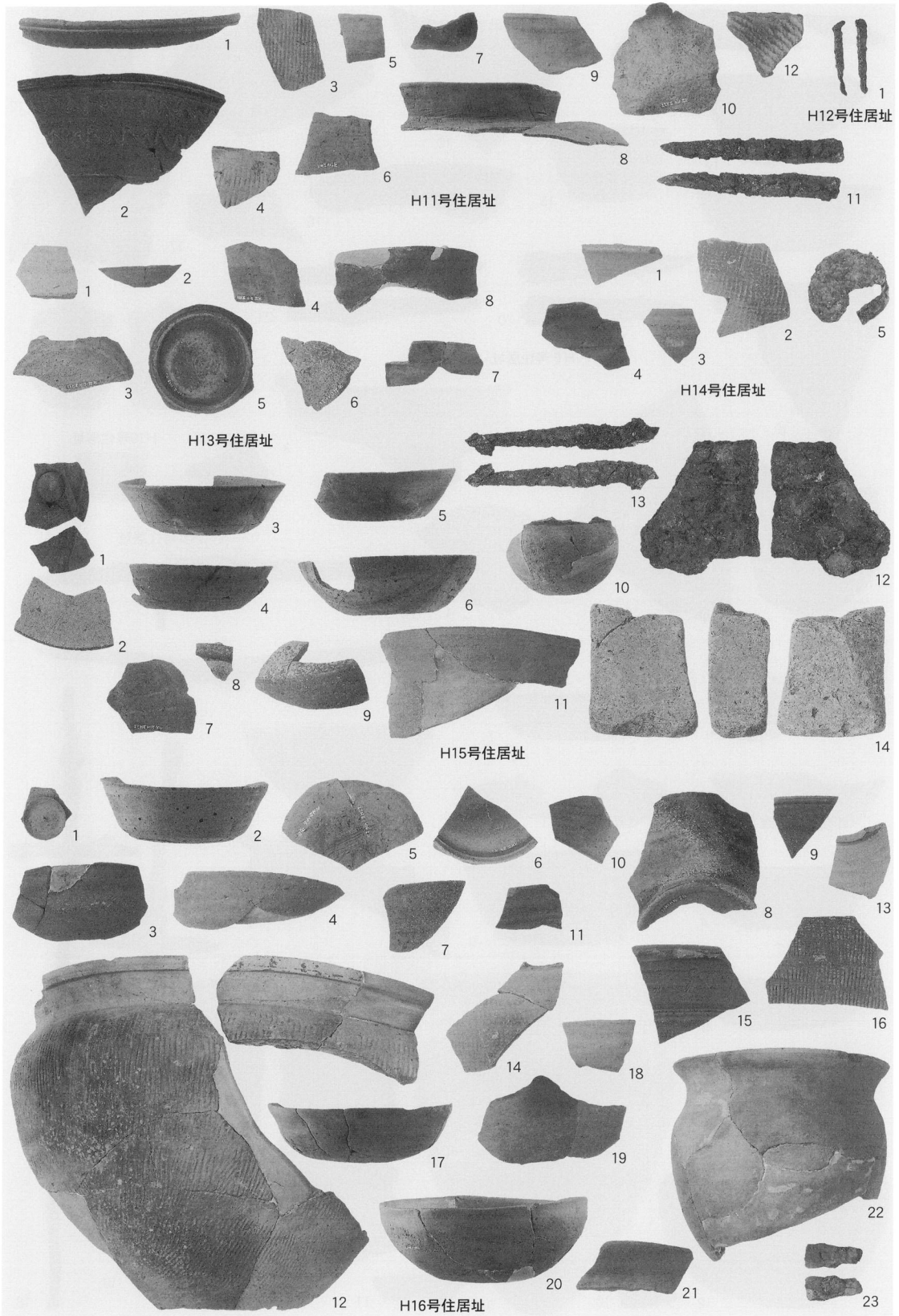


F21 完掘 (東より)



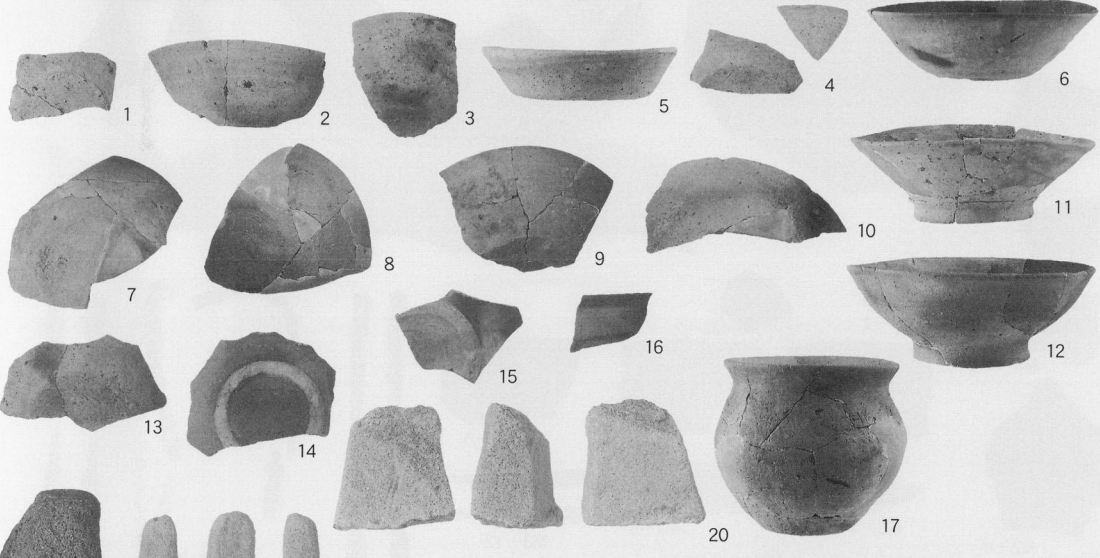




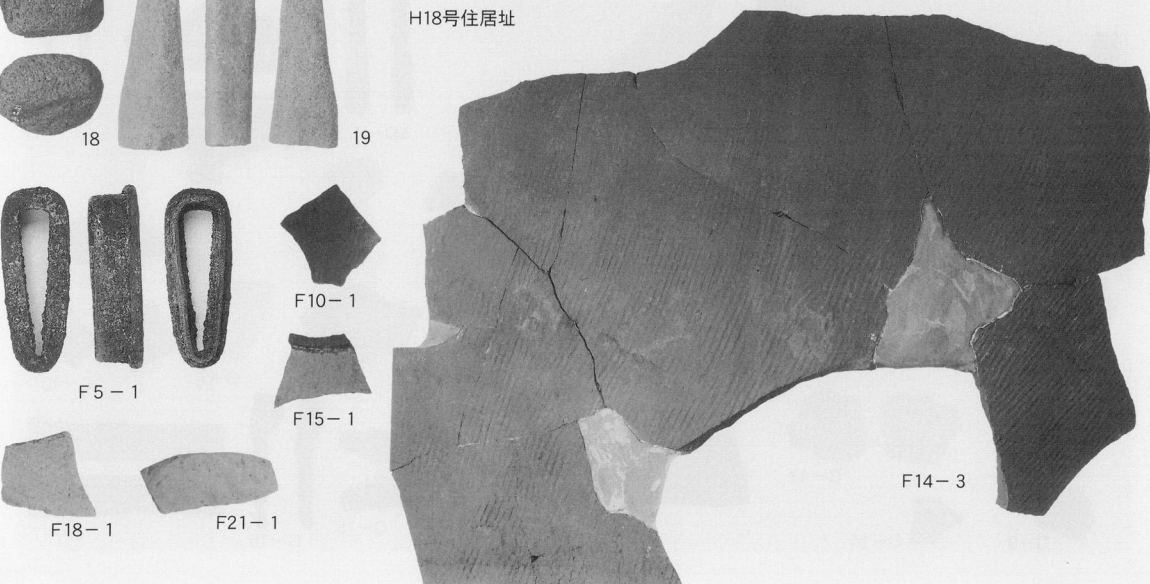


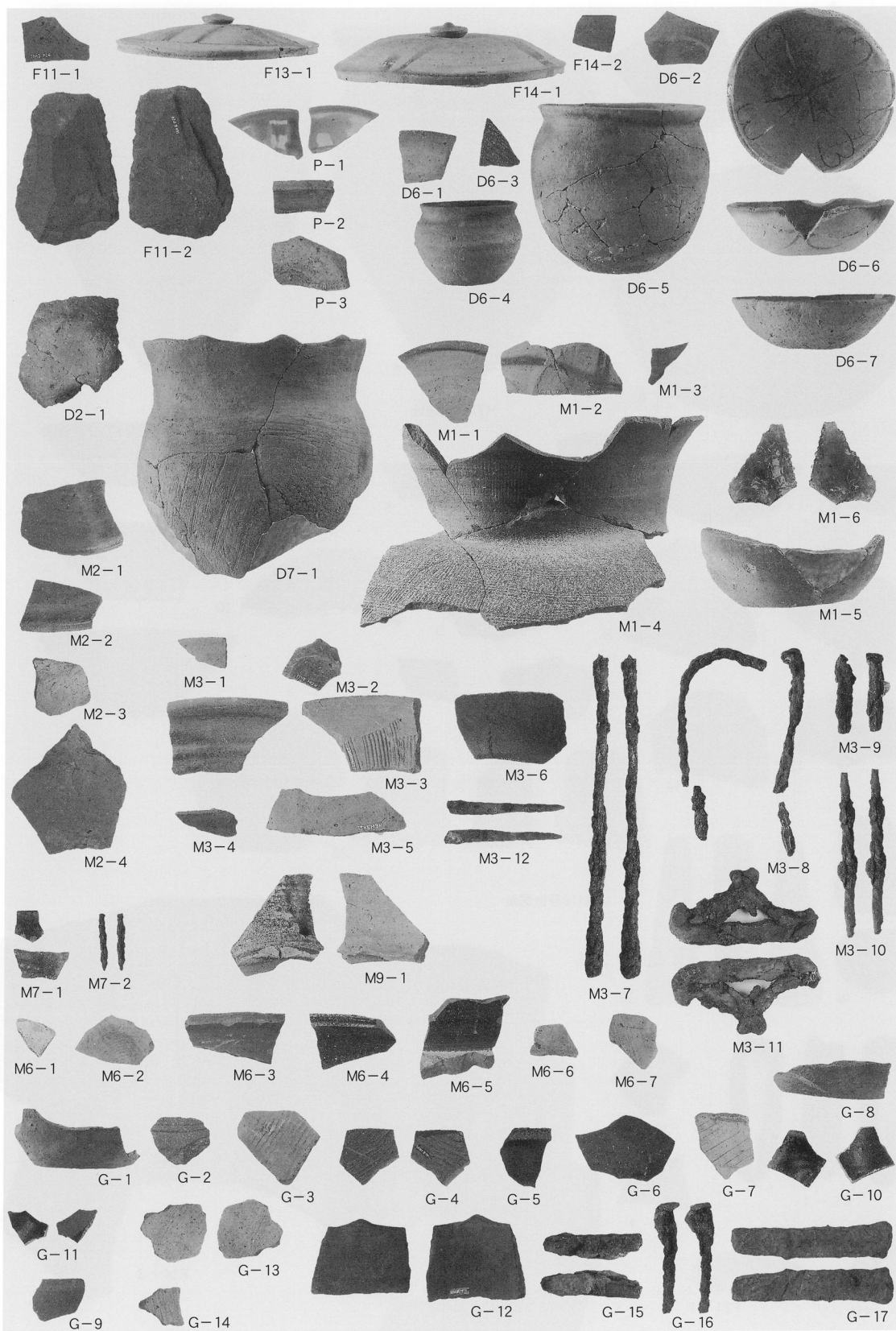


H17号住居址

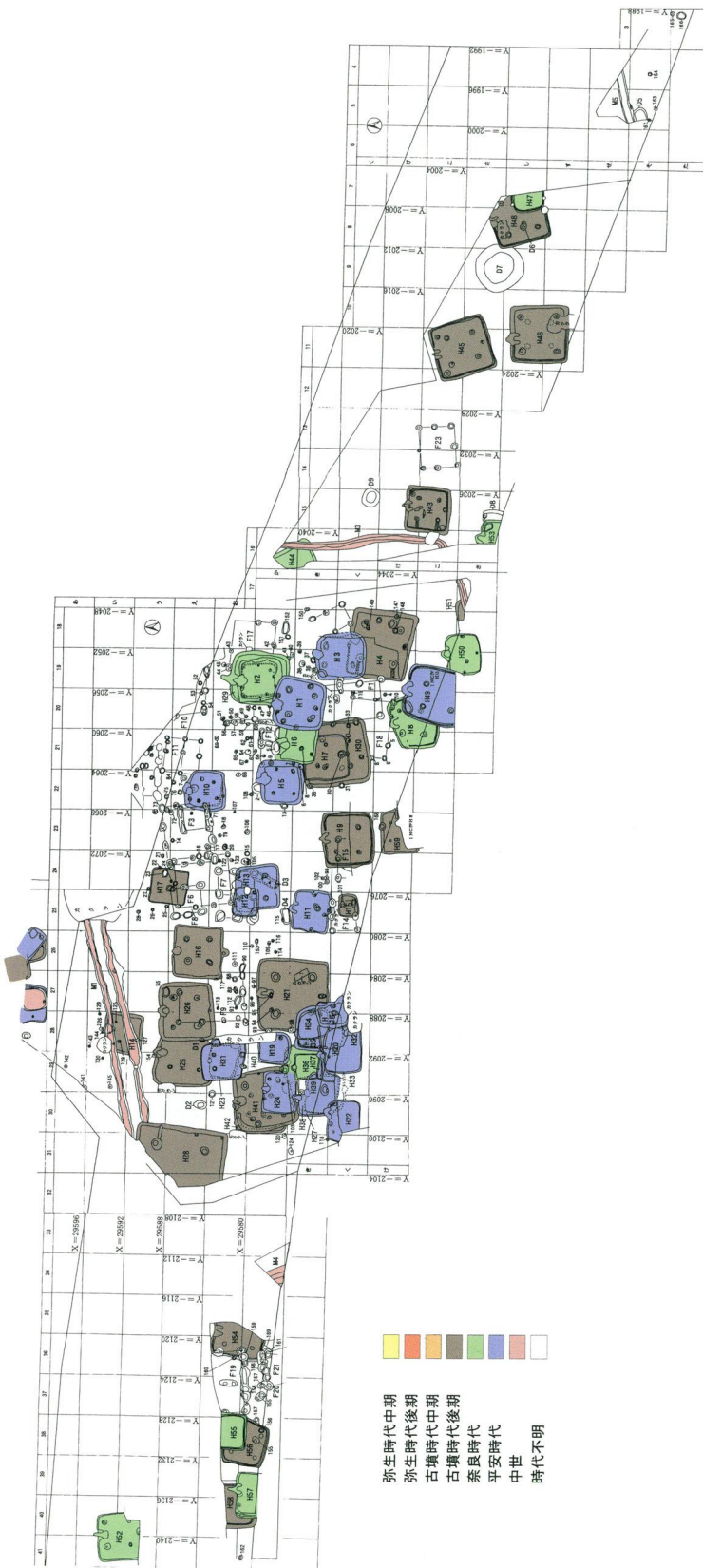


H18号住居址

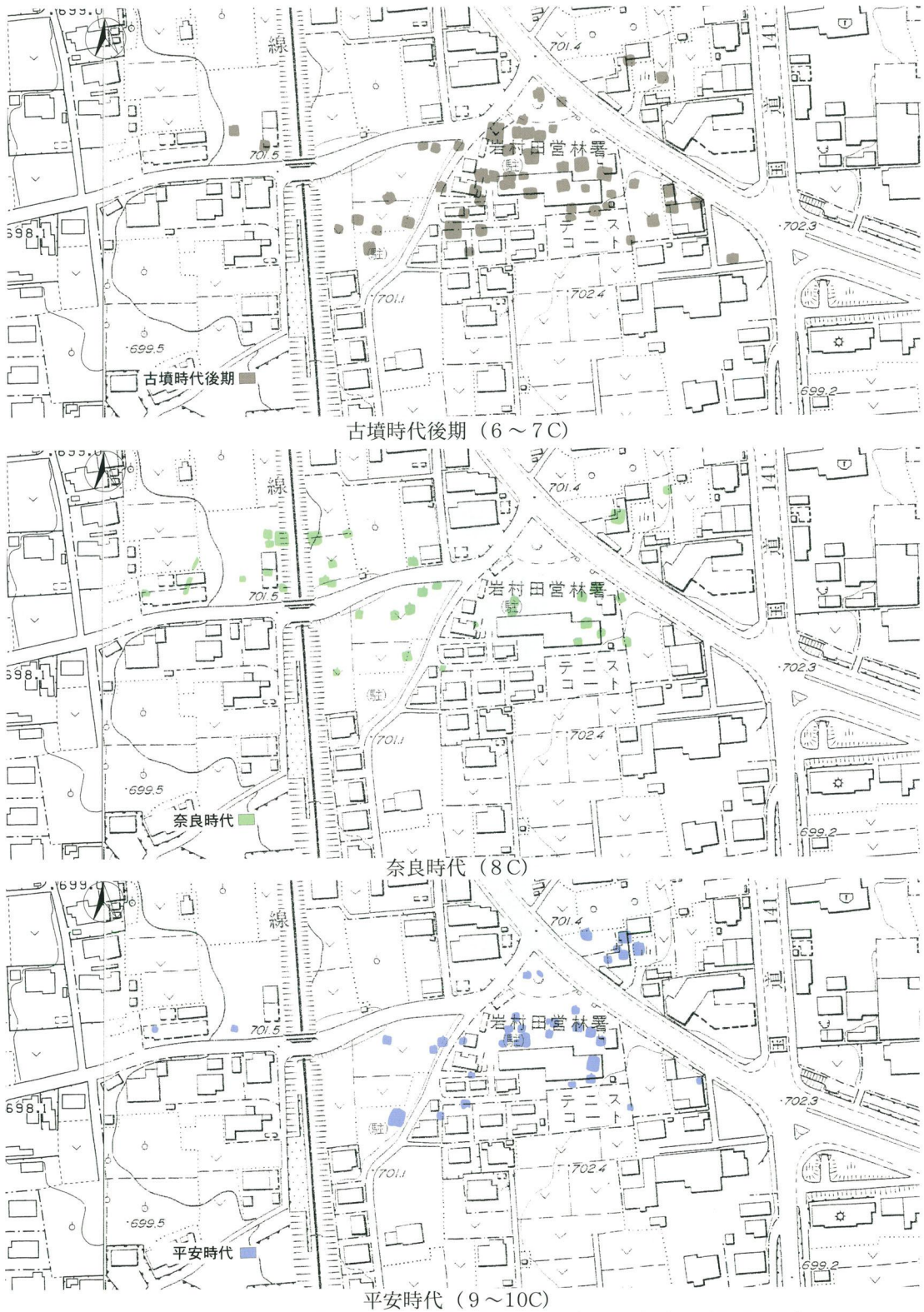




岩村田遺跡群 にしょう かまち 西八日町遺跡Ⅲ



第1図 西八日町遺跡Ⅲ (INCⅢ) 全体図 (1:600)



第2図 東大門先遺跡Ⅱ・西八日町遺跡Ⅲ・Ⅶ竪穴住居址変遷図 (1:2,500)

第Ⅱ章 西八日町遺跡Ⅲ

第1節 竪穴住居址

(1) H4号住居址

く18グリットにあり、H3・F1・F16・単独ピットP147～149に切られる。調査は2次にわたり、東壁側を後で行っている。南北長560cm、東西長603cm、壁高は3～65cmを測り方形を呈す。H3にカマドの上部を壊されるが火床は残り、カマド前面の床には構築材の礫が見られた。

床面は砂質で上面締まっているが、床面の柱穴を探していると脆い床となる。主軸方位はN-8°-Wである。主柱穴は4個あり、400cm四方に配され、径72cm～88cm、深さ80・84cmの円形のピットの堀方に、径26～28cmの柱痕を持つ。P4はピットの中位に河床礫を置いて、根太としている。

西側のP2とP3は間仕切り溝が壁から続く。南壁中央には径56cm、深さ28cmの出入り口ピットがある。P9・P10は、後のピットに切られているかと思われる。Ⅱ区床面に4個の礫と周囲に炭化物範囲があり、石製管玉が出土している。炭化物はイネ科とガマズミ属、コナラ属コナラ亜属クヌギ節と分析される。カマドのほかに火を焚いた痕跡である。南西隅の骨の種類は特定されなかった。

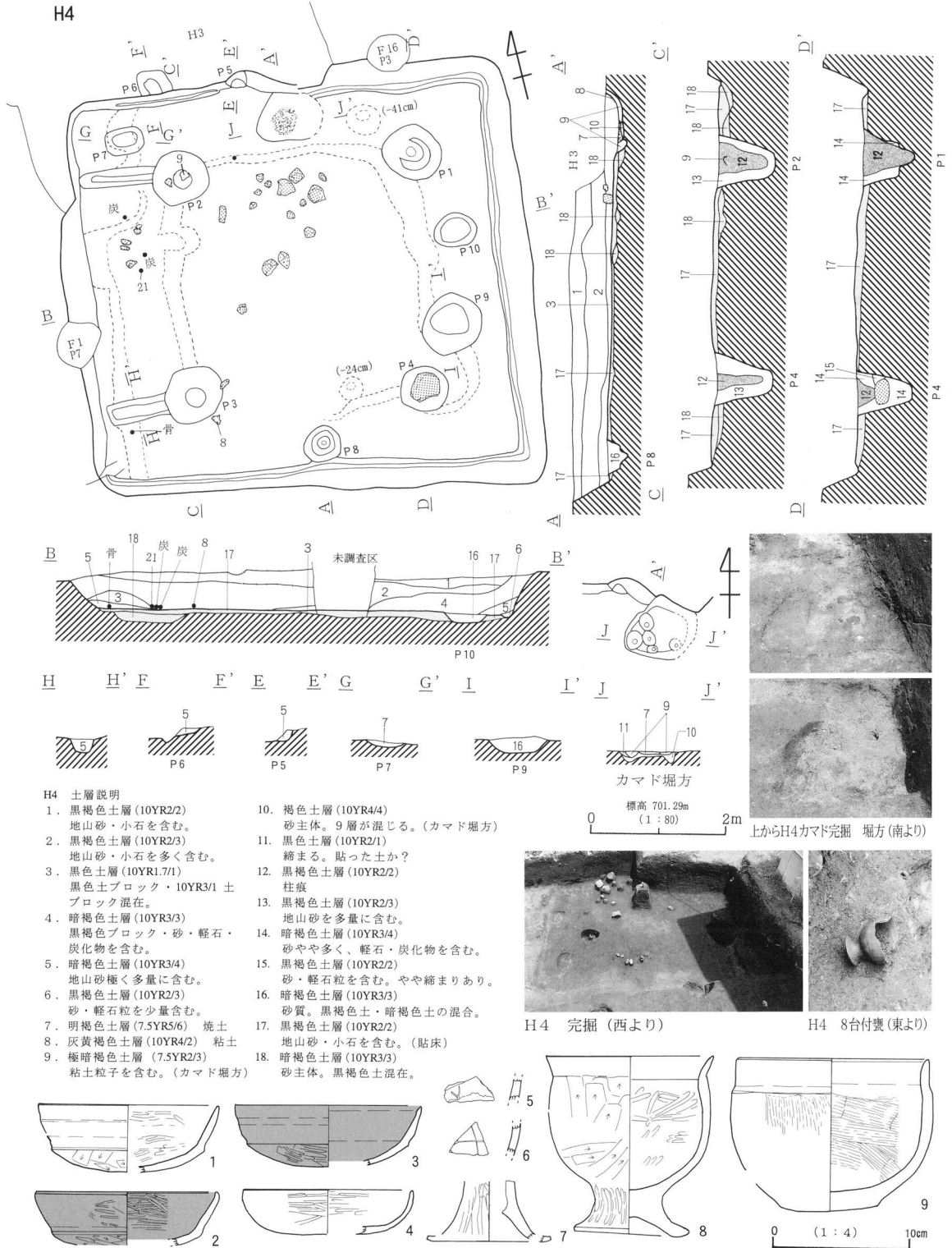
住居の堀方は中央からピット付近まで地山を高く残し、周辺が低くなっている。

出土遺物には須恵器、土師器、石製品、鉄製品がある。須恵器は断面円形の把手がある。3の土師器杯は底部が丸底を呈し、外稜を持って口縁が外傾気味に立ち上がる。口縁中位に段をもち、口縁内面端部に凹線のある杯蓋模倣の「有段口縁杯」である。内外塗りタイプの黒色処理である。2はやや厚手の模倣杯で内面はミガキ黒色処理、外面が3と同様の塗りタイプの黒色処理である。1も同様であるが黒色処理はされない。

10の甕は器肉の厚い長胴甕で、胴部外面上部はヘラナデされ下部のみヘラ削りされる。ヘラ削りから上は煤け、下は灰が付着している。石製の管玉が床面より出土する。

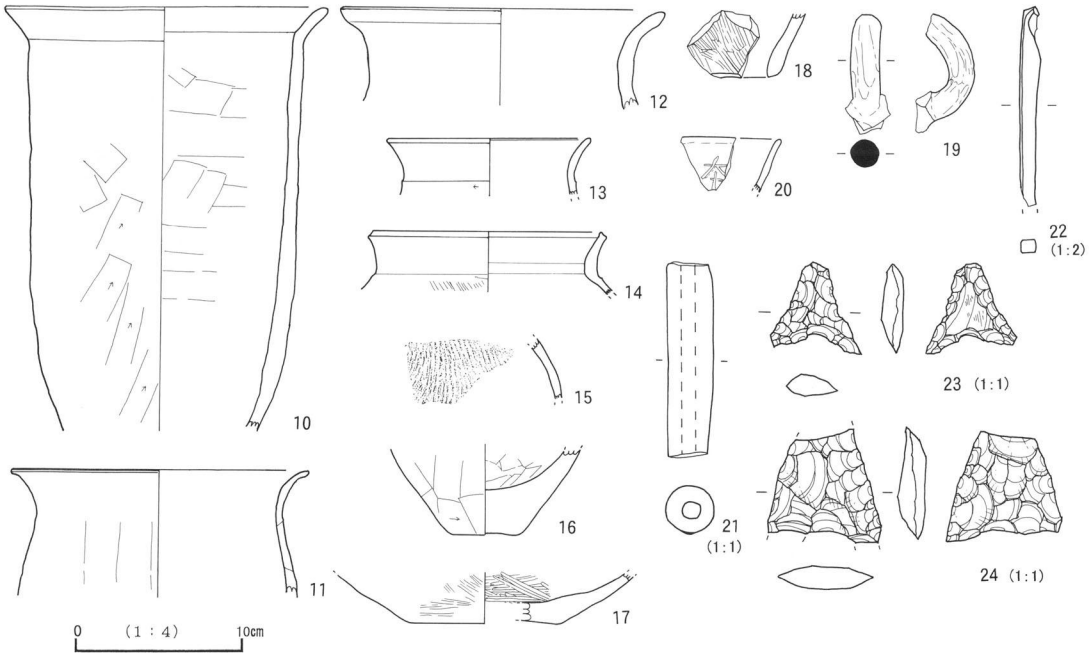
20の土師器杯は「本」の刻書があるが重複するH3の混入であろう。鉄製の角釘も同様に混入と思われる。

これらより7C代の住居址であろう。



第3図 H4号住居址(1)

H4



第4図 H4号住居址(2)

(2) H7号住居址

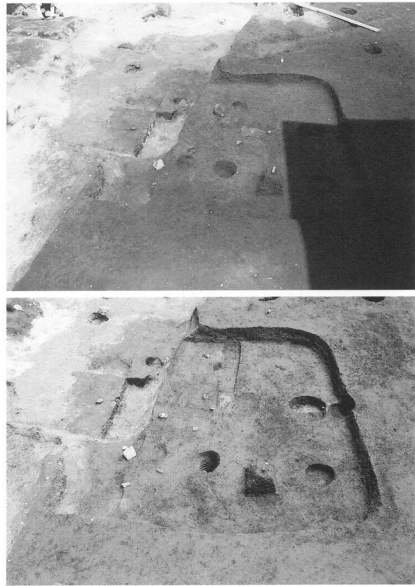
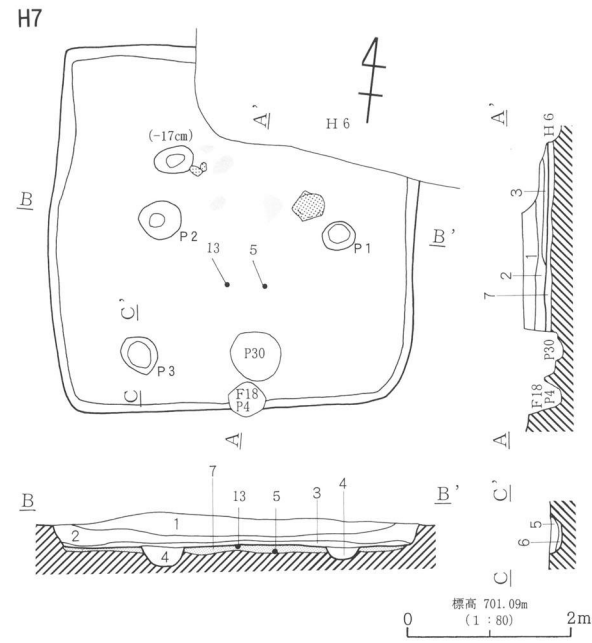
き21グリットにあり、北側でH6に、F18・単独ピットP30に切れ、H30を切る。南北長422cm、東西長424cm、壁高は0~29cmを測り方形を呈す。北側中央床面に崩壊粘土があることからカマドを北壁に持っていたと推定され、H6に切られて壊されたようである。主軸方位はN-6°-Wである。主柱穴は東西のP1・P2の2個を持つ。径40・52cm、深さ16・24cmを測るが柱痕は確認できなかった。下にH30の主柱穴と重なっているため、床が陥没した可能性がある。床は黒色土ブロックを含む土で貼ってあったが、下にH30があるためか縮まっていなかった。

出土遺物には土師器、土板、ガラス小玉、敲石がある。土師器杯1~3・11は底部に丸味は持つが平底に近い。底部から口縁が長く外形外反するものである。いずれも検出面であるため、H30に伴うものであろうか。7の小形鉢にしても、床下の出土であるため、使用していたものではない。10の「く」字形口縁の武蔵甕も検出時である。したがって本住居はH6より古く、H30より新しい古墳後期から奈良時代の遺構であるといえる。

(3) H9号住居址

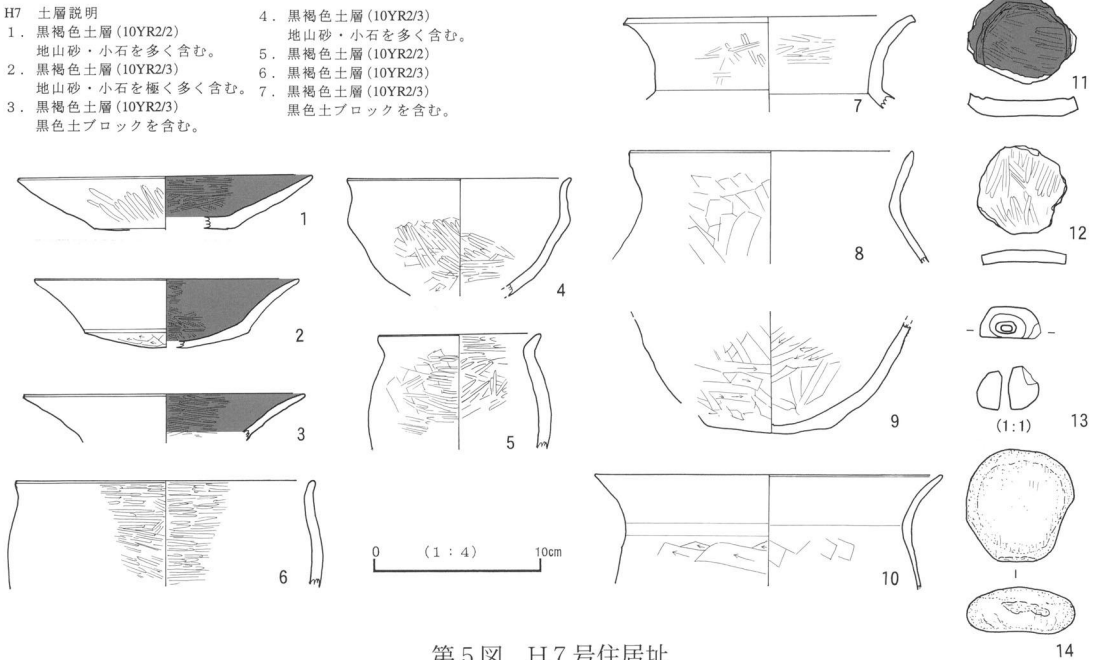
き23グリットにあり、F15に切られる。南と北半域の2次に渡って調査を行ったため、一部調査のできない所があった。南北長460cm、東西長476cm、壁高は42~77cmの方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-3°-Wである。カマドは煙道が良好に残り、角度を持って立ち上がっている。主柱穴4個は、径48~54cmの円形ピットで、北のピットからは柱痕が看取された。P2は柱の建て替えがなされている。北東隅には径52cm深さ36cmの貯蔵穴がある。壁下には周溝が廻る。床面上面は縮まっているが砂質土であるため脆弱である。西壁は地山の砂質土が崩壊し補修していた。

出土遺物には土師器、鉄製品がある。土師器杯1~3は須恵器杯蓋の模倣杯で、内面はミガキ、外



上からH7完掘 堀方(東より 西より)

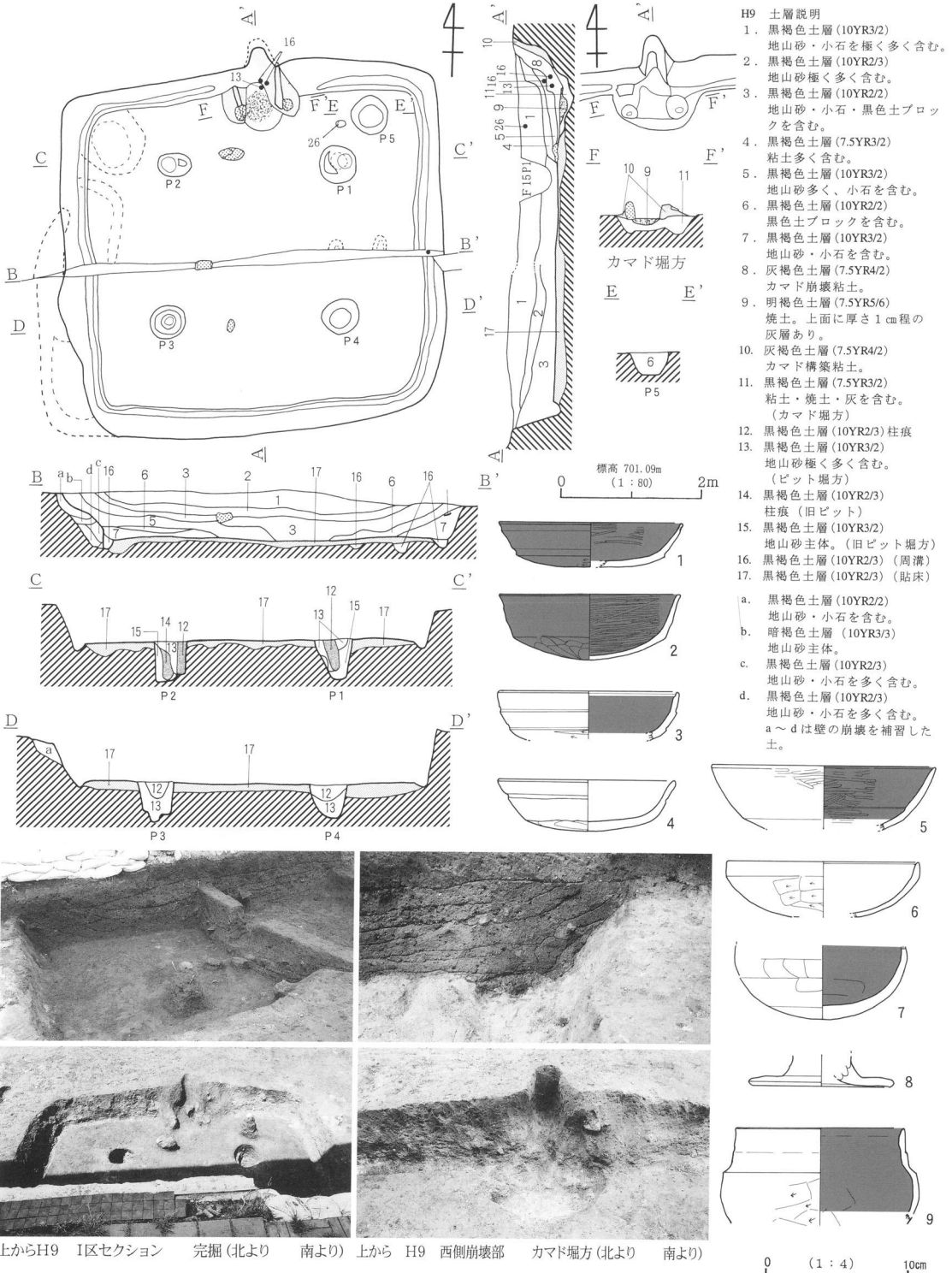
- H7 土層説明
- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 黒褐色土層(10YR2/2)
地山砂・小石を多く含む。 | 4. 黒褐色土層(10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。 |
| 2. 黒褐色土層(10YR2/3)
地山砂・小石を極く多く含む。 | 5. 黒褐色土層(10YR2/2) |
| 3. 黒褐色土層(10YR2/3)
黒色土ブロックを含む。 | 6. 黒褐色土層(10YR2/3)
黒色土ブロックを含む。 |
| | 7. 黒褐色土層(10YR2/3)
黒色土ブロックを含む。 |



第5図 H7号住居址

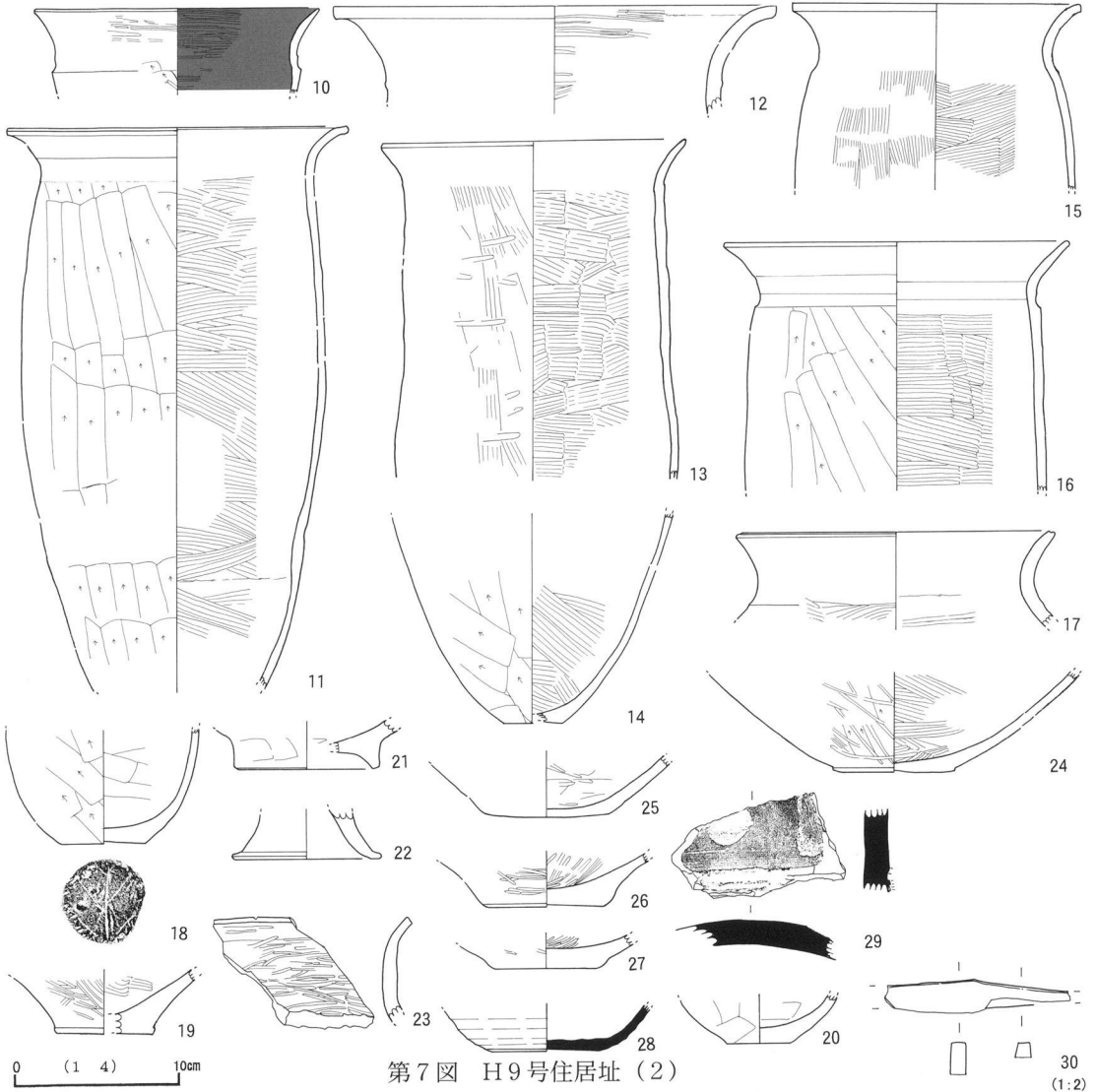
面は口縁横ナデ底部ヘラ削りをしている。丸底から外稜を持って口縁が立ちあがる。内外に黒色処理されるが、塗りタイプの黒色処理である。外面のミガキ調整はない。7・9・10鉢は杯身模倣で、黒色処理を内外に施すが外面は薄くはつきりしない。4は丸底の底部から外稜を持たずに立ち上がり、中位に沈線に近い屈曲を持って、少し外方に伸びる。内外面はミガキ調整である。5の杯は内面に屈曲がある杯で底部は平底に近い。6は口縁が短く直立する丸底杯である。11の土師器甕は長胴甕で、大型品である。口縁が比較的長く外傾外反している。外面胴部のヘラ削りはヘラナデに近いものであ

H9



第6図 H9号住居址(1)

H9



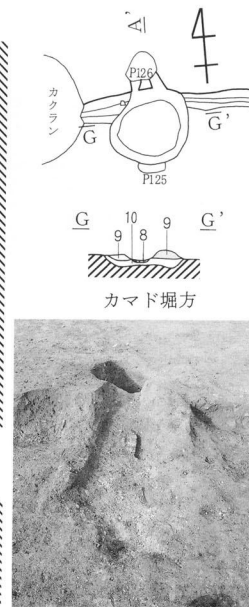
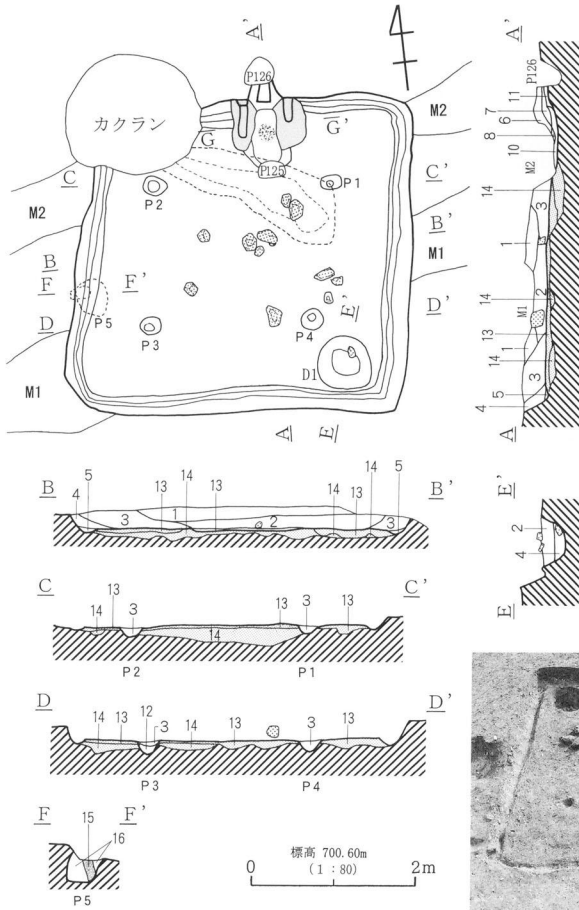
る。15の甕片の胴部外面はハケ目を残している。28の底部回転糸切りの須恵器杯、29の瓦、30の鉄製刀子は混入品である。

これらより7Cの年代が当てられようか。

(4) H14号住居址

い28グリットにあり、単独ピットP125~128、M1、攪乱に切られる。M1は東西方向に、攪乱は北西隅を壊している。南北長340cm、東西長370cm、壁高は1~27cmを測り方形を呈す。カマドを北壁中央にもつ。カマドは細長く、煙道は低く壁から延びる。主軸方位はN-7°-Eである。主柱穴は4個あり、径25~30cm、深さ10~14cmの円形ピットでいずれも浅く小さい。南東に径66cm、深さ30cmの貯蔵穴がある。床面はM1と重複し、影響された所もあるが、比較的締まっていた。床面には礫が散乱していた。

H14



H14 カマド完掘 (南より)



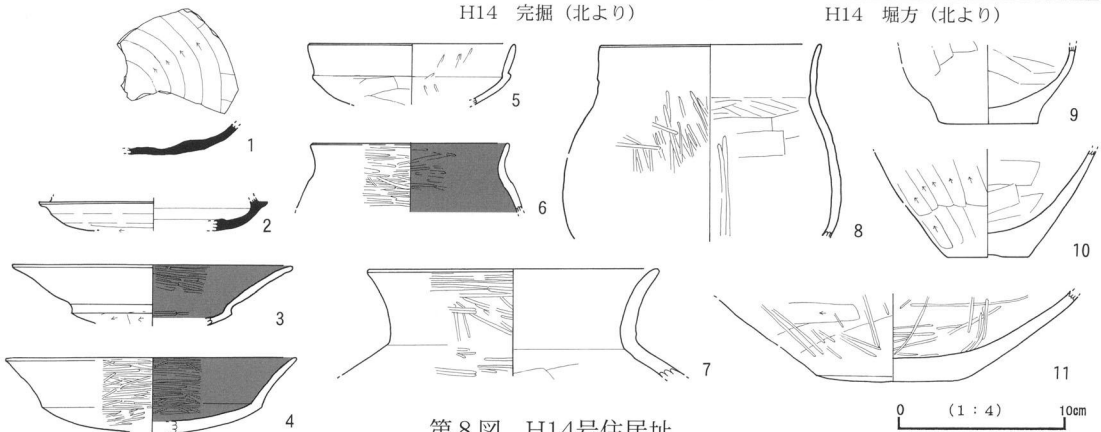
H14 完掘 (北より)



H14 堀方 (北より)

H14 土層説明

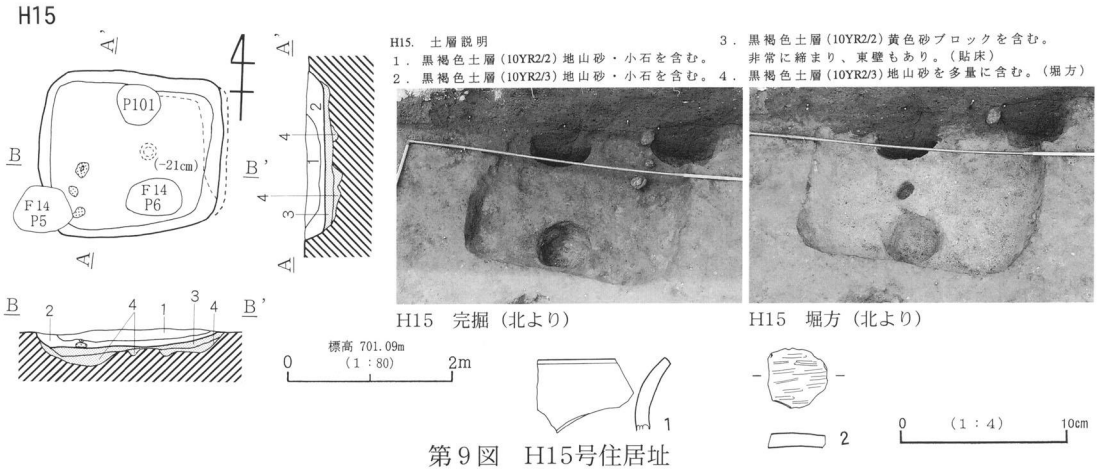
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を極く多く含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。(周溝)
6. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
7. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土粒子を含む。
8. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土
9. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 粘土
10. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 地山砂・小石を含む。(カマド堀方)
11. 褐色土層 (7.5YR4/4) 地山砂主体。(カマド堀方)
12. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
13. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を多く含む。(貼床)
14. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂主体に黒褐色土を含む。(堀方)
15. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
16. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・砂を含む。



第8図 H14号住居址

出土遺物には須恵器、土師器がある。1・2の須恵器は杯蓋の杯蓋と杯身で、底部回転ヘラ削りされる。2の受部の端部は尖っている。3・4は土師器杯で、平底に近い丸底の底部から屈曲して口縁が伸びる杯である。5は精製された胎土である。8の壺に近い甕は器肉が薄く、胴部外面はハケ目を残してミガキ調整される。

これらより本住居址は6Cとされよう。



第9図 H15号住居址

(6) H15号住居址

く25グリットにあり、F14、単独ピットP101に切られる。南北長186cm、東西長192cm、壁高は14~22cmの長方形を呈す。カマドはない。主軸方位はN-2°-Wである。小規模な住居址で、床面が非常に締まって固く、東の壁面も同様に貼り床されていた。柱穴は床下に径18cm、深さ21cmのピットがある。

出土遺物は土師器甕片と甕片を二次利用した土板とがある。
本住居の時代を決定する資料は乏しい。

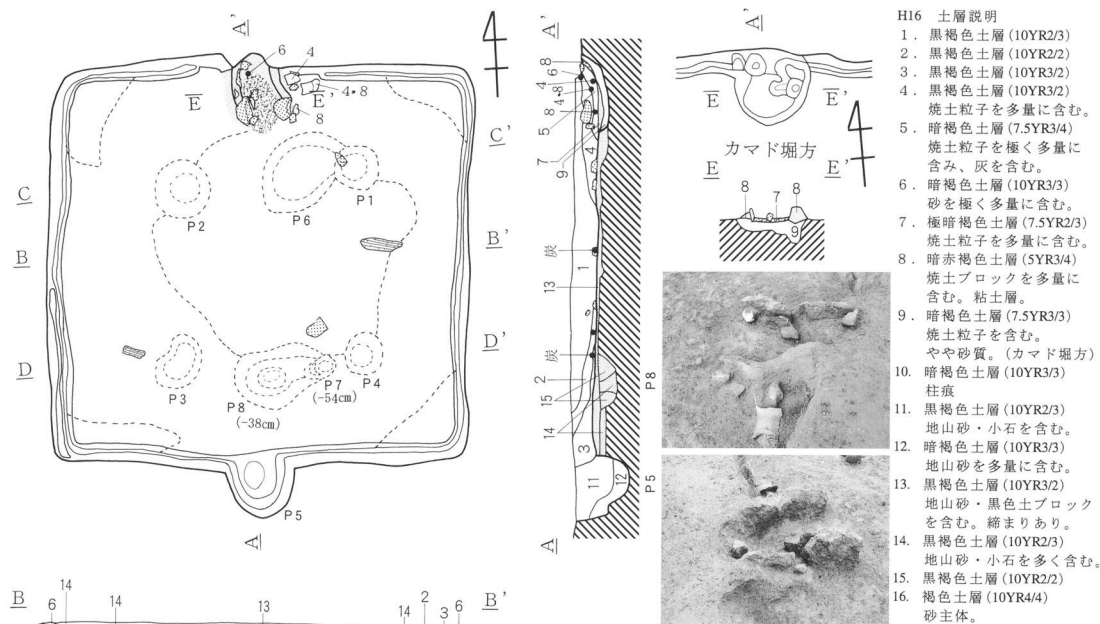
(7) H16号住居址

え25グリットにあり、P117を切る。南北長412cm、東西長494cm、壁高は15~31cmの長方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-3°-Wである。南壁中央に張り出し、底面に貯蔵穴を持つ。長さ80cm、幅84cmの張り出し、穴の深さは床面より44cm下げている。カマドは袖の先端に石を置く造りで、細長い。壁下に周溝が廻っている。主柱穴は4個で240cm四方に配される。柱穴は径48~68cm、深さ38~60cmの円形に掘り、径8~27cmの柱痕の柱が据えられる。床面には炭化材が2か所残っていた。床面は黒色土ブロックを含む土を貼り締まる。住居の堀方は床面中央が高く周囲が下がっている。南床下から主柱穴間には床下ピットP8がある。

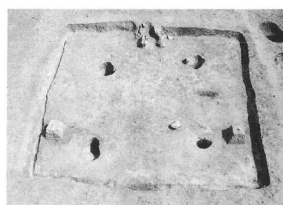
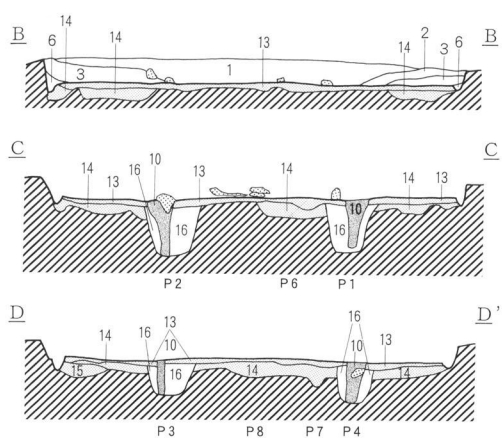
出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。須恵器は杯蓋の蓋と杯身である。蓋は口縁が内湾し、口縁内側端部に凹線をもつ。杯身は受部が短いものである。4の土師器甕と8の甕はカマドから出土している。甕は部厚く全体に黒色を呈し、ミガキが疎らに施される。8の甕は口径より胴中位下に最大径を持ち、胴部外面にハケ目を残している。13の軽石製品は紡錘車?とみられ、幅6.4cm、厚さ4.2cmに軽石の外面を磨り、円形に近く整えて中心を穿孔している。

これらより本住居址は6C前半といえよう。

H16



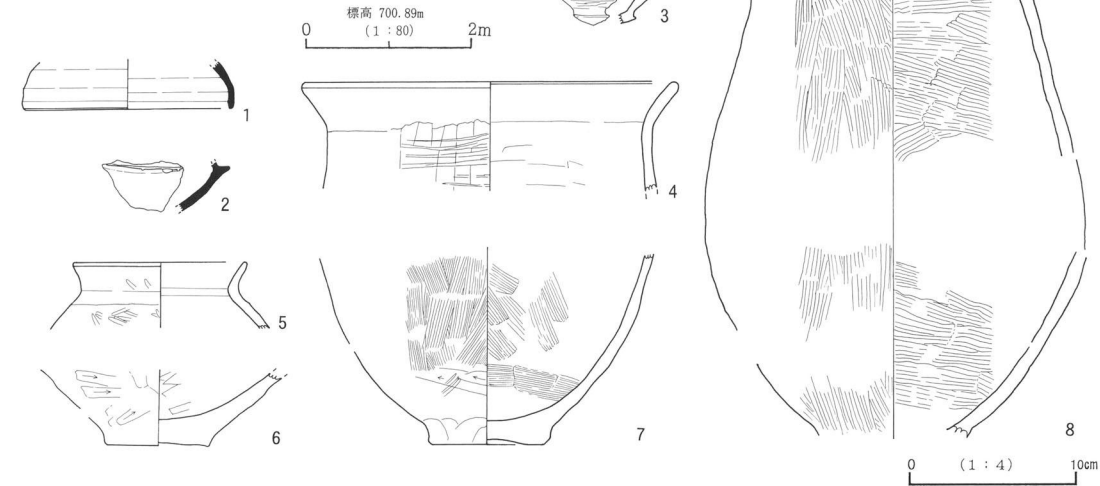
H16 カマド(東より 西より)



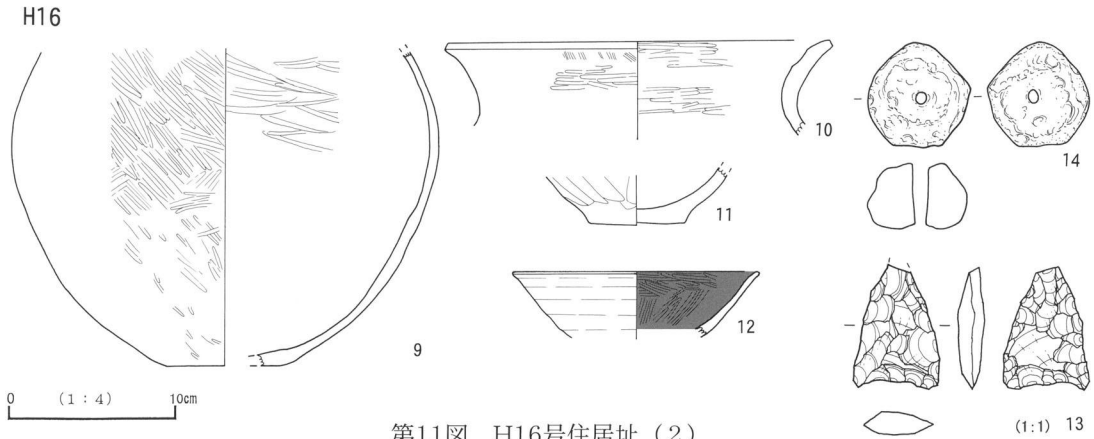
H16 完掘(南より)



H16 堀方(南より)



第10図 H16号住居址(1)



第11図 H16号住居址(2)

(7) H17号住居址

う24グリットにあり、F2・F6・F8単独ピットP22~24・29に切られる。南北長356cm、東西長325cm、壁高は2~9cmを測り、方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-8°-Wである。覆土が薄く、重複するピットが多いためか、もともと床面が軟弱なのか硬質な面はなく、土色の違いで検出している。明確な床面はわからなかった。カマドは明らかな焼土がなく形状からカマドとした。床下に5個の穴があるが柱痕はない。通状の竪穴住居跡とは異なっている。

出土遺物には土師器があり、1の土師器杯は平底に近い丸底から口縁が屈曲して外傾する。3の鉢は口縁が屈曲して外傾外反する。内外ミガキ黒色処理される。

これらより6C代が当てられる。

(8) H21号住居址

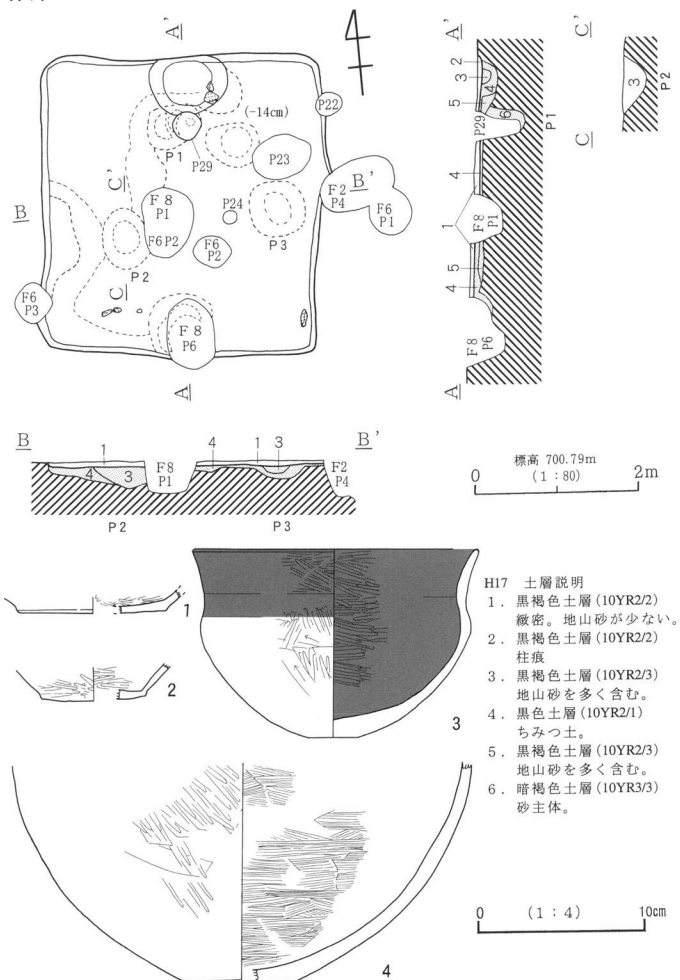
か26グリットにあり、H18・H34・H35・単独ピットP93~95・98に切られる。南北長678cm東西長704cmの大型住居である。壁高は0~32cmの方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-1°-Wである。カマドは住居内に長さ140cm、幅は100cmを測り、細長い。非常によく焼けており、火床や袖は赤褐色を呈していた。床面は周辺部を除いて締まっており、柱痕の平面形が看取された。主柱穴は4個で、柱痕は円形というより隅丸方形を呈し長辺32cmを測る。床面より58~100cm埋め込まれる。柱穴の堀方は床面から100cm以上であり、堀方底面からは60~80cmを掘り込む。柱穴は堀方に多量の礫を入れて柱を支えている。P1には壁から間仕切り溝が延びている。北東隅とカマドの西に貯蔵穴がある。P12内には実測図に示した編物石がまとまって出土している。周囲の床面にもみられる。壁下には周溝が廻り、東壁南側に焼土範囲が見られた。北壁には浅いが長径28~40cmの壁柱穴がある。南壁中央の入り口のピットのP8は垂直の柱痕がある。

床の堀方はピット付近まで中央部が高く周辺が掘り込まれ、床より24~32cmほど下がる。

出土遺物には須恵器、土師器、土製品、石製品がある。須恵器は蓋杯と甕片がある。1の須恵器蓋の外稜は短く丸味を帯びる。2・53の同個体であろう杯身は立ち上がり内傾し、受け部は短く端部は丸い。53底部外面には自然釉が付着する。7の高杯脚部は短脚で透かしはなく、柱状の基部から裾部はラッパ状に大きく開く。陶器Ⅲ型式1・2段階あたりの高杯の形態である。土師器杯は平底に近い丸底から口縁が大きく外反するものである。18の土師器甕はP4の堀方から出土している。24・26の長胴甕は胴下部に膨らみを持っているものの、最大径は口縁部に持つようである。

これらより本住居址は6C後半に位置づけられよう。

H17



- H17 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 緻密。地山砂が少ない。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
 4. 黒色土層 (10YR2/1) ちみつ土。
 5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
 6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。



H17 I区セクション (北東より)



上からH17 完掘 堀方 (南より)

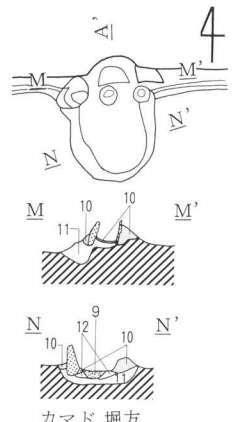
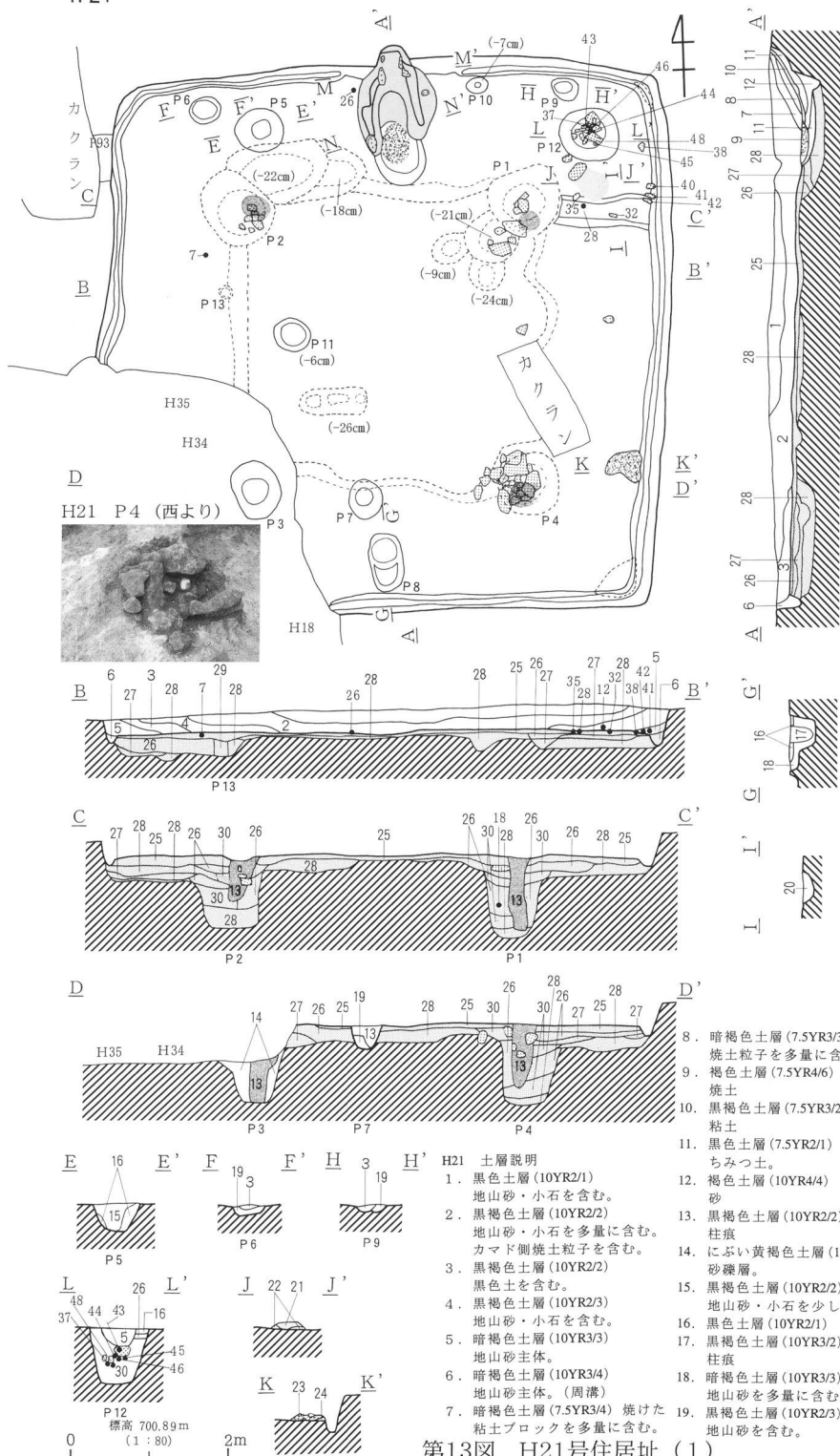
第12図 H17号住居址

(9) H25号住居址

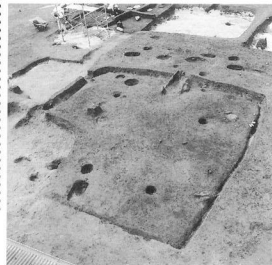
う29グリットにあり、H23・H26・D1、攪乱に切られる。H23は南側上面、H26には東壁部を壊されている。南北長548cm、東西残長(448)cm、壁高は0~37cmを測り、方形を呈すものと思われる。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-4°-Wである。カマドは壁の位置に袖があり、奥壁は住居のラインより飛び出している。主柱穴4個のうち、P1はH26に壊されていないが、セクションから判断すると低くなっておりピットの痕跡がある。主柱穴は柱痕が検出され、楕円・円形を呈し、径22~30cm、深さ38~48cmを測る。ピット堀方は柱痕径に近いP2と柱痕径より倍以上大きいP1とがある。カマドの東には深さ32cm、残長で52cmの貯蔵穴がある。床面は非常に締まった床面が2面あり、堀方ではP8~P11の床下の主柱穴が検出されている。本住居は拡張され、新たに柱穴を設けている。床下の主柱穴北側のP1・P2は柱痕を持ち、径40・44cm、深さ58・48cmと深い、南側は浅い。南壁下中央に出入り口のピットがある。また堀方では南壁側に径56cmの隅丸方形の穴が2個東西にあり、掘立と重複していた可能性もあるが南側で遺構を捉えることはできなかった。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯蓋で、1と2の蓋と杯身はセットであろうか。蓋は外稜が短くやや尖り、口縁端部は面取りはしてあるが凹線はない。天井部は3/4以上回転ヘラ削り

H21



カマド 掘方



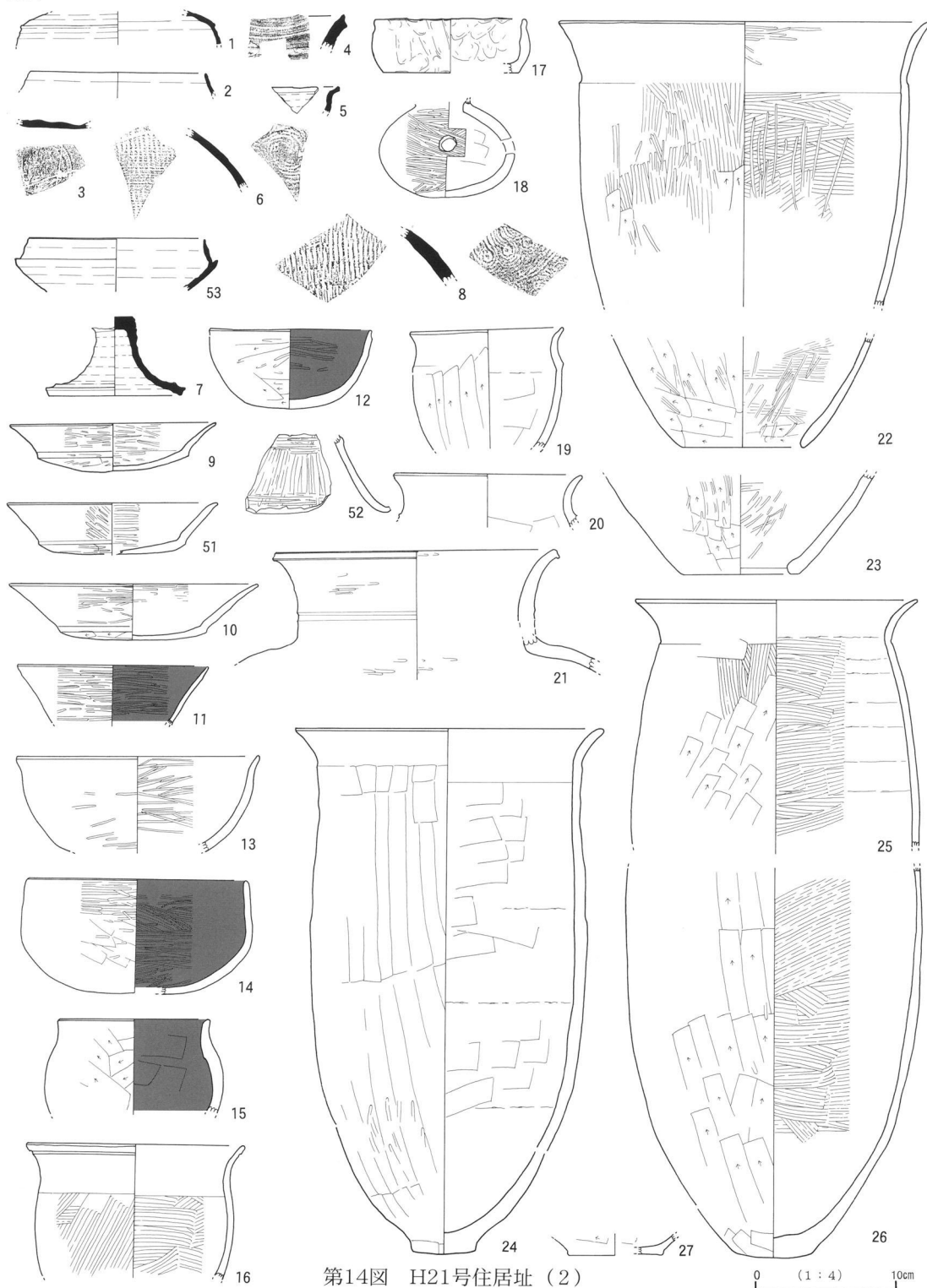
上からH21 完掘 カマド完掘 (南東より 南より)

H21 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を多量に含む。カマド側焼土粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黒色土を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂主体。
6. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂主体。(周溝)
7. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼けた粘土ブロックを多量に含む。
8. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 焼土粒子を多量に含む。
9. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
10. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土
11. 黒色土層 (7.5YR2/1) ちみつ土。
12. 褐色土層 (10YR4/4) 砂
13. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
14. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂礫層。
15. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を少し含む。
16. 黒色土層 (10YR2/1) 黒色土ブロック。
17. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂主体。
18. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を多量に含む。
19. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を含む。
20. 黒褐色土層 (10YR3/2) (間切り溝)
21. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 粘土
22. 黒色土層 (10YR2/1) 炭化物粒子を多量に含む。
23. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
24. 黒色土層 (7.5YR1.7/1) 炭化物粒子を多量に含む。
25. 黒褐色土層 (10YR2/2) (貼床)
26. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂に黒色土混在。
27. 黒色土層 (10YR2/1) 黒色土ブロック。
28. 褐色土層 (10YR4/4) 地山砂主体。
29. 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕
30. 黒色土層 (10YR2/1)

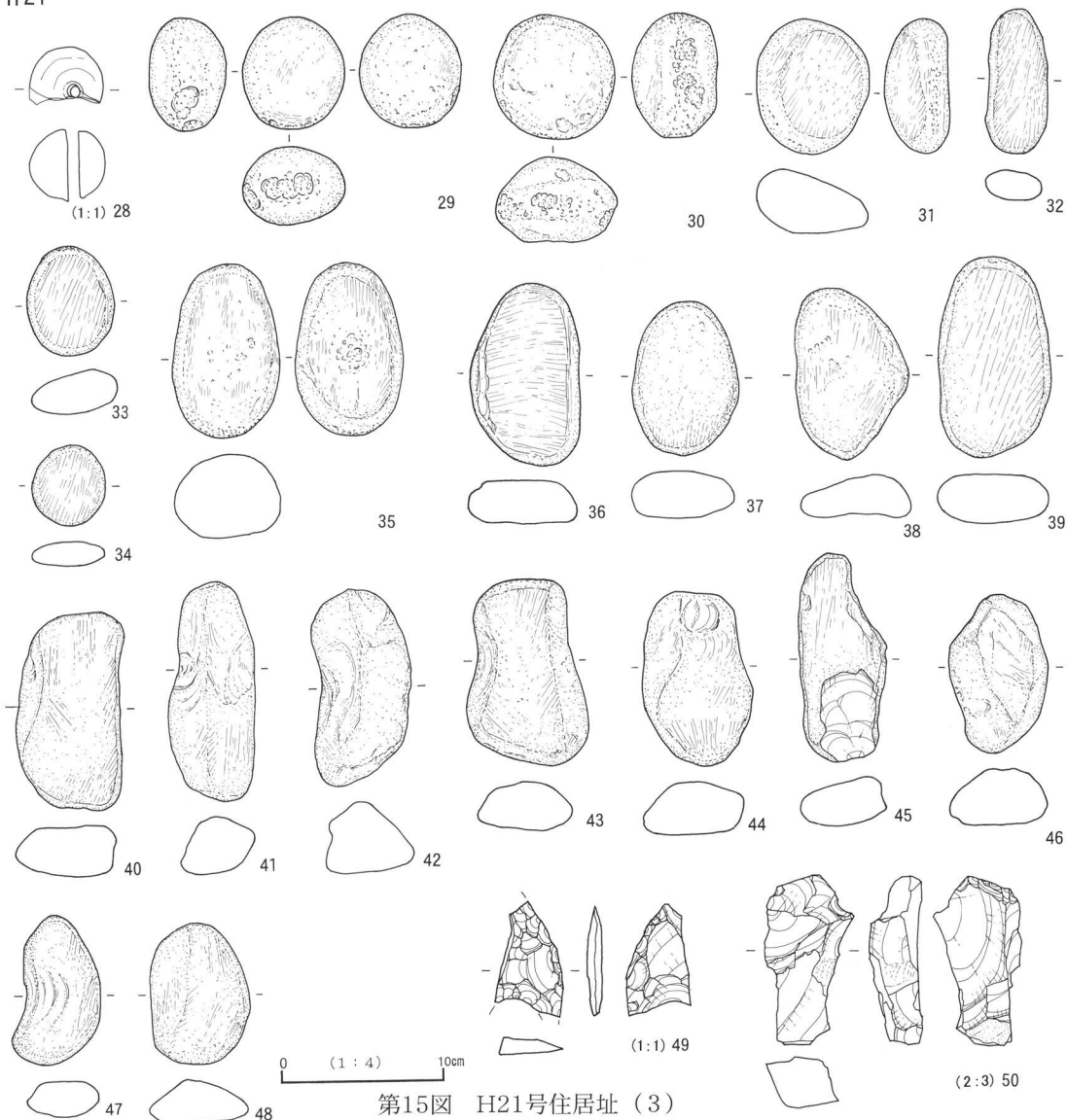
第13図 H21号住居址 (1)

H21



第14図 H21号住居址 (2)

H21

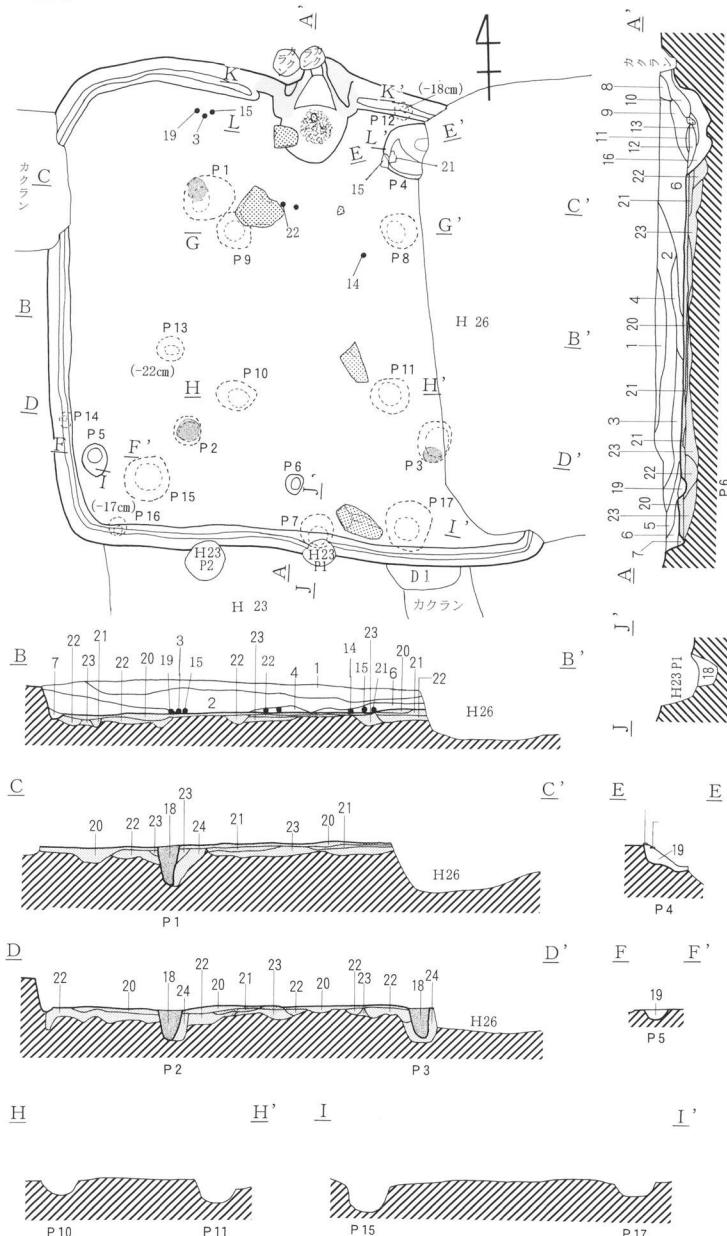


第15図 H21号住居址 (3)

される。杯身の立ち上がりは比較的長く内傾して立ち上がり、受け部の端部は6mmほどであるが外方に伸びて端部は尖っている。底部は外周2cmを残し回転ヘラ削りされる。1・2ともに、黒色粒子を含んでいる。3は須恵器壺の底で、底部回転ヘラ削りされるが雑で、胎土に白色の石英粒が目立つ。内面はロクロ痕が顕著に残る。4・5は混入品であろう。土師器杯の12・13・15は器形の調整が全く同じもので、15が少し小振りである。丸底気味の底部から外稜をもって口縁が大きく外反するものである。内面はミガキ黒色処理、外面は口縁横ナデ底部ヘラ削り後ミガキ調整される。土師器甕は20・21はカマドから出土している。21は口縁が外反し胴部は膨らむ。22の壺は口縁が円筒状に直立し上部が外反する。胴部は球胴形を呈す。19の甑は丸い底に焼成前穿孔したものである。

これらより本住居は6C前半に位置付けられよう。

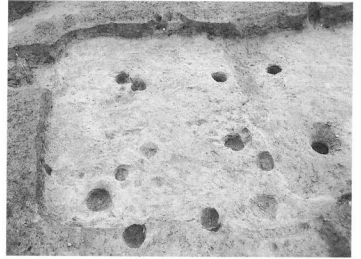
H25



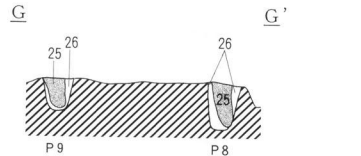
H25 完掘 (南より)



H25 カマド完掘 (東より)



H25 堀方 (南より)



H25 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1)
地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を多く、小石を含む。
4. 黒色土層 (10YR1.7/1)
炭化物粒子を多量に、粘質土を含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を多量に含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。

7. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂主体。(周溝)
8. 黒褐色土層 (10YR3/2)
カマド天井粘土。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2)
カマド天井崩壊粘土。
10. 黒褐色土層 (10YR2/2)
粘土・焼土粒子を含む。
11. 天井の焼土
12. 灰白色土層 (7.5YR8/1) 灰
13. 明褐色土層 (7.5YR5/8) 焼土
14. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土
15. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
粘質土。

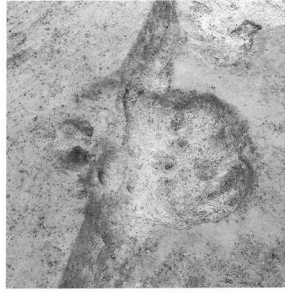
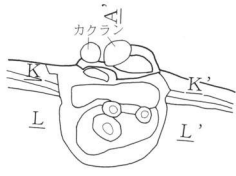
16. 黒褐色土層 (7.5YR2/2)
(カマド堀方)
17. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)
粘質土を含む。(カマド堀方)
18. 黒褐色土層 (10YR2/2)
柱痕
19. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む。
20. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
締まりあり。(貼床)
21. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。
非常に締まりあり。(貼床)



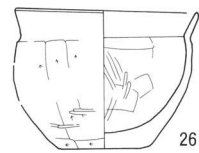
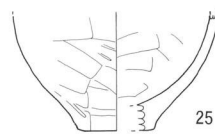
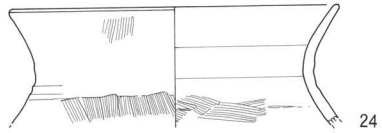
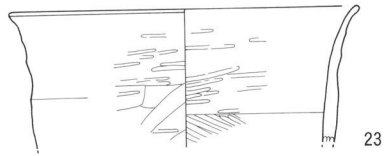
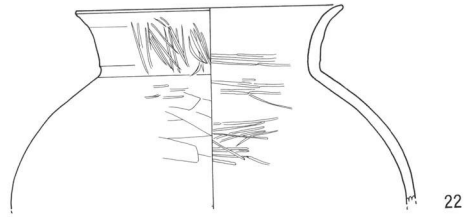
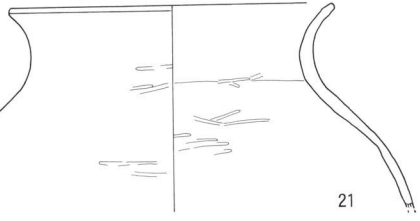
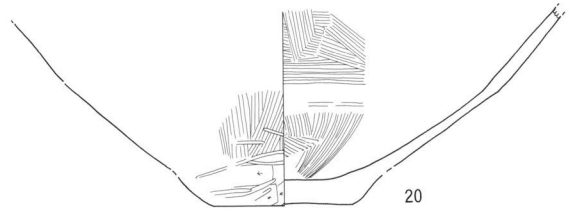
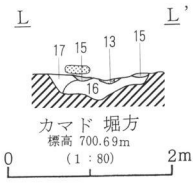
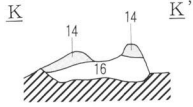
22. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む。
23. 褐色土層 (10YR4/6)
地山砂主体。
24. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂極く多く含む。
25. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂主体。
26. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂主体。

第16図 H25号住居址 (1)

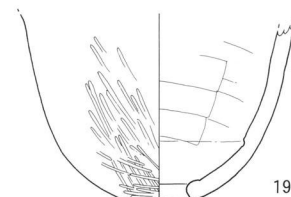
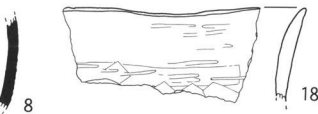
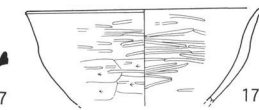
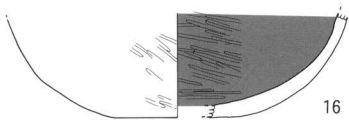
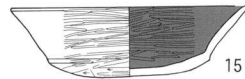
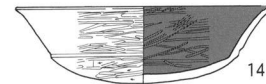
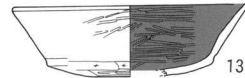
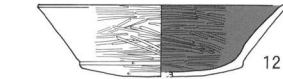
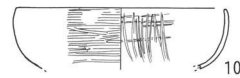
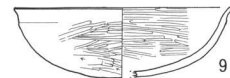
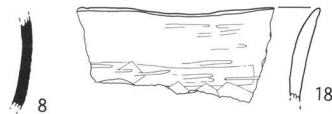
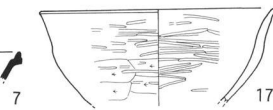
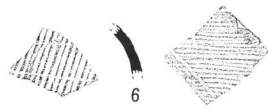
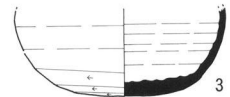
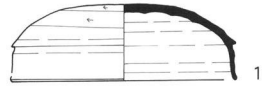
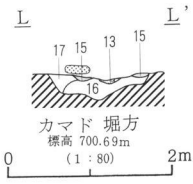
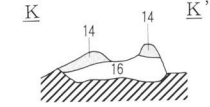
H25



H25 カマド堀方 (西より)

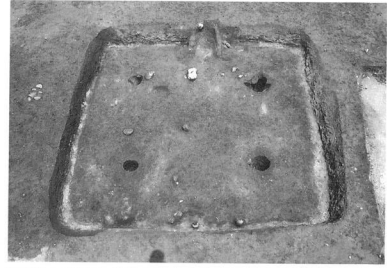
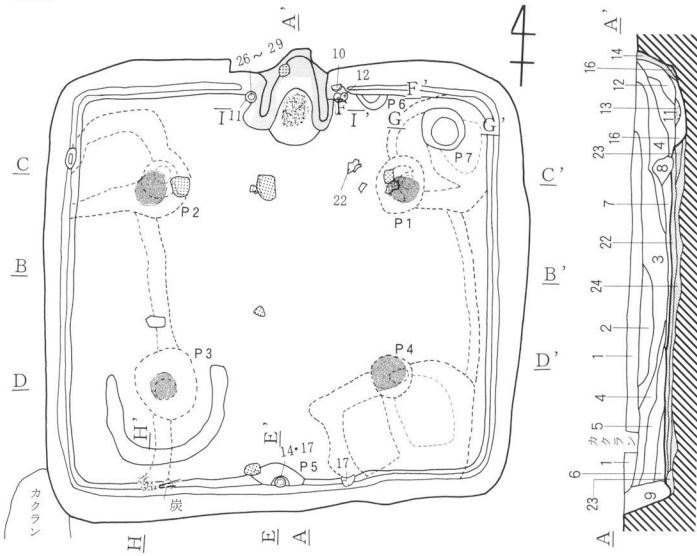


0 (1:4) 10cm



第17図 H25号住居址 (2)

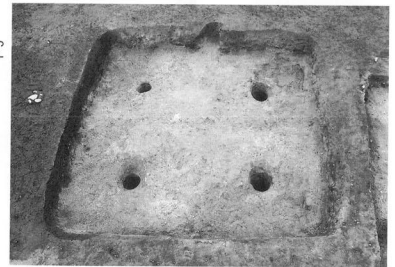
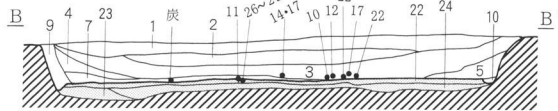
H26



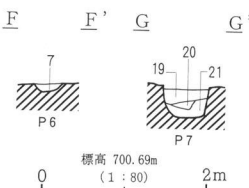
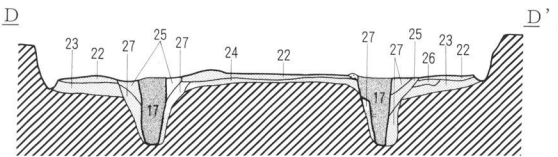
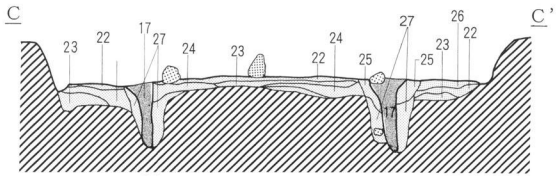
H26 完掘 (南より)



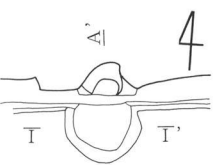
H26 カマド (北より)



H26 堀方 (南より)



H26 P3 (東より)



H26 カマド (東より)

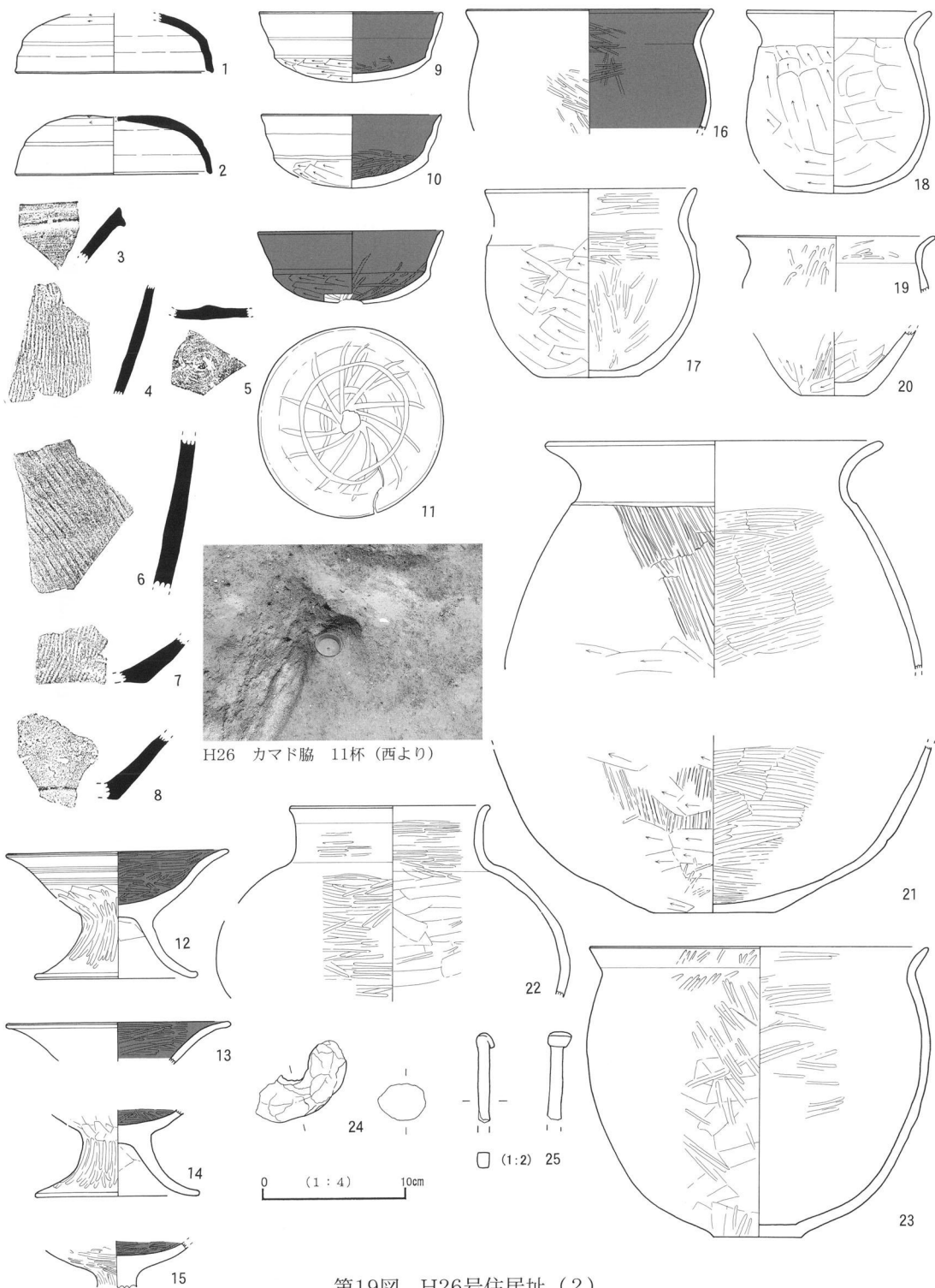
- H26 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。

4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を多く含む。カマド側粘土ブロックを含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黒色強。
8. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 粘土質。

9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3) (周溝)
11. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 焼土ブロックを含む。(粘土崩壊層)
12. 暗褐色土層 (10YR3/3) 焼土粒子を含む。
13. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
14. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 粘土
15. 黒褐色土層 (10YR3/2) 1mm大の黄色砂が混じる。
16. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土粒子を含む。(カマド堀方)
17. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
18. 黒色土層 (10YR1.7/1) 炭化物(ボヤ状)を多量に含む。
19. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロック。
20. 褐色土層 (10YR4/4) 黄色砂。
21. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂に黒色土混じる。
22. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を含む。(貼床)
23. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂主体。
24. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を含む。縮まる。(貼床)
25. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黒色強。砂少ない。
26. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂ブロック混在。
27. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。

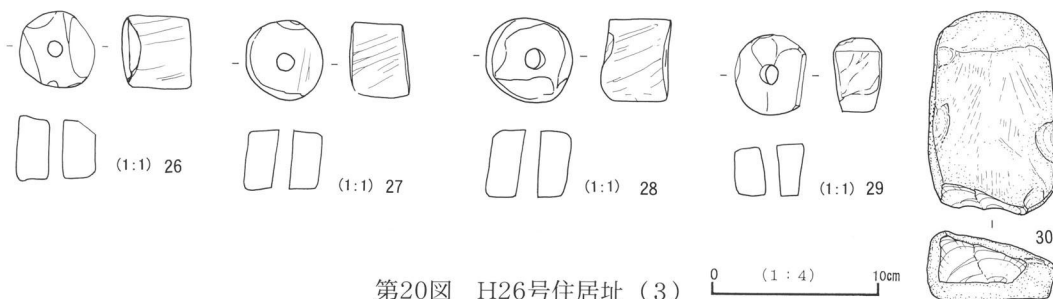
第18図 H26号住居址 (1)

H26



第19図 H26号住居址 (2)

H26



第20図 H26号住居址 (3)

(10) H26号住居址

う27グリットにあり、F9・単独ピットP55に切られ、H25を切る。南北長490cm、東西長526cm、壁高39～56cmの方形を呈す。カマドが北壁にあり、主軸方位はN-2°-Wである。カマドの袖は壁にはまり込んだ位置にあり、煙道は直立気味である。支柱穴は4個あり、柱痕が検出された。ほぼ円形で、径28～38cm、深さ80～88cmを測る。ピットの堀方は一辺44～90cmの円形と方形とがある。P3の南側床面には、U字形に幅16cm、高さ4cmの周堤状の高まりがみられた。北東に径50cmの円形で、深さ16cmのピットがあり、下層に黒色土を含んでいる。南壁下に焼土があり、その下にカヤ状炭化物が残る。この炭化物はササ類と分析された。

床面は締まっており、下層の貼床の一部が中央ではさらに締め、床面は2～3度貼床されている。住居の堀方は柱穴の外側が円形に掘り窪められ低くなっている。

出土遺物には須恵器と土師器、角釘、石製品がある。須恵器は蓋杯の蓋である。1・2は同一個体であるかも知れない。1の蓋の外稜は丸味を帯びわずかに出ている。口縁端部にはわずかな凹線がある。天井部外面は外周を1.5cmほど残して回転ヘラ削りしている。土師器杯9～11はほぼ同器形であるが、11は器肉が薄く、内面に暗紋を施すがミガキ調整しない「有段口縁杯」であるが、9・10は厚手で内面と外面の底部がミガキ調整される。11は底部が穿孔され、新しい割れ口である。カマドの西袖下に正位であり、その下に4個の白玉があった。土師器高杯の12の杯底部は丸底で稜を持たずに口縁はラップ状に外反して開き、口縁外面には回転のハケ目をそのまま残している。21の土師器甕は胴部外面にハケ目を残し下部をヘラ削りしている。口縁は外反し、胴中位下が膨らみ最大径となっている。23の甕は広口で、内外にミガキ調整が施される。Ⅲ区床面からは敲石が出土している。角釘は検出時のもので混入品であろう。

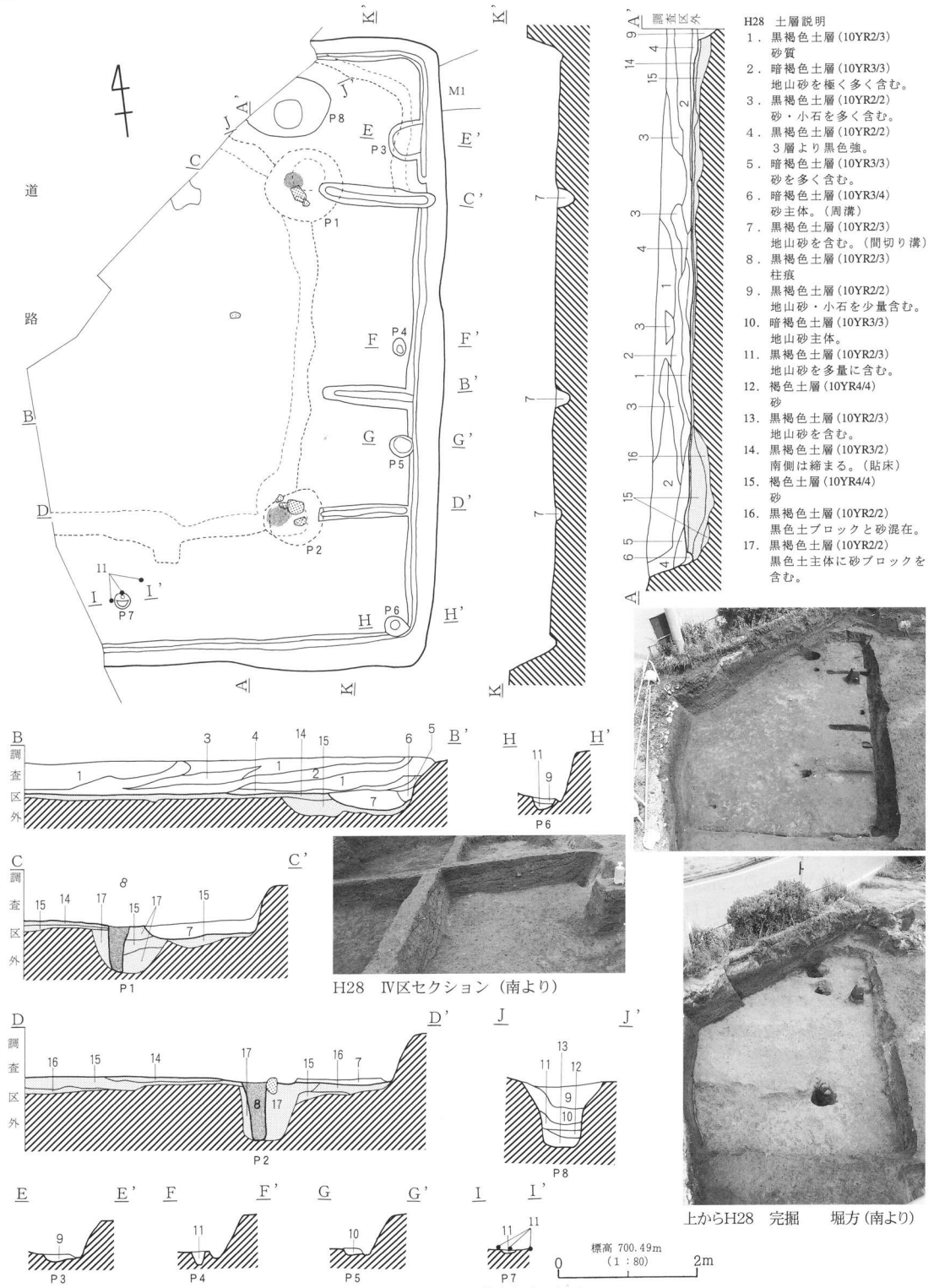
これらより、本住居はH25より後出するものの、6C中葉の住居であろう。

(11) H28号住居址

う30グリットにあり、北・西が現在の道路で調査できなかった。M1に切られる。南北長848cm、東西長(558)cm、壁高は42～60cmの方形を呈す。本調査区では最大の住居である。カマドを検出していないが西壁にはなく、北の床面に崩壊粘土がみられることから北にカマドを持っていると推定される。主軸方位はN-7°-Eである。覆土は人為埋土であるのかブロック状に土層が観察された。床面は南側中央部は締まっているが、他は比較的脆弱である。支柱穴は調査部分の東側の2個を検出する。柱痕が径28・36cm、ピット堀方はP1が長径112cm、深さ72cm、P2は長径86cm、深さ88cmである。ピット堀方覆土には礫が入っている。主ピットと壁の間には間仕切り溝がある。中間にもあり、都合3か所見られる。柱間の距離は南北で240cmを測る。北東には長径120cm、短径84cm、深さ96cmの楕円形の貯蔵穴がある。壁下には周溝が廻り、壁柱穴がある。

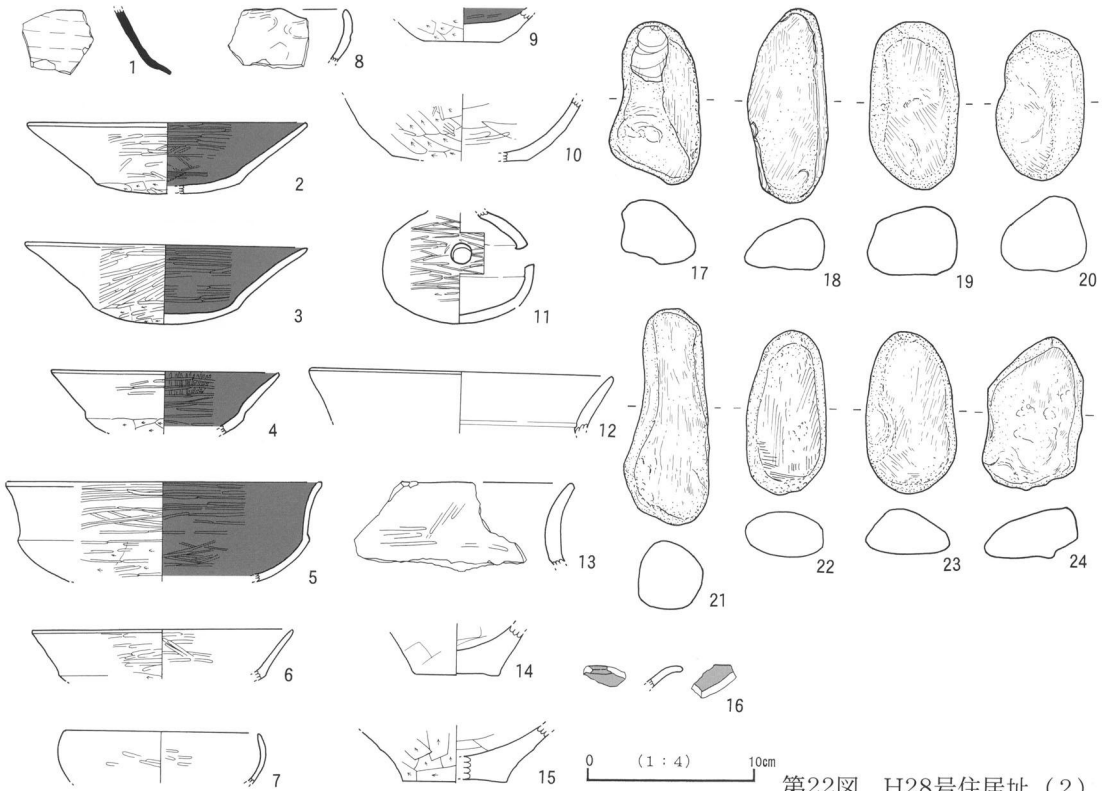
出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。須恵器は高杯の脚で裾が折れて開く。土師器杯は平底に近い丸底から屈曲して口縁が外傾外反する。3の杯は外稜を持っていない。

H28



第21図 H28号住居址 (1)

H28



第22図 H28号住居址 (2)

本住居で使用状態の遺物が見られず確定はできないが、土師器杯などからは6 C後半とされよう。

(12) H30号住居址

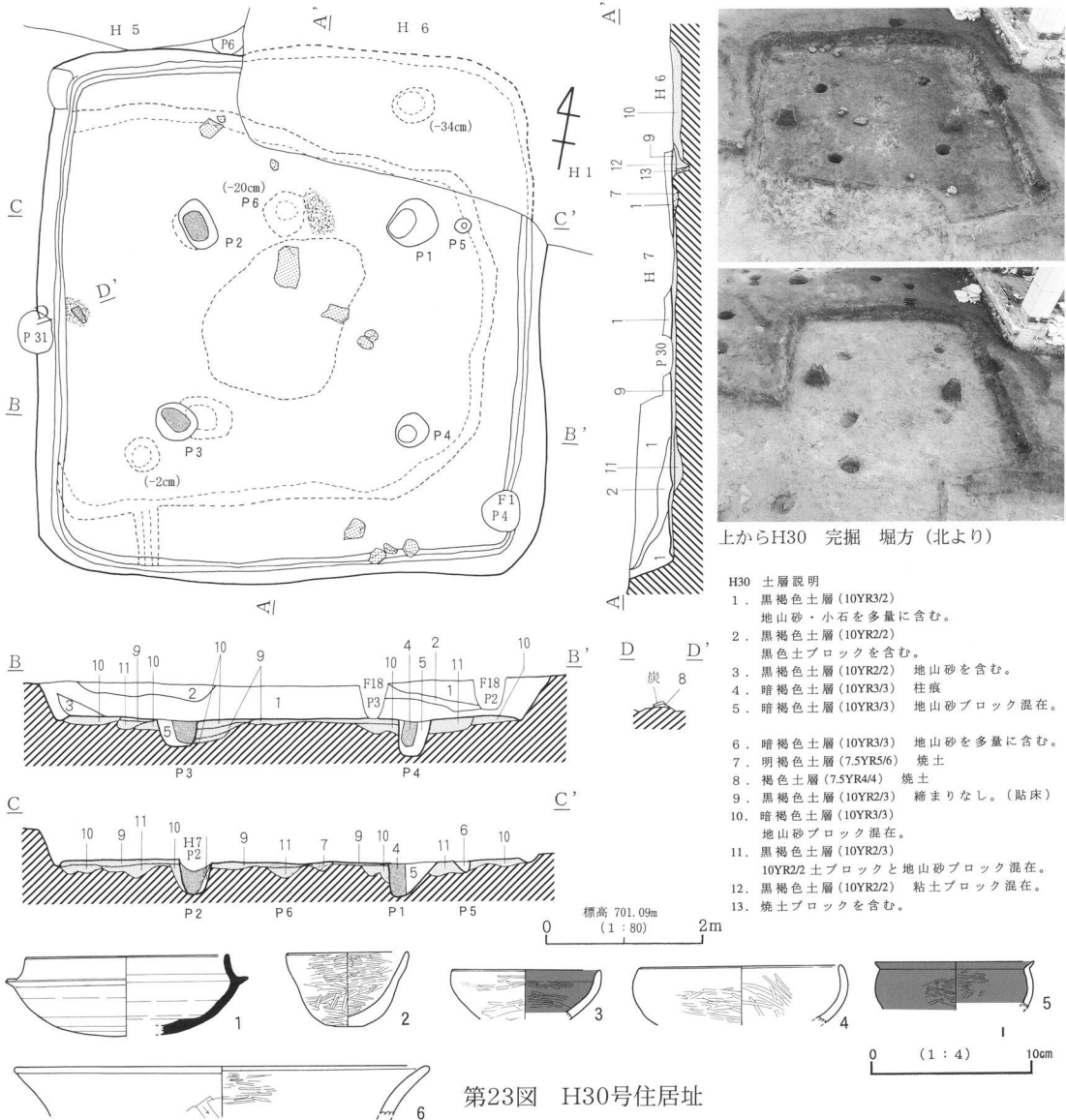
き21グリットにあり、H1・H7・F1・F18・単独ピットP30・31・35に切られる。南北長636cm、東西長594cm、壁高は0~57cmの方形を呈す。カマドは北でH6・H7に壊されたようである。主軸方位はN-9°-Wである。床面は縮まりがない。主柱穴は4個持ち、P2がやや方形であるが他は円形を呈し、長径40~64cm、深さ34~44cmのピット堀方に、16~32cmの柱痕が見られた。西壁中央下に焼土の上に炭化材が乗っており、この炭化材は広葉樹と分析されている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は蓋杯の杯身で、口径12.9cm、高さ5cmで、口縁の立ち上がりは比較的短く内傾し、端部は丸く仕上げられる。受け部は比較的長く、端部は尖り気味である。底部は比較的深く、1/2程度回転ヘラ削りがなされる。陶邑Ⅱ型式の1~3段階あたりのものである。(1981.中村浩『和泉陶邑の研究』)

H7に掲載した1~3土師器杯は平底に近い底部から口縁が外反するものである。これらは6 Cに位置付けられるが、本住居の遺物であろう。

これらより本住居址は古墳時代の6 C中葉であろうか。

H30

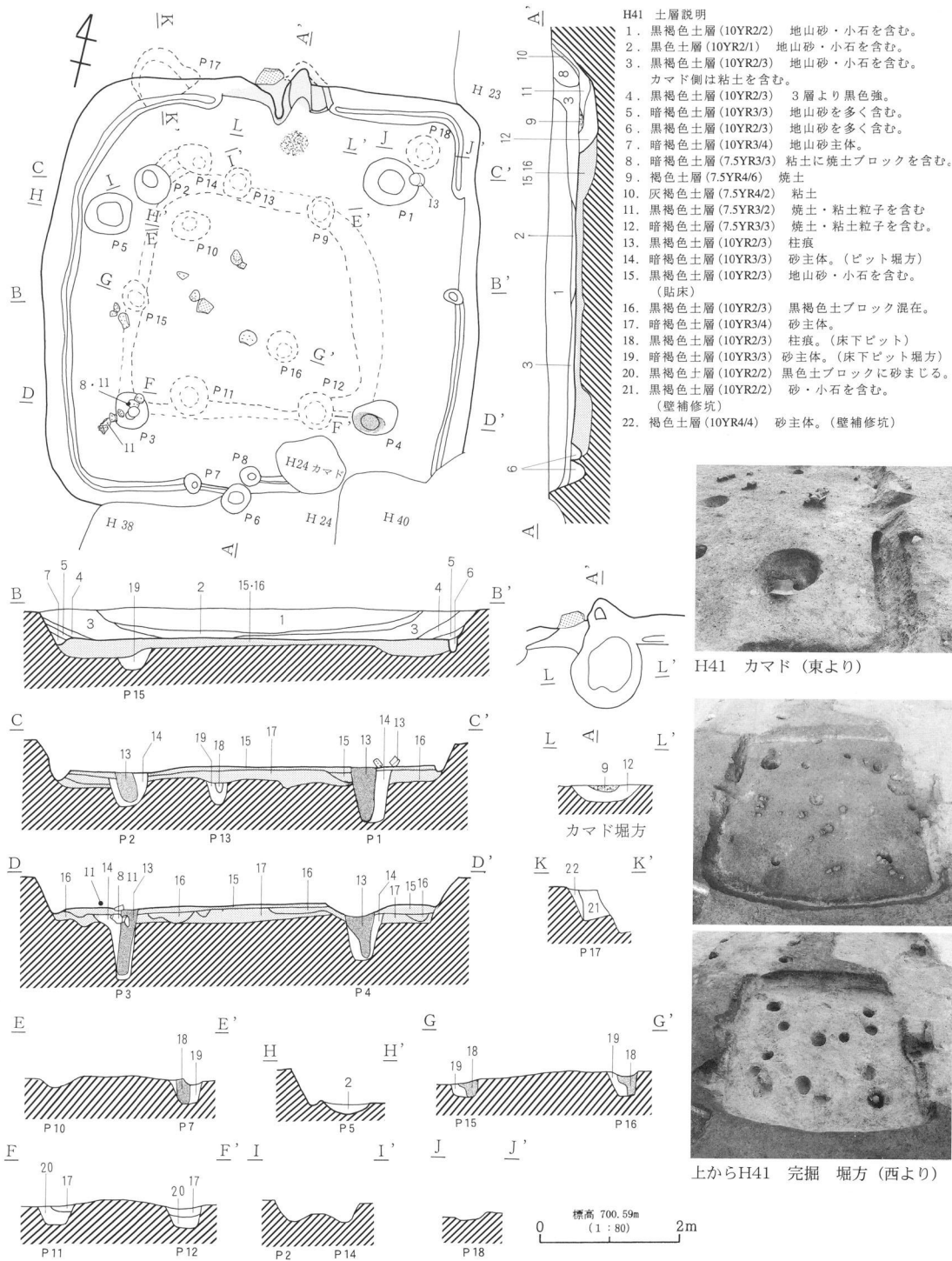


(13) H41号住居址

お29グリットにあり、H23・H24・H40・単独ピットP103に切られ、H42を切る。南北長526cm、東西長561cm、壁高は0~47cmを測り、方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-10°-Wである。支柱穴は4個あり、長径50~76cmを測り、P4は楕円形、他はほぼ円形を呈す。深さはP2が48cm、P3が深く102cmを測る。P3の柱痕には11の土師器甕が入っていた。床面は貼床が厚く2面にあり、締まっていた。床下からP9~P12の床下住居の支柱穴が検出された。北壁の一部P17は崩壊の補修の痕である。

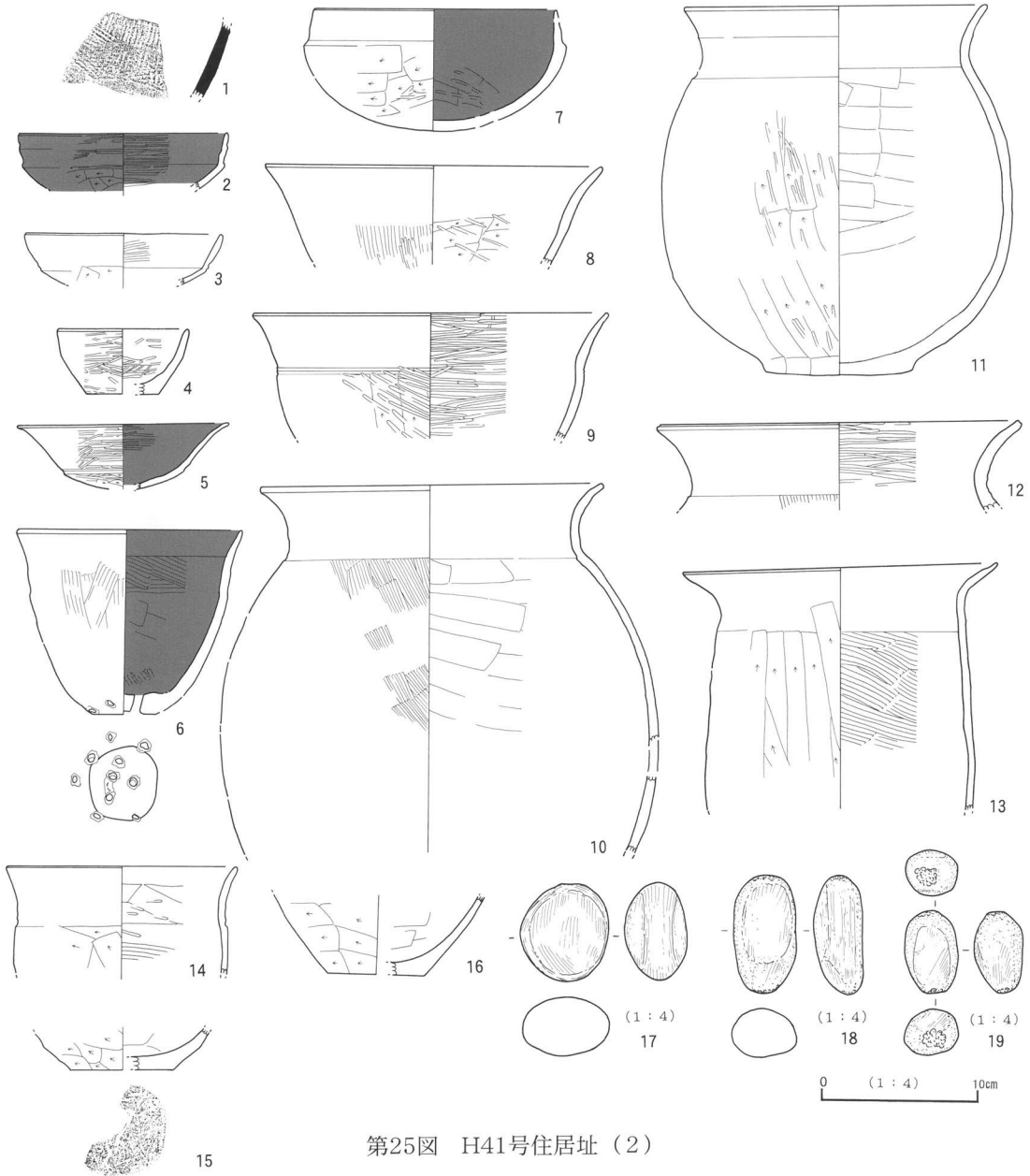
出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。土師器杯は破片で、良好な資料はない。13の土師器甕はP1の東脇から出土している。長胴甕で、口縁部が折れて外方に開き、胴部外面は縦方向にへ

H41



第24図 H41号住居址 (1)

H41

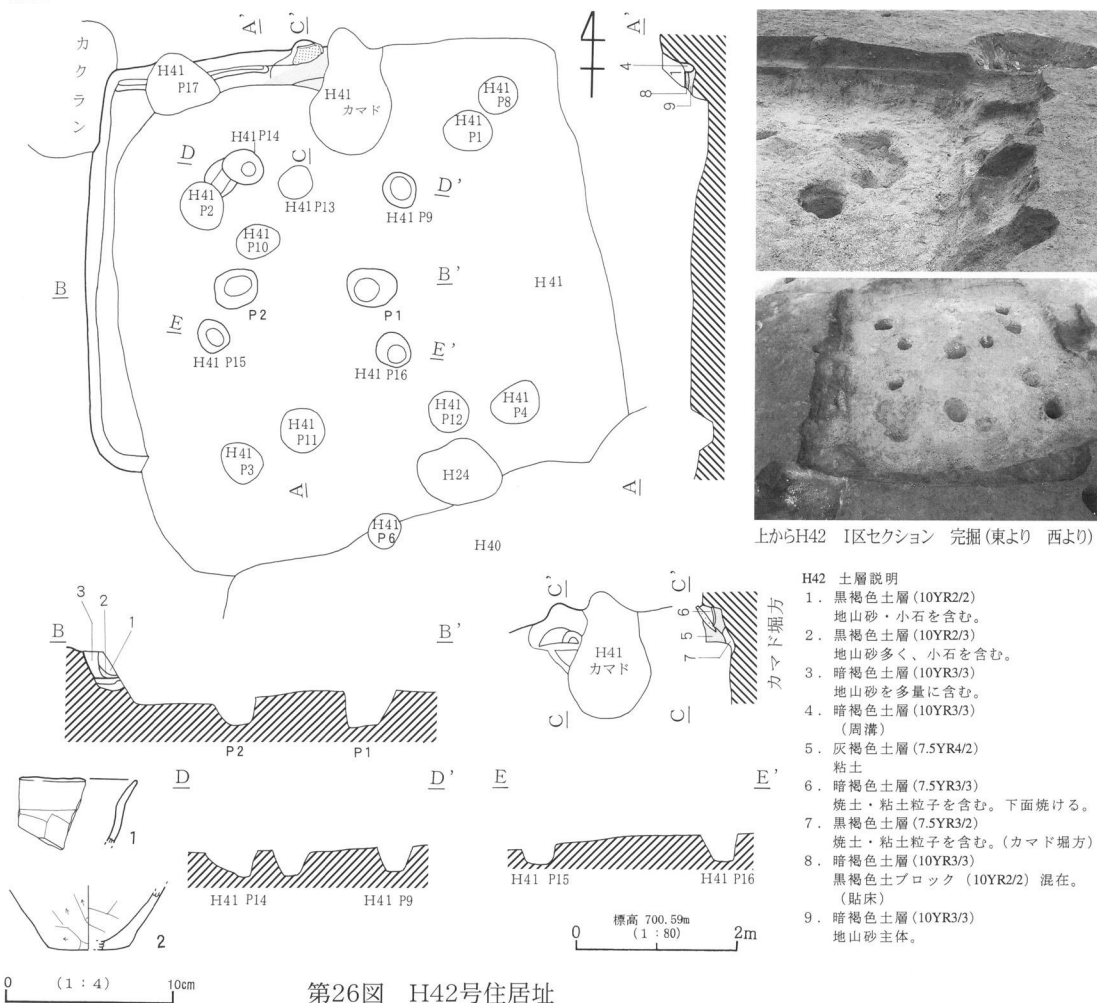


第25図 H41号住居址（2）

削りされる。11のピットに転がり込んでいた甕は、胴部下部が膨らんでいる。6の甕は内面ハケ目を残して黒色処理され、底部と底部周辺に焼成前穿孔が10個以上なされる。2の杯は「有段口縁杯」であるが、使い込まれて、内面は光っている。内外塗りタイプの黒色処理である。石製品は磨石、敲石が出土している。

これらより本住居は6 C後半～7 Cに位置付けられよう。

H42



(14) H42号住居址

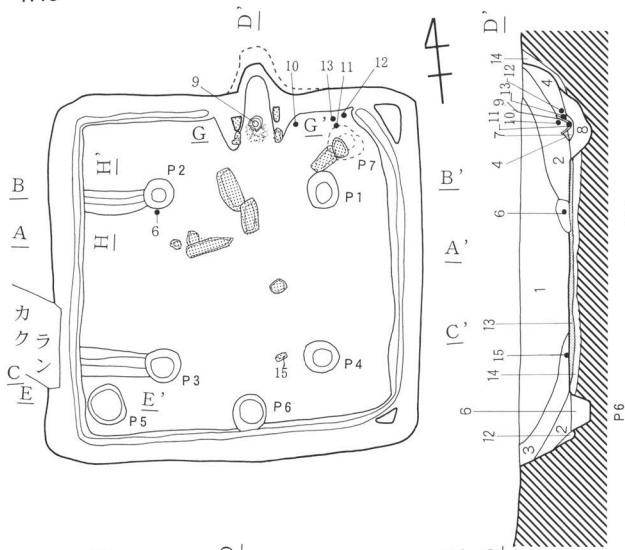
お30グリットにあり、H41と攪乱に切られる。H41に大半を切られ、わずかに北壁西側と西壁が残っている。カマドは北にあり、大半をH41のカマドに壊されるが煙道が残る。煙道の天井に礫を使用していた。南北長456cm、東西残長(257)cm、壁高は0~37cmを測る。主軸方位はN-3°-Wである。主柱穴はH41に切られているため伴うものは明確でないが、P1・P2が主柱穴で、東西にある。

出土遺物は2点で土師器甕の口縁と底部である。1は破片であるが薄手で、胴部は外面へラ削りされる。古墳時代後期のものであろう。

(15) H43号住居址

け15グリットにあり、西壁一部が攪乱に切られる。南北長400cm、東西長408cm、壁高は60cmを測り、方形を呈す。カマドを北壁に持ち、カマドの奥壁は壁より突出している。カマド前面の床面にはカマド構築材の石が落ちている。主軸方位はN-3°-Eである。床面は締まっており、主柱穴を4個持つ。径44~46cmのほぼ円形のピットで、深さは40~56cmを測る。壁下には周溝が廻り、P2・

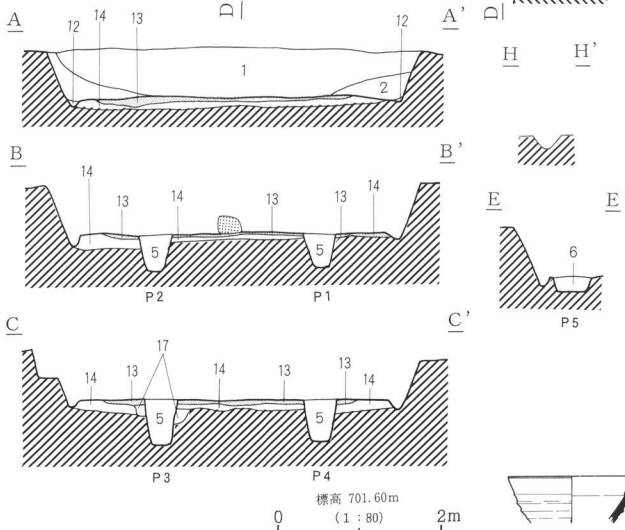
H43



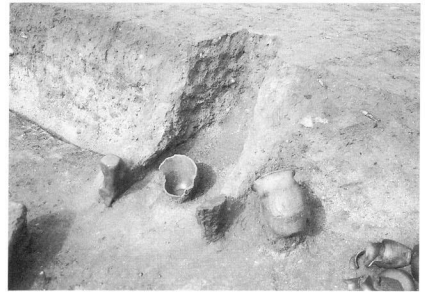
H43 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ローム・パミス・炭化物を含む。
2. 暗赤褐色土層 (5YR3/3)
ローム多く、焼土・炭化物を少量含む。
3. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 砂を含む。
4. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)
焼土・灰・粘土を多く含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂・炭化物を含む。締まりなし。
6. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂やや多く、炭化物を含む。
7. 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土 (火床)
8. 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土少量含む。
9. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 砂・粘土を含む。
10. 褐灰色土層 (5YR4/1) 粘土。内壁は焼け込む。
11. 褐灰色土層 (7.5YR4/1)
粘土多く、焼土を含む。
12. 黒褐色土層 (10YR2/3) 締まりなし。
13. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 硬質。(床)
14. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂を多く含む。
15. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・パミスを含む。締まりなし。

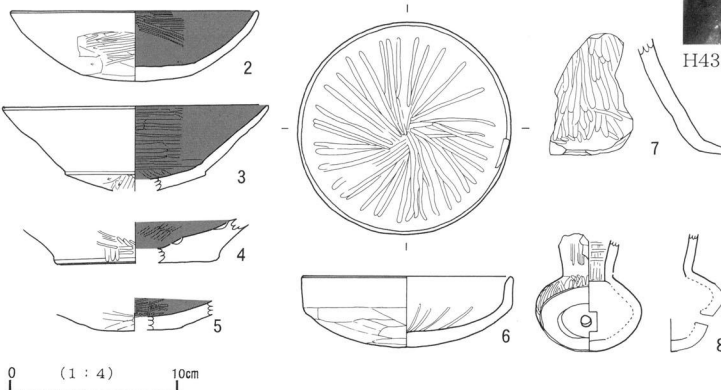
カマド掘方



H43 完掘 (西より)



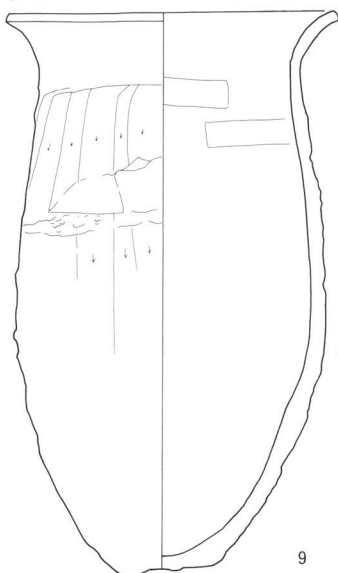
H43 カマド完掘 (南より)



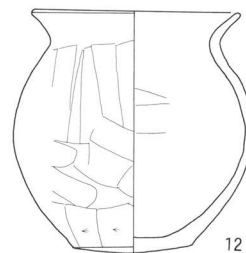
H43 カマド完掘 (東より)

第27図 H43号住居址 (1)

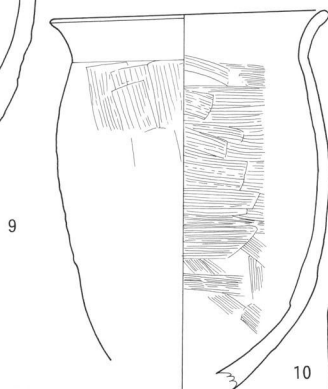
H43



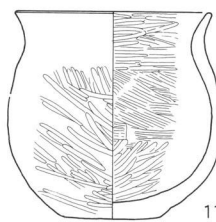
H43 カマド (南より)



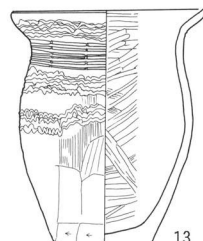
12



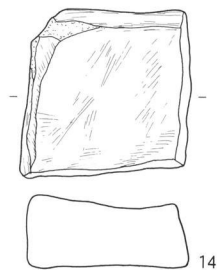
9



11



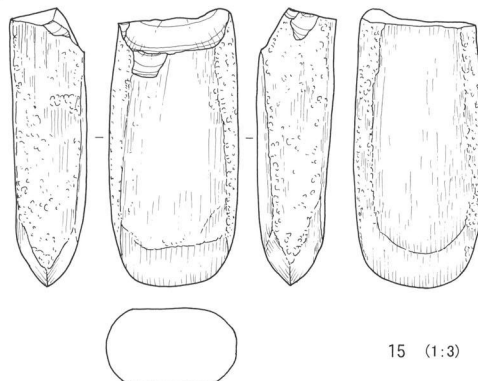
13



14



H43 再利用された15大型蛤刃石斧 (西より)



15 (1:3)

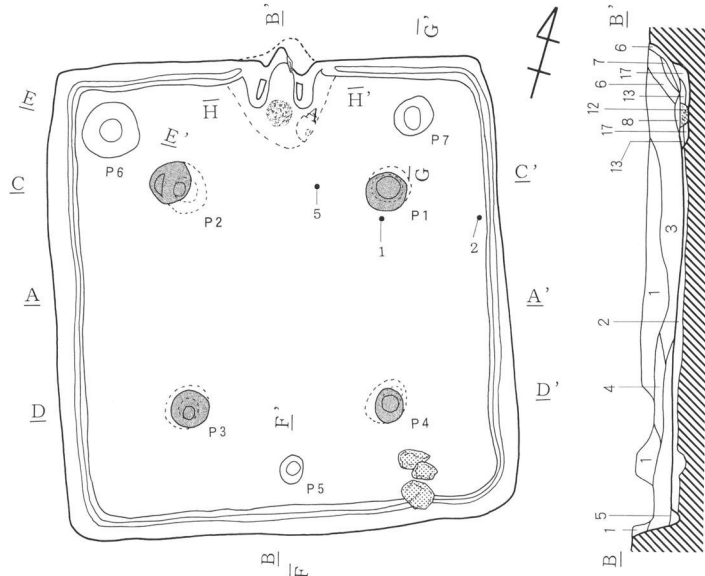
0 (1:4) 10cm

第28図 H43号住居址 (2)

P 3には西壁から間仕切り溝が延びている。南壁下中央にはP 6の径44cm、深さ24cmの円形ピット、南西隅には径48cm、深さ20cmの円形ピットがある。貯蔵穴であろうか。北東隅に同様の穴が床下から検出される。カマドの東、北壁下には10の中型の土師器甕、13の弥生の小甕、土師器の小甕11・12が並んでいる。炊事空間であったろうか。カマド内の焼土中には直接9の長胴甕底部が埋まっていた。

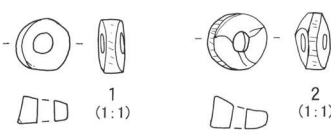
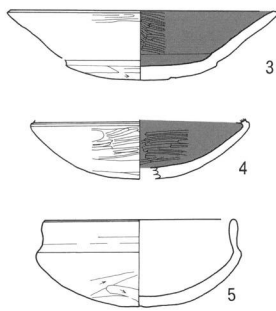
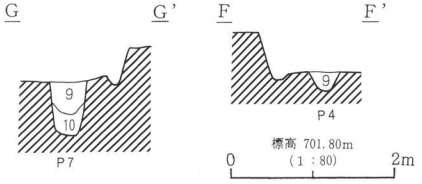
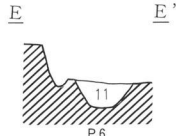
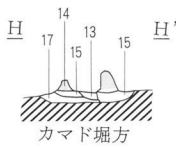
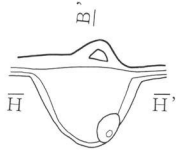
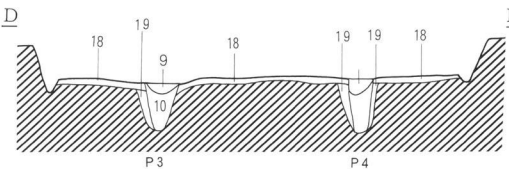
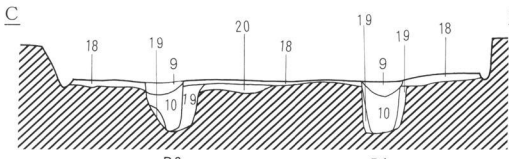
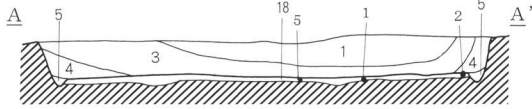
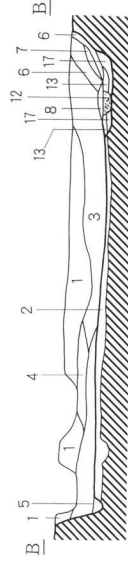
出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。須恵器は甕の口縁で外面に沈線が2本ある。土師器は杯と高杯、甕、甕、弥生甕がある。2の土師器杯は底部丸底であるが外縁はなく、口縁が内湾気味に大きく開く。内面には段がある。3の高杯は浅い丸底から直立し口縁が大きく外反する。6の杯は厚手で内面は暗文、外面は磨耗している。ミガキはない。8の甕は小形で体部中央下に焼成前穿孔される。穴の付近は円形に剥離しており、注口がついていたようである。9の土師器甕は口縁が大きく外反して最大径を持つ。据え置かれた甕なのか口縁から11cm下は粘土が付着している。胴部の下半が膨らむ形態が残っている。13は弥生中期の甕で再利用している。同じく弥生中期の15の大型蛤刃石斧は新たな磨面が見られ、転用している。弥生中期の住居が隣接していない中で、他から収集して

H45



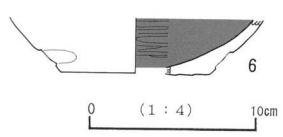
H45 土層説明

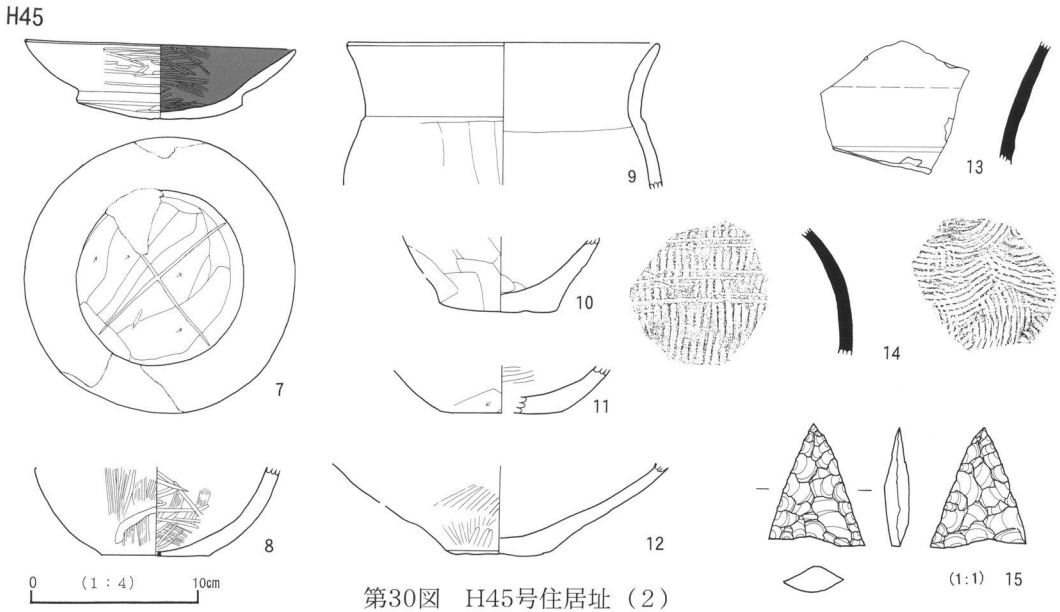
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ローム・砂・パミス粒・炭化物を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム・砂をやや多く含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ローム・砂をやや多く、炭化物を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂・ロームを少量含む。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂主体。暗褐色土を含む。締まりなし。
6. 極暗赤褐色土層 (5YR2/4)
焼土・粘土・灰を多く含む。
7. 極暗赤褐色土層 (5YR2/3)
焼土・粘土を少量含む。
8. 赤褐色土層 (2.5YR4/6)
焼土主体。暗褐色土を含む。
9. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・パミスを含む。締まりなし。
10. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3)
砂主体。暗褐色土を含む。締まりなし。
11. 褐色土層 (10YR4/4)
砂・ロームを含む。締まりなし。
12. 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土 (火床)
13. 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 灰・焼土を少量含む。
14. 暗赤褐色土層 (2.5YR3/2) 粘土
15. 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 砂・粘土を含む。
16. 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 粘土・砂・焼土を含む。
17. 暗赤褐色土層 (5YR3/4)
砂をやや多く、粘土を含む。
18. 暗褐色土層 (10YR3/3) 硬質。(床)
19. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。締まりなし。
20. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂を多く含む。締まりややあり。



第29図 H45号住居址 (1)

上からH45 完掘 カマド完掘 堀方(南東 南より)





きたようである。14の砥石も顕著な磨面がある。
これらより6 C後半～7Cの住居であろう。

(16) H45号住居址

こ11グリットにあり、南北長552cm、東西長520cm、壁高は50cmを測り、方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-17°-Wである。主柱穴は4個あり、柱痕が検出される。ピット堀方は長径54～56cm、深さ62～68cmの楕円ないし円形を呈す。北の東・西隅にP6・P7の貯蔵穴があり、P6は径68cm、深さ32cmの円形、P7は径45cm、深さ68cmを測る。床面は硬質である。

出土遺物には土師器と石製品がある。3・7土師器杯は浅い丸底から直立し、口縁が大きく外に開いている。7の底部には「×」のヘラ記号がある。5土師器杯は杯身模倣であるが、丸底の底部から立ち上がる外縁は丸味を帯びて屈曲し、口縁は直立する。ミガキ調整はなされていない。土師器甕は器形全容の明らかなものはないが、9の甕はやや厚手で口縁は外傾外反し胴部径の方が大きい。12の甕は胴部底部から大きく広がっている。カマド前の床面からは白玉が出土している。

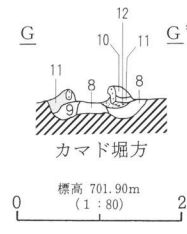
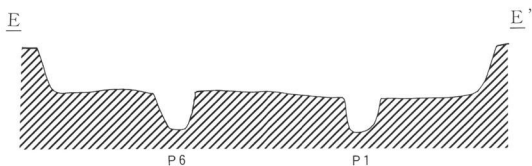
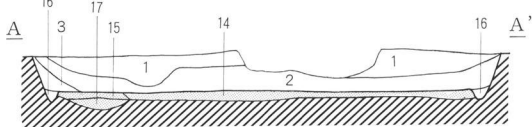
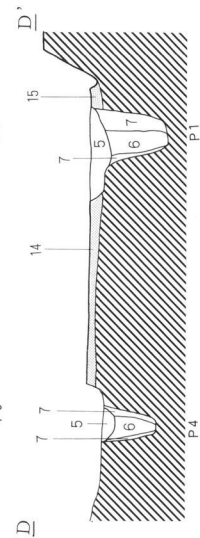
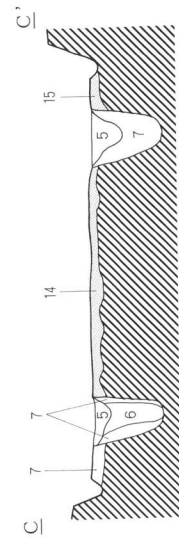
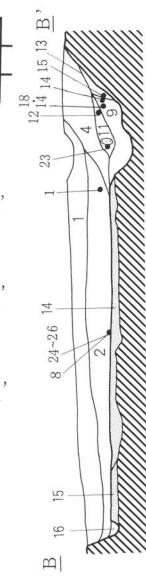
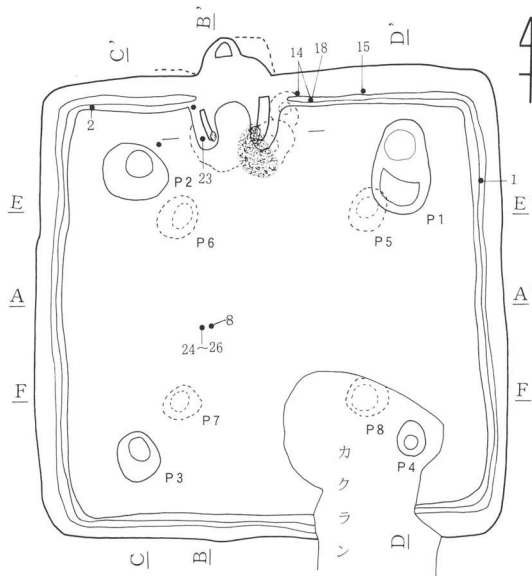
これらより本住居は6 C後半に位置付けられよう。

(17) H46号住居址

し10グリットにあり、南壁と床面の一部を攪乱に切られる。南北長528cm、東西長540cm、壁高は28～60cmの方形を呈す。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-0°である。カマドは奥壁が住居のラインとはほぼ一致する。煙道は比較的なだらかに立ち上がる。主柱穴は4個あり住居の隅に近い位置にある。東西320cm、南北360cmに配される。柱穴はやや楕円形を呈し、長径で60～72cm、深さ84～98cmを測る。床面は硬質で、堀方からは床下ピットが4個あり、楕円形を呈し、長径54～56cmを測る。床下ピットの配置は南北240cm、東西220cmを測る。柱穴の建て替えがなされたのであろう。床下からはカマドの焼土の位置が東の袖下にあり、カマドも少々西に移動して再設置されていたようである。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯蓋の杯身で、扁平である。立ち上がりはやや外反気味に短く内傾し、受け部は薄く短く、端部は丸味を帯びている。底部外周を残して、手持ちヘラ削

H46



- H46 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂・バミス・炭化物を含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・バミスをやや多く、炭化物を含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂をやや多く含む。
 4. 黒褐色土層 (5YR3/1)
粘土を多く含む。焼土・灰の混合土。
 5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・バミスを含む。縮まりなし。
 6. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂をやや多く含む。縮まりなし。
 7. 褐色土層 (10YR4/4)
砂主体。暗褐色土を含む。
 8. 暗赤褐色土層 (5YR3/2)
粘土を多く、焼土・灰を含む。
 9. 黒褐色土層 (5YR3/1) 粘土・灰を多く含む。
 10. 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 粘土。一部焼土化。
 11. 暗赤褐色土層 (2.5YR3/4) 粘土。一部焼土化。
 12. 暗赤褐色土層 (2.5YR3/6)
焼土。(火床) 作り変えの可能性あり。
 13. 暗赤褐色土層 (5YR3/4)
粘土・焼土・砂を含む。
 14. 暗褐色土層 (10YR3/3) 硬質。(床)
 15. 黒褐色土層 (10YR2/3) 硬質。(床)
 16. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂をやや多く含む。縮まりなし。
 17. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂をやや多く含む。縮まりややあり。



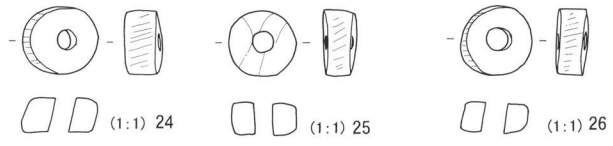
H46 完掘 (南より)



H46 カマド完掘 (南東より)

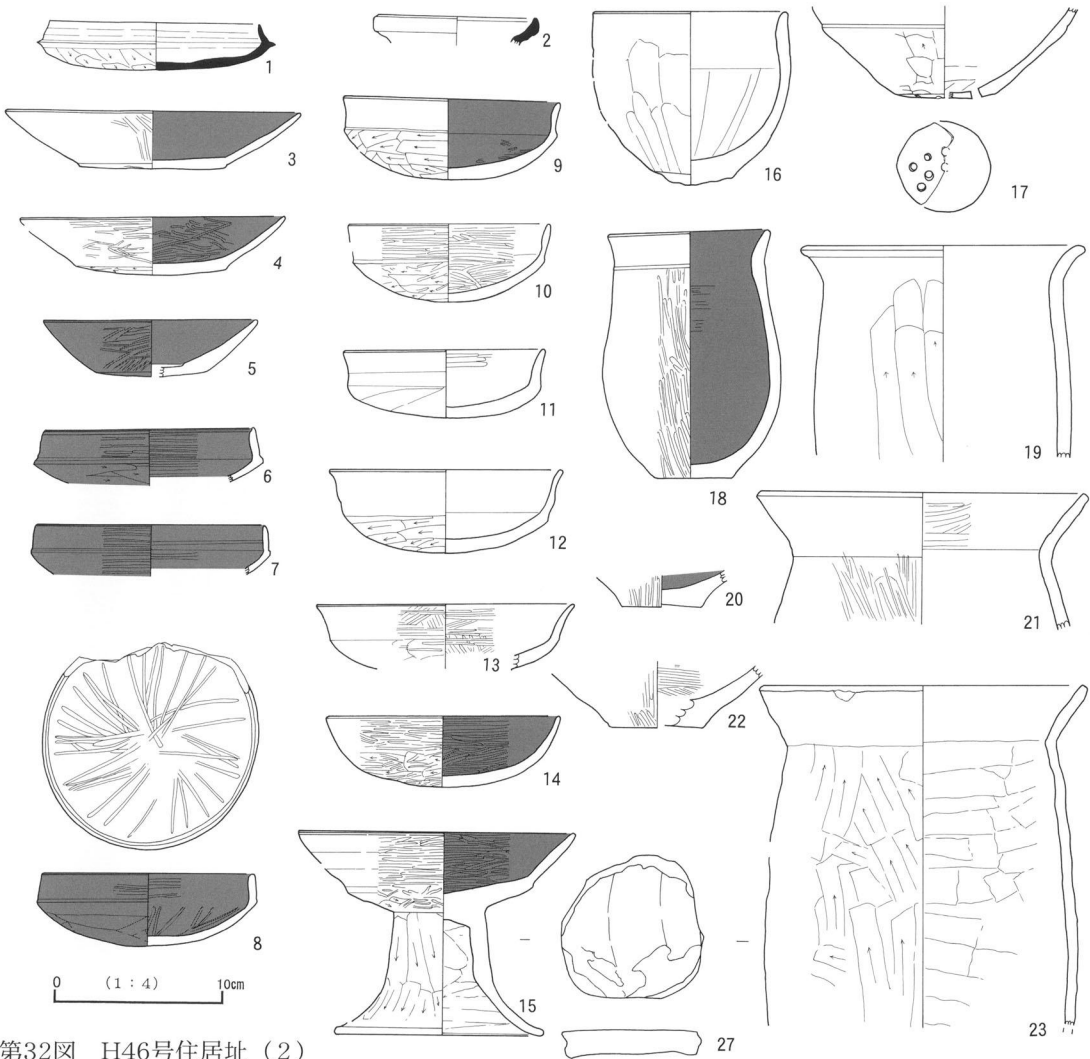


H46 遺物出土状況 (南より)



第31図 H46号住居址 (1)

H46

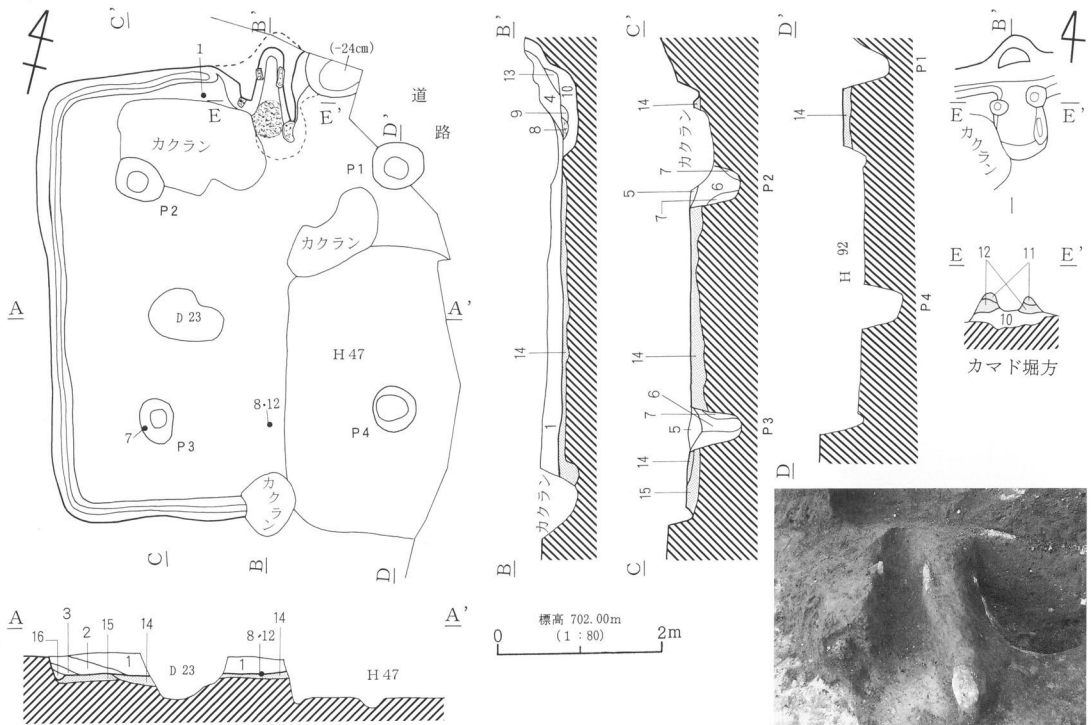


第32図 H46号住居址 (2)

りが平行に底部いっぱいにはされている。3・4の土師器杯は丸底が平底に近くなり、直立して、口縁が大きく外傾する。5の杯口縁は底部から外稜を持って外傾する。8の杯は丸底で、口縁は底部から直立し、内面に放射状暗文を施す。外面のミガキ調整はされず、黒色を呈すが塗りタイプの黒色処理である。11の土師器杯は口縁が屈曲して外反している。磨耗して明確ではないが内面はミガキ黒色処理、外面は口縁横ナデ底部ヘラナデである。12は口縁が長く、中位のロクロ痕が段を作っている。黒色処理はされていない。15の高杯は3・4の器形の杯部に太い首の脚を付けている。土師器甕は長胴甕で、口縁が外反するものと直線的に外傾するものがある。最大径は口径にある。21の胴部内面はナデ調整で、外面はヘラ削り後ミガキ調整される。

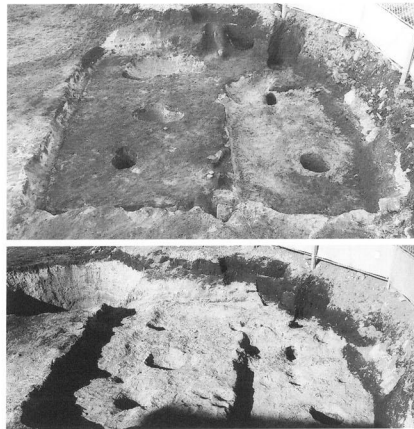
これらより6C後半～7C代の住居と位置付けられよう。

H48



H48 土層説明

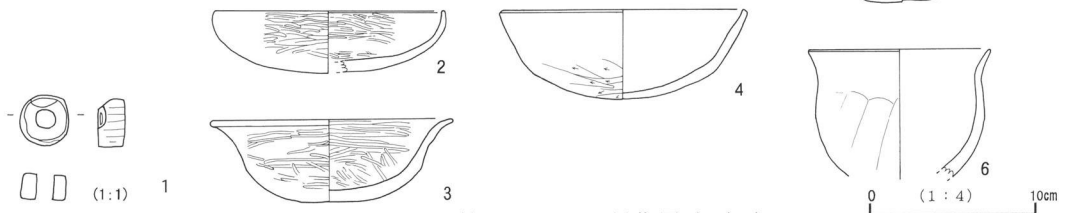
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・パミス・炭化物を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂・パミス・炭化物を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂を多く含む。縮まりなし。
4. 極暗赤褐色土層 (2.5YR2/4)
焼土を多量、焼土・灰を含む。
5. 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
砂・炭化物を含む。縮まりなし。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂・パミスを含む。縮まりなし。
7. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂主体。暗褐色土を含む。縮まりなし。
8. 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土 (火床)
9. 極暗赤褐色土層 (2.5YR2/4)
灰を含む。焼土化。
10. 黒褐色土層 (5YR2/2)
焼土を少量、砂・炭化物を含む。
11. 極暗赤褐色土層 (2.5YR2/4)
粘土。一部焼土化。
12. 暗赤灰色土層 (2.5YR3/1) 焼土
13. 暗赤褐色土層 (5YR3/2)
粘土主体。焼土・灰を含む。
14. 暗褐色土層 (10YR3/3) やや硬質。(床)
15. 暗褐色土層 (10YR3/4) やや硬質。(床)
16. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂を多く含む。縮まりなし。



上から H48 完掘 堀方 (南より)

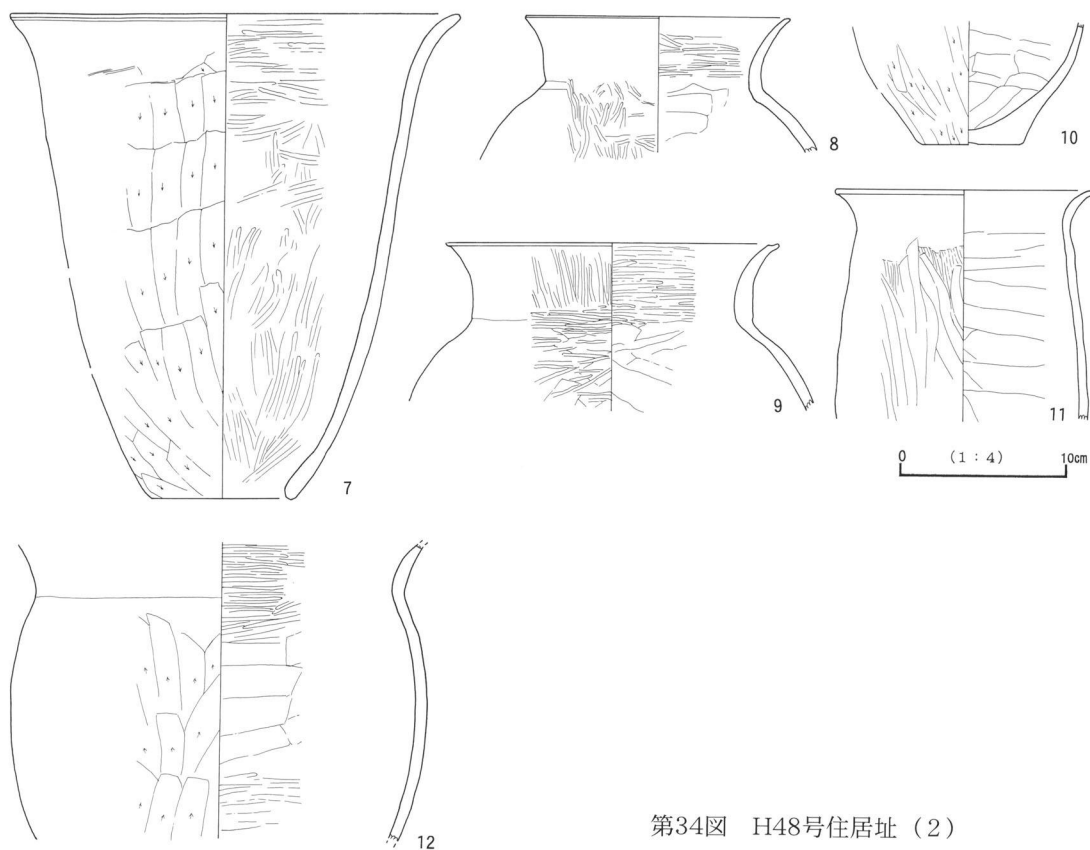


上から H48 カマド完掘 堀方 (南より)



第33図 H48号住居址 (1)

H48



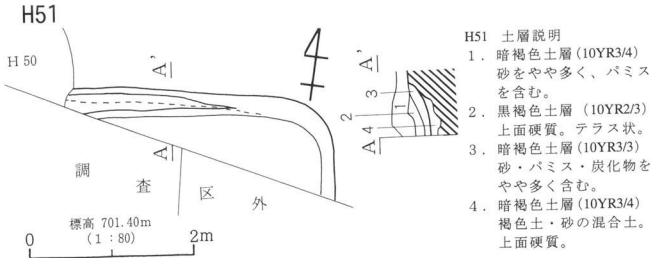
第34図 H48号住居址(2)

(18) H48号住居址

さ7グリットにあり、H47・D6に切られ、D7を切る。東は現道で、調査できなかった。攪乱に3か所壊される。南北長540cm、東西長(488)cm、壁高は20cmを測り、方形を呈するであろう。カマドを北壁に持ち、主軸方位はN-17°-Wである。カマドは袖が長く細い。床面はそれほど締まってはいない。支柱穴は4個あり、300cm四方に配され、ピット堀方はやや楕円形を呈し、長径は58~64cm、深さ56~72cmを測る。

出土遺物には土師器、石製品がある。3の土師器杯は口縁部が中ほどから外反して、深い丸底を呈する杯E器形(1995.花岡弘・西山克己「信州の6世紀・7世紀の土器編年と地域的特徴」『東国土器研究代号』)である。内面の屈曲は弱く、外面の稜も明確なものではない。5の土師器鉢の底部は径が小さく中央が窪んでいる。7の甑は大型品である。孔の口径は内側で8cmを測る。8・9の壺は口縁が直立して外反し、胴部は球胴形である。口縁の内面端部は凹線が廻る。12の甕は広口で、内外面口縁と外面胴部にミガキ調整をする。11の長胴甕は口縁が外反、最大径を胴部に持つ。白玉がカマドの西脇より出土している。

これらより本住居は6C前半に位置づけられよう。



H51 完掘 (北より)

第35図 H51号住居址

(19) H51号住居址

こ17グリットにあり、H50に切られる。南北長〈92〉cm、東西長〈280〉cm、壁高は28cmを測る。カマドはH50に切られて無い。主軸方位はN-5°-Wである。本調査区では北東壁一部であるため詳細は西八日町遺跡ⅣのH24を参照されたい。

(20) H54号住居址

お36グリットにあり、F19・F21・単独ピットP159・160に切られ、単独ピットP161を切る。東側は現道のため調査できなかった。南北長500cm、東西長〈322〉cm、壁高は36cmを測る。カマドを北壁に持ち、カマドは住居プランの内側にある。主軸方位はN-6°-Wである。カマドは支脚石が残り、焚口の天井石が落ちた状態であった。主柱穴は西側の2個調査したが東側にもあると推測される。南北の柱間は280cmを測る。壁下には周溝が廻り、床面は上面が硬質である。

出土遺物には土師器がある。杯類は小片であるが、1は丸底から外稜を持って外反する。2は内湾する鉢であろうか。6の甕は胴下部が膨らみ、台状の底部がついている。4の壺底部は底部が大きく膨らんでいる。

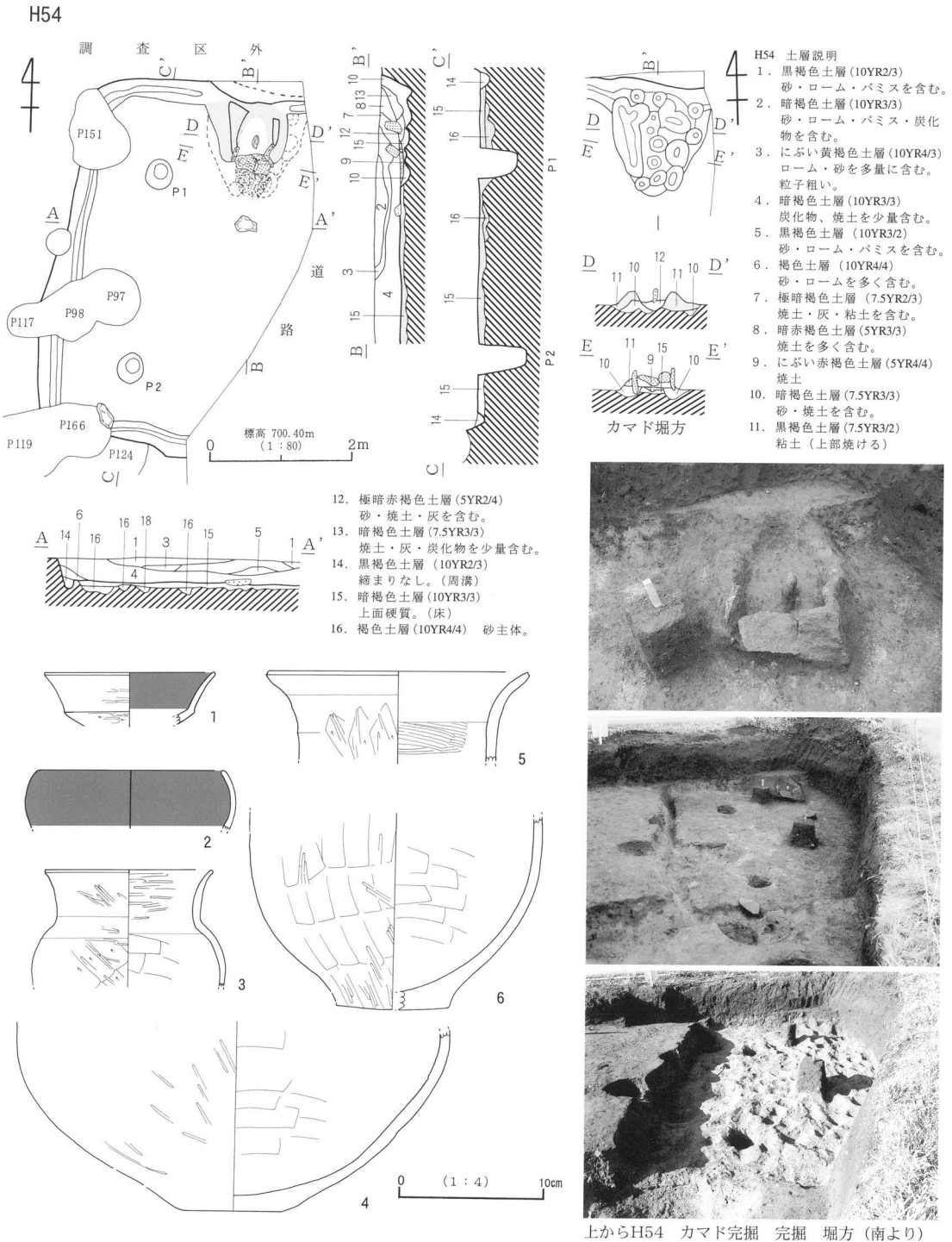
これらより、本住居は6C代であろうか。

(21) H56号住居址

く18グリットにあり、H55・単独ピットP155・156に切られ、単独ピットP157を切る。南北長384cm、東西長440cm、壁高は16cmの方形を呈す。カマドは北で重なったH55に壊されたのか無い。主軸方位はN-15°-Eである。主柱穴は3個調査し、長径38~46cm、深さ56cmを測る。壁下には周溝が廻る。床面はやや硬質である。

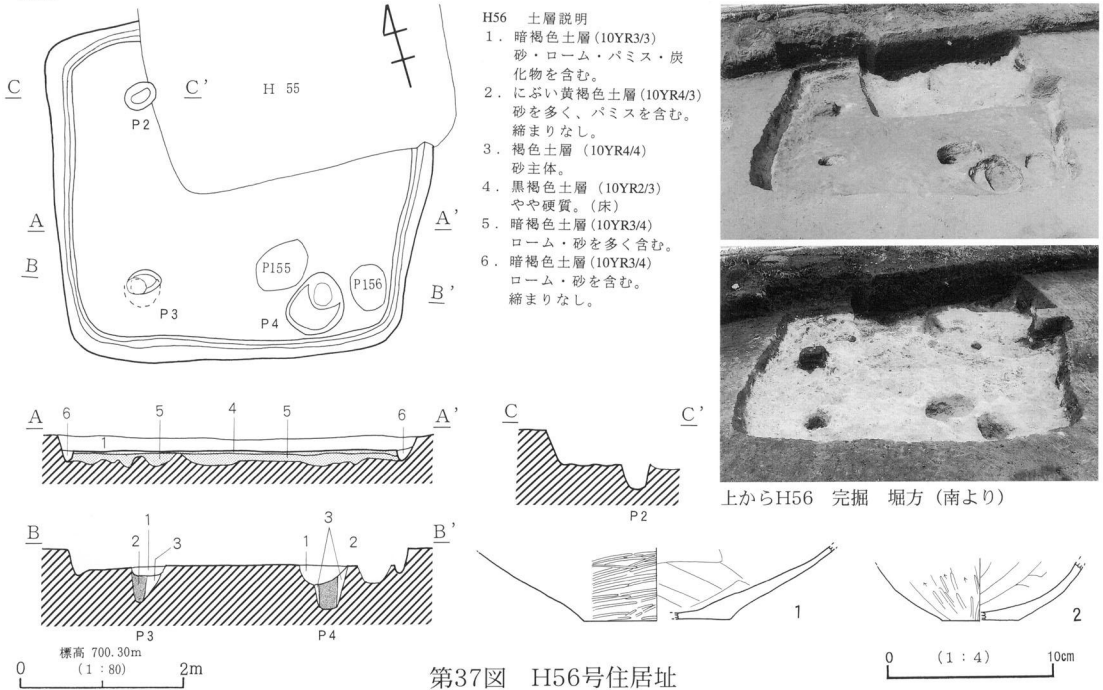
出土遺物には土師器がある。土師器壺の底部は台状をなし、胴下部が大きく開き、外面は丁寧にミガキ調整される。2の小形甕底部は外面が縦方向のヘラ削り、内面はナデである。

これらより古墳時代後期とみられる。



第36図 H54号住居址

H56



(22) H58号住居址

お40グリットにあり、北側は現道であるため、調査できなかった。H57に南東を切られる。南北長(280)cm、東西長400cm、壁高は56cmを測る。カマド調査されていない北にあるものと思われる。主軸方位はN-0°である。支柱穴は南側の2個調査した。ピット径は48・50cmの円形、深さ48cmを測る。壁下には周溝が廻る。床面には礫が見られた。床面の上面は硬質であった。

出土遺物には土師器がある。1の土師器杯はほぼ平底で曖昧な稜から口縁が内湾気味に外傾する。塗りタイプの黒色処理の痕跡がある。土師器甕は長胴甕で、口縁部に最大径のある2・5と、ほぼ口径と胴部最大径に近い3とがある。4の長胴甕は粒子の粗い石英粒を含んでいる。床面には礫が多く見られ、南東隅には編物石がある。

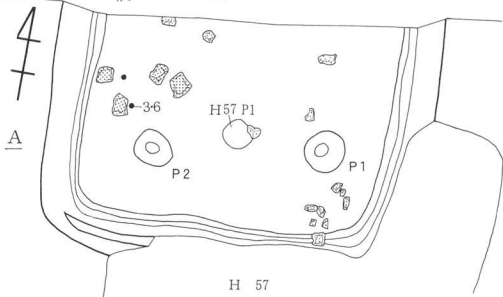
これらより、本住居は7C代と位置付けられようか。

(23) H59号住居址

け23グリットにあり、INCIVのH8に切られる。南北長360cm、東西長416cm、壁高は24~32cmを測り、方形を呈す。カマドを東壁に持ち、主軸方位はN-88°-Wである。支柱穴は北側の2個を検出した。南側は重複するH8に壊されたものとみられる。本調査域では北壁の一部を調査したのみであるため、詳細は西八日町遺跡Ⅳ(INCIV)H58を参照されたい。

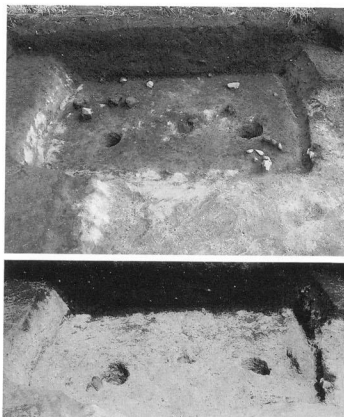
H58

調査区外

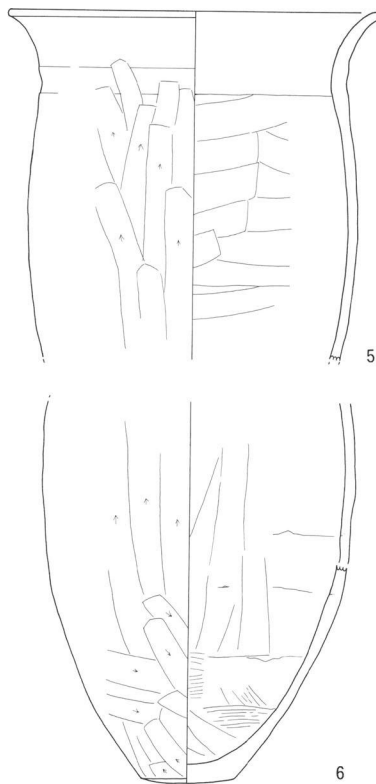
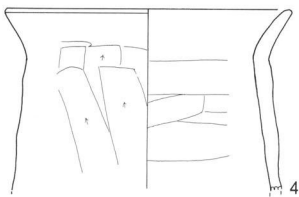
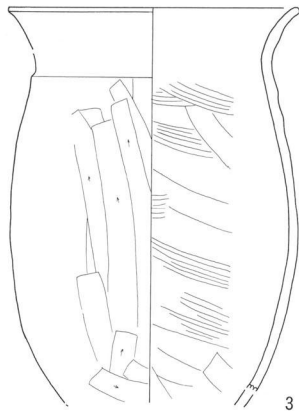
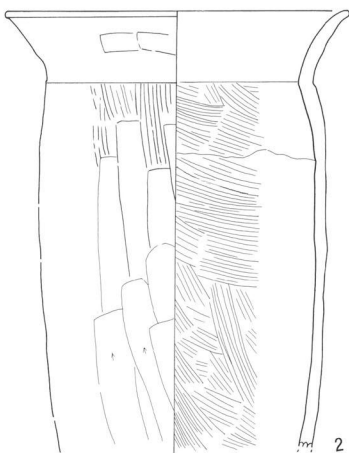
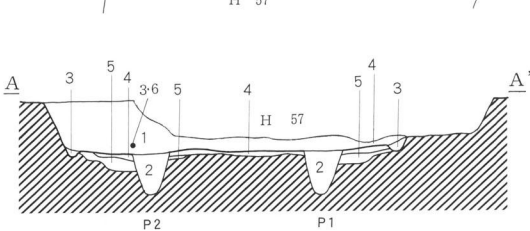


H58 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ローム・砂・パミス・炭
化物を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・パミスを含む。
縮まりなし。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
縮まりなし。(周溝)
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
上面やや硬質。(床)
5. にぶい黄褐色土層
(10YR4/3)
砂を多く含む。

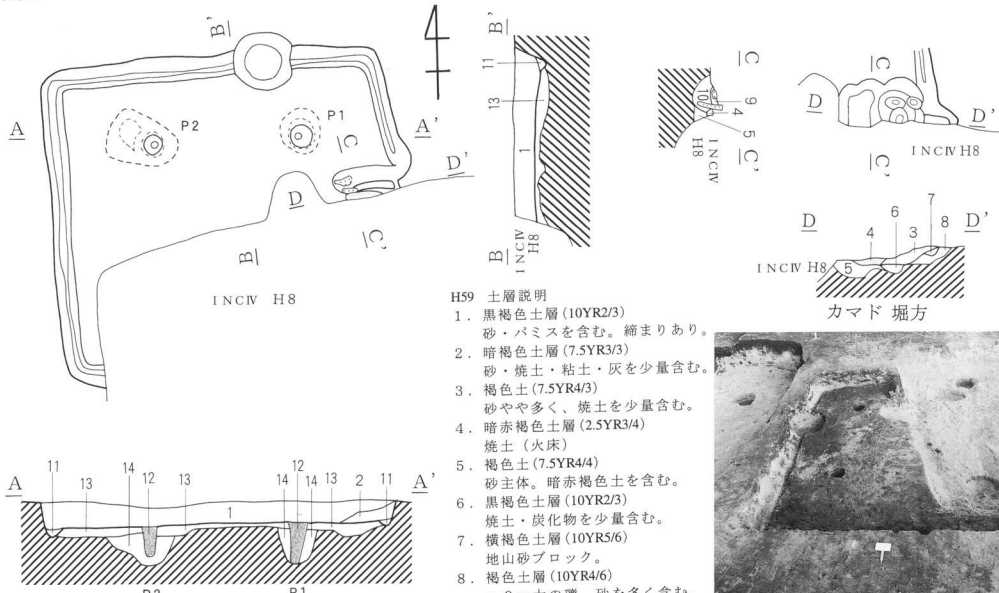


土 H58 完掘 堀方 (南より)

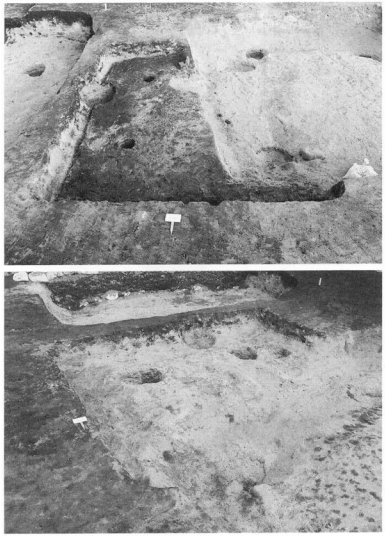


第38図 H58号住居址

H59



- H59 土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂・バミスを含む。縮まりあり。
 2. 暗褐色土層(7.5YR3/3)
砂・焼土・粘土・灰を少量含む。
 3. 褐色土(7.5YR4/3)
砂やや多く、焼土を少量含む。
 4. 暗赤褐色土層(2.5YR3/4)
焼土(火床)
 5. 褐色土(7.5YR4/4)
砂主体。暗赤褐色土を含む。
 6. 黒褐色土層(10YR2/3)
焼土・炭化物を少量含む。
 7. 横褐色土層(10YR5/6)
地山砂ブロック。
 8. 褐色土層(10YR4/6)
～3cm大の礫、砂を多く含む。
 9. 暗赤褐色土層(5YR3/4)
焼土・灰・粘土主体。
 10. 暗褐色土層(7.5YR3/3)
砂をやや多く、焼土含む。
 11. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂を多く含む。縮まり無し。
 12. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂を少量含む。縮まり無し。
 13. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂を多く含む。縮まりあり。
上面硬質。(貼床)
 14. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂・炭化物を含む。
縮まりややあり。



第39図 H59号住居址

上 H59 完掘(西より) 下 堀方(南西より)

奈良・平安時代

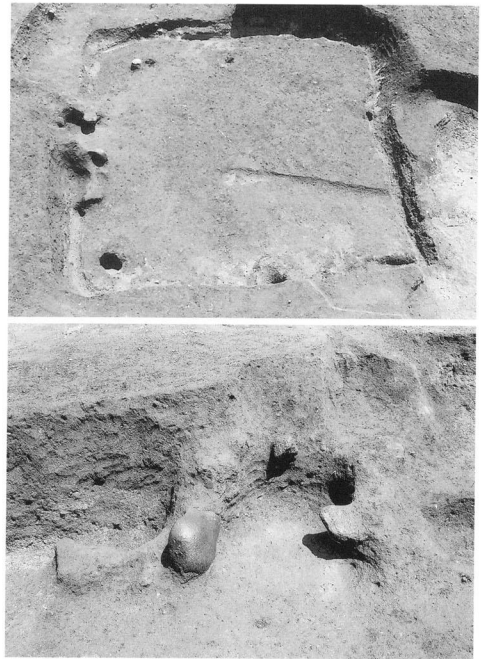
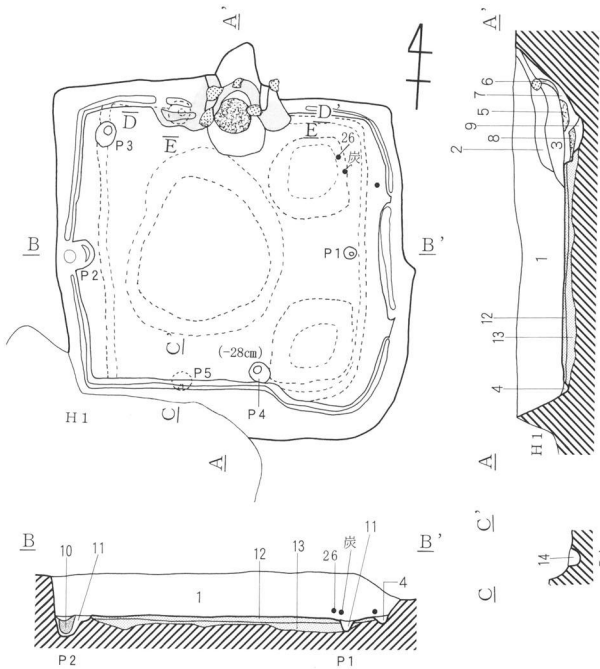
(24) H2号住居址

お19グリットにあり、H1に切られ、H29を切る。南北長346cm、東西長390cm、壁高は49～62cmの東西に長い長方形を呈す。カマドは北壁中にあり、主軸方位はN-4°-Wである。カマドの焼土は壁の線の上に設けられ、煙道がよく残っていた。カマドの西脇を台状に作り、土器を設置するための浅い窪みがある。P2は支柱穴で、西壁の中ほどにある。径32cm、深さ24cmを測り、柱痕がみられる。東のP1は径16cm、深さ16cmの小ピットである。支柱穴の規模ではないが、東西2本支柱穴の一方であろうか。北西隅に径24cm、深さ21cmの円形のP3がある。南壁下の径28cm、深さ28cmのP4と、西のP5とはセットで出入り口のピットであろうか。壁下には周溝が廻る。床面を出す際に強めに削ると床面が壊れるが、南側床面は縮まっている。

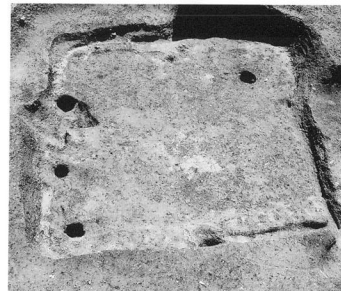
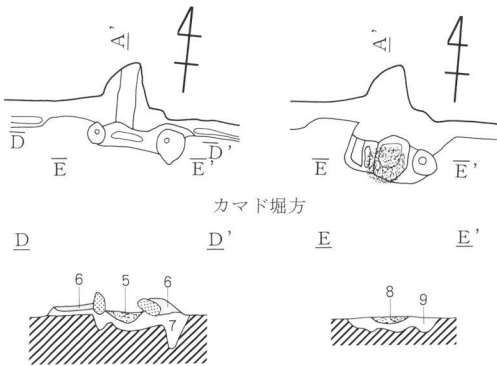
出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、石製品がある。須恵器は蓋、杯、壺、横瓶、甕がある。4・5・7の須恵器杯は底部回転ヘラ切り後ヘラナデである。8は検出面のもので、底部回転糸切りである。9の高台付杯は土板上に転用され整った円形で、底部糸切り後高台を貼付している。高台は畳付きがいくらか外に開く。24は須恵器広口壺で、口縁は短く外傾して、口縁帯をもち、胴部は肩が張っている。ロクロナデ調整後、体下部はヘラ削りされる。32の土師器甕は口径と底径の大きな武蔵甕で、器肉はいくらか厚みがある。口縁部形態は「く」字形である。カマド堀方より出土する。

これらより本住居は7C代とされようか。

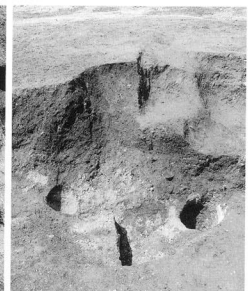
H2



上からH2 完掘 カマド完掘 (西より 南より)



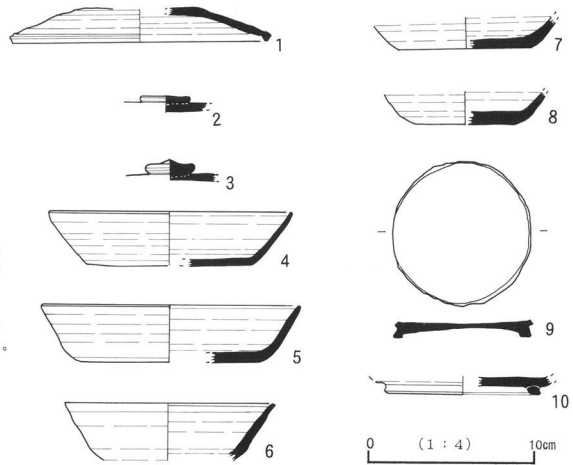
H2 床下住居完掘 (西より)



H2 カマド堀方 (南より)

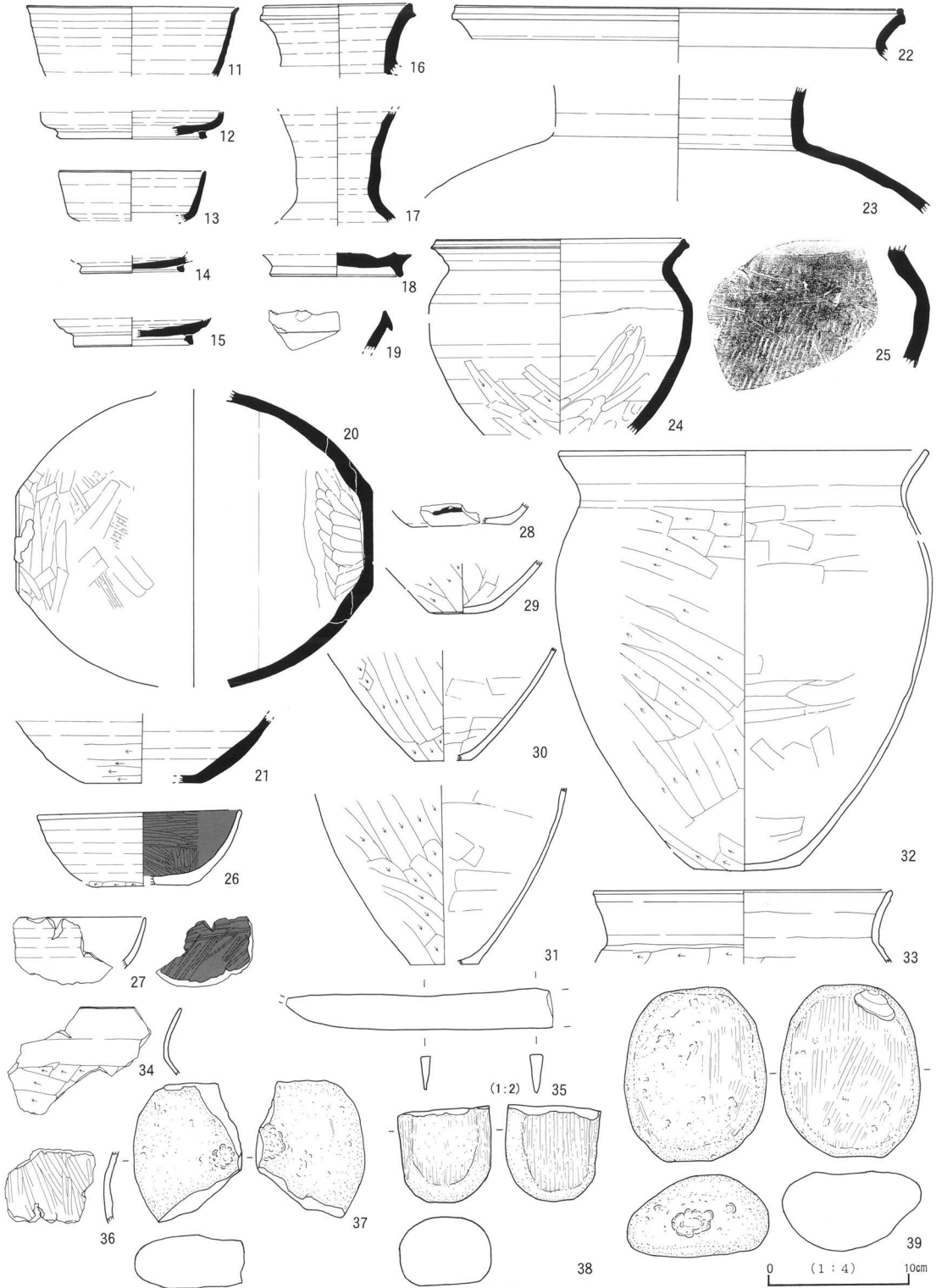
H2 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
焼土ブロック・粘度粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
1層に近い。焼土粒子を含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂主体。(周溝)
5. 褐色土層 (7.5YR4/6)
焼土
6. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
粘土
7. 黒褐色土層 (7.5YR2/2)
炭化物・焼土をふくむ。
やや粘質。(カマド堀方)
8. 褐色土層 (7.5YR4/6)
焼土
9. 黒褐色土層 (7.5YR2/2)
(カマド堀方)
10. 褐色土層 (10YR4/4)
柱痕
11. 褐色土層 (10YR4/6)
砂主体。
12. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。II区に
砂層を入れ込む所あり。一部
縮まる。(貼床)
13. 黒褐色土層 (10YR2/3)
10YR4/2の粘土ブロック・黒
色土ブロックを含む。縮まる。
(床下住居貼床)
14. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂主体。



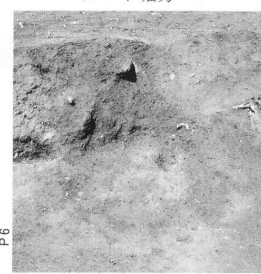
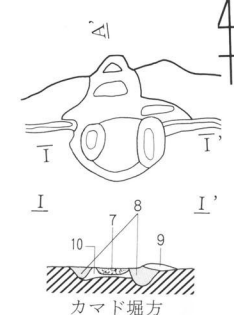
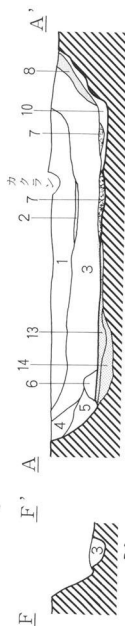
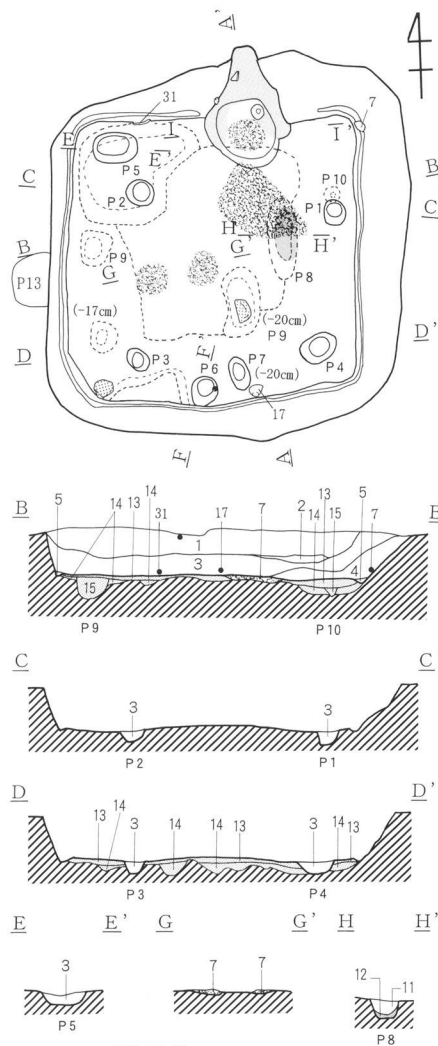
第40図 H2号住居址 (1)

H2

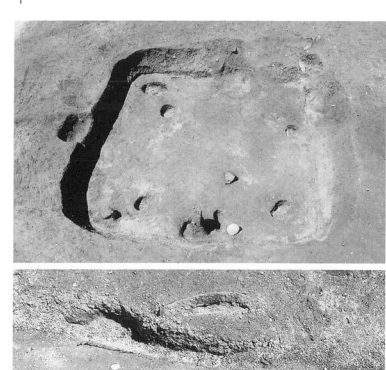


第41図 H2号住居址(2)

H5

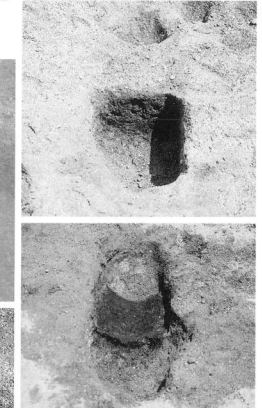


H5 カマド (南より)

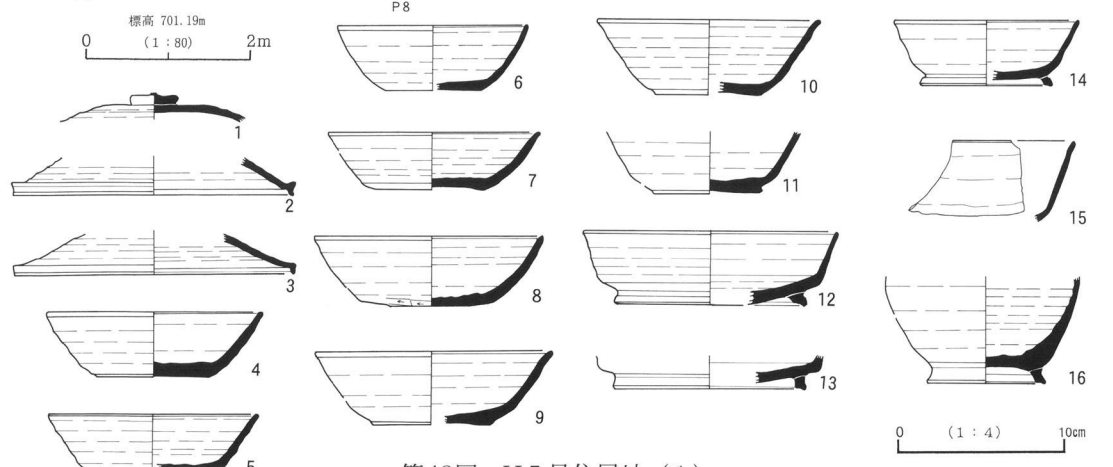


上からH5 完掘 31鎌 (南より 北より)

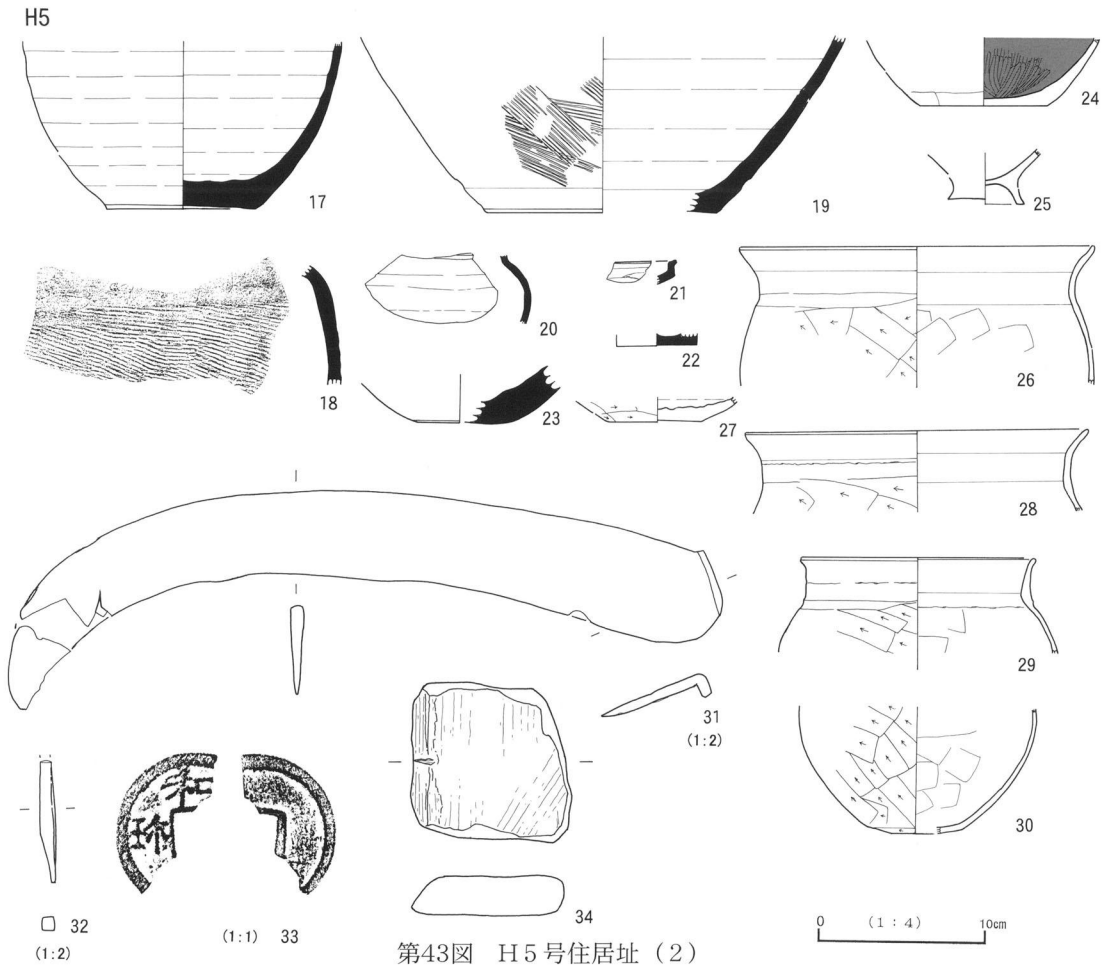
- H5 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂を含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。
 4. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
 5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を多く含む。
 6. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
 7. 赤褐色土層 (5YR4/8)
焼土
 8. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土粒子を含む。粘質土。
 9. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
崩壊粘土。
 10. 暗褐色土層 (10YR3/3)
(カマド掘方)
 11. 褐色土層 (10YR4/4)
砂
 12. 黒色土層 (10YR1.7/1)
炭化物・種を含む。(炭化物層)
 13. 黒褐色土層 (10YR2/2)
ロームブロックを含む。(貼床)
 14. 黒褐色土 (10YR2/2)
暗褐色砂 (10YR3/3) の混在。
 15. 黒褐色土層 (10YR2/2)
(床下ビット)



上からH5 P8炭化物層セクション (南より)



第42図 H5号住居址 (1)



第43図 H5号住居址(2)

(25) H2号住居址床下住居

お19グリットにあり、H1に切られ、H29を切る。H2のカマドの堀方には焼土があり、床下からは内周して、縮まった床面が検出された。南北長340cm、東西長313cm、壁高は0~8cmを測る。主軸方位はN-5°-Wである。壁下には周溝が廻る。支柱穴はない。

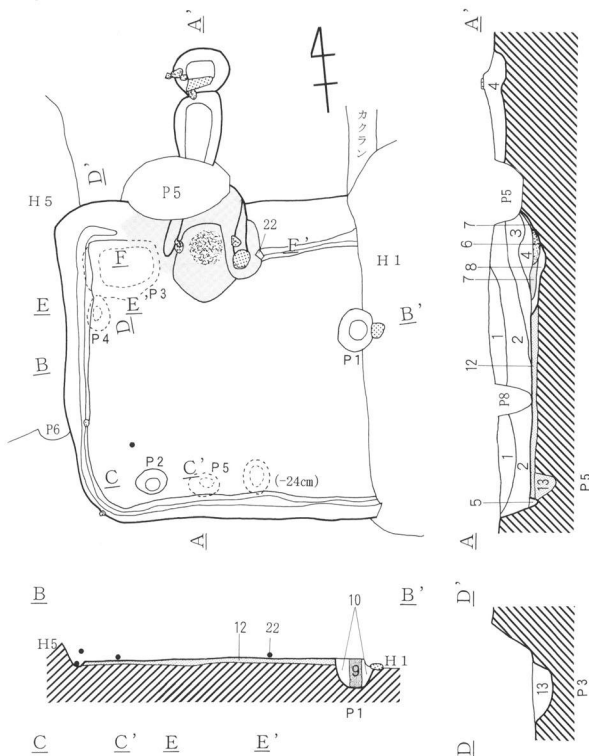
出土遺物は26・27の土器器杯である。26の土器器杯は口縁部内湾して開く。底部は回転糸切り後底部と周辺部が手持ちヘラ削りされている。27の杯は内湾する口縁で、内面ミガキ黒色処理、外面はロクロナデである。

これらより、8CのH2と軸が近いので、上面の住居は拡張とみられる。

(26) H5号住居址

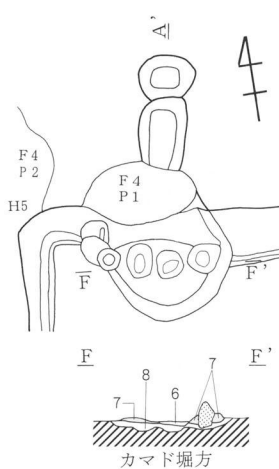
か21グリットにあり、単独ピットP1、P6、P13に切られ、H6、F6、単独ピットP2を切る。南北長362cm、東西長366cm、壁高は46~58cmの方形を呈す。壁は直立せず、角度を持って立ち上がっている。カマドは北壁中にある。主軸方位はN-2°-Eを指す。支柱穴はP1~P4の4個であるが円形・楕円形を呈し、長径で26~46cm、深さ12~16cmと小さく深さはない。南壁下のピットは出入りロピットである。北西隅のP5は隅丸長方形で、長径54cm、深さ16cmと浅い。壁下には周溝が廻る。床面はロームブロックを混在し、硬質である。床面の3か所に焼け込んでいる所があり、床下ピットP8には底に炭化物層が6cm厚で見られた。P8は長径100cm、短径36cm、深さ24cmを測

H6

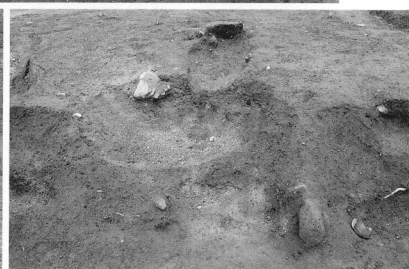
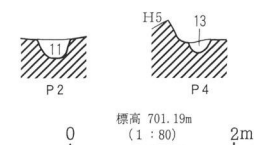


H6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石・焼土プロ
ックを含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)
焼土・粘土粒子を含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)(周溝)
6. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土
7. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
粘土粒子を多量に含む。
8. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂主体。
9. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂を含む。(柱痕)
10. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂を含む。
11. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
12. 黒褐色土層 (10YR2/2)
10YR3/3の砂層を含む。
縮まりあり。(貼床)
13. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂を含む。

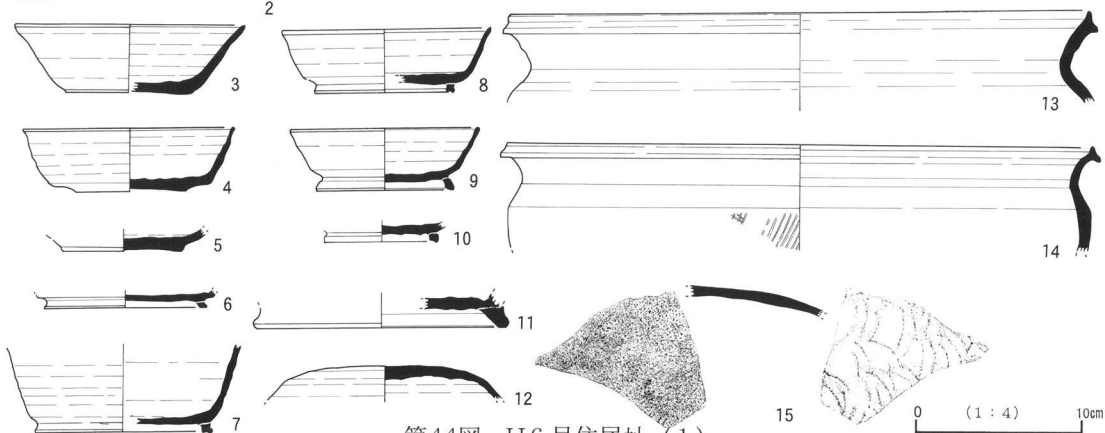


H6
完掘 (南より)

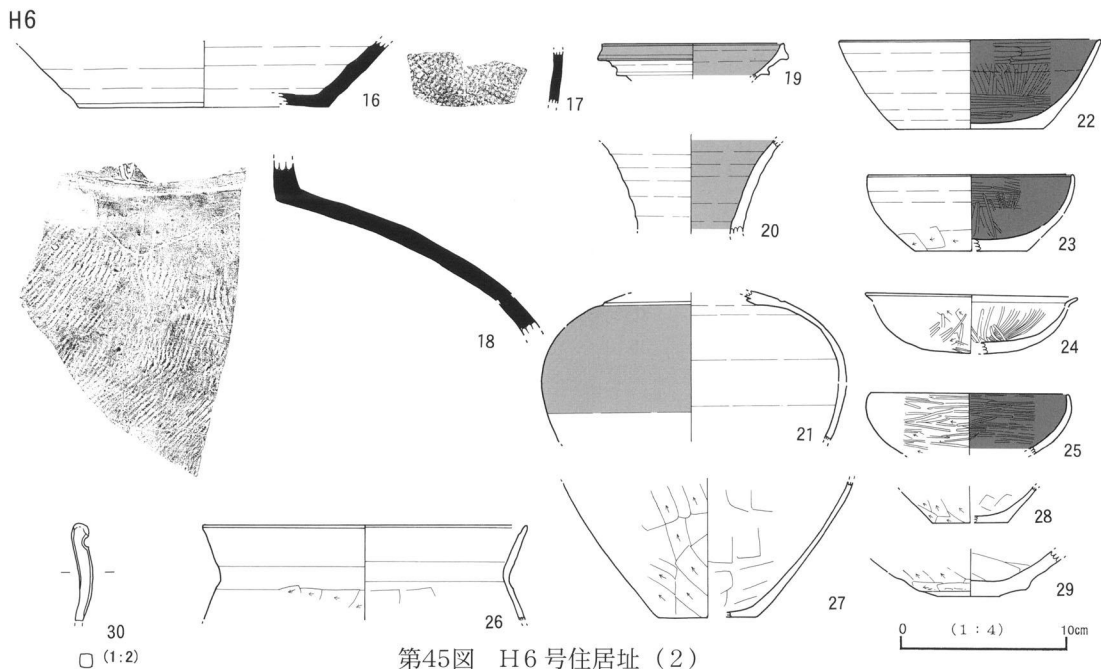


H6 カマド (北より)

H6 カマド完掘 (南より)



第44図 H6号住居址 (1)



第45図 H6号住居址(2)

る長楕円形のピットである。P 9は床下ピットで、炭化材が見られた。

出土遺物は須恵器、土師器、鉄製品、和同開珎、砥石がある。5の須恵器杯は底部周辺を手持ちヘラ削り、7の杯が底部周辺から口縁下部を幅1cmほどにヘラナデしている。他の杯は底部回転糸切りである。火樫が残る。高台付杯もみられる。

24の土師器杯は底部手持ちヘラ削り、内面はミガキ黒色処理される。26～30の土師器甕は武蔵甕で、器肉は薄く、口縁部形態は「く」字形である。28は「コ」字形が窺われる。鉄製の鎌は北壁の西下、P 5との間の床面より出土する。先端が内側曲がっている。

これらより9C代の年代が当てられよう。

和同開珎は長野県では2006年現在、銀銭1枚を含む23枚以上が確認され、和同開珎は東信や北信の千曲川流域に多く、佐久地域は和同開珎から富壽神寶までの皇朝十二銭の内、前半の銭が多いと指摘されている。佐久市中道遺跡、聖原遺跡、前田遺跡、小諸市中原遺跡、小諸市郷土遺跡から各1枚出土している。佐久地域で5枚目の出土である。柴原永遠男氏によれば竪穴住居に関連する祭祀行為は掘立柱建物のような土中への埋納ではなく、上屋造営中もしくは完成後に上屋に置かれたものが、建物廃絶時や撤去時に床面に落ちたとか、火災の際に落ちたのではないかとし、上棟祭や屋固祭にかかわるものとしている。(西山克己、2006研究集会「和同開珎をめぐる史的検討」)

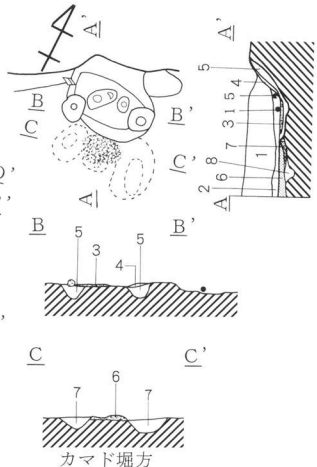
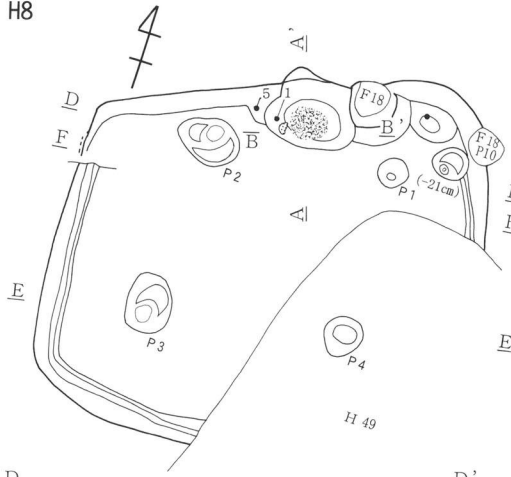
出土した炭化材の分析の結果、カマドからはクヌギ節、床下のピットP 11からの炭化材はウコギ属とモモと分析された。P 8の床下ピットの炭化物層からは、炭化したイネの胚乳15個とコムギの胚乳1個が出土した。P 8は排土した中にも炭化物があったので、数量は本来倍以上あったと思われる。

(27) H6号住居址

か20グリットにあり、H 1、H 5、単独ピットP 5、P 8、P 13に切られ、H 7、F 12を切る。東の壁はH 1に切られてない。南北長314cm、東西長(343)cm、壁高は0～51cmの東西に長い長方形を呈すであろうか。カマドは北壁の西寄りにあり、壁中に構築され、検出面では煙道が延びていた。

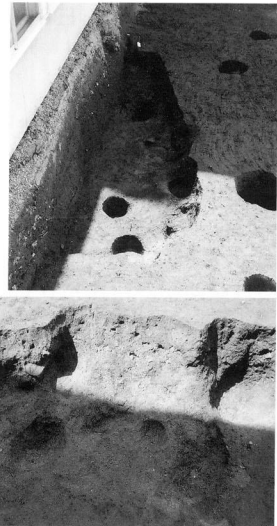
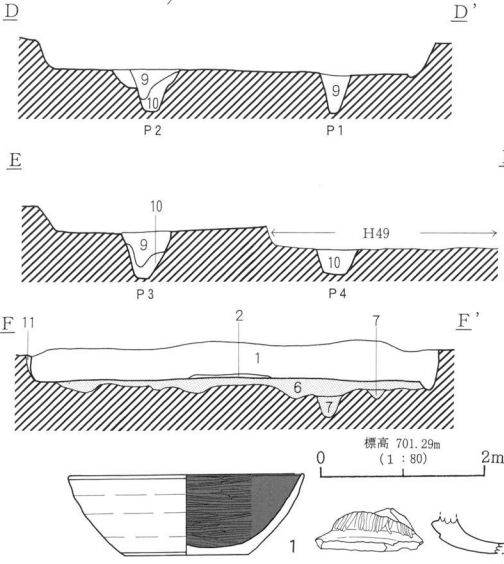
北壁の立ち上がりはなだらかである。主軸方位はN-8°-Eである。P 1は主柱穴で東壁中ほどにあり、長径50cmのほぼ円形で深さ32cmを測り、柱痕が残る。西壁にはP 1と対するピットが見当

H8



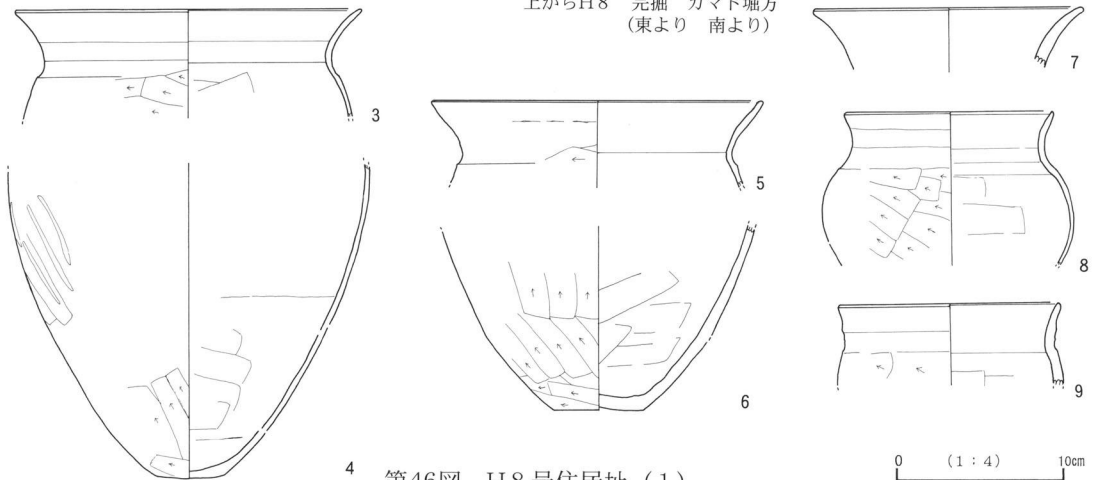
H8 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
~ 5mm 大小石・まれに 3cm 大
を含む。地山砂を含む。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
カマド崩壊粘土。
3. 褐色土層 (7.5YR4/6)
焼土
4. 灰褐色土層 (7.5YR4/2)
粘土
5. 黒褐色土層 (10YR3/2)
(カマド堀方)
6. 黒褐色土層 (10YR2/2)
粘土ブロック・地山砂を含む。
(貼床)
7. 褐色土層 (7.5YR4/4)
床下焼土
8. 黒褐色土層 (10YR3/2)
焼土・炭化物含む。
(床下カマド堀方)
9. 暗褐色土層 (10YR3/3)
柱痕
10. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂主体。(ピット堀方)
11. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂主体。(床下住居覆土)



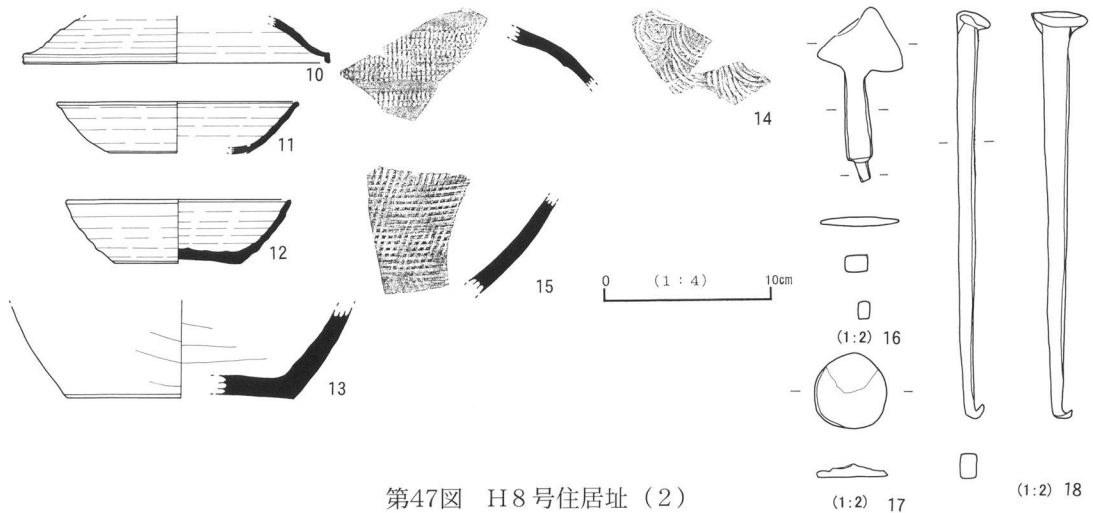
上からH8 カマド 旧カマド堀方 (南より)

上からH8 完掘 カマド堀方 (東より 南より)



4 第46図 H8号住居址 (1)

H8



第47図 H8号住居址(2)

たらない。南西隅に長径38cm、深さ20cmのピットがある。床面は締まっており、床下からはカマドの西脇に長径88cm、南北40cm、深さ28cmの隅丸長方形の落ち込みがある。南壁下には2個と西壁の北寄りに床下ピットがある。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製角釘がある。須恵器は蓋、杯、壺、甕がある。3の須恵器杯は底部回転糸切り、全体に灰が付着し二次焼成を受けている。内面は使用による摩耗が著しい。4は底部回転糸切りで底径6cm、一旦屈曲して口縁が立ち上がっている。5は底部回転糸切りで、底径が7.7と大きい。

8の高台付杯は浅く、底部回転糸切り後高台を貼付している。高台の底面には凹線が入る。9の高台は長脚である。19~21は須恵器か灰釉陶器か判断し兼ねた。混入でないとすれば須恵器であろうか。胎土が白色で、釉調も白色である。22の土師器杯は、カマド脇から出土し、底部は手持ちヘラ削りされ平底である。内面ミガキ黒色処理である。23は口縁が内湾する。26の土師器甕は小片の武蔵甕である。口縁部形態は「く」字形である。

これらより、8Cの年代が当てられよう。

(28) H8号住居址

け20グリットにあり、H49、F18に切られる。南北長386cm、東西長466cm、壁高は23~47cmの東西に長い長方形を呈す。2次にわたり調査を行っているため、接合しない所がある。カマドは北壁にあり、火床は良好に残っているがと袖・天井部は壊れている。主軸方位はN-21°-Wである。支柱穴は4個あり、北に寄っている。カマド前面の床は粘土を貼って非常に締まっていた。床下には床下カマドの火床と袖の堀方があり、床下住居があったであろう。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。須恵器は蓋、杯、甕がある。12の須恵器杯は底部回転糸切り後軽いヘラナデをしている。底径が大きく、底径/口径の比は0.57である。土師器は杯、甕がある。1の土師器杯は口縁が長く、内湾外傾し、底部は手持ちヘラ削りされる。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態は「く」字形である。鉄製品は鎌と角釘と円板である。

これらより本住居は8C後半の年代が当てられよう。

(29) H10号住居址

え22グリットにあり、F3に東壁の一部を切られ、F2、F11を切る。南北長350cm、東西長380cm、壁高は22～40cmの方形を呈す。カマドは北の壁中央にあり、主軸方位はN-1°-Eである。カマドは崩壊し、構築材の礫がカマド前面にあった。北東隅に長さ56cmの台石が置かれている。支柱穴は4個あり、P1～P4は径32～40cm、深さ18～28cmの円形ピットである。他にはカマドの西の浅いものと南の壁のピットがある。壁下には周溝が廻り、床面は締まる。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、石製の紡錘車がある。須恵器は蓋、杯、甕がある。須恵器杯は底部回転糸切りである。2・3の底部径が6.4cmと小振りなものと7cm前後の大きいものがある。2・3の底径/口径は0.48で底径が小さい。11・12の土師器甕は武蔵甕で、口縁部形「く」字形である。鉄製品は刀子2点と鉄軸がある。石製紡錘車は床面より少し浮いて出土する。

これらより8C後半～9Cの年代が当てられよう。

(30) H10号住居址床下住居

え22グリットにあり、F3に切られ、F2、F11を切る。H10の床下に南北長304cm、東西長330cm、壁高は0～7cmの方形プランが検出された。カマドは北にあり、主軸方位はN-2°-Wである。支柱穴はP1に接して北に1個ある。他は上住居と重なる位置であろう。床面は非常によく締まっていた。

出土遺物は須恵器と土師器がある。7の高台付杯は底部回転ヘラ削り後高台を貼付している。高台の裾は外に広がっている。13の土師器甕の底は丸底気味で、厚手である。

これらより、8Cの様相の土器である。

(31) H11号住居址

き25グリットにあり、F14に南壁を切られる。南北長342cm、東西長383cm、壁高は21～31cmの東西に長い長方形を呈す。西の壁の中央と南壁の東が崩壊し修復している。カマドは北壁中にあり、袖・天井部が崩壊し、カマド前面の床に構築材がみられた。火床は非常によく焼けている。主軸方位はN-5°-Eである。支柱穴は東西の壁中ほどにあるP1・P2で、長径52cm、深さ50・20cmの楕円形ピットに柱痕を持つ。西壁の支柱穴P2は新たに設けられたピットである。ピット北には修復された壁があり、その下から柱痕を持つピットP6が検出され、深さ64cmを測る。壁崩壊に伴い南に新ピットを設けている。南壁下にはピットが堀方を含め3個あり、出入口関連であろう。中央よりやや南東寄り床面に、長さ76cm、幅60cm、深さ36cmの長方形ピットがある。床面は締まっていた。壁下には周溝が廻るが補修地点には見られない。

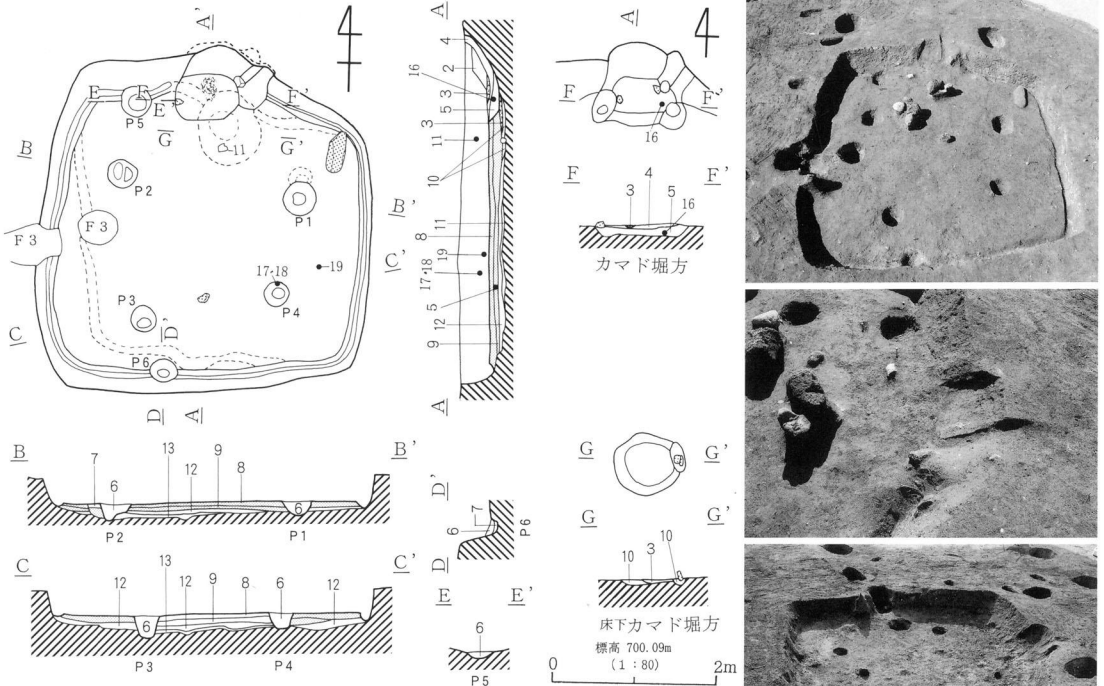
出土遺物には須恵器、土師器、石皿がある。須恵器は蓋、杯、壺がある。須恵器杯の3は口縁が直線的に開き、底部回転糸切り後底部周辺から口縁下部を帯状にヘラナデをしている。口径/底径の比は0.41と底径が小さい。2の杯は底部回転糸切りで口径/底径の比は0.45である。土師器は杯と甕がある。土師器杯は底部と口縁下部が手持ちヘラ削り、内面ミガキ黒色処理される。土師器小甕の10はカマド堀方から出土している。口縁部形態やや「コ」字形を呈している。

これらより、須恵器杯などからすると9C代であろうか。

(32) H13号住居址

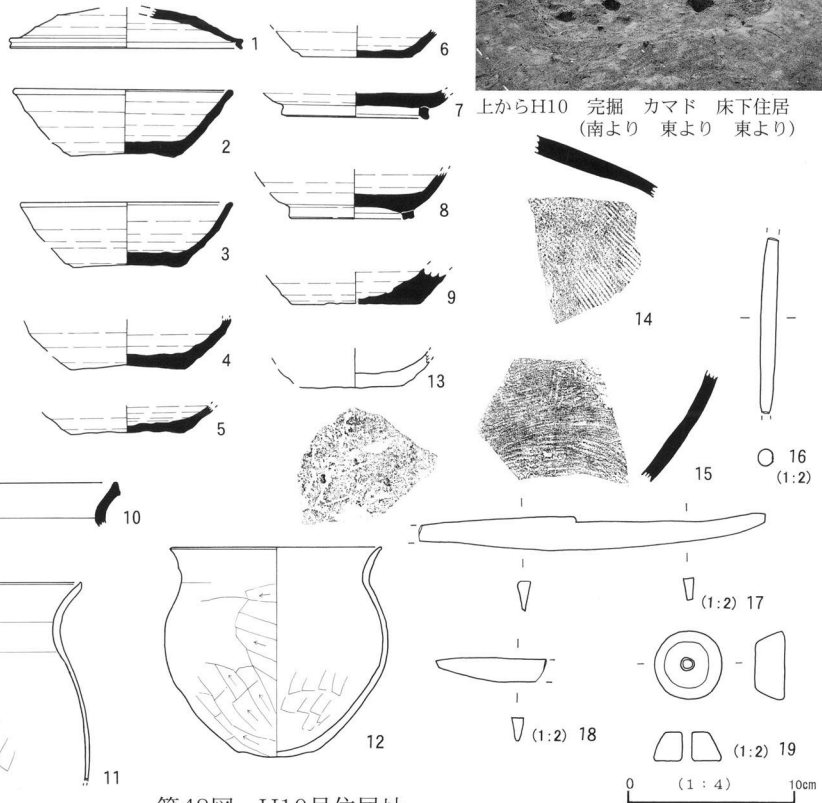
お24グリットにあり、H12と攪乱に切られ、F7、D3を切る。南北長427cm、東西長412cm、壁高は0～39cmの方形を呈す。西側の北壁が張り出す不整な方形である。カマドは北壁にあり、主軸方位はN-4°-Wである。支柱穴は4個あり、北に寄り、P1は壁中に設けられる。ピット堀方は40～52cm、深さ20～38cmの円形を呈し、柱痕が見られた。南壁下中央には径34cm、深さ28cmの円形のP5がある。床面は非常に締まっている。壁下には周溝が廻る。住居の堀方は周辺部が深く掘り込まれている。

H10



H10. 土層説明

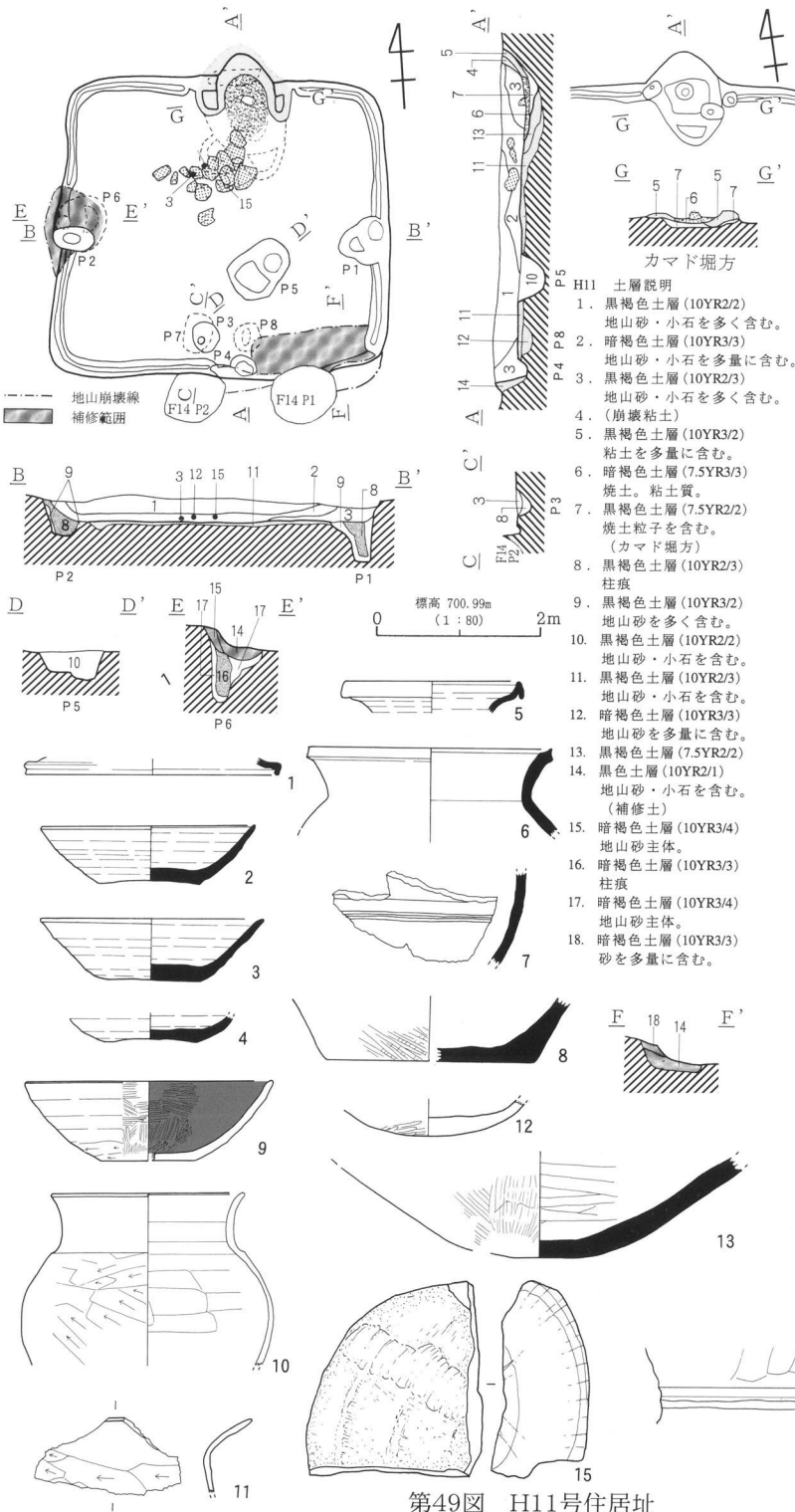
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
バミス・地山砂を含む。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
灰黄色粘土多量を含む。
3. 褐色土層 (7.5YR4/4)
焼土
4. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
焼土粒子・粘土ブロックを含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む。
7. 褐色土層 (10YR4/4)
8. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂ブロック混在。(貼床)
9. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3)
(床下住居カマド堀方)
11. 黒褐色土層 (10YR2/3)
よく締まる。(床下住居貼床)
12. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
砂主体。



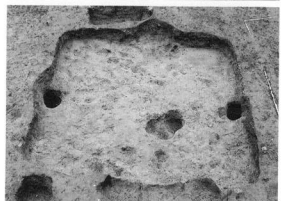
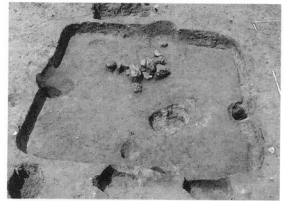
7 上からH10 完掘 カマド 床下住居
(南より 東より 東より)

第48図 H10号住居址

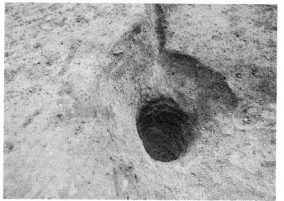
H11



上からH11 カマド完掘 堀方(東より)



上より H11 完掘 堀方(南より)



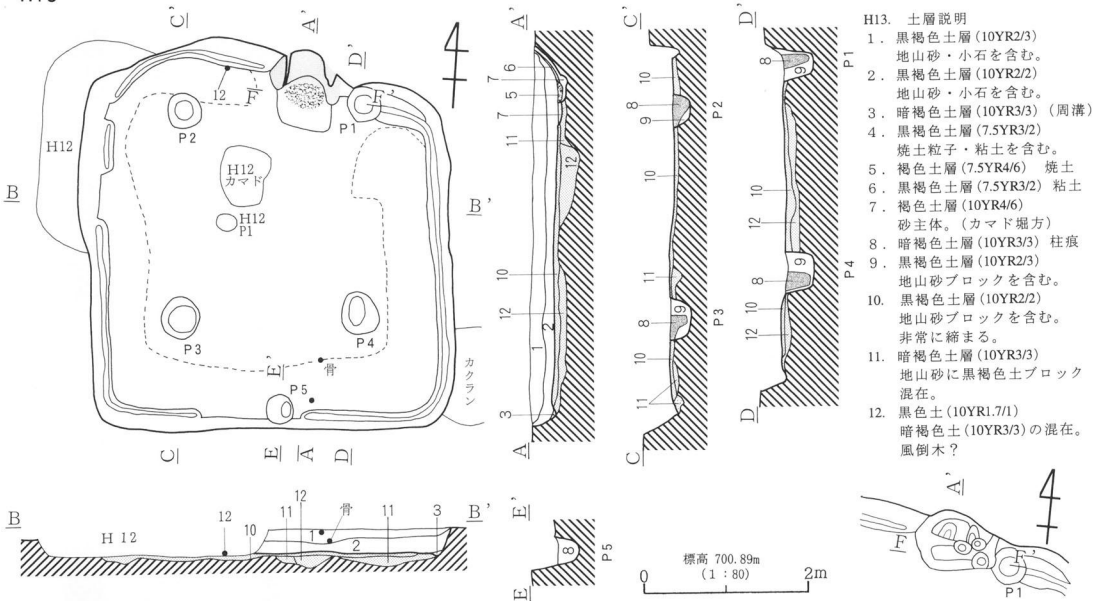
H11 P6 (南より)



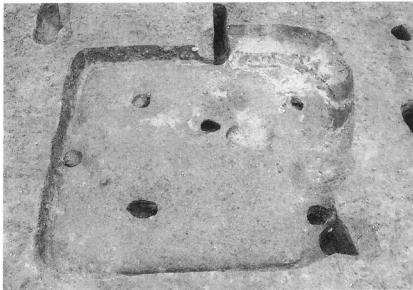
H11 南東埋土セクション(東より)

第49図 H11号住居址

H13



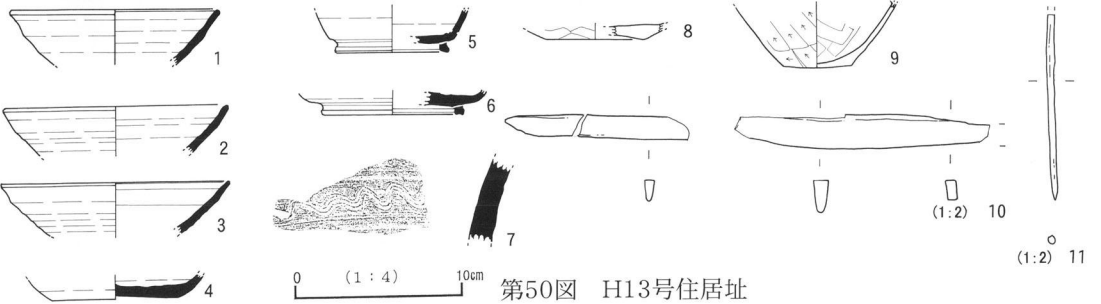
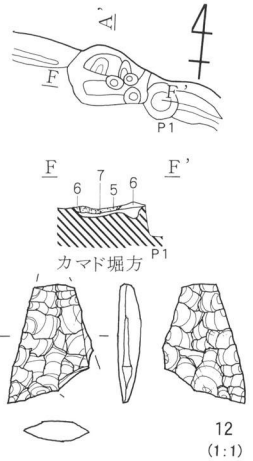
- H13. 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂・小石を含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) (周溝)
 4. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
焼土粒子・粘土を含む。
 5. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
 6. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土
 7. 褐色土層 (10YR4/6)
砂主体。(カマド堀方)
 8. 暗褐色土層 (10YR3/3) 柱痕
 9. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂ブロックを含む。
 10. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂ブロックを含む。
非常に締まる。
 11. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂に黒褐色土ブロック
混在。
 12. 黒色土 (10YR1/7/1)
暗褐色土 (10YR3/3) の混在。
風倒木?



H13 完掘 (東より)



H13 カマド完掘 (南より)

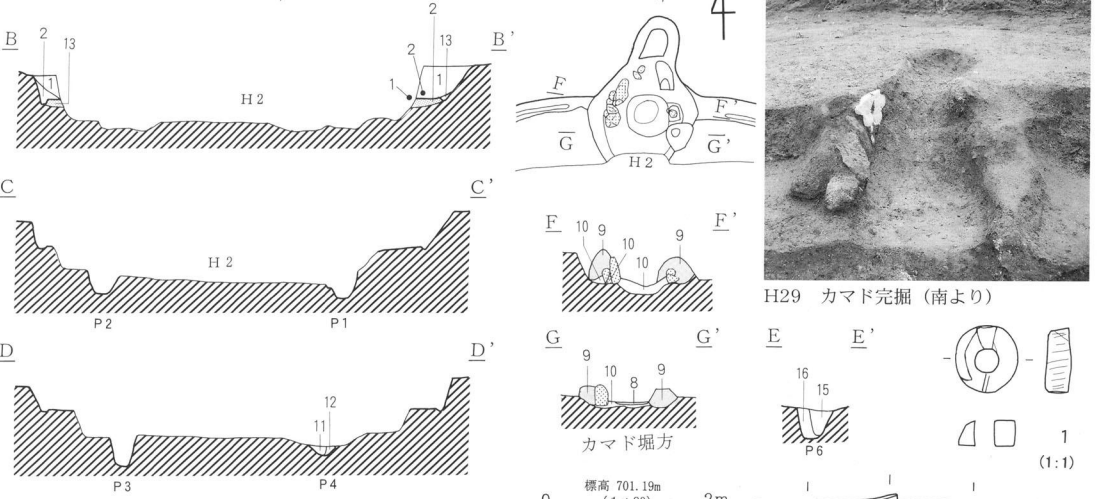
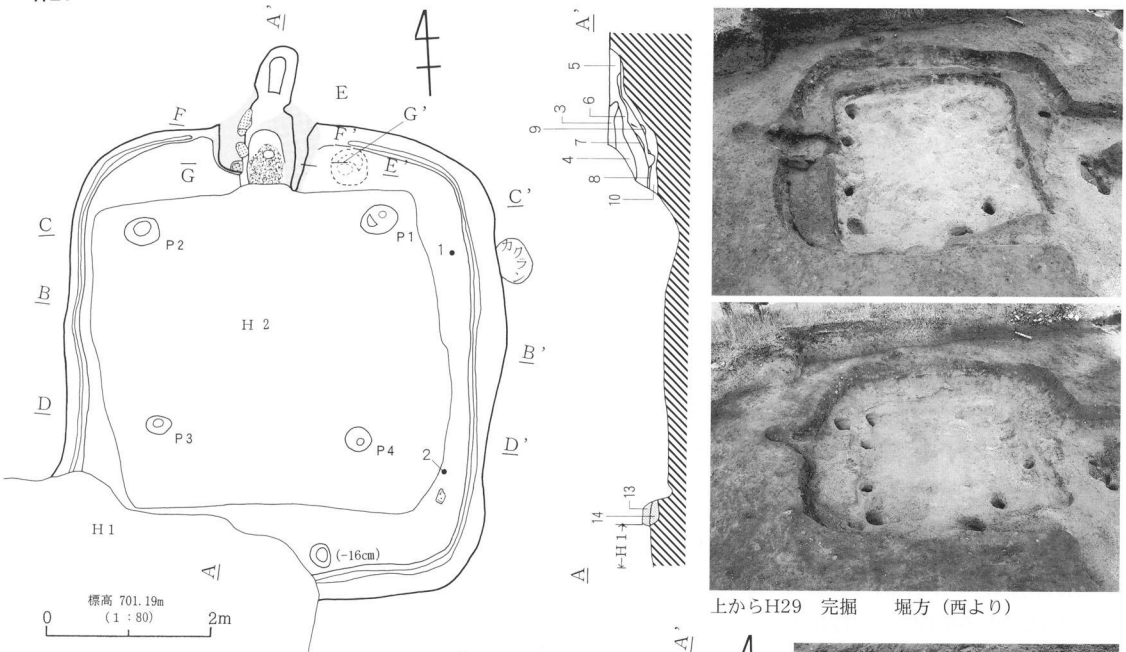


第50図 H13号住居址

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、石鎌がある。遺物は破片で、全体が計測できるものはない。須恵器は杯、高台付杯、甕がある。4の須恵器杯は底径が7.8cmと大きい。底部回転糸切り後、軽くヘラナゲされる。土師器甕は武蔵甕の底部である。IV区から出土する骨は上層の1層で、イノシシの骨と鑑定されている。鉄製品には刀子と軸ある。

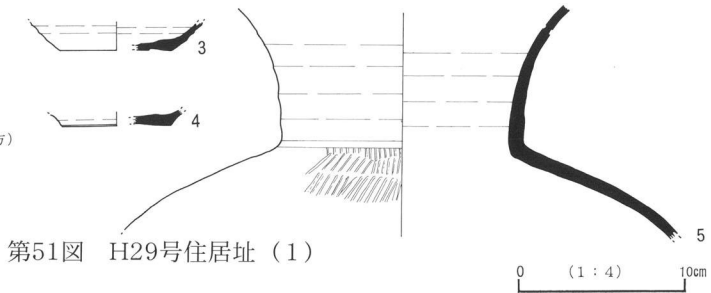
これらより8C~9C代の様相といえようか。

H29



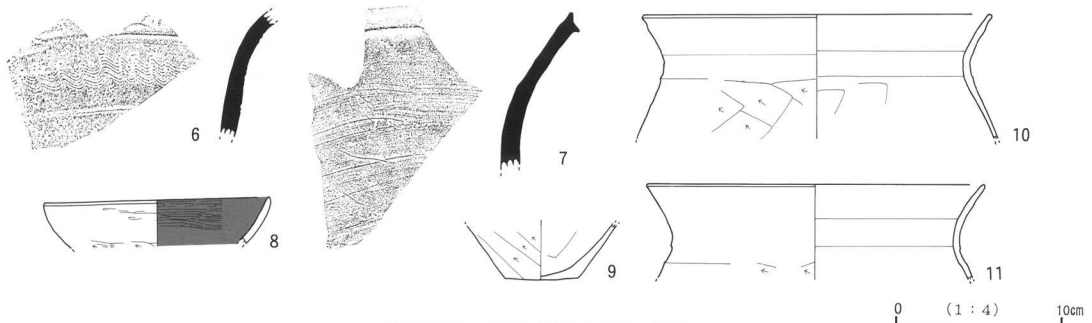
H29 土層説明

- 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を多く含む。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を極く多量に含む。
- 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土粒子を多く含む。
- 5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロック・焼土粒子を含む。
- 6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土粒子を多く含む。
- 7. (焼土崩壊層)
- 8. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土
- 9. 黒色土層 (7.5YR2/1) 粘土
- 10. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 砂を多量に含む。(カマド堀方)
- 11. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
- 12. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
- 13. 黒褐色土層 (10YR2/3) (貼床)
- 14. 黒褐色土層 (10YR3/2) 黒色土を含む。(堀方)
- 15. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂質
- 16. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。



第51図 H29号住居址 (1)

H29



第52図 H29号住居址（2）

(33) H29号住居址

お19グリットにあり、H1、H2、攪乱に切られ、F17、単独ピットP41・P46を切る。南北長536cm、東西長480cm、壁高は0~46cmの南北に長い隅丸長方形を呈す。北壁の幅がいくらか広い。中央にH2全体が重複して床面を壊している。カマドは北壁にあり、少し西に寄っている。主軸方位はN-2°-Eである。カマドは煙道が良好に残っていた。カマドの東脇には堀方で、径44cm、深さ38cmの円形ピットがあった。支柱穴はP1~P4で、北の東西柱間296cm、南で240cmを測る。ピット堀方はやや楕円形で、長径32~44cm、深さはほぼ床面の推定線から60~72cmを測る。南壁下に径28cmの円形ピットがある。壁下には周溝が廻る。床面は周辺が残るのみで締まっていない。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、白玉がある。須恵器杯は小片の底部である。3は底部ヘラ切り、底部手持ちヘラ削りされている。5は須恵器壺で、口縁が大きく外反外傾、胴部の肩はナデ肩である。胴部外面は平行敲き目、口縁横ナデされる。胴部内面は当て具痕を消してヘラナデしている。8の土師器杯は丸底気味で、外面下部にヘラ削り痕が見られる。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「く」字形をしている。

これらより、8Cの年代が当てられよう。

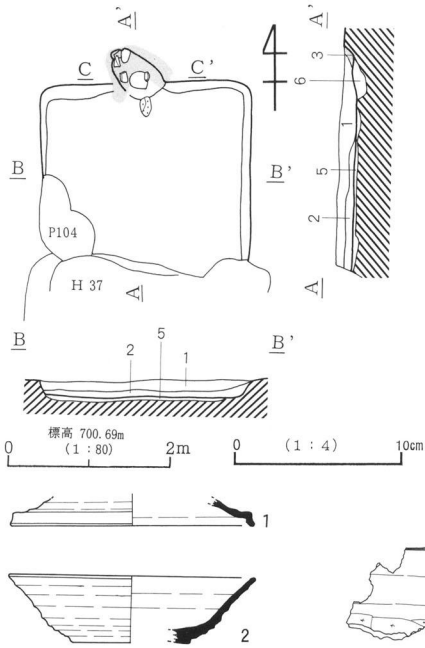
(34) H36号住居址

き29グリットにあり、H33、H37、単独ピットP104に切られ、H27、H38~H40を切る。南北長〈212〉cm、東西長240cm、壁高は10~28cmを測る。カマドは北壁より飛び出して粘土と礫があり、カマドとした。明確な焼土はない。主軸方位はN-0°である。床面はいくらか締まる。柱穴はない。

出土遺物には須恵器蓋・杯、土師器甕、石皿がある。須恵器杯は底部糸切り痕が残り、口縁下部は丸味を持ちロクロ痕が顕著である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態に「コ」字形が窺える。

これらからは8~9Cの年代が当てられる。

H36

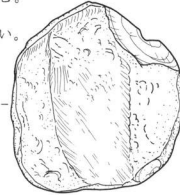
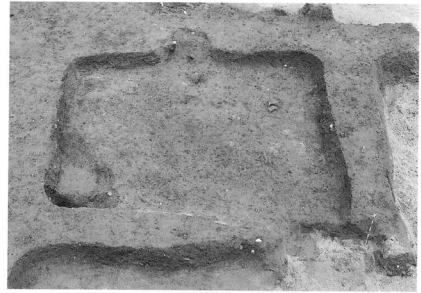


H36 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
1層より砂・小石が多い。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)
粘質土を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2)
(カマド堀方)
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。
(貼床)



カマド堀方



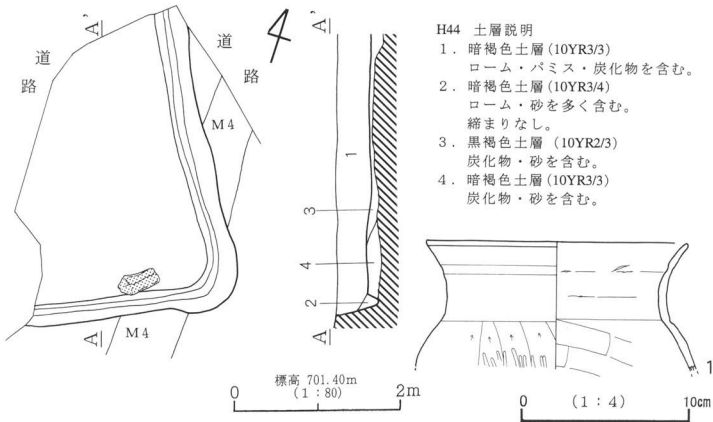
(1:6) 4



上からH36 完掘 カマド完掘(南より)

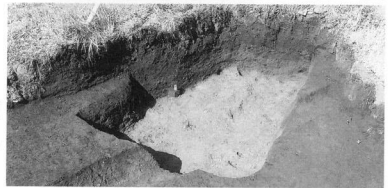
第53図 H36号住居址

H44



H44 土層説明

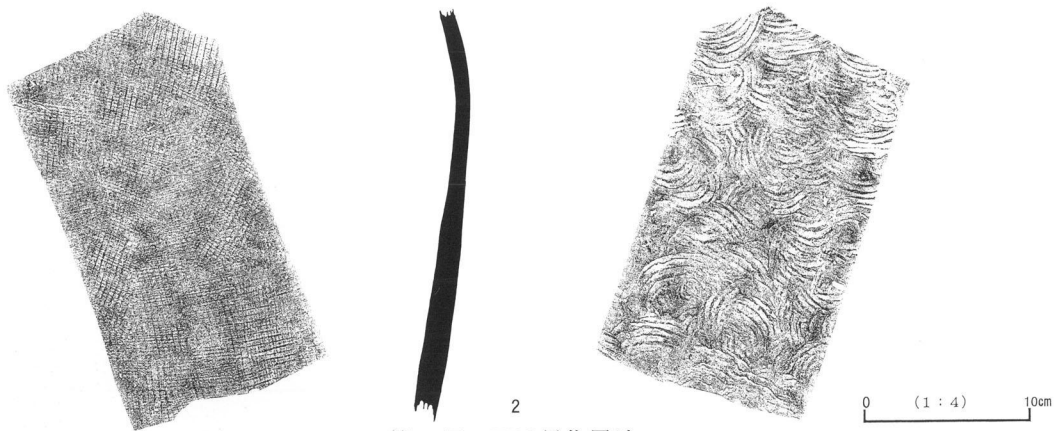
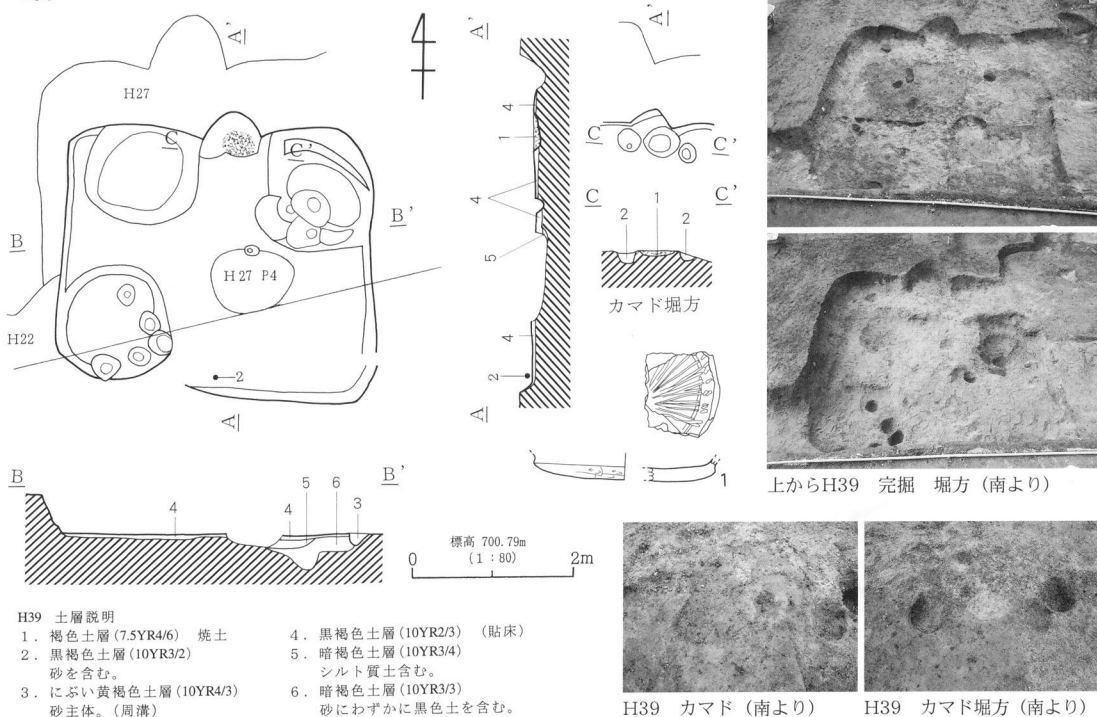
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ローム・パミス・炭化物を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム・砂を多く含む。
締まりなし。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物・砂を含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
炭化物・砂を含む。



上 H44 完掘(南より) 下 堀方(南東より)

第54図 H44号住居址

H39



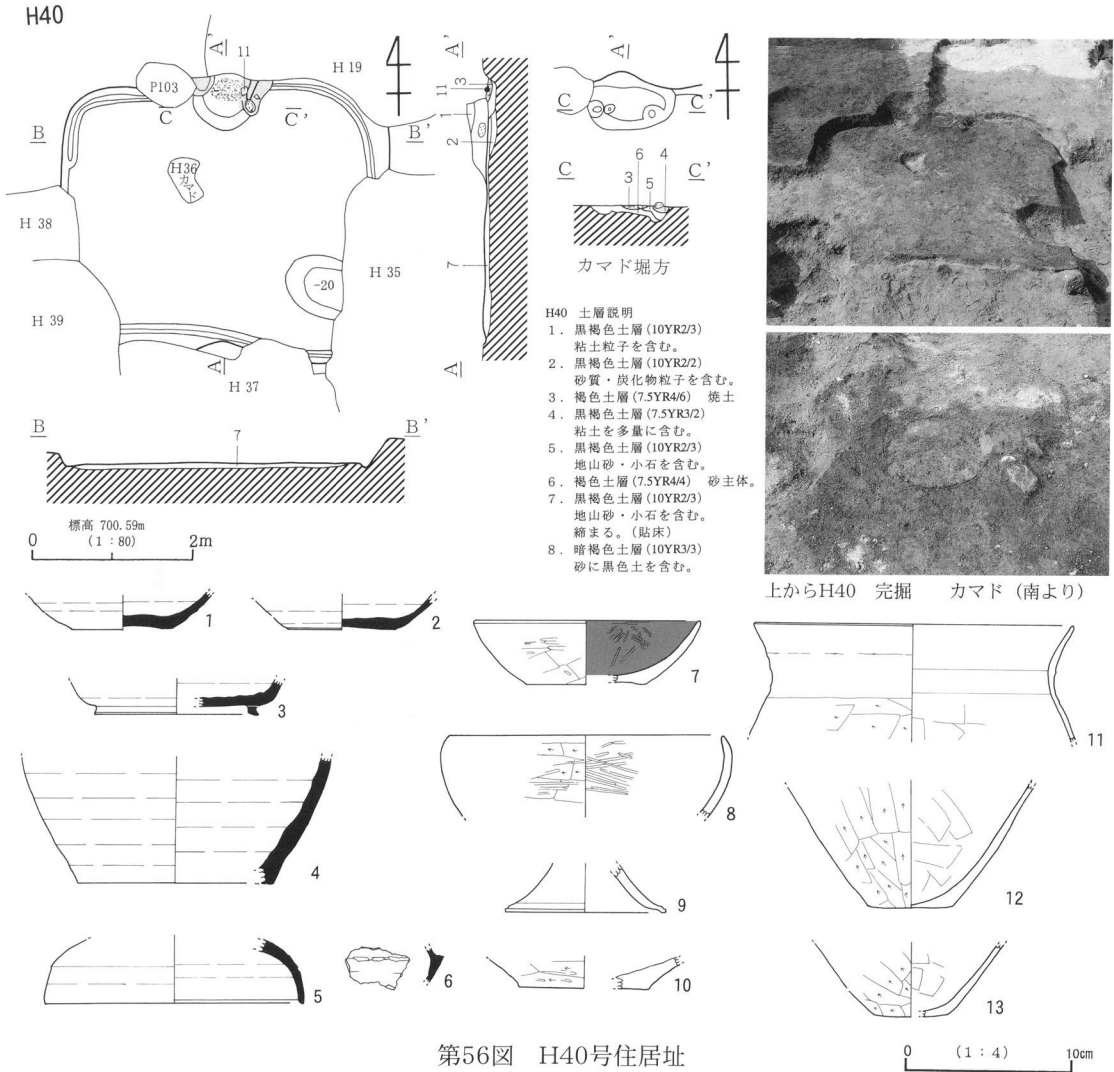
第55図 H39号住居址

(35) H39号住居址

き29グリットにあり、H33、H36、H37に東壁を壊され、H27・H38は上面に重なり、床面まで影響している。貼り床が所々残る。単独ピットP104、INCIVH22にも切られ、H40を切る。堀方で住居のプランを確認している。南北長304cm、東西長358cm、壁高は0～13cmを測る。カマドは北にあり、わずかに火床の焼土範囲が残る。主軸方位はN-3°-Eである。柱穴は9個あるが重複が激しくどの遺構に伴うか確認できなかった。プランの隅には堀方で土坑状の落ち込みがある。

出土遺物には土師器杯と須恵器甕の破片がある。土師器杯は平底に近い丸底から外稜を持って口縁が立ち上がる。内面は暗文が施される。大型の須恵器甕の破片がある。

須恵器甕土師器杯が出土し、重複関係から8C代とした。

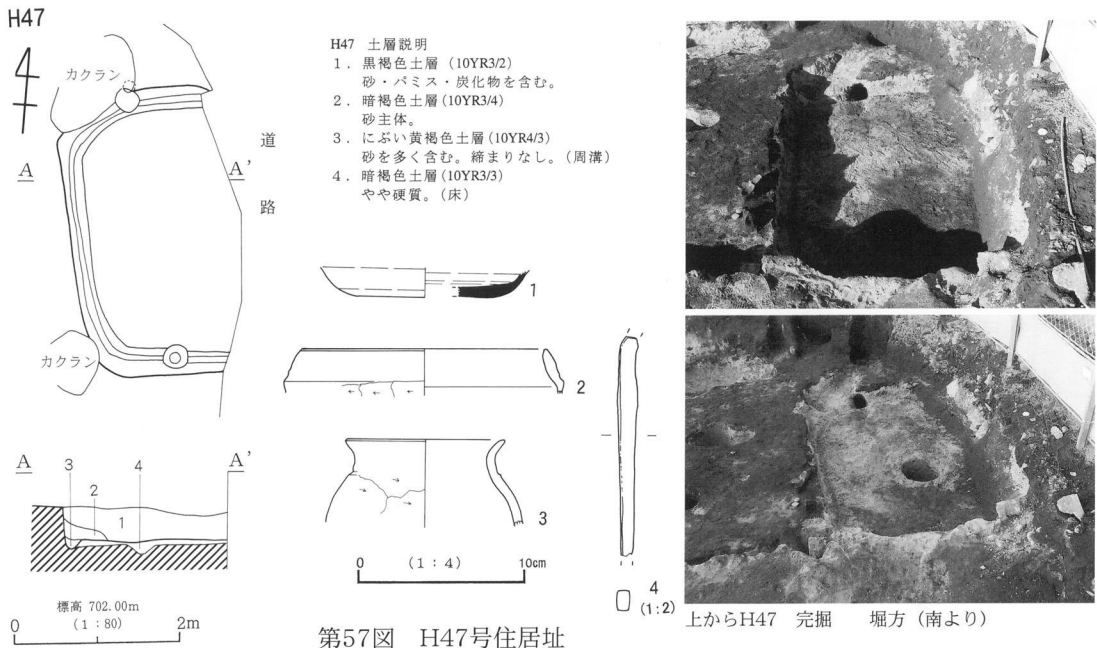


(36) H40号住居址

か28グリットにあり、H19、H24、H27、H35～H39に切られ、H41を切る。南北長300cm、東西長367cm、壁高は0～30cmの東西に長い長方形を呈す。カマドは北壁中にあり、主軸方位はN-8°-Eである。主柱穴はない。南東に楕円形を呈したであろう深さ20cm、短径72cmのピットがある。床面は締まっている。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には須恵器、土師器がある。1・2の須恵器杯は底部回転糸切りで、火樫がある。底径が6cmを越える。7の土師器杯は底部手持ちヘラ削り、内面ミガキ黒色処理される。11の土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「く」字形である。5・6・8は前代の混入品である。

これらより8Cの年代が当てられようか。



第57図 H47号住居址

(37) H44号住居址

か16グリットにあり、M3に切られる。現道があるため全容は明らかではない。南北長〈352〉cm、東西長〈22〉cmが調査された。壁高は44cmを測る。カマドは未調査区があるためわからない。主軸方位はN-25°-Wである。柱穴はない。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には土師器甕の薄手の武蔵甕がある。口縁部形態「く」字形を呈す。口縁部が長く大きく外傾していることから8C前半に位置づけられよう。

(38) H47号住居址

し7グリットにあり、H48を切る。東は現道であるため調査できなかった。南北長328cm、東西長〈196〉cm、壁高は32~40cmを測る。カマドと柱穴は見つかっていない。主軸方位はN-10°-Wである。床面あまり締まっていない。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には須恵器杯と土師器杯、土師器甕片、鉄製の角釘がある。1の杯から8C代とした。

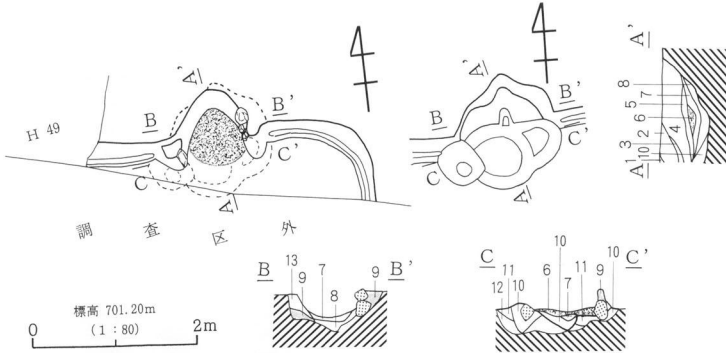
(39) H50号住居址

こ18グリットにあり、H49に切られ、H51を切る。西八日町遺跡Ⅳ(INCⅣ)H13と同一住居。南は調査原因が異なる。南北長〈84〉cm、東西長〈352〉cm、壁高は40cmを測る。カマドは北壁中にあり、主軸方位はN-5°-Wである。壁下には周溝が廻る。詳細は西八日町遺跡ⅣH13に記述されている。

(40) H52号住居址

い40グリットにあり、M2を切る。南北長〈412〉cm、東西長456cm、壁高は36cmを測る。南壁は現道であるため調査できなかった。また調査も二次に渡り、接合しない所がある。西八日町遺跡の西端の住居址である。カマドは北壁中ほどにあり、主軸方位はN-5°-Wである。主柱穴はP1~P4で北に寄っている。主柱穴のピット堀方は径32~64cm、深さ42~56cmを測り、柱痕が見られた。P3・P4は建て替えがなされ、旧ピット堀方が重なる。南壁にはP5があり、柱痕を持つ。出入り

H50



H50 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂・パミス粒を含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂をやや多く、パミスを含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3) 炭化物・砂を含む。
4. 暗褐色土層(10YR3/4) 砂を多く、炭化物を含む。
5. 黒褐色土層(10YR3/1) 粘土主体。焼土を含む。
6. 赤褐色土層(2.5YR4/8) 焼土(火床)
7. 極暗褐色土層(7.5YR2/3) 焼土・炭化物・砂を含む。(カマド堀方)
8. 極暗褐色土層(7.5YR2/3) 焼土・炭化物・砂をやや多く含む。(カマド堀方)
9. 黒褐色土層(5YR2/1) 粘土
10. 暗褐色土層(7.5YR3/3) 砂主体。炭化物を含む。
11. 暗褐色土層(7.5YR3/3) 砂主体。炭化物・焼土を少量含む。(カマド堀方)
12. 褐色土層(7.5YR4/3) 砂主体。炭化物を含む。(カマド堀方)
13. 暗褐色土層(10YR3/3) 焼土・炭化物・パミスを含む。締まりあり。(カマド堀方)



H50 完掘(南より)



H50 カマド完掘(南より)

第58図 H50号住居址

ロピットであろう。西の壁下南には周溝が廻る。床面は締まっている。床下に南北336cm、東西320cmの方形プランがあり、締まった床面を持つ。主柱穴P3の内側に床下住居の主柱穴があり、深さ53cmを測る。

出土遺物は須恵器、土師器、鉄製品、敲石がある。須恵器杯は、丸底気味である。6の土師器杯は底部から口縁への立ちあがりに丸みを持つ。9の武蔵甕は口縁部形態「く」字形である。

これらより8C前半の住居址である。

(41) H53号住居址

さ15グリットにあり、D8を切る。西は現道のため調査ができず、南は調査原因が異なり、I N C IVH53として報告される。本調査では南北長〈172〉cm、東西長〈236〉cm、を調査し、壁高は40cmを測る。カマドは北壁にあり、主軸方位はN-5°-Wである。カマドの東には長径120cm、深さ20cmの楕円形の貯蔵穴がある。床面の上面は硬質である。東の壁下には周溝が廻っている。

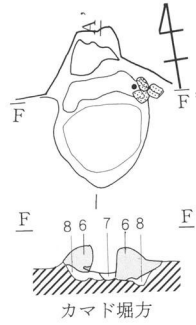
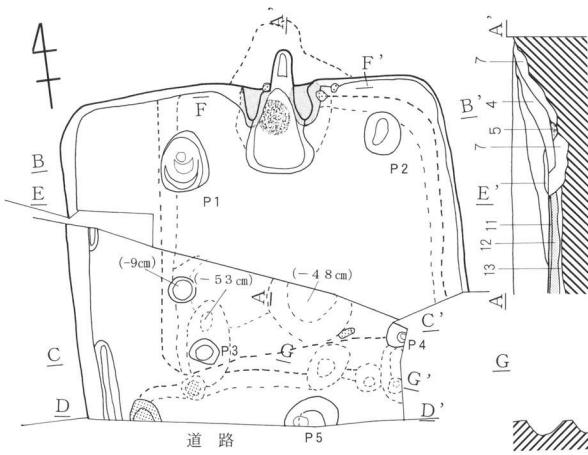
出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は蓋、杯、壺、甕がある。1の蓋は深く大きいタイプでつまみは扁平で、中央が高い。須恵器杯はいずれも底部回転糸切りである。須恵器杯3・4は底径が大きく底径/口径の比は0.6を測る。9の須恵器杯の底径/口径は0.45となり、底径が小さい器形である。底径の割合の大きい器形と小さい器形とが相伴している。10の外面には横書きで「十月」？の墨書がある。11の高台付杯は深いタイプで、高台は裾開きのものが貼付される。土師器は甕のみであるが、武蔵甕で、口縁部形態は「く」字形である。

これらより8C後半の年代が当てられよう。

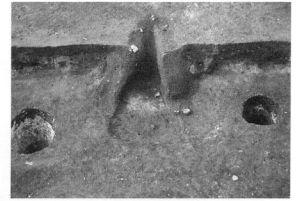
(42) H55号住居址

お38グリットにあり、H56、F19を切る。北側は現道であるため調査できなかった。南北長〈256〉

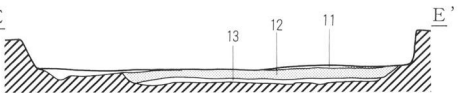
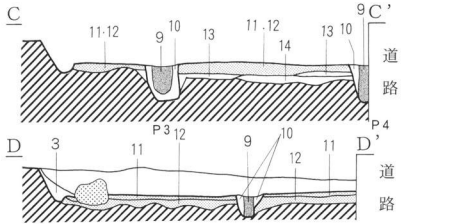
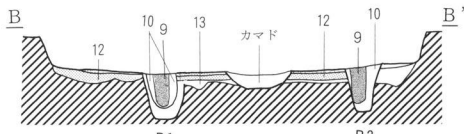
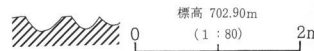
H52



H52 完掘 (南より)



H52 カマド (南より)

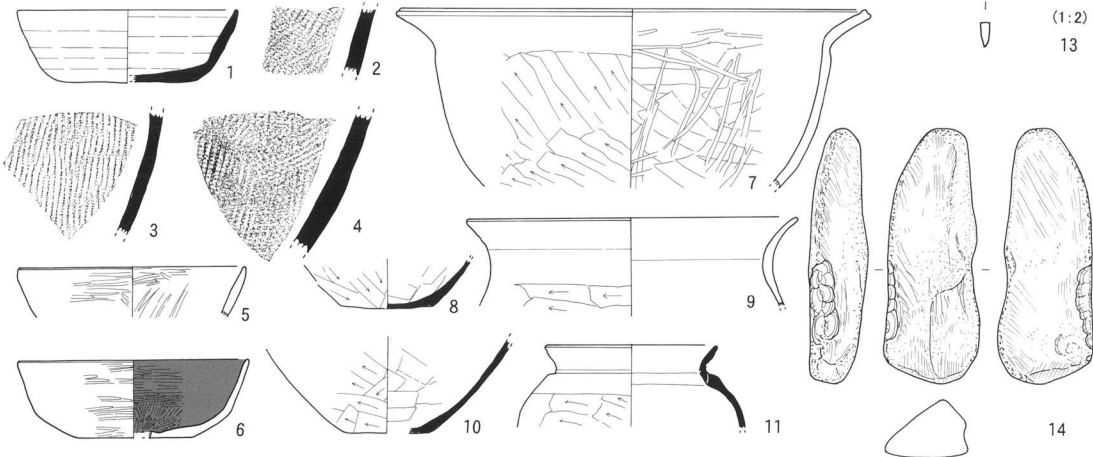
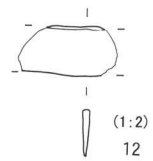


H52 土層説明

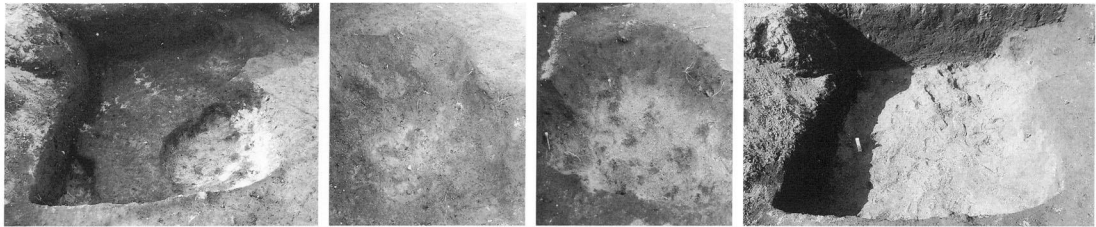
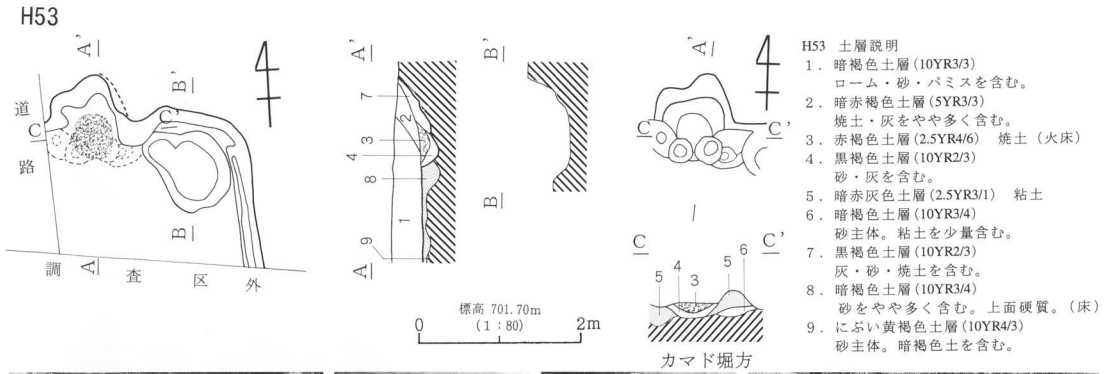
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
小石を含む。砂質土。粘性あり。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
小石を含む。砂質土。粘性あり。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4)
黄色砂・黒褐色土 (10YR3/2) が混在。
4. 黒褐色土層 (5YR3/1)
黒色粘土ブロック・焼土粒子を含む。
5. 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土
6. 黒褐色土層 (10YR3/2)
粘土 (10YR2/2) ブロックを含む。
7. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘質土。
8. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質土。
9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
10. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を極く多量に含む。
11. 黒褐色土層 (10Y2/3)
地山砂粒を極く多く含む。縮まり強。
(貼床)
12. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂を含む。(床下貼床)
13. 黒褐色土層 (10YR2/2) (床下住居貼床)
14. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂主体。黒土を含む。



H52 堀方 (南より)



第59図 H52号住居址

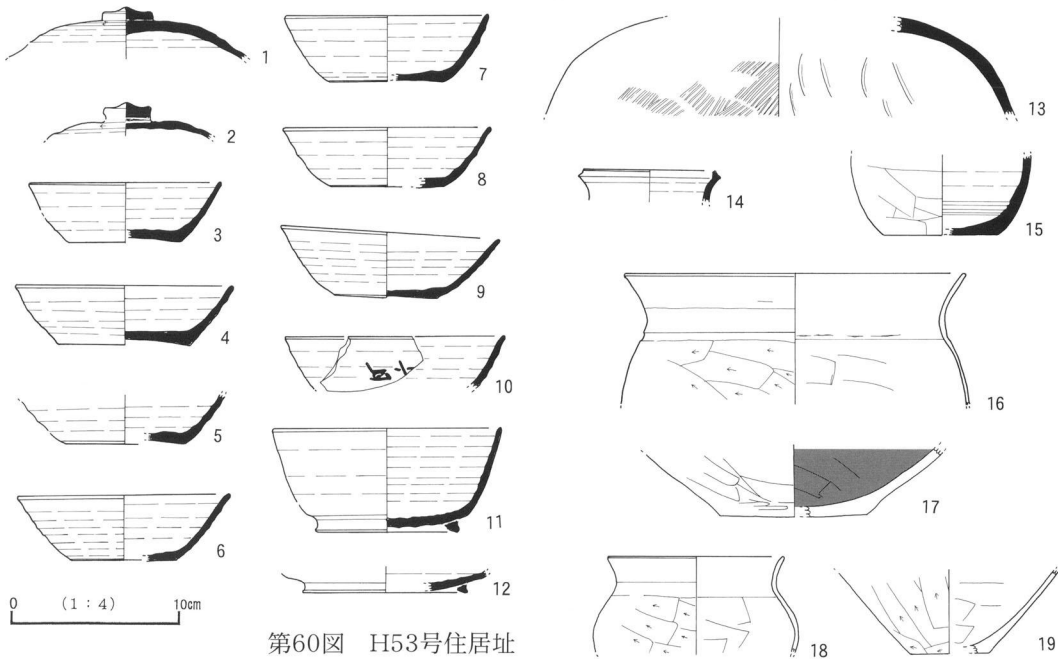


H53 完掘 (東より)

H53 カマド完掘 (南より)

H53 カマド堀方 (南より)

H53 堀方 (東より)

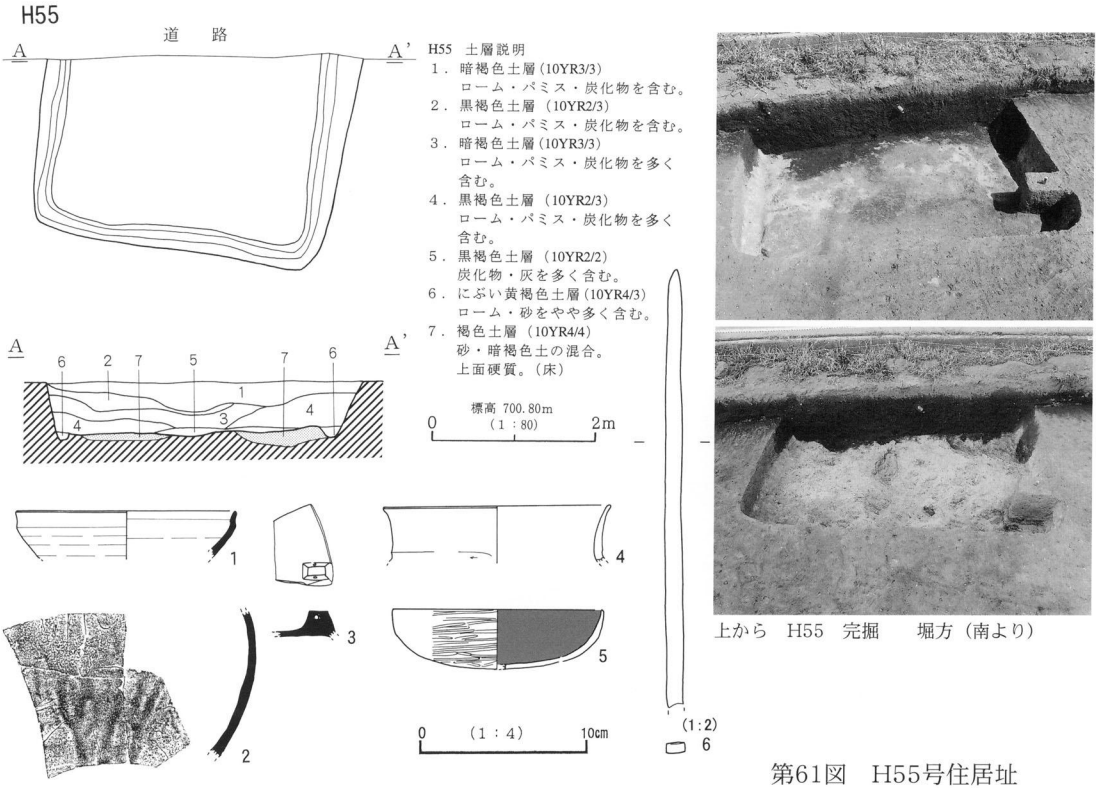


cm、東西長340cm、壁高は64cmを測る。カマドは、確認されていない。主軸方位はN-1°-Eである。柱穴はない。床は上面に硬質面があった。壁下には周溝が廻る。

出土遺物には須恵器杯・平瓶・壺、土師器杯・甕、鉄製軸がある。5の土師器杯は口縁内湾内屈し、外面は口縁横ナデ底部ヘラ削り後ミガキ調整、内面はミガキ黒色処理である。薄手である。

これらより、8C代とみられるが、資料が少ない。

古墳時代の様相の土器があるが、須恵器平瓶の存在などから8Cとした。



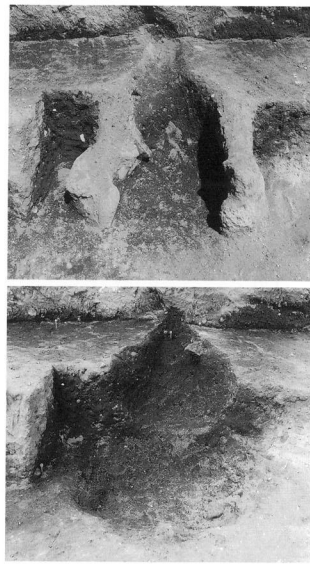
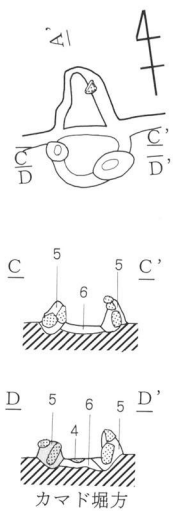
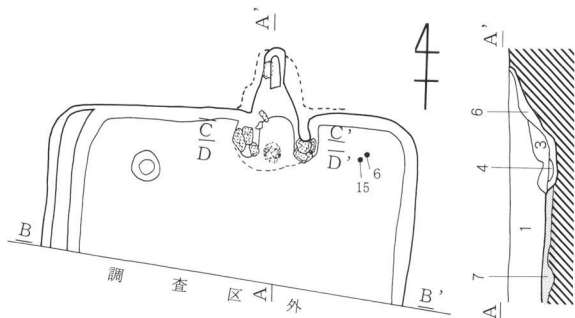
(43) H57号住居址

か40グリットにあり、H58を切る。南側は調査原因が異なっている。南北長396cm〈本調査域216cm〉東西長400cm、壁高は40cmを測る。カマドは北壁にあり、袖には礫を入れている。主軸方位はN-4°-Eである。支柱穴は北西に径36cm、深さ26cmの円形ピットがある。床面は上面に硬質面があった。西壁にはテラスがある。

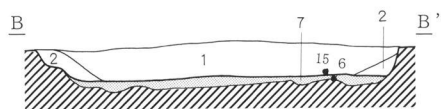
出土遺物には須恵器、土師器、磨石、石鉢ある。1の須恵器蓋はつまみが小さく口径は大きい。2の須恵器杯は底部回転糸切りである。底径/口径は0.54を測る。6の高台付杯は小型品で、高台は長い。土師器杯は底部へう削りされ平底で、内面ミガキ黒色処理である。カマドの北西隅に6の土師器杯と15の軽石製磨石が出土する。8~13の土師器甕は武蔵甕であるが、9・10の口縁部形態に「コ」字形の様相がある。

これらより8C後半の年代が当てられよう。

H57



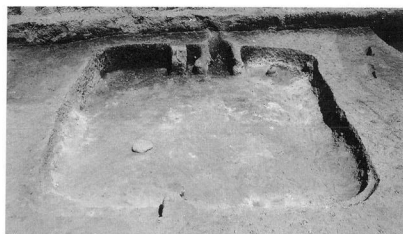
H57 カマド完掘 堀方(南より)



標高 700.40m
(1:80)

H57 土層説明

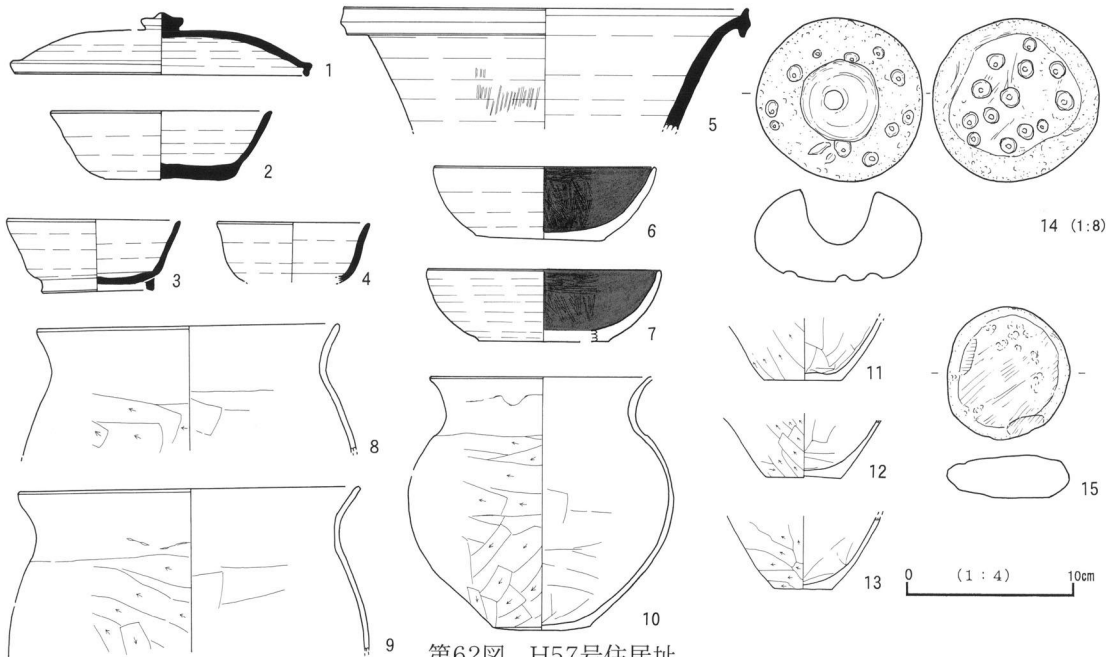
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂・ローム・パミス・炭化物を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂・ローム・パミス・炭化物を含む。
3. 黒褐色土層 (5YR2/1)
崩壊粘土。一部赤褐色を呈す。
4. 暗赤褐色土層 (2.5YR3/4)
焼土(火床)
5. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)
粘土。焼土粒・砂・パミスを含む。
6. 黒褐色土層 (5YR2/2)
砂・パミスを含む。
7. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂・パミスを含む。上面やや硬質。
(床)



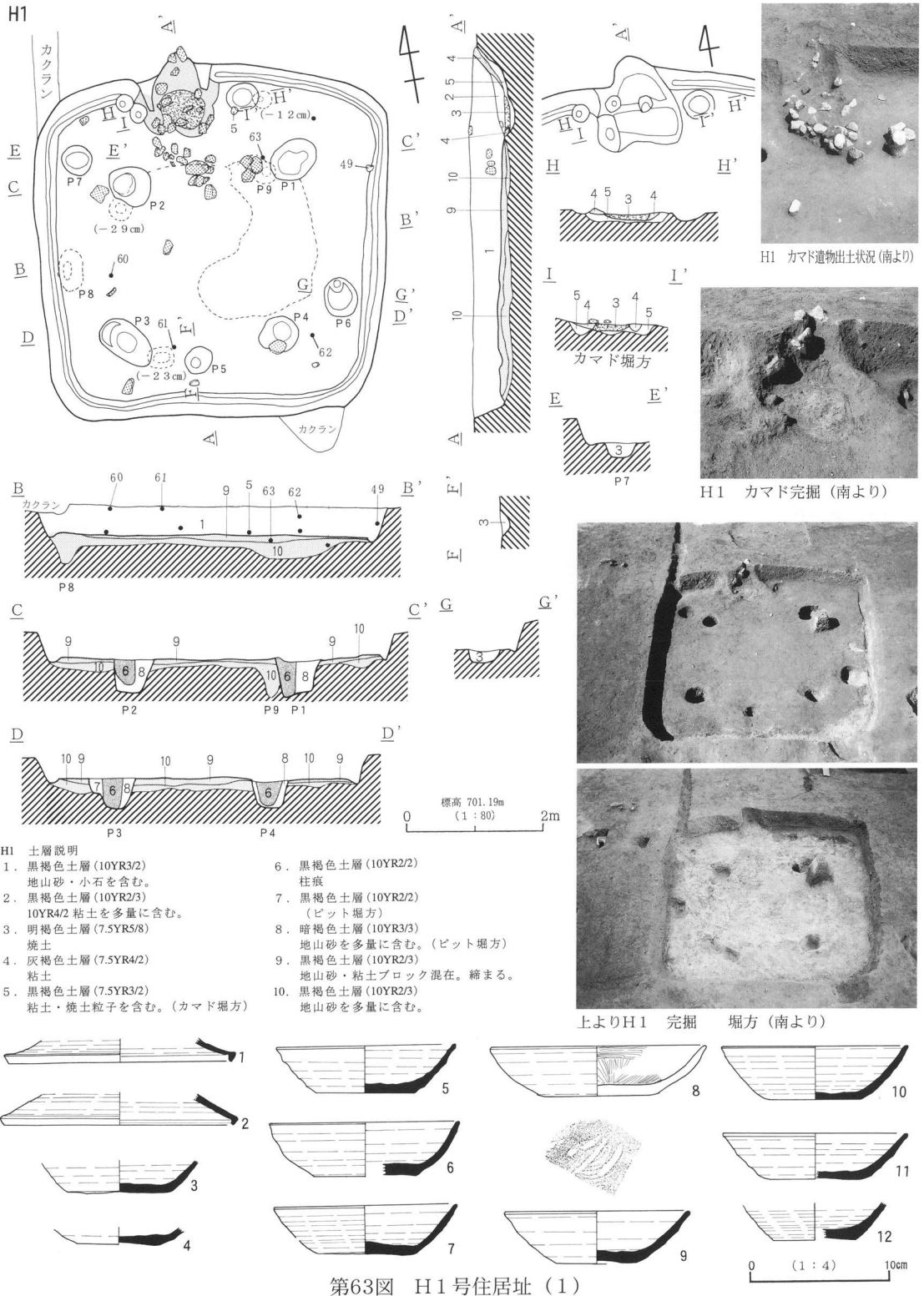
H57 完掘(南より)



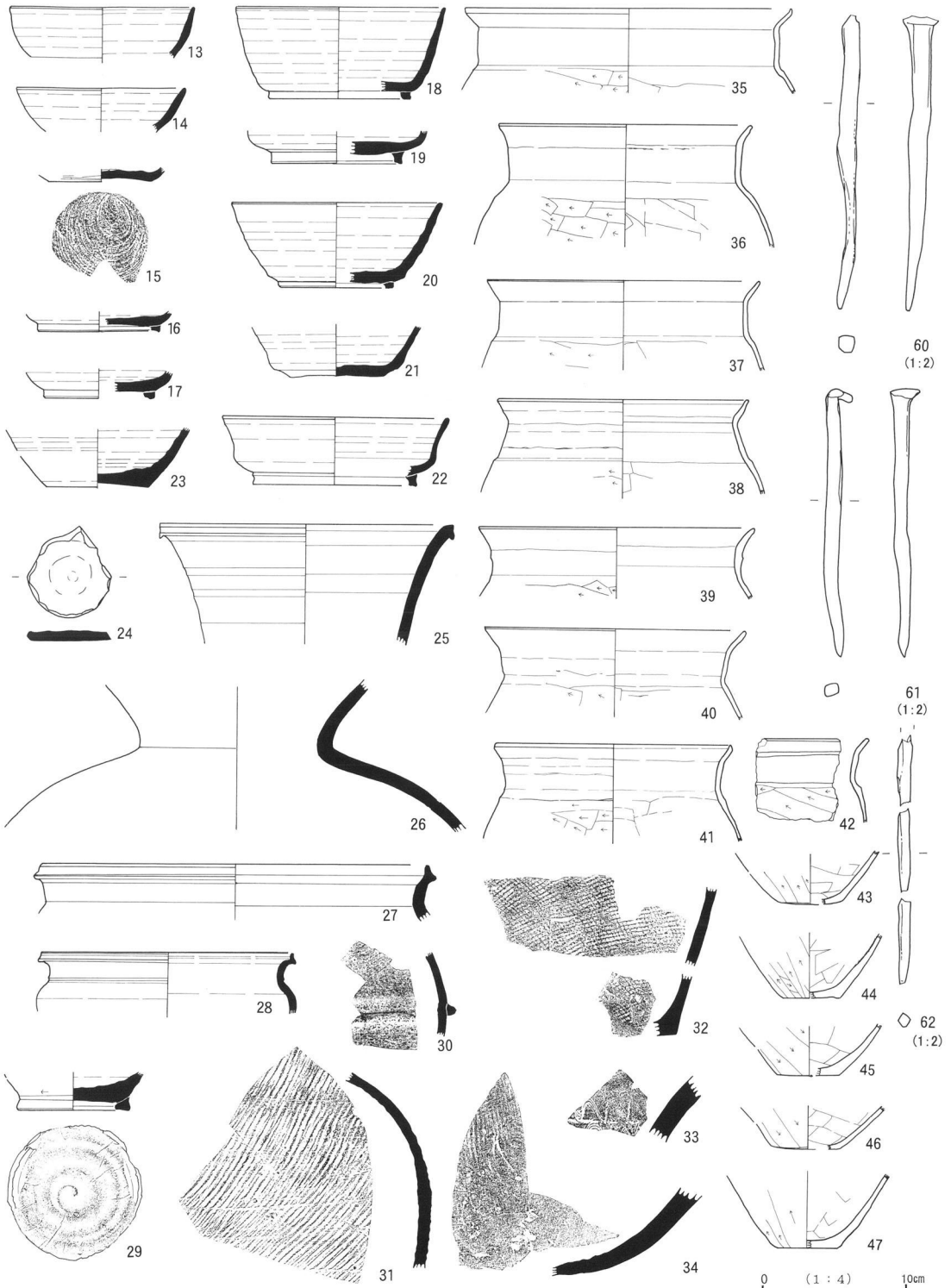
H57 堀方(南より)



第62図 H57号住居址

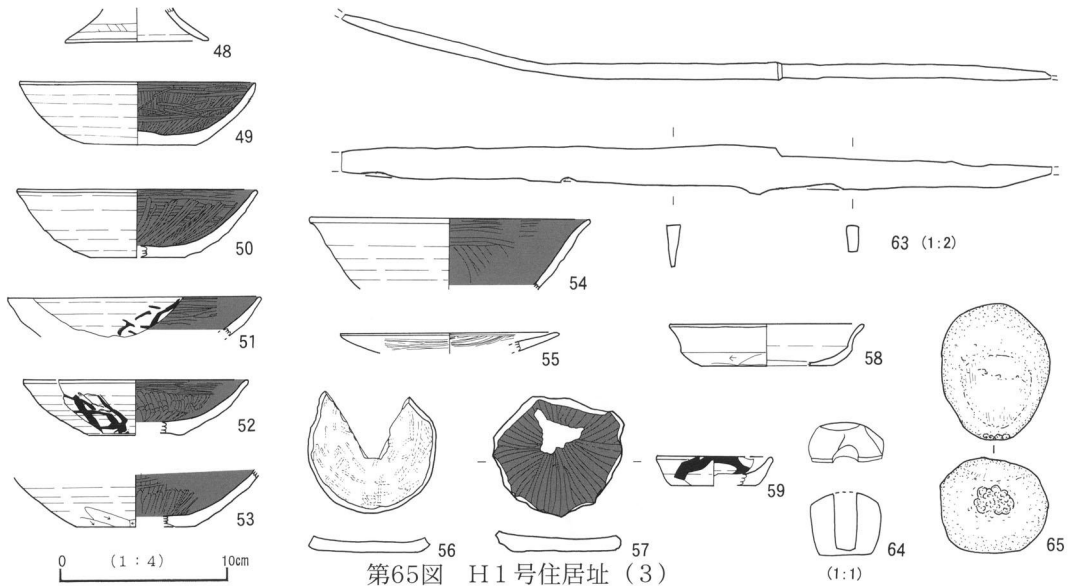


H1



第64図 H1号住居址(2)

H1



(44) H1号住居址

か19グリットにあり、一部を攪乱に切られ、H2、H6、H29、H30を切る。南北長477cm、東西長473cm、壁高は29~43cmの方形を呈す。カマドは北壁中央より少し西にあり、主軸方位はN-10°-Eである。カマドは長さ12~20cm大の礫を使用して構築され、カマド前面に粘土とともに崩壊している。カマドの西袖下には土器を設置するための小ピットがある。

主柱穴は4個で、楕円形を呈し、短径が52~60cm、深さ40~49cm、柱痕の径は28~36cmを測る。壁際には径38~48cm、深さ12~20cmの円形の落ち込みが4個ある。壁下には周溝が廻る。床面は粘土ブロックを混在した土を貼り締まっていた。床下からはP9~P11の旧主柱穴がある。柱の建て替えがなされている。

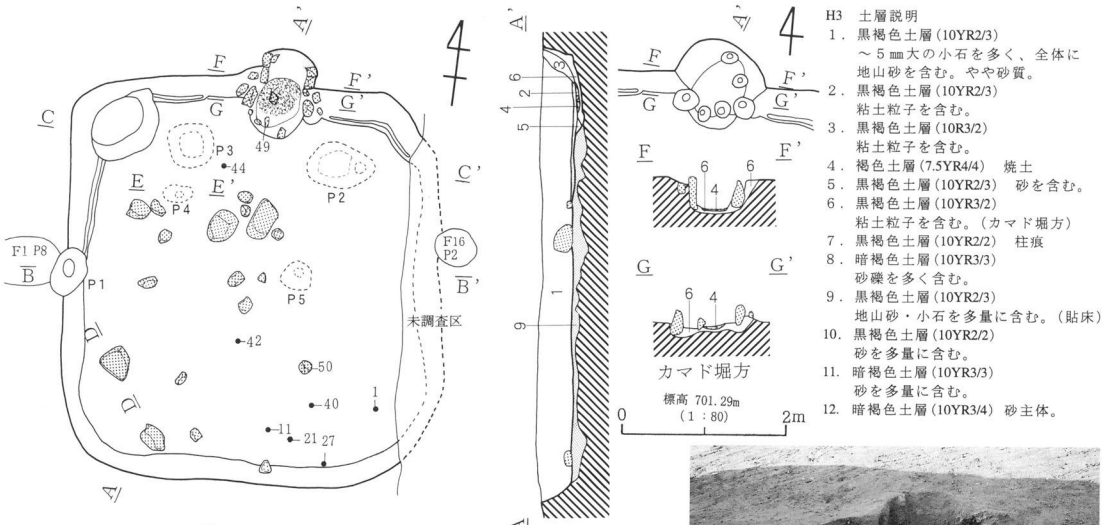
出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。5の須恵器杯は口縁内外ロクロナデ、底部回転糸切り、内面の見込みは使用により摩耗し、朱墨であろうか赤色顔料が付着している。7の須恵器杯も同様の調整である。やはり見込みは使用により摩耗している。底径/口径の比は0.51で、約半分に近い数値となる。20の須恵器高台付杯は口縁端部が外方に開き、高台は方柱状である。49の土師器杯は底部回転糸切り後雑なヘラナデがなされ、内面はミガキ黒色処理される。底径/口径の比は0.49で底径が小さい。土師器甕の35~42の甕は武蔵甕の口縁で、「コ」字形態である。鉄製品は角釘・軸・刀子があり、刀子は堀方から出土し、21.8cmと長い。検出面では53・54の土師器杯・椀、59の土師質のかわらけが出土している。これらは混入品である。

これらより本住居は9Cの年代が当てられよう。

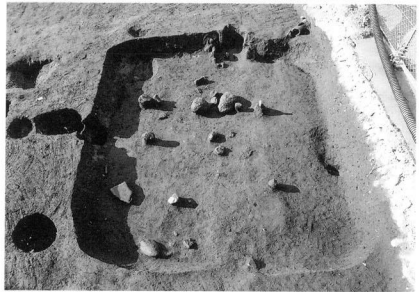
(45) H3号住居址

き18グリットにあり、F1、F16に切られ、H4、単独ピットP36・P37を切る。東壁は調査次が異なったため、確認できなかった。南北長436cm、東西長(404)cm、壁高は24~38cmの方形を呈す。カマドは北壁にある。火床が北壁のライン上にあり、奥壁が48cm出ている。削り抜いた地山に礫を立て粘土を貼り壁を作っている。天井部にも礫を多用し、カマド前面に崩壊して、散乱している。主軸方位はN-5°-Wである。床面は締まっているが、壊れ易い。主柱穴は西壁のP1で、長径60cm、深さ30cm、楕円形堀方に柱痕がある。対する東壁のピットは未調査となってしまう不明であ

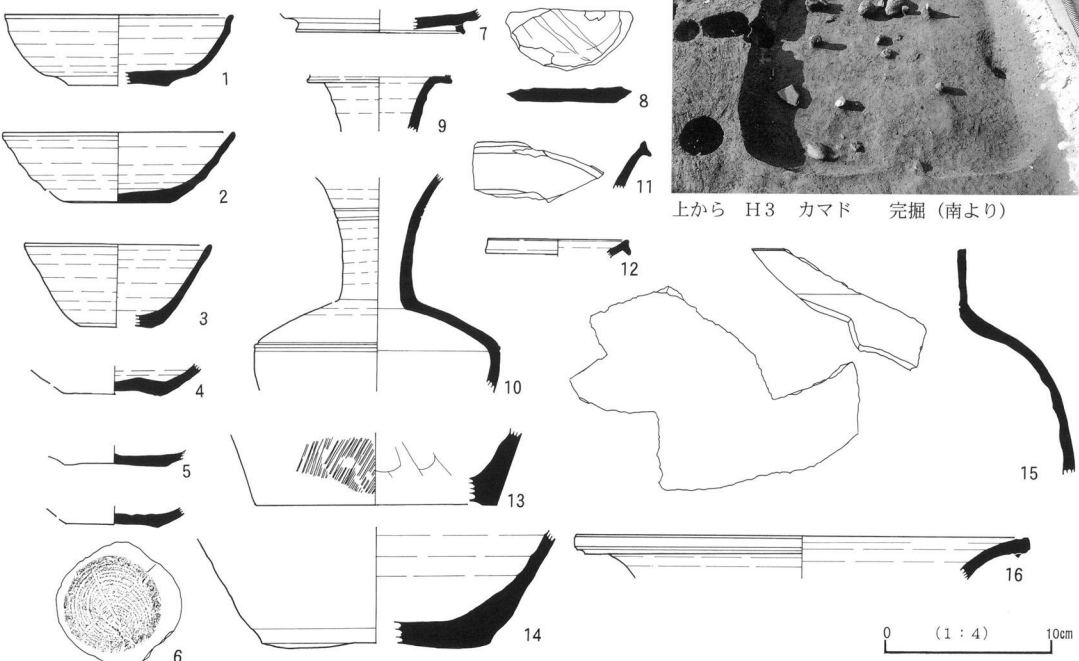
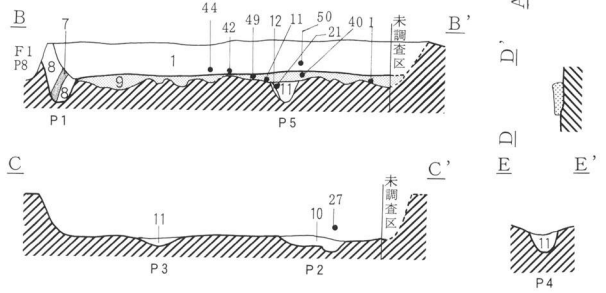
H3



- H3 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~5mm大の小石を多く、全体に地山砂を含む。やや砂質。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土粒子を含む。
 3. 黒褐色土層 (10R3/2) 粘土粒子を含む。
 4. 褐色土層 (7.5YR4/4) 焼土
 5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を含む。
 6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土粒子を含む。(カマド堀方)
 7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
 8. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂礫を多く含む。
 9. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を多量に含む。(貼床)
 10. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂を多量に含む。
 11. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多量に含む。
 12. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂主体。

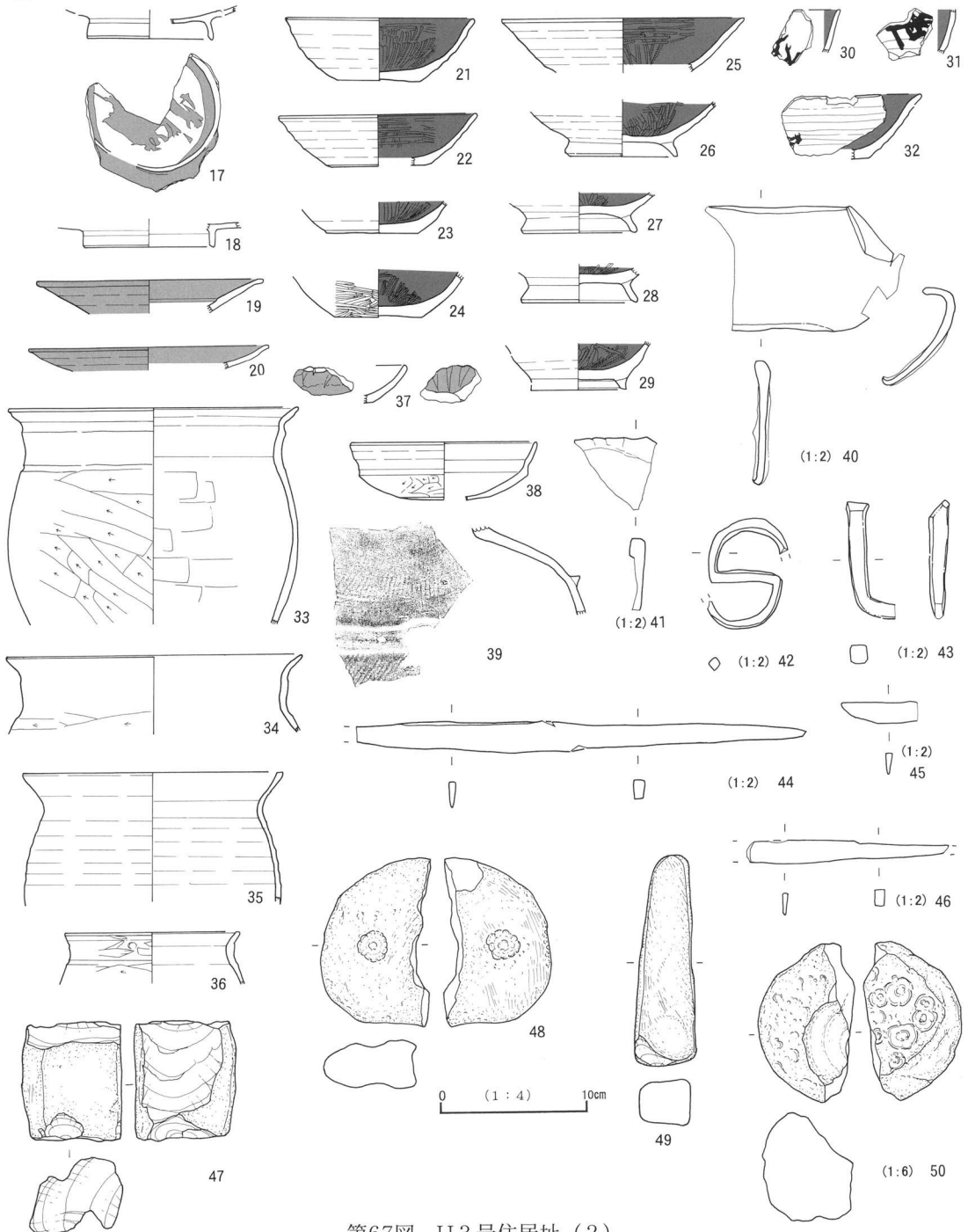


上から H3 カマド 完掘 (南より)



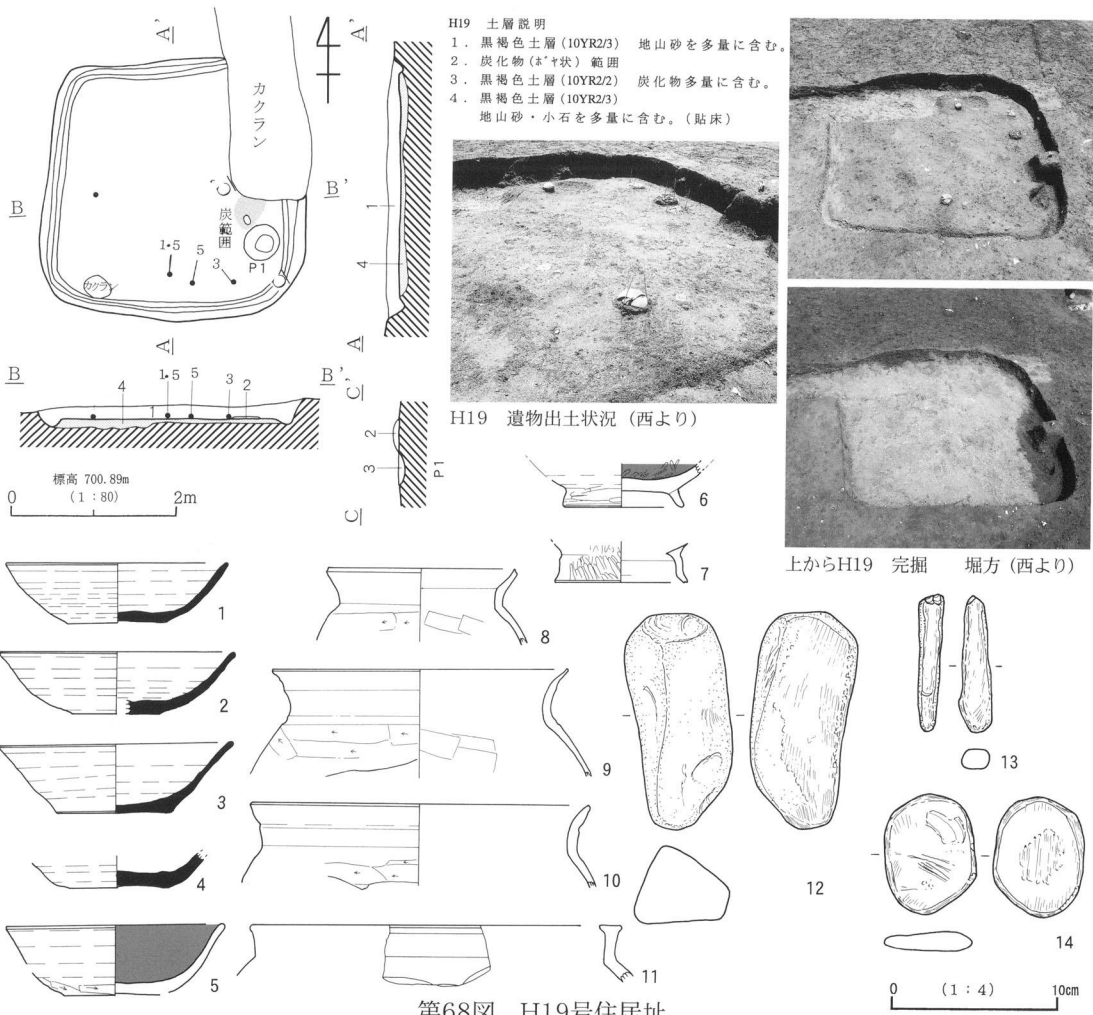
第66図 H3号住居址 (1)

H3



第67図 H3号住居址(2)

H19



第68図 H19号住居址

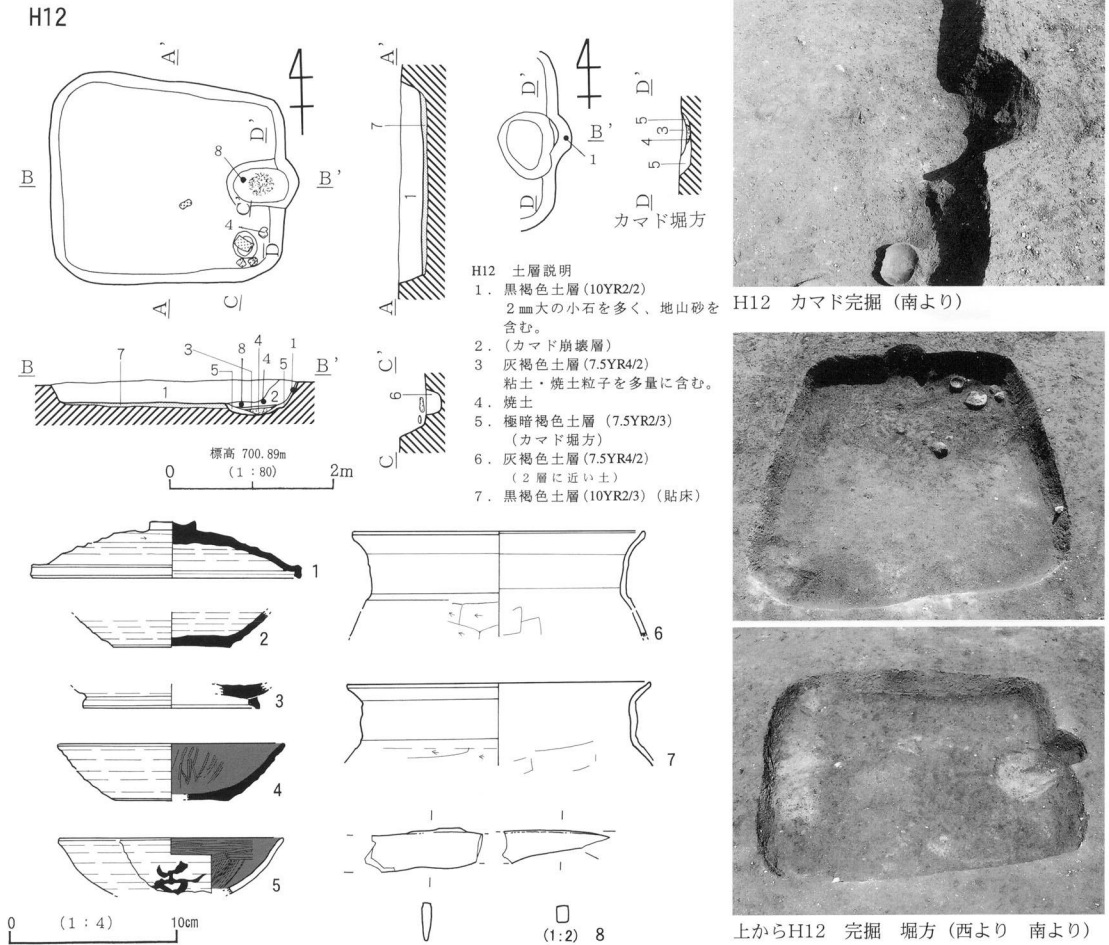
る。北西隅に長さ88cm、深さ17cmの楕円形の落ち込みがある。カマドの両脇には、床下からP 2・P 3の浅い落ち込みがある。P 4・P 5は径36cm、深さ32・30cmと深く伴うかどうかは別として柱穴である。北壁下には周溝が廻る。南西には台石が置かれていた。

出土遺物には灰釉陶器、須恵器、土師器、凹石、鉄製品、敲石がある。須恵器杯の底部は回転糸切りされる。2の須恵器杯の底部径は大きく6.8cmを測り、底径/口径は0.47である。3の杯は焼成時に歪んだためか、底径が正確ではない。6の底には「×」のヘラ記号がある。10の須恵器長頸瓶の外表面は丁寧に横ナデされ、膨らんだ肩部から胴部へ変換点は2本の沈線間に、丸味のある稜が作られている。15の短頸壺は薄手で、口縁直立、肩部が張る。灰釉陶器は椀・皿がある。椀の高台は長脚で、底径9.0と大きい。17・18の内面には重ね焼き痕が残る。内面の見込にハケ塗りがある。19の段皿は、釉薬をハケ塗りしている。21の土師器杯は底部回転糸切りである。内面ミガキ黒色処理される。24の土師器杯は底部回転ヘラ削り後ミガキ調整されたもので、混入品であろう。26~28の土師器椀は底部回転糸切り後高台が貼付されている。高台は外に開き長脚である。内面のミガキは丁寧である。29は方柱状の高台の付く椀底部であるが、杯底面に墨が付着している。転用硯であろうか。判読不明であるが土師器杯の外表面に墨書が3点ある。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「コ」字形である。

鉄製品は刀子・鎌・軸・角釘がある。鎌は幅で4.3cmを測る。軸は曲げて使用している。
これらより、9Cの年代が当てられよう。

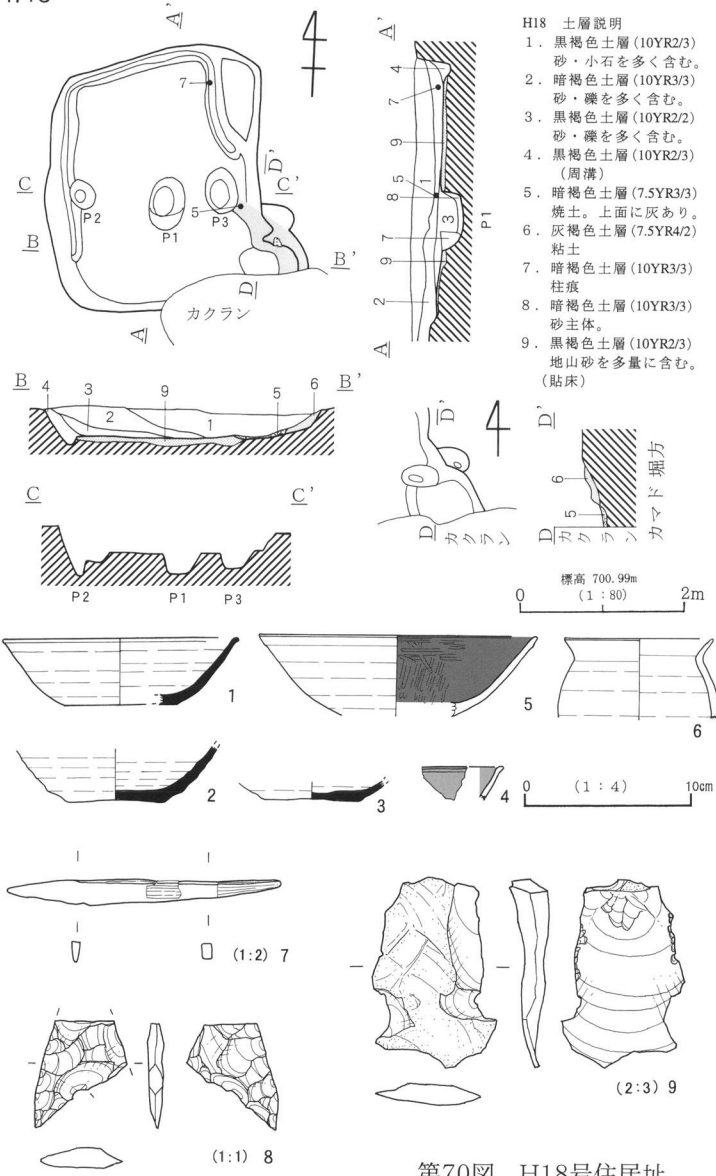
(46) H12号住居址

お24グリットにあり、H13、F7を切る。南北長222cm、東西長256cm、壁高は17~19cmの長方形を呈す。カマドは東壁にある。主軸方位はN-85°-Wである。支柱穴はない。南東隅にある円形のピットは径32cm、深さ20cmを測り、カマドの崩壊土に近い土が入っている。床面は所々締まっている。

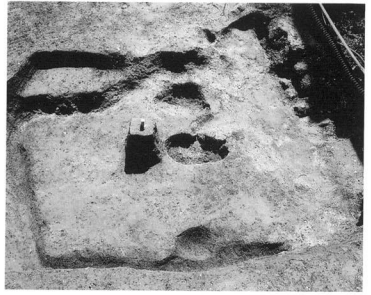


第69図 H12号住居址

H18



H18 III区セクション (南西より)



H18 完掘 (西より)



上からH18 カマド完掘 堀方 (南より)

第70図 H18号住居址

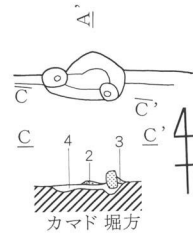
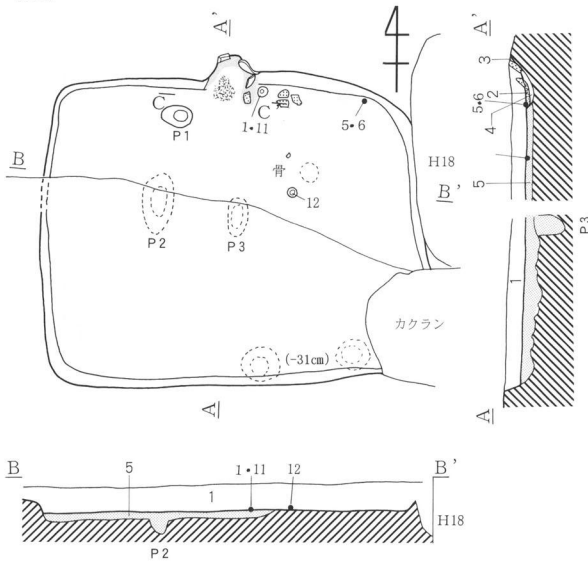
出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。1の須恵器蓋は、天井部の回転ヘラ削りが雑で、1周するのみである。内面に自然釉が付着するが、外周4.5cmにみられる。2の須恵器杯は底部回転糸切りである。高台付杯は底部片である。4の土師器杯は底部回転糸切り後ヘラナデされ、内面ミガキ黒色処理である。5の外面には判読不明の墨書がある。6・7は武蔵甕で口縁部形態「コ」字形である。鉄製品は刀子である。

これらより、9Cの年代が当てられよう。

(47) H18号住居址

き27グリットにあり、H20、H32、H34、H35を切る。南東隅は攪乱により壊される。南北長

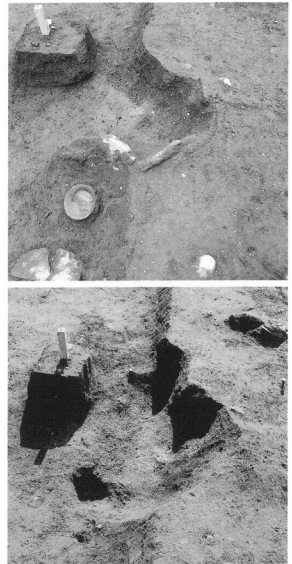
H20



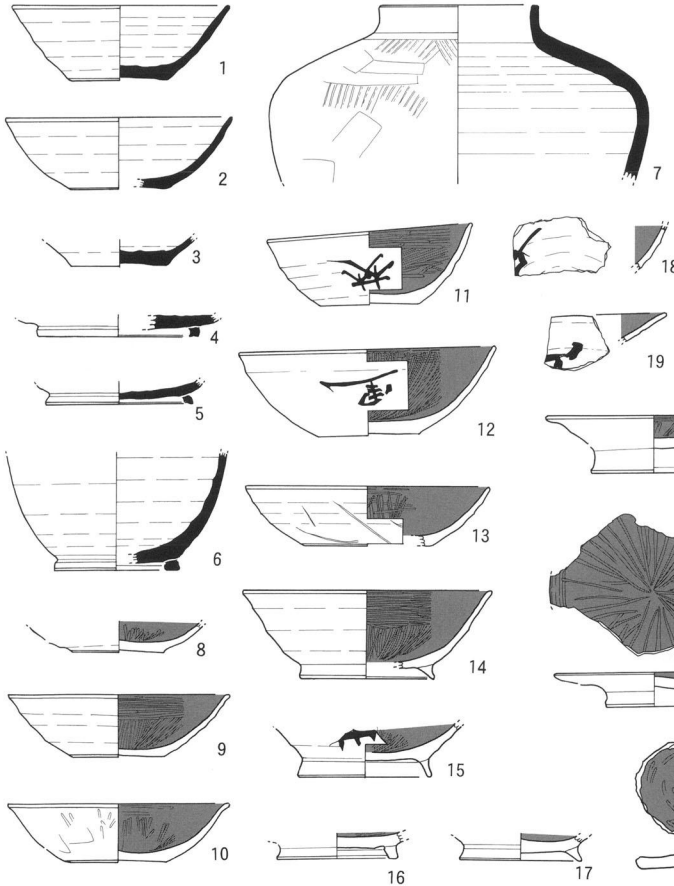
カマド 堀方

- H20. 土層説明
1. 黒褐色土層(10YR3/2) 地山砂・小石を含む。
 2. 褐色土層(7.5YR4/4) 焼土
 3. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 粘質土を含む。
 4. 黒褐色土層(7.5YR3/2) (カマド堀方)
 5. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山砂・小石を含む。

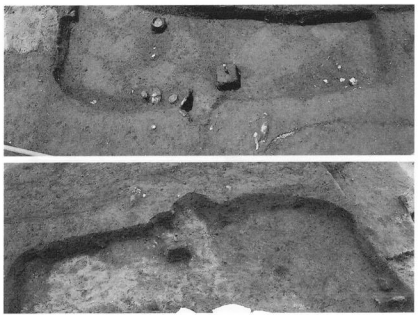
標高 700.89m
(1:80)



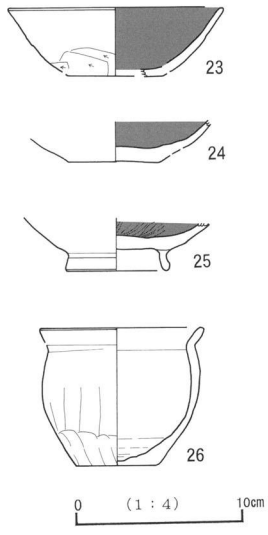
上からH20 カマド完掘 堀方(東より)



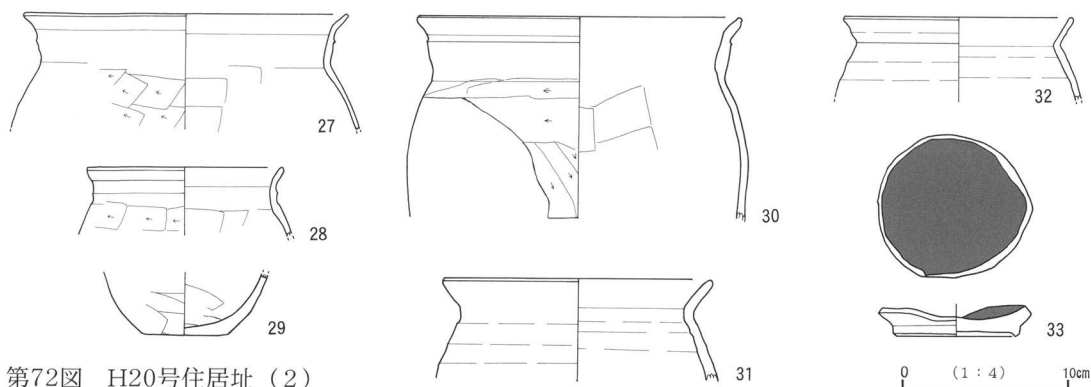
第71図 H20号住居址(1)



上よりH20 完掘 堀方(北より 南より)



H20



第72図 H20号住居址(2)

293cm、東西長217cm、壁高は19~39cmの長方形を呈す。カマドは東壁の南隅にある。主軸方位はN-87°-Eである。主柱穴は床中央のP1で堀方は楕円形を呈し、64×48cm、深さ32cmのピットである。P2は円形で径36cm、深さ28cm、P3は楕円形で長径58cm、短径40cm、深さ20cmを測る。P3は貯蔵穴であろうか。南壁を除いて壁下には周溝が廻る。床面は締まっている。北東にテラスがあり、検出面より21cm下がっている。

出土遺物には須恵器、灰釉陶器、土師器、鉄製品、石製品がある。須恵器は杯で、底部回転糸切りされる。灰釉陶器は椀であろうか内外施釉される。土師器杯か椀は大型で推定口径17.1cmを測る。内面ミガキ黒色処理される。刀子は長さ8.4cm、幅0.7cmの小物である。刃部4.5cm、柄には木質が付着している。

これらより9Cの年代が当てられよう。

(48) H19号住居址(挿図P135に掲載)

か28グリットにあり、攪乱に北東を切られ、H40を切る。南北長296cm、東西長292cm、壁高は10~27cmの方形を呈す。カマドはないが、東壁側に炭化物範囲が残る。主軸方位はN-1°-Eである。主柱穴はない。炭化物範囲の南のピットは、円形で浅く深さ8cm、径40cmを測る。壁下には周溝が廻る。床面は締まっている。

出土遺物には須恵器、土師器、敲石がある。須恵器は杯があり、底部回転糸切りされる。1・2の須恵器杯は小さな底径から口縁が内湾して外傾する。底径/口径は0.44と0.48である。3は底径が大きく、口縁が直線的に外傾する。底径/口径は0.5を測る。5の土師器杯は底部と杯下部が手持ちヘラ削りされ、内面ミガキ黒色処理である。6は土師器椀で、7の高台は直立し長脚である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態に「コ」字形態が見られ、胴部に最大径をもつ。

これらより9Cの年代が当てられる。

(49) H20号住居址

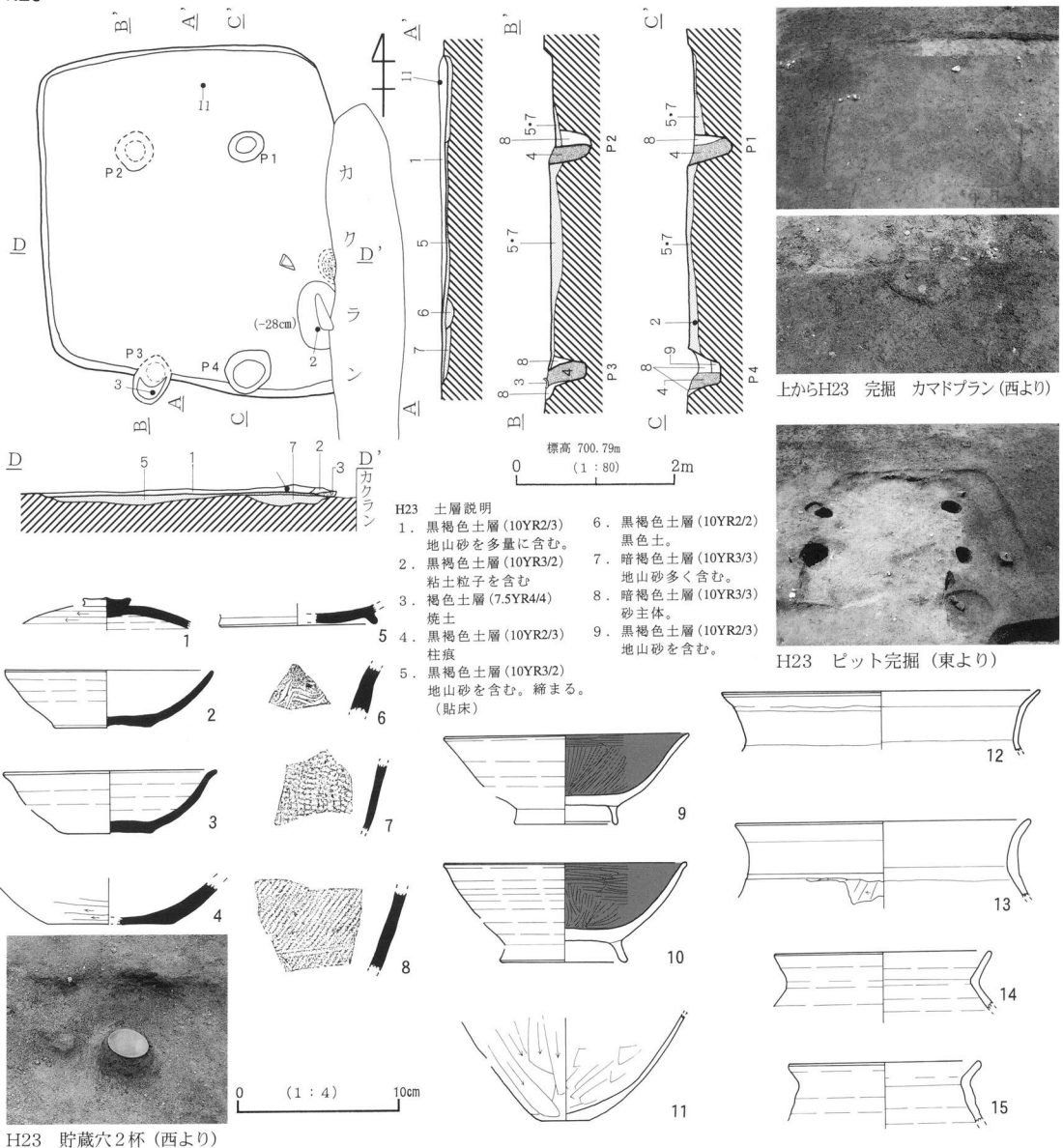
き28グリットにあり、H18、H32、攪乱に切られ、H33~H35、H37、H38を切る。二次に渡る調査で、接合しない部分がある。本調査では北側を調査した。南北長352cm、東西長443cm、壁高は12~21cmの長方形を呈す。カマドは北壁にある。焼土と奥壁の礫が残る。主軸方位はN-5°-Wである。主柱穴はない。P1はカマドの東側にあり、楕円形で長径36cm、深さ6cmの落ち込みである。堀方でP2・P3の柱穴が中央に検出された。床面は締まっている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯、高台付杯、壺がある。1の須恵器杯は、底部回転糸切りで、口縁が長く直線的に外傾する。底径/口径比は0.44である。2の杯の底径/口径の比は0.42を測り、底径が小さい。7の須恵器壺は口縁が短く直立し、端部は面取りされる。胴部外面は平

行タタキ目後ヘラナデ、内面胴部はロクロナデである。中位下にはミガキの痕跡がある。土師器杯は9個体実測され、すべて回転糸切りである。23のみ底部と杯下部がヘラ削りされる。底径は6.0と5.6に2分類される。小振りの11の土師器杯の口径12.6cm、大振りの12の杯は口径15.7cmであるが、底径は同じ6.0cmである。両者とも口縁外面に11は「林人」、12は「里」と逆に墨書される。13はヘラ記号がある。15の土師器碗は回転糸切り後高台が貼付され、14の高台は内側がなだらかなのである。20・21の皿は20が深く、21は平らに近い。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「コ」字形である。31・32はロクロ甕で、外面はロクロ調整後ヘラナデをしている。16・17・22・33は土師器杯や碗を二次利用して土板に転用している。

これらより本址は9C代とされよう。

H23



第73図 H23号住居址

(50) H23号住居址

え28グリットにあり、攪乱に東壁を切られ、H25、H31、H41、D1を切る。南北長416cm東西長〈354〉cm、壁高は0～10cmの長方形を呈す。カマドは東壁中央より南にあり、火床のみ残る。主軸方位はN-86°-Eである。カマドの南脇には楕円形で84×48cm、深さ28cmの落ち込みがあり、2の須恵器杯があった。支柱穴は4本あり、南に寄っている。ピット堀方は楕円形ないし円形を呈し長径48～60cmを測り、深さ44～56cmを測る。いずれも柱痕が見られた。床面は締まっている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。2の須恵器杯は、器高が低く、底部回転糸切りされる。底径/口径0.46を測る。3の杯は口縁が外反して開く、焼成は灰燈色である。9・10は土師器碗で、底部回転糸切り後高台を貼付している。高台は長脚である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部「コ」字形である。14・15はロクロ甕である。

これらより9C代年代が当てられよう。

(51) H24号住居址

か29グリットにあり、H38、単独ピットP103に切られ、H40、H41を切る。南北長305cm、東西長384cm、壁高は0～25cmの長方形を呈す。カマドは北壁にある。両袖と火床がのこり、カマド内から11・12の甕が出土している。主軸方位はN-0°である。北壁側のP1・P2が支柱穴であろうか。P1は径33cmの円形で、深さ34cmを測る。カマドの西にあるP2は径28cm、深さ8cmの浅いものである。中央のP3は深さ7cmである。床面は締まっている。南側の床下には径86cmの円形の落ち込みがあり、大小のピットが掘り込まれる。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯・壺・甕があり、須恵器杯の底部は回転糸切りされる。4の小瓶の底部は糸切り痕がある。9の土師器杯は底部糸切り、内面ミガキ黒色処理である。8と10は前代の混入品である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部「コ」字形である。胴肩部に最大径を持つ。

これらより本址は9C代の年代が当てられよう。

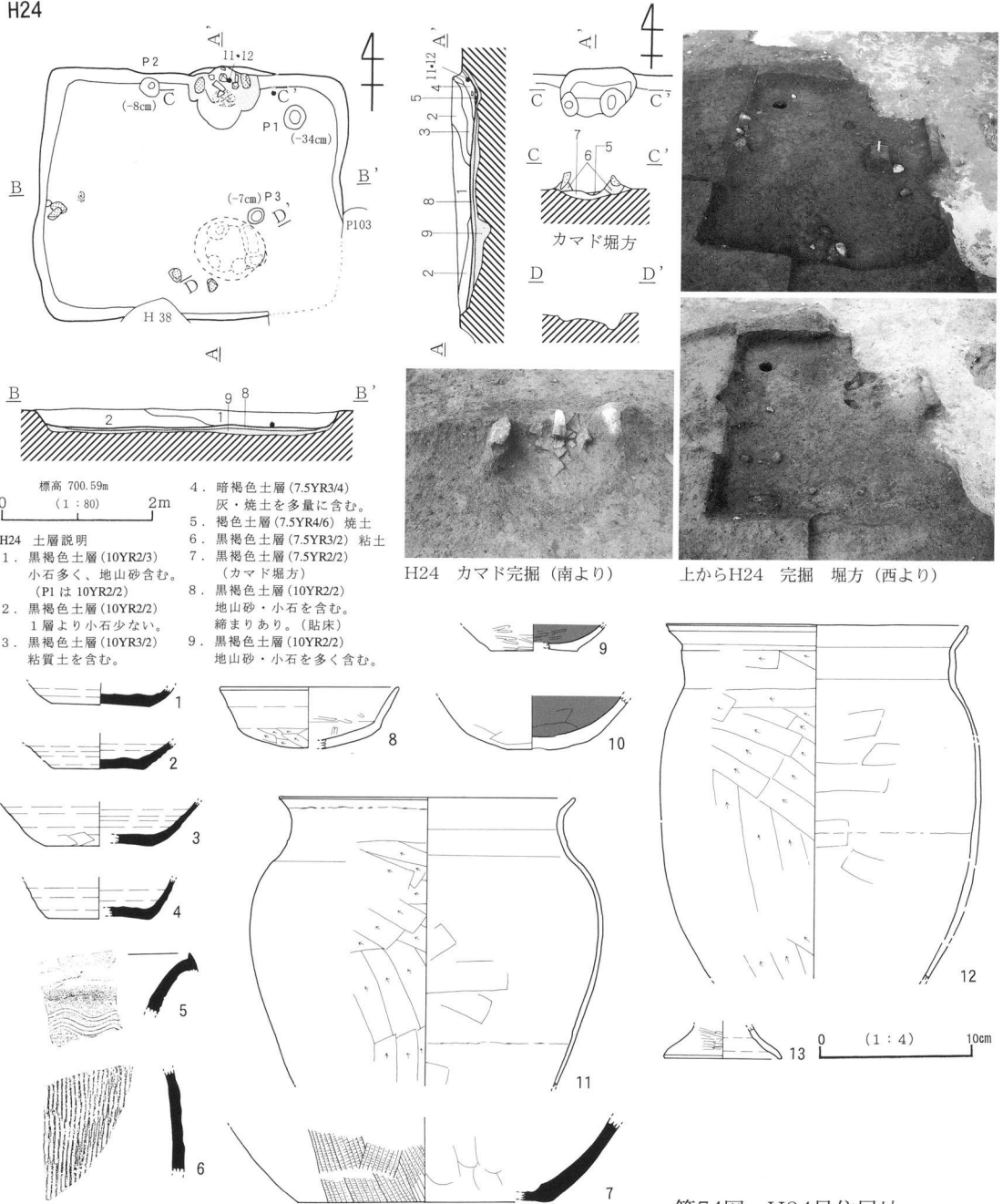
(52) H27号住居址

き29グリットにあり、H33、H36、H37、単独ピットP104、INCIVH22に切られ、H38、H39、H40を切る。南北長274cm、東西長〈379〉cm、壁高は12～38cmの長方形を呈す。カマドは北壁にあり、カマドの位置は壁外にあり、壁から56cm飛び出ている。カマドの東脇には径50cm、深さ26cmの楕円形ピットがあり、1と5の須恵器杯が入っていた。主軸方位はN-3°-Wである。支柱穴はP1～P4の4個で、長径16～26cmの円形と楕円形を呈し、深さ14～18cmと浅い。南壁にはP4が切る楕円形の土坑状の落ち込みがあり、長径102cm、短径67cm、深さ19cmを測る。床面は締まっている。

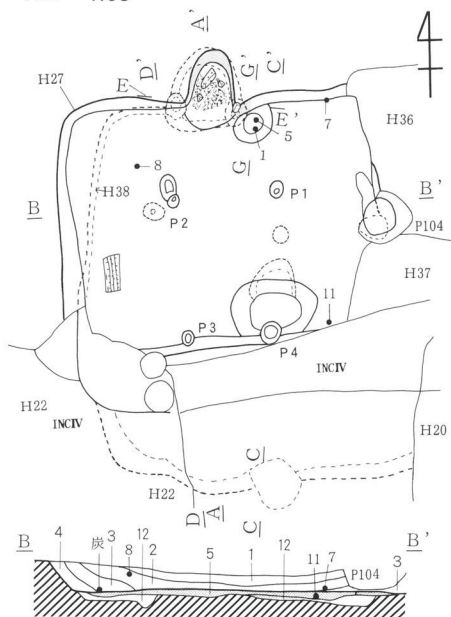
出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品、青銅製品がある。須恵器杯は、2が前代の混入品。1・5は底部回転糸切りされ、底径/口径は0.46・0.42を測り、器高が低い。4の杯外面は墨書がある。6の土師器杯は底径が6.9cmと大きく全体に大振りで、堀方から出土している。7の土師器杯は底径が5.0cmと小さく、底部回転糸切りである。外面に「米」であろうか墨書がある。8の土師器皿は底部糸切り後高台を貼付している。高台の器肉が薄い。外面に墨で描いているが判読不明である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「コ」字形を呈す。鉄製品は斧で長さ8.9cm、幅3.5cmを測る。12の青銅品は帯の丸鞆の裏金具である。2.5×1.4×0.1cmのかまぼこ型で、1.5×0.6cmの長方形に窓が開く。上中央に1、下に2個1mmほどの目釘穴がある。

これらより9Cの年代が当てられる。

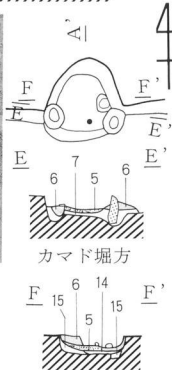
H24



H27・H38



H27 カマド完掘 (南より)



カマド堀方

H27 H38 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2) 地山砂・小石を含む。南側炭化物粒子を多く含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
4. 黒褐色土層(10YR3/2) 地山砂・小石を極く多く含む。
5. 褐色土層(7.5YR4/4) 焼土
6. 極暗褐色土層(7.5YR2/3) 粘土
7. 暗褐色土層(7.5YR3/3) (カマド堀方)
8. 黒褐色土層(10YR2/3) 柱痕
9. 暗褐色土層(10YR3/3) (堀方)
10. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山砂ブロック混在。締まる。
11. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山砂主体。
12. 黒褐色土層(10YR2/3) 粘土ブロック・砂ブロック・黒褐色土ブロックを含む。(H38)
13. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山砂・小石を極く多く含む。



H27 完掘 (南より)



H27 堀方 H38 完掘 (南より)



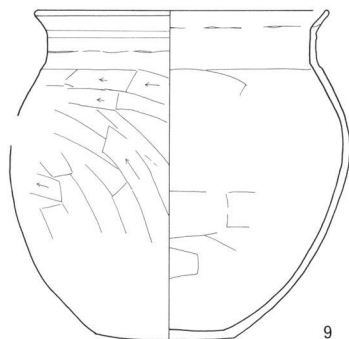
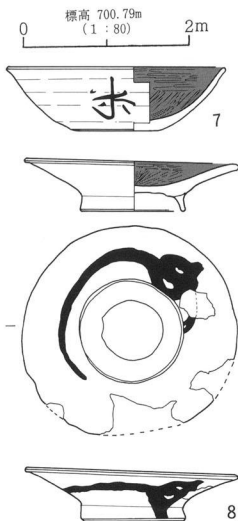
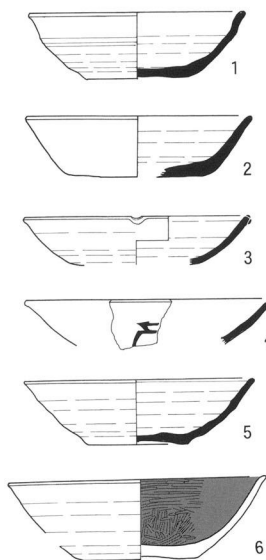
H38 堀方 H39 完掘 (南より)



H38 H39 堀方 (南より)

(H38 覆土)

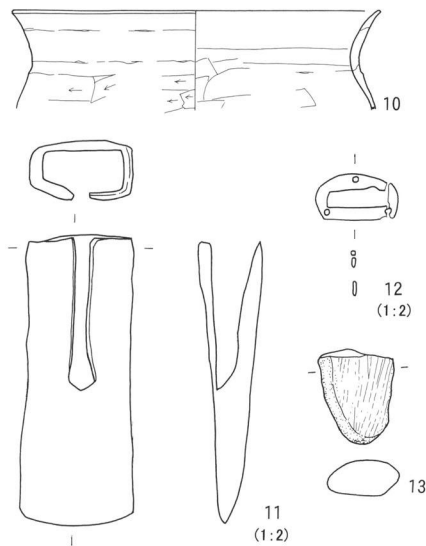
14. 褐色土層(7.5YR4/4) (H38 カマド)
15. 暗褐色土層(7.5YR3/3) (H38 カマド堀方)



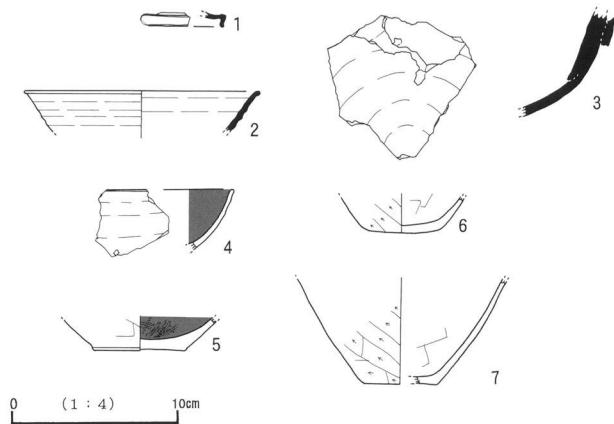
0 (1:4) 10cm

第75図 H27・H38号住居址 (1)

H27



H38



第76図 H27・H38号住居址(2)

(53) H31号住居址

お28グリットにあり、H2が上面に重なり、床面まで影響される。D1を切る。南北長〈255〉cm、東西長〈321〉cm、壁高は0～7cmの長方形を呈す。カマドは北壁にあり、火床が残っている。主軸方位はN-3°-Eである。ピットは北西に楕円形で長径24cm、短径16cm、深さ24cmがある。床面は中央が残り、縮まっている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。1・2の須恵器杯は、底部回転糸切りされる。底径/口径は0.41・0.40で底径がかなり小さい。3の土師器杯は墨書があり、「林人」で逆位に書かれている。H20に同じ墨書がある。4・5は土師器碗である。5の底部は摩耗しており、高台を欠損した後磨いて整えている。これらの土器はカマド内より出土する。

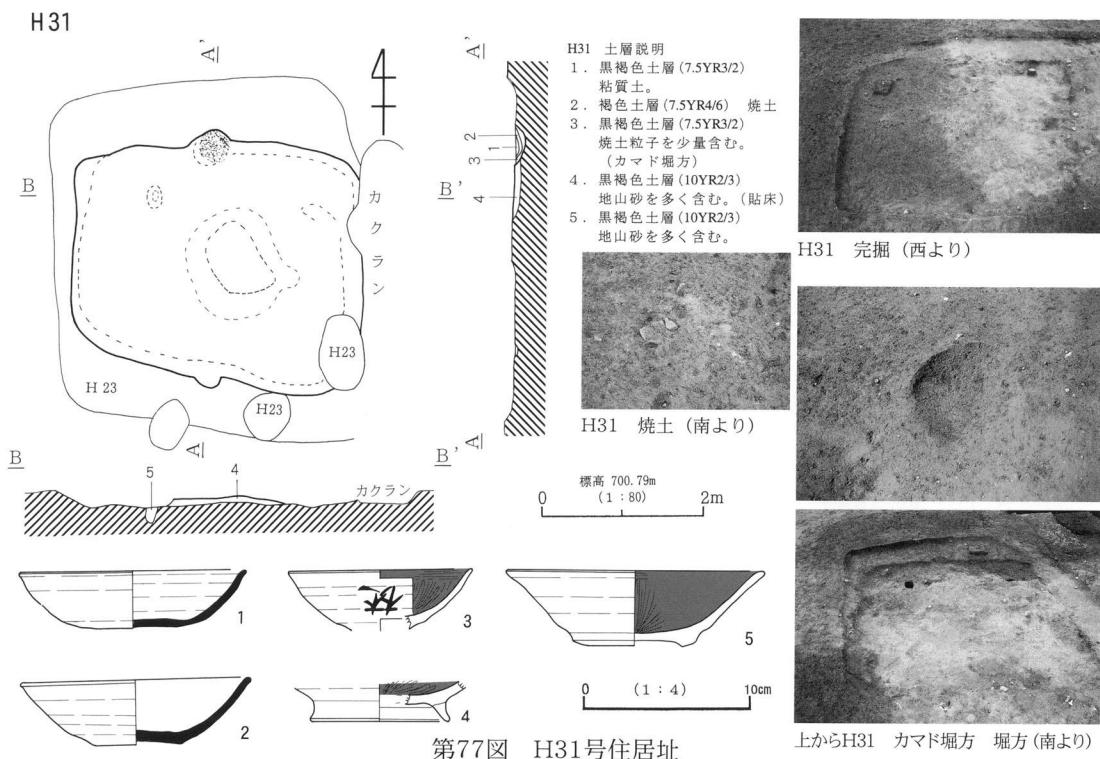
上面のH23との土器様相に大きな変化はなく、9Cの年代が当てられる。

(54) H33号住居址

え28グリットにあり、H20、H32に切られ、H27、H35、H37、H39を切る。南北長〈129〉cm、東西長〈276〉cm、壁高は11～14cmの長方形を呈す。カマドは北壁にある。火床の焼土が北壁ラインにある。主軸方位はN-1°-Eである。支柱穴はない。他1。北壁下には周溝が廻る。床面は縮まっている。

出土遺物には土師器がある。土師器は碗、皿、甕がある。1の土師器碗は高台が欠損しそのまま使用している。杯底部は回転糸切りされる。4～6の皿は内面ミガキ黒色処理され、4は高台端面が面取りされ、5は丸く、6は高台の断面形が三角形に近い。6の口縁外面には「H」に近い墨書がある。2・3の杯外面にも墨書がある。土師器甕はいずれも武蔵甕で、口縁部形態「コ」字形である。

これらより9C後半の年代が当てられよう。



(55) H34号住居址

き27グリットにあり、H18、H20に切られ、H21、H35を切る。南北長284cm、東西長260cm、壁高は8～64cmの長方形を呈す。カマドはない。主軸方位はN-13°-Wである。柱穴は西壁に径26cm、深さ31cmのピットがある。また南西隅に円形の径54cm、深さ18cmの落ち込みがある。床面は締まっている。

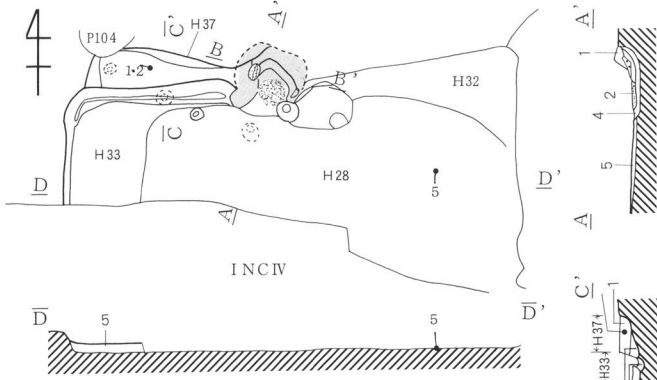
出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。鉄製品は刀子である。須恵器は蓋・杯・甕があり、5の須恵器杯は底部糸切りで、底径/口径の比は0.41を測る。9の甕はナデ肩で、胴部外面は平行タタキ目である。胴部内面は当て具痕を消して、ナデ調整がされる。土師器は椀、皿、甕がある。18の土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態に「コ」字形態で肩がはり、胴形が筒状である。19の甕はロク口甕で、胴部外面をヘラの木口で、回転ヘラナデするカキ目である。14の土師器椀は貼付される高台が短く四角で、底の内側に凹線がある。15の椀は糸切り後長脚が貼付され、裾は広がっている。外面に「奈」?であろうか墨書がある。16・17は土師器皿で、高台を欠損している。

これらからは9Cの年代が当てられる。1・2の陶磁器は混入品である。

(56) H35号住居址

き28グリットにあり、H18、H20、H32、H33、H34に切られ、H21、H40を切る。南北長430cm、東西長382cm、壁高は9～47cmの長方形を呈す。カマドは北壁にあり、H34に前面を壊され、煙道が残る。主軸方位はN-2°-Wである。主柱穴は東西の壁中程に2個ある。P1は楕円形で長径48cm、深さ23cm、P2は円形で径42cm、深さ28cmを測り、柱痕がある。壁下には周溝が廻る。床面は締まっている。P3・P4はH34の壁外柱穴であろうか、住居の形に沿っている。床下のP5～8は長径37～50cm、深さ16～33cmの円形と楕円形のピットである。ほぼ方形に配され、床下住居が重複し、ピットのみ痕跡を残したとみられる。

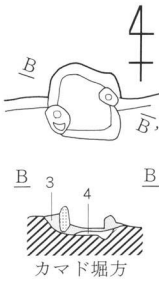
H33・H37



上よりH33 完掘 H37 完掘(南より)



H33 H37 堀方(南より)



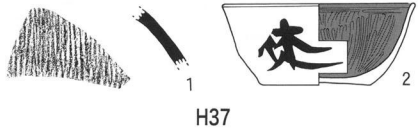
H33 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)粘質土を少し含む。
2. 暗褐色土層(7.5YR3/3)焼土
3. 黒褐色土層(7.5YR3/2)粘質土を含む。
4. 黒褐色土層(7.5YR2/3)(カマド堀方)
5. 黒褐色土層(10YR2/2)地山砂・小石を含む。(貼床)

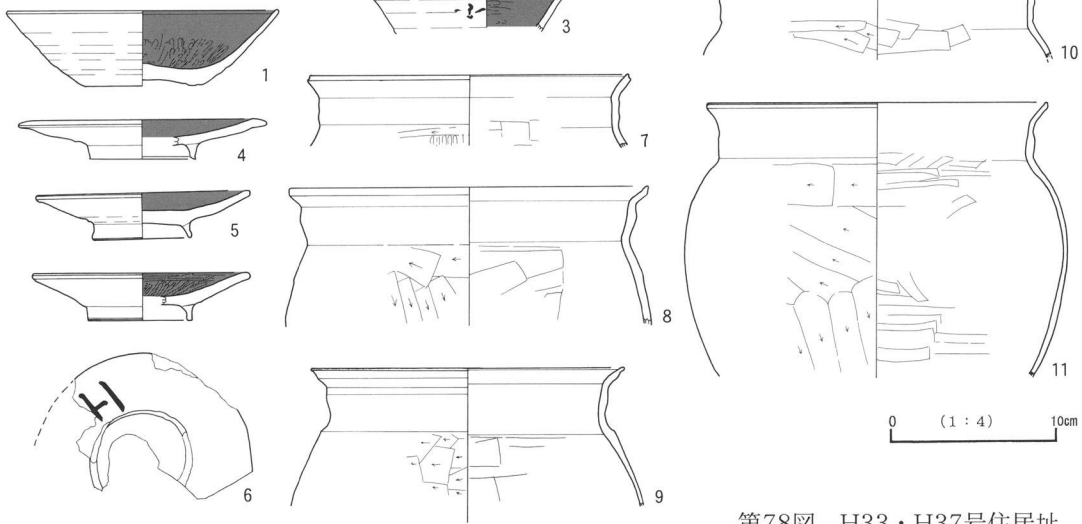
H37 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/2)地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2)柱痕
3. 黒褐色土層(10YR3/2)地山砂・小石を含む。

標高 700.89m
0 2m
(1:80)

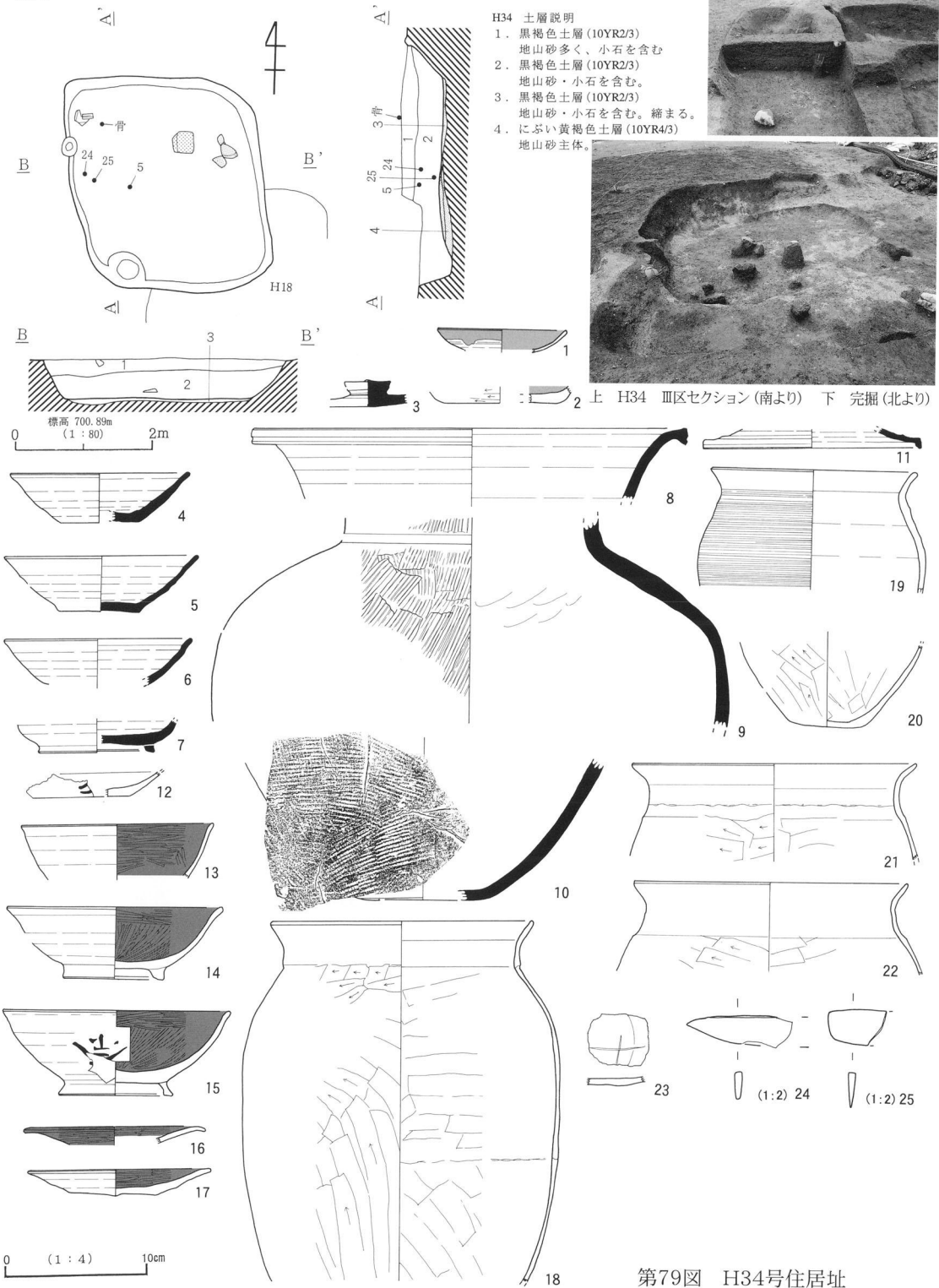


H37

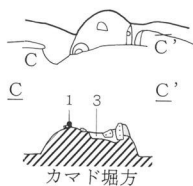
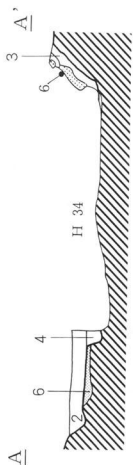
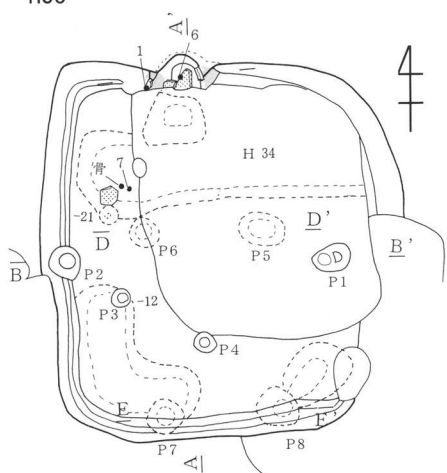


第78図 H33・H37号住居址

H34

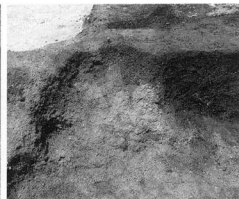


H35



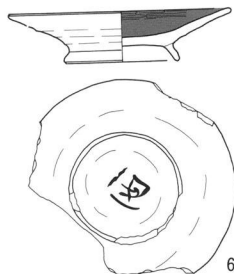
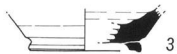
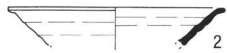
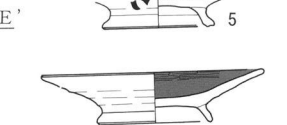
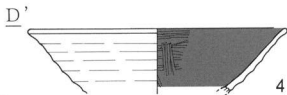
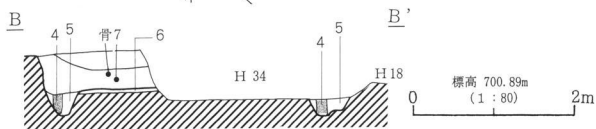
H35 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を多く、小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
1層より黒色強。
3. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) (カマド堀方)
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂・礫主体。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・小石を含む。締まる。
上面に粘質土含む2cmの貼床あり。



H35 カマド (南より)

H35 カマド完掘 (南より)



7
(1:2)
6
(1:4)



上からH34 H35 完掘 堀方(北より)

第80図 H35号住居址

出土遺物には須恵器、土師器、鉄製品がある。1は須恵器杯で、底部回転糸切りされる。完形ではないが口縁はゆがんでおり杓状杯といえる。土師器は椀と皿があり、4の土師器椀は薄手である。5の椀は高台が長脚である。外面に判読不明の墨書がある。土師器皿は底部に墨書があり、「西」であろうか。鉄製品は軸である。

これらより9Cの年代が当てられる。

(57) H37号住居址

き29グリットにあり、H20、H32、H33、単独ピットP104に切られ、H27、H38～H40を切る。H33や他の竪穴住居に切られ、北壁の西側がわずかに残存する。南北長〈36〉cm、東西長〈168〉cm、壁高は11～14cmを測る。カマドはない。主軸方位はN-12°-Eである。H33の周溝の下に柱痕を持つピットがある。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は甕片、2の土師器杯は器高が深く、底部回転糸切り、内面黒色処理される。外面に「林人」の墨書があり、H20、H31と3点同じ墨書が書かれている。

(58) H38号住居址

き29グリットにあり、H20、H27、H36、H37、単独ピットP104、INCIVH22に切られ、H24、H39、H40を切る。重複が激しいためわからない部分がある。図に点線で示した。南北長444cm、東西長〈309〉cm、壁高は1～14cmの長方形を呈す。点線で示した所まで床面は続いている。カマドは北壁にあり、H27のカマドと同位置で大半を壊され、わずかに堀方に痕跡を残す。主軸方位はN-3°-Eである。床面は締まっている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は蓋・杯・壺があり、蓋は口縁端部が屈曲して折曲がる。杯は口調整の平底を呈すであろう灰色の杯である。須恵器壺か甕の底部がある。土師器は底部回転糸切り、内面ミガキ黒色処理である。土師器甕は武蔵甕の底部である。

これらより9Cの年代であろうか。重複するH27との新旧のわかる遺物はない。

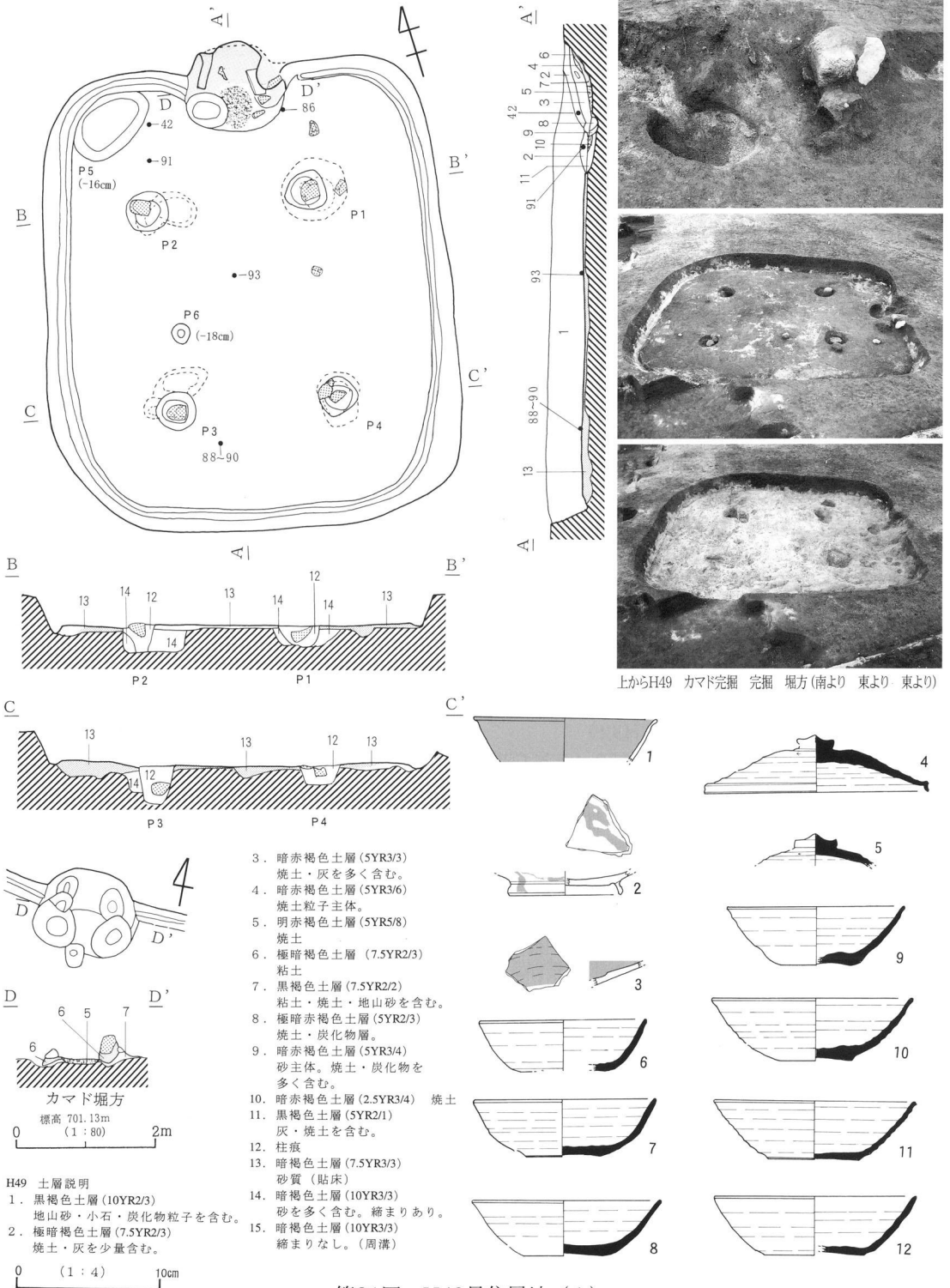
(59) H49号住居址 (INCIVH11)

け19グリットにあり、H8、H50 (INCIVH16) を切る。南北長616cm、東西長529cm、壁高は11～51cmの隅丸長方形を呈す。カマドは北壁にある。カマドの西袖は構築材の石が抜かれている。主軸方位はN-11°-Eである。主柱穴は4個あり、円形を呈し、径54cm、深さ26～56cmを測る。北西隅に長径123cm、短径75cm、深さ16cmの落ち込みがる。壁下には周溝が廻る。床面は締まっている。堀方では床下の主柱穴4個が検出された。柱の建て替えがなされたようである。

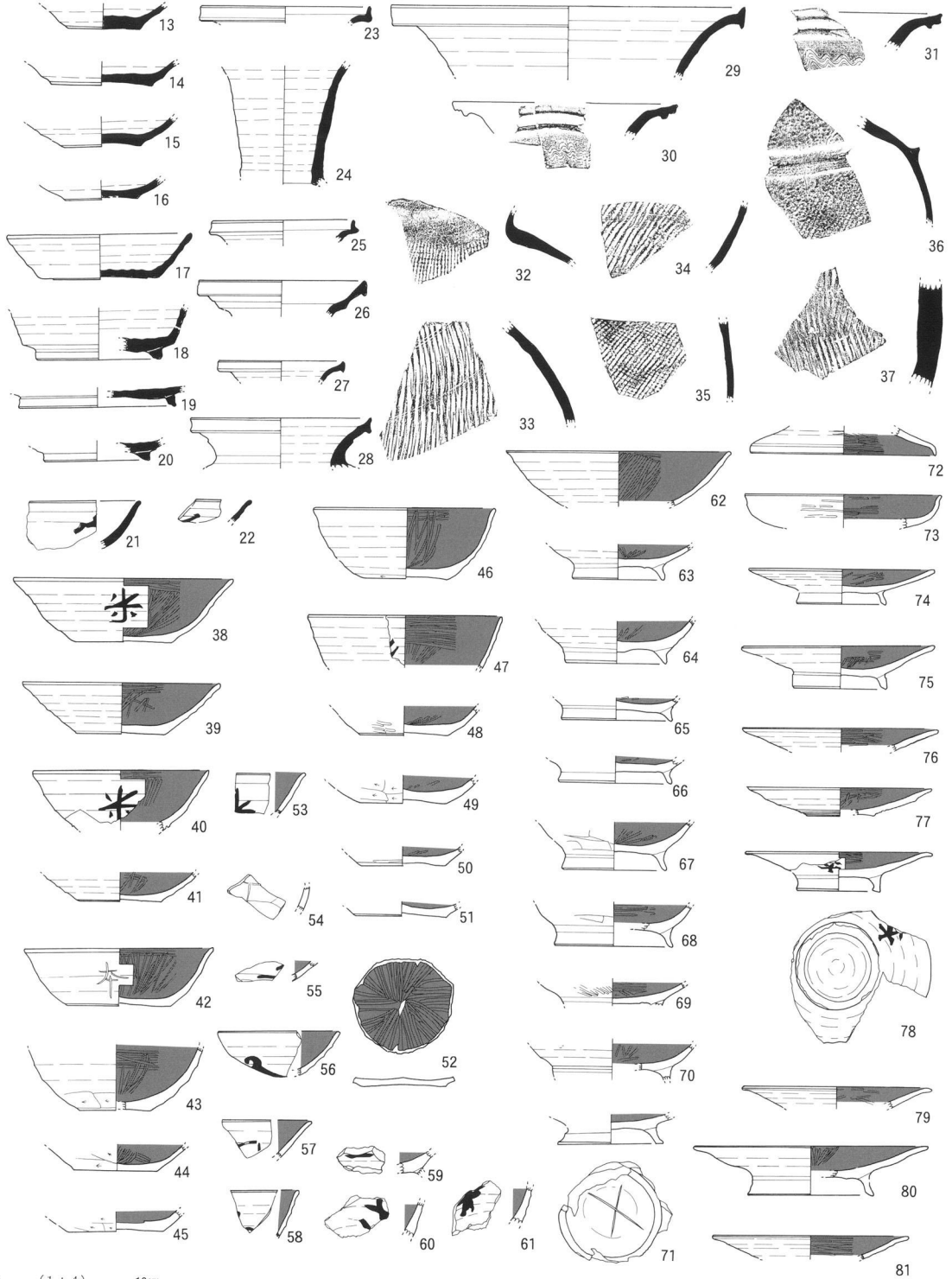
出土遺物には灰釉陶器、須恵器、土師器、鉄製品がある。灰釉陶器は椀・段皿がある。灰釉はハケ塗り、重焼きの高台痕が内面にあり、高台は少し三日月高台に近い。須恵器は蓋・杯・壺・甕がある。須恵器蓋は天井部の回転ヘラ削りが雑で甘い。須恵器杯はいずれも底部回転糸切りされる。7の底径/口径は0.37を測り、底径が小さい。土師器杯は底部回転糸切りで、38・39などは高台が付く器形である。椀の高台は断面三角形を呈すものが多い。71～81までの土師器皿が多い。本住居の杯・椀・皿の個体数は多く、墨書、刻書の文字資料が飛び抜けて多い。38・40・53には「米」、42・54は「本」の刻書。他破片は11点ある。71の底部には「×」のヘラ記号がある。土師器甕は個体数が少なく、3個体を実測した。いずれも武蔵甕で、口縁部形態「コ」字形である。鉄製品は軸と角釘がある。鉄軸は振じられたり、輪にされている。

これらより9Cの年代が当てられる。

H49

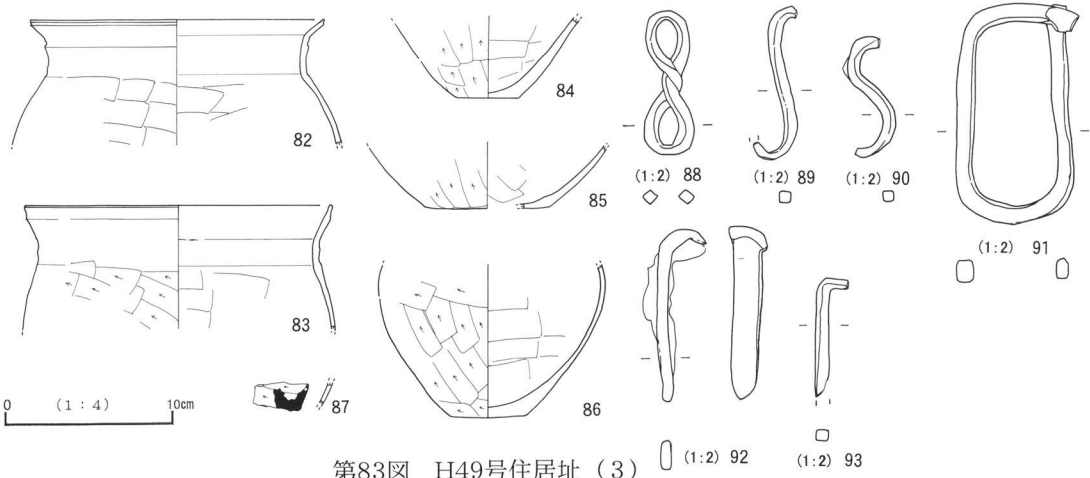


H49



第82図 H49号住居址 (2)

H49



第83図 H49号住居址 (3)

第2節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

く19グリットにあり、H3、H4、H30を切る。2×2の側柱である。桁行416cm、梁間384cmを測る。桁行柱間208cm、梁間柱間192cmである。長軸方位はN-1°-Wである。北東P3の位置が外に外れる。柱穴の規模はP4、P5、P7、P8が円形を呈し長径72~77cm、短径54~68cm、深さ33~73cmである。実測された遺物はないが武蔵甕片を出土している。平安時代のH3を切ることからも平安時代以降の掘立址である。

(2) F2号掘立柱建物址

う22グリットにあり、H10、F3に切られ、H17、F6を切る。3×3の側柱である。桁行576cm、梁間450cmを測る。桁行柱間192cm、梁間柱間150cmである。長軸方位はN-85°-Eである。柱穴は楕円形を呈し、北と南列ピットは長径80~105、短径55~70cm、深さ46~64cmを測る。梁間のP5、P6、P10は長径56~74cm、短径48~56cm、深さ35~56cmを測る。柱痕が残り、径20cm前後の円形を呈している。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯、高台付杯、甕がある。土師器甕の底部である。これらより、奈良以降から平安の掘立址である。

(3) F3号掘立柱建物址

え22グリットにあり、H10、F2を切る。1×2の側柱である。桁行280cm、梁間280cmを測る。桁行柱間140cm、梁間柱間280cmである。長軸方位はN-81°-Eである。柱穴は溝持ちで東西284cmを測る。深さは45~64cmを測る。

出土遺物はP1から土師器杯が出土し、底部手持ちヘラ削り、内面ミガキ黒色処理される。8C代の遺物である。H10を切ることから8C以降の掘立址である。

(4) F6号掘立柱建物址

え24グリットにあり、F2に切られ、H17を切る。3×2の側柱である。桁行540cm、梁間480cmを測る。桁行き柱間180cm、梁間柱間240cmである。長軸方位はN-5°-Wである。柱穴の規模形態は、P8を除いて、円形を呈し、径45~56cm、深さ45~66cmを測る。出土遺物は須恵器甕と土師器甕の口縁である。須恵器杯は内外ロクロナデ調整で焼き締まっている。

(5) F7号掘立柱建物址

お24グリットにあり、H12、H13に切られ、D3を切る。2×2の総柱である。桁行448cm、梁間336cmを測る。桁行柱間224cm、梁間柱間168cmである。長軸方位はN-89°-Wである。柱穴の規模形態は円形のP1・P7（長径90・82cm、深さ95cm）、楕円形に近いP5・P6・P8（長径95~164cm、深さ79~82cm）、歪んだ方形のP2・P3・P4（長径95~103cm、深さ79~99cm）がある。中央のP9は深さ54cmと一番浅い。

出土遺物はいずれも破片である。須恵器壺と土師器杯・甕がある。須恵器壺は口縁が強く外反する。土師器杯は3点あり、丸底でミガキを施す。4の内面は暗文がある。

H13が奈良時代の住居址であることや土器から奈良また古墳時代後期の掘立址である。

(6) F8号掘立柱建物址

う24グリットにあり、H17を切る。2×1の側柱である。桁行304cm、梁間280cmを測る。桁行柱間152cm、梁間柱間280cmである。長軸方位はN-6°-Wである。柱穴の規模形態は楕円ないし隅

丸長方形を呈し、長径88～98cm、短径61～72cm、深さ36～60cmを測る。

出土遺物は須恵器杯・高台付杯がある。土師器は甕の底部である。P 2から須恵器杯が2点あり、底部回転糸切りされる。1の須恵器杯の外面に墨書がある。堀方の下方より出土し、1/3ほど欠損している。地鎮用に埋納されたのであろうか。P 6からは須恵器高台付杯と土師器甕が出土している。これらより、8C・9C代か以降の掘立址である。

(7) F 9号掘立柱建物址

え27グリットにあり、H16、H26、単独ピットP90を切る。3×3の側柱である。桁行648cm、梁間432cmを測る。桁行柱間216cm、梁間柱間144cmである。長軸方位はN-4°-Wである。北と南の柱並びがあっていない。重複のため、見落とした可能性もある。柱穴の規模形態は円形ないし楕円形で、長径55～100cm、短径45～64cm、深さ26～47cmを測る。

出土遺物はP 7より、須恵器高台付杯がある。高台は底に沈線があり、低いものである。杯底部に糸切り痕がある。

これらより、奈良以降の掘立址である。

(8) F 10号掘立柱建物址

え20グリットにあり、北と東側は道路である。単独ピットP53、攪乱に切られる。〈2〉×〈1〉である。桁行〈424〉cm、梁間〈280〉cmを測る。桁行柱間212cm、梁間柱間280cmである。長軸方位はN-83°-Wである。柱穴の規模形態は、円形ないし楕円形で、短径57～63cm、深さ36～51cmを測る。

出土遺物はP 2から古墳時代後期の土師器甕片が出土する。

これらより古墳後期以降の掘立址である。

(9) F 11号掘立柱建物址

う21グリットにあり、H10に切られる。2×2の側柱である。桁行336cm、梁間332cmを測る。桁行柱間184・152cm、梁間柱間180・152cmである。長軸方位はN-84°-Wである。柱穴の規模形態は円形で、P 2・P 8が浅い。短径45～54cm、深さ22～65cmを測る。

出土遺物はP 6より、土師器の甕片がある。ミガキ調整される。古墳後期のものである。

これらより古墳後期以降、H10に切られることから、奈良以前の掘立址である。

(10) F 12号掘立柱建物址

か21グリットにあり、H 6に切られる。2×〈1〉の側柱である。桁行360cm、梁間〈200〉cmを測る。桁行柱間180cm、梁間柱間200cmである。長軸方位はN-0°である。柱穴の規模形態はP 4を除いて、円形を呈し、径30cm前後、深さ44cmを測る。P 4は径が120cm、深さ24cmを測る。北にピットがあることから、北に組める掘立であるのか、いずれ整った位置にピットは検出されなかった。

出土遺物はP 1より武蔵甕片が2点ある。

これらより奈良以降の掘立址である。

(11) F 13号掘立柱建物址

こ13グリットにあり、2×2の側柱である。桁行400cm、梁間348cmを測る。桁行柱間200cm、梁間柱間174cmである。長軸方位はN-5°-Wである。柱穴の規模形態は円形で、短径36～58cm、深さ20～40cmを測る。

出土遺物は須恵器の甕か壺の肩部片である。外面平行タタキ目、内面当て具痕がナデられている。これらより奈良以降の掘立址であろう。

(12) F14号掘立柱建物址

き25グリットにあり、H11、H15を切る。2×1の側柱である。桁行280cm、梁間240cmを測る。桁行柱間140cm、梁間柱間240cmである。長軸方位はN-87°-Eである。柱穴の規模形態は円形ないし楕円形を呈し、短径44~70cm、深さ35~64cmを測る。

出土遺物はない。奈良と古墳後期の住居址を切っているので、奈良時代以降の掘立址である。

(13) F15号掘立柱建物址

く23グリットにあり、H9を切る。2×-である。南は調査が二次に渡り、未検出である。桁行400cmを測る。桁行200cm柱間である。長軸方位はN-88°-Eである。柱穴の規模形態は円形を呈し、短径53~56cm、深さ46~52cmを測る。

出土遺物はP3より、奈良・平安の須恵器杯片がある。

これらより、奈良平安時代または以降の掘立址である。

(14) F16号掘立柱建物址

き18グリットにあり、H3、H4を切る。2×1の側柱である。桁行336cm、梁間204cmを測る。桁行柱間168cm、梁間柱間204cmである。長軸方位はN-27°-Wである。柱穴の規模形態は円形ないし楕円形である。短径48~57cm、深さ23~29cmを測る。

出土遺物はP5から底部手持ちヘラ削りの須恵器杯が出ている。

これらより奈良か奈良時代以降の掘立址である。

(15) F17号掘立柱建物址

お19グリットにあり、H29に切られる。北東のピットは検出されていない。2×2の側柱である。桁行480cm、梁間400cmを測る。桁行柱間208・272cm、梁間柱間200cmである。長軸方位はN-84°-Wである。柱穴の規模形態は円形または楕円形で、短径39~64cm、深さ32~47cmを測る。

出土遺物はP1より須恵器甕の外面にタタキ目、土師器杯の底部ヘラ削り片がある。

これらより奈良時代のH29に切られることから奈良時代の掘立址であろうか。重複の新旧は確実ではない。

(16) F18号掘立柱建物址

く20グリットにあり、H7、H8、H30を切る。4×3の側柱である。桁行560cm、梁間392cmを測る。桁行柱間140cm、梁間柱間131cmである。長軸方位はN-84°-Wである。柱穴の規模形態は円形を呈し、短径32~56cm、深さ12~56cmを測る。

出土遺物はない。

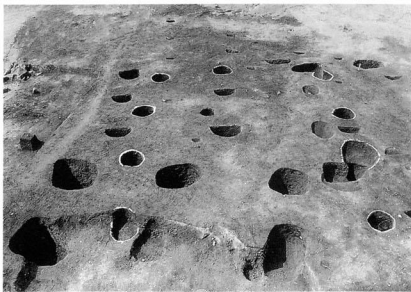
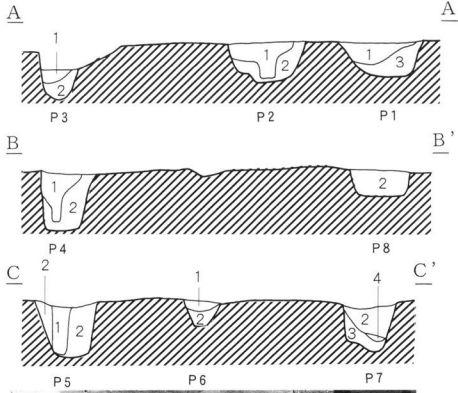
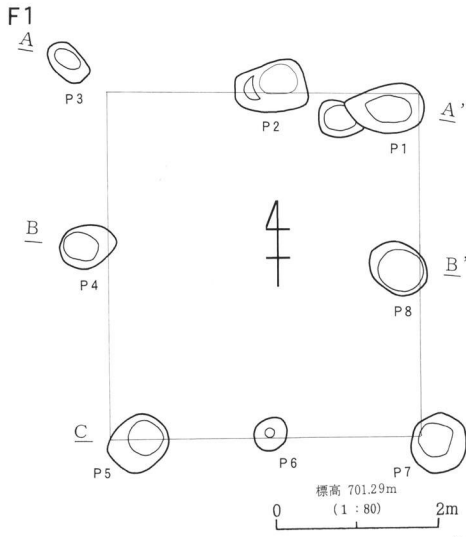
(17) F19号掘立柱建物址

お36グリットにあり、H55、P158、P159に切られ、H54を切る。北側は道路であるため調査できなかった。3×〈1〉総柱である。桁行600cm、梁間〈200〉cmを測る。桁行柱間200cm、梁間柱間200cmである。長軸方位はN-85°-Eである。柱穴の規模形態は溝持ち・円形・楕円形である。円形のP6は径88cm、深さ56cm、最も深いP2は深さ96cmを測る。

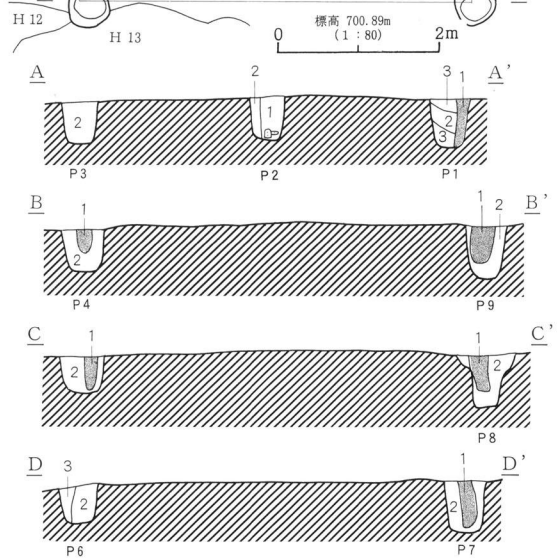
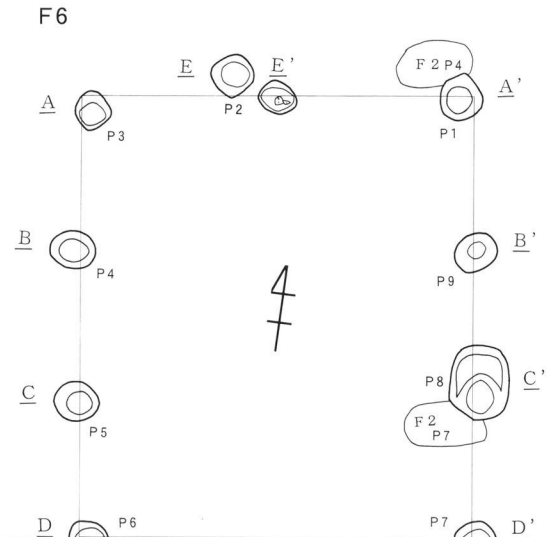
これらよりH54が古墳後期であることからそれ以降の掘立址である。

(18) F20号掘立柱建物址

か37グリットにあり、F21、P161を切る。1×1の側柱である。桁行200cm、梁間200cmを測る。長軸方位はN-0°である。柱穴の規模形態はほぼ円形で、短径44~54cm、深さ54~72cmを測る。

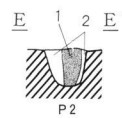


上 F1 完掘(西より) 下 F6 完掘(南より)



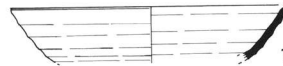
F1 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂・黒色土ブロックを含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
黒色強。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を多く含む。



F6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
地山砂を多く含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を極多く含む。

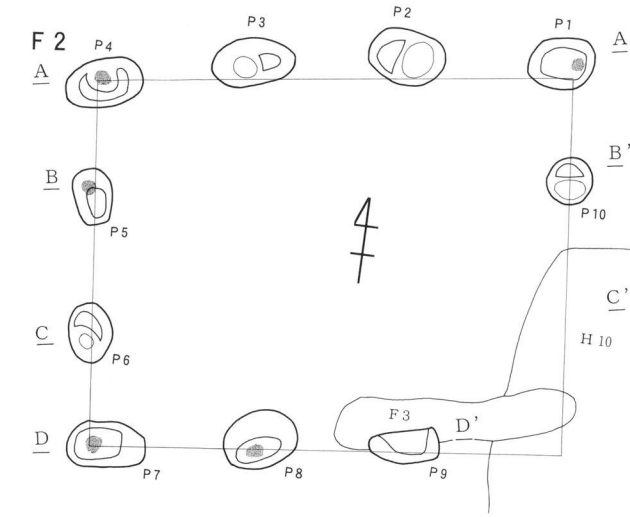


F6

0 (1 : 4) 10cm

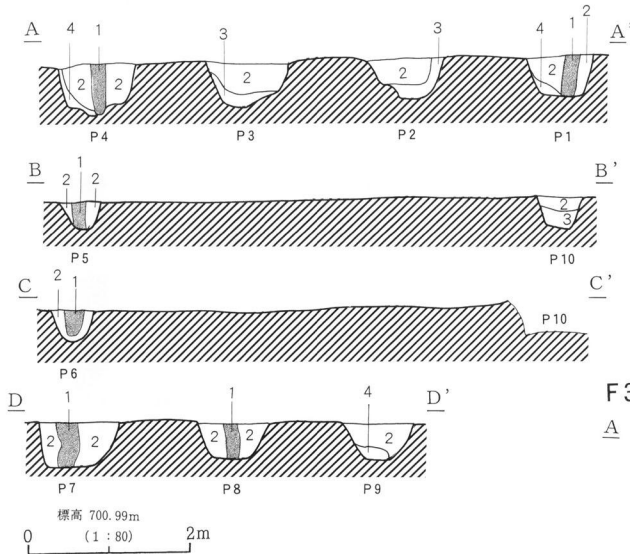
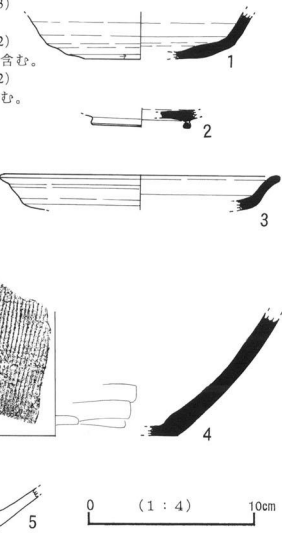
第84図 F1・F6号掘立柱建物址

F2・3



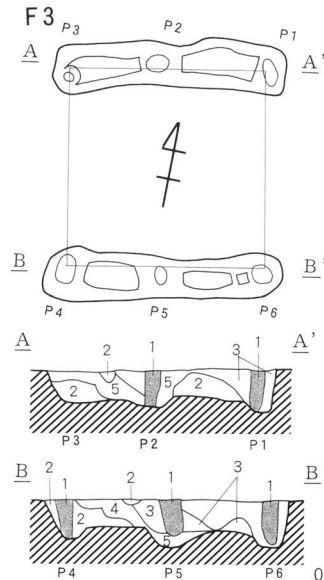
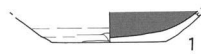
F2 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂・小石を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黒色土ブロックを含む。
4. 褐色土層 (10YR4/4) 地山砂主体。



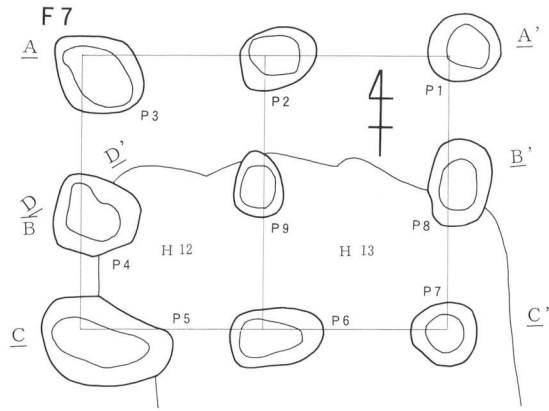
F3 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂を多量に含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を含む。

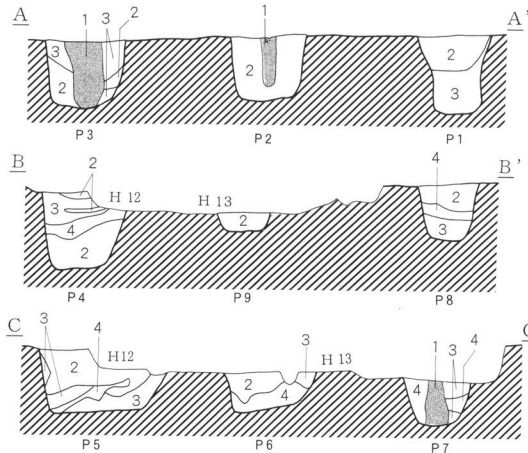


第85図 F2・F3号掘立柱建物址

F7・8

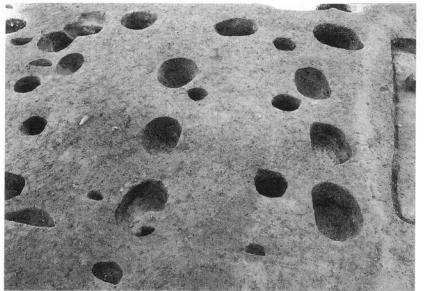
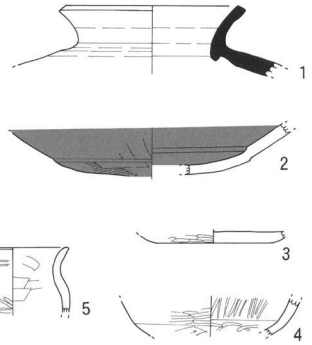


F7 完掘 (南より)

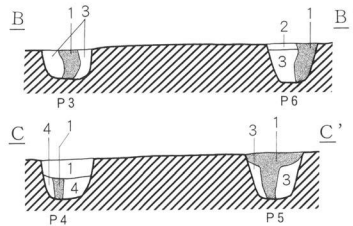
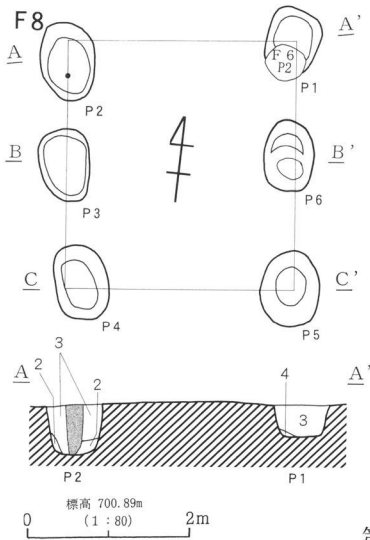


F7 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂を多く含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山砂主体に、黒色土を含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂に、黒色土を含む。

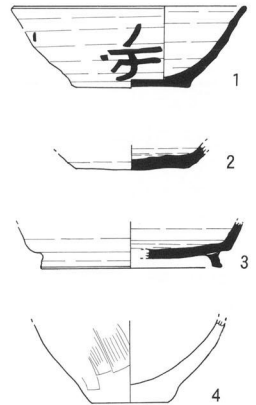


F8 完掘 (北より)



F8 土層説明

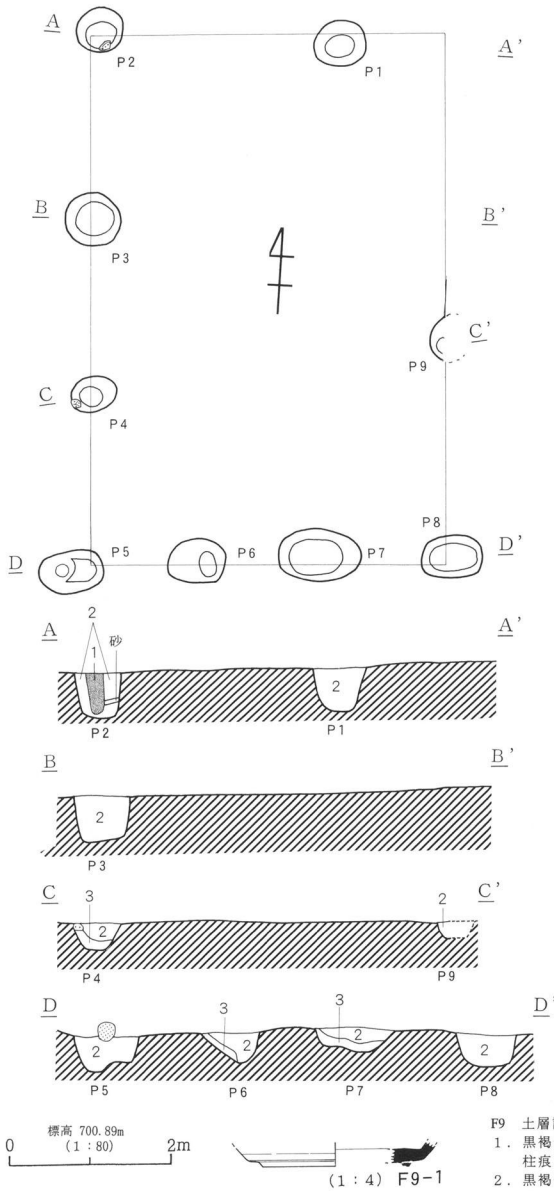
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂主体。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂ブロック・黒色土ブロックを含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を極く多く含む。



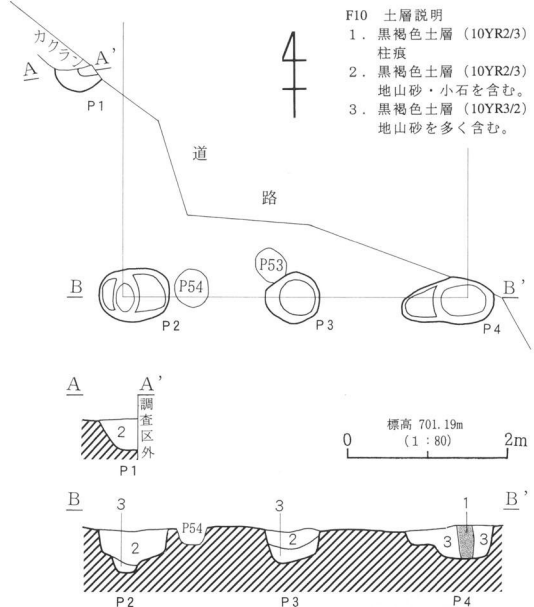
第86図 F7・F8号掘立柱建物址

0 (1:4) 10cm

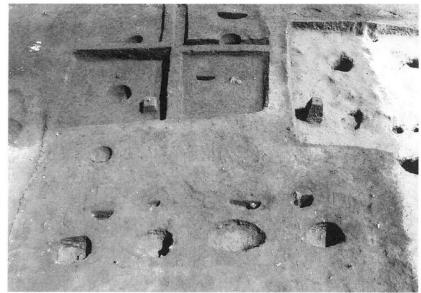
F9



F10



F10 完掘 (西より)



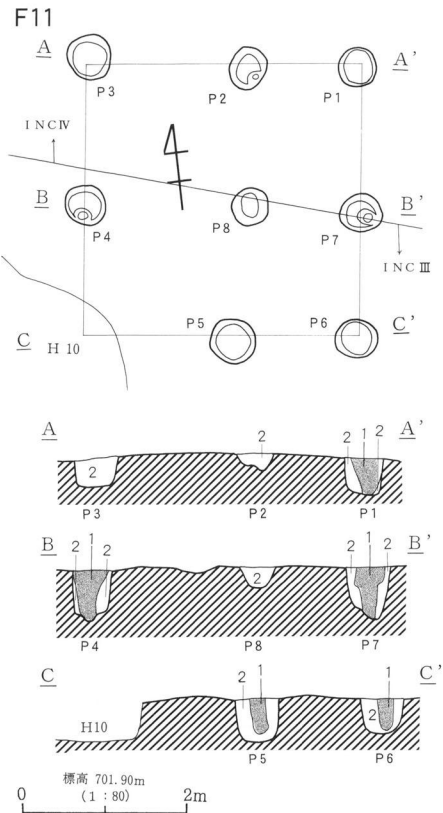
F9 完掘 (南より)

第87図 F9・F10号掘立柱建物址

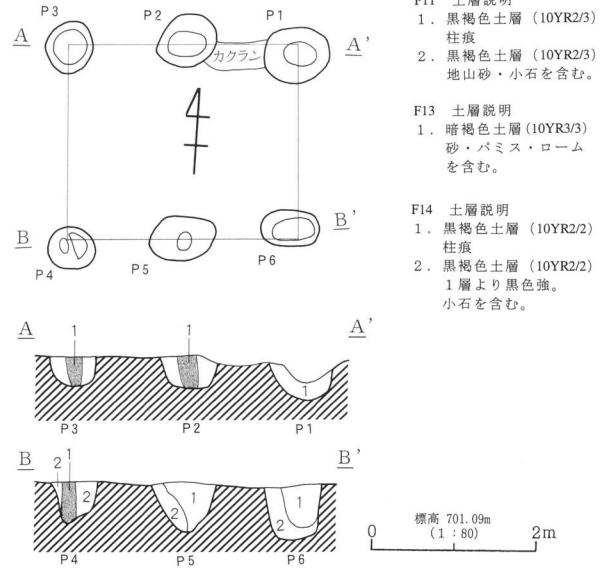
(19) F21号掘立柱建物址

か38グリットにあり、F20に切られ、H54、P161を切る。2×1の側柱である。桁行320cm、梁間280cmを測る。桁行柱間160cm、梁間280cmである。長軸方位はN-82°-Wである。柱穴の規模形態は円形で、短径88~92cm、深さ66~74cmを測る。

F11・13・14



F14



F11 土層説明

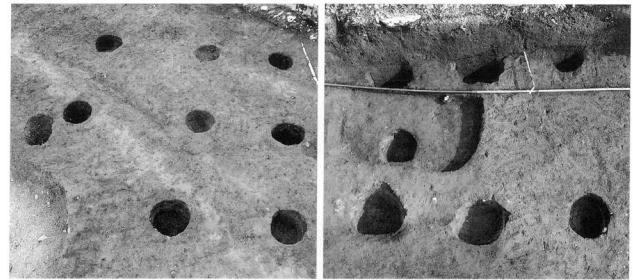
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を含む。

F13 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂・パミス・ロームを含む。

F14 土層説明

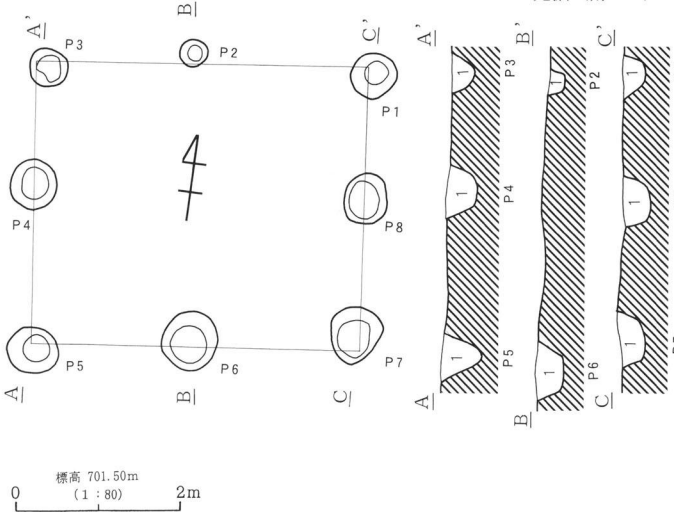
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より黒色強。小石を含む。



F11 完掘 (南より)

F14 完掘 (北より)

F13



F13 完掘 (南より)



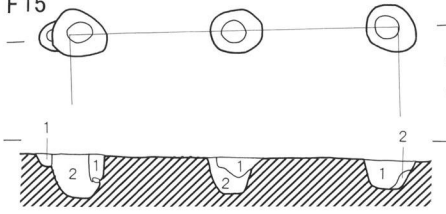
F13-1

0 (1:4) 10cm

第88図 F11・F13・F14号掘立柱建物址

F15・16・17・21

F15



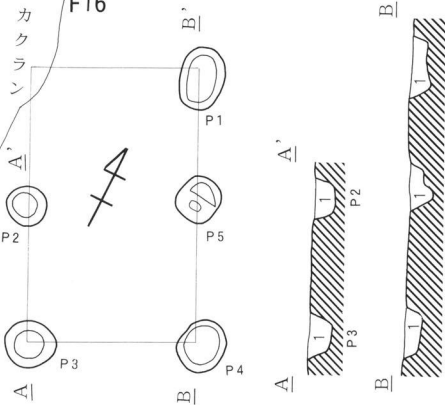
F15 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 地山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 地山砂・小石を含む。
 ※南は2次調査の際、
 検出出来なかった。



F15 完掘 (北より)

F16 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 砂・パミスを含む。

F16



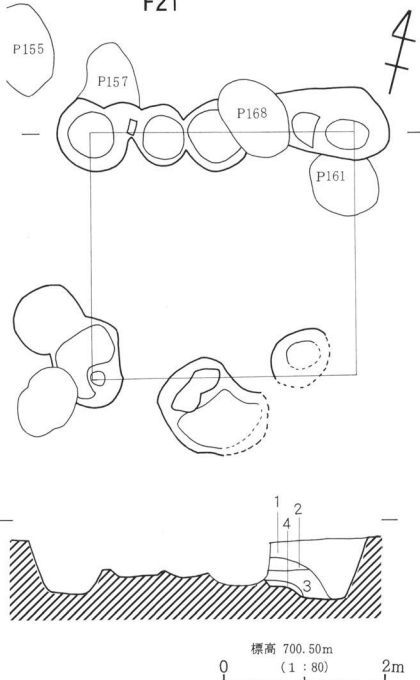
F16 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 地山砂・パミス・炭化物
 を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 地山砂・小石を含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2)
 地山砂を多く含む。
 4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 地山砂・パミスを多く
 含む、炭化物を含む。
 5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 地山砂を多く含む。



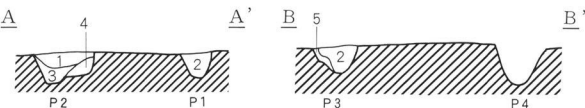
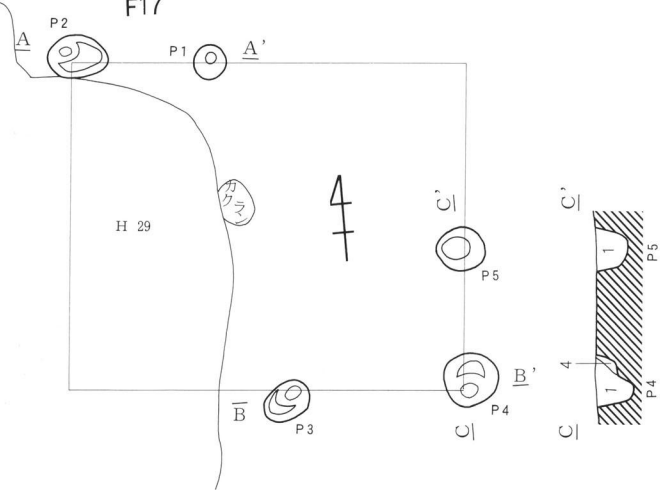
F16 完掘 (南東より)

F21 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 砂・パミスを含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 砂多く、パミス・ローム
 を含む。
 3. 褐色土層 (10YR4/4)
 砂主体。
 4. 黒褐色土層 (10YR3/2)
 砂多い。

F21



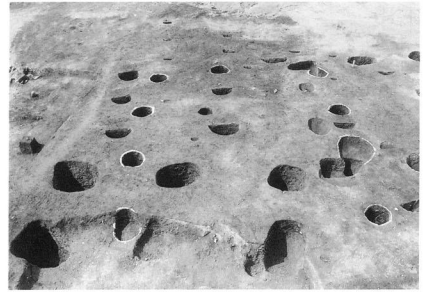
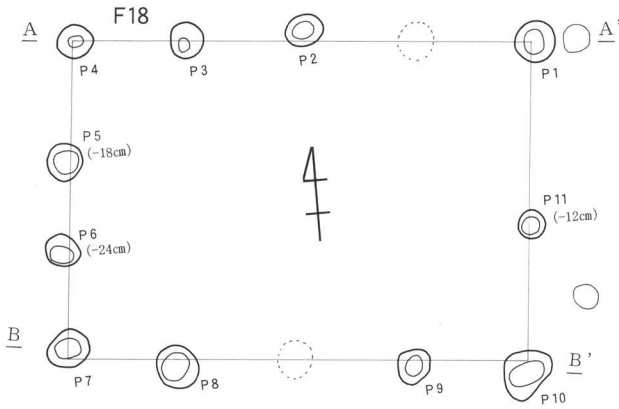
F17



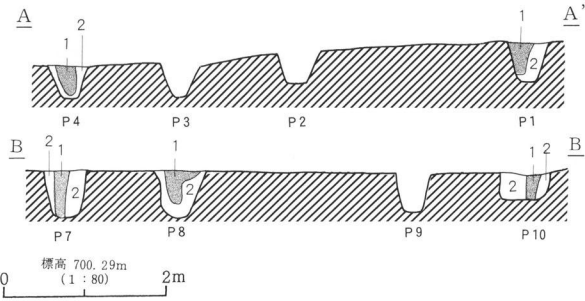
標高 701.30m
 (1 : 80) 2m

第89図 F15~F17・21号掘立柱建物址

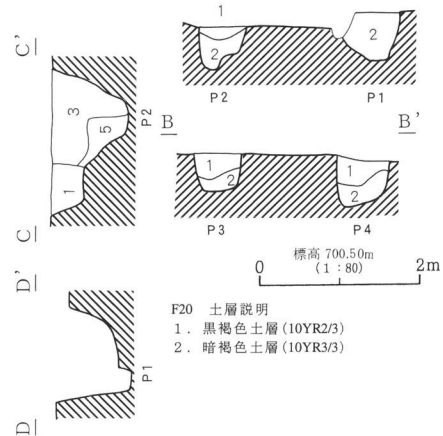
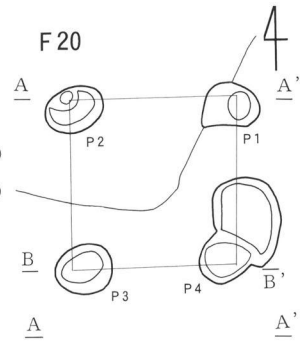
F18・19・20



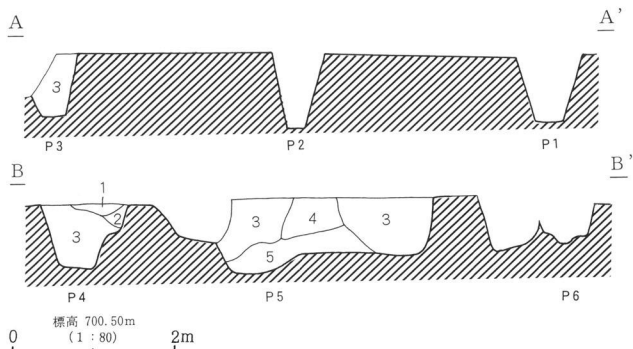
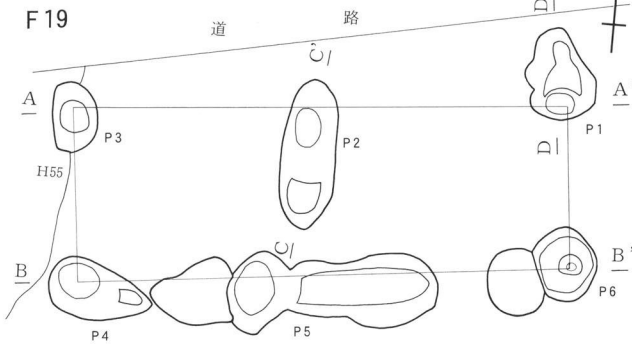
F18 完掘 (南より)



F18 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 地山砂・小石極く多く含む。



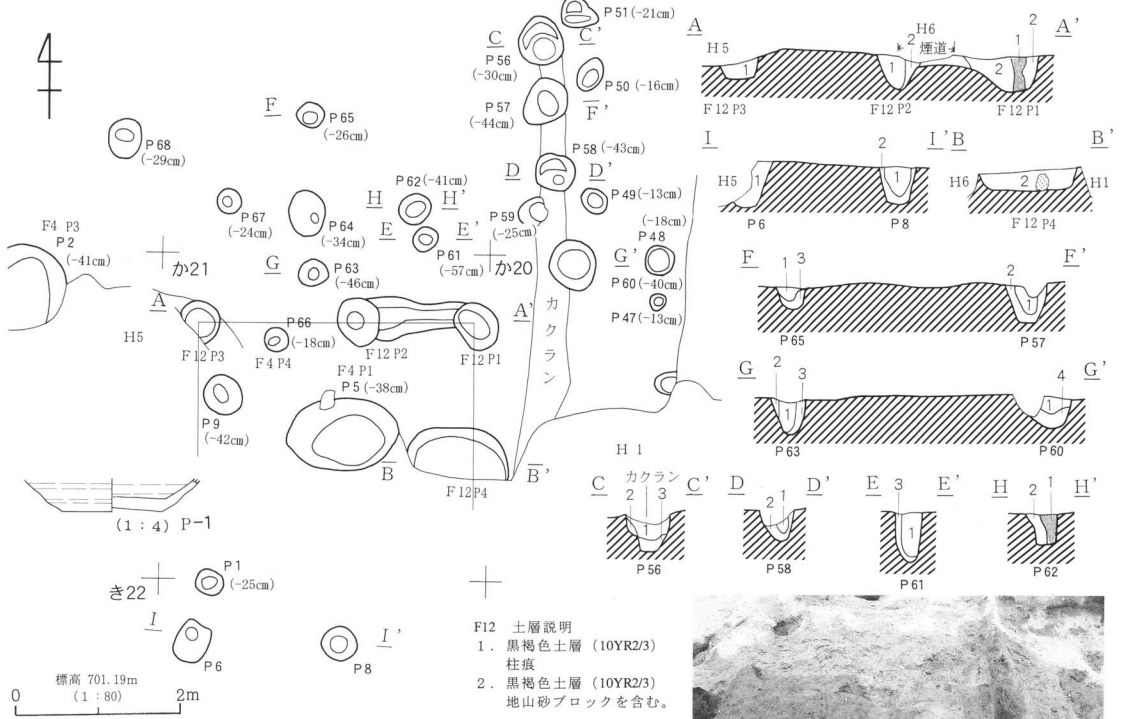
F20 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)



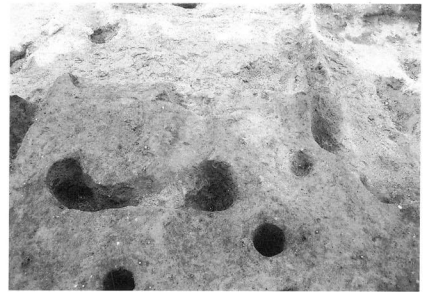
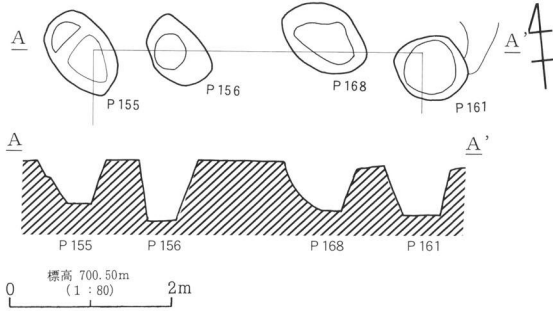
F19 土層説明
 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 砂・パミス・ロームを含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 ローム・パミスを含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 砂・ロームを含む。締まりなし。
 4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
 5. だいぶ黄褐色土層 (10YR4/3)
 砂主体。

第90図 F18～F20号掘立柱建物址

F12 単独ピット 1・2・5・6・8・46 ~ 51・56 ~ 69・155・157・161・168



単独ピット 155 156 161 168



F12 完掘 (北より)



単P群 P50~お20~お21 (北より)

第91図 F12号掘立柱建物址、単独ピット

第3節 土 坑

(1) D1号土坑

お28グリットにあり、H23、H31に切られ、H25を切る。円形を呈し、径87cm、深さ12cmを測る。

出土遺物は古墳後期の丸底の土師器杯片が4点ある。

(2) D2号土坑

え30グリットにあり、楕円形を呈し、長径122cm、短径76cm、深さ26cmを測る。覆土は炭化物を含んでいる。古墳後期の土師器甕と杯片を出土する。新しい遺物はなかったが、近代の炭焼き土坑とみられる。

(3) D3号土坑

か24グリットにあり、H13、F7に切られる。隅丸長方形を呈し、長さ〈228〉cm、幅100cm、深さ85cmを測る。長軸方位はN-26°-Eである。

出土遺物はない。底面から柱痕が検出され、北はF7に壊されるが3本あると推測される。縄文時代の陥し穴であろう。

(4) D4号土坑

か25グリットにあり、単独ピットP115を切る。長方形を呈し長さ159cm、幅84cm、深さ57cmを測る。長軸方位はN-75°-Eである。出土遺物は須恵器杯片と土師器武蔵甕片がある。

(5) D5号土坑

そ5グリットにあり、M5に切られる。隅丸方形を呈し、長軸〈148〉cm、短軸148cm、深さ20cmを測る。出土遺物はない。

(6) D6号土坑

し8グリットにあり、H48を切る。円形にテラスが付いて楕円形を呈す。長軸長92cm、短軸長64cm、深さ52cmを測る。出土遺物はない。

(7) D7号土坑

さ9グリットにあり、H48に切られる。円形を呈し、468×452cm、深さ297cmを測る。H48が古墳時代なので古墳後期かそれ以前である。

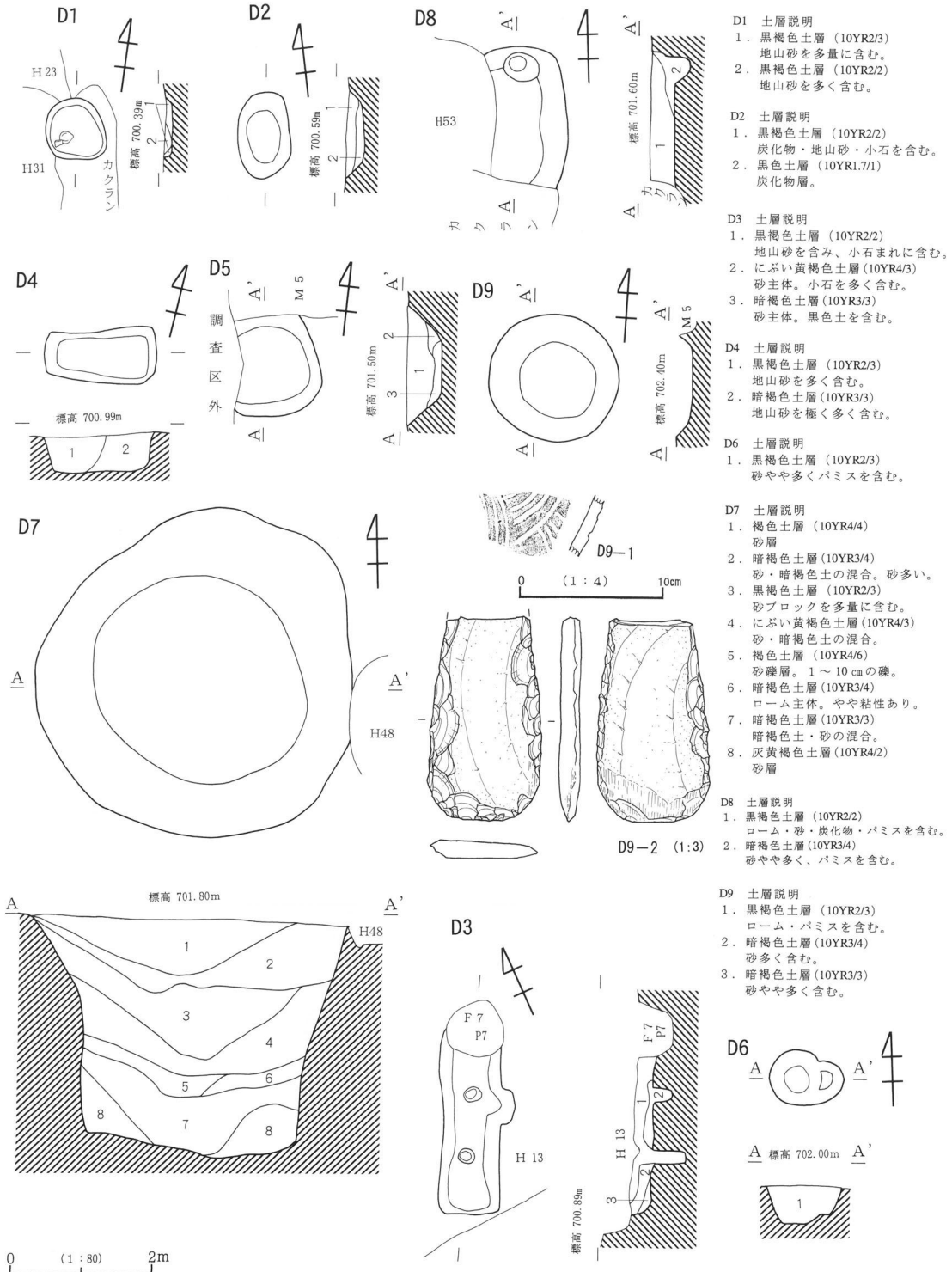
(8) D8号土坑

さ15グリットにあり、H53に切られる。長軸〈200〉cm、短軸〈156〉cmを測り、形態は方形に近いようである。古墳時代後期の土師器杯片が出土する。

(9) D9号土坑

く15グリットにあり、円形を呈し、径188cm、深さ52cmを測る。奈良・平安の須恵器杯片が出土する。出土遺物には弥生中期の壺片と打製石斧がある。

土坑



第92図 D1～D9号土坑

第4節 溝址

(1) M1号溝

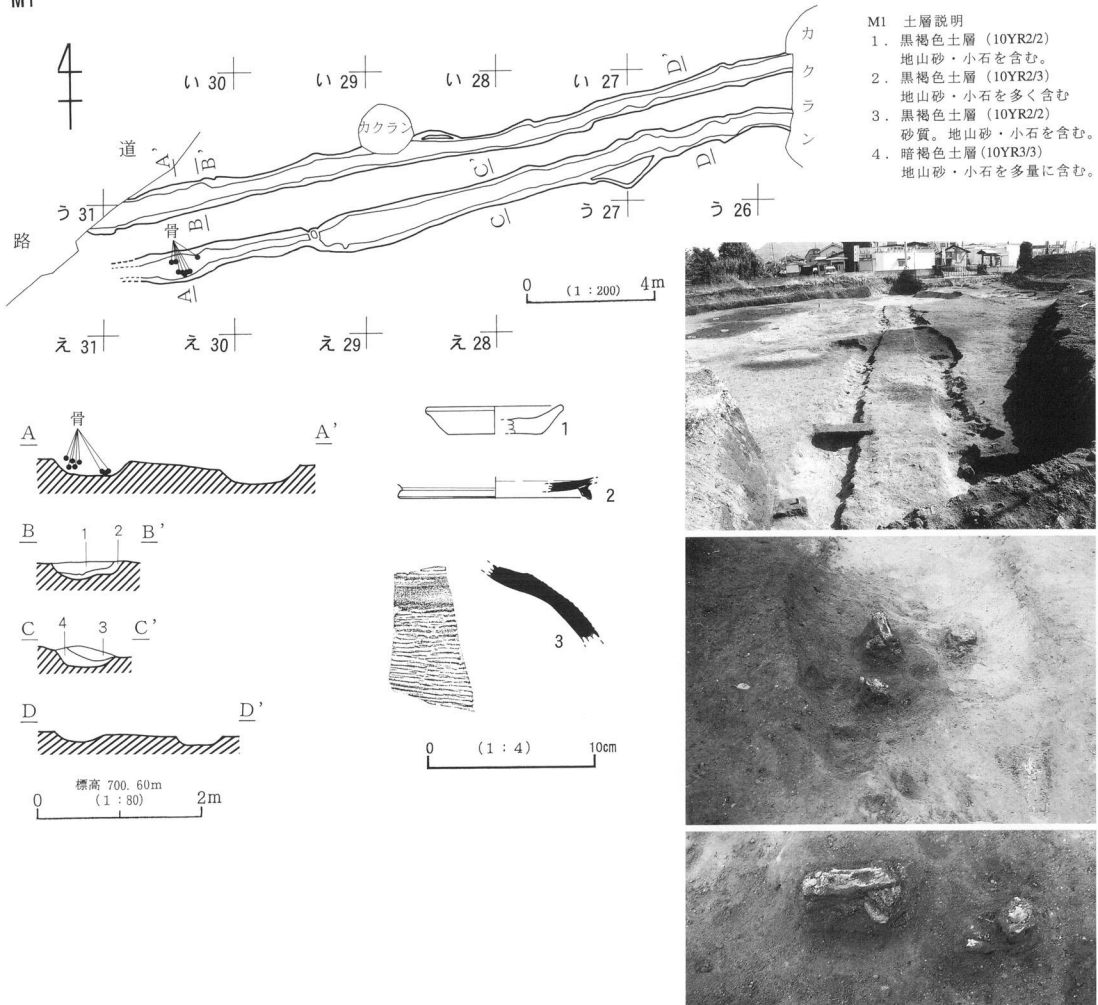
あ25～う31グリットにあり、東西方向に伸びる。攪乱に切られ、H14、H28、単独ピットを切る。検出長は22.25mで、幅205～310cm、深さ2～30cmである。両側が深くなり、側溝状になっている。道路遺構とみられる。

出土遺物には土師質かわらけがある。また骨が出土し、分析の結果ウマと報告されている。

(2) M2号溝

あ40グリットにあり、北側は調査区域外である。H52に切られる。全長5.18mを調査し、幅54～72cm、深さ11～15cmを測る。出土遺物には土師器杯と甕がある。土師器杯は丸底気味で、内面に畿内系暗文を施している。これらより、奈良時代またはそれ以前の溝である。

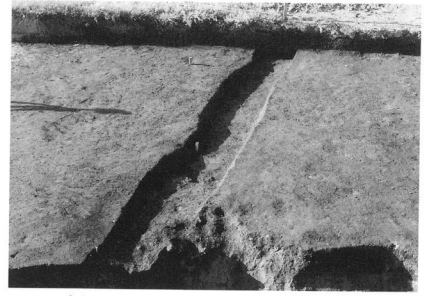
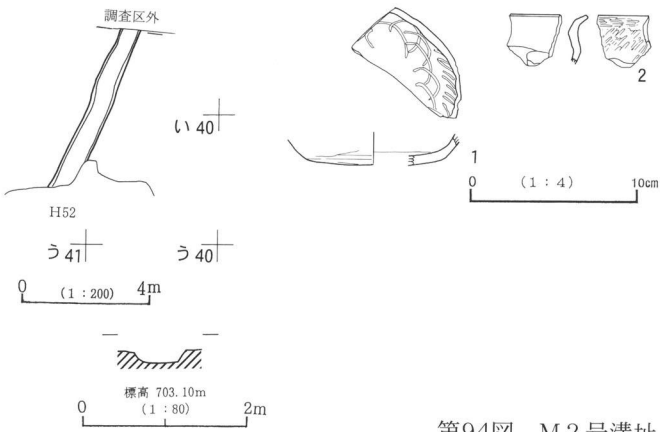
M1



第93図 M1号溝址

上 M1 完掘 骨 骨 (西より 東より 南より)

M2



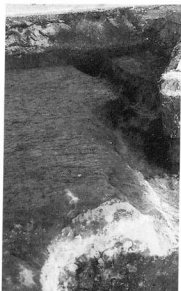
M2 完掘 (西より)

第94図 M2号溝址

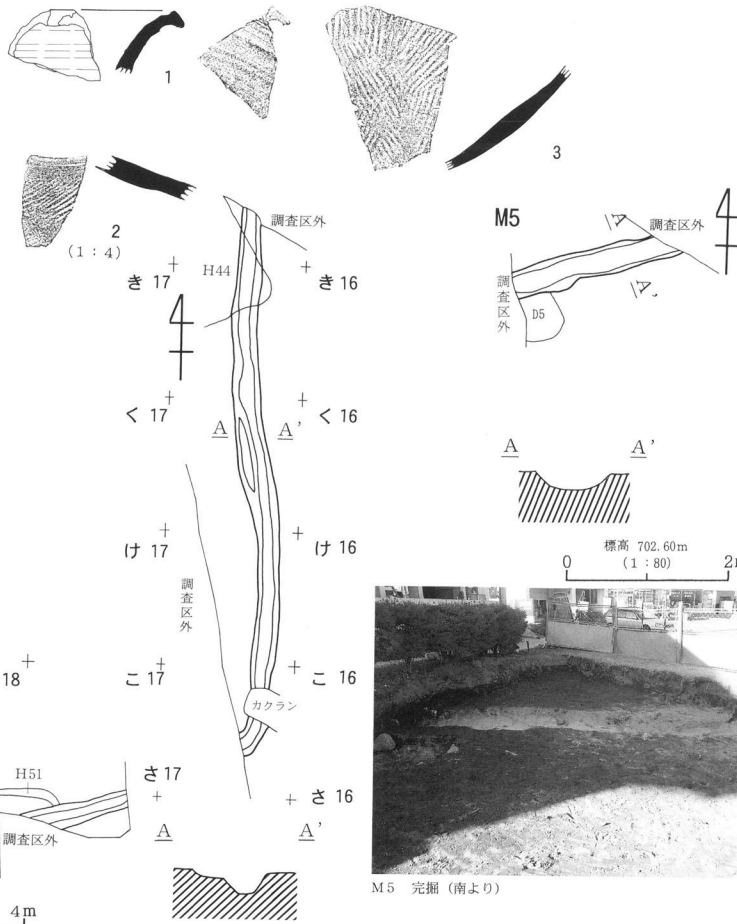
M3・M5



M3 完掘 (南より)



M3 完掘 (北より)



M5 完掘 (南より)

第95図 M3・M5号溝址

(3) M3号溝

か16～さ17グリットにおいて検出され、北側は道路であるため、調査できなかった。H44とH51を切る。南から北へ方向を変えている。全長23mを調査し、幅70～80cm、深さ17～30cmを測る。出土遺物には須恵器甕片が出土している。H44が奈良時代であるので、それか奈良以降である。

(4) M4号溝

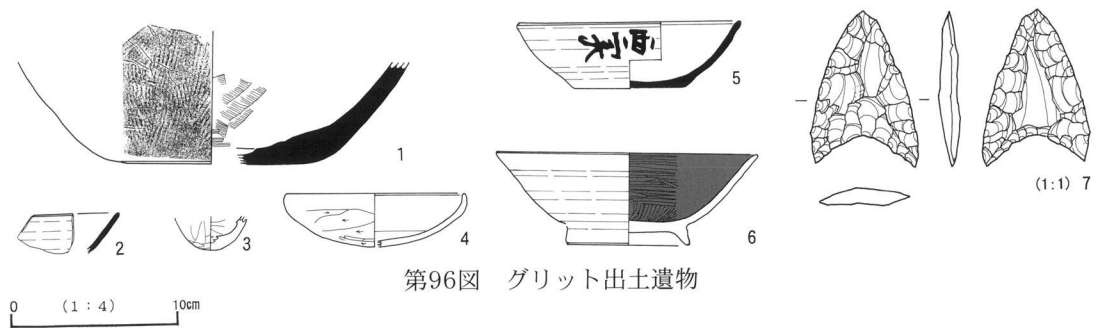
か34グリットにあり、本調査では2m調査した。幅106cmを測る。南は調査区域外、北は道路である。

(5) M5号溝

せ4・5にあり、全長5.2mを調査した。D5を切っている。両端が道路にかかっており、部分の調査となった。幅80～92cm、深さ21cmを測る。

第5節 グリット

グリットからは須恵器甕がH29、2の須恵器杯はF3、3の手捏は古墳時代後期の住居H21あたりより出土する。4は内屈する土師器杯で、外面底部ヘラ削りである。5の須恵器杯は墨書があり、「西家」?であろうか。6の土師器碗は古墳時代後期の住居址の上面から出土している。



第6節 まとめ

1、土器様相

(1) 古墳時代後期

遺跡の時代様相を見るために出土した土器からみることにする。土師器杯、須恵器杯の分類に、土師器甕の分類を加味して、竪穴住居址の時代を決定してみる。須恵器杯類は、古墳時代後期は陶邑編年を参考し、1995年西山克己「信州の6世紀・7世紀の土器様相」に従って分類をしている。(分類図は第1分冊に掲載する。)

土師器杯類

杯A：須恵器杯蓋模倣杯。A1はTK10（粗大化、わずかに天井との境に稜をもつ。提瓶があらわれる）以前、A2はTK43以降（供膳用の盤・皿類が生産されるようになる）。

杯B：須恵器杯身模倣杯。B1はTK10以前、B2はTK43以降の杯身模倣。

杯C：C1は浅い半球状のもの、口縁が内湾するものも含む。C2は更に浅く皿状に近い。

杯D：深い半球状のもの。D1は短い口縁が立ち上がるもの、D2は口縁の内湾するもの、D3は口縁の内湾した後直立するもの。

杯E：口縁部が杯中ほどで曲線的に大きく外反するもの。内面に屈曲部がある。E1は深いもの。E2は浅いもの。

E3は杯部中程で屈曲外反する。E4は底部との接合付近で大きく深く外反する。

杯K：深い半球形を呈し、口縁端部がつままれたように短く外反するもの。（田中広明氏の言う「口縁内斜暗文杯」）

杯X2：所謂有段口縁杯、内外のミガキ調整がなく、内外を黒色処理ないし、赤色塗彩する。

杯X4：畿内産あるいは畿内系暗文土器。

時期区分

第1期：6C初頭頃（IIHⅡH1・H2）

須恵器TK47（体部が高く、天井部の回転ヘラ削りが丁寧、稜が鋭い、たちあがりが高い。）を伴い、土師器の杯はK1・K2、C1に加えA1が現れる。

第2期：6C前葉頃（INCⅢH25）

須恵器MT15（口径が大きくなる、ヘラ削りが粗く範囲が狭い）あるいはTK10を伴い、甕は長胴化し、最大径は胴部下にある。土師器杯はA1が主体になりB1も見られる。K1・K2は姿を消す。底部多孔小型甕の登場。

→本調査では一孔の甕のみで、多孔の甕はない。土師器杯C、E3・E5がある。

第3期：6C中葉頃（H16・H26）

須恵器MT85あるいはTK43を伴い、球胴甕の消滅、甕の長胴化が進む。土師器の杯はA2、B2、E4・5が主体となり、わずかにC1が見られる。

土師器高杯ははまだ杯部が杯C1・2とならならず、杯部は中期的高杯である。

1995.田中広明「関東西部における律令成立までの土器様相と歴史的動向」によれば、

埼玉や群馬では有段口縁杯や比企型杯出現。地域の特色が強化される。底部ヘラ削り技法が修練し、底部は扁平化する。杯類は須恵器と同様小型化する。甕は長胴化が進み、最大径は胴中位に上がる。口縁部直下からヘラ削りされ、器肉は薄くつくられていく。底部形は急速に小さくなる。高杯は長脚化する。

→有段口縁杯があり、模倣した土師器杯がある。

第4期：6C後葉頃（H21・H46）

須恵器TK43を主に、あるいはTK209を伴う。土師器の杯A2、B2、E4がさらに主流となる。

→土師器杯E4の底部がほぼ平底に近くなる。甕の長胴化が顕著で、ヘラ削りが口縁直下からなされる。

第5期：7C初頭から前葉ころ（H4・H9）

須恵器TK217を伴う。（供膳用の盤・皿・長頸瓶・平瓶・鉄鉢などの新器種出現。）

土師器杯はA2、B2、E4に加えI（奈良・平安土師器杯A1）が現れる。群馬から黒色処理された

第Ⅱ章 西八日町遺跡Ⅲ

この時期以降に畿内系暗紋X 4見られる。

長胴甕の底部の突出化。

第6期：7 C 後葉～末（IKP ⅢH50）

飛鳥藤原Ⅱの時期以降の須恵器を伴う。

須恵器に宝珠つまみ、かえり蓋が現れる。

土師器杯E 4・5は姿を消し、A 2・Bは減少し、C 1・2、Iが増す。赤色塗彩されたX 2も見られる。

武蔵型甕の登場

底部多孔の甕消滅

石附窯址の生産がおこなわれる。

（2）奈良時代・平安時代

土師器杯類

土師器杯A 1：ロクロ成形で、底部手持ちヘラ削り、内面はミガキ後黒色処理をする。

土師器杯A 2：ロクロ成形で、底部回転糸切り後ヘラ削り、内面はミガキ黒色処理。

土師器杯A 3：ロクロ成形で、底部回転糸切り痕 a.ミガキ後黒色処理 b.暗文後黒色処理

土師器杯B：底部外面ヘラ削りで、丸味を帯び、内面に螺旋状の暗文、所謂「畿内系暗文」を施す。

土師器椀A 1：底部糸切りの杯に高台が貼付される。内面はミガキ黒色処理。

土師器皿A 1：浅い杯部に高台が貼付される。

土師器甕類

武蔵甕1：口縁部形態「く」字形態の甕、最大径を口縁に持つ。器肉が薄く胴部はヘラ削りされる。

武蔵甕2：口縁部形態「く」字形ではあるが「コ」の傾向がみえる。最大径を体部にもつ。

武蔵甕3：口縁部形態「コ」字形を呈す。体部に最大径を持つ。

ロクロ甕1：口縁部形態は「く」で、胴部の調整がロクロナデ調整のもの。口縁部に最大径を持つ。

ロクロ甕2：体部に最大径を持つ。

甲斐型甕：口縁最大径を持ち、外面にハケ目を残す。

須恵器杯類 ロクロ成形

須恵器杯A 1：底部の切り離しが、ヘラ切り離し。

a：底部切り離した後、回転ヘラ削りを施すもの。底径が一般に大きい。

b：手持ちヘラ削りを施すもの。

須恵器杯A 2：底部切り離しの糸切り痕を残し、ヘラ削りされるもの。

須恵器杯A 3：底部に糸切り痕が残るもの。

須恵器高台付杯A：須恵器杯A 1・A 2に高台が貼付されるもの。

須恵器高台付杯B：須恵器杯A 3に高台が貼付されるもの。

奈良・平安1期：土師器杯A 1と「畿内系暗文」の土師器杯Bがある。土師器甕は古墳時代の厚手の口縁が外反し、胴部外面が縦のヘラ削りのものと、器肉の薄い武蔵甕1とがある。武蔵甕は口縁部が長く、最大径は口縁にある。底径も後代のものより大きい。

須恵器杯A 1・A 2で平底ではあるが、底部から口縁の立ちあがりに丸味がある。高台付杯は杯部形がA 1である。高台の内側が接地する。

奈良・平安2期：土師器杯A 1で、底部がヘラ削りされ平底で、底が厚い。甕は武蔵甕1ではあるが、口縁が短くなる。口径と胴部径が近くなる。

須恵器杯はA 1 bが主体となり、ヘラ削りされる。

奈良・平安3期：土師器杯A 1・A 2がある。口縁の底部近くにヘラ削りがなされる。武蔵甕は1であるが、最大径が胴上部になる。須恵器杯は、底部糸切り痕の杯A 3とA 2の回転ヘラ削りの両者がある。

奈良・平安4期：土師器杯A 2は器肉が薄手になる。甕は武蔵甕2で、口縁部形態が「く」から「コ」の字形態になり、最大径は胴部にもつ。須恵器杯はすべて回転糸切り痕の杯A 3になり、火禰痕が顕著で、焼成は良好である。高台付杯の高台底に凹線状の窪みを持つ。

- 奈良・平安5期：土師器杯A2・A3となり、高台が貼付された土師器椀・皿が出現している。甕は武蔵甕3となり、ロクロ甕がある。須恵器杯は杯A3で、前代との変化が見当たらず、須恵器杯の数量が多い。
- 奈良・平安6期：土師器杯はA3が主体で、数量が増してくる。外面に墨書、刻書が多い。土師器甕は武蔵甕3で、ロクロ甕がある。須恵器杯は杯A3の数が減ってくる。灰釉陶器は壺・皿・椀があり、ハケ塗りの光が丘1号窯式を出土する。
- 奈良・平安7期：土師器杯A3が主体で、杯A2もある。杯類は全般に小振りとなる。土師器杯A3bの内面のミガキが全面ではなくナデのみで、文様調に暗文が施される。

土器分類より東大門先遺跡Ⅱと西八日町遺跡Ⅲの集落の年代は古墳時代後期から平安時代である。古墳時代後期の第1期を6C初頭、第2期を6C前葉、第3期を6C中葉、第4期を6C中葉、第5期を7C代とし、奈良・平安の1～4を8C代、奈良・平安の第5期を9C前半、平安の第6期を9C後半、平安の第7期を10C代とした。

2.遺構

(1) 竪穴住居址

本の遺跡の西八日町遺跡Ⅲでは古墳時代後期から平安時代の竪穴住居址57棟、西の東大門先遺跡Ⅱでは17棟を調査している。(東大門先遺跡ⅡのH12は中世であるため今回は除外する。)遺構の分類基準として2005年小林眞寿『聖原 第5分冊』のほぼ従って分類を試みる。(本遺跡に合わせて、改編している所あり。)

土器様相による内訳は古墳時代後期25棟、奈良時代26棟、平安時代34棟である。

住居址の年代は

古墳後期	IIHIIH1・H3	2棟
	INCIIIH4・H7・H9・H14・H15・H16・H17・H21・H25・H26・H28・H30	
	H41・H42・H43・H45・H46・H48・H51・H54・H56・H58・H59	
	(H7・H15・H42は確定できない。H51・H59はINCIVで報告)	23棟
奈良時代	IIHIIH4・H5・H6・H7・H9・H10・H11・H13・H14・H15・H16・H17	12棟
	INCIIIH2・H2床下・6・8・H10床下・H29・H36・H39・H40・H44・H47・H50・H52・H53・H55・H57	
	(H47・H55は確定できない。H50はINCIVで報告)	14棟(+床下2棟)
平安時代	IIHIIH2・H18	
	INCIIIH1・H3・H5・H10・H11・H12・H13・H18・H19・H20・H23・H24・H27・H31・H33・H34・H35・H37・H38・H49	20棟

①平面形態

竪穴住居は平面形態から方形、長方形がある。長方形は長軸長と短軸長の差が1割を超えるものを長方形としている。西八日町遺跡Ⅲの38棟、東大門先遺跡Ⅱの11棟の49棟でみると、

方形：古墳時代後期16棟(33%)、奈良時代5棟(10%)、平安時代6棟(12%)、

長方形：古墳時代後期2棟(3%)、奈良時代8棟(16%)、平安時代11棟(24%)

古墳時代後期は方形が多く、奈良・平安時代は長方形の割合が増している。

主柱穴の配置について62棟中の分類をする。

A1：屋内に内周して4個の主柱穴のあるもの。

古墳時代 21棟(34%) 奈良時代 4棟(6%) 平安時代 4棟(2%)

A2：カマドのある壁に偏って配置される。

奈良時代 5棟(8%)

A3：カマドと反対の壁に偏って配置される。

A4：4個が不均等に配置される。

第II章 西八日町遺跡Ⅲ

古墳時代 1棟 (1%)

A5 : 4個がカマド側とそれに対峙する壁に均等に配される。

平安時代 2棟 (3%)

A6 : 4個が東西の壁際近くに横長に配される。

奈良時代 1棟 (1%)

C1 : 床面中央に東西2穴を配す。

古墳時代 2棟

C2 : 屋内の東西壁の壁中または壁下に2個柱穴のもの。

奈良時代 2棟 (4%) 平安時代 4棟 (4%)

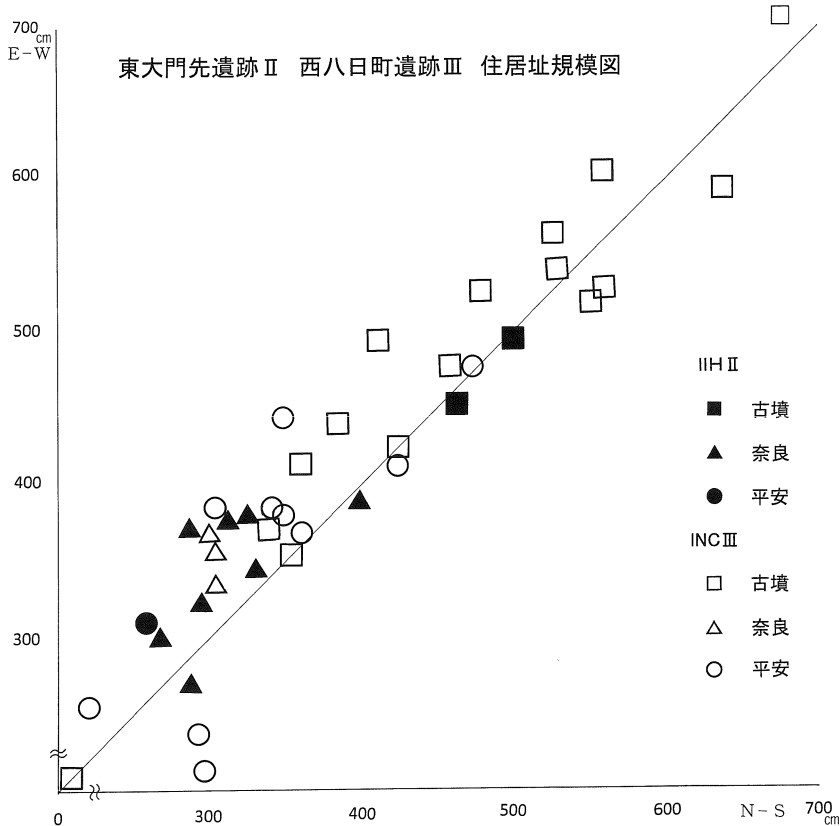
D : 屋内に柱穴がないもの。

古墳時代 2棟 (3%) 奈良時代 8棟 (13%) 平安時代 11棟 (18%)

これらより古墳時代後期は4本支柱穴が大半であること。柱痕を持つ深いピットで、確認できた柱痕形は円形である。奈良・平安には支柱穴を持たない住居址が多いが、奈良・平安時代東西壁の中央に柱穴を持つピットは柱痕を持ち深い。

②規模

古墳時代後期の18例中で最小面積は11.57㎡があるが、柱穴がなくカマドの焼土も明確ではない(3.57㎡の竪穴があるが時代が不確実なので除く)。



~6.6㎡以下	5.68・6.36 (平安)	I I H II F 20 (6.27) I N C III F 14 (6.72)
~9.9㎡以下	7.71・8.0・9.53 (奈良)、8・8.64 (平安)	I I H II F 6 (7.28) F 1 (8.7) F 19 (9.73) F 18 (9.73) I N C III F 3 (7.84) F 8 (8.51) F 16 (6.85)
~13.2㎡以下	11.57・12.58㎡ (古墳) 10.03・10.63・11.01・11.71・11.25・12.17・12.32 (奈良) 11.71・13.06 (平安) I I H II F 13 (12.33) F 7 (12.85) I N C III F 21 (10.24) F 21 (11.56) F 11 (11.16) F 13 (13.92)	
~16.5㎡以下	14.98・16.32㎡ (古墳) 13.49・15.4 (奈良)、13.25・13.3・15.5・16.43・17.61 (平安)	I N C III F 1 (16.0) F 7 (15.05)
~19.8㎡以下	16.90・17.89 (古墳) 17.99 (奈良) 17.59 (平安)	I I H II F 12 (17.6) F 14 (17.28) F 3 (16.63) F 10 (18.62)
~23.1㎡以下	20.35・20.9・21.9 (古墳) 25.73 (奈良)、22.6 (平安)	I I H II F 18 (22.03)
~26.4㎡以下	24.7・25.77 (古墳)	I I H II F 11 (25.61) I N C III F 2 (25.92) F 6 (25.92)
~29.7㎡以下	28.51・28.7・29.51 (古墳)	I I H II F 9 (29.12) I N C III F 9 (27.99)
~36.3㎡以下	33.8㎡ (古墳)、32.59 (平安)	I I H II F 4 (30.35)
~39.6㎡以下	37.78㎡ (11.5坪) (古墳)	
~49.5㎡以下	47.73㎡ (14.5坪) (古墳)	

これらより、古墳時代後期は4坪前後の規模から9坪まであり、ことに大型の住居は47.73㎡(14.5坪)である。奈良時代は3坪から5坪に規模が集中し、最大の住居が7坪近い。平安時代の竪穴住居の規模は疎らで、小規模な2坪から5坪まであり、大きい住居は10坪規模である。古墳時代後期の竪穴住居址は各時代の中では規模が大きく、4本の主柱は径28cmに近い太い柱を立てる立派な屋造である。奈良・平安時代はカマドを北に設け、東西の壁中程に深い柱穴を設ける2本主柱穴がある。

東西軸の長い住居が多い。

(2) 掘立柱建物址

東大門先遺跡Ⅱでは掘立柱建物址が21棟検出され、F1、F4、F9、F12は古墳時代後期6C初頭の住居を切っているの、それ以降の掘立址である。F12はピット規模が小さく、柱間などから中世の可能性がある。F13・F14のように柱痕から奈良時代のほぼ完形に近い須恵器蓋が出土し、またF5の口金物が堀方から出土しており、ほぼ奈良時代といえる。F11はH5(奈良時代3)に切られ、それより古い、ピットから奈良時代の土器片を出していることから奈良時代といえる。

西八日町遺跡Ⅲの掘立址は19棟検出され、F1・F14は奈良・平安5期の住居址を切る、F2は奈良4期に切られることから、それ以前。F3は奈良4期を切ることからそれ以降。F6・F7・F11は奈良4期の住居に切られることからそれ以前。F16は奈良・平安6期を切る。F2～F5は平安時代(10C前半)の竪穴に切られ、奈良時代と推定される土器片を出土している。などの関係は捉えられる。

桁行×梁間 ()内の単位は㎡である。

A1: 1間×1間 I I H II F 6 (7.28) ・ F 13 (12.33) ・ F 20 (6.27) INC III F 20 (4.0)
 B1: 2間×1間 I I H II F 1 (8.7) ・ F 7 (12.85) ・ F 12 (17.6) ・ F 14 (17.28) ・ F 19 (9.73) ・
 INC III F 3 (7.84) ・ F 8 (8.51) ・ F 14 (6.72) ・ F 16 (6.85) ・ F 21 (10.24)
 E1: 2間×2間 I I H II F 3 (16.63) F 9 (29.12) ・ F 18 (9.73) ・ F 21 (11.56) 、
 INC III F 1 (16.0) ・ F 7 (15.05) ・ F 11 (11.16) ・ F 13 (13.92)
 F1: 3間×2間 I I H II F 10 (18.62) ・ F 11 (25.61) 、INC III F 2 (25.92) ・ F 6 (25.92)
 G1: 4間×2間 I I H II F 4 (30.35) 、INC III F 18 (22.03)
 3間×3間 INC III F 9 (27.99)

本遺跡は古墳時代の6C初頭に集落が形成され、6C後半に増大し7世紀前半まで継続する。古墳時代後期末の土器はなく、集落は西の北一本柳遺跡Ⅲに点在してみられ、奈良時代の8C代に再度始まり、平安時代の10C代に古代集落が消滅している。

第2図の竪穴住居址の変遷図をみると奈良時代の集落が東西の帯状に広がっており、道路に沿った集落の存在が窺える。古墳と平安時代の竪穴住居址は数軒ごとのブロックを作って点在している。平安時代の9C後半から10Cの竪穴住居址の重複があり、土器の新旧関係が捉えられるかと期待したが、成果はその複雑さのため明らかにできなかった。

引用参考文献

- 1981.中村浩『和泉陶器窯の研究』柏書房
 1992.山梨県考古学協会『甲斐型土器—その編年と年代—』
 1995.西山克己「信州の6世紀・7世紀の土器様相」
 田中広明「関東西部における律令成立までの土器様相と歴史的動向」『東国土器研究4号』
 2005.小林眞寿『聖原 第5分冊』佐久市教育委員会
 2008.富沢一明『小山崎遺跡群反田遺跡』—反田遺跡出土の甲斐型土器について—

(残) (推定)

第1表 西八日町遺跡Ⅲ 竪穴住居址一覧表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模			主軸方位	カマド炉	柱 穴		備 考
				南北長	東西長	幅高			面積	面数	
H1	お19	平安	方形	477	473	29~43	N-10°-E	北	主柱4 他6 床下5	カクランに切られ、H2・6・29・30を切る。	
H2	新お19	奈良	長方形	346	390	49~62	N-4°-W	北	主柱2 他3	H1に切られ、H29を切る。	
H2	旧 "	奈良	-	340	313	0~8	N-5°-W	北	-	"	
H3	き18	平安	方形	436	(404)	24~38	N-5°-W	北	主柱1 床下3	F1・16に切られ、H4・P36・37を切る。	
H4	<18	古墳	方形	560	603	3~65	N-8°-E	北	主柱4 他6 床下2	H3・F1・16・P147~149に切られる。	
H5	お21	平安	方形	362	366	46~68	N-2°-E	北	主柱4 他3 床下5	P1・P6・P13に切られ、H6・F12・P2を切る。	
H6	お20	奈良	-	314	(343)	0~51	N-8°-E	北	主柱1 他1 床下4	H1・5・P5・8に切られ、H7・F12を切る。	
H7	き21	古墳	方形	422	424	0~29	N-6°-W	-	主柱2 他2	H6・F18・P30に切られ、H30を切る。	
H8	お23	奈良	-	386	466	23~47	N-21°-W	北	主柱4 他1 床下5	H49・F18に切られる。	
H9	お20	古墳	方形	460	476	42~77	N-3°-W	北	主柱4 他1 床下3	F15に切られる。	
H10	新え22	平安	方形	350	380	22~40	N-1°-E	北	主柱4 他2	F3に切られ、F2・11を切る。	
H10	旧 "	奈良	方形	304	330	0~7	N-2°-W	北	主柱1	"	
H11	き25	平安	長方形	342	382	21~31	N-5°-E	北	主柱2 他2 床下2	F14に切られる。	
H12	お24	平安	長方形	222	256	17~29	N-85°-W	東	H13・F7を切る。	H13・F7を切る。	
H13	お24	平安	方形	427	412	0~39	N-4°-W	北	主柱4 出入口	H12カクランに切られ、F7・D3を切る。	
H14	い28	古墳	方形	340	370	1~27	N-7°-E	北	主柱4 貯穴1 床下1	P125~128、M1カクランに切られる。	
H15	<25	古墳	方形	186	192	14~22	N-2°-W	無し	床下1	F14・P101に切られる。	
H16	お25	古墳	長方形	412	494	15~31	N-3°-W	北	主柱4 貯穴1 床下3	P117を切る。	
H17	う24	古墳	方形	356	325	2~9	N-8°-E	北	床下5	F2・6・8・P22~24・29に切られる。	
H18	き27	平安	長方形	293	217	19~39	N-87°-E	東	主柱2 他1	H20・32・34・35を切る。南にカクランあり。	
H19	お28	平安	方形	296	292	10~27	N-1°-E	東	他1	カクランに切られ、H40を切る。	
H20	お28	平安	長方形	352	443	12~21	N-5°-W	北	他1 床下5	H18・32・カクランに切られ、H33~35・37・38を切る。	
H21	お26	古墳	方形	678	704	0~32	N-1°-W	北	主柱4 他8 床下7	H18・34・35・P93~95・98に切られる。	
H22	欠										
H23	え28	平安	長方形	416	(354)	0~10	N-86°-E	東	主柱4	カクランに切られ、H25・31・41・D1を切る。	
H24	お29	平安	長方形	305	384	0~25	N-0°	北	床下1 主柱1 他2	H38・P103に切られ、H40・41を切る。	
H25	う29	古墳	長方形	548	(448)	0~37	N-4°-E	北	主柱3 他3 床下10	H23・26・D1・カクランに切られる。	
H26	う27	古墳	方形	490	526	39~56	N-2°-W	北	主柱4 他3	F9・P55に切られ、H25を切る。	
H27	き29	平安	長方形	274	(379)	12~38	N-3°-W	北	主柱4 ?	H33・36・37・P104・INCIVH22に切られ、H38・39・40を切る。	
H28	う30	古墳	-	848	(558)	42~60	N-7°-E	北	主柱2 他6	北側・西側調査区外 M1に切られる。間切溝3	
H29	お19	奈良	隅丸長方形	536	480	0~46	N-2°-E	北	主柱4 他1 床下1	H1・2・カクランに切られ、F17・P41・46を切る。	
H30	お21	古墳	方形	636	594	0~57	N-9°-W	北	主柱4 他1 床下3	H1・7・F1・18・P30・31・35に切られる。	
H31	お28	平安	長方形	(255)	(321)	0~7	N-3°-E	北	床下1	H23に切られ、D1を切る。	
H32	欠										
H33	き29	平安	-	(129)	(276)	11~14	N-1°-E	北	他1	H20・32に切られ、H27・35・37・39を切る。	
H34	き27	平安	長方形	284	260	8~64	N-13°-W	無し	他1	H18・20切られ、H21・35を切る。	
H35	き28	平安	長方形	430	382	9~47	N-2°-W	北	主柱2 他2 床下5	H18・20・32・33・34に切られ、H21・40を切る。	
H36	き29	奈良	-	(212)	(212)	10~28	N-0°	北	-	H33・37・P104に切られ、H27・38~40を切る。	
H37	き29	平安	-	(36)	(168)	11~14	N-12°-E	北	床下3	H20・32・33・P104に切られ、H27・38~40を切る。	
H38	き29	平安	-	444	(309)	1~14	N-2°-E	北	-	H20・27・36・37・P104・INCIVH22に切られ、H24・39・40を切る。	
H39	お28	奈良	長方形	304	358	3~13	N-3°-E	北	他9	H27・33・36~38・P104・INCIVH22に切られ、H40を切る。	
H40	お28	奈良	長方形	300	367	0~30	N-1°-E	北	他1	H19・24・27・33~39・P103に切られ、H41を切る。	
H41	お29	古墳	方形	526	561	0~47	N-10°-W	北	主柱2	H41のP9・14~16は、H42の柱か? H41・カクランに切られる。	
H42	お30	古墳	-	456	(257)	0~37	N-3°-E	北	主柱4 出入口1 貯穴2	カクランに切られる。間仕切溝あり。	
H43	け15	古墳	方形	400	408	60	N-25°-W	北	-	M3に切られる。	
H44	お16	奈良	-	(352)	(220)	44	N-17°-W	北	主柱4 床下主柱4 貯穴2 出入口1	床下に旧住居あり。	
H45	こ11	古墳	方形	552	520	50	N-0°	北	主柱4 床下主柱4	カクランに切られる。床下に旧住居あり。	
H46	し10	古墳	方形	528	540	28~60	N-10°-W	北	-	H48を切る。	
H47	し7	奈良	方形	328	(196)	32~40	N-10°-W	北	主柱4 出入口1	H47・D6・カクランに切られ、D7を切る。	
H48	き7	古墳	方形	540	(488)	20	N-17°-W	北	主柱4 灰落し1	H8・50・INCIVH16を切る。INCIVH11と同じ。	
H49	け19	平安	隅丸長方形	616	529	11~51	N-11°-E	北	主柱4 他2	H49に切られ、H51を切る。	
H50	こ18	奈良	-	(84)	(280)	40	N-5°-W	北	-	H50に切られる。	
H51	こ17	古墳	-	(92)	(280)	28	N-5°-W	北	-	床下住居あり。M2を切る。	
H52	い40	奈良	-	(412)	456	36	N-5°-W	北	主柱4 出入口1	D8を切る。	
H53	さ15	古墳	方形	(172)	(236)	40	N-5°-W	北	貯穴1	F19・21・P159・160に切られ、P161を切る。	
H54	お36	古墳	方形	500	(332)	36	N-6°-E	北	主柱2	H56・F19を切る。	
H55	お38	奈良	-	(256)	340	64	N-1°-E	北	主柱3	H55・P155・156に切られ、P157を切る。	
H56	お38	古墳	-	384	440	16	N-15°-E	北	主柱1	H57に切られる。	
H57	お40	奈良	-	(216)	400	40	N-4°-E	北	主柱2	H57に切られる。	
H58	お40	古墳	-	(280)	400	56	N-0°	東	主柱2 他1	INCIVH8に切られる。	
H59	け23	古墳	長方形	360	416	24~32	N-88°-W	東	主柱2	INCIVH8に切られる。	

第2表 西八日町遺跡Ⅲ 掘立柱建物址一覽表 (残) (推定)

遺構名	検出位置	様式	桁行×梁間		桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)		長軸方位	柱穴規模		備考
			桁行×梁間 (間)	(m)		短径 (cm)	深さ (cm)				
F 1	く19	側柱	2×2	4.16×3.84	2.08	1.92	N-1°-W	38~64	34~72	H3・4・30を切る。	
F 2	う22	側柱	3×3	5.76×4.5	1.92	1.5	N-85°-E	48~70	37~64	H10、F3に切られ、H17、F6を切る。	
F 3	え22	側柱	1×2	2.8×2.8	1.4	2.8	N-81°-E	43~64	45~64	H10、F2を切る。	
F 4	欠										
F 5	欠										
F 6	え24	側柱	3×2	5.4×4.8	1.8	2.4	N-5°-W	41~71	44~70	F2に切られ、H17を切る。	
F 7	お24	総柱	2×2	4.48×3.36	2.24	1.68	N-89°-W	62~106	53~104	H12・13に切られ、D3を切る。	
F 8	う24	側柱	2×1	3.04×2.8	1.52	2.8	N-6°-W	61~72	38~57	H17を切る。	
F 9	え27	側柱	3×3	6.48×4.32	2.16	1.44	N-4°-W	52~66	21~54	H16、P90を切る。	
F 10	え20	-	(2) × (1)	(4.24) × (2.8)	2.12	2.8	N-88°-W	57~63	36~51	北調査区外 P53、カクランに切られる。	
F 11	う21	総柱	2×2	3.36×3.32	^{1.84} 1.32・1.84	1.80・1.52	N-84°-W	45~54	22~65	H10に切られる。	
F 12	か21	側柱	2×(1)	3.60×(2.0)	1.8	2.0	N-0°	28~52	28~44	H5に切られる。	
F 13	こ13	側柱	2×2	4.0×3.48	2.0	1.78	N-5°-W	36~68	20~40		
F 14	き25	側柱	2×1	2.8×2.4	1.4	2.4	N-87°-E	44~70	35~64	H11・15を切る。	
F 15	く23	-	2×-	4×-	2.0	-	N-88°-E	53~56	46~52	南は二次調査の際、検出できなかった。H9を切る。	
F 16	き18	側柱	2×1	3.36×2.04	1.68	2.04	N-27°-W	48~57	23~29	H3・4を切る。	
F 17	お19	側柱	2×2	4.8×4	^{2.08} 2.72	2.0	N-84°-W	39~64	32~47	H29に切られる。	
F 18	く20	側柱	4×2(1)	5.6×3.92	1.4	1.31	N-84°-W	32~56	12~56	2個未検出か H7・8・30を切る。	
F 19	お36	総柱	3×(1)	6.0×(2.0)	2.0	2.0	N-85°-E	64~	68~92	H55、P158・159に切られ、H54を切る。	
F 20	か37	側柱	1×1	2.0×2.0	2.0	2.0	N-0°	44~54	54~72	F21、P161を切る。	
F 21	か38	側柱	2×1	3.20×3.20	3.20	1.60	N-82°-W	88~92	66~74	P157・161・168に切られ、F20を切る。	

第3表 西八日町遺跡Ⅲ 土坑一覧表

(残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D 1	お28	円形	87	84	12	N- 83° -E	H23・31、カクランに切られ、H25を切る。
D 2	え30	楕円形	122	76	26	N- 1° -E	
D 3	か24	隅丸長方形	〈228〉	100	85	N- 26° -E	H13、F 7に切られる。柱痕あり。
D 4	か25	長方形	159	84	57	N- 75° -E	P 115を切る。
D 5	そ 5	隅丸方形	〈148〉	148	20	N- 26° -W	M 5に切られる。
D 6	し 8	円形+テラス	92	64	52	N-90°	H48を切る。
D 7	さ 9	円形	468	452	297	—	H48に切られる。
D 8	さ15	—	〈200〉	〈156〉	33	N-0°	H53に切られる。北にピットあり。48×40×22cm
D 9	く15	円形	188	180	52	—	

第4表 西八日町遺跡Ⅲ 溝址一覧表

(残) (推定)

遺構名	検出位置	全長(m)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M 1	あ25～う31	〈22.25〉	205～310	2～30	カクランに切られ、H14・28、P125・127・128・131を切る。
M 2	あ40～い41	〈5.18〉	54～72	11～15	北側調査区外 H52に切られる。
M 3	か16～さ17	〈23〉	70～80	17～30	H44・H51を切る。
M 4	か34	〈2.0〉	106		北側道路、南側調査区外。
M 5	せ4・5	〈5.2〉	80～92	21	D5を切る。

第5表 西八日町遺跡Ⅲ 単独ピット一覧表 (1)

(残) (推定)

遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P 1	か21	35	33	27	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H5を切る。	P 30	く 21	69	68	45	円形	1.黒褐色土層(10YR2/1) 2.黒褐色土層(10YR2/2)	H7・30を切る。
P 2	か22	(108)	110	47	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	H5に切られる。	P 31	く 22	54	46	43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H30を切る。
P 3	欠							P 32～P34欠番							
P 4	け20	64	60	9	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P 35	き22	62	48	53	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H30を切る。
P 5	か21	136	90	39	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H6を切る。	P 36	き19	(50)	(50)	50	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	H3、カクランに切られる。
P 6	か21	(50)	44	55	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H5を切る。	P 37	き19	(58)	44	41	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H3に切られる。
P 7	え22	60	45	65	長方形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P 38	き19	55	51	62	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2) 3.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 8	か21	48	40	44	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H6を切る。	P 39	き19	35	35	31	円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 9～P12欠番								P 40	か19	53	40	32	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	
P 13	か22	66	46	31	隅丸長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	H5を切る。	P 41	か19	49	(41)	18	—	黒色土層 (10YR2/1)	H29に切られる。
P 14	え23	43	39	22	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P 42～P44欠番							
P 15	お24	46	44	68	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P 45	お19	43	40	33	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2) 3.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 16	え24	58	54	22	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P 46	か20	(28)	32	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H29に切られる。
P 17	え23	56	43	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P 47	か20	20	20	13	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 18	お23	43	37	27	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P 48	か20	36	32	18	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 19	お23	32	32	27	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P 49	お20	36	28	13	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 20	お23	54	48	34	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P 50	お20	44	31	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 21	う24	38	35	21	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P 51	お20	50	36	21	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 22	う24	34	28	11	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H17を切る。	P 52	え19	40	40	20	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 23	う24	79	56	21	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	H17を切る。	P 53	え20	41	35	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F10を切る。
P 24	え24	26	23	23	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	H17を切る。	P 54	え20	47	40	19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 25	う25	31	28	18	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P 55	う27	86	78	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H26を切る。
P 26	う25	30	28	21	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)		P 56	お20	62	56	30	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2) 3.褐色土層(10YR4/4)	
P 27	う24	36	35	23	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)									
P 28	う25	39	34	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)									
P 29	欠														

第6表 西八日町遺跡Ⅲ 単独ピット一覧表(2) (残) (推定)

遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考	遺構名	出土位置	規模(cm)			平面形	覆土	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
P 57	お20	54	50	44	不整形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)		P109	か26	38	31	37	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 58	お20	50	50	43	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)		P110	か26	32	26	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 59	お20	38	(36)	25	—	黒褐色土層(10YR2/3)		P111	お26	52	48	23	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P 60	お20	64	58	40	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR2/2)		P112	お27	102	56	34	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P 61	お21	32	30	57	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.褐色土層(10YR4/4)		P113	お27	28	27	30	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 62	お21	38	36	41	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)		P114	か26	26	21	14	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 63	か21	36	34	46	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.黒褐色土層(10YR3/2)		P115	か25	(55)	(14)	18	—	黒褐色土層(10YR2/3)	D4に切られる。
P 64	お21	54	44	34	円形	黒褐色土層(10YR3/2)		P116	か26	26	24	15	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 65	お21	34	30	26	円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.褐色土層(10YR4/4)		P117	お27	36	(25)	26	—	黒褐色土層(10YR2/2)	H16に切られる。
P 66	か21	31	30	18	円形	黒褐色土層(10YR3/2)		P118	欠						
P 67	お21	31	30	24	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P119	<20	68	68	27	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 68	お22	50	40	29	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P120	か31	54	46	64	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 69	お21	44	44	17	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P121	お29	63	58	20	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 70	欠							P122	お24	28	26	23	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P 71	え23	32	25	11	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P123	お24	28	27	25	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P 72	う23	54	40	24	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P124	き31	68	48	65	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P 73	う22	50	41	17	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P125	い28	(35)	(30)	23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	M1に切られ、H14を切る。
P 74	欠							P126	い28	37	36	32	不整形	黒褐色土層(10YR2/3)	H14を切る。
P 75	う22	44	44	20	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P127	う28	(43)	(36)	14	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	M1に切られ、H14を切る。
P 76	え22	56	46	30	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P128	い28	26	24	12	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	M1に切られ、H14を切る。
P 77~P83欠番								P129	欠						
P 84	え22	40	38	26	円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)		P130	い29	26	26	8	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P 85~P87欠番								P131	い26	46	35	30	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.褐色土層(10YR4/4)	M1に切られる。
P 88	お27	48	48	37	方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P 132~P143欠番							
P 89	お27	69	39	35	不整形	黒褐色土層(10YR2/2)		P144	い28	26	22	13	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 90	お26	(94)	53	15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	F9に切られる。	P145	い29	40	32	10	不整形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 91	お27	25	19	20	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P146	欠						
P 92	お28	48	44	38	円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P147	け18	42	40	47	円形	—	H4を切る。
P 93	か28	58	40	34	—	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られ、H21を切る	P148	け18	52	(47)	14	円形	—	H4を切る。
P 94	か27	48	36	16	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H21を切る。	P149	<18	39	37	16	円形	—	H4を切る。
P 95	か27	53	34	13	楕円形	黒褐色土層(7.5YR2/2)	H21を切る。	P150	き47	51	36	42	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 96	か27	22	21	20	方形	黒褐色土層(10YR2/2)		P151	か18	52	48	25	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 97	か27	37	31	31	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P152	か18	120	63	33	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P 98	き28	53	50	17	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H21を切る。	P153	か26	49	30	27	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P 99	き24	50	35	39	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	P100・102を切る。	P154	う29	34	32	15	円形	—	
P100	き24	51	41	53	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.黒褐色土層(10YR2/3)	P99に切られる。	P155	か37	112	72	54	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.暗褐色土層(10YR3/4)	H56を切る。
P101	<25	53	51	56	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	H15を切る。	P156	か37	92	64	72	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	H56を切る。
P102	き24	(29)	28	17	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	P99に切られる。	P157	か38	36	26	61	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	H56に切られる。
P103	か29	85	72	28	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	H24・40・41を切る。	P158	か37	100	84	48	楕円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	F19を切る。
P104	き29	108	63	32	不整形	黒褐色土層(10YR3/2)	H27・36~39を切る。	P159	お36	80	68	59	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	H54、F19を切る。
P105	お24	85	62	22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)		P160	お36	44	44	32	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	H54を切る。
P106	お23	49	48	29	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P161	か36	92	80	60	楕円形	—	H54、F20・21に切られる。
P107	お23	21	18	13	楕円形	黒色土層(10YR2/1)		P162	か41	52	44	60	楕円形	—	
P108	お22	33	31	12	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P163	せ5	34	32	36	円形	—	
								P164	そ4	40	36	20	円形	—	
								P165	た3	44	44	24	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
								P166	た3	100	36	36	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
								P167	せ5	32	28	20	円形	—	

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	法		重量 (cm)	調整	文	備考	出土位置
				口径(長)	底径(幅)					
H1	1	須恵器	蓋	(16.4)	(11.5)	(1.7)		口内面		Ⅰ区
	2	須恵器	蓋	(16.9)	—	(2.2)		口内面		Ⅱ区
	3	須恵器	杯	—	(7.6)	(2.3)		口内面		検出
	4	須恵器	杯	—	(6.0)	(1.3)		口内面		検出
	5	須恵器	杯	13.5	7.9	3.7		口内面		No.4
	6	須恵器	杯	(14.0)	(7.5)	3.9		口内面		Ⅰ区
	7	須恵器	杯	(13.5)	6.9	3.7		口内面		Ⅰ区
	8	須恵器	杯	(15.8)	(8.6)	3.6		口内面		Ⅰ区
	9	須恵器	杯	(13.5)	5.9	3.9		口内面		Ⅰ区
	10	須恵器	杯	(13.8)	(6.8)	3.9		口内面		Ⅰ区
	11	須恵器	杯	(13.6)	(6.8)	3.4		口内面		Ⅰ区
	12	須恵器	杯	—	(6.1)	(2.8)		口内面		Ⅱ区
	13	須恵器	杯	(12.8)	—	(3.6)		口内面		Ⅱ区
	14	須恵器	杯	(12.0)	—	(3.1)		口内面		P 3
	15	須恵器	杯	—	7.3	(1.0)		口内面		Ⅰ区
	16	須恵器	高台付杯	—	(8.6)	(1.4)		口内面		Ⅰ区
	17	須恵器	高台付杯	(10.3)	(7.9)	(2.0)		口内面		Ⅰ区
	18	須恵器	高台付杯	(15.0)	(10.2)	(6.6)		口内面		Ⅲ区
	19	須恵器	高台付杯	—	(9.3)	(2.3)		口内面		Ⅱ区
	20	須恵器	高台付杯	(15.0)	(8.0)	6.1		口内面		Ⅱ区
	21	須恵器	高台付杯	—	(6.6)	(3.6)		口内面		Ⅱ区
	22	須恵器	高台付杯	(16.1)	(11.6)	(4.8)		口内面		Ⅰ区
	23	須恵器	壺	—	(7.2)	(4.2)		口内面		P 9
	24	須恵器	土製円板	6.4	5.9	0.7		口内面		Ⅰ区
	25	須恵器	壺	(20.9)	—	(8.5)		口内面		Ⅱ区
	26	須恵器	壺	—	—	(9.0)		口内面		Ⅱ区
	27	須恵器	甕	(27.3)	—	(4.0)		口内面		Ⅳ区
	28	須恵器	壺	(17.9)	—	(4.2)		口内面		Ⅳ区
	29	須恵器	壺	—	(7.8)	(2.6)		口内面		Ⅰ区
	30	須恵器	壺	—	—	—		口内面		No.7
	31	須恵器	壺か甕	—	—	—		口内面		Ⅰ区
	32	須恵器	壺	—	—	—		口内面		Ⅰ区
	33	須恵器	甕	—	—	—		口内面		Ⅰ区
	34	須恵器	甕	—	—	—		口内面		Ⅰ区
	35	須恵器	甕	(23.3)	—	(5.9)		口内面		Ⅱ区
	36	須恵器	甕	(18.0)	—	(8.8)		口内面		Ⅲ区
	37	須恵器	甕	(19.4)	—	(6.3)		口内面		P 5
	38	須恵器	甕	(18.9)	—	(6.8)		口内面		Ⅱ区
	39	須恵器	甕	(19.6)	—	(5.0)		口内面		Ⅰ区
	40	須恵器	甕	(18.6)	—	(6.2)		口内面		Ⅳ区
	41	須恵器	甕	(16.8)	—	(6.8)		口内面		Ⅲ区
	42	須恵器	甕	—	—	—		口内面		Ⅳ区
	43	須恵器	甕	—	(4.5)	(3.8)		口内面		Ⅰ区
	44	須恵器	甕	—	(4.0)	(4.6)		口内面		Ⅰ区
	45	須恵器	甕	—	(4.3)	(3.6)		口内面		Ⅳ区
	46	須恵器	甕	—	4.9	(5.1)		口内面		Ⅱ区
	47	須恵器	甕	—	(4.2)	(6.3)		口内面		Ⅱ区
	48	須恵器	台付甕	—	(8.8)	(2.0)		口内面		Ⅱ区
	49	須恵器	杯	(14.4)	6.9	3.9		口内面		Ⅱ区
	50	須恵器	杯	(14.8)	(5.8)	4.2		口内面		No.5
	51	須恵器	杯	(15.5)	—	(2.5)		口内面		Ⅲ区
	52	須恵器	杯	(13.8)	(5.8)	3.4		口内面		Ⅱ区
	53	須恵器	杯	—	(7.2)	(3.5)		口内面		Ⅱ区
	54	須恵器	杯	(17.2)	—	(4.4)		口内面		Ⅱ区
	55	須恵器	皿	(13.4)	—	(1.1)		口内面		Ⅱ区
	56	須恵器	土製円板	(7.5)	7.7	0.9		口内面		Ⅱ区
	57	須恵器	土製円板	8.2	7.5	1.0		口内面		Ⅰ区
	58	須恵器	杯	(11.9)	(7.9)	2.6		口内面		Ⅰ区
	59	須恵器	かわらけ	(7.0)	(5.3)	1.8		口内面		Ⅰ区
	60	鉄器	角釘	(10.4)	0.6	0.6		口内面		No.1

第7表 遺物一覧表(1)

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(径)	法量		測内	整面	文外面	備考	出土位置	
					口径(径)	底径(幅)						
H1	61	鉄器	角釘	9.5	0.5	10					No.2	
	62	鉄器	軸	(8.4)	0.6	4					No.6	
	63	鉄器	刀子	(21.8)	1.5	31					No.9	
	64	石器	白玉	1.1	1.0	1.09	孔径3mm				中央	
	65	石器	燧石	8.5	6.2	5.8	440.88				検出	
	H2	1	須恵器	蓋	(15.6)	-	(2.1)	自然釉付着		ロクロナデ→大井部回転ヘラケズリ		検出
		2	須恵器	蓋	-	-	(1.0)			ロクロナデ→大井部回転ヘラケズリ		検出
		3	須恵器	蓋	-	-	(1.2)			ロクロナデ→大井部回転ヘラケズリ		検出
		4	須恵器	杯	(14.9)	(10.0)	(3.3)			ロクロナデ→大井部回転ヘラケズリ		検出
		5	須恵器	杯	(15.9)	(11.1)	(3.5)			ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ		Ⅲ区
		6	須恵器	杯	(12.8)	-	(3.5)			ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ		Ⅰ区
		7	須恵器	杯	-	-	(1.8)			ロクロナデ→底部ヘラナデ		Ⅳ区 検出
		8	須恵器	杯	-	-	(6.0)			ロクロナデ→底部回転糸切り		Ⅰ区 Ⅳ区 検出
		9	須恵器	高台付杯	-	-	(1.1)			ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付		検出
		10	須恵器	高台付杯	-	-	(9.4)			ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付		Ⅱ区
		11	須恵器	杯	(15.4)	-	(5.0)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅱ区
12		須恵器	高台付杯	(10.7)	-	(2.0)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区 堀方	
13		須恵器	高台付杯	-	-	(3.6)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区	
14		須恵器	高台付杯	-	-	(1.0)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区	
15		須恵器	蓋	(10.8)	-	(5.1)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区	
16		須恵器	蓋	-	-	(1.7)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区	
17	須恵器	甕	-	-	(8.0)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区		
18	須恵器	甕	-	-	(9.6)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区		
19	須恵器	甕	-	-	(2.15)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅱ区 カクラン		
20	須恵器	甕	-	-	(3.7)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅱ区		
21	須恵器	甕	-	-	(8.5)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅱ区 カクラン		
22	須恵器	甕	(32.7)	-	(4.9)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区		
23	須恵器	甕	-	-	(6.5)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区		
24	須恵器	短頸甕	(17.9)	-	(14.1)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅲ区		
25	須恵器	甕	-	-	-			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区 Ⅱ区 カクラン		
26	土師器	杯	14.8	6.8	5.4			タタキ目→横ナデ		Ⅰ区 Ⅱ区 Ⅲ区 検出		
27	土師器	杯	-	-	-			ロクロナデ→底部・外用手持ちヘラケズリ		Ⅱ区 Ⅲ区 検出		
28	土師器	杯	-	-	(7.2)			ロクロナデ→底部ヘラケズリ		No.2 Ⅱ区 Ⅲ区 床下住居堀方		
29	土師器	甕	-	4.6	(3.6)			ロクロナデ→底部ヘラケズリ		Ⅰ区 Ⅳ区 床下住居堀方		
30	土師器	甕	-	(4.0)	(7.9)			ヘラケズリ		検出		
31	土師器	甕	-	(4.9)	(12.5)			ヘラケズリ		カマド Ⅱ区		
32	土師器	甕	(26.6)	7.7	(30.3)			口縁横ナデ		カマド Ⅱ区		
33	土師器	甕	(21.7)	-	(5.2)			口縁横ナデ		カマド Ⅱ区		
34	土師器	甕	-	-	-			口縁横ナデ		カマド Ⅱ区		
35	鉄器	刀子	(9.6)	1.4	0.4	17				Ⅱ区 Ⅲ区		
36	縄文	甕	-	-	-			ミカキ		検出		
37	石器	凹石	10.0	7.9	3.9	383.66			破片実測	P.3		
38	石器	磨石	7.0	6.9	5.1	391.81			安山岩 表面凹状破打痕	Ⅳ区		
39	石器	磨石	12.5	10.2	5.8	570.12			安山岩 表面磨り面	Ⅳ区		
H3	1	須恵器	杯	(13.9)	(6.1)	(4.3)			ロクロナデ→高台貼付		Ⅰ区	
	2	須恵器	杯	(14.2)	6.8	(4.3)			ロクロナデ→回転糸切り?		No.7	
	3	須恵器	杯	(11.3)	(4.4)	(5.1)			ロクロナデ→回転糸切り		Ⅰ区	
	4	須恵器	杯	-	6.3	(1.7)			ロクロナデ→回転糸切り		Ⅰ区	
	5	須恵器	杯	-	6.2	(1.0)			ロクロナデ→回転糸切り		Ⅰ区	
	6	須恵器	杯	-	5.7	(1.2)			底面回転糸切り		Ⅱ区	
	7	須恵器	高台付杯	(10.4)	(1.4)	0.8			底面回転糸切り		Ⅱ区	
	8	須恵器	土製円板	7.9	-	0.8			底面回転糸切り		Ⅱ区	
	9	須恵器	甕	-	-	(3.4)			口縁自然釉付着		Ⅱ区	
	10	須恵器	甕	-	-	(13.0)			ロクロナデ→胴部ヘラナデ		Ⅰ区	
	11	須恵器	甕	-	-	-			ロクロナデ		Ⅰ区	
	12	須恵器	甕	(8.6)	-	(1.1)			ロクロナデ		Ⅰ区	
	13	須恵器	甕	-	(14.8)	(4.4)			タタキ目 自然釉付着		Ⅰ区 堀方	
	14	須恵器	甕	-	(14.0)	(6.9)			ロクロナデ 自然釉付着		Ⅰ区	
	15	須恵器	甕	-	-	-			ロクロナデ→横ナデ		カマド	
	16	須恵器	甕	(27.8)	-	(2.6)			ロクロナデ		カマド Ⅲ-Ⅳ区 Ⅲ-Ⅳ区堀方	

第8表 H1 (2)・H2・H3 (1) 遺物一覧表

第二章 西八日町遺跡Ⅲ

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法	量 (cm)	器高(厚)	(g)	調整	文	縁	備考	出土位置	
H3	17	灰釉陶器	碗	—	底径(幅)	(8.7)	(2.0)	—	口クロナデ→底面 口クロナデ→高台貼付	施釉	口クロナデ→高台貼付	回転実測 底部2/3残存 重ね焼痕有り	Ⅲ区	
	18	灰釉陶器	碗	—	底径(幅)	(9.0)	(1.7)	—	口クロナデ→高台貼付	施釉	口クロナデ→高台貼付	回転実測 底部1/8残	Ⅲ区	
	19	灰釉陶器	段皿	(15.7)	—	(2.3)	(2.3)	—	口クロナデ→施釉	施釉	口クロナデ→施釉	回転実測 口縁1/8残	Ⅳ区	
	20	灰釉陶器	皿	(16.8)	—	(1.6)	(1.6)	—	口クロナデ→施釉	施釉	口クロナデ→施釉	回転実測 口縁1/8残	カマド	
	21	土師器	杯	(13.2)	—	5.7	(4.4)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→回転糸切り	完全実測	No.10 Ⅳ区	
	22	土師器	杯	(13.8)	—	(6.4)	(3.6)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ	回転実測	Ⅱ区 Ⅱ区堀方	
	23	土師器	杯	—	—	6.5	(2.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→回転糸切り	完全実測	床面	
	24	土師器	杯	—	—	(6.1)	(3.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→回転糸切り	回転実測	Ⅳ区堀方	
	25	土師器	杯	(16.9)	—	—	(3.7)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ	回転実測	Ⅰ区	
	26	土師器	高台付杯	—	—	7.1	(3.6)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→高台貼付	完全実測	No.8	
	27	土師器	高台付杯	—	—	7.9	(2.7)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→高台貼付	完全実測	Ⅱ区 Ⅱ区堀方 Ⅲ区 Ⅳ区	
	28	土師器	高台付杯	—	—	(8.0)	(3.0)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→高台貼付	回転実測	Ⅱ区	
	29	土師器	高台付杯	—	—	(6.7)	(3.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ→高台貼付	回転実測	Ⅱ区	
	30	土師器	杯	—	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ 墨書有り	破片実測	Ⅱ区	
	31	土師器	杯	—	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ 墨書有り	破片実測	Ⅱ区	
	32	土師器	高台付杯	—	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口クロナデ 墨書有り	破片実測	Ⅱ区	
	33	土師器	甕	(20.3)	—	(15.0)	—	—	口縁ナデ→ヘラナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区	
	34	土師器	甕	(20.6)	—	(5.3)	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区	
	35	土師器	甕	(18.1)	—	(9.2)	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区 Ⅱ区堀方	
	36	土師器	甕	(12.2)	—	(3.6)	—	—	ナデ	ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区	
	37	陶器	皿	—	—	—	—	—	口縁ナデ→施釉	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区堀方	
	38	土師器	杯	(13.0)	(6.6)	(4.0)	—	—	口縁ナデ→施釉	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区堀方	
	39	須恵器	四耳壺	—	—	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	検出	
	40	鉄器	鎌	(7.0)	—	0.5	31	—	—	自然繩付着	—	断面実測	カマド	
	41	鉄器	鎌	(3.3)	(2.4)	0.5	6	—	—	—	—	断面実測	No.6	
	42	鉄器	軸	(3.9)	0.4	0.5	4	—	—	—	—	断面実測	Ⅰ区	
	43	鉄器	角釘	(4.1)	0.6	0.7	8	—	—	—	—	断面実測	No.2	
	44	鉄器	刀子	(15.8)	1.0	0.4	13	—	—	—	—	断面実測	Ⅳ区	
	45	鉄器	刀子	(2.7)	0.7	0.2	2	—	—	—	—	断面実測	No.1	
	46	鉄器	刀子	(7.1)	0.8	0.4	5	—	—	—	—	断面実測	Ⅰ区	
	47	石器	凹石	8.4	7.0	5.7	452.21	—	—	—	—	断面実測	Ⅰ区	
	48	石器	凹石	11.7	7.6	3.4	315.15	—	—	—	—	断面実測	Ⅰ区	
	49	石器	鉞石	14.6	4.4	3.2	326.78	—	—	—	—	断面実測	Ⅰ区	
	50	石器	石臼	16.8	10.3	12.0	1442.58	—	—	—	—	断面実測	Ⅲ区 Ⅳ区	
	H4	1	土師器	杯	(13.5)	(2.5)	(5.1)	—	—	ナデ→口縁ナデ→ミガキ	ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区 堀方
		2	土師器	杯	(13.8)	—	(4.0)	—	—	口縁ナデ→ミガキ→黒色処理	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
		3	土師器	杯	(14.0)	(5.9)	(4.6)	—	—	口縁ナデ→底面ナデ 使用による磨耗→黒色処理	口縁ナデ	口縁ナデ→底面ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ→黒色処理	回転実測	Ⅳ区
		4	土師器	杯	(12.7)	(4.3)	(3.4)	—	—	口縁ナデ→ミガキ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅰ区
		5	土師器	杯	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区
		6	土師器	鉢	—	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区
		7	土師器	高杯	—	(9.3)	(4.5)	—	—	ナデ→裾部破片ナデ	ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区
		8	土師器	高杯	(12.9)	8.8	13.6	—	—	ナデ→ミガキ 胴部ヘラナデ	ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ	破片実測	Ⅲ区
		9	土師器	鉢	(14.5)	7.1	11.5	—	—	ハケ目→口縁ナデ	ハケ目	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.5
		10	土師器	甕	(19.7)	—	(26.0)	—	—	口縁ナデ→ヘラケズリ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.4
		11	土師器	甕	(18.3)	—	(7.8)	—	—	口縁ナデ→胴部ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ヘラケズリ→口縁ナデ	回転実測	Ⅰ区
		12	土師器	甕	(20.0)	—	(6.0)	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ナデ	回転実測	Ⅱ区
		13	土師器	甕	(12.5)	—	(3.5)	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ナデ	回転実測	Ⅳ区
		14	土師器	甕	(14.4)	—	(3.8)	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ→胴部ナデ	回転実測	Ⅳ区
		15	土師器	甕	—	—	—	—	—	ハケ目	ハケ目	口縁ナデ→胴部ナデ	回転実測	Ⅲ区
	16	土師器	甕	—	(4.0)	(5.2)	—	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	口縁ナデ→胴部ナデ	破片実測	Ⅰ区	
H5	17	土師器	丸罌	—	(9.0)	(3.2)	—	—	ナデ→ミガキ	ナデ	口縁ナデ→胴部ナデ	回転実測	Ⅲ区堀方	
	18	土師器	甕	—	—	—	—	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ	口縁ナデ→胴部ナデ	破片実測	Ⅲ区	
	19	須恵器	把手	—	—	(7.3)	—	—	ミガキ	ミガキ	口縁ナデ→胴部ナデ	破片実測	Ⅱ区	
	20	土師器	杯	—	—	—	—	—	刻書 [本]	刻書	口縁ナデ→胴部ナデ	破片実測	No.1	
	21	石器	管玉	3.0	0.7	0.7	3	—	孔径3mm	孔径3mm	口縁ナデ→胴部ナデ	破片実測	Ⅱ区	
	22	鉄器	角釘	(6.1)	0.6	0.4	5	—	—	—	—	破片実測	Ⅱ区	
	23	石器	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.39	—	—	—	—	破片実測	Ⅱ区	
	24	石器	石鏃	1.7	1.8	0.4	1.22	—	—	—	—	破片実測	Ⅱ区	
	1	須恵器	蓋	—	—	(1.6)	—	—	口クロナデ	口クロナデ	口縁ナデ→天井部回転ヘラケズリ	黒曜石 先端欠損	Ⅲ区	
	2	須恵器	蓋	(17.2)	—	(2.3)	—	—	口クロナデ	口クロナデ	口縁ナデ→天井部回転ヘラケズリ	黒曜石 先端欠損 完全実測 内外面に火打き有り つまみ径30	Ⅲ区 底面	

第9表 H3 (2)・H4・H5 (1) 遺物一覽表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	法量		(g)	調整面	文外	様面	備考	出土位置	
				口径(長)	底径(幅)							
H5	3	須恵器	蓋	(17.2)	—	(2.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区	
	4	須恵器	杯	(13.3)	(7.0)	4.0	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅰ区	
	5	須恵器	杯	(12.8)	(6.9)	(3.8)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅳ区床面	
	6	須恵器	杯	(11.6)	(5.9)	(4.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	カマド Ⅳ区	
	7	須恵器	杯	(13.0)	6.7	3.5	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	No.4	
	8	須恵器	杯	(14.1)	4.8	4.3	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	内外面に火だすき有り	カマド Ⅳ区	
	9	須恵器	杯	(14.5)	7.2	4.5	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区	
	10	須恵器	杯	(13.8)	(6.6)	4.6	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区	
	11	須恵器	杯	—	6.4	(3.6)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区	
	12	須恵器	高台付杯	高台付杯	(15.6)	(11.5)	4.5	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区
	13	須恵器	高台付杯	高台付杯	—	(11.7)	(2.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区
	14	須恵器	高台付杯	高台付杯	(11.4)	(8.0)	(4.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区
	15	須恵器	高台付杯?	高台付杯?	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	内外面に火だすき有り	Ⅱ区
	16	須恵器	壺	壺	—	7.2	(6.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	破片実測	破片実測	Ⅰ区
	17	須恵器	壺	壺	—	9.3	(10.2)	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	完全実測	Ⅰ区
	18	須恵器	壺	壺	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	完全実測	No.3
	19	須恵器	壺	壺	—	(14.2)	(10.7)	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	拓本	Ⅱ区 H1 Ⅰ区 堀方
	20	須恵器	小壺	小壺	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	カマド 堀方	Ⅱ区
	21	須恵器	小壺	小壺	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	カマド 堀方	Ⅱ区
	22	須恵器	小壺	小壺	—	(5.0)	(0.7)	口縁ナデ	口縁ナデ	破片実測	破片実測	Ⅱ区
	23	須恵器	壺	壺	—	(5.4)	(3.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	破片実測	破片実測	Ⅱ区
	24	土師器	杯	杯	—	8.0	(4.1)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	回転実測	Ⅱ区
	25	土師器	台付甕	台付甕	—	4.7	(3.1)	口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	完全実測	カマド Ⅰ区 Ⅱ区
	26	土師器	甕	甕	(21.8)	—	(8.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	高杯の転用	カマド
	27	土師器	小甕	小甕	—	(5.8)	(1.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	回転実測	カマド
	28	土師器	甕	甕	(21.1)	—	(5.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	回転実測	Ⅰ区 Ⅳ区床面
	29	土師器	甕	甕	(14.4)	—	(5.8)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	回転実測	カマド
	30	土師器	甕	甕	—	(5.8)	(7.7)	口縁ナデ	口縁ナデ	回転実測	回転実測	カマド
31	鉄器	鎌	鎌	(21.9)	3.1	0.4	ナデ	ナデ	回転実測	回転実測	No.2	
32	鉄器	角釘	角釘	3.8	0.5	0.4	ナデ	ナデ	回転実測	回転実測	カマド 堀方	
33	青銅	古銭	古銭	—	—	—	ナデ	ナデ	和○亦	Ⅱ区		
34	石器	砥石	砥石	4.9	5.0	1.2	ナデ	ナデ	砂岩 表裏砥面 破損	Ⅱ区		
H6	1	須恵器	蓋	(14.7)	—	(1.6)	口縁ナデ	口縁ナデ	自然釉付着	自然釉付着	Ⅳ区 床面	
	2	須恵器	蓋	(16.2)	—	(2.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	自然釉付着	自然釉付着	Ⅰ区 検出	
	3	須恵器	杯	(14.0)	(7.6)	4.2	口縁ナデ	口縁ナデ	使用による磨耗	使用による磨耗	Ⅱ区	
	4	須恵器	杯	12.9	6.8	3.9	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	付着物有り	Ⅱ区
	5	須恵器	杯	—	7.2	(1.4)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	内外面に火だすき有り	Ⅱ区
	6	須恵器	高台付杯	高台付杯	—	(10.0)	(1.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	7	須恵器	高台付杯	高台付杯	(12.7)	8.5	3.9	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	8	須恵器	高台付杯	高台付杯	(11.6)	(8.3)	3.8	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	9	須恵器	高台付杯	高台付杯	—	6.9	(1.2)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	10	須恵器	甕?	甕?	—	(15.2)	(2.1)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	11	須恵器	蓋	蓋	—	(4.1)	(2.1)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	13	須恵器	甕	甕	(35.6)	—	(5.5)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	14	須恵器	甕	甕	(36.1)	—	(6.4)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	15	須恵器	甕	甕	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	16	須恵器	甕	甕	—	(15.8)	(4.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区
	17	須恵器	甕	甕	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区
	18	須恵器	甕	甕	—	—	—	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区
	19	灰釉陶器	壺	壺	(11.2)	—	(2.2)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区 Ⅳ区
	20	灰釉陶器	壺	壺	—	—	(5.8)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区
	21	灰釉陶器	壺	壺	—	—	(9.1)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区
	22	土師器	杯	杯	(16.0)	(9.0)	5.5	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅳ区 床面
	23	土師器	杯	杯	(12.6)	(6.8)	4.7	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	No.3 Ⅰ区
	24	土師器	杯	杯	(13.1)	(2.0)	(2.9)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区 Ⅱ区
	25	土師器	杯	杯	(12.2)	—	(3.7)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅰ区 堀方
	26	土師器	甕	甕	(19.8)	—	(5.8)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区 堀方
	27	土師器	甕	甕	(8.2)	(6.0)	(6.0)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区
	28	土師器	甕	甕	—	(4.6)	(2.2)	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	口縁ナデ	Ⅱ区

第10表 H5 (2) ・H6 (1) 遺物一覧表

第二章 西八日町遺跡Ⅲ

(残) (推定)

遺構	番号	種類	種類	器種	口径(長)	法 底径(幅)	量 器高(厚)	(g)	内 面	外 面	文 様	備 考	出土位置
H16	29	土師器	甕	角釘	3.8 (2.8)	—	—	—	ハラケズリ	胸部ミガキ	ハラケズリ→胸部ミガキ	完全実測	Ⅲ区
	30	土師器	角釘	—	0.4 (8.5)	—	—	2	ハラケズリ	—	ハラケズリ→胸部ミガキ	完全実測	Ⅲ区
	1	土師器	杯	杯	18.2 (16.3)	—	—	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ→底部ハラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	2	土師器	杯	杯	17.3 (17.3)	—	—	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	3	土師器	鉢	鉢	10.1 (13.7)	—	—	—	口縁横ナデ→胸部ミガキ	口縁横ナデ	口縁横ナデ 体部ハラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	4	土師器	鉢	鉢	10.1 (18.5)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ 胸部ハラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	5	土師器	鉢	鉢	18.0 (17.6)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	6	土師器	鉢	鉢	17.6 (21.8)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	7	土師器	甕	甕	6.7 (5.5)	5.5	1.0	0.75	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	8	土師器	甕	甕	5.5 (0.5)	0.7	2.8	192.82	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	9	土師器	甕	甕	6.9 (7.1)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	10	土師器	甕	甕	6.7 (7.1)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	11	土師器	土製口板	土製口板	0.9 (0.5)	0.7	2.8	192.82	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
	12	土師器	小玉	小玉	6.9 (7.6)	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出
13	石器	敲石	敲石	—	—	—	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区 検出	
H17	1	土師器	高杯	高杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	2	土師器	甕	甕	21.1 (4.2)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	3	土師器	甕	甕	20.3 (5.4)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	4	土師器	甕	甕	16.5 (3.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	5	土師器	甕	甕	12.7 (9.4)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	6	土師器	甕	甕	13.5 (18.6)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	7	土師器	蓋	蓋	14.8 (13.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	8	土師器	杯	杯	7.9 (14.0)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	9	土師器	須恵器	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	10	土師器	須恵器	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	11	土師器	須恵器	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	12	土師器	須恵器	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	13	土師器	須恵器	須恵器	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	H18	1	土師器	杯	杯	13.1 (4.7)	3.2	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測
2		土師器	杯	杯	12.8 (5.7)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
3		土師器	杯	杯	12.7 (8.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
4		土師器	杯	杯	16.0 (13.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
5		土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
6		土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
7		土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
8		土師器	高杯	高杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
9		土師器	鉢	鉢	11.9 (17.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
10		土師器	鉢	鉢	21.2 (27.6)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
11		土師器	甕	甕	18.9 (3.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
12		土師器	甕	甕	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
13		土師器	甕	甕	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
H19		1	土師器	杯	杯	13.1 (4.7)	3.2	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測
	2	土師器	杯	杯	12.8 (5.7)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	3	土師器	杯	杯	12.7 (8.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	4	土師器	杯	杯	16.0 (13.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	5	土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	6	土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	7	土師器	杯	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	8	土師器	高杯	高杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	9	土師器	鉢	鉢	11.9 (17.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	10	土師器	鉢	鉢	21.2 (27.6)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	11	土師器	甕	甕	18.9 (3.8)	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	12	土師器	甕	甕	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出
	13	土師器	甕	甕	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区 検出

第11表 H6 (2)・H7・H8・H9 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(径)	法 底径(幅)	量 器高(厚)	(g)	調整 内面	文 外面	様 面	備考	出土位置
H9	27	土師器	甕	—	6.6	(2.1)	—	ミガキ	ハラナデ→ミガキ	ハラナデ	回転実測	Ⅱ区
	28	須恵器	杯	—	(6.8)	(2.7)	—	ハラナデ→ナデ	ハラナデ→回転糸切り	ハラナデ	回転実測 内外面に火だすき有り	Ⅱ区 Ⅱ区 検出
	29	瓦質	瓦	—	—	—	—	ナデ	—	—	破片実測	—
H10	30	鉄器	刀子	(5.8)	1.1	0.5	6	—	—	—	—	—
	1	須恵器	蓋	(14.2)	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	2	須恵器	杯	(13.4)	(6.4)	(4.1)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	3	須恵器	杯	(13.0)	(6.4)	(3.9)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	4	須恵器	杯	—	(6.9)	(3.0)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	5	須恵器	杯	—	(6.9)	(1.5)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	6	須恵器	杯	—	(6.8)	(1.8)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	7	須恵器	杯	—	(9.1)	(1.7)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	8	須恵器	高台付杯	—	(7.7)	(2.9)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	9	須恵器	高台付杯	—	(7.9)	(2.1)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	10	須恵器	甕	(23.3)	—	(2.7)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	11	土師器	甕	(18.4)	—	(12.6)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	12	土師器	小甕	(13.0)	(4.4)	(12.8)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	13	土師器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	14	須恵器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	15	須恵器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	16	鉄器	軸	(5.5)	0.5	0.5	3	—	—	—	—	Ⅳ区
	17	鉄器	刀子	(10.5)	1.0	0.4	10	—	—	—	—	Ⅳ区
	18	鉄器	刀子	(3.4)	0.7	0.4	2	—	—	—	—	Ⅳ区
19	石器	紡錘車	4.2	4.2	1.8	55	—	—	—	—	Ⅳ区	
H11	1	須恵器	蓋	(21.5)	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ区
	2	須恵器	杯	13.2	6.0	3.6	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	3	須恵器	杯	13.9	5.7	3.8	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	4	須恵器	杯	—	(5.4)	(1.6)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	5	須恵器	甕	(11.2)	—	(1.9)	—	磨耗	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	6	須恵器	甕	(15.1)	—	(5.3)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	7	須恵器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	8	須恵器	甕	—	(12.7)	(4.0)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	9	土師器	杯	(18.6)	(8.6)	(4.9)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	10	土師器	小甕	(11.9)	—	(10.6)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	11	土師器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	12	土師器	鉢	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	13	須恵器	鉢	—	(2.4)	(6.2)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	14	鉄軸陶器	甕	—	(19.3)	(4.9)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	H12	15	石器	右皿	18.4	16.5	8.6	2017.30	—	—	—	—
1		須恵器	蓋	(16.0)	—	3.4	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
2		須恵器	杯	—	(7.1)	(2.2)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
3		須恵器	高台付杯	—	(10.8)	(1.5)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
4		須恵器	杯	(13.9)	6.7	3.5	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
5		土師器	杯	(13.7)	—	3.4	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
6		土師器	甕	(17.9)	—	(6.4)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
7		土師器	甕	(18.6)	—	(5.1)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
8		鉄器	刀子?	(9.9)	1.2	0.5	7	—	—	—	—	Ⅳ区
1		須恵器	杯	(12.8)	—	(3.3)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
H13	2	須恵器	杯	(13.7)	—	(2.9)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	3	須恵器	杯	(14.0)	—	(3.2)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	4	須恵器	杯	—	(7.8)	(1.4)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	5	須恵器	高台付杯	—	(6.9)	(2.5)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	6	須恵器	高台付杯	—	(8.7)	(1.5)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	7	須恵器	甕	—	—	—	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	8	土師器	杯	—	(6.2)	(1.0)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	9	土師器	甕	—	(4.2)	(3.9)	—	自然袖付着	ハラナデ	ハラナデ	回転実測	Ⅳ区
	10	鉄器	刀子	(13.5)	1.1	0.5	11	—	—	—	—	Ⅳ区
	11	鉄器	軸	(5.7)	0.2	0.2	1	—	—	—	—	Ⅳ区
H14	1	石器	石蓋	1.8	1.3	0.3	0.61	—	—	—	—	Ⅳ区
	2	須恵器	杯	—	—	(2.1)	—	—	—	—	—	Ⅳ区

第12表 H9 (2)・H10~H13・H14 (1) 遺物一覧表

第II章 西八日町遺跡Ⅲ

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法 底径(幅)	量 器高(厚)	(g)	内 調整面	外 文面	備 考	出土位置
H14	3	土師器	杯	(17.2)	—	(3.6)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
	4	土師器	杯	(17.7)	(8.9)	(4.6)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区
	5	土師器	杯	(12.6)	—	(3.7)	—	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
	6	土師器	鉢	(17.0)	—	(4.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	Ⅲ区
	7	土師器	壺	(17.6)	—	(6.5)	—	ナデ→口縁横ナデ	横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区
	8	土師器	壺	13.6	—	(11.9)	—	頸部ハケ目→口縁横ナデ→胴部ナデ	頸部ハケ目→胴部ナデ	完全実測	Ⅳ区
	9	土師器	壺	—	6.0	(4.7)	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ区
	10	土師器	壺	—	5.0	(6.6)	—	ナデ→ミガキ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区
	11	土師器	壺	—	9.2	(5.4)	—	口縁横ナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ 底部ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区
	12	土師器	壺	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片実測	Ⅲ区
	13	土師器	壺	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片実測	Ⅲ区
H15	1	須恵器	土板	3.6	3.7	0.8	—	ミガキ	口縁横ナデ	回転実測	検出
	2	須恵器	土板	(12.8)	—	(2.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	Ⅰ区	検出
	3	須恵器	杯	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片実測	Ⅳ区
	4	土師器	瓶	(23.1)	—	(6.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ 胴部ヘラケズリ→ミガキ	破片実測	Ⅳ区
	5	土師器	壺	(10.6)	—	(3.7)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区
	6	土師器	壺	—	6.2	(4.6)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
	7	土師器	壺	—	7.1	(11.8)	—	ハケ目 ナデ	ハケ目 下部ケズリ→わずかにミガキ	回転実測	Ⅲ・Ⅳ区
	8	土師器	壺	(19.6)	—	(31.3)	—	胴部ハケ目→口縁横ナデ	胴部ハケ目→口縁横ナデ 胴中位磨耗	完全実測	Ⅲ・Ⅳ区
	9	土師器	壺	—	(7.0)	(19.4)	—	ナデ→上半部ミガキ	ナデ→ミガキ 剥離	完全実測	Ⅳ区
	10	土師器	壺	(23.8)	—	(5.8)	—	ミガキ 剥離	ハケ目 横ナデ	回転実測	Ⅰ区
	11	土師器	小壺	—	(5.9)	(3.4)	—	ヘラケズリ→ナデ	ヘラケズリ→底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
H16	12	土師器	小壺	(15.2)	—	(4.0)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区
	13	石器	石器	1.9	1.3	0.4	0.81	—	—	黒曜石 先端欠損	Ⅲ区
	14	石器	銅鐘車	6.4	6.3	4.2	37.02	—	—	轆石	Ⅲ区
	1	土師器	杯	—	(8.8)	(1.3)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
	2	土師器	高鉢	—	(6.4)	—	—	ミガキ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区
	3	土師器	鉢	(17.7)	(3.0)	(11.5)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ 胴部ヘラケズリ→ミガキ 口縁黒色処理	回転実測	Ⅰ～Ⅲ区
	4	土師器	鉢	—	(6.5)	(13.3)	—	ハケ目	ケズリ→ミガキ→底部ヘラケズリ 磨耗	回転実測	Ⅲ区
	1	須恵器	杯	(16.7)	(9.0)	(4.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅳ区
	2	須恵器	杯	—	(5.8)	(3.5)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅳ区
	3	須恵器	杯	—	(5.9)	(1.3)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅳ区
	4	灰釉陶器	碗	—	—	—	—	施釉	口縁横ナデ→底部回転糸切り	破片実測 1/8残	Ⅳ区
5	土師器	杯	(17.1)	—	(5.0)	—	口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区	
6	土師器	小壺	(9.1)	—	(4.8)	6	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区	
7	石器	石器	(8.4)	0.7	0.3	0.44	—	—	木質部有り	Ⅳ区	
8	石器	石器	1.6	1.4	0.3	0.44	—	—	黒曜石 先端・右側欠損	Ⅲ区	
9	石器	使用剥片	4.3	2.8	0.8	6.99	—	—	黒曜石 両側縁裏面に微細刻線痕	Ⅳ区	
H17	1	須恵器	杯	13.5	6.0	3.7	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.2
	2	須恵器	杯	(14.4)	(5.4)	3.8	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.2
	3	須恵器	杯	14.3	6.7	4.3	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.4
	4	須恵器	杯	—	6.1	(2.1)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.4
	5	土師器	杯	13.4	5.8	4.3	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部回転糸切り→杯下部・底部周辺手持ヘラケズリ	完全実測	検出
	6	土師器	碗	—	7.2	(2.7)	—	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部回転糸切り後高台貼付 高台ミガキ	完全実測	No.2 No.3
	7	土師器	碗	—	(8.2)	(2.4)	—	ミガキ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区
	8	土師器	壺	(11.8)	—	(4.5)	—	口縁横ナデ→ヘラケズリ	口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
	9	土師器	壺	(18.2)	—	(6.5)	—	口縁横ナデ→ヘラケズリ	口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
	10	土師器	壺	(21.0)	—	(5.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
	11	土師器	壺?	(22.8)	—	(3.5)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
H18	12	石器	轆石	8.4	2.0	1.4	29.89	—	—	黒色岩 端部剥離痕 表面・側面状態痕	Ⅰ区
	13	石器	轆石	13.2	6.7	5.2	584.37	—	—	砂岩 右側敲打痕 裏面下端磨面	Ⅲ区
	14	石器	砥石	7.4	5.7	1.2	58.14	—	—	砂岩 表裏・両側磨面	Ⅲ区
	1	須恵器	杯	13.4	6.0	4.5	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→回転糸切り	完全実測	No.1 A
	2	須恵器	杯	(13.9)	(5.9)	(4.3)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→回転糸切り	完全実測	Ⅰ区
	3	須恵器	杯	—	(1.8)	(1.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→回転糸切り	回転実測	検出
	4	須恵器	高台付杯	—	(9.9)	(1.3)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→切り離し後高台貼付	回転実測	検出
	5	須恵器	高台付杯	—	(9.0)	(1.4)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	No.3
	6	須恵器	壺	—	(7.6)	(7.6)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→切り離し後高台貼付	回転実測	No.3
	7	須恵器	壺	(9.7)	—	(10.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→ヘラケズリ→口縁横ナデ	回転実測	Ⅳ区
	8	土師器	杯	—	5.6	1.3	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全実測	検出

第13表 H14 (2) ~H20 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法量	器高(厚)	重量(g)	調整面	文様	備考	出土位置
H20	9	土師器	杯	13.5 (13.6)	5.6	3.8	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	カマド I区	
	10	土師器	杯	12.6	6.0	3.6	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	カマド I区	
	11	土師器	杯	15.7	6.1	5.2	—	口縁ナデ→底面回転糸切り「墨書」	完全美測	カマド I区	
	12	土師器	杯	15.0	7.7	3.6	—	口縁ナデ→底面回転糸切り「墨書」	完全美測	No.2 I区	
	13	土師器	杯	15.9	8.1	5.4	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	14	土師器	碗	—	8.0	(3.3)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	15	土師器	碗	—	7.4	(1.6)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	16	土師器	碗	—	7.4	(1.5)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	17	土師器	碗	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	18	土師器	杯	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	19	土師器	皿	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	20	土師器	皿	12.9	7.6	3.5	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	21	土師器	皿	12.3	6.0	2.1	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	22	土師器	土製円板	5.9	6.1	0.9	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	23	土師器	杯	13.4	6.0	4.2	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	24	土師器	杯	—	5.8	(2.5)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	25	土師器	碗	—	6.5	(3.2)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	26	土師器	小壺	10.1	5.0	8.4	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	27	土師器	小壺	19.9	—	(7.1)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	28	土師器	小壺	12.0	—	(4.2)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	29	土師器	小壺	—	(5.2)	(3.8)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	30	土師器	小壺	20.0	—	(17.3)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	31	土師器	小壺	16.6	—	(6.2)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	32	土師器	小壺	14.0	—	(5.1)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	33	土師器	土製円板	9.5	8.8	1.9	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
	H21	1	須恵器	杯蓋	—	—	(2.4)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		2	須恵器	杯	12.7	—	(1.6)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		3	須恵器	杯	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		4	須恵器	壺	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		5	須恵器	壺	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		6	須恵器	壺	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		7	須恵器	高杯	—	9.7	(5.7)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
		8	須恵器	壺	—	—	—	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区
9		土師器	杯	14.9	—	(11.0)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
10		土師器	杯	18.1	—	(10.7)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
11		土師器	杯	13.8	—	(4.3)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
12		土師器	杯	11.6	6.4	5.8	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
13		土師器	鉢	17.6	—	(6.9)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
14		土師器	鉢	15.8	—	(10.5)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
15		土師器	鉢	10.6	—	(6.9)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
16		土師器	小壺	15.7	—	(9.7)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
17		土師器	手捏	11.0	—	(10.0)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
18		土師器	瓶	—	6.2	(7.0)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
19		土師器	小壺	11.1	—	(8.7)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
20		土師器	壺	13.6	—	(3.8)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
21		土師器	壺	20.0	—	(8.8)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
22		土師器	瓶	26.9	(8.9)	(28.3)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区	
23	土師器	瓶	—	(8.6)	(7.2)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
24	土師器	壺	22.3	(4.6)	(38.1)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
25	土師器	壺	25.0	—	(17.8)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
26	土師器	壺	—	5.3	(28.3)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
27	土師器	小壺	—	(6.7)	(1.6)	—	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
28	土製	丸玉	1.2	1.2	1.0	1.0	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
29	石器	磨石	7.1	6.4	4.8	177.34	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
30	石器	磨石	7.9	7.7	5.4	420.48	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
31	石器	磨石	8.5	7.1	3.7	225.71	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
32	石器	磨石	9.1	3.8	1.8	78.54	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
33	石器	磨石	6.8	5.4	2.5	151.34	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
34	石器	磨石	5.0	4.6	1.7	42.81	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		
35	石器	磨石	10.9	6.8	5.2	446.06	口縁ナデ→底面回転糸切り	完全美測	検出 I区		

第14表 H20 (2) ・ H21 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法	量 (cm)	(g)	調内	整面	文外	備考	出土位置
H21	36	石器	磨石	11.4	6.9	2.8	353.88				安山岩 表面磨面	I区
	37	石器	磨石	9.7	6.6	2.9	236.20				安山岩 表面磨面	P12 No.13
	38	石器	磨石	10.8	7.1	2.9	281.80				安山岩 表面磨面	No.9
	39	石器	磨石	12.7	7.1	3.5	402.01				安山岩 表面磨面	P12
	40	石器	繩物石	12.4	6.9	3.3	452.25				安山岩	No.4
	41	石器	繩物石	13.3	5.5	4.1	379.60				安山岩	No.5
	42	石器	繩物石	12.4	6.2	4.6	453.78				安山岩	No.6
	43	石器	繩物石	11.8	7.7	3.1	374.50				安山岩	P12 No.6
	44	石器	繩物石	11.0	6.9	3.5	310.20				安山岩	P12 No.11
	45	石器	繩物石	13.1	5.7	2.6	246.17				安山岩 端部剥離痕	P12 No.10
	46	石器	繩物石	10.0	6.2	3.8	321.99				安山岩	P12 No.12
	47	石器	繩物石	9.4	5.6	2.4	153.42				安山岩	P12
	48	石器	繩物石	8.9	6.2	2.8	193.37				安山岩 破損品	P12 No.14
	49	石器	石鏃	1.3	1.1	0.3	0.40				黒曜石	検出
50	石器	削器	4.0	2.1	1.2	8.55				黒曜石 石核素材	III区	
51	土師器	高台付杯	(15.4)	(10.6)	3.7					底部ヘラケズリ→ミガキ	III区	
52	土師器	杯								ミガキ	カマド	
53	須恵器	蓋	(12.7)		(3.7)					破片実測	II区堀方	
H23	1	須恵器	杯			(2.0)				ロクロナデ 自然釉付着	回転実測	II区堀方
	2	須恵器	杯	13.2	6.2	3.7				天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付	回転実測	I区堀方
	3	須恵器	杯	(13.5)	5.5	4.0				ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.3
	4	須恵器	鉢		(13.2)	(2.7)				ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.4
	5	須恵器	高台付杯		(10.0)	(1.2)				ロクロナデ→削下部回転ヘラケズリ 底部手持ヘラケズリ	回転実測	III区堀方
	6	須恵器	甕							底部切り離し後高台貼付 自然釉付着	回転実測	検出
	7	須恵器	壺							織機波状文	拓本	検出
	8	須恵器	壺							格子状タタキ目	拓本	検出
	9	土師器	碗	(15.7)	(6.6)	(5.8)				ロクロナデ	拓本	IV区堀方
	10	土師器	碗	(15.5)	(6.3)	(6.3)				ロクロナデ→底部回転糸切り後高台貼付	回転実測	検出 H26検出 上28検出
	11	土師器	甕		3.3	(6.6)				ヘラケズリ	完全実測	No.1
	12	土師器	甕	(20.2)		(3.8)				口縁横ナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	II区
	13	土師器	甕	(17.8)		(5.2)				口縁横ナデ	回転実測	IV区
	14	土師器	甕	(13.8)		(3.8)				ロクロナデ	回転実測	III区
H24	1	須恵器	杯	(12.2)		(3.9)				ロクロナデ	回転実測	III区
	2	須恵器	杯			(1.3)				ロクロナデ→回転糸切り	検出	IV区堀方
	3	須恵器	杯		6.1	(1.9)				ロクロナデ→回転糸切り	完全実測	II区
	4	須恵器	蓋		(7.0)	(3.0)				ロクロナデ→下部ヘラケズリ→回転糸切り 磨耗	回転実測	III区
	5	須恵器	甕		(6.8)	(2.7)				ロクロナデ→回転糸切り 自然釉付着	回転実測	検出
	6	須恵器	甕							ヘラケズリ 自然釉付着	拓本	検出
	7	須恵器	蓋			(5.7)				アテ具痕→ナデ	拓本	検出
	8	土師器	杯	(12.0)	(4.8)	(4.1)				指頭ナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	検出
	9	土師器	杯		(5.8)	(1.8)				口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	III区
	10	土師器	鉢		(3.4)	(3.7)				ナデ→黒色処理	回転実測	検出 カマド
	11	土師器	甕	(19.8)		(23.8)				ヘラケズリ 口縁横ナデ	完全実測	No.1 カマド
	12	土師器	甕	20.2		(2.2)				口縁横ナデ→ヘラケズリ	完全実測	No.1 カマド I区 II区
	13	土師器	台付甕		(7.8)	(2.2)				口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	検出
	H25	1	須恵器	蓋	13.7	8.2	4.7				ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	完全実測
2		須恵器	杯	(11.8)	6.7	(5.3)				ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	回転実測	I区 II区 H28 II区
3		須恵器	蓋		5.7	(2.1)				ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	完全実測	No.7 I区
4		須恵器	四耳蓋							ヘラケズリ→ナデ	完全実測	検出
5		須恵器	甕							ロクロナデ→四耳貼付 自然釉付着	破片実測	検出
6		須恵器	甕							タタキ目	拓本	検出
7		須恵器	甕							ロクロナデ 自然釉付着	破片実測	検出
8		須恵器	甕							タタキ目	拓本	II区
9		土師器	杯	(13.2)	(6.4)	4.3				口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	III区
10		土師器	杯	(12.8)		(3.7)				ミガキ	回転実測	II区 IV区
11		土師器	高杯		(10.7)	(1.7)				横ナデ→ミガキ	回転実測	カマド堀方 H28検出
12		土師器	杯	(15.2)	(6.6)	4.4				ミガキ→赤色磨彩?	回転実測	III区
13		土師器	杯	(14.4)	(8.2)	4.3				口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	III区
14		土師器	杯	15.8	7.0	4.7				口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.3 I区

第15表 H21 (2)・H23・H24・H25 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	口径(短)	法量	量 (cm)	器高(厚)	(g)	調整面	文様面	備考	出土位置	
H25	15	土師器	杯	14.5	4.7	4.3	4.3	4.3		ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ→赤色塗彩か?	完全美測	No.2 No.6	
	16	土師器	鉢	(7.5)	(7.5)	(6.4)	(6.4)	(6.4)		ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	回転美測	カマド II区	
	17	土師器	鉢	(14.4)	-	(5.8)	(5.8)	(5.8)		ミガキ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	破片美測	I区	
	18	土師器	甕	-	(4.0)	-	(11.4)	-		ハラナデ	ハケ目→ヘラケズリ→ミガキ	回転美測 焼成前1孔	No.8	
	19	土師器	甕	-	8.6	-	(12.0)	-		ハラナデ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	完全美測	カマド	
	20	土師器	甕	(19.8)	-	(12.6)	(12.6)	(12.6)		口縁横ナデ 剥離	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	回転美測	No.5	
	21	土師器	甕	16.4	-	(12.3)	(12.3)	(12.3)		口縁横ナデ 剥離	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	回転美測	No.1 カマド P4 I区	
	22	土師器	甕	(21.4)	-	(8.4)	(8.4)	(8.4)		ハケ目→口縁横ナデ	ハケ目→口縁横ナデ→ミガキ	回転美測	I区 II区	
	23	土師器	甕	(20.0)	-	(7.4)	(7.4)	(7.4)		ハラナデ	ハラナデ→ミガキ	回転美測	III区	
	24	土師器	甕	-	(4.6)	-	(7.1)	-		ハラナデ	脚部ヘラケズリ→口縁横ナデ→ミガキ	完全美測	II区 P1	
	25	土師器	甕	11.2	5.6	8.5	8.5	8.5		ハラナデ→口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→口縁横ナデ→ミガキ	回転美測	カマド III区 H25 IV区	
	26	土師器	甕	(14.2)	(13.3)	(4.3)	(4.3)	(4.3)		口縁横ナデ	口縁横ナデ 天井部回転ヘラケズリ	回転美測	カマド III区	
	27	土師器	甕	(14.2)	(12.8)	(4.2)	(4.2)	(4.2)		口縁横ナデ	口縁横ナデ 天井部回転ヘラケズリ	回転美測	カマド III区	
	28	土師器	甕	-	-	-	-	-		自然袖付着	口縁横ナデ	拓本	III区	
	29	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
	30	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
	31	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
	32	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
	33	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
	34	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区	
35	土師器	甕	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	III区		
H26	1	土師器	杯	13.2	11.2	5.0	5.0	5.0		口縁横ナデ 剥離	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ 黒色処理か?	完全美測	III区 P6	
	2	土師器	杯	(12.9)	(11.0)	5.2	5.2	5.2		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ 黒色処理	回転美測	No.1	
	3	土師器	杯	13.4	11.3	5.2	5.2	5.2		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ 黒色処理	完全美測	No.2	
	4	土師器	高杯	(16.0)	11.7	9.0	9.0	9.0		杯部ミガキ→黒色処理	杯部ミガキ→黒色処理 脚部横ナデ	完全美測	No.3	
	5	土師器	高杯	(16.1)	11.7	9.0	9.0	9.0		杯部ミガキ→黒色処理	杯部ミガキ→黒色処理 脚部横ナデ	完全美測	IV区 I区 幅方	
	6	土師器	高杯	-	11.9	(6.2)	(6.2)	(6.2)		杯部ミガキ→黒色処理	杯部ミガキ→黒色処理 脚部横ナデ	回転美測	No.5	
	7	土師器	高杯	-	-	(3.3)	(3.3)	(3.3)		ミガキ→黒色処理	ハラケズリ→ミガキ	回転美測	III区 F9 P5 検出	
	8	土師器	鉢	(17.8)	-	(8.7)	(8.7)	(8.7)		ハラケズリ→ミガキ	ハラケズリ→ミガキ	回転美測	III区	
	9	土師器	鉢	(15.4)	7.3	13.5	13.5	13.5		ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ ミガキ	回転美測	No.4 No.5 IV区 カマド	
	10	土師器	鉢	(13.3)	(4.8)	(13.1)	(13.1)	(13.1)		脚部ヘラケズリ→口縁横ナデ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	完全美測	I・IV区 F7P1 F9P1	
	11	土師器	甕	(14.3)	-	(3.8)	(3.8)	(3.8)		横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ	回転美測	カマド H25 III区	
	12	土師器	甕	-	(4.7)	(4.6)	(4.6)	(4.6)		ハラケズリ	ハラケズリ→ミガキ	回転美測	I・III区	
	13	土師器	甕	H(24.1)	-	(16.4)	(16.4)	(16.4)		脚部ヘラケズリ	ハラケズリ→ミガキ	回転美測	I・IV区 P25 P55	
	14	土師器	甕	底	9.0	(12.0)	(12.0)	(12.0)		脚部ヘラケズリ→横ナデ	ハラケズリ→ミガキ	回転美測	う28検出 H25検出	
	15	土師器	甕	(24.4)	(6.2)	20.8	20.8	20.8		口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転美測	I・II区 F7P1 No.6-7 検出 幅方	
	16	土師器	甕	-	-	-	-	-		ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ→ミガキ	回転美測	III区	
	17	土師器	甕	(3.2)	0.4	0.6	0.6	0.6		孔径2mm	口縁横ナデ	破片美測	III区	
	18	土師器	甕	1.2	1.2	1.0	2.4	2.4		孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	No.8	
	19	土師器	甕	1.3	1.3	1.0	3.0	3.0		孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	No.8	
	20	土師器	甕	1.2	1.2	0.8	1.7	1.7		孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	No.8	
H27	1	土師器	甕	12.5	7.9	4.0	4.0	4.0	606.47	口縁横ナデ	口縁横ナデ	砂岩 端部剥離痕	III区 床面	
	2	土師器	杯	13.2	(6.1)	4.0	4.0	4.0		口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	No.7 カマド	
	3	土師器	杯	(13.9)	(7.9)	(3.7)	(3.7)	(3.7)		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ 磨耗	回転美測	IV区	
	4	土師器	杯	(15.5)	-	(2.8)	(2.8)	(2.8)		口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	I区 床	
	5	土師器	杯	14.1	6.0	4.0	4.0	4.0		口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	No.6 I区 幅方	
	6	土師器	杯	(15.8)	(6.9)	(5.0)	(5.0)	(5.0)		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全美測	I区 幅方	
	7	土師器	杯	13.5	5.0	4.0	4.0	4.0		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り	完全美測	I区 幅方 IV区	
	8	土師器	皿	13.1	6.4	3.2	3.2	3.2		口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部回転糸切り 磨書「米」 磨耗	完全美測	No.1	
	9	土師器	甕	(22.6)	-	(6.0)	(6.0)	(6.0)		口縁横ナデ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ	完全美測	No.2	
	10	土師器	甕	(23.0)	13.6	(20.1)	(20.1)	(20.1)		口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ	口縁横ナデ→脚部ヘラケズリ	回転美測	I区 幅方 IV区 幅方	
	11	土師器	甕	8.9	3.5	1.8	1.8	1.8	126.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	I・II区 カマド カマド 幅方	
	12	土師器	甕	2.5	1.4	0.1	0.7	0.7		口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	No.5	
	13	土師器	甕	5.9	4.5	2.2	7.13	7.13		口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	カマド	
	H28	1	土師器	高杯	-	-	-	-	-		口縁横ナデ	口縁横ナデ	灰山岩 端部剥離痕 表面磨面 欠損	III区
		2	土師器	杯	(17.2)	(8.8)	4.3	4.3	4.3		口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片美測	III区
		3	土師器	杯	(17.2)	(8.8)	4.8	4.8	4.8		口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	I区
4		土師器	杯	(14.0)	(9.8)	(3.8)	(3.8)	(3.8)		口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	IV区	

第16表 H25(2)・H26・H27・H28(1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法	量	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整	内面	外面	備考	出土位置
H28	5	土師器	鉢	(19.2)	—	(17.8)	—	(6.1)	—	234.39	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ	底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	I区
	6	土師器	杯	(16.0)	—	(12.7)	—	(3.1)	—	256.00	ミガキ	口縁横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	I区 II区	
	7	土師器	杯	(11.8)	—	—	—	—	—	317.50	口縁横ナデ→ミガキ	口縁横ナデ→ミガキ	回転実測	P3 I区	
	8	土師器	手捏	—	—	—	—	—	—	318.85	ナデ	ナデ	破片実測	III区	
	9	土師器	鉢	—	—	4.9	—	(1.9)	—	389.49	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	IV区
	10	土師器	鉢	—	—	(8.2)	—	(4.0)	—	207.46	ナデ→ミガキ	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	IV区
	11	土師器	甕	—	—	胴最大径93	—	(6.8)	—	183.63	ナデ	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.1 III区
	12	土師器	甕	—	—	(18.6)	—	(3.6)	—	173.61	口縁横ナデ→胴部ハケ目	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区 IV区
	13	土師器	甕	—	—	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	回転実測	I区	
	14	土師器	甕	—	—	(6.4)	—	(3.5)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	I区
	15	土師器	甕	—	—	—	—	—	—	—	施釉	施釉	破片実測	検出	
	16	青磁	折皿	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区
	17	石器	編物石	9.9	5.6	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区
	18	石器	編物石	11.9	5.0	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区
	19	石器	編物石	10.3	5.5	4.4	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区
	20	石器	編物石	9.2	5.5	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区
21	石器	編物石	13.2	5.2	4.2	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区	
22	石器	編物石	10.1	5.0	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区	
23	石器	編物石	9.9	5.4	2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区	
24	石器	編物石	9.3	6.2	3.5	—	—	—	—	—	—	—	—	IV区	
H29	1	石製品	白玉	1.0	0.9	0.4	—	—	—	0.5	孔径3mm	—	—	—	No.1
	2	鉄器	刀子	(9.0)	1.1	0.4	—	—	—	10.0	—	—	—	—	No.2
	3	須恵器	杯	(6.8)	—	(1.7)	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区 脇方	
	4	須恵器	杯	—	—	(0.9)	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	II区	
	5	須恵器	壺	—	—	(14.3)	—	—	—	—	ナデ	ナデ	回転実測	II区	
	6	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	拓本	II区 脇方	
	7	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	拓本	IV区	
	8	土師器	杯	(13.8)	—	(2.8)	—	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	
	9	土師器	甕	(21.4)	—	(4.5)	—	(3.6)	—	—	ナデ	ナデ	回転実測	IV区	
	10	土師器	甕	(20.8)	—	(5.8)	—	(7.6)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	
	11	土師器	甕	(12.9)	(4.0)	(5.0)	—	(5.8)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	
H30	1	須恵器	杯	(7.7)	(1.8)	(4.7)	—	(3.1)	—	—	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	回転実測	I・II区 脇方	
	2	土師器	杯	(9.6)	—	(3.7)	—	(4.7)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	
	3	土師器	杯	(13.1)	—	(2.9)	—	(3.7)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	IV区	
	4	土師器	杯	(10.1)	—	(3.5)	—	(2.9)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区	
	5	土師器	杯	(26.4)	—	(3.1)	—	(3.1)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	I区	
	6	土師器	甕	(13.9)	(5.8)	(3.5)	—	(3.5)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	P3	
H31	1	須恵器	杯	(13.8)	(5.5)	(4.0)	—	(4.0)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	IV区	
	2	土師器	杯	(11.2)	—	(3.7)	—	(3.7)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	I区	
	3	土師器	杯	(8.5)	(2.5)	(2.5)	—	(2.5)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	IV区	
	4	土師器	杯	(15.8)	(7.6)	(4.6)	—	(4.6)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	IV区	
H33	1	土師器	碗	(16.6)	—	(4.6)	—	(4.6)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	III区 H23IV区 脇方	
	2	土師器	杯	(12.2)	—	(2.5)	—	(2.5)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片実測	III区 H20 I区	
	3	土師器	杯	(15.4)	(7.2)	2.7	—	2.7	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片実測	I区	
	4	土師器	皿	13.2	6.0	2.8	—	2.8	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.1 I区	
	5	土師器	皿	(13.4)	6.4	2.9	—	2.9	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	I区 H20 検出	
	6	土師器	皿	(19.8)	—	(4.4)	—	(4.4)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド	
	7	土師器	甕	(22.0)	—	(8.5)	—	(8.5)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド	
	8	土師器	甕	(19.2)	—	(8.4)	—	(8.4)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド	
	9	土師器	甕	(21.2)	—	(5.2)	—	(5.2)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド	
	10	土師器	甕	21.0	—	(16.9)	—	(16.9)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド	
H34	1	陶器	灯明皿	(9.4)	—	(1.7)	—	(1.7)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	カマド H20区 H20中ノ場方	
	2	陶器	香炉	—	—	(1.3)	—	(1.3)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	IV区	
	3	須恵器	蓋	—	—	(1.9)	—	(1.9)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	IV区	
	4	須恵器	杯	(13.0)	(5.6)	(3.6)	—	(3.6)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	検出	
	5	須恵器	杯	(14.1)	5.9	(4.0)	—	(4.0)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	No.4	
	6	須恵器	杯	(13.6)	—	(3.3)	—	(3.3)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	II区	
	7	須恵器	高台付杯	—	—	(8.4)	—	(8.4)	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全実測	III区 H20 I区	

第17表 H28 (2)・H29~H31・H33・H34 (1) 遺物一覧表

遺構	番号	種類	器種	法量		調整面	文外面	備考	出土位置	
				口径(長)	器高(厚)					
H34	8	須臾器	甕	(34.0)	(5.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区	
	9	須臾器	甕	—	(19.8)	ナデ	タタキ目	回転実測	Ⅱ・Ⅲ区	
	10	須臾器	甕	—	(10.0)	ナデ	タタキ目	回転実測	Ⅱ区	
	11	須臾器	蓋	(16.0)	—	ナデ	ナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区	
	12	土師器	杯	(13.9)	—	剝離	ナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区	
	13	土師器	杯	(15.6)	(3.9)	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区	
	14	土師器	碗	(16.5)	(5.2)	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付	完全実測	Ⅰ区	
	15	土師器	碗	(16.1)	(6.2)	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付	回転実測	Ⅰ区	
	16	土師器	皿	(13.1)	(1.3)	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区	
	17	土師器	皿	(13.2)	(1.9)	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付	完全実測	Ⅰ・Ⅳ区	
	18	土師器	甕	(19.0)	(26.0)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区	
	19	土師器	小甕	(15.2)	(8.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅲ区	
	20	土師器	甕	(20.8)	(5.3)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区	
	21	土師器	甕	(20.0)	(7.0)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区	
	22	土師器	甕	(20.0)	(6.6)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区	
	23	土師器	土製甲板	4.4	3.7	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区	
	24	鉄器	刀子	(3.8)	1.1	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	25	鉄器	刀子	(2.1)	1.3	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	H35	1	須臾器	杯	(14.5)	5.8	ロクロナデ	ロクロナデ→回転系切り	完全実測	No.2
		2	須臾器	杯	(13.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	No.2 H34	No.3
		3	須臾器	蓋	(15.8)	(6.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No.2 Ⅲ区
		4	土師器	杯	(15.8)	(3.9)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
		5	土師器	杯	(13.7)	(2.1)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	P1 H34Ⅳ区
		6	土師器	皿	(13.7)	6.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	H34Ⅱ区
		7	鉄器	軸	(4.8)	0.3	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	No.1
H36	1	須臾器	蓋	(14.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No.4	
	2	須臾器	杯	(15.1)	(7.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区	
	3	土師器	甕	17.8	—	ナデ	口縁横ナデ	回転実測	Ⅰ区	
	4	土師器	石蓋	17.8	16.0	ナデ	口縁横ナデ→胸部ヘラケズリ	破片実測	Ⅲ区・Ⅳ区	
H37	1	須臾器	甕小蓋	—	—	ナデ	タタキ目	拓本	No.1	
	2	須臾器	杯	11.9	6.9	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転系切り	完全実測	No.1	
H38	1	須臾器	蓋	(14.4)	(2.6)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区	
	2	須臾器	杯	(15.9)	(2.1)	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	3	須臾器	杯	(15.9)	(2.2)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	4	土師器	杯	(15.9)	(2.2)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	5	土師器	杯	(15.9)	(2.2)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	6	土師器	杯	(15.9)	(2.2)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	7	土師器	杯	(15.9)	(2.2)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
H39	1	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	2	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	1	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	2	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	3	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	4	須臾器	蓋	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	5	須臾器	蓋	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	6	須臾器	蓋	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	7	須臾器	杯	(15.9)	(1.5)	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	8	土師器	鉢	(13.8)	3.9	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	Ⅰ区 H36検出	
	9	土師器	鉢	(16.8)	(2.9)	横ナデ	横ナデ	回転実測	Ⅱ区	
	10	土師器	甕	(19.7)	(8.0)	剝離	剝離	回転実測	Ⅱ区	
	11	土師器	甕	(19.7)	(7.2)	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	Ⅱ区	
12	土師器	甕	(19.7)	(7.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	Ⅱ区		
13	土師器	甕	(14.7)	(4.5)	ナデ	ナデ	完全実測	No.1		
H41	1	須臾器	蓋	(15.9)	—	ナデ	ナデ	完全実測	Ⅱ区	
	2	土師器	杯	(13.6)	(3.6)	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	Ⅱ区	
	3	土師器	杯	(12.8)	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区	
	4	土師器	杯	(8.5)	4.3	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区	
	5	土師器	高杯	(13.9)	(4.2)	ハケ目→胸部ナデ→口縁横ナデ→黒色処理	ハケ目→胸部ナデ→口縁横ナデ→黒色処理	回転実測	Ⅲ区	
	6	土師器	甕	(14.7)	12.1	ナデ→口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	ナデ→口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	完全実測	Ⅱ区	
	7	土師器	鉢	(15.9)	4.9	ナデ→口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	ナデ→口縁横ナデ→ミガキ→黒色処理	完全実測	Ⅱ区	

第18表 H34 (2) ・H35~H40 ・H41 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法 量		調整内面	文 外	備 考	出土位置	
					口径(長)	器高(厚)					
H41	8	土師器	鉢	(22.2)	—	(6.4)	口縁横ナデ→ハラケズリ→ミガキ	ハケ目→口縁横ナデ→ミガキ	回転表測	No.3	
	9	土師器	鉢	(23.3)	—	(8.3)	ハラナデ→口縁横ナデ	ハラケズリ 口縁横ナデ→ミガキ	回転表測	I区	
	10	土師器	甕	22.4	—	(24.1)	胴部ハラナデ→口縁横ナデ	胴部ハラナデ→口縁横ナデ 磨耗	完全表測	I区 Ⅱ区 Ⅲ区	
	11	土師器	甕	(19.9)	9.6	(2.2)	口縁横ナデ	ハラケズリ→口縁横ナデ→ミガキ 剥離	完全表測	No.2 No.3	
	12	土師器	甕	(23.6)	—	(5.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→口縁横ナデ	回転表測	I区 Ⅱ区	
	13	土師器	甕	20.7	—	(15.9)	ハラナデ	口縁横ナデ→ハラケズリ	完全表測	No.1 H24検出	
	14	土師器	甕	(15.0)	—	(7.0)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラケズリ	回転表測	Ⅲ区 H24検出	
	15	土師器	甕	—	(6.6)	(2.7)	ハラナデ	ハラケズリ 底部木葉痕	回転表測	Ⅲ区	
	16	土師器	甕	6.4	5.7	4.0	ハラナデ	ハラケズリ 底部ハラケズリ	回転表測	カマド I区	
	17	石器	磨石	7.7	4.2	3.1	ハラナデ	ハラケズリ	安山岩 表面・側面磨面	Ⅱ区	
	18	石器	磨石	7.7	4.2	3.1	ハラナデ	ハラケズリ	安山岩 表面・側面磨面	Ⅱ区	
	19	石器	磨石	5.3	3.6	3.0	ハラナデ	ハラケズリ	安山岩 表面・側面磨面	Ⅱ区	
	20	土師器	甕	—	(5.0)	(3.9)	ハラナデ	口縁横ナデ	破片表測	Ⅱ区	
	21	土師器	甕	(8.0)	—	(2.8)	ハラナデ	ハラケズリ 底部ハラケズリ	破片表測	Ⅱ区	
	H43	1	須恵器	杯	15.1	6.9	4.3	口縁横ナデ	口縁横ナデ→口縁横ナデ	完全表測	Ⅳ区
2		土師器	高杯	(16.4)	(8.6)	(5.2)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→一部ミガキ	完全表測	Ⅳ区	
3		土師器	高杯	—	(10.4)	(2.3)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→一部ミガキ	回転表測	Ⅳ区	
4		土師器	鉢	—	(5.4)	(1.1)	口縁横ナデ	ハラケズリ 底部ハラケズリ	回転表測	Ⅳ区	
5		土師器	鉢	12.7	12.7	4.4	ハラケズリ	ハラケズリ 底部ハラケズリ	回転表測	Ⅳ区	
6		土師器	高杯	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラナデ	完全表測	No.6	
7		土師器	高杯	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラナデ	破片表測	検出	
8		土師器	甕	21.0	5.7	(6.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	体部に焼成前1孔	
9		土師器	甕	17.1	—	(22.9)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラケズリ	完全表測	胴部底より下脚面にカマド土付着	
10		土師器	鉢	12.2	12.7	6.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラケズリ	完全表測	No.2	
11		土師器	鉢	12.5	7.4	14.8	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラナデ	完全表測	No.5	
12		土師器	甕	12.2	5.9	14.3	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラナデ	完全表測	No.3	
13		弥生	甕	10.3	10.4	5.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部ハラナデ	完全表測	No.4	
14		石器	砥石	12.7	6.0	3.4	ハラナデ	ハラナデ	完全表測	Ⅲ区	
15		土師器	太刀刃片	—	—	(7.8)	ハラナデ	ハラナデ	砂岩 底面3面 欠損	No.7	
H44	1	土師器	甕	16.0	—	—	ハラナデ	口縁横ナデ	回転表測	Ⅲ区	
	2	石製品	白玉	0.8	0.4	0.4	孔径3mm	口縁横ナデ	滑石	No.2	
	3	石製品	白玉	0.9	0.4	0.5	孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	No.3	
	4	土師器	杯	(16.4)	(9.2)	(4.2)	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→ミガキ	回転表測	I区	
	5	土師器	杯	(12.3)	(13.4)	(3.7)	ミガキ→黒色処理	ハラケズリ ミガキ	回転表測	I区	
	6	土師器	杯	11.6	12.7	5.3	口縁横ナデ	口縁横ナデ 底部ハラケズリ	完全表測	Ⅲ区	
	7	土師器	鉢	—	(9.2)	(3.4)	ナデ	口縁横ナデ	回転表測	Ⅲ区	
	8	土師器	杯	16.6	10.2	4.5	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→ミガキ	完全表測	I区	
	9	土師器	鉢	—	(6.8)	(5.3)	ハラケ目→ミガキ	ハラケ目→一部ミガキ	回転表測	Ⅱ区	
	10	土師器	甕	(19.0)	—	(8.2)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転表測	Ⅱ区	
	11	土師器	甕	—	(7.2)	(4.6)	ハラナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区	
	12	土師器	甕	—	(7.6)	(2.7)	ナデ	口縁横ナデ	回転表測	I区	
	13	土師器	甕	—	(15.1)	(5.3)	ナデ	口縁横ナデ	完全表測	I区	
	14	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	破片表測	Ⅲ区 Ⅲ区 Ⅲ区	
	15	土師器	甕	—	—	—	アテ具痕	口縁横ナデ	破片表測	Ⅲ区 Ⅲ区 Ⅲ区	
H46	1	石器	石鏃	1.9	1.5	0.5	0.69	口縁横ナデ	口縁横ナデ	黒曜石	Ⅳ区
	2	土師器	杯	12.9	14.6	2.9	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	No.5	
	3	須恵器	甕	10.0	—	1.7	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転表測	I区	
	4	土師器	杯	(18.0)	(9.0)	3.5	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転表測	I区	
	5	土師器	杯	16.2	9.3	3.5	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	完全表測	I区	
	6	土師器	杯	(13.0)	(6.8)	3.4	剥離	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	完全表測	カマド	
	7	土師器	杯	(12.7)	(14.1)	(3.2)	ミガキ→黒色処理	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	回転表測	Ⅱ区	
	8	土師器	杯	(14.0)	(14.6)	(2.9)	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	回転表測	I区	
	9	土師器	杯	12.8	13.5	4.4	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	完全表測	No.9	
	10	土師器	杯	13.4	13.0	5.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ→底部ハラケズリ→ミガキ	完全表測	Ⅱ区 Ⅱ区 Ⅱ区	
	11	土師器	杯	12.4	10.7	4.8	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区	
	12	土師器	杯	12.2	11.9	4.2	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区	
	13	土師器	杯	14.3	12.5	5.1	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区	
	14	土師器	杯	(15.7)	(14.0)	(3.9)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区	
	15	土師器	高杯	17.1	(12.7)	12.5	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全表測	Ⅱ区 No.2	

第19表 H41(2)・H42~H45・H46(1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	品類	品種	法量		調整面	文様	備考	出土位置	
					口径(長)	底径(幅) 器高(厚)					
H46	16	土師器	鉢	鉢	5.0	10.7	ヘラナデ→口縁横ナデ	口縁横ナデ→胴部底部ヘラナデ	完全美測	カマド	
	17	土師器	甕	甕	(6.1)	(5.5)	ヘラナデ	口縁横ナデ→体部底部ヘラナデ	回転美測	I区	
	18	土師器	甕	甕	10.0	4.7	ヘラナデ	口縁横ナデ→胴部ミガキ	完全美測	No.4	
	19	土師器	甕	甕	(17.7)	—	ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラナデ	回転美測	カマド	
	20	土師器	鉢	鉢	(4.8)	(2.4)	ミガキ→黒色処理	ヘラナデ→ミガキ	回転美測	III区	
	21	土師器	甕	甕	(8.2)	(3.9)	ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラナデ	回転美測	II区	
	22	土師器	甕	甕	(20.7)	—	ナデ	口縁横ナデ→胴部ヘラナデ	完全美測	I区	
	24	土師器	甕	甕	1.0	0.5	孔径3mm	口縁横ナデ	完全美測	II区床 No.8	
	25	土師器	甕	甕	1.0	0.5	孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	No.10	
	26	土師器	甕	甕	1.0	0.4	孔径3mm	口縁横ナデ	滑石	No.10	
	H47	27	陶器	甕	甕	4.4	0.9	横ナデ	ナデ	回転美測	III区
		1	須恵器	杯	杯	(8.2)	(1.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		2	土師器	鉢	鉢	(14.8)	(2.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
	H48	3	土師器	甕	甕	(9.7)	(5.2)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		4	鉄器	角釘	角釘	(6.7)	0.6	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		1	土師器	甕	甕	9.0	0.6	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		2	土師器	甕	甕	0.4	0.4	孔径2mm	口縁横ナデ	滑石	II区No.1
		3	土師器	杯	杯	(3.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		4	土師器	杯	杯	15.0	5.1	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	III区
		5	土師器	鉢	鉢	(15.2)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	完全美測	IV区 H47III区
		6	土師器	鉢	鉢	(14.9)	(3.5)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	カマド
		7	土師器	鉢	鉢	(11.2)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	カマド
		8	土師器	甕	甕	(27.8)	(8.7)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	No.2 III区
		9	土師器	甕	甕	(16.2)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	No.3 IV区
	H49	10	土師器	甕	甕	(20.4)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	III区
		11	土師器	甕	甕	(6.3)	(7.2)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II・III区
		12	土師器	甕	甕	(5.8)	(14.1)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	カマド
		1	土師器	甕	甕	(18.1)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	No.3
		2	土師器	甕	甕	(13.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区
		3	土師器	甕	甕	(7.8)	(1.7)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区
		4	土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区
		5	土師器	甕	甕	(16.0)	4.1	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区
6		土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
7		土師器	甕	甕	(11.8)	3.6	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
8		土師器	甕	甕	(13.0)	4.9	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
H49	9	土師器	甕	甕	(13.6)	5.7	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	10	土師器	甕	甕	(12.7)	4.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	11	土師器	甕	甕	(14.4)	4.2	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	12	土師器	甕	甕	(14.4)	6.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	13	土師器	甕	甕	—	5.1	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	14	土師器	甕	甕	(7.2)	(1.7)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	15	土師器	甕	甕	—	5.5	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	16	土師器	甕	甕	(5.1)	(1.4)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	17	土師器	甕	甕	(13.0)	7.0	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	18	土師器	甕	甕	—	(8.8)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	19	土師器	甕	甕	—	(11.6)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
H49	20	土師器	甕	甕	(7.5)	(1.4)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	21	土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	22	土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	23	土師器	甕	甕	(12.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	24	土師器	甕	甕	—	(8.5)	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	25	土師器	甕	甕	(10.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	26	土師器	甕	甕	(11.4)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	27	土師器	甕	甕	(8.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	28	土師器	甕	甕	(12.8)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	29	土師器	甕	甕	(25.2)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	30	土師器	甕	甕	(16.0)	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
H49	31	土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	
	32	土師器	甕	甕	—	—	口縁横ナデ	口縁横ナデ	回転美測	II区	

第20表 H46 (2) ・H47・H48・H49 (1) 遺物一覧表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	法		口径(長)	量	(g)	調整	内面	外面	備考	出土位置	
				口径(長)	底径(幅)									
H49	33	須恵器	甕	—	—	—	—	—	アテ具痕	タタキ目 自然細付着	拓本	検出	Ⅲ区	
	34	須恵器	甕小壺	—	—	—	—	—	アテ具痕	タタキ目	拓本	検出	Ⅲ区	
	35	須恵器	甕小壺	—	—	—	—	—	ナデ	格子タタキ目	拓本	検出	Ⅲ区	
	36	須恵器	四耳壺	—	—	—	—	—	ナデ	タタキ目→突帯貼付 自然細付着	拓本	検出	Ⅲ区	
	37	須恵器	甕	—	—	—	—	—	ナデ	タタキ目	拓本	検出	Ⅲ区	
	38	土師器	杯	(15.6)	(6.8)	—	4.5	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理 磨耗	ロクロナデ→回転糸切り 墨書「米」	回転糸測	Ⅲ区	INCIVH11Ⅲ区
	39	土師器	杯	(14.0)	(6.2)	—	3.6	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	40	土師器	杯	(12.4)	—	—	(4.2)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書「米」	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	41	土師器	杯	—	(5.8)	—	(2.1)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	42	土師器	杯	13.3	7.3	—	4.1	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り 刻書あり	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	43	土師器	杯	—	(5.0)	—	(4.5)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	44	土師器	杯	—	(6.0)	—	(1.8)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→下部回転ヘラケズリ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	45	土師器	杯	—	6.8	—	(1.5)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理 剥離	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	46	土師器	杯	(12.7)	5.8	—	5.0	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→底部外周回転ヘラケズリ→回転糸切り	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	47	土師器	杯	(13.8)	—	—	(3.7)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	48	土師器	杯	—	6.2	—	(2.2)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	49	土師器	杯	—	5.9	—	(1.9)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→ヘラケズリ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	50	土師器	杯	—	5.9	—	(1.3)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ミカキ→回転糸切り	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	51	土師器	杯	(13.5)	(6.4)	—	(1.0)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	底部回転糸切り	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	52	土師器	土製口板	—	5.8	—	(0.9)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	底部回転糸切り	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	53	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ	ヘラケズリ 刻書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	54	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ	ヘラケズリ	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	55	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	56	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	57	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	58	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	59	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	60	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	61	土師器	杯	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	62	土師器	杯	(16.0)	—	—	(3.9)	—	Ⅲ区	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	63	土師器	碗	—	6.5	—	(2.5)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	64	土師器	碗	—	7.1	—	(3.2)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→切り離し後高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	65	土師器	碗	—	(7.8)	—	(1.6)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	底部切り離し後高台貼付	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	66	土師器	碗	—	(8.0)	—	(1.7)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	底部回転糸切り→高台貼付	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	67	土師器	碗	—	7.3	—	(3.4)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ヘラケズリ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	68	土師器	碗	—	(8.4)	—	(2.9)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ヘラケズリ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	69	土師器	碗	—	—	—	(1.7)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ヘラケズリ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	70	土師器	碗	—	—	—	(2.7)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ヘラケズリ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	71	土師器	碗	—	7.5	—	(2.2)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	底部切り離し後高台貼付 刻印あり	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	72	土師器	蓋	(13.2)	—	—	(2.0)	—	Ⅲ区	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	73	土師器	皿	(14.0)	—	—	(2.4)	—	Ⅲ区	ロクロナデ	ミカキ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	74	土師器	皿	(13.3)	6.3	—	2.5	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	75	土師器	皿	(13.5)	6.6	—	3.0	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	76	土師器	皿	(13.7)	—	—	(1.6)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	77	土師器	皿	(13.6)	(4.8)	—	2.0	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	78	土師器	皿	(13.2)	6.0	—	2.8	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→切り離し後高台貼付 墨書	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	79	土師器	皿	(13.7)	—	—	(1.5)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	80	土師器	皿	(16.4)	(9.0)	—	8.5	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	81	土師器	皿	(13.7)	—	—	(1.7)	—	Ⅲ区	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	82	土師器	甕	(18.0)	—	—	(7.7)	—	Ⅲ区	ナデ→口縁横ナデ	口縁横ナデ→ヘラケズリ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	83	土師器	甕	(17.8)	—	—	(7.5)	—	Ⅲ区	ナデ→口縁横ナデ	口縁横ナデ→ヘラケズリ	回転糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	84	土師器	甕	—	3.9	—	(5.0)	—	Ⅲ区	ナデ	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	85	土師器	甕	—	(7.8)	—	(3.9)	—	Ⅲ区	ナデ	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	86	土師器	甕	—	4.6	—	(9.4)	—	Ⅲ区	ナデ	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	87	土師器	甕	—	—	—	—	—	Ⅲ区	ナデ	ヘラケズリ 墨書	破片糸測	Ⅲ区	Ⅲ区
	88	鉄器	軸	4.5	1.5	—	0.4	6.0	—	—	ネジシ環	—	検出	Ⅲ区
	89	鉄器	軸	(4.7)	0.4	—	0.4	3.0	—	—	—	—	No.2	Ⅲ区
	90	鉄器	軸	(3.7)	0.4	—	0.3	3.0	—	—	—	—	No.2	Ⅲ区
	91	鉄器	鉄環	6.7	3.6	—	0.6	25.0	—	—	—	—	No.5	Ⅲ区
	92	鉄器	角釘	5.8	0.4	—	0.9	23.0	—	—	—	—	Ⅲ区	Ⅲ区

第21表 H49 (2) 遺物一覧表

遺構	番号	種類	器類	器種	口径(径)	法量	高さ(厚)	(g)	調整面	文外	備考	(残) (推定)	
												出土位置	出土地
H49 H52	93	鉄器	角釘	杯	(3.7)	0.4	0.4	2.0	口縁ナデ	切り離し後回転ヘラケズリ	回転実測	No.4	II区
	1	須恵器	甕	杯	(13.5)	(8.7)	(4.4)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	I区
	3	須恵器	甕	杯					口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	IV区
	4	須恵器	甕	杯					口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	5	土師器	杯	杯	(14.0)		(3.1)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	6	土師器	杯	杯	(14.2)	(6.7)	(4.8)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	7	土師器	鉢	鉢	(29.1)		(10.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	8	土師器	甕	甕	(20.3)		(5.3)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	9	土師器	甕	甕	(11.6)		(5.2)		口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	10	土師器	甕	甕	(3.0)	1.5	0.3	4.0	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	11	土師器	刀子	刀子	(4.5)	0.9	0.3	3.0	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	12	鉄器	刀子	刀子	(4.5)	0.9	0.3	3.0	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	13	鉄器	刀子	刀子	(4.5)	0.9	0.3	3.0	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	I区	II区
	14	石器	蔽石	蔽石	15.7	5.9	3.7	404.07	口縁ナデ	口縁ナデ	拓本	No.1	カマド内
H53	1	須恵器	蓋	蓋		つまみ径3.0	(3.2)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	須恵器	蓋	蓋		つまみ径2.9	(2.1)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	3	須恵器	杯	杯	11.7	7.0	3.6		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	4	須恵器	杯	杯	13.2	8.0	3.7		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	5	須恵器	杯	杯		7.3	(2.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	6	須恵器	杯	杯	(12.9)	(6.4)	4.0		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	7	須恵器	杯	杯	(12.4)	(7.0)	4.1		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	8	須恵器	杯	杯	(12.6)	(6.8)	3.6		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	9	須恵器	杯	杯	(13.4)	6.1	3.9		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	10	須恵器	杯	杯	(13.4)	6.1	3.9		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	11	須恵器	高台付杯	高台付杯	(13.9)	8.5	6.3		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	12	須恵器	高台付杯	高台付杯	(13.9)	8.5	6.3		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	13	須恵器	甕	甕		(10.0)	(1.3)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	14	須恵器	甕	甕	(8.0)		(1.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	15	須恵器	甕	甕	(20.8)		(4.8)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	16	土師器	甕	甕		(9.0)	(4.3)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	17	土師器	甕	甕	(10.8)		(5.8)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	18	土師器	甕	甕	(10.8)		(5.8)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	19	土師器	甕	甕		(4.8)	(5.0)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
H54	1	土師器	杯	杯	(12.0)		(3.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	土師器	杯	杯	(12.8)		(4.2)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	3	土師器	甕	甕	(11.8)		(8.2)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	4	土師器	甕	甕		7.0	(12.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	5	土師器	甕	甕	(18.4)		(6.4)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	6	土師器	甕	甕	(13.4)		(13.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
H55	1	須恵器	杯	杯	(13.4)		(2.9)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	須恵器	甕	甕					口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	3	須恵器	平瓶	平瓶	(13.8)		(3.5)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	4	土師器	杯	杯	(12.8)	(4.5)	3.7		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	5	土師器	杯	杯	(13.4)	0.5	0.3		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	6	土師器	甕	甕		(9.0)	(4.4)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
H56	1	土師器	甕	甕		(4.6)	(3.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	土師器	甕	甕	(18.0)	つまみ径2.6	3.8		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
H57	1	須恵器	杯	杯	13.6	7.4	4.2		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	須恵器	高台付杯	高台付杯	10.6	6.9	4.4		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	3	須恵器	高台付杯	高台付杯	(9.4)		(3.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	4	須恵器	高台付杯	高台付杯	(24.8)		(7.4)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	5	須恵器	甕	甕	13.7	8.0	4.5		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	6	土師器	杯	杯	(14.4)		(4.4)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
H58	1	土師器	甕	甕	(18.6)		(7.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	2	土師器	甕	甕	20.9		(10.1)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	3	土師器	甕	甕	13.6	6.0	15.6		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	4	土師器	甕	甕	13.6	5.2	(3.8)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	5	土師器	甕	甕		(4.9)	(3.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D
	6	土師器	甕	甕		(4.9)	(3.7)		口縁ナデ	口縁ナデ	完全実測	No.1	カマド D

第22表 H49 (3)・H52~H56・H57 (1) 遺物一覽表

(残) (推定)

遺構	番号	種類	器種	口径(長)	法底径(幅)	量器高(厚)	(g)	調整内面	文外面	備考	出土位置
H57	13	土師器	甕	—	(3.9)	(4.5)	4450.0	ハラナデ	胴部ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転実測 安山岩	I区 No.1
	14	石器	叫石	19.9	20.7	11.2	—	—	—	—	I区
	15	石器	磨石	8.1	7.5	2.7	118.2	—	—	—	—
H58	1	土師器	甕	(14.6)	(6.0)	(3.6)	—	ハラミガキ 黒色処理	ハラケズリ→ハラミガキ	回転実測	No.2
	2	土師器	甕	21.1	—	(26.7)	—	ハラケ目	ハラケ目→ハラケズリ→口縁横ナデ	完全実測	—
	3	土師器	甕	17.9	—	(24.4)	—	ハラナデ	ハラケズリ→口縁横ナデ	完全実測	—
	4	土師器	甕	(17.6)	—	(11.0)	—	ハラナデ	口縁横ナデ→ハラケズリ	回転実測	—
	5	土師器	甕	(23.0)	—	(21.3)	—	ハラナデ	口縁横ナデ→ハラケズリ	回転実測	—
F2	1	土師器	甕	—	5.7	(23.3)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	No.2
	2	土師器	甕	—	(9.0)	(2.6)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	3	土師器	甕	—	(6.0)	(1.1)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P4
	4	土師器	甕	(17.0)	—	(2.1)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P6
	5	土師器	甕	—	(15.0)	(7.5)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P8
F3	1	土師器	甕	—	(7.0)	(2.5)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P4
	2	土師器	甕	—	(7.0)	(1.8)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P2
	3	土師器	甕	(17.0)	—	(3.4)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P1
F6	1	土師器	甕	(17.0)	—	(3.4)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P6
	2	土師器	甕	(12.2)	—	(3.0)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P8
F7	1	土師器	甕	(11.4)	—	(4.2)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P1
	2	土師器	甕	—	(12.0)	(3.0)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P4
	3	土師器	甕	—	(8.0)	(0.8)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P4
	4	土師器	甕	—	(2.3)	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P1
	5	土師器	甕	(7.0)	—	(4.0)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P4
F8	1	土師器	甕	(14.6)	7.2	5.0	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P2
	2	土師器	甕	—	(7.0)	(1.6)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P2
	3	土師器	甕	—	(11.0)	(2.6)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P6
	4	土師器	甕	—	(5.0)	(5.0)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P6
F9	1	土師器	甕	—	(9.0)	(1.4)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P7
	2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
F13	1	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
D9	1	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
M1	1	土師器	甕	11.0	6.1	1.0	118.64	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	2	土師器	甕	(8.3)	(6.0)	(1.7)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	3	土師器	甕	—	(11.8)	(1.2)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	F2 P1
M2	1	土師器	甕	—	(8.2)	(1.9)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
M3	1	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
	3	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	—
単P G	1	土師器	甕	—	(6.0)	(2.0)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	P66
	G-1	土師器	甕	—	(12.6)	(6.3)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	か19
	G-2	土師器	甕	—	—	—	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	え23
	G-3	土師器	甕	—	—	(2.1)	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	か26
	G-4	土師器	甕	11.2	—	3.3	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	き29
	G-5	土師器	甕	(13.8)	(6.8)	4.05	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	か28
	G-6	土師器	甕	(16.2)	7.6	5.6	—	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	か28 No.1
G-7	土師器	甕	2.4	1.7	0.4	0.87	ハラケ目→ハラナデ	ハラケズリ	完全実測	え24	

第23表 H57 (2) ・H58、F2 ・F3 ・F6 ~F9 ・F13、D9、M1 ~M3、単独ピット、グリット遺物一覧表



H1 Ⅲ区セクション (西より)



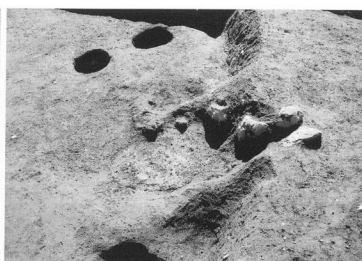
H1 遺物出土状況 (南より)



H1 カマド崩壊状況 (東より)



H1 カマド崩壊状況 (北より)



H1 カマド完掘 (東より)



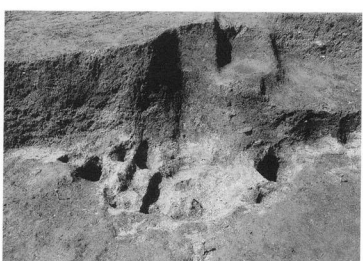
H1 カマド堀方 (東より)



H1 堀方出土63.刀子 (北より)



H2 カマド (東より)



H2 床下住居カマド堀方 (南より)



H2 床下住居カマド堀方 (東より)



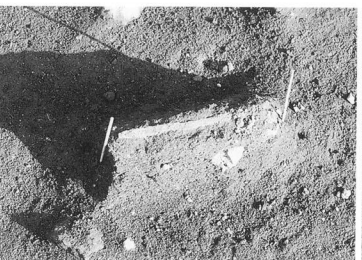
H2 床下住居堀方 (西より)



H3 カマド (南より)



H3 カマド (東より)



H3 44.刀子 (北より)



H3 42.鉄軸 (東より)



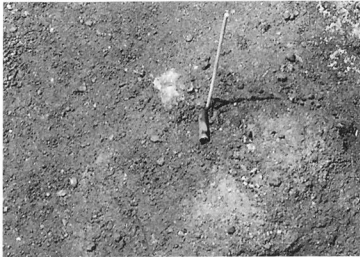
H3 カマド堀方 (南より)



H3 堀方 (南より)



H4 P2出土9.銚 (北より)



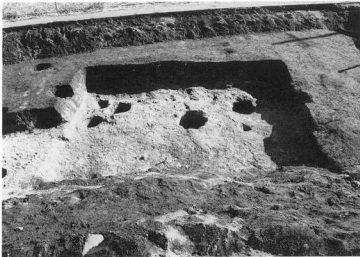
H4 21.管玉 (東より)



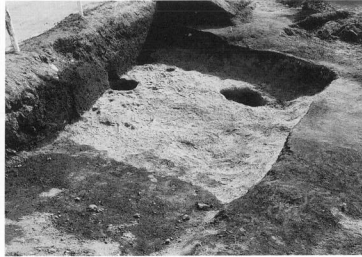
H4 完掘 (西より)



H4 完掘 (西より)



H4 堀方 (西より)



H4 南西コーナー堀方 (北東より)



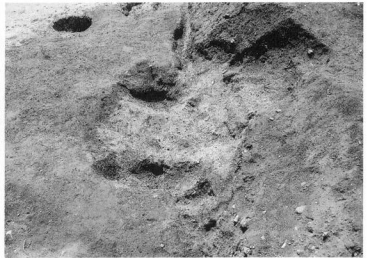
H5 Ⅲ区セクション (西より)



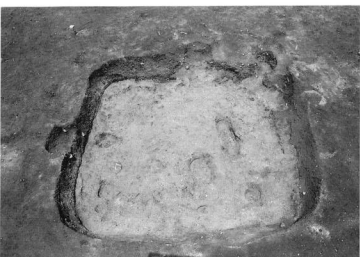
H5 カマド (東より)



H5 カマド堀方 (南より)



H5 カマド堀方 (東より)



H5 堀方 (南より)



H6 完掘 (南より)



H6 カマド堀方 (南より)



H6 カマド堀方 (東より)



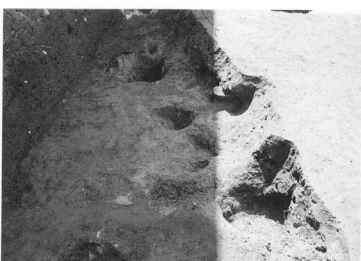
H6 堀方 (南より)



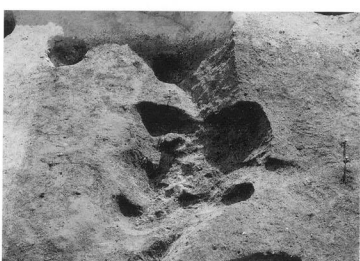
H7 完掘 (南より)



H8 カマド (東より)



H8 カマド堀方 (東より)



H8 旧カマド堀方 (東より)



H8 完掘 (南より)



H8 堀方 (南より)



H8 南側堀方 (北より)



H9 カマド完掘 (南より)



H9 カマド (東より)



H9 カマド堀方 (北より)



H9 北側堀方 (南より)



H9 南側堀方 (北より)

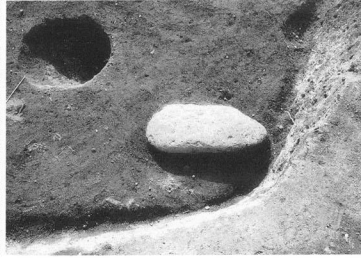


H10 床下カマド焼土 (北より)

図版四
H10・H13・H14・H16・H18号住居址



H10 カマド堀方(西より)



H10 北東隅置き石(北東より)



H10 堀方(南より)



H13 カマド(西より)



H13 カマド堀方(南より)



H13 堀方(南より)



H14 カマド完掘(東より)



H14 カマド堀方(東より)



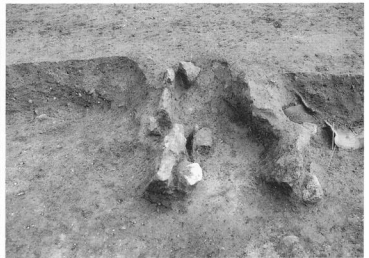
H14 カマド堀方(南より)



H16 遺物出土状況(北より)



H16 遺物出土状況(南より)



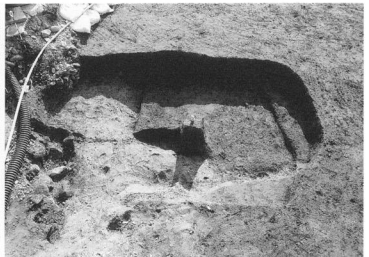
H16 カマド(南より)



H16 カマド堀方(南より)



H18 カマド完掘(西より)



H18 堀方(東より)



H20 カマド (西より)



H20 カマド完掘 (南より)



H21 I区セクション (東より)



H21 完掘 (南西より)



H21 カマド完掘 (東より)



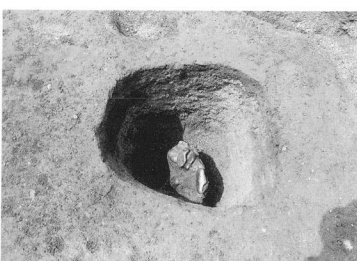
H21 カマド完掘 (北より)



H21 P2埋石 (北より)



H21 P12貯穴 (西より)



H21 P12貯穴完掘 (南より)



H21 カマド堀方 (南より)



H21 完掘 (南東より)



H21 堀方 (南より)



H24 完掘 (南より)



H24 カマド完掘 (東より)



H24 カマド完掘 (東より)

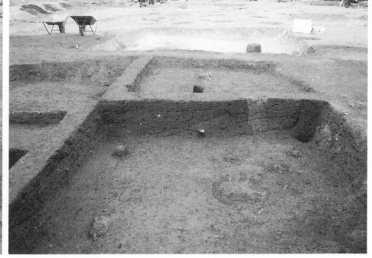
図版六
H 24
・ H 26
・ H 27
・ H 29
号住居址



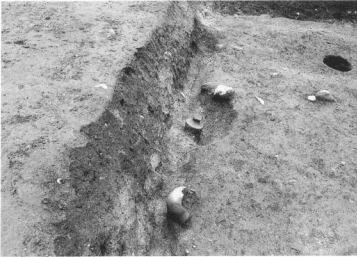
H24 カマド堀方 (西より)



H26 I区セクション (東より)



H26 III区セクション (西より)



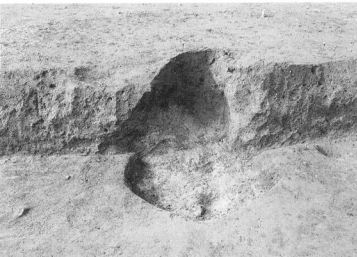
H26 出入口ピット (東より)



H26 カヤ状炭化物 (北より)



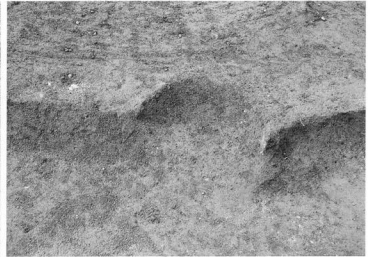
H26 カマド (南より)



H26 カマド堀方 (南より)



H26 カマド堀方 (東より)



H27 カマド (南より)



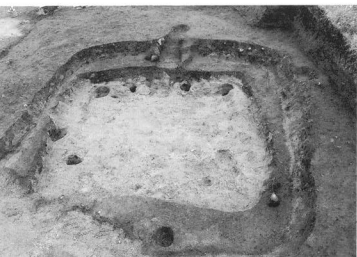
H27 カマド完掘 (西より)



H27 カマド堀方 (南より)



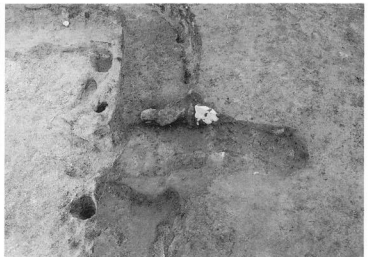
H27 カマド堀方 (東より)



H29 完掘 (南より)



H29 カマドセクション (東より)



H29 カマド (東より)



H29 カマド堀方 (東より)



H29 カマド堀方 (南より)



H33 カマド完掘 (東より)



H33 カマド堀方 (南より)



H36 カマド堀方 (南より)



H36 堀方 (南より)



H38 IV区セクション (東より)



H40 I区セクション (北東より)



H40 完掘 (南より)



H40 カマド (東より)



H40 カマド堀方 (東より)



H40 カマド堀方 (南より)



H40 堀方 (南より)



H41 I区セクション (東より)



H41 I区セクション (北より)

図版八
H41・H43・H46号住居址



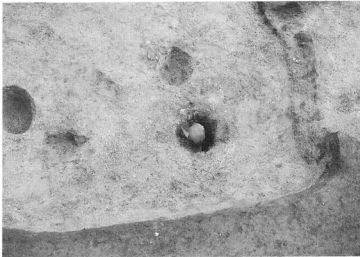
H41 北壁P17補修土セクション(東より)



H41 カマド(南より)



H41 カマド堀方(南より)



H41 P3出土11.糞(西より)



H43 遺物出土状況(北より)



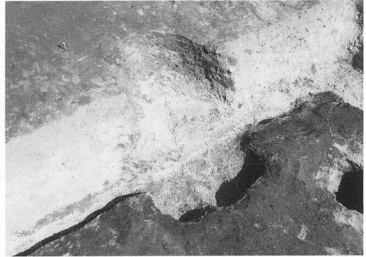
H43 遺物出土状況(東より)



H43 遺物出土状況(西より)



H43 完掘(南より)



H43 カマド堀方(南西より)



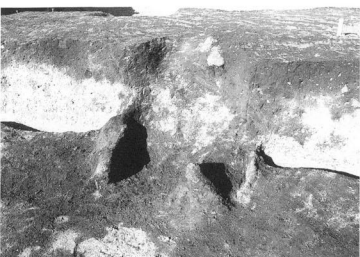
H43 堀方(西より)



H46 1須恵器杯(東より)



H46 P2カマド付近遺物(南より)



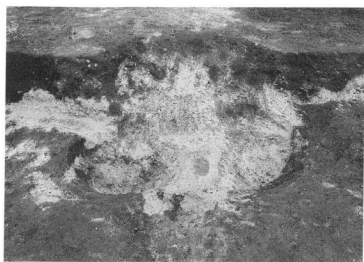
H46 カマド(南より)



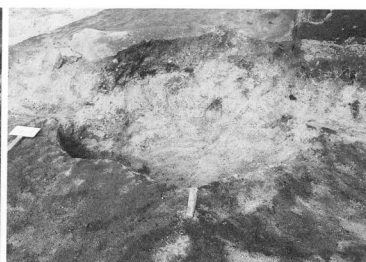
H46 カマド堀方(南より)



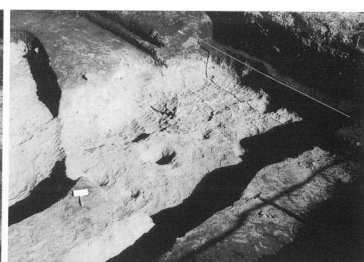
H46 堀方(南より)



H49 カマド堀方 (南より)



H50 カマド堀方 (南より)



H50 堀方 (南西より)



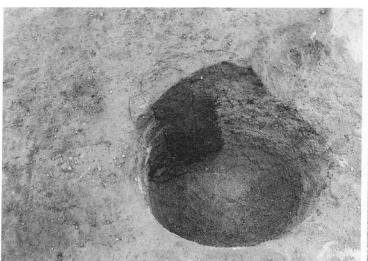
H52 石出土状況 (南より)



H54 カマド堀方 (南より)



F7 完掘 (西より)



F7 P4柱痕 (南より)



D1 セクション (東より)



D1 完掘 (東より)



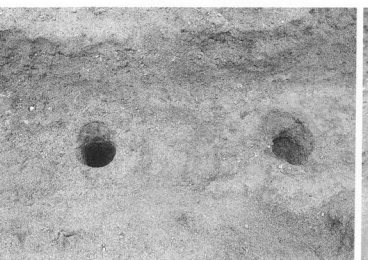
D2 セクション (東より)



D2 完掘 (東より)



D3 セクション (東より)



D3 柱痕 (東より)



D3 柱痕アップ (東より)



D3 完掘 (東より)

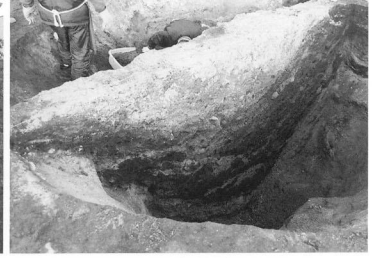
図版十
D3・D5・D7・D9号土坑、M1・M4号溝址、全景



D3 堀方（東より）



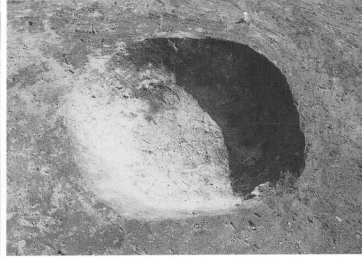
D5、M5 完掘（北より）



D7 セクション（南より）



D7 完掘（南より）



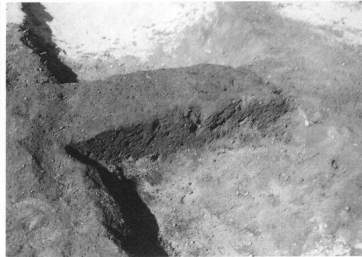
D9 完掘（南より）



M1 完掘（南西より）



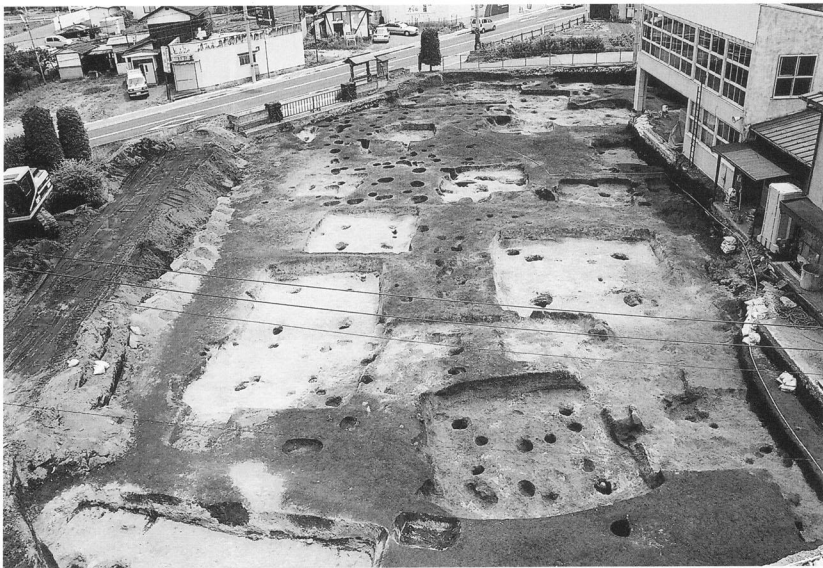
M1 南側セクション（南より）



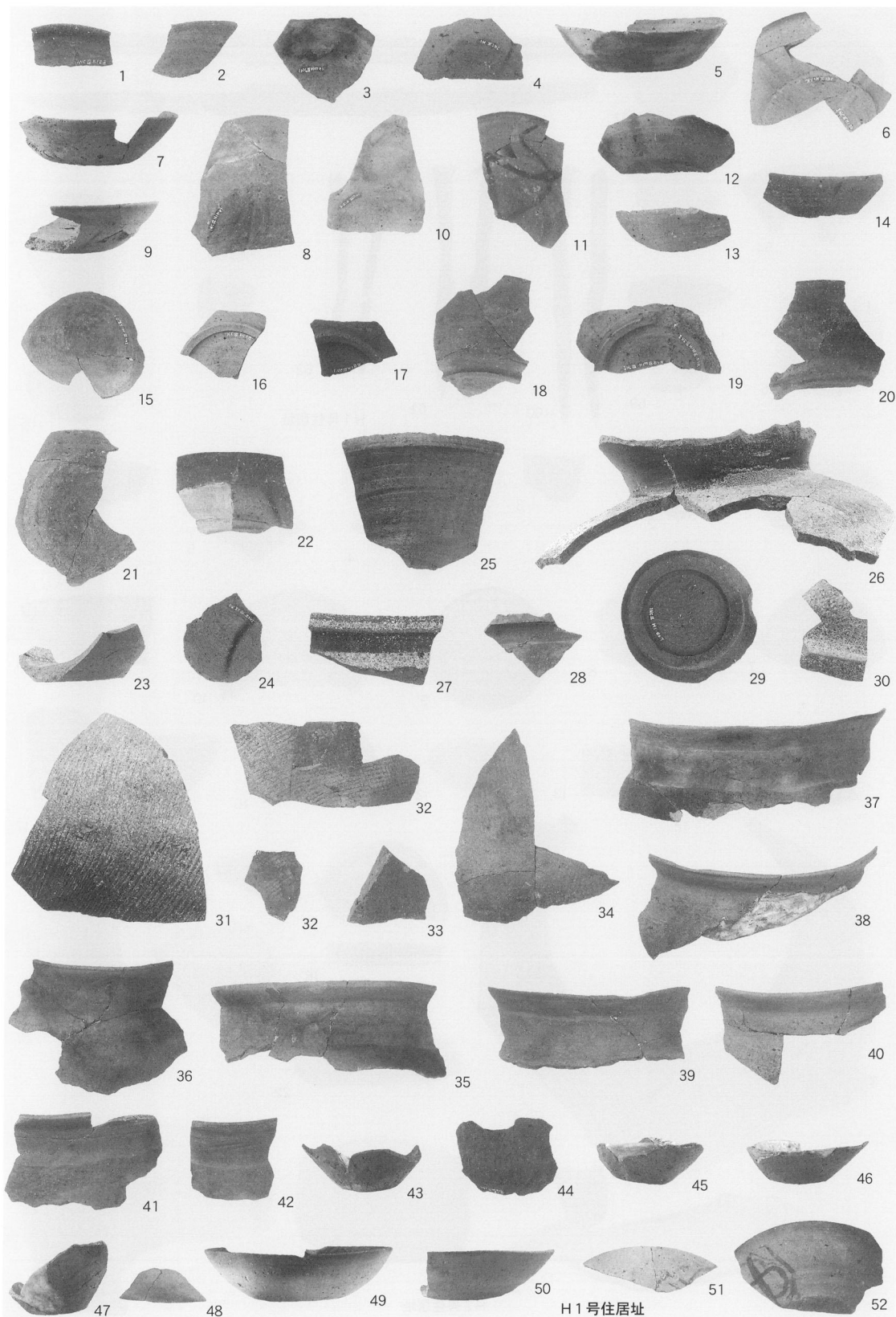
M1 北側セクション（南より）

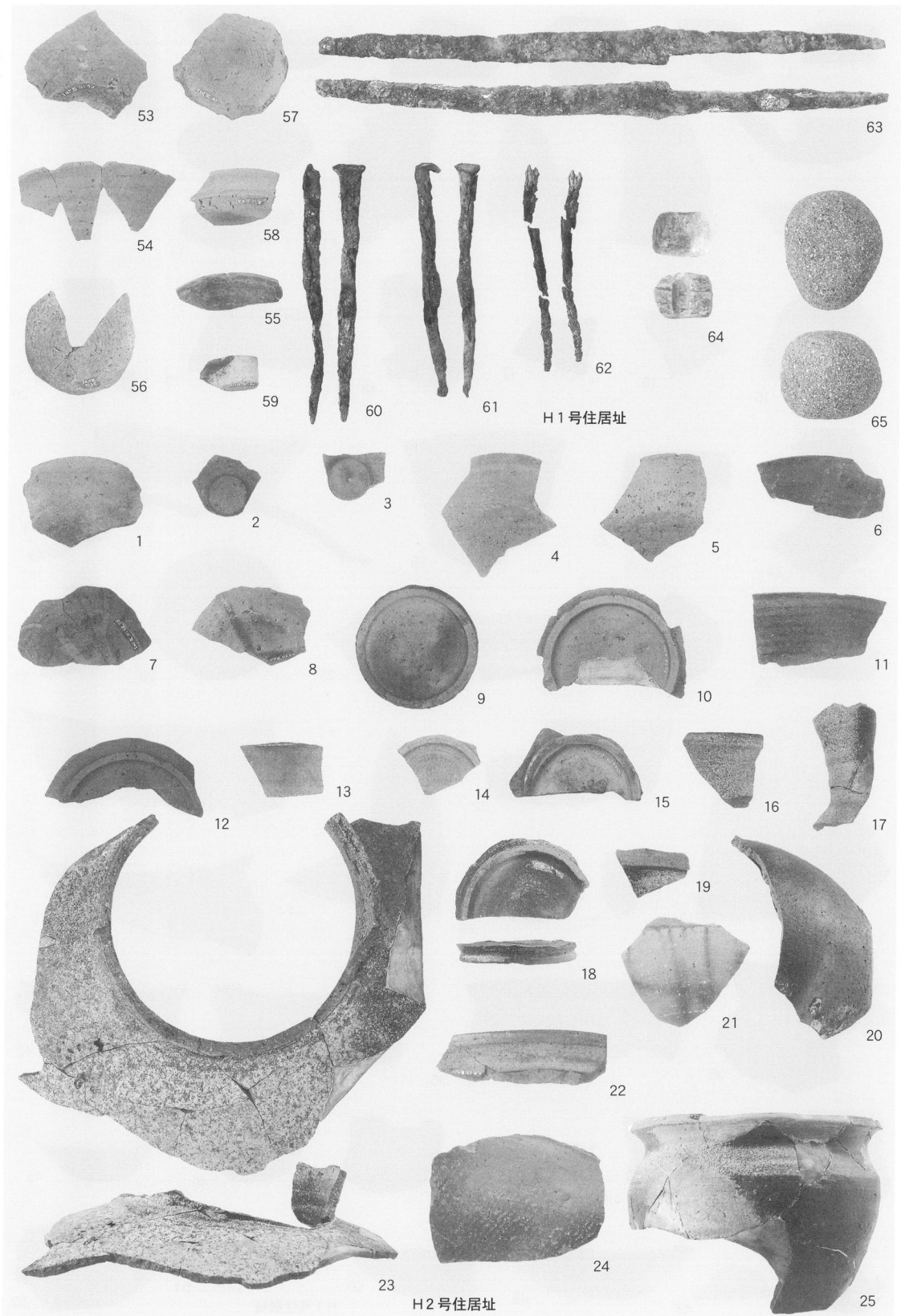


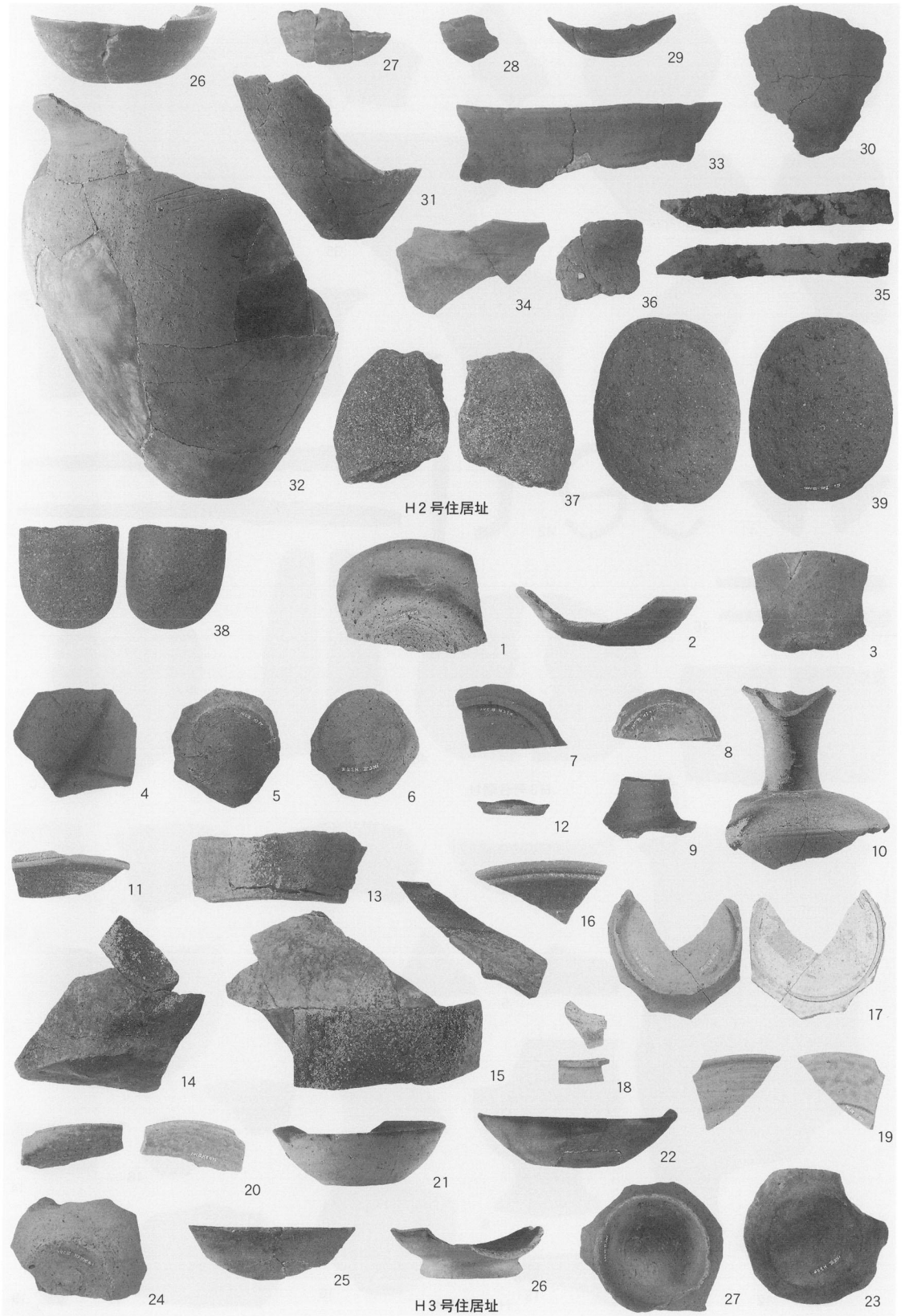
M4 完掘（南より）



INCⅢ 全景（西より）

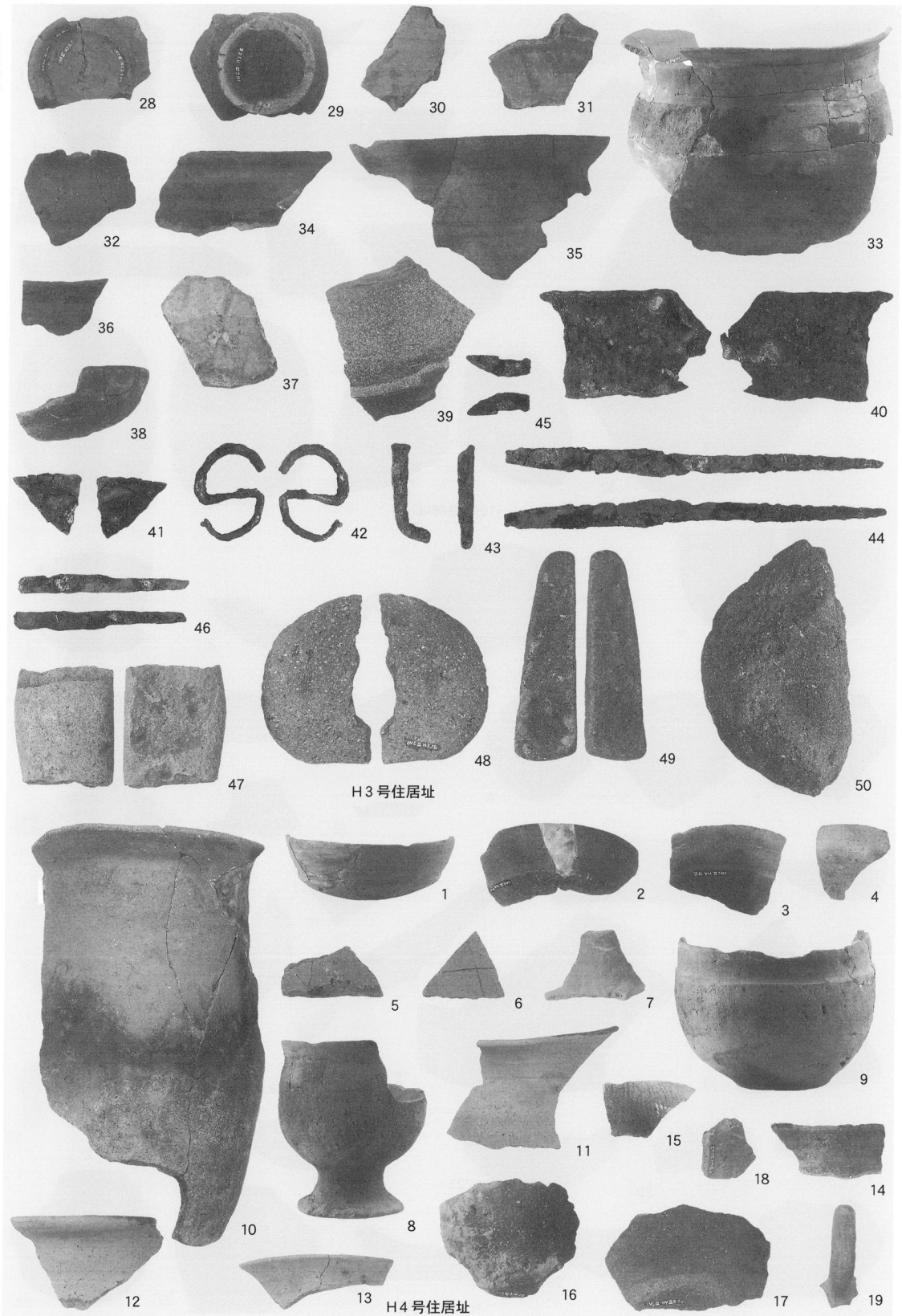


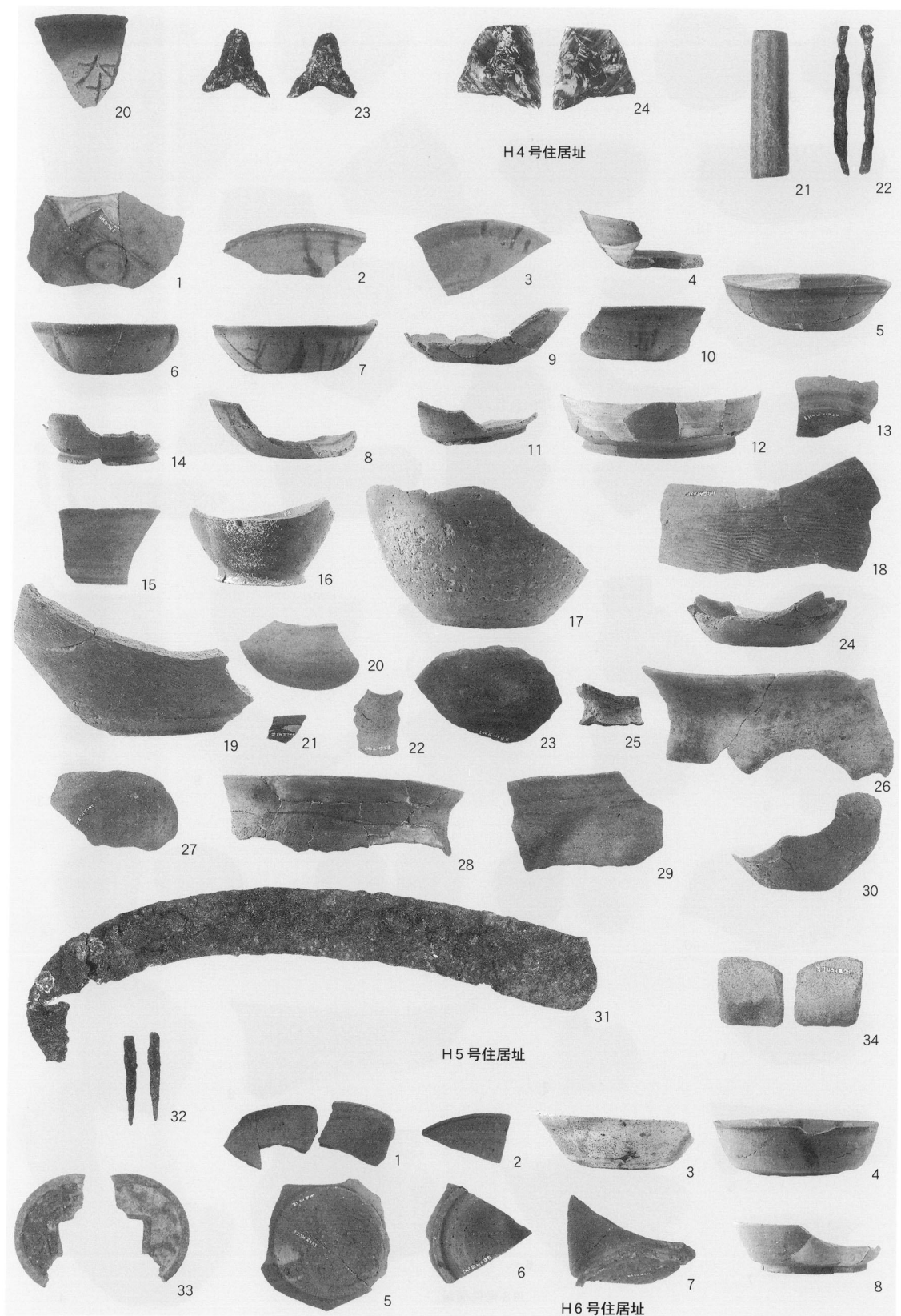


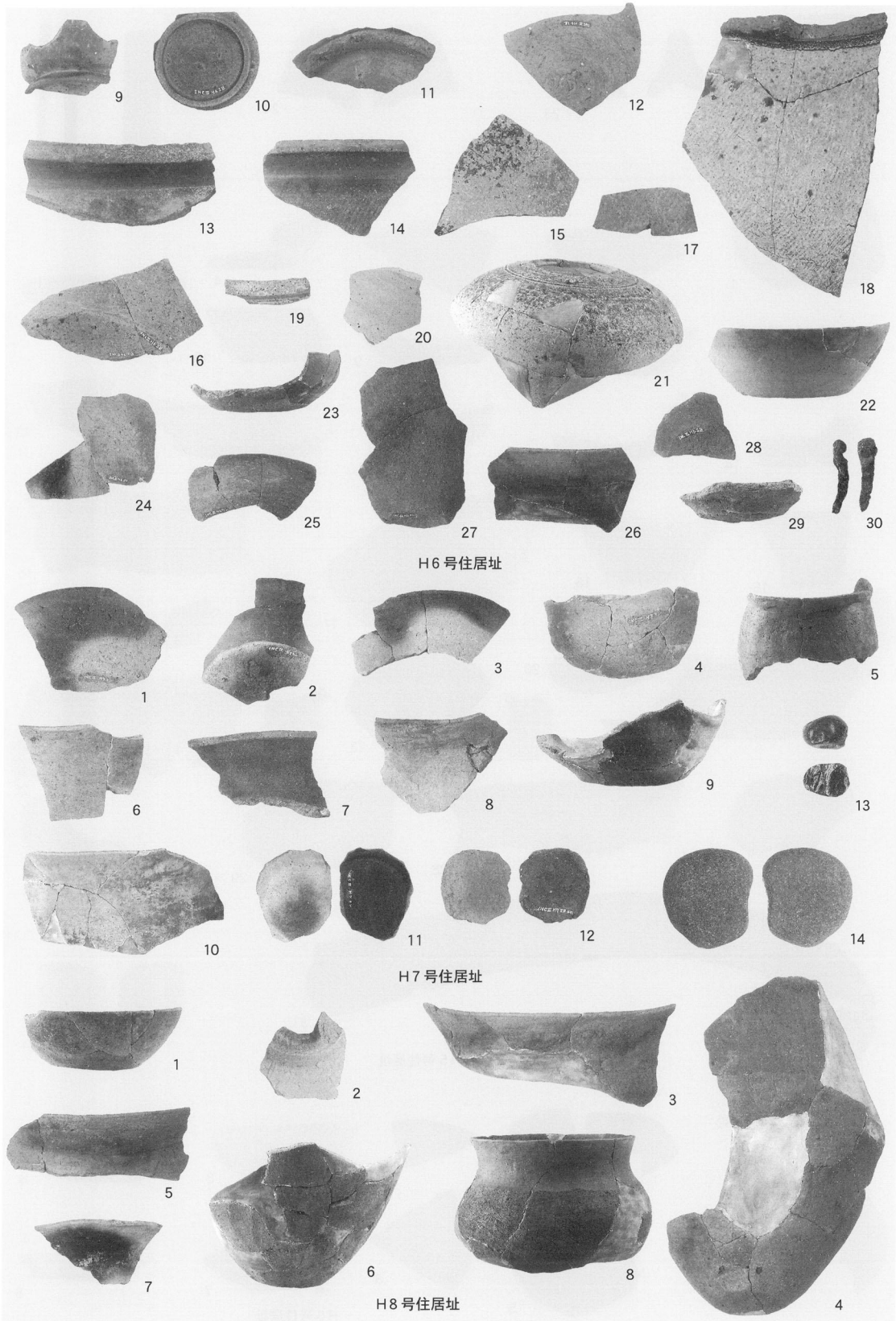


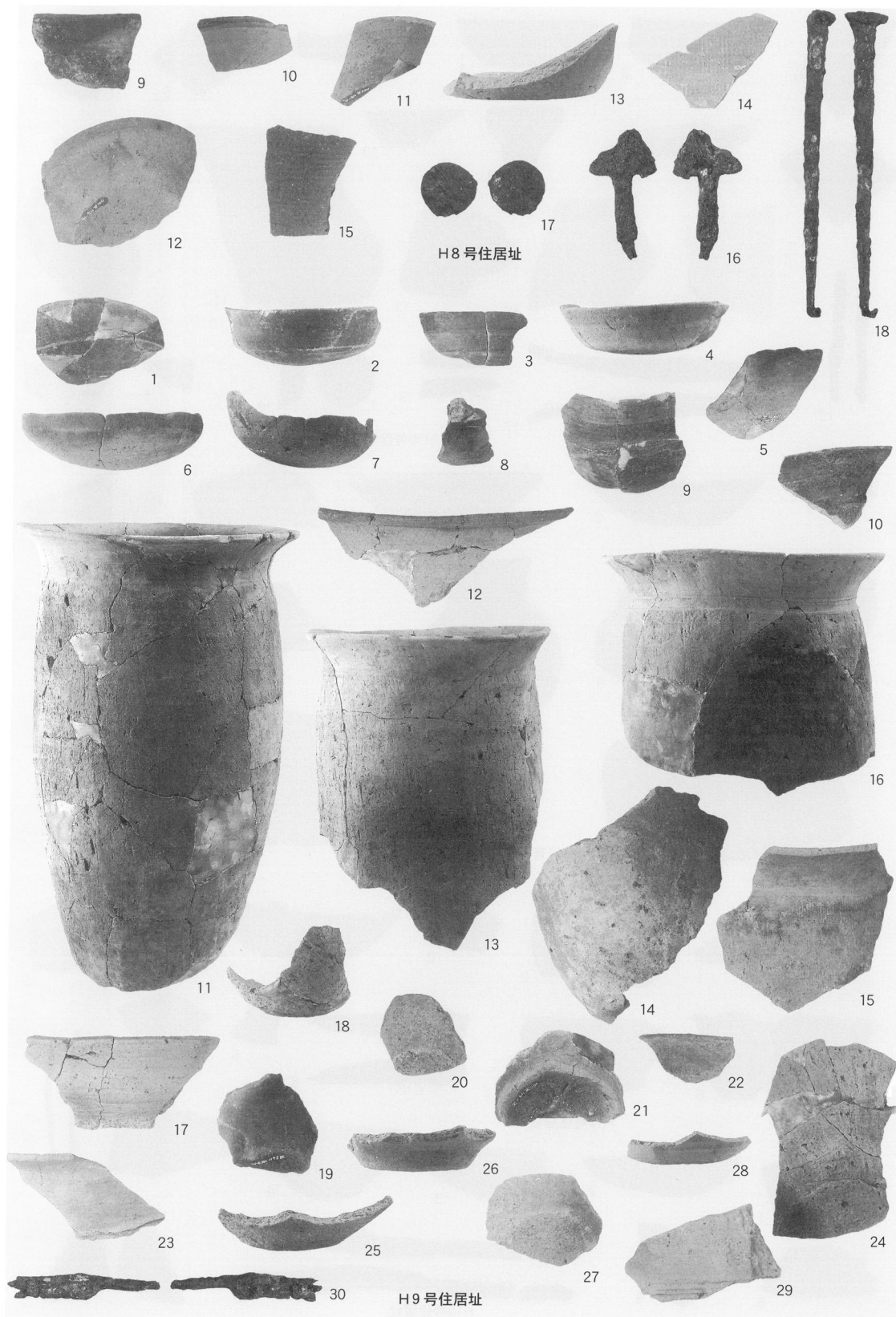
図版十四

H3(2)・H4(1)出土遺物



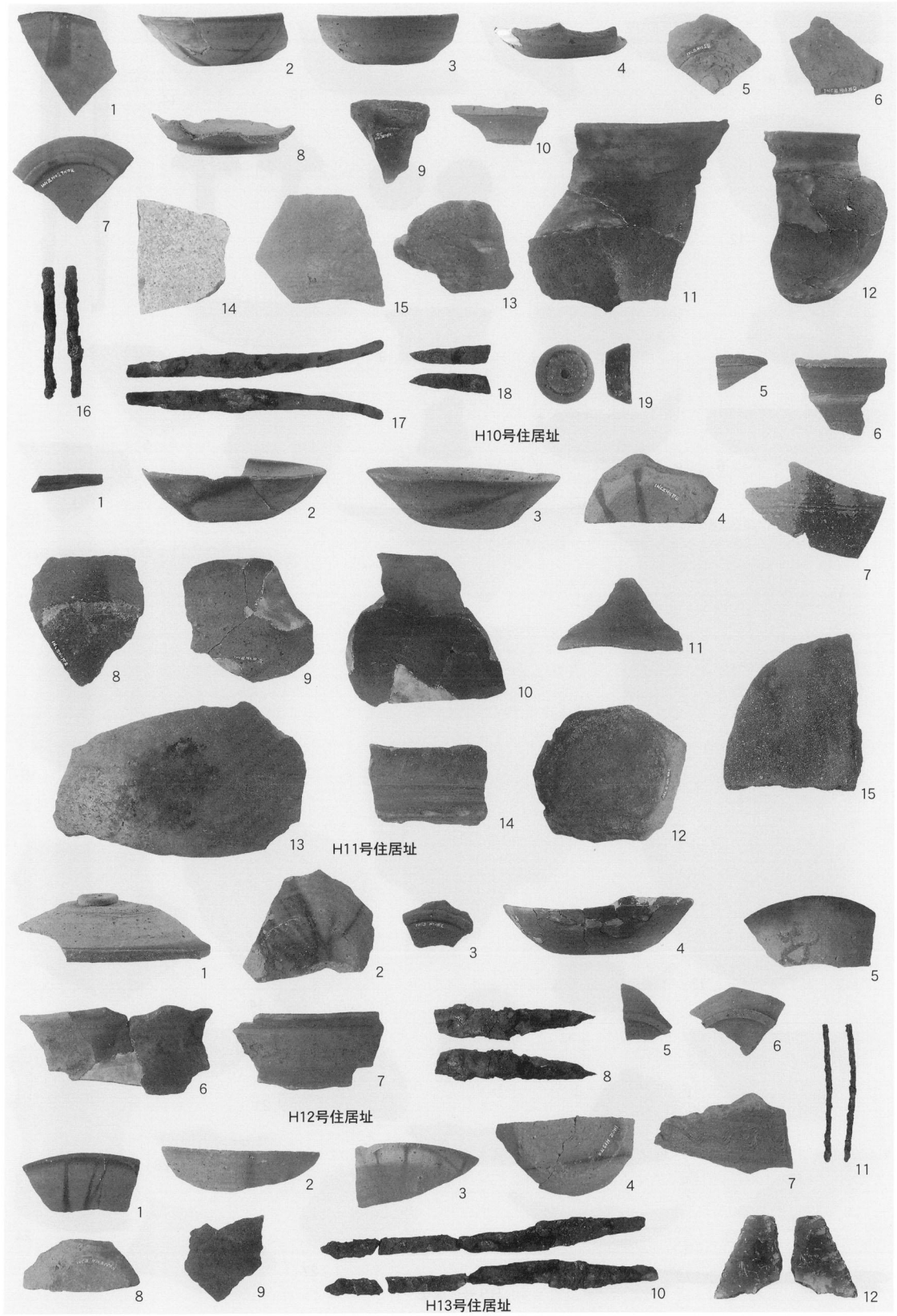


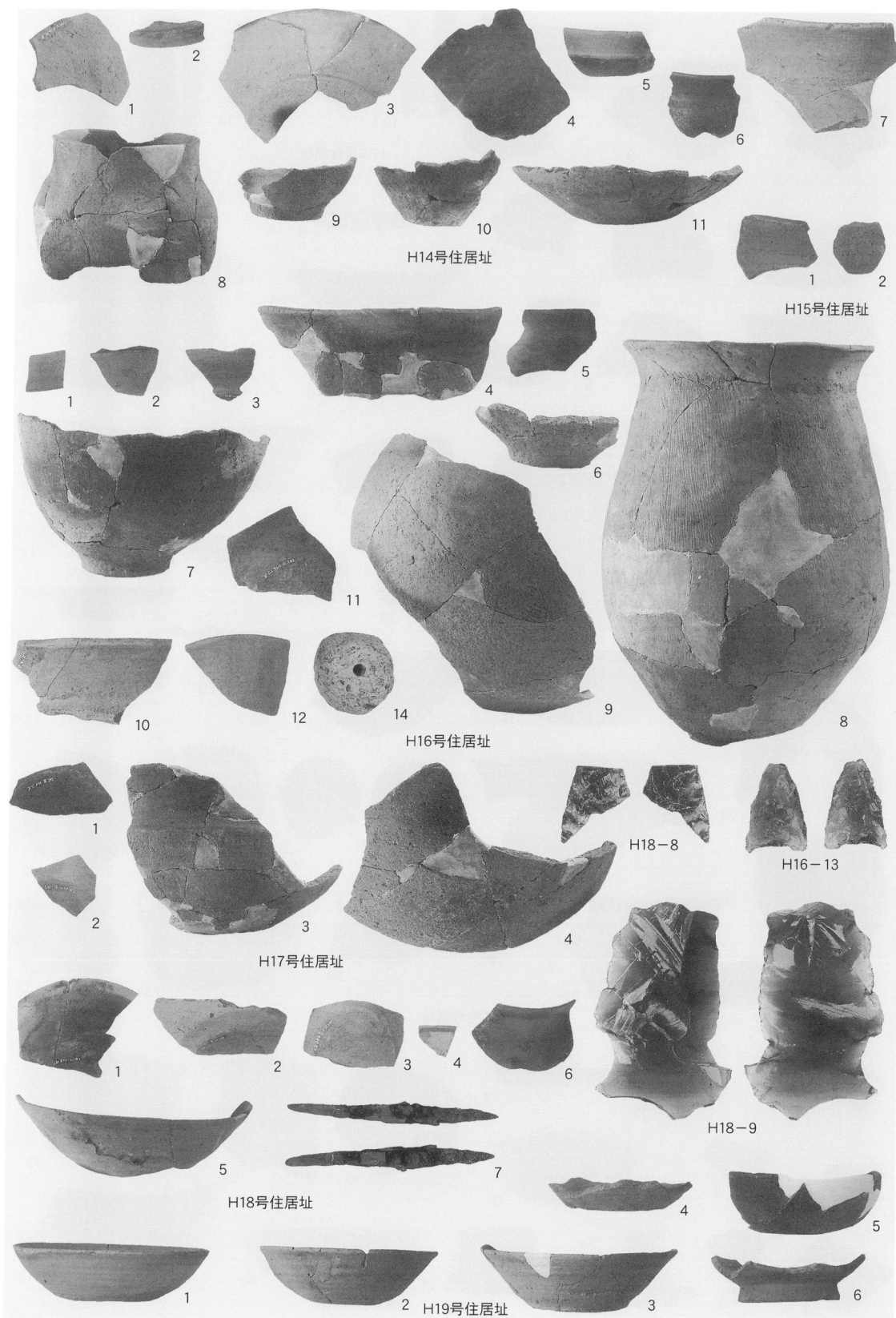


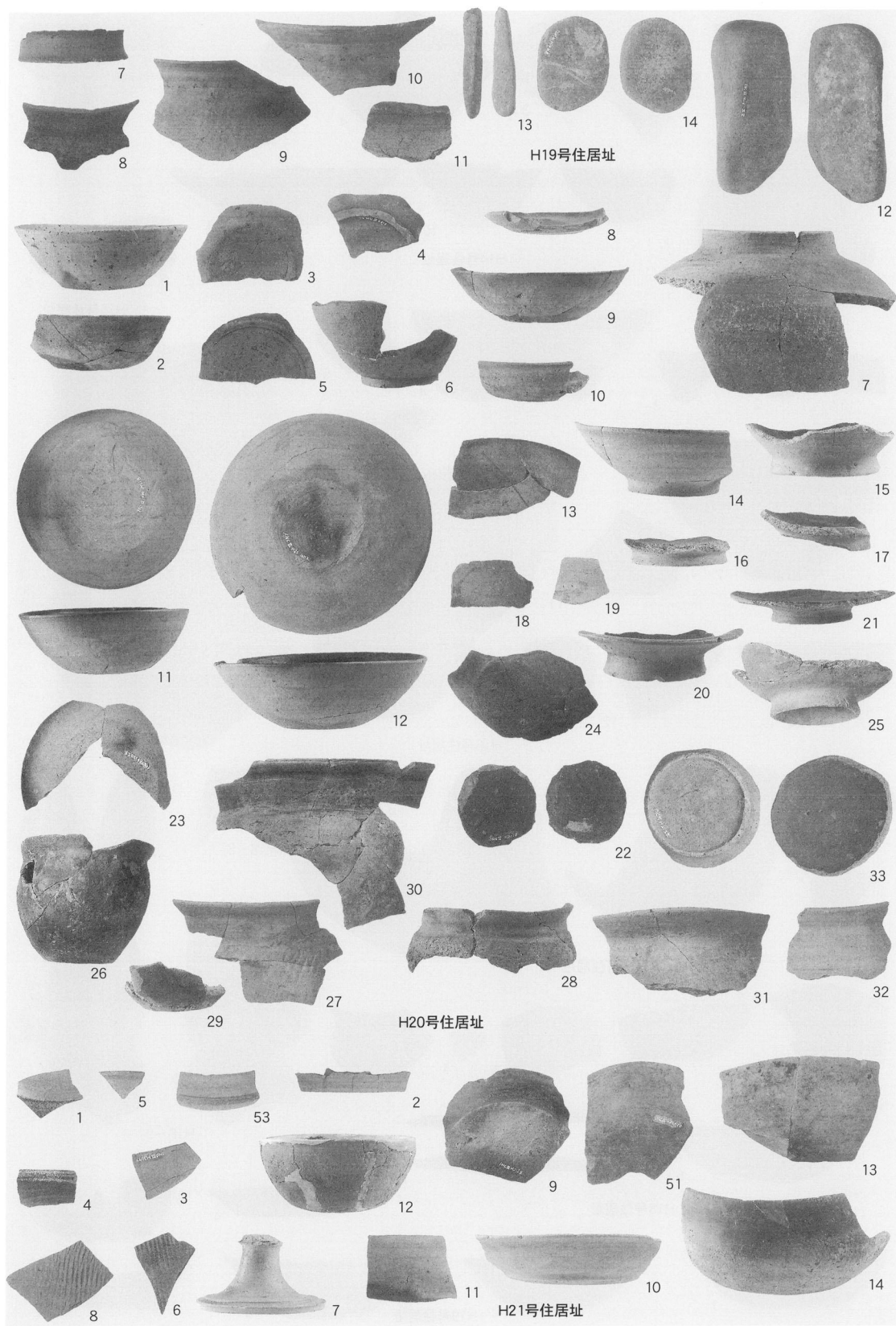


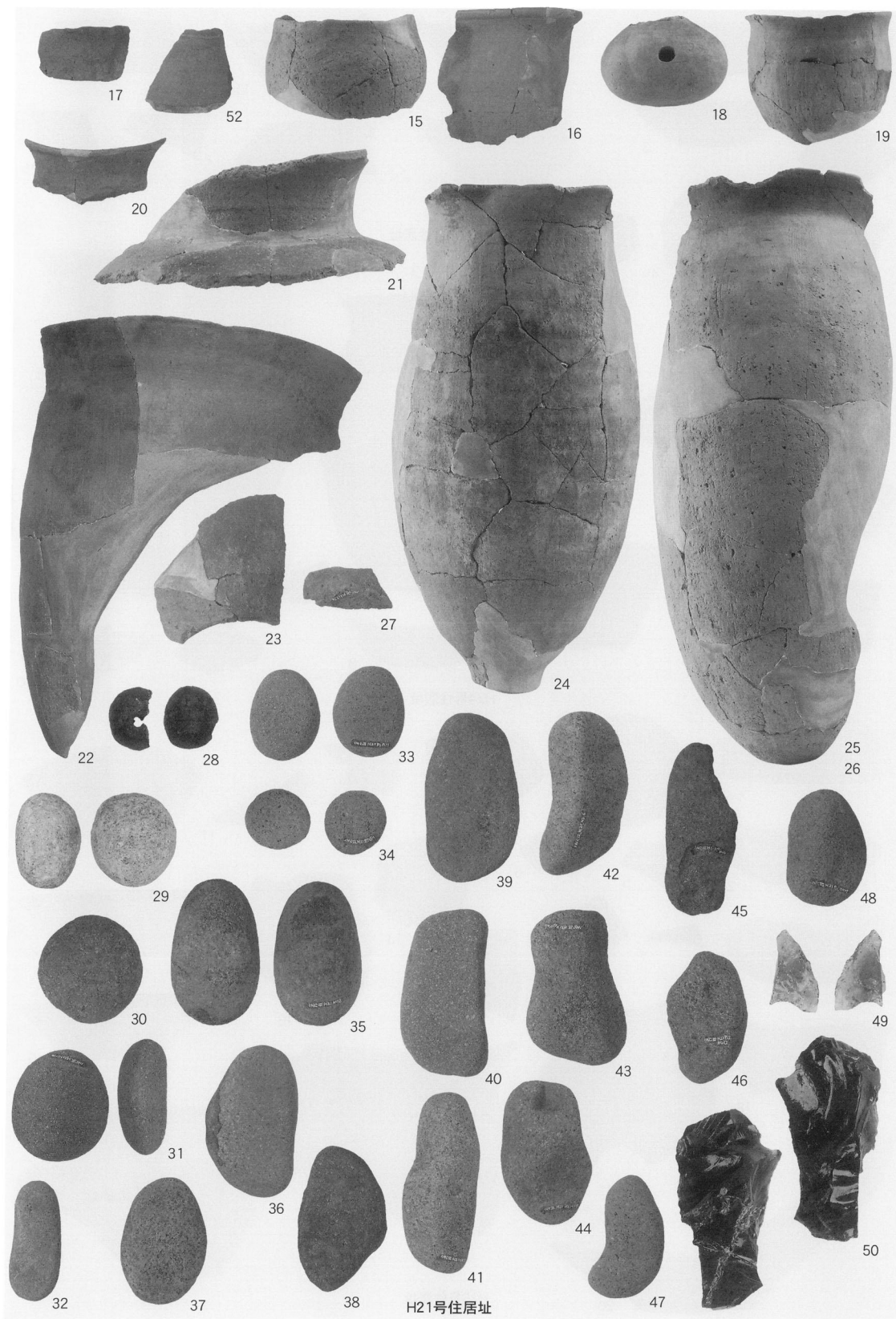
H8号住居址

H9号住居址

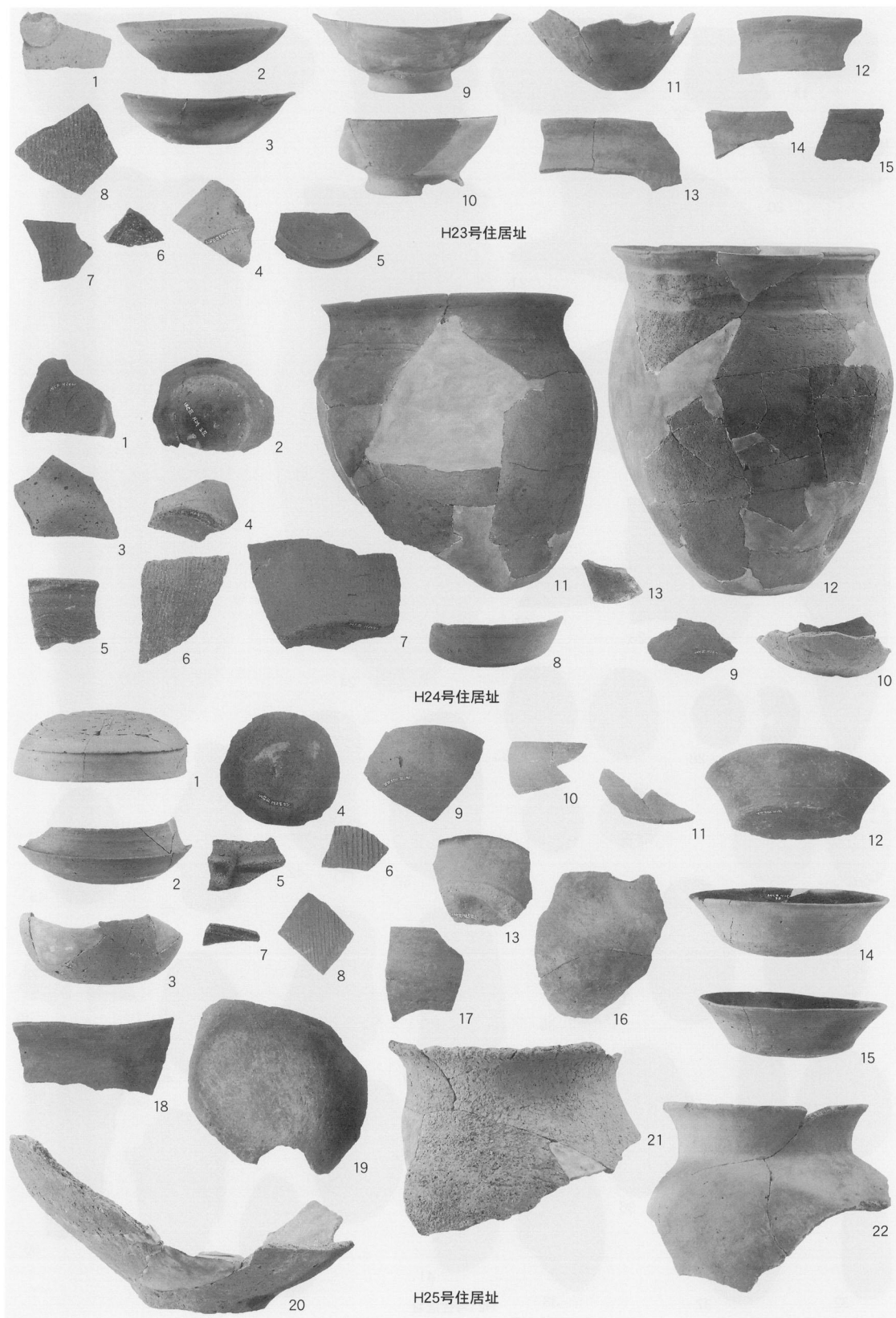


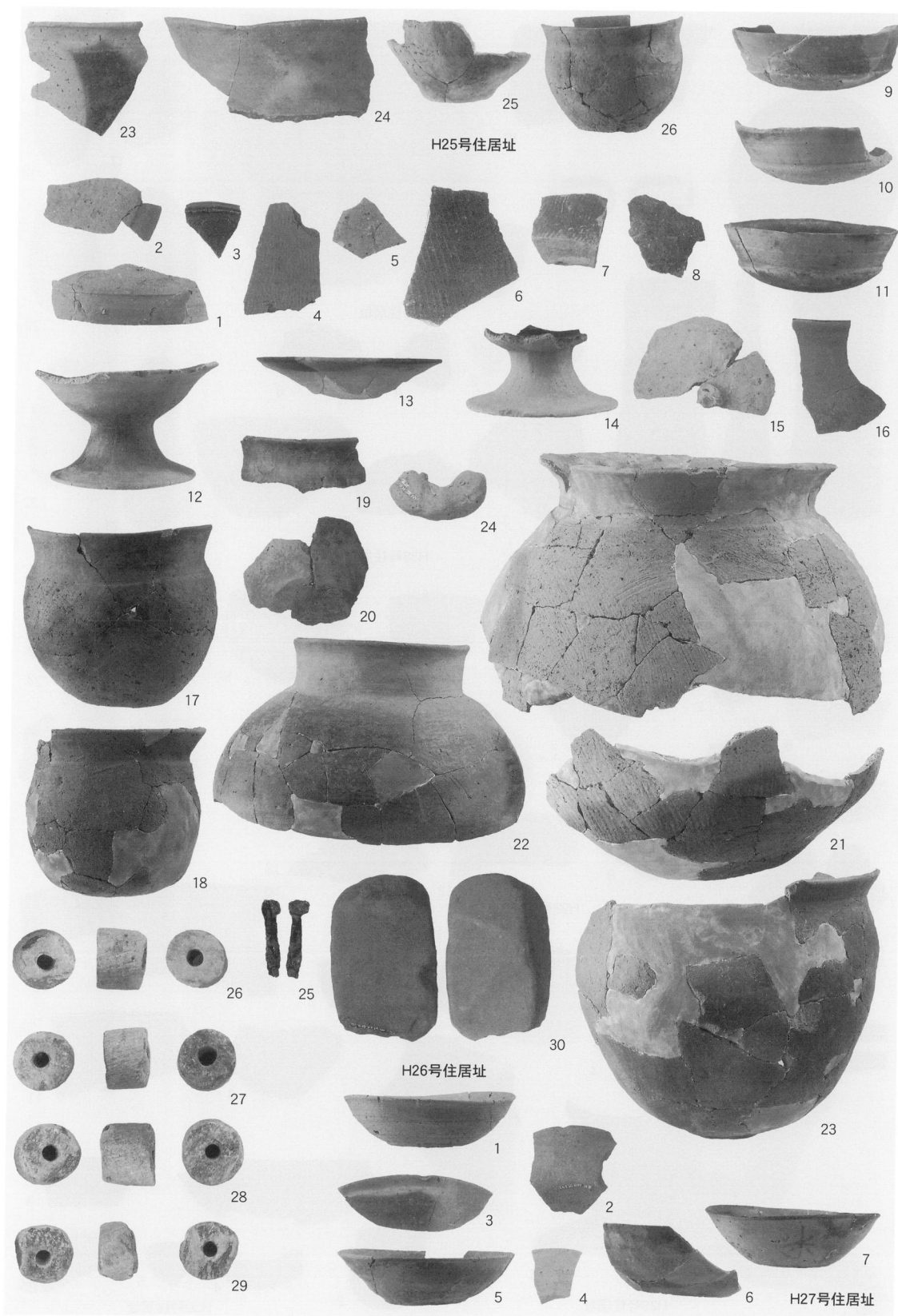




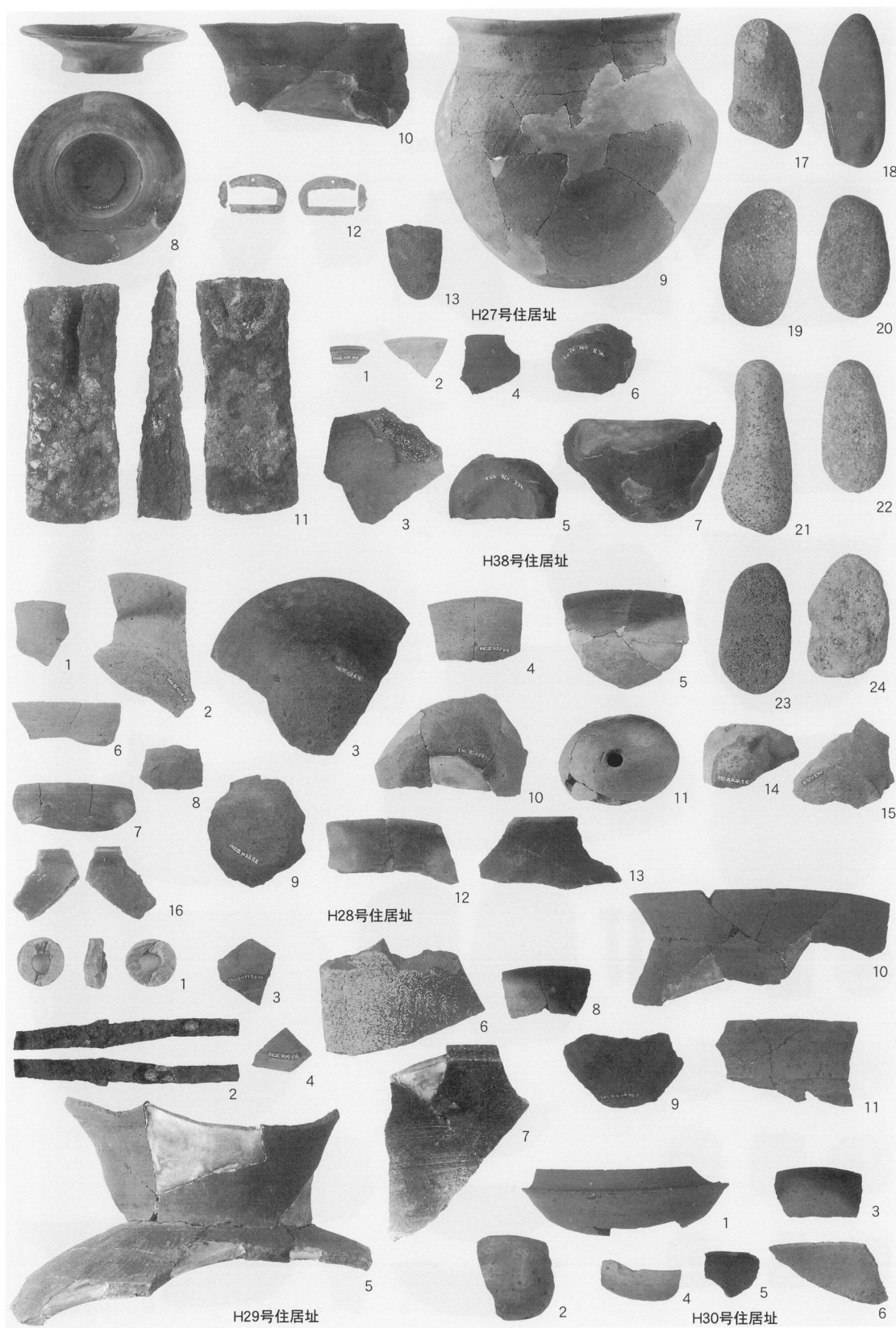


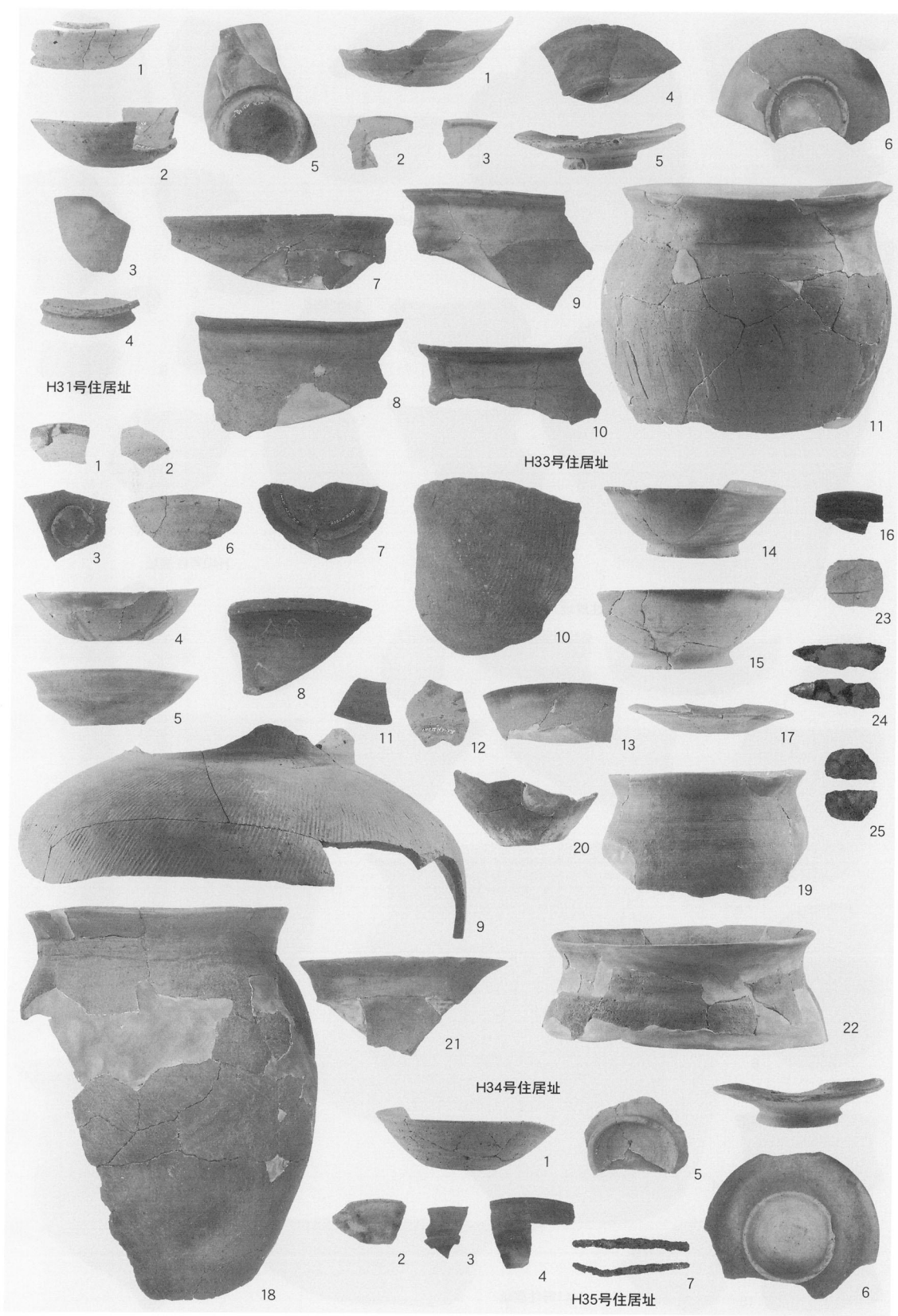
H21号住居址



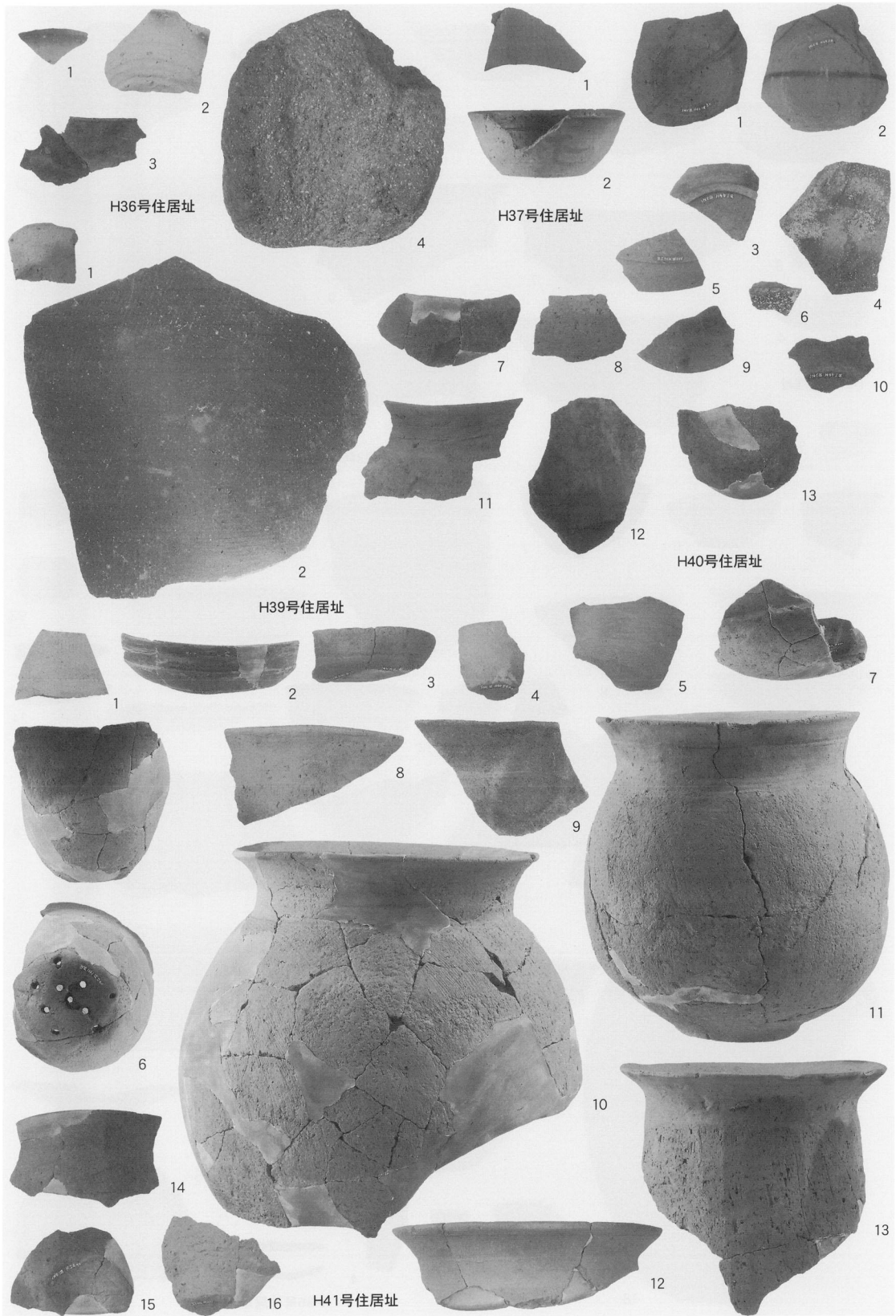


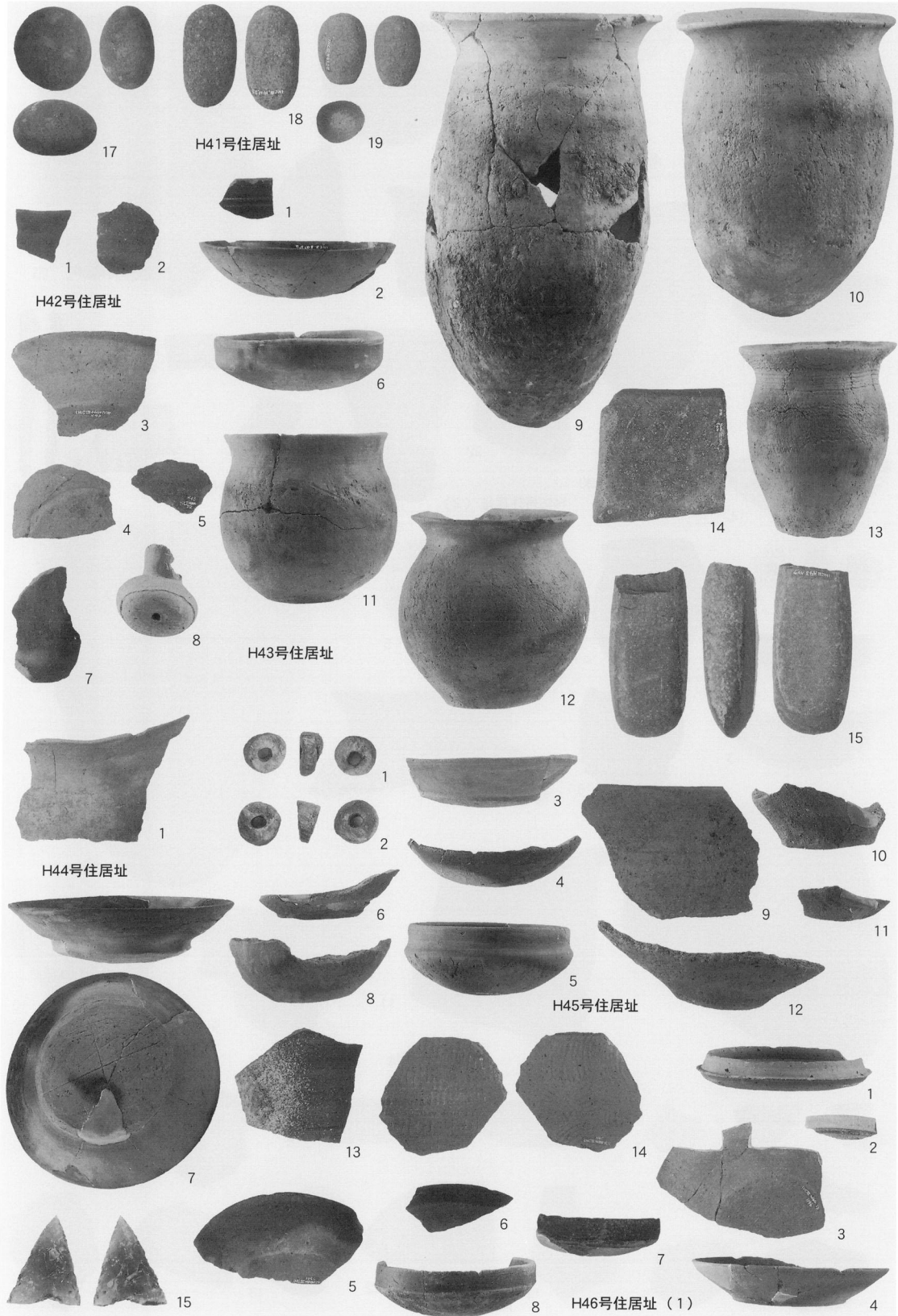
図版二十四 H 27 (2) ・ H 28 (2) ・ H 30 ・ H 38 出土遺物

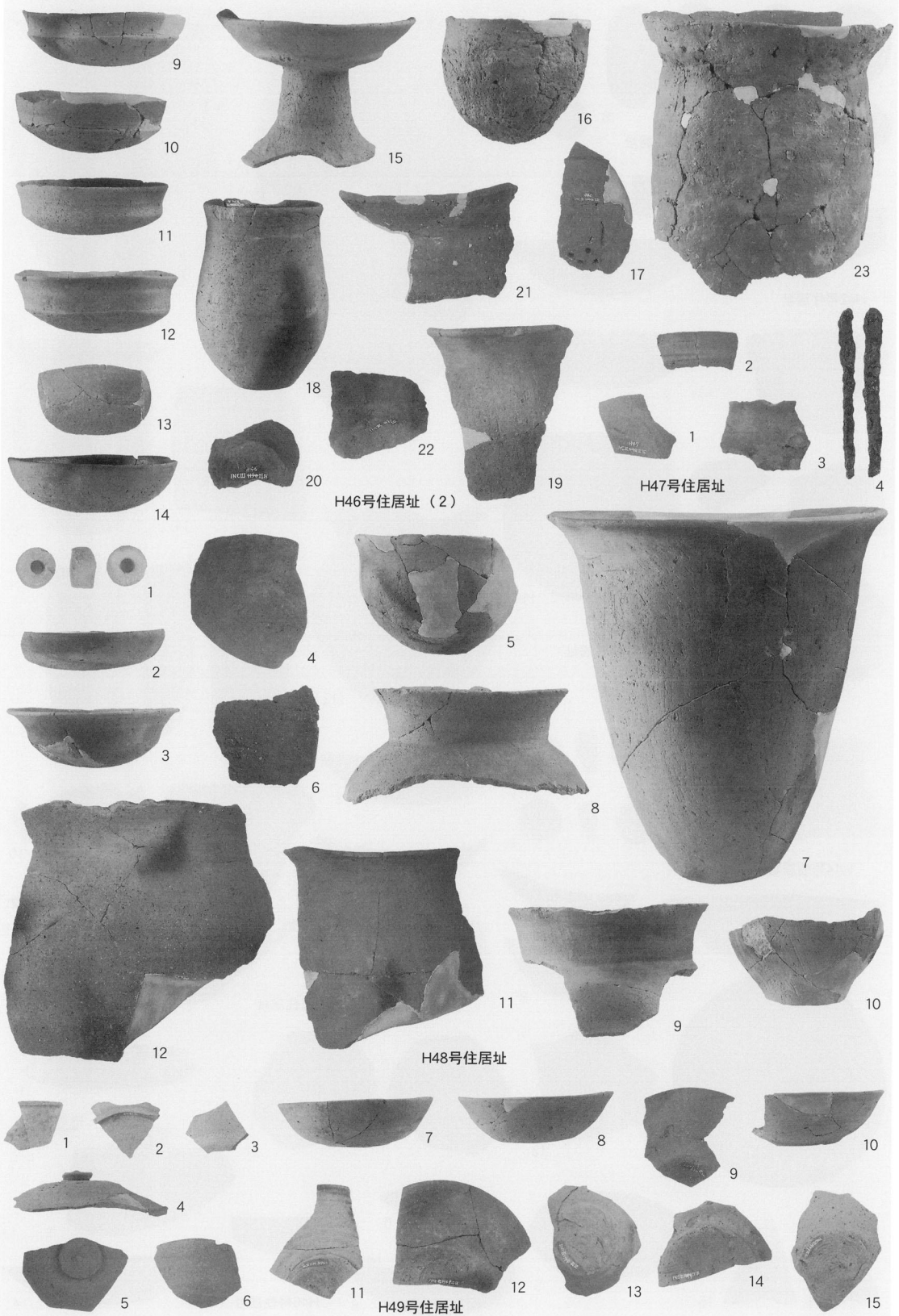


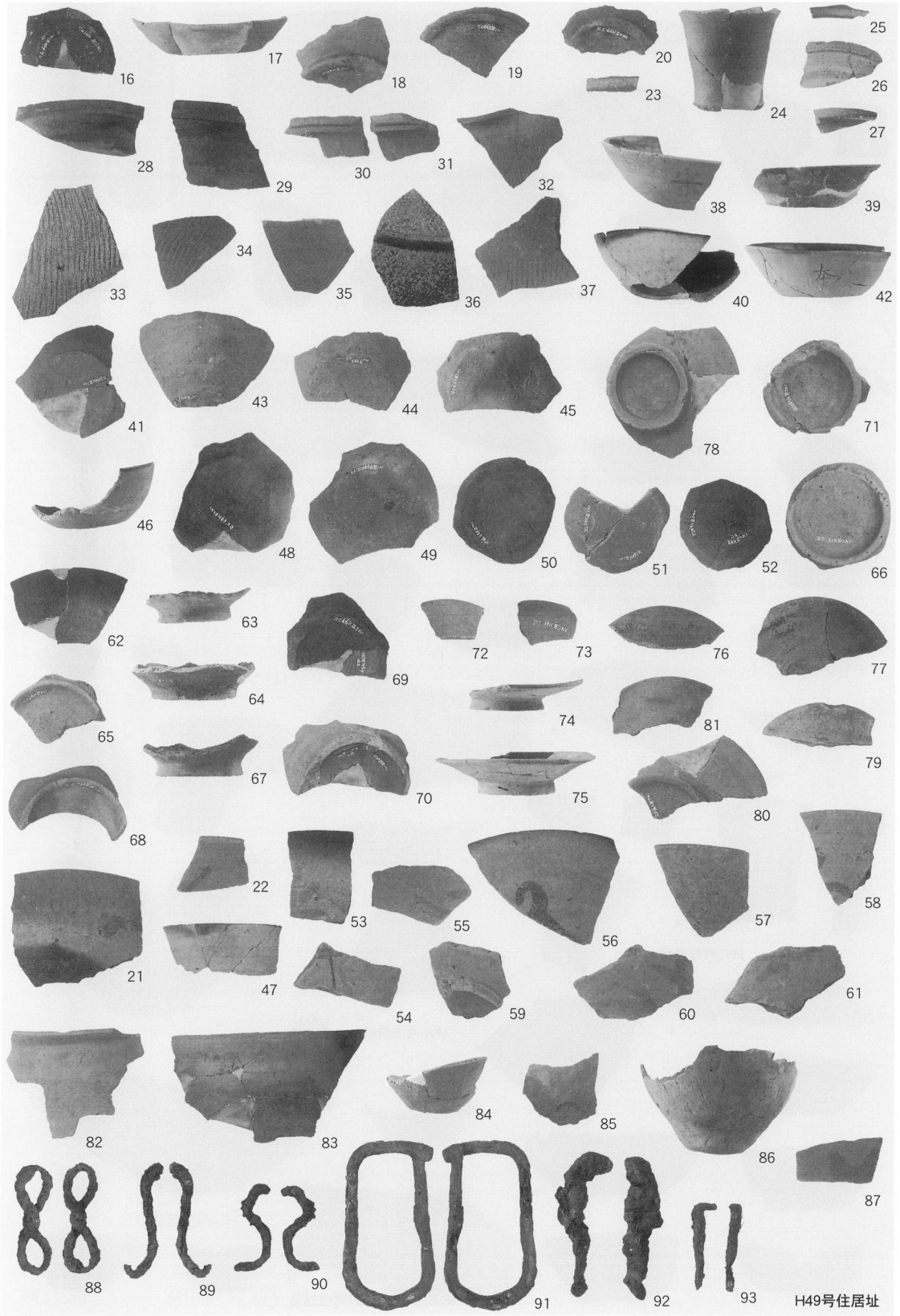


図版二十六
H 36・
H 37・
H 39
H 41 (I)
出土遺物

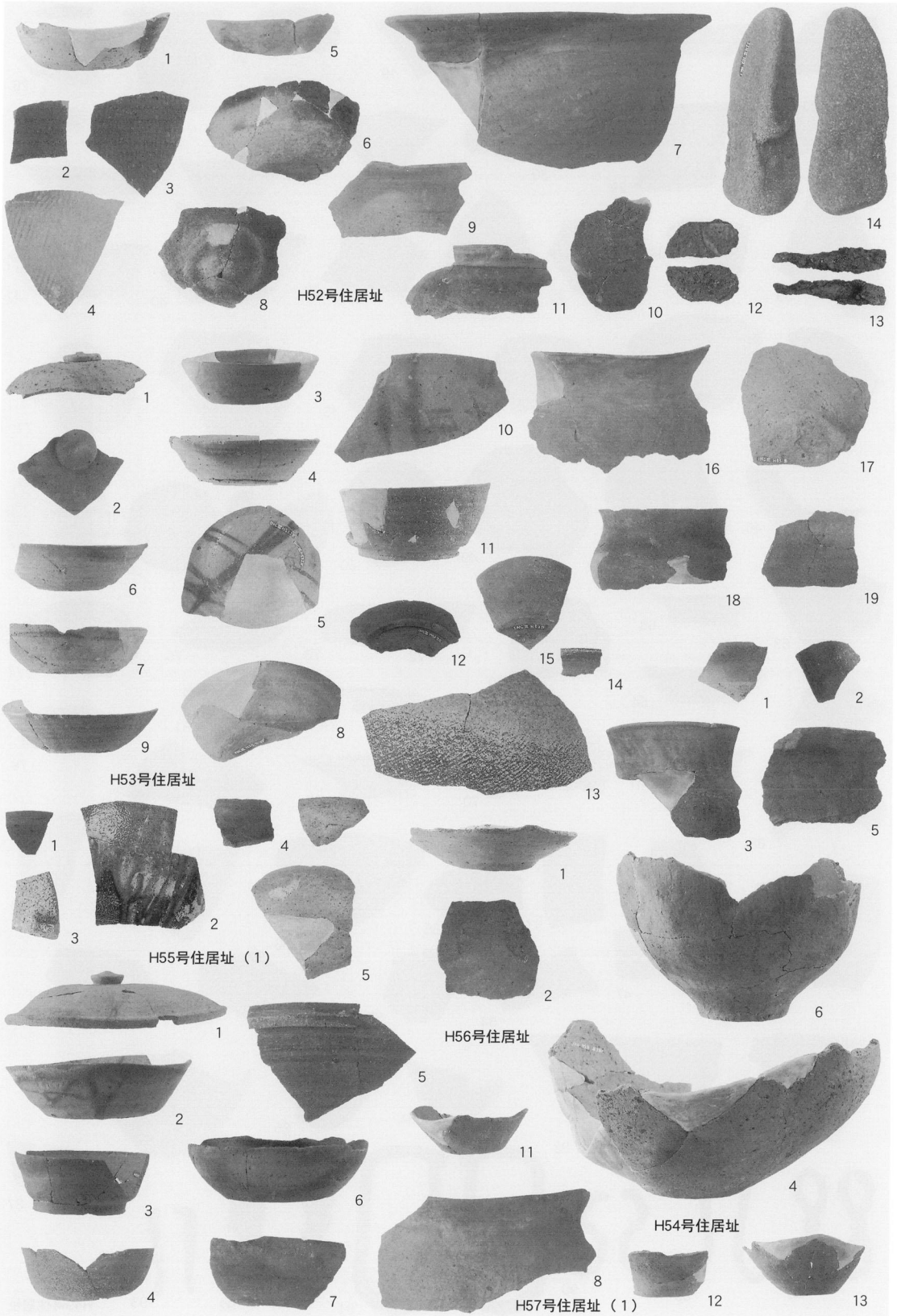


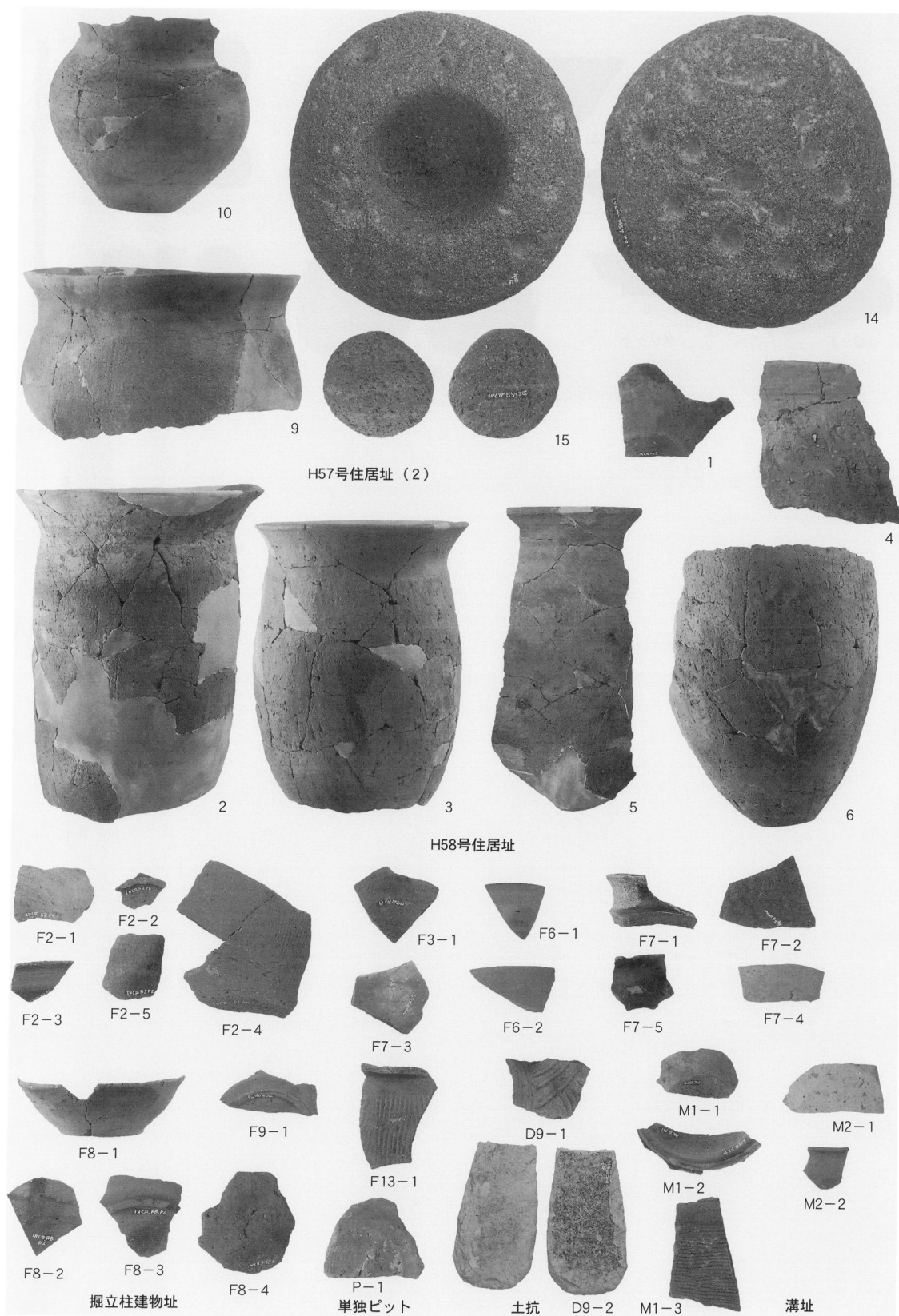




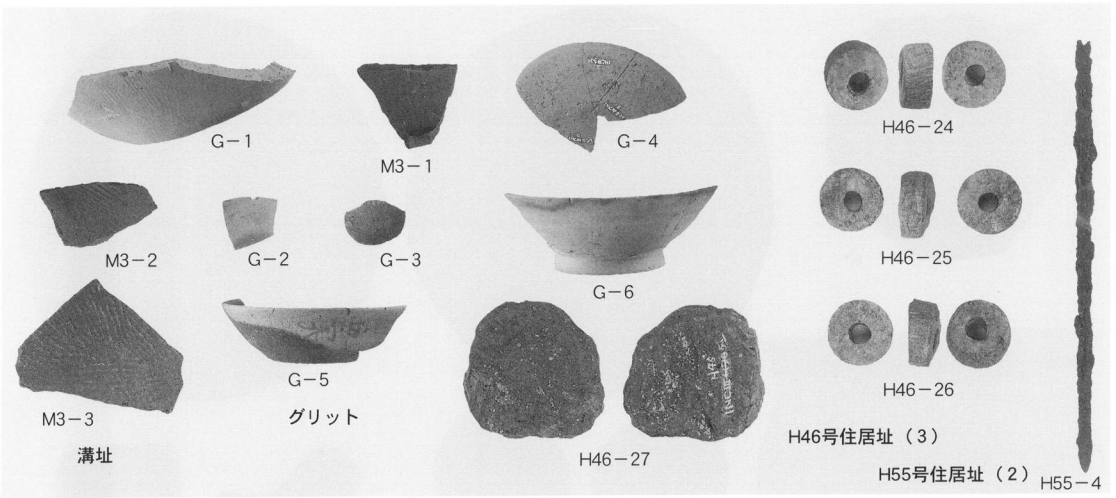


H49号住居址





図版三十二
H46(3)・H55(2)、溝址、グリット出土遺物



岩村田遺跡群 にしょう かまち 西八日町遺跡VII

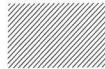
例 言

1. 本書は佐久市建設部都市計画課による、まちづくり交付金事業 都市計画道路千歳線3.5.16線道路整備に伴う岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市中込3056 佐久市建設部都市計画課
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地
岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ（I N CⅦ）
佐久市岩村田2130-6
5. 発掘調査担当者 現場作業 平成19年度 森泉 かよ子
整理作業 平成19～21年度 上原 学
6. 編集・執筆は上原が行った。
7. 本遺跡に関する資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略称は以下の通りである。
Hー 竪穴住居址 Fー 掘立柱建物址 Mー 溝状遺構 Dー 土坑 Pー ピット
2. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺 構 地山断面



焼土



遺 物 須恵器断面



黒色処理



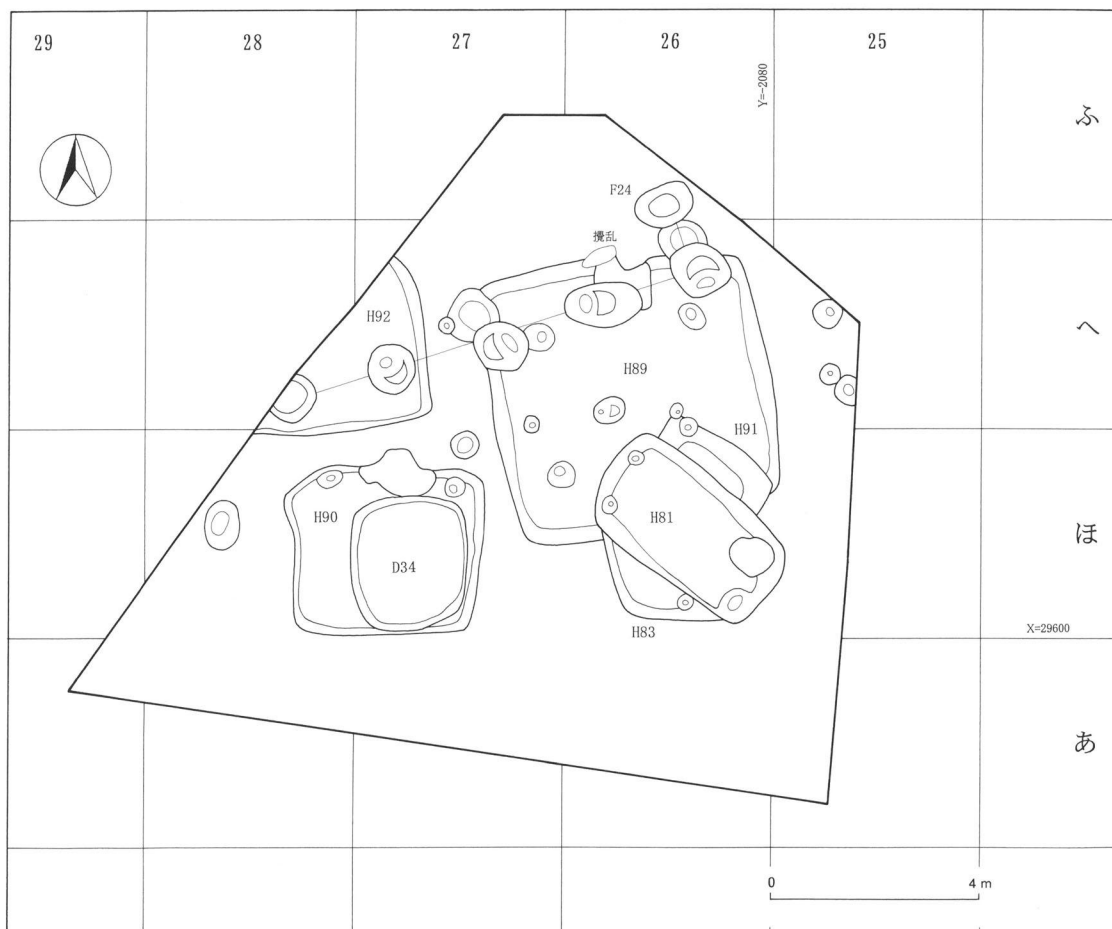
3. 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺 構 竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑 1/80
遺 物 土師器・須恵器1/4 石・石器類1/4・1
鉄製品1/4
4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は角遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6. 土層は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは小グリッド4×4mである。
8. 住居址の区割りは上を北とし、北東隅から逆時計廻りとし、4区画（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）に分割した。
9. 遺物観察表中の [] は推定値、〈 〉 は残存高を示す。

第Ⅲ章 西八日町遺跡Ⅶ

検出遺構と遺物の概要

遺 構 竪穴住居址 6 軒（古墳時代後期 3 平安時代 2 不明 1）
 掘立柱建物址 1 棟
 土坑 1 基

遺 物 土器（土師器・須恵器）
 石製品（砥石）
 鉄製品（鉄鏃・角釘等）
 石器（石鏃）



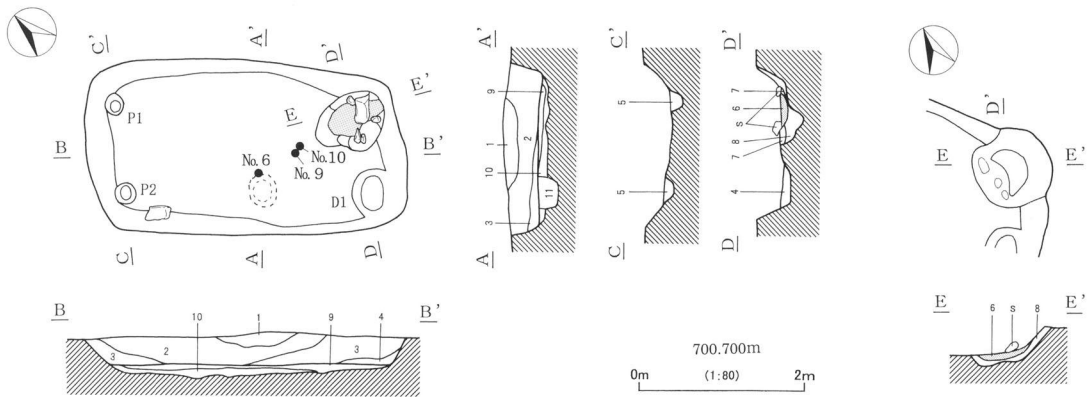
第 1 図 西八日町遺跡Ⅶ遺構配置図（1：125）

遺構と遺物

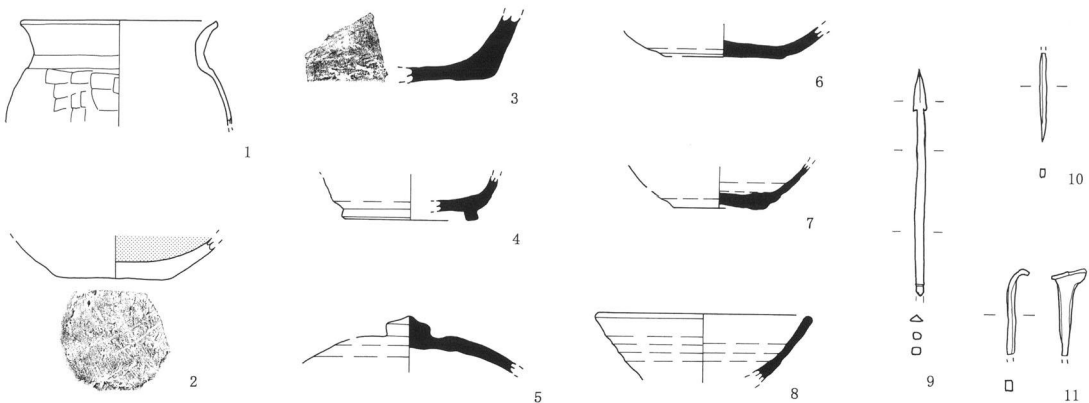
第1節 竪穴住居址 (H)

H81号住居址 (H)

遺構は26-ほグリッドに位置し、H83・91を切る。規模は東西4.0m、南北2.2m、検出面から床面までの深さは0.4mを測る。平面形態は東西方向に長い隅丸方形である。覆土の堆積はレンズ状の自然堆積と思われる。床面は貼り床され硬質である。壁際の溝は認められなかった。ピットは床面上で西壁コーナーに2個確認でき、南東コーナーには径60cm、深さ25cmの土坑が存在する。カマドは北東コーナーに構築されている。大半が崩壊し、僅かに構築時に使用した石材及び粘土と火床が認められた。遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕、鉄製品が出土した。底部回転糸切り後未調整の須恵器坏の存在から9世紀前半、平安時代としたい。



- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土層 (10YR2/2) 小石・地山砂を含む。 | 7 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 粘土を多く含む。 |
| 2 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より地山砂を多く含む。 | 8 黒褐色土層 (7.5YR3/2) カマド堀方。 |
| 3 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂を少々含む。 | 9 黒褐色土層 (10YR2/3) 上層に地山砂主体の貼床層あり。 |
| 4 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を多く含む。 | 10 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を含む (貼床) |
| 5 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕 | 12 黒褐色土層 (10YR2/2) 堀方ピット。 |
| 6 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土 | |



第2図 H81号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	[12.2]	—	(6.3)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	外面2.5YR4/4鈍い赤褐色
2	土師器	坏	—	7.2	(2.5)	ロクロナデ 底部ヘラ削り 内面黒色処理	底部～体部	外面5YR4/4鈍い赤褐色
3	須恵器	甕	—	—	—	自然釉付着	底部周辺破片	外面10YR2/1黒色
4	須恵器	高台付坏	—	[8.3]	(2.7)	底部回転糸切り後高台貼り付け	高台・底部20	外面10YR4/1褐灰色
5	須恵器	甕	つまみ径 2.7	—	(3.3)	ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り 宝珠つまみ貼り付け	20	内外面10YR6/3鈍い黄褐色
6	須恵器	坏	—	7.6	(2)	ロクロナデ 底部回転糸切り 底部略文による記号	底部80	外面10YR6/3鈍い黄褐色
7	須恵器	坏	—	5.6	(2.7)	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	40	内外面10YR6/1褐灰色
8	須恵器	坏	[13.4]	—	(4)	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	口縁破片	内外面10YR5/1灰褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
9	鉄鏃	13.8	0.8	0.5	13	基部欠損
11	角釘	5.2	2.1	0.4	8	先端部欠損

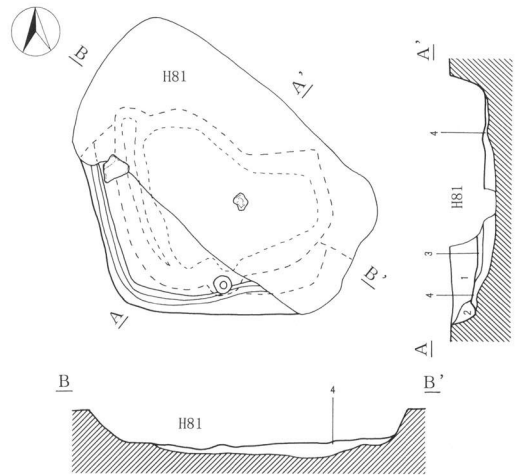
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
10	角棒状鉄製品	5.4	0.3	0.5	2	片側欠損

第1表 H81号住居址遺物観察表

H83号住居址

遺構は26-ほグリッドに位置し、H81に切られ大半が破壊されている。調査規模は東西1.0m、南北1.8m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。平面形態の全体像は不明である。確認された覆土は黒褐色土の単層である。壁際には幅15cm内外の溝が認められた。ピットは小ピットが1個存在したが性格は不明である。堀方には地山の砂を含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。全体的に土器が厚手で丸底の坏が含まれることから古墳時代後期としたい。



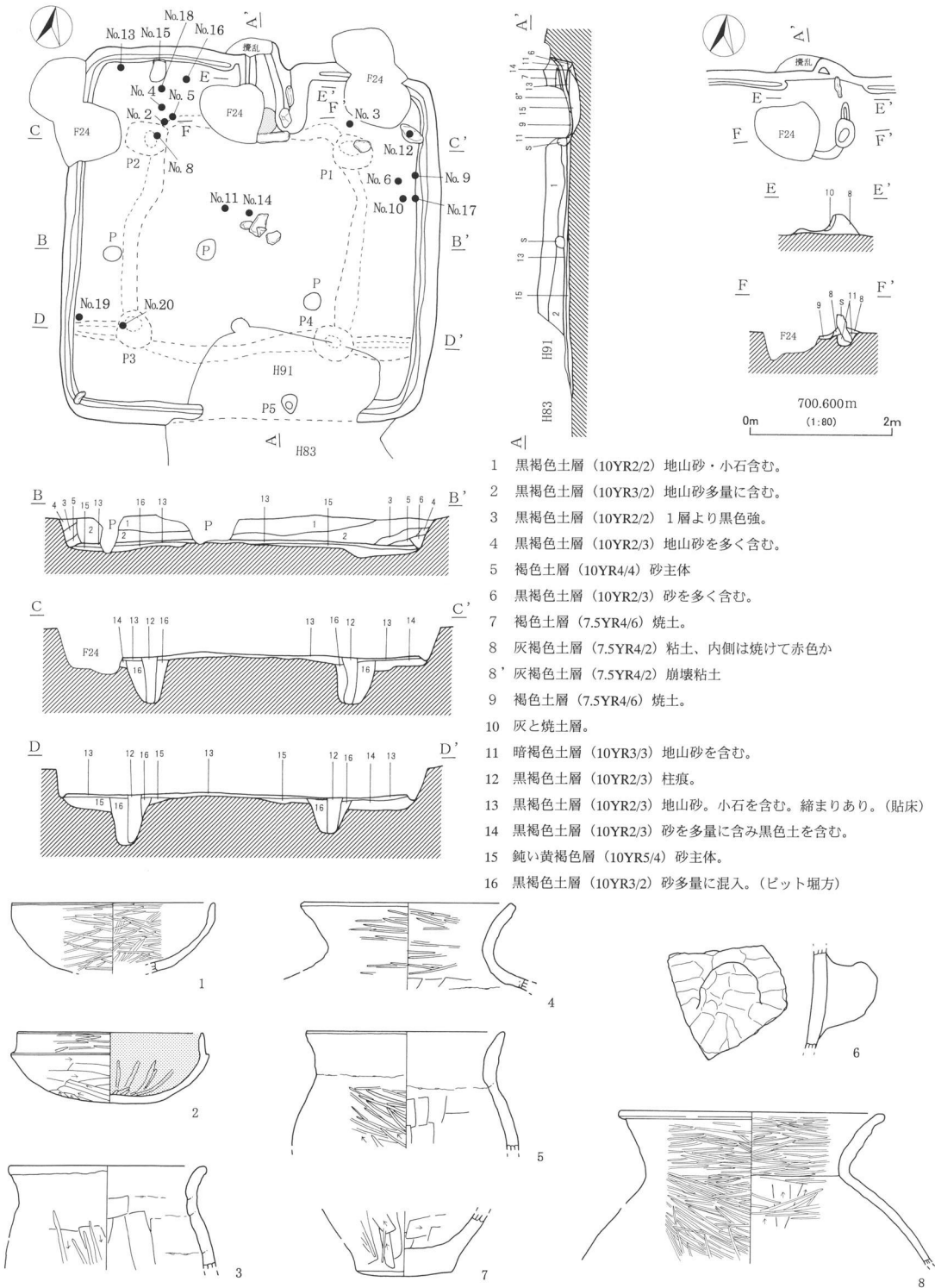
- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・小石を多く含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を含む。(貼床)
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂を多く含む。

第3図 H83号住居址実測図

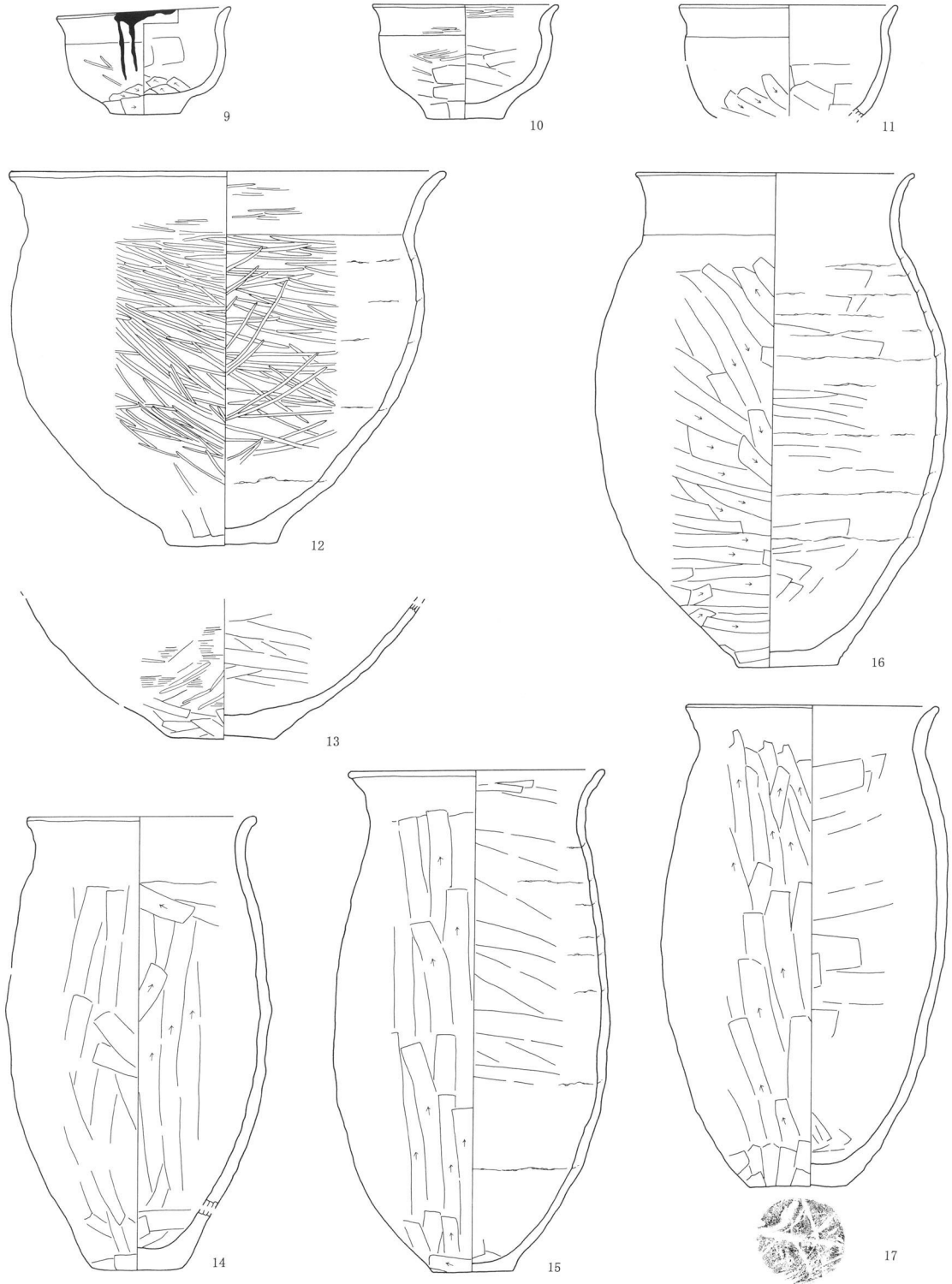
H89号住居址

遺構は26-へグリッドに位置し、H83・91・F24に切られる。調査規模は東西5.3m、南北5.2m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。平面形態はやや隅丸の方形である。覆土はすり鉢状に堆積した自然堆積と思われる。床面は全体に貼り床され硬質である。壁際には幅10～15cm程度の溝が巡る。ピットは径60cm内外、深さ70cm内外の主柱穴が4本と小ピットが認められた。カマドは北壁の中央に構築されているが、煙道部の立ち上がり及び、西袖の大半はF24のピットに破壊されている。カマドは粘土を主体として構築し、一部石材を利用している。火床は半分程度残存し、火床からは緩やかな角度で煙道部となり北壁外に立ち上がる。堀方は中央の堀り込みは少なく周囲が低い状態である。

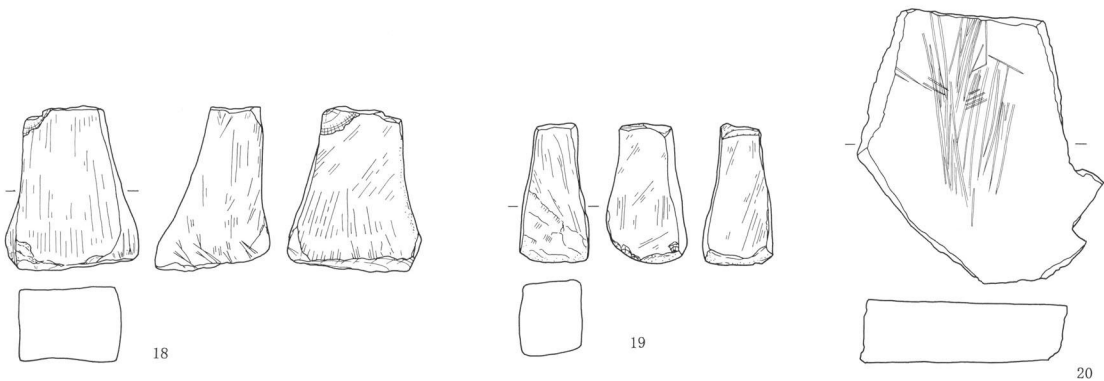
遺物は土師器の坏・甕・砥石が出土した。形状の残るものが多く出土している。胴中央付近に最大径のある土師器甕の存在から6世紀、古墳時代後期としたい。また小型甕の口縁部から胴部にかけて、墨痕が認められる。



第4図 H89号住居址(1)遺構・遺物実測図



第5図 H89号住居址(2)遺物実測図



第6図 H89号住居址（3）遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[14.5]	丸底	(5)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ミガキ 内面ミガキ一部黒色	40	外面5YR6/4鈍い橙色他
2	土師器	坏	13.3	丸底	5	口縁横ナデ・ミガキ 外面ヘラ削り・ナデ・黒色処理？ 内面黒色処理・放射状ナデ	98	内外面10YR2/1黒色
3	土師器	甕	14.2	-	(7.3)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	口縁100～胴上部	外面7.5YR7/3鈍い橙色
4	土師器	甕	15.4	-	(6.2)	口縁横ナデ・ミガキ 内面ナデ	口縁90～胴上部	内外面10YR7/4鈍い黄橙色
5	土師器	甕	14.2	-	(8.4)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	口縁100～胴上部	内外面2.5YR5/6明赤褐色
6	土師器	とっ手	-	6.9	(4.6)	外面・底部ヘラ削り	底部100～胴下部	外面5YR6/4鈍い橙色他
7	土師器	甕	-	-	(7.1)	外面ヘラ削り 内面ナデ	とっ手	外面7.5YR6/4鈍い橙色
8	土師器	壺	19	-	10.7	口縁内外面横ミガキ 外面ミガキ 内面ヘラナデ・ミガキ	口縁95～胴上部	外面10YR7/4鈍い黄橙色
9	土師器	小型甕	12.6	5.2	7.4	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 底部ヘラ削り 内面ヘラナデ 外面口縁部から胴中央部にかけて墨汁痕	80	外面7.5YR3/2黒褐色
10	土師器	小型甕	[13.4]	[5.6]	8.2	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 底部ヘラ削り 内面ヘラナデ 内外面黒色	50	内外面10YR2/1黒色
11	土師器	鉢	15.8	-	(8.1)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	70	外面5YR5/3鈍い赤褐色
12	土師器	甕	31.5	7.8	26.7	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ミガキ 内面ヘラナデ後ミガキ	80	外面10YR7/3鈍い黄橙色
13	土師器	甕	-	7.5	(10)	外面ヘラ削り後横ナデミガキ 内面ヘラナデ	底部～胴下半	外面10YR7/3鈍い黄橙色他
14	土師器	甕	16.5	[6.6]	(32.5)	口縁横ナデ 外面・底部ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積み痕	60	外面10YR7/3鈍い黄橙色他
15	土師器	甕	18.4	5.8	35.8	口縁横ナデ 外面・底部ヘラ削り 内面ヘラナデ	80	外面10YR7/3鈍い黄橙色他
16	土師器	甕	20	7.1	35.5	口縁横ナデ 外面・底部ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積み痕	99	外面5YR6/6橙色他黒褐色
17	土師器	甕	18.2	6.9	34.4	口縁横ナデ 外面・底部ヘラ削り 内面ヘラナデ 木葉痕	70	外面10YR7/3鈍い黄橙色他

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
18	砥石	10.1	8.2	7	664.1	
19	砥石	8.6	5	4.3	234	
20	砥石	16.8	15.3	3.8	1610	

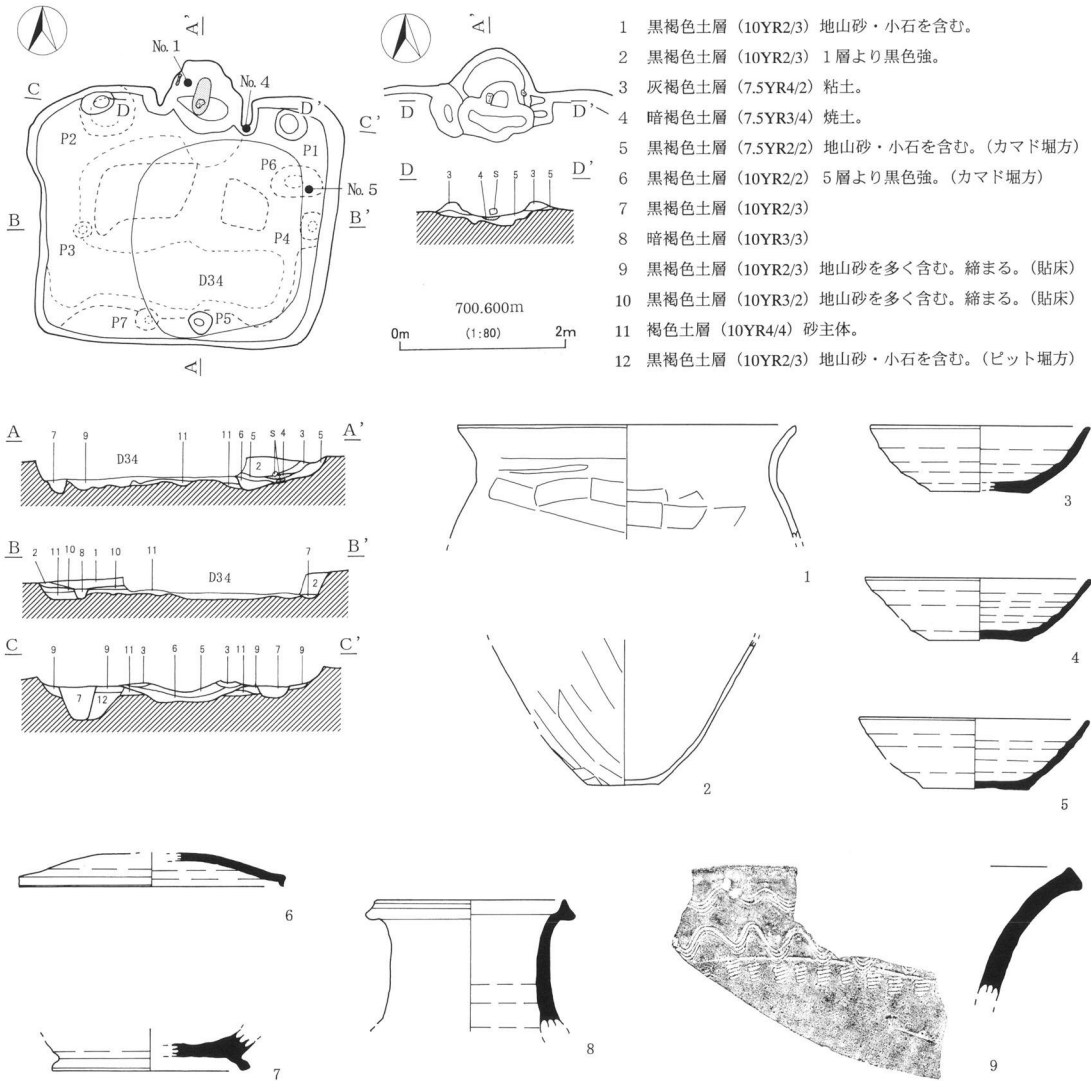
第2表 H89号住居址遺物観察表

H90号住居址

遺構は28-ほグリッドに位置し、D34に切られる。調査規模は東西3.7m、南北3.0m、検出面から床面までの深さは最深で30cmを測る。平面形態はやや東西に長い隅丸方形である。残存した部分の床面はやや硬質である。壁際に溝は確認できなかった。ピットは判明しづらく床面上で3個、堀方で5個確認できた。位置はやや変則であるがP1～4が主柱穴、P5・7は入り口に関するものと考えられる。カマドは北壁の中央に構築されているが、破壊され、形状はとどめていない。僅かな粘土と火床が残存しているのみである。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・蓋・甕が出土した。底部回転系切り後未調整の須恵器坏及び口縁がやや「コ」の字になりかけの武蔵甕の存在から8世紀末から9世紀前半、平安時代としたい。

第三章 西八日町遺跡Ⅶ



第7図 H90号住居址遺構・遺物実測図

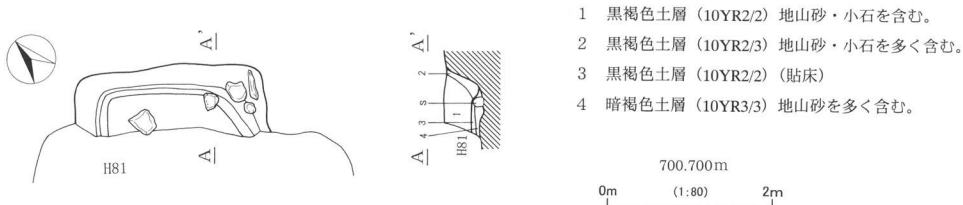
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	[20.8]	—	(7)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	口縁破片	外面7.5YR5/4鈍い褐色
2	土師器	甕	—	4.3	(8.8)	外面・底部ヘラ削り 内面ヘラナデ	底部～胴下部	外面7.5YR5/3鈍い褐色他
3	須恵器	坏	13.6	6	4	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	60	内外面2.5Y6/1黄灰色
4	須恵器	坏	[14]	6.3	3.8	ロクロナデ 底部回転糸切り 体部に制作時のヘラ傷	50	内外面10Y5/1灰色
5	須恵器	坏	[14.3]	6.3	4.4	ロクロナデ 底部回転糸切り	60	内外面2.5Y6/1黄灰色
6	須恵器	蓋	—	[16.3]	(2)	ロクロナデ 天井部回転糸切り	25	内外面N6/0灰色
7	須恵器	壺	—	[12.2]	(2.5)	高台貼り付け	高台・底部破片	外面5Y5/1灰色
8	須恵器	壺	[11.4]	—	(8)	ロクロナデ 口縁折り返し 自然軸付着	口縁破片	外面5Y4/1灰色
9	須恵器	甕	—	—	(9.7)	ロクロナデ 外面櫛描波状文2段、櫛描文1段	口縁破片	外面10YR4/1褐色他

第3表 H90号住居址遺物観察表

H91号住居址

遺構は26-ほグリッドに位置し、H81に切られる。規模は東西2.2m、南北は残存規模の最大で87cm、確認面から床面までの深さは35cmを測る。床面は壁際であるためかやや硬い程度で、石が散在し、壁際には溝が巡らされている。ピット・カマドは確認できなかった。

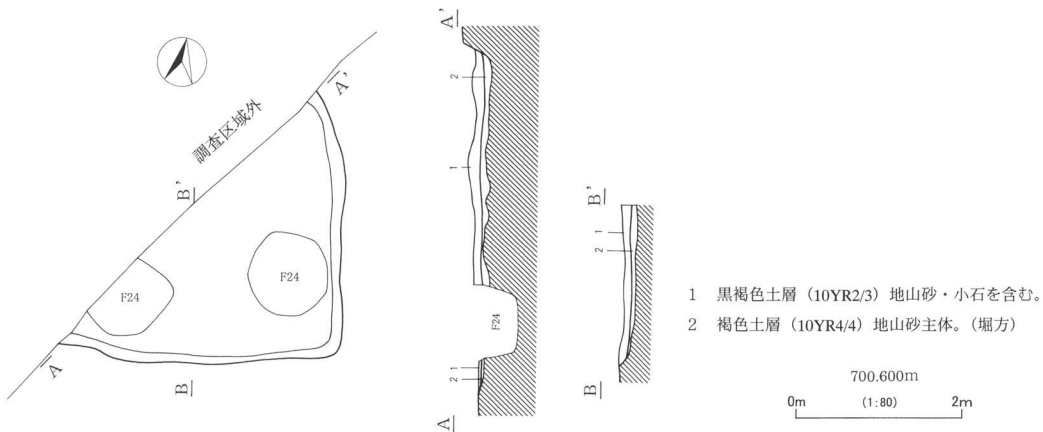
遺物は出土しなかった。古墳時代後期と考えられるH81に切られることから古墳時代後期以前としたい。



第8図 H91号住居址実測図

H92号住居址

遺構は27-へグリッドに位置し、F24のピットに切られ、北東コーナーから南西コーナーにかけての北西側は調査区域外となる。調査規模は東西3.4m、南北3.2m、確認面から床面までの深さは15cm内外と浅い。壁溝、ピット、カマドは確認できなかった。弥生土器・土師器の甕・須恵器の高台付坏等が出土したが量は少ない。時期は不明である。



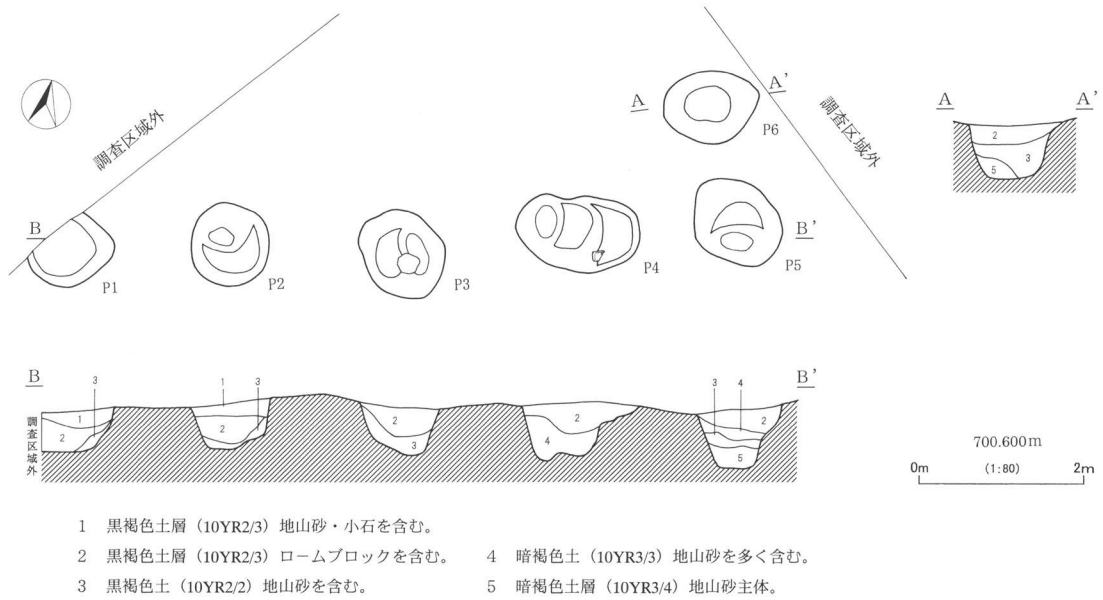
第9図 H92号住居址実測図

第2節 掘立柱建物址 (F)

F24号掘立柱建物址

遺構は26-へグリッド周辺に位置し、H89・92を切る。確認できたのは東西4間、南北1間の6個のピットである。確認面上での形状はP4が楕円形であるのを除きほぼ円形である。直径は1.1m内外、深さは50~75cmを測る。P2~5は柱痕と思われる部分が一段深くなる。

古墳時代の住居址を切り、ピット内からは奈良・平安時代の須恵器・土師器坏片が出土していることから奈良・平安時代としたい。

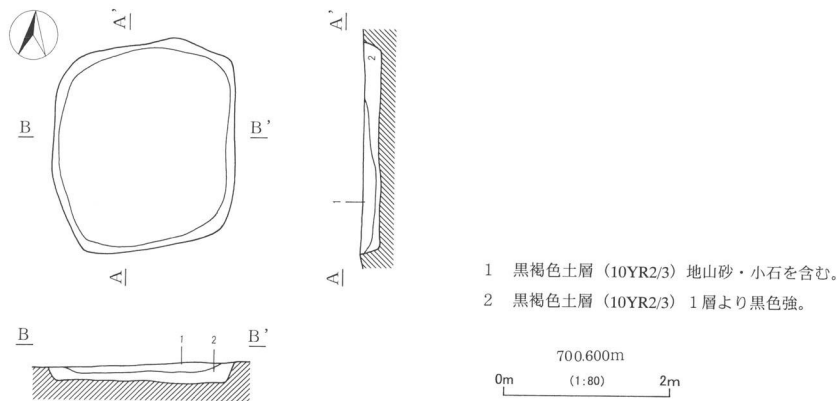


第10図 F24号掘立柱建物址実測図

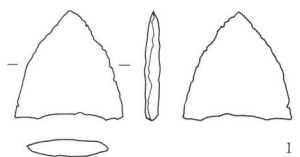
第3節 土坑(D)

D34号土坑

遺構は27-ほグリッドに位置し、H90を切る。規模は東西2.2m、南北2.4m、検出面からの深さは30cmを測る。時期は8～9世紀前半の住居址を切ることから平安時代または中世としたい。



第11図 D34号土坑実測図



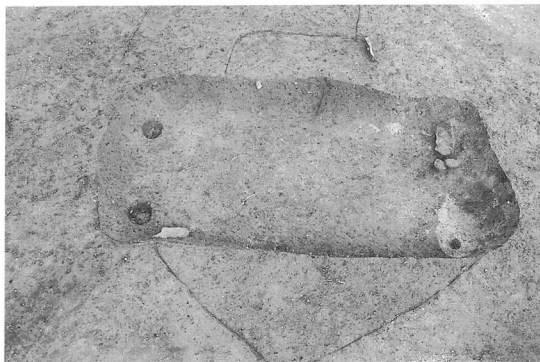
第12図 遺構外遺物実測図

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	石鏃	1.7	1.7	0.3	0.62	

第4表 遺構外遺物観察表



西八日町遺跡Ⅶ全景（南から）



H81号住居址全景（南西から）



H81号住居址鉄鏝出土状況



H81号住居址カマド（西から）



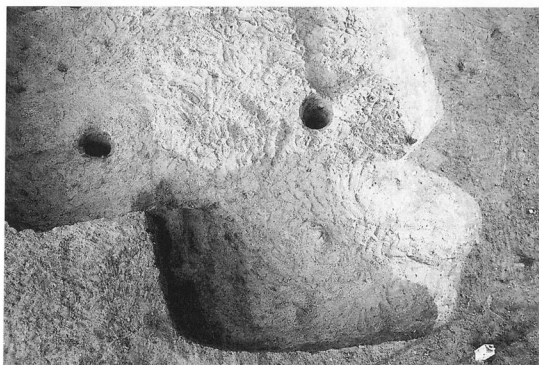
H81号住居址カマド堀方（北から）



H81号住居址堀方全景（南西から）



H83号住居址全景（東から）



H83号住居址堀方全景（南から）



H89号住居址遺物出土状況（北から）



H89号住居址全景（南から）



H89号住居址カマド (南から)



H89号住居址堀方全景 (南から)



H90号住居址全景 (南から)



H90号住居址カマド (南から)



H90号住居址カマド堀方 (東から)



H90号住居址堀方全景 (西から)



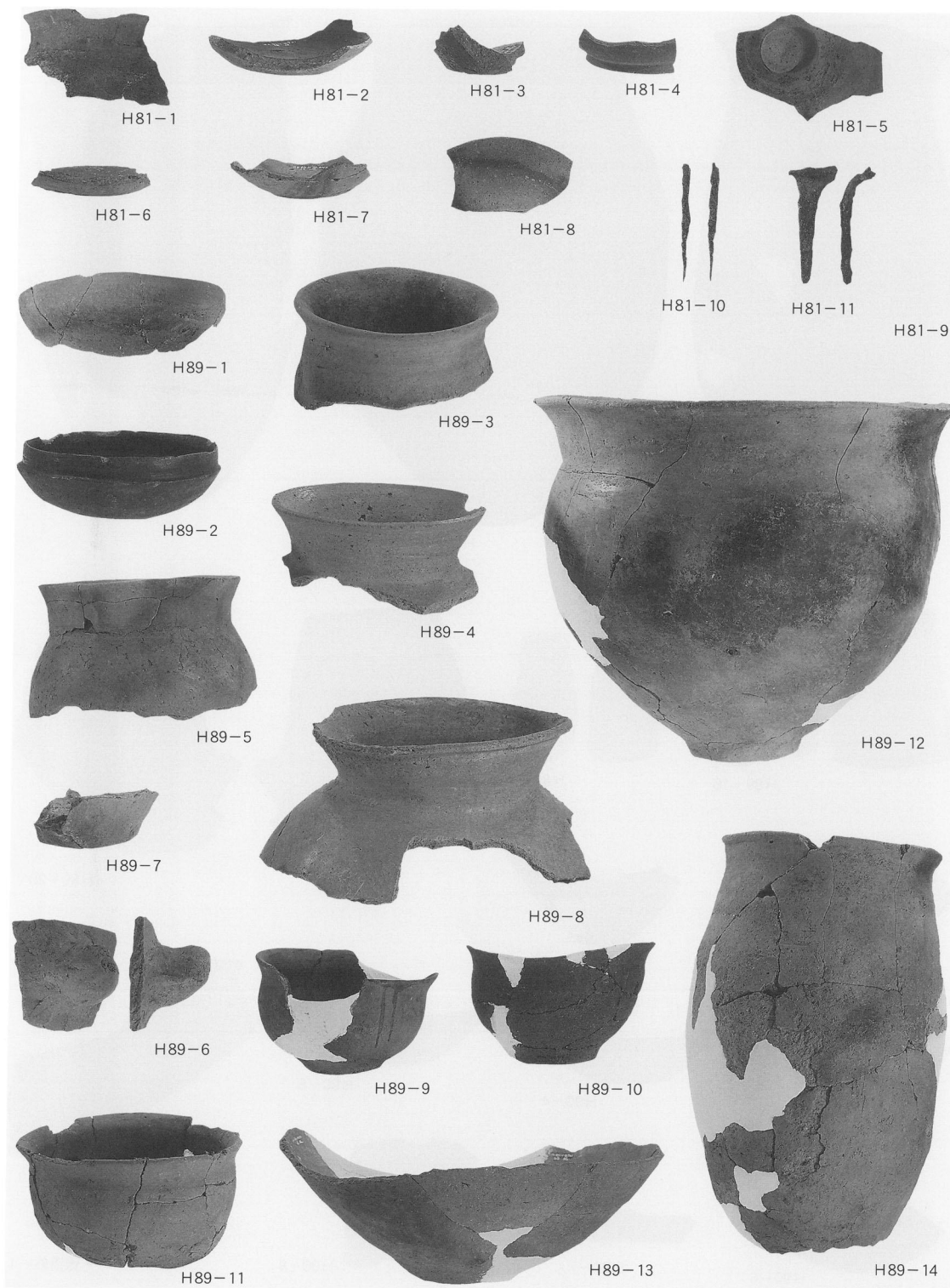
H91号住居址全景 (南から)



H92号住居址全景 (東から)

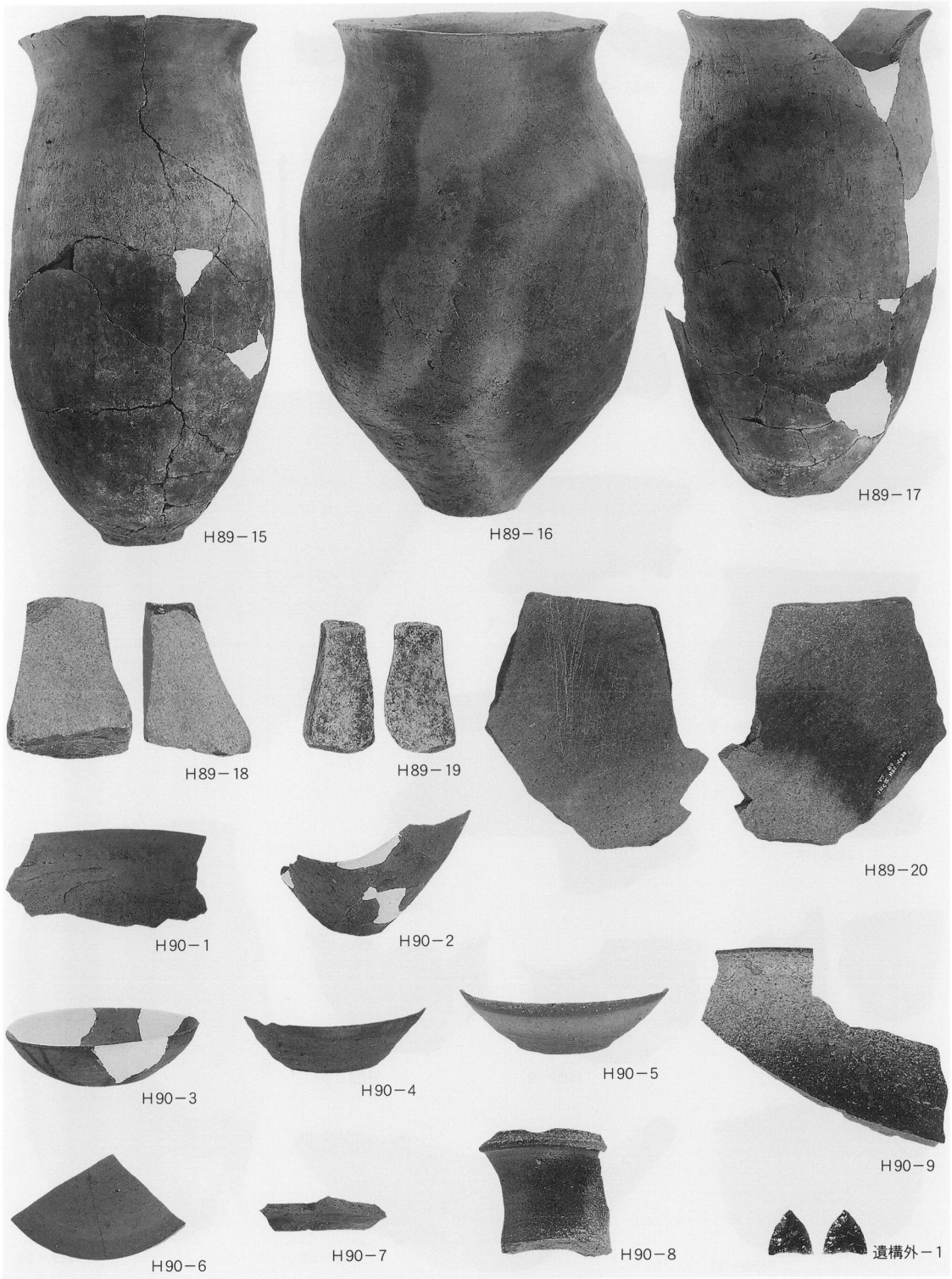


F24号掘立柱建物全景（南から）



H81·H89号住居址遺物

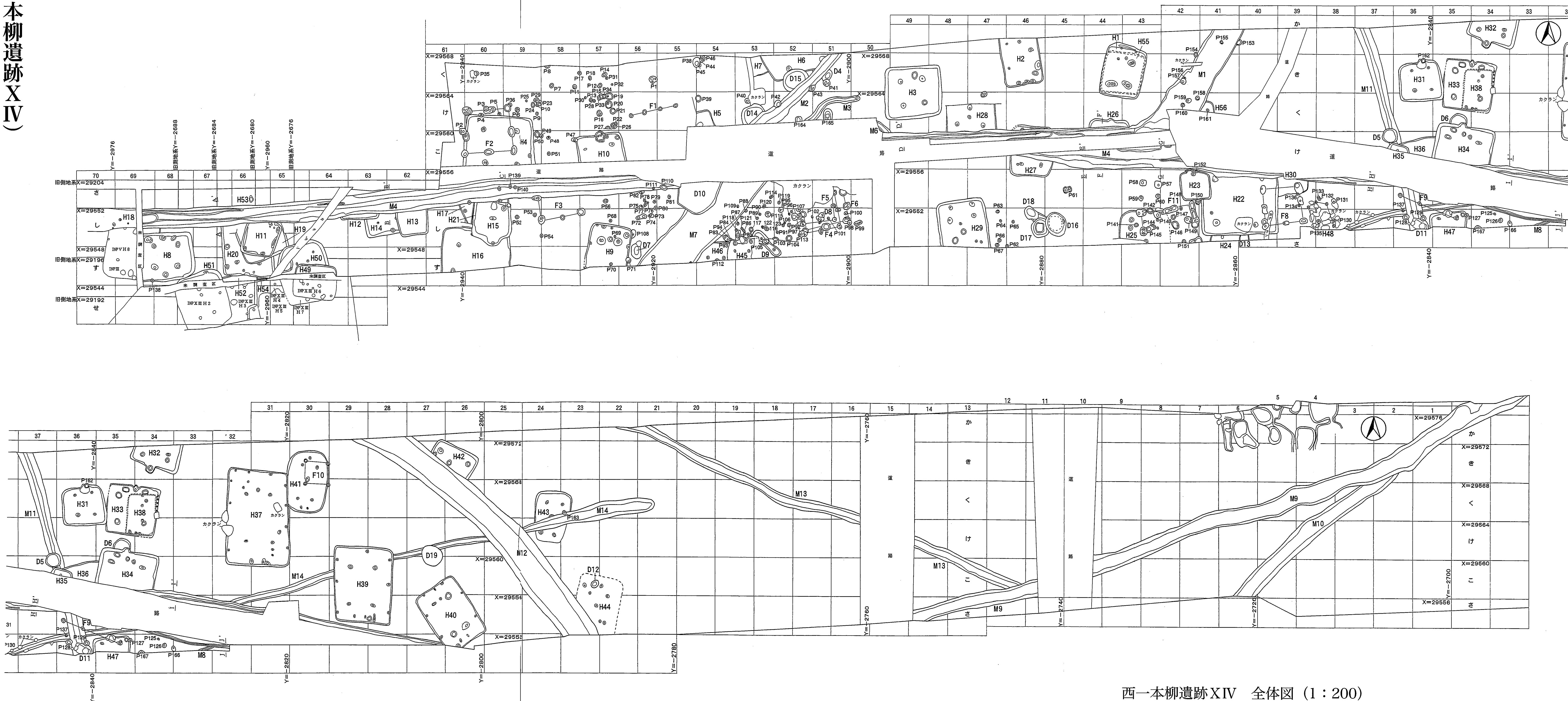
図版六
H89・H90号住居址遺構外出土遺物



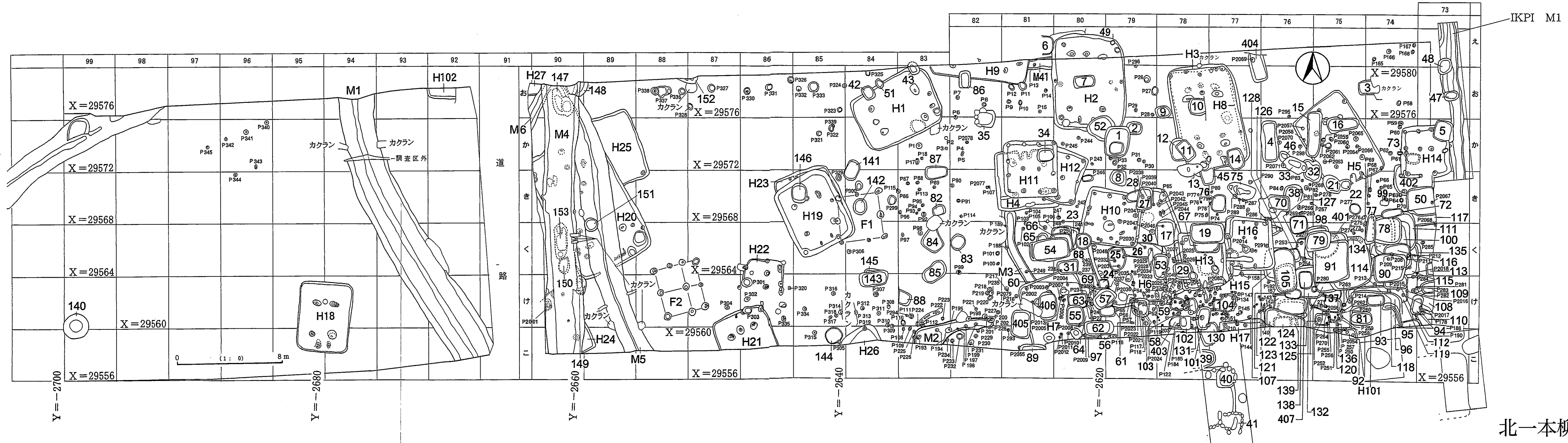
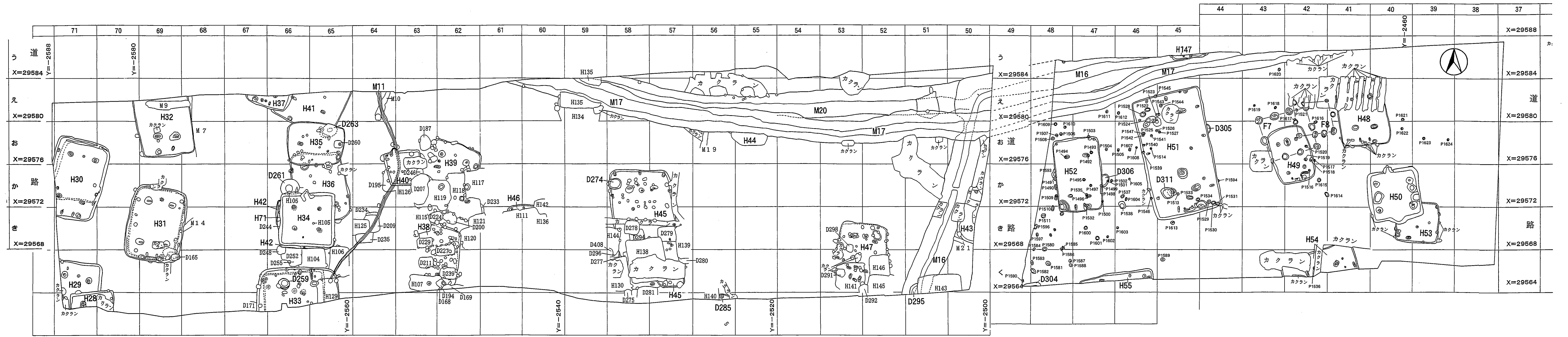
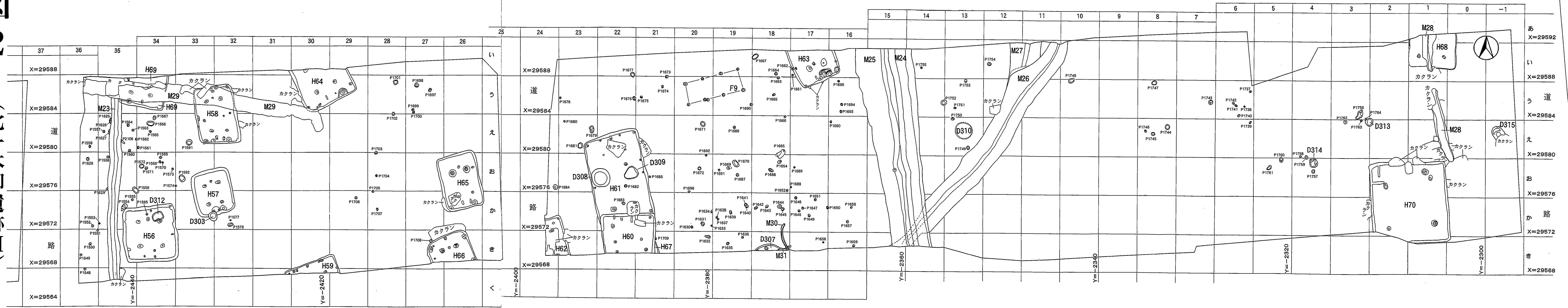
H89・90号住居址遺構外遺物

付図 1

(西一本柳遺跡XIV)



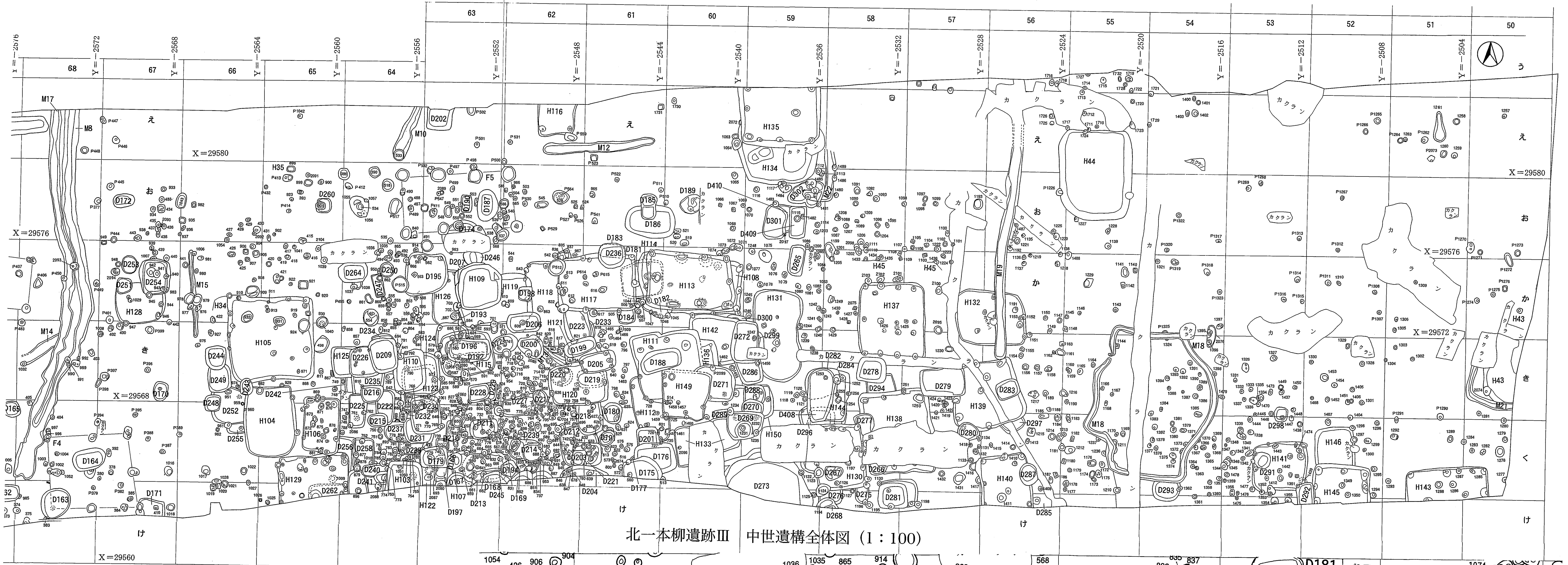
西一本柳遺跡XIV 全体図 (1:200)



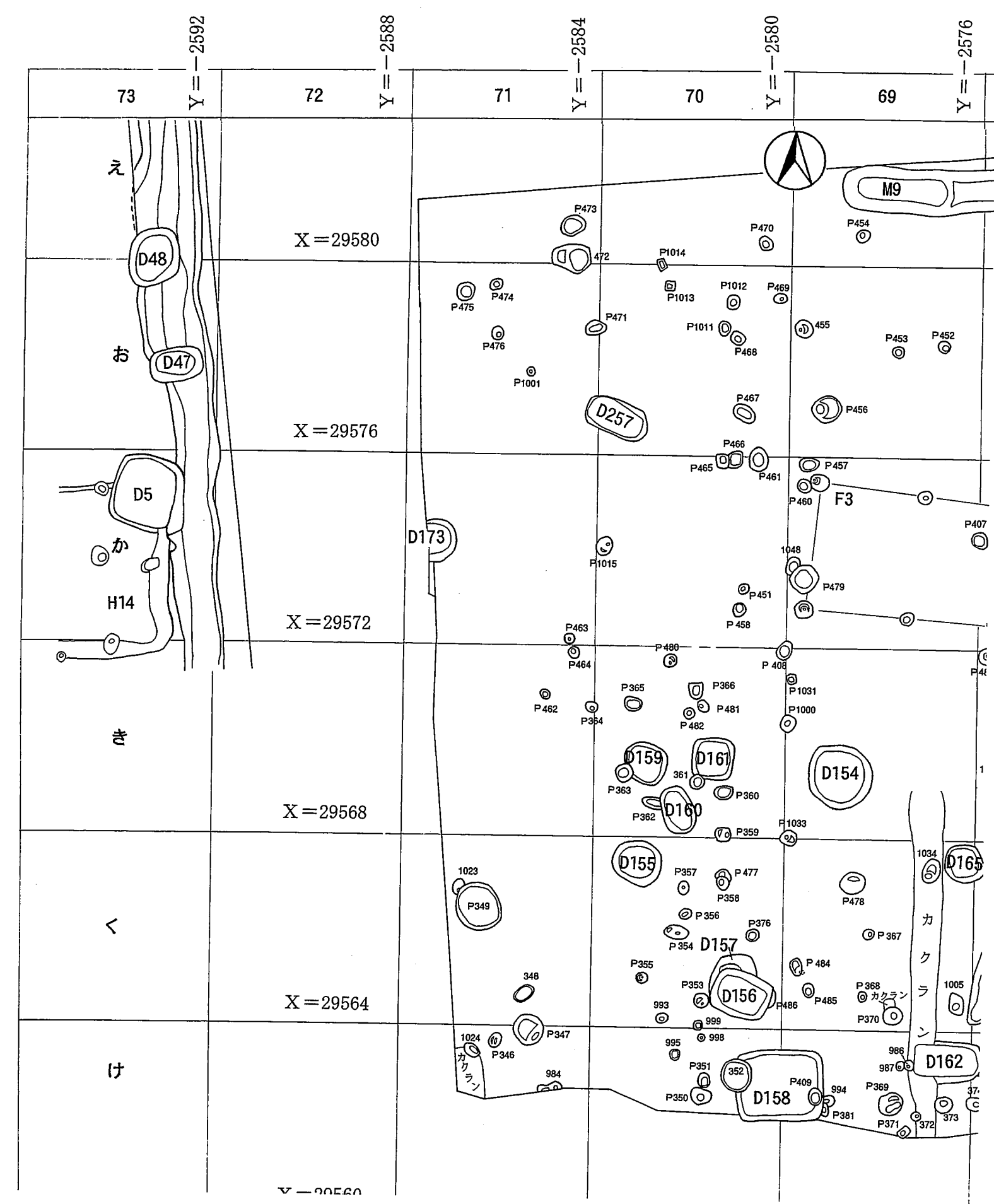
北一本柳遺跡Ⅲ 全体図 (1:200)

付図 3

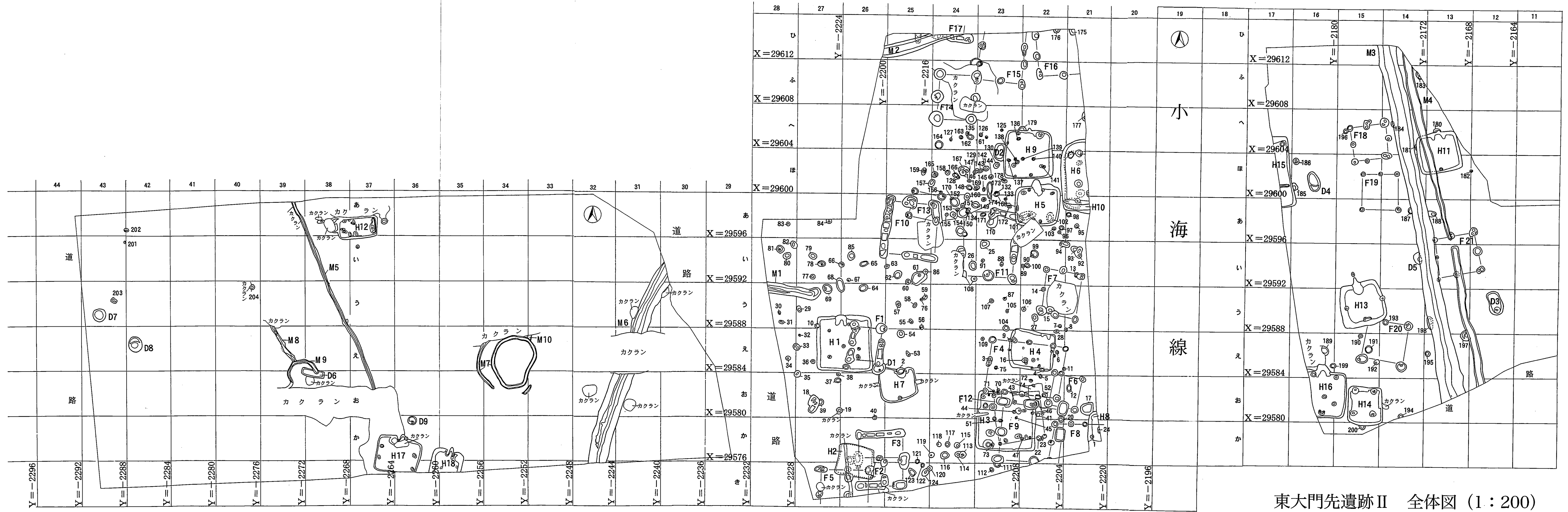
(北一本柳遺跡Ⅲ 中世)



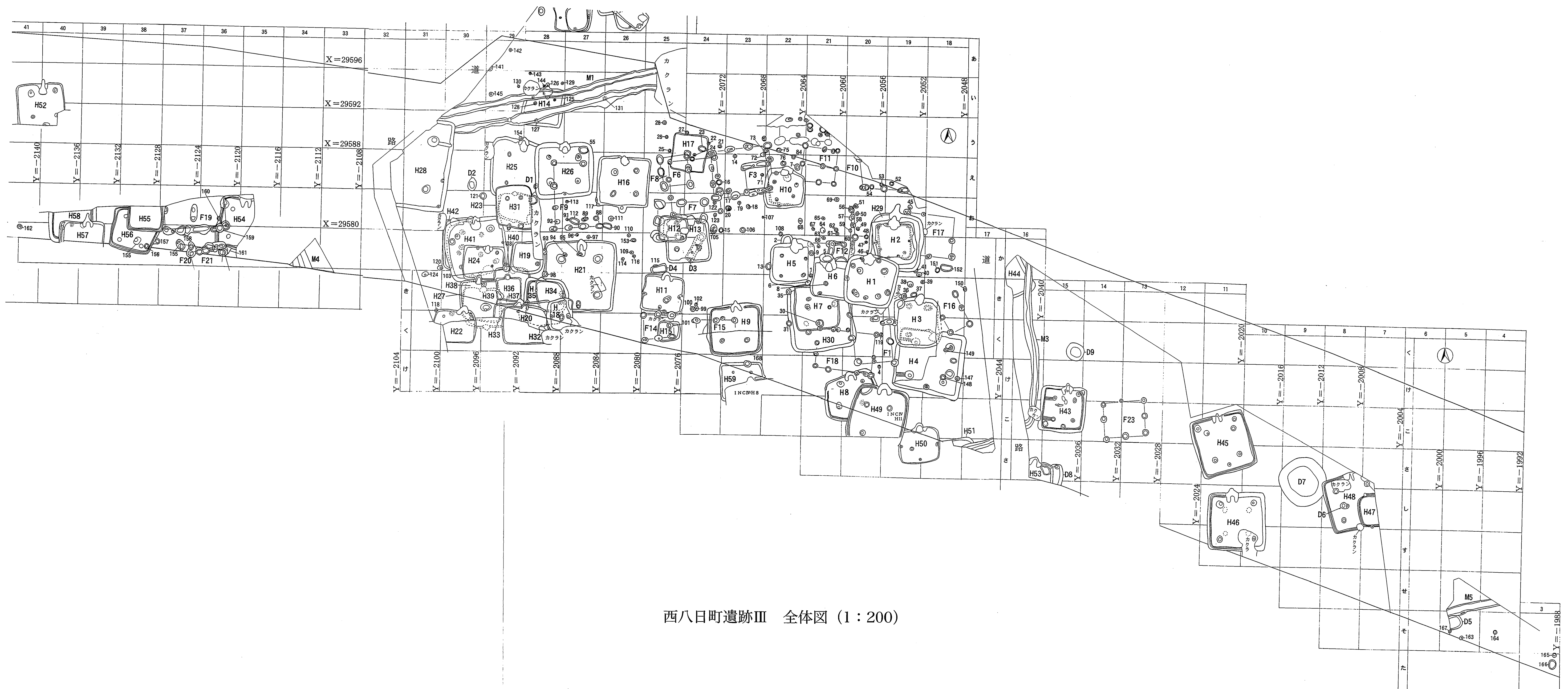
北一本柳遺跡Ⅲ 中世遺構全体図 (1 : 100)



北一本柳遺跡Ⅲ 中世遺構 60~65グリット拡大図 (1 : 50)



東大門先遺跡Ⅱ 全体図 (1:200)



西八日町遺跡Ⅲ 全体図 (1:200)

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第175集 第3分冊

東大門先遺跡Ⅱ

西八日町遺跡Ⅲ

西八日町遺跡Ⅶ

—— 長野県佐久市岩村田 原東1号線、千歳線発掘調査 報告書 ——

2010年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハリンク株式会社

報告書抄録

ふりがな	ひがしだいもんさき いせき に
書名	東大門先遺跡Ⅱ
副書名	
巻次シリーズ名	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	175集 第3分冊
編著者名	森泉かよ子
編集機関	佐久市教育委員会文化財課
発行機関	佐久市教育委員会文化財課
発行年月日	20100331
作成機関ID	
郵便番号	3850006
住所	長野県佐久市志賀5653
ふりがな	ひがしだいもんさき いせき に
遺跡名	東大門先遺跡Ⅱ (I IHⅡ)
ふりがな	ながのけんさくしいわむらた あざ ひがしだいもんさき・にしだいもんさき
遺跡所在地	長野県佐久市岩村田字東大門先・西大門先
市町村コード	20217
遺跡番号	佐久市 52
北緯	36° - 16' - 0" (世界測地系)
東経	138° - 28' - 32" (世界測地系)
調査期間	20060510 - 20100331
調査面積	2,730㎡
調査原因	まちづくり交付金事業 都市計画道路3.3.3. 原東1号線
種別	集落
主な時代	弥生前期・古墳後期・奈良・平安中世
遺跡の概要	集落-中世-竪穴状遺構+土坑+ピット+溝-青磁+古瀬戸 集落-古代-竪穴住居址+掘立柱建物址+ピット+土坑+溝 -須恵器+土師器+金属製品+石製品 -弥生前期-土坑-弥生土器+炭化小豆
特記事項	奈良・平安時代焼失家屋と土器と金属器のセット 弥生前期の土坑と底面出土の甕と炭化小豆

報告書抄録

ふりがな	にしょうかまち いせき さん
書名	西八日町遺跡Ⅲ
副書名	
巻次シリーズ名	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	175集 第3分冊
編著者名	森泉かよ子
編集機関	佐久市教育委員会文化財課
発行機関	佐久市教育委員会文化財課
発行年月日	2010 3 31
作成機関ID	
郵便番号	3850006
住所	長野県佐久市志賀5653
ふりがな	にしょうかまち いせき さん
遺跡名	西八日町遺跡Ⅲ (INCⅢ)
ふりがな	ながのけんさくしいわむらたにしょうかまち
遺跡所在地	長野県佐久市岩村田字西八日町
市町村コード	20217
遺跡番号	佐久市 52
北緯	36° - 15' - 59" (世界測地系)
東経	138° - 28' - 36" (世界測地系)
調査期間	20070426 - 20100331
調査面積	2,650㎡
調査原因	まちづくり交付金事業 都市計画道路3.3.3. 原東1号線
種別	集落
主な時代	古墳後期・奈良・平安
遺跡の概要	集落-古代-竪穴住居址+掘立柱建物址+ピット+土坑+溝 -須恵器+土師器+金属製品+石製品+和銅開珎 道路-中世-溝-骨
特記事項	古墳後期から平安時代の集落変遷

報告書抄録

書名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ
ふりがな	いわむらだいせきぐん にしようかまちいせき なな
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第175集 第3分冊
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
発行年月日	2010.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5653
遺跡名	西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦ)
遺跡所在地	長野県佐久市岩村田2130-6
遺跡番号	佐久市 52
北緯	北緯36度16分0秒 (世界測地系)
東経	東経138度28分36秒 (世界測地系)
調査期間	平成19 (2007) 年10月1日～平成20 (2008) 年1月10日 (現場) 平成20 (2008) 年1月11日～平成22 (2010) 年3月31日 (整理作業)
調査面積	125㎡
調査原因	まちづくり交付金事業 都市計画道路千歳線3. 5. 16線 道路整備
種別	集落跡
主な時代	古墳・平安
遺跡の概要	集落址-古墳+平安-竪穴住居址+掘立柱建物址+土坑-土器+石製品+鉄製品+石器
特記事項	